

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガクウホジシ モリノミヤイヨウガクエン 学校法人 森ノ宮医療学園							
フリガナ大学の名称	モリノミヤイヨウガク 森ノ宮医療大学 (Morinomiya University of Medical Science)							
大学本部の位置	大阪府大阪市住之江区南港北1丁目26番16号							
大学の目的	豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす。							
新設学部等の目的	<p>【総合リハビリテーション学部】 豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーションを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する。</p> <p>【理学療法学科】 チーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ、人に優しい理学療法を創造的に実践できる能力を身につけた人材を養成する。</p> <p>【作業療法学科】 命の尊さや人としての尊厳を大切にする感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献する作業療法士を養成する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	総合リハビリテーション学部 [Faculty of Rehabilitation] 理学療法学科 [Department of Physical Therapy]	4	70	-	280	学士(理学療法学) 【B. S. in Physical Therapy】	令和4年4月 第1年次	大阪府大阪市南港北1丁目26番16号
	作業療法学科 [Department of Occupational Therapy]	4	40	-	160	学士(作業療法学) 【B. S. in Occupational Therapy】	令和4年4月 第1年次	同上
	計		110	-	440			
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療学部理学療法学科 (△70) ※令和4年4月学生募集停止 ・保健医療学部作業療法学科 (△40) ※令和4年4月学生募集停止 ・看護学部看護学科 (90) (令和3年4月届出予定) ・保健医療学部 看護学科(廃止) △90 ※令和4年4月学生募集停止 ・令和4年4月名称変更予定 保健医療学部→医療技術学部 ・保健医療学研究科 看護学専攻博士後期課程 (2) (令和3年4月届出予定) 							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	理学療法学科	45科目	53科目	8科目	106科目	126単位				
	作業療法学科	55科目	37科目	6科目	98科目	126単位				
教員 組 分 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	総合リハビリテーション学部 理学療法学科		8人 (8)	3人 (3)	3人 (3)	2人 (2)	16人 (16)	0人 (0)	0人 (0)
		作業療法学科		5 (5)	0 (0)	4 (4)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
		看護学部 看護学科		11 (11)	7 (7)	10 (10)	4 (4)	32 (32)	0 (0)	0 (0)
		計		24 (24)	10 (10)	17 (17)	7 (7)	48 (48)	0 (0)	0 (0)
	既設	保健医療学部 鍼灸学科		11 (11)	3 (3)	6 (6)	4 (4)	24 (24)	1 (1)	19 (19)
		臨床検査学科		10 (11)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	9 (9)
		臨床工学科		4 (4)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	8 (8)
		診療放射線学科		6 (6)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	10 (10)	0 (0)	2 (2)
計		31 (31)	10 (10)	10 (10)	9 (9)	60 (60)	1 (1)	38 (38)		
合計			55 (55)	20 (20)	27 (27)	16 (16)	108 (108)	1 (1)	38 (38)	
教員以外の職員 の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		55人 (55)		10人 (10)		65人 (65)			
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員		1 (1)		10 (10)		11 (11)			
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計			56 (56)		20 (20)		76 (76)			
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
	校舎敷地	30,495.44㎡	0㎡	1,871.07㎡		32,366.51㎡				
	運動場用地	0㎡	0㎡	0㎡		0㎡				
	小計	30,495.44㎡	0㎡	1,871.07㎡		32,366.51㎡				
	その他	0㎡	0㎡	0㎡		0㎡				
合計		30,495.44㎡	0㎡	1,871.07㎡		32,366.51㎡				
校舎	専用		共用		共用する他の学校等の専用		計			
	28,853.21㎡ (28,853.21㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		28,853.21㎡ (28,853.21㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設				
	46室	19室	49室	1室 (補助職員0人)		0室 (補助職員0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数						
		大学全体		82室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
		総合リハビリテーション学部	31,200 [1,760] (30,100 [1,720])	440 [60] (440 [62])	20 [10] (19 [10])	920 (899)	1,695 (1,695)	275 (275)		
	計	31,200 [1,760] (30,100 [1,720])	440 [60] (440 [62])	20 [10] (19 [10])	920 (899)	1,675 (1,695)	275 (275)			

令和3年4月届出予定

令和4年4月医療技術学部名称変更

特例措置の認定により運動場機能の代替措置を講じる。
特区No.828 (大阪市)

大学全体

個人研究室56室
共同研究室26室

学部単位での特定不能なため、大学全体の数

図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
		881.58㎡		273		80,000				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1,323.22㎡		多目的スポーツ施設 1		-				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	-千円	-千円	
		共同研究費等		15,500千円	15,500千円	15,500千円	15,500千円	-千円	-千円	
		図書購入費	14,000千円	14,000千円	14,000千円	14,000千円	14,000千円	-千円	-千円	
	設備購入費	36,000千円	36,000千円	36,000千円	36,000千円	36,000千円	-千円	-千円		
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
				1,800千円	1,710千円	1,710千円	1,710千円	-千円	-千円	理学療法学科
				1,800千円	1,710千円	1,710千円	1,710千円	-千円	-千円	作業療法学科
				1,800千円	1,720千円	1,720千円	1,720千円	-千円	-千円	看護学科
				1,800千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	-千円	-千円	鍼灸学科
		1,800千円	1,640千円	1,640千円	1,640千円	-千円	-千円	臨床検査学科		
		1,800千円	1,640千円	1,640千円	1,640千円	-千円	-千円	臨床工学科		
		1,800千円	1,640千円	1,640千円	1,640千円	-千円	-千円	診療放射線学科		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等							
大学の名称		森ノ宮医療大学								
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
保健医療学部							1.11			令和4年4月医療技術学部へ名称変更
鍼灸学科		4	60	-	240	学士（鍼灸学）	1.13	平成19年度		
理学療法学科		4	70	-	280	学士（理学療法学）	1.04	平成19年度		令和4年4月学生募集停止
看護学科		4	90	-	360	学士（看護学）	1.03	平成23年度		令和4年4月学生募集停止
臨床検査学科		4	70	-	260	学士（臨床検査学）	1.15	平成28年度		
作業療法学科		4	40	-	160	学士（作業療法学）	1.28	平成28年度	大阪府大阪市住之江区南港北1丁目26番16号	令和4年4月学生募集停止
臨床工学科		4	60	-	240	学士（臨床工学）	1.14	平成30年度		
診療放射線学科		4	80	-	160	学士（診療放射線学）	1.12	令和2年度		
保健医療学研究科										
保健医療学専攻		2	6	-	12	修士（保健医療学）	1.41	平成23年度		
看護学専攻		2	6	-	12	修士（看護学）	0.33	令和2年度		
医療科学専攻		3	2	-	6	博士（医療科学）	1.00	平成30年度		
附属施設の概要		名称：森ノ宮医療大学附属施術所 目的：鍼灸学科の学内臨床実習のため 所在地：大阪府大阪市住之江区南港北1丁目26番16号（森ノ宮医療大学内） 設置年月日：平成19年4月 規模等：床面積180㎡								

学校法人森ノ宮医療学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和4年度	入学定 員	編入学 定員	収容定 員	変更の事由
森ノ宮医療大学					森ノ宮医療大学				
保健医療学部					医療技術学部				名称変更
鍼灸学科	60	-	240		鍼灸学科	60	-	240	
臨床検査学科	70	-	280		臨床検査学科	70	-	280	
臨床工学科	60	-	240		臨床工学科	60	-	240	
診療放射線学科	80	-	320	→	診療放射線学科	80	-	320	
看護学科	90	-	360			0	-	0	令和4年4月学生募集停止
理学療法学科	70	-	280			0	-	0	令和4年4月学生募集停止
作業療法学科	40	-	160			0	-	0	令和4年4月学生募集停止
<hr/>					<hr/>				
計	470		1880		計	470		1880	
森ノ宮医療大学大学院					森ノ宮医療大学大学院				
保健医療学研究科					保健医療学研究科				
保健医療学専攻 (M)	6	-	12	→	保健医療学専攻 (M)	6	-	12	
看護学専攻 (M)	6	-	12		看護学専攻 (M)	6	-	12	
医療科学専攻 (D)	2	-	6		医療科学専攻 (D)	2	-	6	
<hr/>					<hr/>				
計	14	-	30		計	16	-	36	専攻の課程の変更(届出)
森ノ宮医療学園専門学校					森ノ宮医療学園専門学校				
鍼灸学科					鍼灸学科				
昼間部	90	-	270	→	昼間部	90	-	270	
夜間部	30	-	90		夜間部	30	-	90	
柔道整復学科					柔道整復学科				
昼間部	60	-	180		昼間部	60	-	180	
夜間部	30	-	90		夜間部	30	-	90	
<hr/>					<hr/>				
計	210		630		計	210		630	

教育課程等の概要																
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	1前	2				○			1		1	1		兼1 オムニバス
		物理学	1後	2			○									兼1
		生物学	1前		2			○								兼1
		化学	1前		2			○								兼1
		情報処理	1前		2				○		1		1			
		統計学	3前		2				○							兼1
	人間理解と社会	心理学	1前		2			○								兼1
		生命倫理学	1前		2			○								兼1
		哲学	1後		2			○								兼1
		社会福祉学	1前		2			○								兼1
		日本国憲法	1後		2			○								兼1
		東洋史概説	3前		2			○								兼1
	語学	英語Ⅰ(初級)	1前		2				○							兼2
		英語Ⅱ(中級)	1後		2				○							兼2
		英会話	2前		2				○							兼1
		医学英語	2後		2				○							兼1
		基礎英語演習	2前		2				○							兼1
		応用英語演習	2後		2				○							兼1
	小計(19科目)		—	14	24	0			—		2	0	1	1	0	兼11
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1			○			1						
		チーム医療見学実習	1前	1				○		1						
		医療コミュニケーション	2前	1				○		2		1				
		チーム医療論	2後	1				○		2		1				
		IPW論	3前	1				○		2		1				
		基礎体育	1前		1				○							兼4
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前		2			○								兼1
		健康管理学Ⅰ	2前		2			○								兼1
		健康管理学Ⅱ	2後		2			○								兼1
		栄養学	2後		2			○								兼1
		身体運動科学	2後		2			○		1	1		1			兼1
		東洋医療概論	2後		2			○								兼1
		統合医療概論	3前		2			○								兼3 オムニバス
		小計(13科目)		—	5	15	0			—		2	1	1	1	0
学科専門科目群	専門基礎科目 心身の発達 及 機能及び	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1前	1				○		1						
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1後	1				○		1						
		人体の構造Ⅰ(神経系)	1前	2				○		1						
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	1後	2				○		1						
		人体の構造実習	2後	1					○							兼1
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	1前	2				○								兼1
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	1後	2				○								兼1
		基礎運動学	1後	1				○				1				
		臨床運動学	2前	1					○		1					
		運動学実習	1後	1					○		1	1	2			
		臨床心理学	1後	1					○							兼1
		小計(11科目)		—	15	0	0			—		3	1	2		

教 育 課 程 等 の 概 要

(総合リハビリテーション学部理学療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	リハビリテーション概論	1前	2			○			1		1			兼1	オムニバス	
	公衆衛生学	1後		2		○								兼1		
	生化学	2前		2		○								兼1		
	病理学	2前	2			○								兼1		
	臨床病態学Ⅰ	2前	2			○			1							
	臨床病態学Ⅱ	2後	2			○			1							
	臨床病態学Ⅲ	2後	2			○								兼3		
	整形外科学	2前	2			○								兼1		
	小児科学(人間発達学)	2後	2			○				1						
	精神医学	2前	2			○								兼1		
	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	2前	2			○				1						
	チームリハビリテーション概論	2前	1			○			1					兼4		
	介護学概論・ボランティア活動論	2後		1			○			1						
	スポーツ医学	3前		1			○							兼1		
	テーピング技術論	2後		1			○							兼1		
小計(15科目)		—	19	7	0	—	—	—	3	2	1	0	0	兼14	—	
学科専門科目群	基礎理学療法学	医療関係法規論	1前	2			○								兼1	
		理学療法触診法	3後	1				○		1	1					
		基礎理学療法学Ⅰ	2前	1				○		1	1	1				
		基礎理学療法学Ⅱ	3前	1				○		1	1	1				
		基礎理学療法学実習	2通	1					○	3		1	2			
	小計(5科目)		—	6	0	0	—	—	—	4	2	2	2	0	兼1	—
	理学療法管理学	職場管理(教育を含む)	3後	1				○		1						
		職業倫理	3後	1				○		1						
	小計(2科目)		—	2	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼0	—
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	1後	1					○		1	2	1			
		理学療法評価学各論	2前	2					○		1	2	1			
		臨床理学療法評価学(動作分析)	3前	1					○	2						
		臨床理学療法評価学実習	3通	1					○	3		1	2			
	小計(4科目)		—	5	0	0	—	—	—	3	1	2	2	0	兼0	—
	理学療法治療学	基礎日常生活活動学	1後	1					○			1	1			
基礎運動療法学総論		2前	1					○	1	1						
基礎運動療法学各論		2後	1					○	2							
物理療法学		1後	1					○			1	1				
運動器系理学療法学Ⅰ		2後	1					○	1							
運動器系理学療法学Ⅱ		3前	2				○		2	1						
運動器系理学療法学Ⅲ		3前	1					○	3	1						
神経系理学療法学Ⅰ		2後	1					○	1	1	1	1				
神経系理学療法学Ⅱ		3前	2				○		1	1	1	1				
神経系理学療法学Ⅲ		3前	1					○	1	1	1	1				
内部障害系理学療法学Ⅰ		2後	1					○	1		1			兼1		
内部障害系理学療法学Ⅱ		3前	2				○		1		1			兼1		
内部障害系理学療法学Ⅲ	3前	1					○	1		1			兼1			
発達障害理学療法学	3前	1					○		1							
義肢装具学	2後	2					○	1		1						
臨床理学療法治療学実習	4通	1					○	3		1	2					
小計(16科目)		—	20	0	0	—	—	—	5	3	3	2	0	兼1	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(総合リハビリテーション学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
学科専門科目群	地域 理学 療法 学	地域理学療法学	2後	2			○				1	1					
		生活環境論	2後	1				○			1			1			
		老年期理学療法学	3後	1				○			1			1			
		小計 (3科目)	—	4	0	0		—			1	1	0	1	0	兼0	—
	総合 領域	理学療法臨床推論概論	2後		1			○			2						
		理学療法臨床推論演習	3前		1				○		2						
		総合リハビリテーションIPW演習	3前	1					○		2						
		理学療法特論Ⅰ	3後	1					○			2	2	1			
		理学療法特論Ⅱ	4前	1					○			2	2	1			
		理学療法特論Ⅲ	4後	2					○			2	2	1			
		運動器系理学療法セミナー	4前		1				○		3		1				
		神経系理学療法セミナー	4前		1				○		1	1	1	1			
		内部障害系理学療法セミナー	4前		1				○		1		1				
	地域理学療法セミナー	4前		1				○			1						
		小計 (10科目)	—	5	6	0		—			5	2	3	1	0	兼0	—
	研 卒 究 業	卒業研究Ⅰ	3通	2					○		6	3	3	2	0		
		卒業研究Ⅱ	4通	2					○		6	3	3	2	0		
		小計 (2科目)	—	4	0	0		—			6	3	3	2	0	兼0	—
	臨 床 実 習	臨床見学実習	1後	1					○		5	3	3	2	0		
		検査測定実習	2前	1					○		5	3	3	2	0		
		臨床評価実習	3後	4					○		5	3	3	2	0		
		地域理学療法実習	4前	1					○		5	3	3	2	0		
		臨床総合実習Ⅰ	4通	7					○		5	3	3	2	0		
臨床総合実習Ⅱ		4通	7					○		5	3	3	2	0			
	小計 (6科目)	—	21	0	0		—			5	3	3	2	0	兼0	—	
合計 (106科目)		—	120	52	0		—			8	3	3	2	0	兼36	—	
学位又は称号		学士 (理学療法学)		学位又は学科の分野		保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)											
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
4年以上在籍し、教養科目群から必修14単位+選択2単位以上、共通科目群から必修5単位+選択2単位以上、学科専門科目群の専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」から必修15単位、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」から必修19単位+選択1単位以上、学科専門科目群の「専門科目」から必修67単位+選択1単位以上の計126単位以上修得すること。なお、履修できる単位数は半期24単位、通年で48単位以内とする。								1 学年の学期区分				2 学期					
								1 学期の授業期間				15 週					
								1 時限の授業時間				90 分					

教育課程等の概要																	
(保健医療学部理学療法学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	1前	2				○			1		1	1		兼1	オムニバス
		物理学	1後	2				○								兼1	
		生物学	1前		2				○							兼1	
		化学	1前		2				○							兼1	
		情報処理	1前	2					○		1		1				
		統計学	3前		2				○							兼1	
	人間理解と社会	心理学	1前	2					○							兼1	
		生命倫理学	1前		2				○							兼1	
		哲学	1後		2				○							兼1	
		社会福祉学	1前	2					○							兼1	
		日本国憲法	1後		2				○							兼1	
		東洋史概説	3前		2				○							兼1	
	語学	英語Ⅰ(初級)	1前	2					○							兼2	
		英語Ⅱ(中級)	1後	2					○							兼2	
		英会話	2前		2				○							兼1	
		医学英語	2後		2				○							兼1	
		基礎英語演習	2前		2				○							兼1	
		応用英語演習	2後		2				○							兼1	
	小計(19科目)		—	14	24	0			—		2	0	1	1	0	兼13	—
学部共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1				○			1						
		チーム医療見学実習	1前	1					○		1						
		医療コミュニケーション	2前	1					○			1					
		チーム医療論	2後	1					○			1					
		IPW論	3前	1					○			1					
		基礎体育	1前		1				○							兼4	
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前		2				○							兼1	
		健康管理学Ⅰ	2前		2				○							兼1	
		健康管理学Ⅱ	2後		2				○							兼1	
		栄養学	2後		2				○							兼1	
		身体運動科学	2後		2				○		1	1		1		兼1	
		東洋医療概論	2後		2				○							兼1	
		統合医療概論	3前		2				○							兼3	オムニバス
小計(13科目)		—	5	15	0			—		2	1	1	1	0	兼11	—	
学科専門科目群	専門基礎科目 心身の発達と機能及び	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1前	1				○			1						
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1後	1					○		1						
		人体の構造Ⅰ(神経系)	1前	2					○		1						
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	1後	2					○		1						
		人体の構造実習	2後	1											○	兼1	
		人体の機能Ⅰ(動物性功能)	1前	2					○							兼1	
		人体の機能Ⅱ(植物性功能)	1後	2					○							兼1	
		基礎運動学	1後	1					○				1				
		臨床運動学	2前	1						○		1	2				
		運動学実習	1後	1						○			2				
		臨床心理学	1後	1						○						兼1	
小計(11科目)		—	15	0	0			—		2	2	2			兼3	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	リハビリテーション概論	1前	2			○			1		1				兼1	オムニバス	
	公衆衛生学	1後		2		○									兼1		
	生化学	2前		2		○									兼1		
	病理学	2前	2			○									兼1		
	臨床病態学Ⅰ	2前	2			○			1								
	臨床病態学Ⅱ	2後	2			○			1								
	臨床病態学Ⅲ	2後	2			○									兼3		
	整形外科学	2前	2			○									兼1		
	小児科学(人間発達学)	2後	2			○				1							
	精神医学	2前	2			○									兼2		
	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	2前	2			○				1							
	チームリハビリテーション概論	2前	1			○			1						兼4		
	介護学概論・ボランティア活動論	2後		1			○			1							
	スポーツ医学	3前		1			○								兼2		
	テーピング技術論	2後		1			○								兼1		
	小計(15科目)		—	19	7	0	—	—	—	3	2	1	0	0	兼16		—
学科専門科目群	基礎理学療法学	医療関係法規論	1前	2			○									兼1	
		理学療法触診法	3後	1				○			2						
		基礎理学療法学Ⅰ	2前	1				○			2	1					
		基礎理学療法学Ⅱ	3前	1				○			2	1					
		基礎理学療法学実習	2通	1					○				3				
	小計(5科目)		—	6	0	0	—	—	—	3	3	1	3	0	兼1	—	
	理学療法管理学	職場管理(教育を含む)	3後	1				○			1						
		職業倫理	3後	1				○			1						
	小計(2科目)		—	2	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼0	—	
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	1後	1					○			1	1	2			
理学療法評価学各論		2前	2					○			1	1	2				
臨床理学療法評価学(動作分析)		3前	1					○			2						
臨床理学療法評価学実習		3通	1					○			3		3				
小計(4科目)		—	5	0	0	—	—	—	3	1	1	3	0	兼0	—		
理学療法治療学	基礎日常生活活動学	1後	1					○					1	1			
	基礎運動療法学総論	2前	1					○			1	1					
	基礎運動療法学各論	2後	1					○					1	1			
	物理療法学	1後	1					○									
	運動器系理学療法学Ⅰ	2後	1					○			1						
	運動器系理学療法学Ⅱ	3前	2				○			1	2						
	運動器系理学療法学Ⅲ	3前	1					○		2	2						
	神経系理学療法学Ⅰ	2後	1					○		1	1			2			
	神経系理学療法学Ⅱ	3前	2					○		1	1			2			
	神経系理学療法学Ⅲ	3前	1					○		1	1			2			
	内部障害系理学療法学Ⅰ	2後	1					○		1		1				兼1	
	内部障害系理学療法学Ⅱ	3前	2					○		1		1				兼1	
	内部障害系理学療法学Ⅲ	3前	1					○		1		1				兼1	
発達障害理学療法学	3前	1					○			1							
義肢装具学	2後	2					○		1								
臨床理学療法治療学実習	4通	1					○		3			3					
小計(16科目)		—	20	0	0	—	—	—	4	4	2	3	0	兼1	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部理学療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
学科専門科目群	療 法 学	地域理学療法学	2後	2			○			1						
		生活環境論	2後	1				○		1			1			
		老年期理学療法学	3後	1				○		1			1			
		小計 (3科目)	—	4	0	0		—		1	1	0	1	0	兼0	—
	総 合 領 域	理学療法臨床推論概論	2後		1			○		2						
		理学療法臨床推論演習	3前		1				○	2						
		総合リハビリテーションIPW演習	3前	1					○	2						
		理学療法特論Ⅰ	3後	1					○		2	1	2			
		理学療法特論Ⅱ	4前	1					○		2	1	2			
		理学療法特論Ⅲ	4後	2					○		2	1	2			
		運動器系理学療法セミナー	4前		1				○	2	1	1				
		神経系理学療法セミナー	4前		1				○	1	1		2			
		内部障害系理学療法セミナー	4前		1				○	1		1				
		地域理学療法セミナー	4前		1				○		1					
		小計 (10科目)	—	5	6	0		—		4	3	2	2	0	兼0	—
	研 卒 業	卒業研究Ⅰ	3通	2					○	5	4	2	3	0		
		卒業研究Ⅱ	4通	2					○	5	4	2	3	0		
		小計 (2科目)	—	4	0	0		—		5	4	2	3	0	兼0	—
	臨 床 実 習	臨床見学実習	1後	1					○	4	4	2	3	0		
		検査測定実習	2前	1					○	4	4	2	3	0		
		臨床評価実習	3後	4					○	4	4	2	3	0		
		地域理学療法実習	4前	1					○	4	4	2	3	0		
		臨床総合実習Ⅰ	4通	7					○	4	4	2	3	0		
臨床総合実習Ⅱ		4通	7					○	4	4	2	3	0			
	小計 (6科目)	—	21	0	0		—		4	4	2	3	0	兼0	—	
合計 (106科目)			—	120	52	0		—	7	4	2	3	0	兼39	—	
学位又は称号		学士 (理学療法学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
4年以上在籍し、教養科目群から必修14単位+選択2単位以上、学部共通科目群から必修5単位+選択2単位以上、学科専門科目群の専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」から必修15単位、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」から必修19単位+選択1単位以上、学科専門科目群の「専門科目」から必修67単位+選択1単位以上の計126単位以上修得すること。なお、履修できる単位数は半期24単位、通年で48単位以内とする。							1 学年の学期区分			2学期						
							1 学期の授業期間			15週						
							1 時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要																	
(総合リハビリテーション学部作業療法学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	1前	2				○		5		4	1		兼1	オムニバス	
		物理学	1後		2			○							兼1		
		生物学	1前		2			○							兼1		
		化学	1前		2			○							兼1		
		情報処理	1前		2				○						兼1		
		統計学	3後		2				○						兼1		
	人間理解と社会	心理学	1前	2				○							兼1	兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
		生命倫理学	1後	2				○							兼1		
		哲学	1後		2			○							兼1		
		社会福祉学	1後	2				○							兼1		
		日本国憲法	1後		2			○							兼1		
		東洋史概説	3前		2			○							兼1		
	語学	英語Ⅰ(初級)	1前	2					○						兼2	兼2 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
英語Ⅱ(中級)		1後	2					○						兼2			
英会話		2前		2				○						兼1			
医学英語		2後		2				○						兼1			
基礎英語演習		2前		2				○						兼1			
応用英語演習		2後		2				○						兼1			
小計(19科目)		—	12	26	0			—	5	0	4	1	0	兼13	—		
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1				○		1		1	1			兼4 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼3 兼1 兼3 兼3 オムニバス	
		チーム医療見学実習	1前	1					○	2		1					
		医療コミュニケーション	2前	1					○	2							
		チーム医療論	2後	1					○	2							
		IPW論	3前	1					○	5		4	1				
		基礎体育	1前		1				○						兼4		
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前		2				○						兼1		
		健康管理学Ⅰ	2前		2				○						兼1		
		健康管理学Ⅱ	2後		2				○						兼1		
		栄養学	2後		2				○						兼1		
		身体運動科学	2後		2				○						兼3		
		東洋医療概論	3前		2				○						兼1		
		統合医療概論	3前		2				○						兼3		
小計(13科目)		—	5	15	0			—	5	0	4	1	0	兼12	—		
学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1前	1				○						兼1	兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼4	
			人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1後	1					○					兼1		
			人体の構造Ⅰ(神経系)	1前	2				○						兼1		
			人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	1後	2				○						兼1		
			人体の構造実習	2後	1						○				兼1		
			人体の機能Ⅰ(動物性機能)	1前	2					○					兼1		
			人体の機能Ⅱ(植物性機能)	1後	2					○					兼1		
			基礎運動学	1後	2					○			2				兼1
			臨床運動学	2前	2					○			2				兼1
小計(9科目)		—	15	0	0			—	0	0	2	0	0	兼4	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(総合リハビリテーション学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	リハビリテーション概論	1前	2			○			1								
	公衆衛生学	1後		2		○									兼1	オムニバス	
	生化学	2前		2		○									兼1		
	病理学	2前	2			○									兼1		
	臨床病態学Ⅰ	2前	2			○									兼1		
	臨床病態学Ⅱ	2後	2			○									兼1		
	臨床病態学Ⅲ	2後	2			○									兼3		
	整形外科学	2後	2			○									兼1		
	小児科学(人間発達学)	2前	2			○			1			1					
	精神医学	2前	2			○									兼1		
	精神医学各論	2後	2			○									兼1		
	臨床心理学	2後	1			○									兼1		
	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	3前	1			○									兼1		
	医療関係法規論	2前		2		○									兼1		
	チームリハビリテーション概論	2前	1			○			1			1			兼4		
	介護学概論・ボランティア活動論	2後		2		○									兼1		
	スポーツ医学	3前		1			○								兼1		
	小計(17科目)		—	21	9	0	—	—	—	3	0	0	1	0	兼18	—	
	学科専門科目群	基礎作業学	1前	2				○		1		2	1				オムニバス
		作業科学入門	1前	2			○			2		1					
		作業療法概論	1後	2			○			1							
小計(3科目)			—	6	0	0	—	—	3	0	2	1	0	兼0	—		
作業療法 管理学		職場管理(教育を含む)	3後	1			○			1							
		職業倫理	3後	1			○			1							
小計(2科目)			—	2	0	0	—	—	1	0	0	0	0	兼0	—		
作業療法 評価学		作業療法評価学総論	1後	2			○			2		1					オムニバス
		身体障害作業療法評価学	2前	2				○		1		2					
		精神障害作業療法評価学	2後	1				○		1		1					
	発達障害作業療法評価学	2後	1				○		1			1					
	高次脳機能障害作業療法評価学	2後	1				○				2						
小計(5科目)		—	7	0	0	—	—	3	0	3	1	0	兼0	—			
作業療法 治療学	日常生活活動学	1後	2			○			1		1						
	身体障害作業療法治療学総論	3前	2			○			1		3						
	精神障害作業療法治療学総論	3前	2			○			1		1						
	高齢期障害作業療法治療学総論	3前	2			○			1								
	発達障害作業療法治療学総論	3前	2			○			1			1					
	身体障害作業療法治療学各論	3後	1			○			1		3						
	精神障害作業療法治療学各論	3後	1			○			1		1						
	高齢期障害作業療法治療学各論	3後	1			○			1								
	発達障害作業療法治療学各論	3後	1			○			1			1					
	義肢装具学	2後	1				○		1		1						
	作業療法特論Ⅰ	4後	1				○		5		4	1					
	作業療法特論Ⅱ	4後	1				○		5		4	1					
	身体障害作業療法治療学演習	3後		1			○		1		3						
	精神障害作業療法治療学演習	3後		1			○		1		1						
	高齢期障害作業療法治療学演習	3後		1			○		1				1				
発達障害作業療法治療学演習	3後		1			○		1					1				
総合リハビリテーションIPW演習	3前	1				○		1									
小計(17科目)		—	18	4	0	—	—	5	0	4	1	0	兼0	—			

教 育 課 程 等 の 概 要

(総合リハビリテーション学部作業療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科専門科目群	地域作業療法学	地域作業療法学	3前	2			○		1						
		生活環境論	3前	1				○	1		1				
		障害者地域生活支援論	3後	1				○	1						
	小計 (3科目)		—	4	0	0	—	—	3	0	1	0	0	兼0	—
	研究卒業	卒業研究 I	3通	2				○	5		4	1			
		卒業研究 II (身体障害)	4通		2			○	1		3				
		卒業研究 II (精神障害)	4通		2			○	1		1				
		卒業研究 II (高齢期障害・地域)	4通		2			○	2						
		卒業研究 II (発達障害)	4通		2			○	1			1			
	小計 (5科目)		—	2	8	0	—	—	5	0	4	1	0	兼0	
	臨床実習	臨地見学実習	1前	2					○	5		4	1		
		臨床検査実習	2後	2					○	5		4	1		
		地域作業療法実習	4後	1					○	5		4	1		
		臨床評価実習	3通	4					○	5		4	1		
		臨床総合実習	4前	16					○	5		4	1		
小計 (5科目)		—	25	0	0	—	—	5	0	4	1	0	兼0		
合計 (98科目)		—	117	62	0	—	—	5	0	4	1	0	兼41		
学位又は称号		学士 (作業療法学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
4年以上在籍し、教養科目群から必修12単位+選択2単位以上、共通科目群から必修5単位+選択2単位以上、学科専門科目群の専門基礎科目である「人体の構造と機能及び心身の発達」から必修15単位、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」から必修21単位+選択2単位以上、学科専門科目群の専門科目である「基礎作業療法学」から必修6単位、「作業療法管理学」から必修2単位、「作業療法評価学」から必修7単位、「作業療法治療学」から必修18単位+選択1単位以上、「地域作業療法学」から必修4単位、「卒業研究」から必修2単位+選択2単位以上、「臨床実習」から必修25単位の計126単位以上修得すること。なお、半期で履修できる単位数は上限24単位、通年では44単位以内とする。							1 学年の学期区分		2 学期						
							1 学期の授業期間		15 週						
							1 時限の授業時間		90 分						

教育課程等の概要															
(保健医療学部作業療法学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	1前	2					5		4	1		兼1	オムニバス
		物理学	1後	2			○							兼1	
		生物学	1前	2			○							兼1	
		化学	1前	2			○							兼1	
		情報処理	1前	2					○					兼1	
	統計学	3後	2					○					兼1		
	人間理解と社会	心理学	1前	2				○						兼1	
		生命倫理学	1後	2				○						兼1	
		哲学	1後	2				○						兼1	
		社会福祉学	1後	2				○						兼1	
		日本国憲法	1後	2				○						兼1	
		東洋史概説	3前	2				○						兼1	
	語学	西洋史概説	3前	2				○						兼1	
		英語Ⅰ(初級)	1前	2					○					兼1	
		英語Ⅱ(中級)	1後	2					○					兼1	
英会話		2前	2					○					兼1		
医学英語		2後	2					○					兼1		
基礎英語演習	2前	2					○					兼1			
応用英語演習	2後	2					○					兼1			
小計(19科目)		—	12	26	0			—	5	0	4	1	0	兼14	—
学部共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1				○		1		1			
		チーム医療見学実習	1前	1					○	2		1			
		医療コミュニケーション	2前	1				○		2					
		チーム医療論	2後	1					○	2					
		IPW論	3前	1					○	5		4	1		
		基礎体育	1前		1				○						兼4
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前		2				○						兼1
		健康管理学Ⅰ	2前		2				○						兼1
		健康管理学Ⅱ	2後		2				○						兼1
		栄養学	2後		2				○						兼1
		身体運動科学	2後		2				○						兼1
		東洋医療概論	3前		2				○						兼1
		統合医療概論	3前		2				○						兼3
小計(13科目)		—	5	15	0			—	5	0	4	1	0	兼13	—
学科専門科目群	専門基礎科目 心身の構造と機能及び発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1前	1					○					兼1	
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1後	1					○					兼1	
		人体の構造Ⅰ(神経系)	1前	2				○						兼1	
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	1後	2				○						兼1	
		人体の構造実習	2後	1									○	兼1	
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	1前	2					○					兼1	
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	1後	2					○					兼1	
		基礎運動学	1後	2					○			2			
		臨床運動学	2前	2								2			
		小計(9科目)		—	15	0	0			—	0	0	2	0	0

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	リハビリテーション概論	1前	2			○			1							
	公衆衛生学	1後		2		○										兼1
	生化学	2前		2		○										兼1
	病理学	2前	2			○										兼1
	臨床病態学Ⅰ	2前	2			○										兼1
	臨床病態学Ⅱ	2後	2			○										兼1
	臨床病態学Ⅲ	2後	2			○										兼3
	整形外科学	2後	2			○										兼1
	小児科学(人間発達学)	2前	2			○			1			1				
	精神医学	2前	2			○										兼2
	精神医学各論	2後	2			○										兼2
	臨床心理学	2後	1			○										兼2
	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	3前	1			○										兼1
	医療関係法規論	2前		2		○										兼1
	チームリハビリテーション概論	2前	1			○			1			1				兼4
	介護学概論・ボランティア活動論	2後		2		○										兼1
	スポーツ医学	3前		1			○									兼2
小計(17科目)		—	21	9	0	—	—	—	3	0	0	1	0		兼17	—
療基礎作業学	基礎作業学	1前	2					○	1		2	1				
	作業科学入門	1前	2			○			2		1					兼1
	作業療法概論	1後	2			○			1							兼1
	小計(3科目)		—	6	0	0	—	—	3	0	2	1	0		兼0	—
	作業療法管理学	職場管理(教育を含む)	3後	1			○			1						
職業倫理		3後	1			○			1							
小計(2科目)		—	2	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0		兼0	—
作業療法評価学	作業療法評価学総論	1後	2			○			2		1					兼1
	身体障害作業療法評価学	2前	2					○	1		2					
	精神障害作業療法評価学	2後	1					○	1		1					
	発達障害作業療法評価学	2後	1					○	1			1				
	高次脳機能障害作業療法評価学	2後	1					○	1		2					
小計(5科目)		—	7	0	0	—	—	—	3	0	3	1	0		兼0	—
作業療法治療学	日常生活活動学	1後	2			○			1		1					
	身体障害作業療法治療学総論	3前	2			○			1		3					
	精神障害作業療法治療学総論	3前	2			○			1		1					
	高齢期障害作業療法治療学総論	3前	2			○			1							
	発達障害作業療法治療学総論	3前	2			○			1			1				
	身体障害作業療法治療学各論	3後	1			○			1		3					
	精神障害作業療法治療学各論	3後	1			○			1		1					
	高齢期障害作業療法治療学各論	3後	1			○			1							
	発達障害作業療法治療学各論	3後	1			○			1			1				
	義肢装具学	2後	1					○	1		1					
	作業療法特論Ⅰ	4後	1					○	5		4	1				
	作業療法特論Ⅱ	4後	1					○	5		4	1				
	身体障害作業療法治療学演習	3後		1				○	1		3					
	精神障害作業療法治療学演習	3後		1				○	1		1					
高齢期障害作業療法治療学演習	3後		1				○	1								
発達障害作業療法治療学演習	3後		1				○	1			1					
総合リハビリテーションIPW演習	3前	1					○	1								
小計(17科目)		—	18	4	0	—	—	—	5	0	4	1	0		兼0	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部作業療法学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
学科 専門 科目 群	地域 作業 療法 学	地域作業療法学	3前	2			○		1							
		生活環境論	3前	1				○	1		1					
		障害者地域生活支援論	3後	1				○	1							
	小計 (3科目)		—	4	0	0	—	—	3	0	1	0	0	兼0	—	
	研 究 業	卒業研究 I	3通	2				○	5		4	1				
		卒業研究 II (身体障害)	4通		2			○	1		3					
		卒業研究 II (精神障害)	4通		2			○	1		1					
		卒業研究 II (高齢期障害・地域)	4通		2			○	2							
		卒業研究 II (発達障害)	4通		2			○	1			1				
	小計 (5科目)		—	2	8	0	—	—	5	0	4	1	0	兼0		
	臨 床 実 習	臨地見学実習	1前	2				○	5		4	1				
		臨床検査実習	2後	2				○	5		4	1				
		地域作業療法実習	4後	1				○	5		4	1				
		臨床評価実習	3通	4				○	5		4	1				
		臨床総合実習	4前	16				○	5		4	1				
小計 (5科目)		—	25	0	0	—	—	5	0	4	1	0	兼0			
合計 (98科目)		—	117	62	0	—	—	5	0	4	1	0	兼44			
学位又は称号		学士 (作業療法学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
4年以上在籍し、教養科目群から必修12単位+選択2単位以上、学部共通科目群から必修5単位+選択2単位以上、学科専門科目群の専門基礎科目である「人体の構造と機能及び心身の発達」から必修15単位、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」から必修21単位+選択2単位以上、学科専門科目群の専門科目である「基礎作業療法学」から必修6単位、「作業療法管理学」から必修2単位、「作業療法評価学」から必修7単位、「作業療法治療学」から必修18単位+選択1単位以上、「地域作業療法学」から必修4単位、「卒業研究」から必修2単位+選択2単位以上、「臨床実習」から必修25単位の計126単位以上修得すること。なお、半期で履修できる単位数は上限24単位、通年では44単位以内とする。							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要					
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	<p>本演習は、新入生が大学生としての役割を身につけることができるように、学生を支援することを目的としている。具体的には、(1)大学での学修に必要で、かつ高等学校までの教育において取得すべき内容の教育、(2)講義ノートの取り方・教科書の読み方、レポート・論文の書き方や文献の探し方、(3)大学生に求められる一般常識や態度、(4)専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育、(5)理学療法士、医療人、社会人としてのキャリア構築などについて、ディスカッションを交えて演習を行う。</p> <p>本科目の単位認定者は中根 征也である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 中根 征也・15 松尾 浩希／9回)</p> <p>大学生としてだけでなく、理学療法士、医療人、社会人に求められる一般常識や態度、専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育。</p> <p>(12 角田 晃啓／3回)</p> <p>大学、かつ高等教育までの教育において取得すべき内容の教育。</p> <p>(17 阿部 秀高／3回)</p> <p>講義ノートの取り方・教科書の読み方、レポート・論文の書き方や文献の探し方。</p>	オムニバス方式	
		物理学	物理学は自然現象を素粒子のような小さなものから宇宙のような大きなものまで、統一した概念で説明できるように発展してきた。そのような物理の基礎的概念は自然現象を説明するだけでなく、テレビや携帯電話、コンピュータ、脳の働きの理解にまで応用されている。ここでは、自然現象を定量的に理解するために必要な数学的事項、物体の運動を理解する力学、波の性質、熱力学とエントロピー、電場、電流と磁界、電磁誘導と電磁波、光の性質、相対性理論、原子と原子核などについて、幅広い知識を教授する。		
		生物学	今日生物学の知識は爆発的に増え続け、生命科学の分野だけでなく自然科学全体にも深く関与し、人文科学や社会科学にも影響を与えている。多様化した生物学の分野で、細胞の概念をとらえることは重要である。そのために、細胞とはどのようなものであるか、その細胞構造の中に含まれている細胞内小器官はどのような働きをするのか、細胞はその内部や外部に対してどのような情報伝達の仕組みをもっているのか、生殖・発生・分化の仕組みはどのようにになっているのか、などについて教授する。		
		化学	化学は自然界のさまざまな物質の成り立ちや振る舞いを理解する学問である。そのために、原子の構造とその結合、固体、液体、気体などの物質の状態、溶液の性質、化学反応と熱の授受、化学反応の速さと平衡、金属や非金属とその化合物、有機化合物、量子化学の基礎など、幅広い範囲について教授する。		
		情報処理	本演習では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等に役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算を中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の修得させることを目標とする。また、技術の修得のみならず、情報化社会に必要な倫理観を養うため個人情報保護法等についても教授する。なお、コンピュータのオペレーティングシステム（OS）はWindowsを、ソフトウェアはマイクロソフトのWord、Excel等を使用する。		
		統計学	本演習では代表値や相関と回帰を学ぶことで医学データのまとめ方や確率の基礎・分散分析などを理解させる。データと標本調査について解説し、統計学的推定と検定、割合・率・比・リスクについて学んだあと、リスク比、オッズ比、オッズ差の信頼区間へと学修を進める。相関関係と因果関係について学んだあと検定・推定と標本数の関係を理解することで、研究の妥当性、コントロールの必要性、治療の効果、疫学研究から因果関係を調べるための考え方を教授する。		
		人間理解と社会	心理学	心理学を学ぶことで心の仕組みと働き、さらには人間理解を深め、多方面で激動する現代社会の中で、先見性と方向性を持った活動をするための礎を確立させることを目指す。心理学の基礎的な理論や概念を教授し、さらにそれを実証するための研究法も教授する。また認知心理学分野、学修心理学分野、カウンセリング、ストレス、犯罪心理、家族心理、社会心理などについて学修し、患者心理に向き合い医療従事者として必要な、こころのケアについても具体的に教授する。	
			生命倫理学	脳死や安楽死など、現代医療の進歩は、これまで人類が直面したことのなかった問題を新たに生み出すようになっている。医療現場でも救急医療では、死に直面する機会にも遭遇する。本講義では、そうした生命倫理の様々な問題を考察しながら、同時に「私達にとって生きるということとはどういうことか」を考えさせる。生命倫理の問題は、当事者になって初めて意識するというものではなく、現代人のすべてにそうした生への問いを投げ掛けているということ概説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間理解と社会	哲学	哲学の基礎として、「世界、人間、神」について哲学的に考えることを解説する。著名な哲学者らが、それらについてどのように考えてきたかを考察させ、それらへの理解を哲学的に深めさせるとともに、彼らにある根本や全体から考えるとといった哲学的思考方法の基礎を学ばせ、次に東洋哲学と西洋哲学の特色を教授する。	
	社会福祉学	社会福祉の発達を社会環境の歴史的变化との関連で捉え、社会福祉諸法の概要をその成立根拠を踏まえながら解説する。また、わが国の社会福祉の特徴や問題点、福祉サービスの現状を解説すると同時にその活用法について実生活との関わりの中で理解させる。さらに、少子高齢化の進展をはじめ社会福祉を取り巻く環境が近年大きく変化するなかで、今後の社会変動と社会福祉制度・活動の動向について教授する。福祉の動向・課題について関心を持ち、自らの考えを持ち行動する態度を養うため、新聞記事等から事例を示し考察させる。	
	日本国憲法	法を学ぶということは、単に法技術を修得することではなく、法を解釈することを通して客観的・論理的に思考する能力を養うことである。本講義においては、過去の歴史的背景や出来事を含めて、われわれの周りに起こる出来事を取り上げ、憲法がわれわれにとって非常に身近であることを認識させる。さらに、障害者や母子家庭、父子家庭の子どもたちなど社会的弱者の問題を含めた、さまざまな社会問題を、人権保障の観点から包括的に考察させる。	
	東洋史概説	文献や近年の考古学の成果などを踏まえ、時間的視点・空間的視点でその地域をとらえながら、東アジア世界が果たした役割を歴史的観点から考察させる。また、本講義においては、「医学の歴史」の観点からアプローチを行い、東洋医学の背景にある文化や思想について理解する。そして、東洋医学に対して中国医学がどのように影響を与えたかについて考察させる。	
	西洋史概説	本講義では、西洋史における民族社会の形成や文化の歴史的発展を考察し、その基本的問題や特性を理解させる。また、西洋の歴史を古代文明から継承されたいくつかの要素を基に掘り起こし、民族社会の形成と発展、キリスト教文化圏や国家の形成等に焦点を当て解説する。なお、本講義においては、西洋における「医」の考え方や歴史的展開等について時間軸に沿った変化を考察させる。	
教養科目群	英語Ⅰ(初級)	英語Ⅰでは、単語・熟語・慣用句の知識を含む語彙力や、文意を正確につかむ文法力を養い、日常生活で目にするようなレベルの会話文を含む、英文を読んで理解する力を修得させることを目的とする。また、未知語の推測や背景知識、文化的背景の違いに関する知識などを活用して、文章の概要や要点を速く正確に読み取る技術や読解力を養わせる。医療用語を含めた文章中のキーワードを頼りにして速読を行い、書き手の意図を速く正確に捉える読解力を養わせる。	
	英語Ⅱ(中級)	英語Ⅱでは、英語Ⅰで獲得した英文読解の知識や技術をさらに発展させることを目的とする。さまざまな分野の英文を多量に読むことにより、中級から上級のレベルの英文を速く読んで正確に理解できる力を養わせる。パラグラフの構成や展開に注意して要点を把握するなど、英文読解に必要な技術にも触れながら、速読・多読の演習を行い、重要な情報を正確につかむ読解力を養う。速読によって得た情報をもとに議論をし、文章作成能力の基礎を養わせる。	
	英会話	英会話では、日常生活で用いられる定型的・慣用的な表現について解説し、その表現を自由に使えるように基礎的なコミュニケーション能力の養成を目的とする。日常生活で自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解する力を養うだけでなく、日常の話題について基本的な英語表現を用いて自由に表現できる能力の獲得を目指す。対話における受け答えだけでなく、自らも問いかけができるような、会話を発展させる能力をも養い、十分な自己表現ができることを目指す。	
	医学英語	医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため(1)コミュニケーションの構成要素について学修し、(2)臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、英語でしかコミュニケーションのとれない患者に対して検査や採血などの行為を行うケースを想定し、具体的に教授する。また患者説明時に、患者の誤解を招かぬように指示を伝えるために必要となる、的確な表現や語彙の選択能力を日本語・英語の相違点を踏まえて解説する。	
	基礎英語演習	基礎英語演習では、基礎的な日常会話コミュニケーション能力の向上に焦点を当てながら、総合的な英語運用能力を培うことを目的とする。そのような運用能力を修得するために、(1)日常的な場面で使われる英語の語彙・熟語・構文・文法を確認し理解を深め、(2)実際の会話文のモデルパターンを数多く理解し、またそれらの暗記を実践し、(3)様々な題材を読んだり、聴いたりすることにより正確に要点を捉える能力を育成する。英語のコミュニケーション能力の評価基準となるTOEICで450点(以上)に相当する英語運用能力修得させることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	語学	応用英語演習	応用英語演習では、基礎英語演習で獲得した総合的な英語運用能力をさらに発展させることを目的とする。基礎英語演習で修得した語彙力・文法力・リスニング力・読解力を総合的に定着させ、日常の様々な場面において、その状況や文脈を理解し、自ら情報を発信することができる、レベルアップした英語運用能力の獲得を目指す。英語のコミュニケーション能力の評価基準となるTOEICで500点(以上)に相当する英語運用能力修得させることを目標とする。
	共通科目群	保健医療	MBS (Morinomiya Basic Seminar)
チーム医療見学実習			医療の実践現場である病院等の施設において“医療従事者の1日”に密着体験することによって医療職への理解を深めさせるとともに、個々の学生が目指す専門職の役割やチーム医療を構成する様々な専門職との関係について学ばせる。また、インター・プロフェッショナル・エデュケーションの視点から、医療における多職種連携の重要性及びチーム医療の実際についても教授する。
医療コミュニケーション			医療現場において、医療の専門性を発揮し、患者に適切な医療を行うためには患者とのコミュニケーションは欠かすことができない。また、他の医療従事者と連携して患者の治療にあたることが求められるが、コミュニケーションは連携のための重要な手段の1つである。本講義では、患者や医療従事者とコミュニケーションをとるために必要な知識、技術を教授する。
チーム医療論			自学科以外の職種について理解と関連性を学び、医療の質の向上、患者中心の医療安全を実践できる医療人としての心構えを教授する。併せて他職種の特性や内容について学び、体験することで、医療従事者間ならびに患者との間に生じる考え方のギャップを理解し、コミュニケーションに生かすことができるパーソナリティを身につけることを目標とし、3年次前期に開講するIPW論への礎とする。
IPW論			本学が有する鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科、臨床工学科と診療放射線学科の7学科において各分野に共通する症状、障害、危機管理、診療計画などをテーマにチームアプローチの実際について教授する。実際の症例を想定し、各学科の専門性を基に“専門職間連携”の理念を実現するための方法について討議させる。その際、他者の意見を聞き自らの意見を明確に伝える能力を修得させるとともに、当事者主体の原理に立ったアプローチ方法を検討させる。
基礎体育			スポーツ(運動)を実施する目的は、健康増進、筋力・持久力向上、ダイエット等、実施する個人によって多種多様である。本演習では、多種多様なスポーツ・運動種目を用意し、目的に応じた効果的トレーニング方法の理論と実際を、スポーツ(運動)の実践を通じて学べる授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図る。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツ(運動)を実践する習慣を育成することも本演習の大きな狙いである。
健康科学(スポーツ社会学を含む)			健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されているダイエットや運動に関する情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくはない。本講義では、日本人の生活習慣や食生活の変化、および健康維持に不可欠な知識を教授する。さらに生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方、健康管理に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識を修得させることを目指す。
健康管理学 I			本講義では、運動不足の健康への影響を学び、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理・原則を教授する。特に、有酸素運動の健康上の必要性を解説し、運動処方条件(強度・時間・頻度)に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、健康づくりのための運動所要量の算出法や、ウォーミング・アップおよび、クール・ダウンを含めた、運動処方プログラムの構成についても解説する。さらに、食生活と疾病の関係、特に肥満や生活習慣病との関係および健康生活を確立するための食生活の重要性を理解するとともに、肥満に関する正しい知識を身につけ適正な減量の方法を解説する。また、講義だけでなく実際の調査およびエネルギー代謝測定を通じて、栄養素の種類とその機能、栄養の消化・吸収、日本人の栄養所要量、日常生活のエネルギー代謝および消費量、タンパク質等栄養所要量を算出するための方法論の基礎と実際を教授する。

授 業 科 目 の 概 要				
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通科目群	保健医療	健康管理学Ⅱ	近年、生活習慣病の危険因子が次第に明らかにされつつある。危険因子を多く有する人は疾病に罹患する確率も高くなることから、現代社会では、日常生活においていかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と体力・運動不足の関連性、健康診断（メディカルチェック）に関する基本的な考え方、および健康度の一つの尺度となる体力について、理解を深めさせると同時に、第一次予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防に役立つ根拠について教授する。また、個人および集団の健康の現状を把握し、人間の健康を疾病から予防し、維持・増進するための理論や具体的な方法についても解説する。	
		栄養学	栄養は生物が増殖、成長、活動するために外界から必要な物質を取り込み、生命を維持していく現象を指す。ここでは医療人として必要な知識である、栄養と生命活動に焦点を絞った内容を教授する。それらは食生活と疾病の関連、摂取した栄養素の体内での働き、植物の消化と栄養素の吸収、エネルギー代謝、脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルの代謝、遺伝子発現と栄養の関係、人間の成長発達と栄養所要量ならびに栄養状態の判定等で構成する。	
		身体運動科学	本講義では、競技スポーツ、健康運動、運動療法、日常生活活動、労働などの身体活動に対する生体の一時的変化や適応現象のメカニズムについて教授する。また身体活動の生理学的基礎と、健康、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのトレーニング方法について解説する。さらに栄養学的な見地から、運動時の筋力増強や、心肺機能を増強させるために効果的な栄養素やその補給方法などを交えて、栄養と運動の関連性についても教授する。	
		東洋医療概論	東アジアで発祥し発展した診断治療体系である東洋医学は、近年エビデンスの検証が進むにつれて批判的吟味と見直しが行われ、有効性と安全性が示されたものについては現代医療の中で応用する試みがなされるようになってきた。東洋医学は心と身体の調和を重視しており、その考え方や具体的な手法を学ばせることは、健康増進だけでなく健康回復の過程においても充実した生活と人生観を取り戻す一助になると考えられる。この授業では、東洋で発祥し伝承されてきた各種治療体系の概要・生命観・具体的手法を知り、患者や高齢者にどのように臨床応用していけばよいか考える機会を与える。この授業では特に理論と体系の基本を教授する。	
		統合医療概論	現代医学と伝統医学、あるいはBody・Mind・Spiritの視点のいずれも重視しながら患者を包括的にケアすることを目指す統合医療の概念を教授する。まず、今日の医療に必要なEBMの概念と治療法の批判的吟味の仕方について理解させ、次に統合医療の定義、従来の医療や補完代替医療との違い、統合医療の普及状況、現代における統合医療の必要性について解説する。また、各論として統合医療を構成する個々の主要な補完代替療法についても概観し、それを実際に臨床応用している医療機関の実践手法を解説する。統合医療の良い点だけでなく問題点も指摘し、各医療職種が統合医療の概念を取り入れて向かうべき方向性について教授する。 本科目の単位認定者は未定である。 (オムニバス方式／全15回) (22 山下 仁／10回) 医療におけるエビデンスの重要性、EBMの概要と実践例、代替医療研究における倫理、代替医療概論、代替医療の主な診断治療体系の特徴、統合医療の概念と現状、および統合医療の理解と応用について解説する。 (23 森 美侑紀／2回) 代替医療における代表的な手法の一例としてアロマセラピーの概要と実際について解説および実演をする。 (33 増山 祥子／3回) 研究デザイン、有効性検証のための臨床試験、手技療法の概要と実際について解説および実演をする。	オムニバス方式
学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達		
		人体の構造演習Ⅰ（運動器）	人体の構造演習Ⅰでは、運動器系総論と体幹（頭蓋・脊柱・胸郭）の骨とその連結、および筋を学修する。総論では、骨・骨の連結・筋の各々についての分類や構造などを学修する。体幹の運動器では、各骨や各関節の部位、構造、形態的特徴などを、講義のみならず骨模型実習を通して学修する。筋については、各筋の起始、停止、支配神経、作用などを学修する。これらの理解を通じて、骨と筋が運動器としてどのような連携しているか考える、また運動時に重要な役割を果たしている関節や靭帯の形態と機能についても理解を深める。	
		人体の構造演習Ⅱ（運動器）	人体の構造演習Ⅱでは、四肢（上肢と下肢）の骨とその連結、および筋を学修する。骨とその連結では、各骨や各関節の部位、構造、形態的特徴などを、講義のみならず骨模型実習を通して学修する。筋については、各筋の起始、停止、支配神経、作用などを学修する。これらの理解を通じて、骨と筋が運動器としてどのような連携しているか考える、また運動時に重要な役割を果たしている関節や靭帯の形態と機能についても理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 群 専 門 基 礎 科 目 人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	人体の構造Ⅰ（神経系）	人体の構造Ⅰでは神経系の基本的構造について学修する。神経系は末梢神経系と中枢神経系から構成される。末梢神経系は感覚器により得られた外界の情報を中枢神経系に送り、また中枢神経系で処理・統合された命令を効果器に伝える神経系である。中枢神経系は末梢神経系からの感覚情報を整理するとともに、中枢神経系内に蓄積されている情報を統合して最終的な命令を効果器に出力する。これら神経系の構成要素の基本的構造を学修し、人体内での情報伝達機構の精緻さと生命維持における重要性の理解を目指す。	
	人体の構造Ⅱ（循環・内臓）	人体の構造Ⅱでは、循環・内臓系の基本的構造について学修する。循環・内臓系は人体の恒常性維持、すなわち生命維持において重要な機能を有する臓器を包含している。循環系と内臓系の構成要素の体内での相互位置関係や、臓器一つ一つの構造を学修することにより、ヒト1個体での「システム」としての連携した形態と機能の理解に繋がる知識を修得する。単なる部位名称の暗記に留まらず、機能を含めた臨床に繋がる有機的な循環・内臓系の理解を目指す。	
	人体の構造実習	人体の構造実習では、一年次に学修した「人体の構造」と「人体の機能」の知識を基盤に、人体を構成する様々な器官・臓器の正常な組織構造について、光学顕微鏡観察を通じてより深く学修する。人体の構造的機能的最小単位である「細胞」には様々な形態を有しているものがある。器官や臓器は「細胞」が一定の秩序に従って配列し構成されており、それらが連携して機能を営んでいることを「顕微鏡観察」を通じて実感し理解を深める。この実習を通じて、「形態」と「機能」との関連性を考察する能力を高めることを目指す。	
	人体の機能Ⅰ（動物性機能）	人体の機能Ⅰでは、神経系の機能について解説する。生理学の意義、細胞の一般に続き、神経と筋の機能、神経系の解剖を概説し、反射を中心とした脊髄や脳幹の機能、小脳、大脳基底核、大脳皮質による運動の調節について解説する。また、体性感覚、特殊感覚の受容器レベルの特性及び中枢での情報処理について解説し、感覚が運動の調節にも関わることを解説する。また、感覚や運動の情報が、学修により記憶に変換される過程や、情動や動機づけを含めた統合機能についても解説する。最後に、自律機能についても概説する。	
	人体の機能Ⅱ（植物性機能）	人体の機能Ⅱでは、主として生命維持に必要な各臓器の機能について解説する。呼吸、循環、消化について解説した後、運動機能との関連について概説する。また、排泄、循環、体温などの機能について解説し、内分泌系の機能を自律神経との関連も含めながら解説する。さらに、植物性機能の多くが生体に外乱が加わっても生体の内部状態を一定に保つフィードバック機構を備え、外乱に対して予測的に内部状態を制御することを解説する。最後に、生命維持機能の解明がホメオスタシス維持機構の解明に他ならないことを解説する。	
	基礎運動学	身体運動の評価・治療技術に必要な運動学に対して、骨学、筋学、関節学、神経学など運動器と感覚器の構造と機能、力学、運動の法則、運動の中枢制御、栄養とエネルギー代謝などの基礎を踏まえ、骨の構造と運動、関節構造と運動、筋の力学的特性、神経機構と運動・姿勢制御など、四肢・体幹における運動、動作、姿勢の分析、運動の発達、運動学修など身体運動の理解と治療技術に対する基礎知識を教授する。そして、運動、動作、姿勢を観察・分析した結果に対し、専門用語を用いて表現できることを目的とする。	
	臨床運動学	骨関節障害、神経筋障害、中枢神経障害、呼吸循環障害などにより引き起こされる異常運動を、自然科学（解剖学・力学・運動生理学・神経生理学など）と人文・社会科学（心理学やコミュニケーションなど）の観点から理解させる、いわゆる病態運動学を教授する。その運動機能を分析するため、過去から現在の最新の測定機器までを理解させる。また、運動機能障害に対し、基本的な理学療法と関連付け、検査・測定・評価法の選択、理学療法計画の立案、理学療法手技の選択、理学療法効果判定について自立し判断できることを目標とする。	
	運動学実習	運動学の座学で学んだ内容を実践的に再学修することを目的として次のことを行う。(1)身体運動の観察とその内容を専門用語で記載する。(2)計測器を用いての身体運動の測定、および測定結果の図示と運動学的解釈を行う。(3)グループワークとして運動学的分析をする動作を設定し、それについて(1)と(2)の過程を遂行し、一連の内容を論理的に説明する。これらの実習を通じて、学生が身体動作を運動学の用語を用いて物理学的に説明するための基礎的なスキルを身につけることができることを目標とする。	
臨床心理学	臨床心理学では、個人が抱えている心の問題、行動上の食い違い、人間関係の問題などを心理学的な知識と技術を用いて、適応的な方向にもっていくための心理学の方法や理論について教授する。心理学的な問題にはどのようなものがあるか、心理アセスメント、臨床心理の理論と技法、心理的援助の技法などを中心に取り扱い、事例を通して臨床家として望ましい治療援助のあり方を患者の立場から理解していく態度を身につけさせる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 群 専 門 基 礎 科 目 疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	リハビリテーション概論	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの全体像を教授し、全体の中での理学療法のある方を理解することを目標とする。その主な指導内容は、リハビリテーションの概念、理念、歴史、リハビリテーションの対象となる障害、障害の意味（国際障害分類および国際生活機能分類による）、障害者の種別や人数、心理、障害者に対する自立支援・就労支援、リハビリテーションチームの構成、リハビリテーションの関係施設（病院リハ、高齢者入所施設リハ、通所リハ、訪問リハ等）、地域包括ケアシステム及び多職種連携、リハビリテーションの諸制度と関係法規及び行政に関することである。	
	公衆衛生学	個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、衛生・公衆衛生学は社会水準で健康を取り扱うので社会医学とも呼ばれる。その範囲は多岐にわたり、健康に影響をおよぼす様々なリスクを同定し、予防活動に結びつける学問である。本講義では「社会に役立つ公衆衛生」を基本として、衛生・公衆衛生学の理論、衛生統計、衛生行政、食品保健、成人・老人保健、母子保健、産業保健、精神保健などについて学修する。	
	生化学	生化学では、①「生命の維持と仕事」細胞・エネルギー・熱・pHなどの基本的な事について ②「栄養素」（糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・電解質・水・核酸）についてとそれらの代謝 ③「酵素による代謝」体内の代謝のほとんどは酵素反応である ④「血液による恒常性」栄養素の運搬・ホルモンの運搬・血液ガス老廃物の運搬・熱の運搬・pHと浸透圧について ⑤「血液と免疫」血液の組成と働きメカニズム ⑥「臓器の生化学」肝臓・膵臓・胃・小腸・腎臓・神経・筋肉などの代謝の特異性について教授する。また、栄養素が細胞・臓器を構成し、その臓器の中をどの様に流れて行き、どの様にコントロールされているか（ホルモンと神経）を教授する。	
	病理学	病理学は疾病に関する基本的概念を扱うことから、医療に従事する者にとっては欠くことのできない学問である。したがって本講義では、まず病理学の意義ならびに病態を捉えるための病理学的手法について教授する。次いで人の疾病を理解するための基礎となる発生機序、経過、予後などの疾病の成り立ちについて教授する。また、これらの知識を基礎として、様々な臓器や組織に共通してみられる病変である退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、免疫異常、腫瘍、先天性異常などについて、総括的に教授する。	
	臨床病態学Ⅰ	よき医療人になる上で必要不可欠な内科学について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。診断学・症候学では人体の解剖学的構造・生理機能などを考慮し、系統的に理解させる。また循環・呼吸・消化・肝胆膵の各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態メカニズムを把握し、症状を論理的に説明でき、同時に治療の合理性を理解させる。必要に応じて疾患に必要な外科的処置、周術期管理についても講義する。さらに臓器のつながりを考慮し、各種疾患の関連を系統的に講義する。	
	臨床病態学Ⅱ	消化器、泌尿器、免疫系、神経・筋疾患、感染症などの代表的な疾患を取り上げる。また、加齢に伴う様々な生理学的変化により、これらの疾患を合併・併発しやすい老年期の特徴についても概説する。各疾患について、成因と病態生理について理解し定義、症状、検査法、診断・鑑別診断、経過と予後、治療方法、薬理について教授する。治療方法には外科的処置、周術期管理も含む。また、内科学Ⅰで学修した分野の疾患も含め、各種内科疾患についての知識を整理すると共に症候から鑑別診断・確定診断へと至る思考のプロセスについて教授する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 群 専 門 基 礎 科 目 疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	臨床病態学Ⅲ	理学療法士が関与する機会の多い脳神経外科、神経内科、老年医学について代表的な疾患を取り上げ講義する。各疾患について、成因と病態生理について理解し定義、症状、検査法、診断・鑑別診断、経過と予後、治療方法について学修すると同時に治療の合理性を理解させる。また医療人として欠かすことのできないBLS（一次救命処置）についても講義する。 本科目の単位認定者は未定である。 （オムニバス方式／全15回） （26 前川 佳敬／6回） 老年期医療、神経内科学疾患の特徴について講義する。 （27 松崎 伸介／7回） 脳神経外科疾患の特徴について講義する。 （28 吉岡 敏治／2回） 医療従事者に必要な救急医療について、BLSを中心に実践ならびに講義を行う。	オムニバス方式
	整形外科学	整形外科学では、運動器の疾患について解説し、運動器の基礎、診断、治療、外傷、感染症、腫瘍、関節リウマチと類縁疾患、変性疾患、炎症性疾患、先天性疾患などについて教授する。また、上肢、下肢、脊柱に分かれた運動器別の疾患について解説し、日々の臨床で遭遇する様々な疾患への理解と臨機応変に対応できる知識を身につけさせることを目的とする。さらに、スポーツに関連した事項についても教授し、スポーツに関連した治療にも対応できるようにする。	
	小児科学（人間発達学）	医療者や保護者を含めて我々大人は、子ども達が病気でないだけでなく、健やかに育ち社会の一員となってくれることを願っている。子ども達は、生物学的にヒトとしての一定の「発達の過程」を経る一方で、身体も心も自然・社会・文化から様々な影響を受けて、時には大きなダメージを受けることもあるし、生まれた時にすでに病気や障害をもっていることもあり、一人一人個別で尊重すべき「発達の歴史」を有する。『人間発達』では、新生児からの成長発達過程及び子どもをとりまく環境や保健について学びながら、人がいかにしてヒトから人間へと変化していくのか、生涯を通じての発達とは何かについて考えさせる。	
	精神医学	精神医学では、精神症状の把握・評価、検査、薬物療法を中心とした身体的治療、精神療法（心理社会的治療）、精神障害の成因論と、身体により基礎付けられた精神障害から心理的側面の強い精神障害に至るまでの疾患について理解を深めることを目標とする。そのため、頻度の高い精神障害の診断と対応、身体疾患と精神障害との関係を教授する。また、児童期から老年期までのライフステージ各段階における精神障害についても教授する。	
	リハビリテーション医学 （画像診断・予防・栄養含む）	近年、医療技術の進歩や高齢化社会の影響もあり、リハビリテーションの需要が拡大しているとともに、高度化する医療ニーズへの対応を求められている。そのため冒頭で、リハビリテーション医学の歴史や概念を教授した後、現代社会におけるリハビリテーションの位置づけ、代表的な疾患・障害別におけるリハビリテーションについて教授し、理解させることを目的とする。併せて、医療機関から介護、地域へと拡大していくニーズ別のリハビリテーション介入、またこれらに求められる専門知識（画像診断学、栄養学、予防医学）の内容を取り入れて、質の高いリハビリテーションを提供するための知識を教授する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 専門基礎科目	チームリハビリテーション概論	近年、社会・医療現場におけるリハビリテーションのニーズが高まる中、QOLの向上、質の高いリハビリテーションの提供には、各専門職の役割・専門性を理解し、共通の目標に向け互いに専門性を活かしながら協働・連携することが不可欠である。そのため本講義では、チームリハビリテーションの概念や重要性、リハビリテーション専門職である理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割・専門性を理解、学修し、社会・医療現場での多職種連携を卒前より想起できるよう教授する。本科目の単位認定者は堀 竜次である。 （オムニバス方式／全15回） （6 堀 竜次／2回） 嚥下機能と姿勢調整についてや嚥下に関わる解剖学と生理学および誤嚥性肺炎予防のアプローチについて教授する。 （29 小林 貴代／5回） 作業療法と作業療法士の定義、概念、作業療法的手段、役割と専門性、リハビリテーションチームの他の関連分野との連携等について教授する。 （30 橋本 弘子／5回） 芸術療法（ダンスセラピー、アートセラピーなど）の体験を通じて自身や他者に表れた身体的・精神的効果を実感し、その効果がなぜ表れるのかを脳機能からも理解し、芸術療法がどのようにリハビリテーションに生かされるのかについて教授する。 （49 渋谷 静英・50 戸名 久美子／3回） 言語・高次脳機能障害におけるコミュニケーション障害の内容と評価・訓練方法について教授する。	オムニバス方式
	介護学概論・ボランティア活動論	介護学概論：介護（ケア）は、病気や障害、老いのための身体上又は精神上の障害により日常生活を営むことに支障が出てきた者の生活の質を高め、自己実現を図るために援助することである。具体的には日常生活を営むことが困難な者に専門的な知識及び技術をもって、入浴、排泄、食事その他必要な世話をし、その人らしく生きることを支援する。介護学概論では、介護の意義と障害のある人や高齢者における介護の役割を理解させ、介護に関する基礎的な知識と技術を教授する。特に介護に必要な福祉機器と介護保険や自立支援法等の社会保障制度上の介護について理解を深めさせる。 ボランティア活動論：ボランティアは、自発性に裏付けられた主体的な活動であり、現代社会において介護保険をはじめ社会保障制度の整備が進んでいるが、制度の狭間にある問題点を少しでも埋めようとする相互扶助による活動である。講義では、医療・福祉・保健現場をはじめ、在宅で障害もある方や高齢者が自立して暮らせるための活動および障害児支援活動など様々なボランティア活動について考察させると共に、日本の医療・保健・福祉行政との連携について探る。そして、人間的にも幅の広い理学療法士の育成を図る。	
	スポーツ医学	スポーツ医学とは、スポーツ活動による生体の一時的、持続的な反応について医学的な面から考究する学問と考えられる。したがって、その対象範囲は広範に及ぶが、ここでは、将来必要とされるであろう（1）スポーツ外傷・障害の予防と処置、（2）スポーツ復帰のためのリハビリテーション、に主眼を置き教授する。また、“ヒトの進化とスポーツ医学”といった面から人体の有利な点、不利な点を論じ、なぜその部位にスポーツ傷害（外傷・障害）が頻発しやすいのかについても論じる。	
	テーピング技術論	外傷を中心とした応急処置法とテーピングの技術について基礎的な知識学を解説し、それら応急処置法の必要性を理解するとともにリハビリテーション分野の臨床技術として利用価値が高い処置法を教授する。特に外傷の応急処置に必要な知識として骨折および脱臼の判断方法と包帯法、固定法および関連事項について教授する。また、テーピングが適応とされる疾患についての必要な知識、テーピング前の診断、材料・用具の使用法、テーピング後の確認、巻き替えや除去を修得させ、上・下肢の運動器傷害のテーピング法についても教授する。	
学科専門科目群 専門科目	医療関係法規論	理学療法士に直接間接を問わず関連のある法律並びに行政について理解させる。その主な内容は、理学療法士作業療法士法、医療法（病院）、医師法ほか医療関係者関連法の概要、社会福祉関連法（特に身体障害者福祉法および老人福祉法）と行政、介護保険法と行政、老人保健法と行政等のほか、医療における理学療法関係の診療保険点数ならびに介護保険点数についても言及し、理学療法士の法的な位置づけについての知識を修得させる。	
	理学療法触診法	理学療法において計測のメルクマールを同定するだけでなく、形態異常、障害部位の探索に触診法は非常に重要な役割を持っており、この技術なくしては理学療法を行うことは不可能といってよい。そこで、生体における四肢体幹の骨格・筋肉・その他の軟部組織について詳細かつ正確に触知でき、評価・治療に活用できるよう、実技中心に講義を進めていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 群 専 門 科 目	基礎理学療法学	基礎理学療法学Ⅰ	これまでに学んだ理学療法の基盤的な知識(解剖学・生理学・運動学・病理学・心理学・リハビリテーション概論など)を用い、理学療法の理論・モデル、及び基本的実践論について解説し、理学療法とその基盤的な知識のつながりを教授する。理学療法士として、対象者の評価・治療の基盤となる知識の定着と確認を目指す。
		基礎理学療法学Ⅱ	これまでに学んだ理学療法の基盤的な検査測定(関節可動域測定・徒手筋力検査法など)と各領域(運動器・神経系・内科系・発達・老年期)の特異的な理学療法評価プロセス、また、基本的な治療法(運動療法・物理療法など)の知識を用い、理学療法の理論・モデル、及び基本的実践論について解説し、理学療法の基盤を教授する。
		基礎理学療法学実習	臨床実習や理学療法士として社会で活躍するにあたっては、単に疾患の知識をもっているのみではなく、対象者に接する際に取るべき態度や、医療面接や介入方法を正しく行なう技能も身につけておく必要がある。この演習では、具体的に標準予防策・コミュニケーション技法・車椅子駆動介助を基に、教授、演習し、臨床現場に臨むにあたっての必要な態度、知識、技能を教授する。
	理学療法管理学	職場管理(教育を含む)	近年の理学療法士の在り方は量から質へ転換し、社会の変化に合わせた対応が求められている。特に質の高い理学療法の提供、時代のニーズに応えられる理学療法士の養成が必要とされている状況である。そのため、卒前より理学療法を実施する上でのマネジメント、関連法制度、医療・介護保険制度、施設管理(施設基準、診療報酬体系を含む)、リスクマネジメントなどを理解できるように教授し、国家資格取得後から早期に将来を見据えた関わりができることを目的とする。また自らが理学療法士の後進を育成していく立場に立つことを念頭に置き、理学療法教育に必要な能力を理解できるように教授する。
		職業倫理	高齢社会の背景も手伝い、理学療法士の活動の場が拡大していく中、現代社会では社会モラルの低下が問題となっている。そのため、理学療法士としての使命と職責を自覚すべく、知識や技術の向上だけでなく、理学療法士としての倫理観について教授する。加えて、法規に関する義務やプライバシー保護、人権、モラルとマナーなどの理解を深め、医療現場での患者及び対象者への関わりを教授することを目的とする。
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	理学療法評価は対象者の生活機能を分析する作業の一つであり、リハビリテーション計画の立案やその効果判定等を目的として実施されるものである。本講義では、国際生活機能分類(ICF)に基づき、対象者の生活機能と障害を「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」の三つの次元及び「環境因子」等の背景因子に類別し、それぞれの間での関係性について理解することを目的とする。また、各次元における具体的な評価方法や、個別に抽出された情報を統合して理学療法を立案するまでの一連のプロセスについて教授する。
		理学療法評価学各論	障害評価に必要な各検査項目の修得を目標とし、一般的事項として、問診・視診・触診を中心に学び、技術修得のために身体計測として周径や四肢長など身体の形態障害把握や左右差比較に必要な知識と技術、関節可動域測定・筋力測定などの各検査・反射・感覚などの神経系疾患の評価に必要な知識の理解と必要器具の使用法とその手技を解説し、観察事項として起居・歩行などの基本的な動作能力障害の把握に必要な知識と技術を教授する。
		臨床理学療法評価学(動作分析)	理学療法プロセスにおいて、対象の機能と動作の障害構造を理解させるために、画像評価・動画分析を用いて動作観察能力の向上を目指す。第一に歩行などの各基本動作における正常動作のメカニズムを理解させる。第二に正常から逸脱した異常動作、もしくは代償動作のメカニズムを理解させる。そして観察した結果から推察される機能障害を証明するために、多種の評価項目を想起し実施する。最後に評価から得られた結果をもとに統合と解釈を行い、動作の分析能力も高める。
		臨床理学療法評価学実習	臨床実習や理学療法士として社会で活躍するにあたっては、単に疾患の知識をもっているのみではなく、対象者に接する際に取るべき態度や、医療面接や介入方法を正しく行なう技能も身につけておく必要がある。この演習では、具体的に面接技法・理学療法の基盤的な検査測定(形態測定・関節可動域測定・筋力測定・感覚検査・反射検査など)を基に、教授、演習し、臨床現場に臨むにあたっての必要な態度、知識、技能を身につけさせる。

授 業 科 目 の 概 要				
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学 科 専 門 科 目 群	理 学 療 法 治 療 学 専 門 科 目	基礎日常生活活動学	基礎日常生活活動学では、人間の日常生活の基本として遂行される食事、排泄、整容、更衣、移動などの代表的な動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、日常生活活動の概念、位置づけを教授する。脳卒中片麻痺、整形外科疾患などを基本にして、Barthel index、FIMなどの日常生活活動の代表的な評価スケールと動作の実用性、自立尺度について教授する。また正常歩行のメカニズムについて、運動学、解剖学、力学を交えて教授する。さらに、杖などの補助具の使用方法について実技を交えて教授する。	
		基礎運動療法学総論	理学療法の治療手段の中で最も重要な運動療法について、基本的知識(運動療法の理論と基本的手技、その効果)を理解し修得する。また、運動療法を行うにあたり運動器系の知識として骨・関節・筋肉・神経系の解剖生理をもとに、姿勢および運動異常の成り立ちとそれらに対する運動療法の効果について教授する。さらに具体的な治療手技や注意事項も実技体験を含め教授する。運動療法の技術として、筋力増強・関節可動域運動・全身調整運動・神経筋再教育等について具体的な手技も教授する。	
		基礎運動療法学各論	理学療法の治療手段の中で重要な運動療法について、基本を理解し知識を修得した上で、応用についてとりあげる。その主なものは、骨関節障害、神経筋障害、呼吸循環障害、代謝障害における運動療法の理論とその基本的手技、その効果について説明する。運動療法の技術として、筋力増強・関節可動域運動・全身調整運動・神経筋再教育等を基に、骨関節障害、神経筋障害、呼吸循環障害、代謝障害やICUにおける運動療法とリスク管理について実例をあげ手技を教授する。	
		物理療法学	医学的リハビリテーションにおける物理療法の位置づけは、リハビリテーション医学の発達と物理学の発展に劣らぬ変化を遂げ一部技術は先端的物理学の分野であることを理解し、物理学で履修した温熱・寒冷・音波・光線・水などの物理エネルギーが人体に及ぼす影響を踏まえ一般効果と特異的効果を把握し、疾患による一般的な適応と禁忌を理解する。また、機器の使用に関する実技を修得するだけでなくリハビリテーション工学に基づく、生体材料や工学機器などの紹介も含め教授する。	
		運動器系理学療法学Ⅰ	運動器系理学療法学Ⅰでは整形外科疾患を中心としてみられる各種運動器の機能障害について、PTプロセスを基本として、カルテや問診などからの情報収集の方法、そして検査・測定をもとに評価した結果から障害像の把握、リスク管理、治療プログラムを立案する方法、そして治療効果を判定するための基本的な評価方法の学修を行う。具体的には炎症評価、関節可動域制限評価、骨格筋短縮評価、筋力低下、疼痛評価、神経障害評価、靭帯・半月板損傷評価について実技を交えて教授する。	
		運動器系理学療法学Ⅱ	運動器系理学療法学Ⅱでは整形外科領域における運動器疾患の病態について解説し、保存療法並びに手術療法に関わる理学療法について教授する。整形外科領域における各種運動器疾患において生じる機能障害(関節可動域制限、筋力低下等)、動作能力の低下(歩行、階段昇降等)について、理学療法評価学総論で学修した内容を踏まえながら、その因果関係と治癒経過などについて教授する。	
		運動器系理学療法学Ⅲ	運動器系理学療法学Ⅲでは運動器系理学療法学での講義内容を踏まえ、整形外科における各種運動器疾患に対する基本的な評価及び治療技術を、実技を主体に教授する。各種運動器疾患に対する基本的治療技術(関節可動域訓練、筋力増強訓練、ストレッチ、物理療法、動作訓練等)の概要とその応用例を教授する。また、治療後の効果判定について、臨床理学療法評価学Ⅰで学修した内容(各種測定機器の使用)を踏まえながら実演・体験を交えながら教授する。	
		神経系理学療法学Ⅰ	神経系理学療法学Ⅰでは神経系疾患の理学療法を行う上で必要となる疾患の知識を、各疾患グループに分け教授する。基礎となる評価方法については各疾患グループに特化し、理論的背景や適応・判断基準を教授するとともに、実際に施行するための実技演習を行い、実践的活用ができるようにする。	
		神経系理学療法学Ⅱ	神経系理学療法学Ⅱでは、中枢神経系と末梢神経系に大別し教授する。中枢神経系では、機能回復のメカニズムや代償運動などを活用し、機能回復の促進や援助、温存機能の利用と代償動作などを学修する。末梢神経系では、遠心性(運動性)神経機能回復の促進や援助技術などを中枢神経系と対比し教授する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
理学療法治療学	神経系理学療法学Ⅲ	神経系理学療法学Ⅲでは、中枢神経系と末梢神経系に大別して教授する。中枢神経系の技術論では、機能回復のメカニズムや代償運動と代償動作等を活用し、機能回復の促進や援助、温存機能の利用と代償動作を利用した治療技術を教授する。また各種訓練機器を応用した治療も教授する。末梢神経系の技術論では、特に遠心性（運動性）神経機能回復の促進や援助技術を中枢神経系の治療と対比し理解させる。	
	内部障害系理学療法学Ⅰ	内部障害系理学療法学Ⅰでは運動や活動に影響する生理維持機能を、呼吸・循環・代謝機能を中心に教授する。PTプロセスを基本として、カルテや問診などからの情報収集の方法、そして検査・測定をもとに評価した結果から障害像の把握、リスク管理、治療プログラムを立案する方法、そして治療効果を判定するための基本的な評価方法を教授する。	
	内部障害系理学療法学Ⅱ	内部障害系理学療法学Ⅱでは、呼吸循環器疾患と糖尿病や高血圧などの生活習慣病に大別して教授する。呼吸循環器疾患では、主に循環器疾患、呼吸器疾患の理学療法プロセス、日常生活動作指導について理学療法プログラムの立案、理学療法の実施、リスク管理（喀痰等の吸引を含む）、再評価などの基礎知識を教授する。生活習慣病では、糖尿病や高血圧などの生活習慣病の理学療法プロセス、日常生活動作指導について理学療法プログラムの立案、理学療法の実施、リスク管理、再評価などの基礎知識を教授する。	
	内部障害系理学療法学Ⅲ	内部障害系理学療法学Ⅲでは、呼吸循環器疾患と糖尿病や高血圧などの生活習慣病に大別して教授する。呼吸循環器疾患では、主に循環器疾患、呼吸器疾患の理学療法プロセス、日常生活動作指導について理学療法プログラムの立案、理学療法の実施、リスク管理、再評価などの技術を教授する。生活習慣病では、糖尿病や高血圧などの生活習慣病の理学療法プロセス、日常生活動作指導について理学療法プログラムの立案、理学療法の実施、リスク管理、再評価などの技術を教授する。	
	発達障害理学療法学	小児リハビリテーションにおける乳幼児の発達を理解し、経年的な個性に応じた援助を効果的に行う為に、正常発達からの歪みや逸脱を実際のスクリーニングで見分けることやより早期に障害を予防し、将来設計の援助を行えるようになるために必要な知識を身につけさせる。また特に小児においては固定した障害の医療要素が過去には強調されているため、一部の治療的技術に偏らずに基本的な治療概念とその技術について教授する。また、家族を含めた環境整備や社会資源の利用などについても教授する。	
	義肢装具学	義肢装具学は工学的技術の医学への応用であり、義肢と装具を大別し義肢は大腿義足・下腿義足を中心に処方とそのチェックアウトを教授する。装具は上肢・下肢・体幹装具に区分し、固定・矯正など目的に応じて分類し教授する。また下肢装具は部位別に大腿・下腿のそれぞれを支柱付・プラスチックの典型的なタイプを教授する。また、プラスチック装具の材質の特徴や最近の工学技術の医学への応用についてのトピックスを紹介する。	
	臨床理学療法治療学実習	臨床実習や理学療法士として社会で活躍するにあたっては、単に疾患の知識をもっているのみではなく、対象者に接する際に取るべき態度や、医療面接や介入方法を正しく行なう技能も身につけておく必要がある。この演習では、具体的に理学療法士としての介入方法（起き上がり動作誘導・立ち上がり動作誘導・歩行動作誘導など）を基に、教授、演習し、臨床現場に臨むにあたっての必要な態度、知識、技能を身につけさせる。	
地域理学療法学	地域リハビリテーションは、障害のある人や高齢障害者が住み慣れたところで、そこに住む人とともに一生安全に生活が送れるように医療や保健、福祉およびそれにかかわる人々がリハビリテーションの立場から行う活動である。講義では、地域リハビリテーションに基づく理学療法による具体的な支援方法やわが国の医療制度・介護保険等の社会保障制度の理解、さらにヘルスプロモーションなどを理解することにより地域ケア現場で望まれる理学療法の理解を深めさせる。特に介護保険制度の理解とそれに基づいた在宅生活を支援する上で必要な訪問理学療法の実践的理解を図る。		

学科専門科目目録
専門科目

授 業 科 目 の 概 要			
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域 理学療法 学	生活環境論	障害のある人や高齢障害者の日常生活には、個人の障害の因子だけでなく周囲の環境因子も影響を及ぼす。本講義では、国際生活分類－国際障害分類改訂版－（ICF）を理解しつつ、現状の障害が地域ケアを行う上でどのような影響を及ぼしているのか、それを解消するために理学療法士としてどのようなことが必要で、どのように実践していけばよいか等について理解させる。生活環境論では、福祉機器展でグループ調査を実施しそれを発表させ、自助具等の福祉機器及びその使用法を理解させる。また、バリアフリーの住宅改修や街づくりについての理解を深めさせ、在宅生活に必要な福祉用具のプランニング※についてのグループ発表を実施する。 ※具体的にはベッド等の介助方法と移乗に関する福祉機器、在宅生活に必要な福祉機器（排泄・移動）、手すりや段差解消等の住宅改善等	
	老年期理学療法	理学療法は対象者の特性に応じて様々な選択肢をもつ介入方法であるが、超高齢社会となった我が国においては高齢者を対象とする機会が益々多くなることが予想される。しかし、高齢者の場合、複数の慢性疾患を有する場合が多いことや必ずしも若年者と同様の介入効果が得られないこと等から、最適な理学療法を提供することは容易ではない。本講義では、このような高齢者の特性をリハビリテーション医学の観点から理解させ、リスク・ベネフィットを考慮した理学療法や、生活の場を考慮した退院支援について修得させることを目的とする。	
総合 領域	理学療法臨床推論概論	個々に応じた理学療法の提供には、病態やそれらによって生じた障害、心身機能、社会的背景などを把握するための理学療法評価過程の理解、修得が不可欠であり、修得度がリハビリテーションの質を左右する。そのため本講義では、理学療法評価過程の理解のために、理学療法プロセスの概念や展開を順序立てて教授し、理学療法における臨床推論を学ぶことを目的とする。この講義を通じて、医療現場において理学療法評価・介入が実際どのように遂行されているかを理解し、評価実習、臨床総合実習の質の向上や、長期目標として「臨床の森ノ宮」の方針の下、臨床現場における即戦力を育成することを目的とする。	
	理学療法臨床推論演習	本演習ではペーパーペイシエントを用いたPBLを主体とする。理学療法臨床推論概論で学修した臨床推論の理解を深めるべく、実際に理学療法プロセスを用いて疾患・障害に応じた理学療法アセスメント・アプローチを想起できるように教授する。また、能動的に患者及び対象者の問題点を抽出や、統合と解釈を実際に経験することで、臨床的思考や自己問題解決能力を培うことを目的とする。加えて、疾患・障害の理解や理学療法介入を遂行する上でのリスク管理などを教授する。	
	総合リハビリテーションIPW演習	チームリハビリテーション概論で学修したリハビリにおける各医療職の役割、専門性をさらに理解し、ペーパーペイシエントを通じて患者に適切なリハビリテーションを提供すべく検討し、包括的なチームアプローチを討論する。また卒前臨床でのチームアプローチを想定した多方面からの連携を、講義及び学生間で討論する中で能動的に感じ、医療人としての心構えやコミュニケーション能力を修得させることで、専門職間連携の在り方を理解させることを目的とする。	
	理学療法特論Ⅰ	本演習では医学・理学療法の基盤となる、解剖学・生理学・病理学・運動学・病態学について教授する。加えて、理学療法士がよく直面する主要な疾患・障害に対する理学療法評価についても教授し、基礎医学と理学療法評価学との関係を修得させる。これにより、理学療法士として臨床で働くために必要な基本知識を体系化し、その後の学修の幹となる部分を形成させることを狙いとする。	
	理学療法特論Ⅱ	本演習では理学療法特論Ⅰで教授した基礎医学、理学療法評価学に加え、主要な疾患・障害に対する理学療法治療学について網羅し、障害を有する患者に対する標準的理学療法の知識体系の形成を強化することを目的とする。対象は小児から高齢者までを含み、神経難病や精神疾患なども範疇に含める。	
	理学療法特論Ⅲ	本演習では理学療法特論Ⅰ・Ⅱで教授した、理学療法学における標準的な理学療法評価及び治療に関する知識をより体系的に広く展開させ、その基盤となる基礎医学との繋がりを意識しつつ、多くの疾患や障害に対する経験的、応用的かつ具体的なリハビリテーションアプローチを創発するための知的技術を修得させることを目的とする。基礎医学として病理学や感染症学も含み、対象は小児から高齢者までを含む。	
	運動器系理学療法セミナー	運動器系理学療法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ運動器系理学療法に関する基本的知識・技術を基に最新のトピックスを扱う。具体的には、画像評価や運動評価に基づく理学療法介入（筋力強化トレーニングやストレッチングなど）の理論的根拠と実践手法を教授する。また、徒手療法や運動療法の効果を科学的に検討することで、現状の理学療法の効果と限界について、文献的な情報を交えて教授する。	

学科専門科目目録

授 業 科 目 の 概 要				
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学科専門科目群	総合領域	神経系理学療法セミナー	神経系理学療法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ神経系理学療法領域に対する一般的な知識を基に、その領域での新しいトピックスを提示しながら、臨床や研究に活かすための実践的な方法を教授する。具体的には、先駆的な実践や介入方法を文献レビューして伝える。また、臨床事例を基にした小グループでの文献レビューを行い、症例についてのグループディスカッションを通じて、理解を深めさせる。	
		内部障害系理学療法セミナー	内部障害系理学療法セミナーでは、呼吸循環器疾患と糖尿病や高血圧などの生活習慣病に大別して教授する。呼吸循環器疾患では、主に循環器疾患、呼吸器疾患の理学療法プロセス、日常生活動作指導について理学療法のプログラム立案、理学療法の実施、リスク管理、再評価などの最新トピックスについて教授する。生活習慣病では、糖尿病や高血圧などの生活習慣病の理学療法プロセス、日常生活動作指導について理学療法のプログラム立案、理学療法の実施、リスク管理、再評価などの最新トピックスについて教授する。	
		地域理学療法セミナー	地域リハビリテーションにおける地域理学療法の役割および目的を理解し、現状と今後の課題について説明させることを目標とする。医療から地域への連携、関連法規、訪問理学療法に必要な医療的知識（医療安全、感染対策）、他職種との連携（各職種の専門性の理解、ケアマネジメント）および在宅における理学療法に必要な技術について教授する。	
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	理学療法は医療・医学に資するものであり、それに従事する者は自己の知識・技術の研鑽を怠ることのないよう生涯学修に臨む姿勢が求められる。そこで卒業研究は大学教育の集大成として、これまで履修してきた内容をもとに、生涯学修の基礎となる科学的思考や未知への探求心の醸成を図り、Evidence Based MedicineあるいはEvidence Based Practiceを生涯にわたり実践するための方法論を身に付けることを目的として実施する。これらを担当指導教官のもと3年、4年次の2年間にわたり学修させる。3年次に行う卒業研究Ⅰでは、研究課題の設定とそれに必要な関連知識の整理・探索方法、ならびに研究課題の解明に必要な方法について指導する。	
		卒業研究Ⅱ	理学療法は医療・医学に資するものであり、それに従事する者は自己の知識・技術の研鑽を怠ることのないよう生涯学修に臨む姿勢が求められる。そこで卒業研究は大学教育の集大成として、これまで履修してきた内容をもとに、生涯学修の基礎となる科学的思考や未知への探求心の醸成を図り、Evidence Based MedicineあるいはEvidence Based Practiceを生涯にわたり実践するための方法論を身に付けることを目的として実施する。これらを担当指導教官のもと3年、4年次の2年間にわたり学修させる。4年次に行う卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰに引き続き、研究課題の設定に関わる指導と並行して、研究課題の解明ならびに研究成果の公表について指導する。	
	臨床実習	臨床見学実習	保健・医療・福祉領域における臨床現場での見学実習を通して、理学療法の対象となる人々の特性を理解させ、専門職、社会人としてのルールやマナーに基づいて行動できるようにさせることを目的とする。理学療法場面の運動療法、物理療法の目的を考え、対象者とのコミュニケーションの取り方についても解説する。さらに、対象者を中心としたリハビリテーションチームの構成についても教授し、理学療法士としての役割を把握させる。	
		検査測定実習	臨床現場での実習を通じて、理学療法実施のプロセスの中で必要となる心身機能、身体構造、活動、参加、個人因子、環境などICFで分類されている項目の検査・測定を実践する機会とする。これまで修得してきた各領域での理学療法の面接・観察および検査・測定を疾患別に対応して、対象者に正確に実践できる技術を修得させる。さらに、得られた検査・測定結果に対して考察を加え、その結果が生活場面にどのように影響するかを予測できるようになることも目的とする。	
		臨床評価実習	臨床評価実習は、専門分野において理学療法評価学と運動療法・物理療法の基本的な手技の履修後3年次に3週間行われる実習である。理学療法プロセスにおいては、情報収集と検査測定を行い治療計画まで行えることを目標とし、臨床において基本的技術の実践を行うための実習である。学生自身においては修得した知識と技術の確認的要素も有り今までの学修方法のフィードバック機能を期待するものである。具体的には、疾患に応じた障害評価を可能にする評価項目の選択と実施、抽出された問題点に対する治療計画の立案と治療実施に対する準備やリスクの確認を含め、疾患と障害の変化を日々確認する実習である。また実習時に記録・経過報告を付加し、評価報告書を1例作成する。	
		地域理学療法実習	地域理学療法実習は、患者及び障がい児・者、高齢者の地域での生活を知るとともに、地域社会での理学療法士の役割及び業務内容、他職種と連携・協力した生活支援を理解するための実習である。また、専門科目において学修した地域包括ケア・地域リハビリテーション、社会保険制度、住宅環境設備などの理解を深め、施設・在宅の生活期に至る幅広い対象者に対して、柔軟に対応できる能力を養わせる目的で実施する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(総合リハビリテーション学部理学療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目群	専門科目 臨床実習	臨床総合実習Ⅰ	臨床総合実習Ⅰは、これまで履修した専門科目を応用し、障害を評価し、立案した治療計画を実行し経過を観察する実習である。担当した症例を通し情報収集・検査測定と評価・問題点の抽出・治療計画立案と実施を実践し理学療法プロセスを経験するだけでなく、実習期間中の経過や変化、理学療法の効果を学修させる目的で実施する。
		臨床総合実習Ⅱ	臨床総合実習Ⅱは、臨床総合実習Ⅰに続く臨床での実践力を向上させるための実習である。臨床総合実習Ⅰで履修した一連の理学療法プロセスを学内でフィードバックし、経験が不十分な項目を反復学修する目的で実施する。実際には、臨床総合実習Ⅰでの未達項目の反復学修と未経験症例の担当を目標とする。一連の理学療法プロセスを実施し、理学療法士の社会的役割や責任についても専門職として修得し一貫した理学療法士の職務を深く理解させる実習である。

授業科目の概要				
(総合リハビリテーション学部作業療法学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	<p>本演習は、新入生が大学生としての役割を身につけることができるように、学生を支援することを目的としている。具体的には、学生を少人数のグループに分けて担当教員に配属し、(1)大学での学修に必要で、かつ高等学校までの教育において習得すべき内容の教育、(2)講義ノートの取り方・教科書の読み方、レポート・論文の書き方や文献の探し方、(3)大学生に求められる一般常識や態度、(4)専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育などについて、ディスカッションを交えて演習を行う。本科目の単位認定者は伊藤 直子である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 小林 貴代・2 伊藤 直子・3 松下 太・4 橋本 弘子・5 由利 裕巳 6 中村 めぐみ・7 中西 一・8 小川 泰弘・9 東 泰弘・10 金森 幸／8回)(共同)</p> <p>専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育などについて、ディスカッションを交えて演習を行う。</p> <p>(11 阿部 秀高／7回)</p> <p>(1)大学での学修に必要で、かつ高等学校までの教育において取得すべき内容の教育、(2)講義ノートの取り方・教科書の読み方、レポート・論文の書き方や文献の探し方、(3)大学生に求められる一般常識や態度について解説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		物理学	<p>物理学は自然現象を素粒子のような小さなものから宇宙のような大きなものまで、統一した概念で説明できるように発展してきた。そのような物理の基礎的概念は自然現象を説明するだけでなく、テレビや携帯電話、コンピュータ、脳の働きの理解にまで応用されている。ここでは、自然現象を定量的に理解するために必要な数学的事項、物体の運動を理解する力学、波の性質、熱力学とエントロピー、電場、電流と磁界、電磁誘導と電磁波、光の性質、相対性理論、原子と原子核などについて、幅広い知識を教授する。</p>	
		生物学	<p>今日生物学の知識は爆発的に増え続け、生命科学の分野だけでなく自然科学全体にも深く関与し、人文科学や社会科学にも影響を与えている。多様化した生物学の分野で、細胞の概念をとらえることは重要である。そのために、細胞とはどういうものであるか、その細胞構造の中に含まれている細胞内小器官はどのような働きをするのか、細胞はその内部や外部に対してどのような情報伝達の仕組みをもっているのか、生殖・発生・分化の仕組みはどのようにになっているのか、などについて教授する。</p>	
		化学	<p>化学は自然界のさまざまな物質の成り立ちや振る舞いを理解する学問である。そのために、原子の構造とその結合、固体、液体、気体などの物質の状態、溶液の性質、化学反応と熱の授受、化学反応の速さと平衡、金属や非金属とその化合物、有機化合物、量子化学の基礎など、幅広い範囲について教授する。</p>	
		情報処理	<p>本演習では、コンピュータを利用する上で必要な基礎知識のほか、レポート作成等に役立つ情報処理技術、すなわちワープロや表計算を中心としたソフトウェアの基礎知識と基本操作の修得させることを目標とする。また、技術の修得のみならず、情報化社会に必要な倫理観を養うため個人情報保護法等についても教授する。なお、コンピュータのオペレーティングシステム（OS）はWindowsを、ソフトウェアはマイクロソフトのWord、Excel等を使用する。</p>	
		統計学	<p>本演習では代表値や相関と回帰を学ぶことで医学データのまとめ方や確率の基礎・分散分析などを理解させる。データと標本調査について解説し、統計学的推定と検定、割合・率・比・リスクについて学んだあと、リスク比、オッズ比、オッズ差の信頼区間へと学修を進める。相関関係と因果関係について学んだあと検定・推定と標本数の関係を理解することで、研究の妥当性、コントロールの必要性、治療の効果、疫学研究から因果関係を調べるための考え方を教授する。</p>	

授業科目の概要				
(総合リハビリテーション学部作業療法学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養科目群	人間理解と社会	心理学	心理学を学ぶことで心の仕組みと働き、さらには人間理解を深め、多方面で激動する現代社会の中で、先見性と方向性をもった活動をするための礎を確立させることを目指す。心理学の基礎的な理論や概念を教授し、さらにそれを実証するための研究法も教授する。また認知心理学分野、学修心理学分野、カウンセリング、ストレス、犯罪心理、家族心理、社会心理などについて学修させ、患者心理に向き合い医療従事者として必要な、こころのケアについても具体的に教授する。	
		生命倫理学	脳死や安楽死など、現代医療の進歩は、これまで人類が直面したことのない問題を新たに生み出すようになっている。医療現場でも救急医療では、死に直面する機会にも遭遇する。本講義では、そうした生命倫理の様々な問題を考察しながら、同時に「私達にとって生きるといふことはどういうことか」を考えさせる。生命倫理の問題は、当事者になって初めて意識するというものではなく、現代人のすべてにそうした生への問いを投げ掛けているということを概説する。	
		哲学	哲学の基礎として、「世界、人間、神」について哲学的に考えることを解説する。著名な哲学者らが、それらについてどのように考えてきたかを考察させ、それらへの理解を哲学的に深めるとともに、彼らにある根本や全体から考えるといった哲学的思考方法の基礎を学び、次に東洋哲学と西洋哲学の特色を教授する。	
		社会福祉学	社会福祉の発達を社会環境の歴史的变化との関連で捉え、社会福祉諸法の概要をその成立根拠を踏まえながら解説する。また、わが国の社会福祉の特徴や問題点、福祉サービスの現状を解説すると同時にその活用法について実生活との関わりの中で理解させる。さらに、少子高齢化の進展をはじめ社会福祉を取り巻く環境が近年大きく変化するなかで、今後の社会変動と社会福祉制度・活動の動向について教授する。福祉の動向・課題について関心を持ち、自らの考えを持ち行動する態度を養うため、新聞記事等から事例を示し考察させる。	
		日本国憲法	法を学ぶということは、単に法技術を修得することではなく、法を解釈することを通して客観的・論理的に思考する能力を養うことである。本講義においては、過去の歴史的背景や出来事を含めて、われわれの周りに起こる出来事を取り上げ、憲法がわれわれにとって非常に身近であることを認識させる。さらに、障害者や母子家庭、父子家庭のこどもたちなど社会的弱者の問題を含めた、さまざまな社会問題を、人権保障の観点から包括的に考察させる。	
		東洋史概説	文献や近年の考古学の成果などを踏まえ、時間的視点・空間的視点でその地域をとらえながら、東アジア世界が果たした役割を歴史的観点から考察させる。また、本講義においては、「医学の歴史」の観点からアプローチを行い、東洋医学の背景にある文化や思想について理解する。そして、東洋医学に対して中国医学がどのように影響を与えたかについて考察させる。	
		西洋史概説	本講義では、西洋史における民族社会の形成や文化の歴史的発展を考察し、その基本的問題や特性を理解させる。また、西洋の歴史を古代文明から継承されたいくつかの要素を基に掘り起こし、民族社会の形成と発展、キリスト教文化圏や国家の形成等に焦点を当て解説する。なお、本講義においては、西洋における「医」の考え方や歴史的展開等について時間軸に沿った変化を考察させる。	

授業科目の概要 (総合リハビリテーション学部作業療法学科)		講義等の内容	
科目	授業科目の名称		備考
教養科目群	英語 I (初級)	英語Iでは、単語・熟語・慣用語の知識を含む語彙力や、文意を正確につかむ文法力を養い、日常生活で目にするようなレベルの会話文を含む、英文を読んで理解する力を修得させることを目的とする。また、未知語の推測や背景知識、文化的背景の違いに関する知識などを活用して、文章の概要や要点を速く正確に読み取る技術や読解力を養わせる。医療用語を含めた文章中のキーワードを頼りにして速読を行い、書き手の意図を速く正確に捉える読解力を養わせる。	
	英語 II (中級)	英語IIでは、英語Iで獲得した英文読解の知識や技術をさらに発展させることを目的とする。さまざまな分野の英文を多量に読むことにより、中級から上級のレベルの英文を速く読んで正確に理解できる力を養う。パラグラフの構成や展開に注意して要点を把握するなど、英文読解に必要な技術にも触れながら、速読・多読の演習を行い、重要な情報を正確につかむ読解力を養わせる。速読によって得た情報をもとに議論をし、文章作成能力の基礎を養わせる。	
	英会話	英会話では、日常生活で用いられる定型的・慣用的な表現について解説し、その表現を自由に使えるような基礎的なコミュニケーション能力の養成を目的とする。日常生活で自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解する力を養うだけでなく、日常の話題について基本的な英語表現を用いて自由に表現できる能力の獲得を目指す。対話における受け答えだけでなく、自らも問いかけができるような、会話を発展させる能力をも養い、十分な自己表現ができることを目指す。	
	医学英語	医療従事者に必要な英語のコミュニケーション能力を身につけるため (1) コミュニケーションの構成要素について学修し、(2) 臨床現場で患者の主訴等の発話を正確に理解したり、英語でしかコミュニケーションのとれない患者に対して検査や採血などの行為を行うケースを想定し、具体的に教授する。また患者説明時に、患者の誤解を招かぬように指示を伝えるために必要となる、的確な表現や語彙の選択能力を日本語・英語の相違点を踏まえて解説する。	
	基礎英語演習	基礎英語演習では、基礎的な日常会話コミュニケーション能力の向上に焦点を当てながら、総合的な英語運用能力を培うことを目的とする。そのような運用能力を修得するために、(1) 日常的な場面で使われる英語の語彙・熟語・構文・文法を確認し理解を深め、(2) 実際の会話文のモデルパターンを数多く理解し、またそれらの暗記を実践し、(3) 様々な題材を読んだり、聴いたりすることにより正確に要点を捉える能力を育成する。英語のコミュニケーション能力の評価基準となるTOEIC で450点 (以上) に相当する英語運用能力修得を目標とする。	
	応用英語演習	応用英語演習では、基礎英語演習で獲得した総合的な英語運用能力をさらに発展させることを目的とする。基礎英語演習で修得した語彙力・文法力・リスニング力・読解力を総合的に定着させ、日常の様々な場面において、その状況や文脈を理解し、自ら情報を発信することができる、レベルアップした英語運用能力の獲得を目指す。英語のコミュニケーション能力の評価基準となるTOEIC で500点 (以上) に相当する英語運用能力修得を目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (総合リハビリテーション学部作業療法学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目群	保健医療	MBS (Morinomiya Basic Seminar)	本授業は、大学生としての学修や生活をスムーズにスタートできるよう、教育課程（カリキュラム）及びその履修方法、学生生活のルール等について概説する。また、本学園の歴史、建学の精神の意味、ディプロマポリシー等についても教授し、医療の歴史及び医療の現在と未来、ひいては医療全般への理解と興味を深めさせることで、医療を学ぶ大学生としてふさわしい「学び方」や「スキル」を養うと共に医療従事者としての意識醸成を図ることを目標とする。
		チーム医療見学実習	医療の実践現場である病院等の施設において“医療従事者の1日”に密着体験することによって医療職への理解を深めさせるとともに、個々の学生が目指す専門職の役割やチーム医療を構成する様々な専門職との関係について学ばせる。また、インター・プロフェッショナル・エデュケーションの視点から、医療における多職種連携の重要性及びチーム医療の実践についても教授する。
		医療コミュニケーション	医療現場において、医療の専門性を発揮し、患者に適切な医療を行うためには患者とのコミュニケーションは欠かすことができない。また、他の医療従事者と連携をして患者の治療にあたることが求められるが、コミュニケーションは連携のための重要な手段の1つである。本講義では、患者や医療従事者とコミュニケーションをとるために必要な知識、技術を教授する。
		チーム医療論	自学科以外の職種について理解と関連性を学び、医療の質の向上、患者中心の医療安全を実践できる医療人としての心構えを教授する。併せて他職種の特性や内容について学び、体験することで、医療従事者間ならびに患者との間に生じる考え方のギャップを理解し、コミュニケーションに生かすことができるパーソナリティを身につけることを目標とし、3年次前期に開講するIPW論への礎とする。
		IPW論	本学が有する鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科、臨床工学科と診療放射線学科の7学科において各分野に共通する症状、障害、危機管理、診療計画などをテーマにチームアプローチの実践について教授する。実際の症例を想定し、各学科の専門性を基に“専門職間連携”の理念を実現するための方法について討議させる。その際、他者の意見を聞き自らの意見を明確に伝える能力を修得させるとともに、当事者主体の原理に立ったアプローチ方法を検討させる。
		基礎体育	スポーツ（運動）を実施する目的は、健康増進、筋力・持久力向上、ダイエット等、実施する個人によって多種多様である。本演習では、多種多様なスポーツ・運動種目を用意し、目的に応じた効果的トレーニング方法の理論と実際を、スポーツ（運動）の実践を通じて学べる授業プログラムを提供する。その中で、体力のレベルアップや身体動作の向上を図る。また、スポーツの実践を通じて、学生同士の心の交流や人間関係を育み、生涯にわたり楽しく、計画的にスポーツ（運動）を実践する習慣を育成することも本演習の大きな狙いである。
健康科学（スポーツ社会学を含む）	健康に対する意識が高まり、健康食品や健康器具などがブームとなっている近年、マスメディアを通じて流されているダイエットや運動に関する情報には、科学的根拠が乏しいものも少なくない。本講義では、日本人の生活習慣や食生活の変化、および健康維持に不可欠な知識を教授する。さらに生活習慣病、地域社会における健康維持、増進に関わる取り組みや考え方、健康管理に関する科学的根拠に基づいた専門的な知識の修得を目指す。		

授業科目の概要		講義等の内容	備考	
科目	授業科目の名称			
共通科目群	保健医療	健康管理学Ⅰ	本講義では、運動不足の健康への影響を学び、目的に応じた効果的なトレーニング法の原理・原則を教授する。特に、有酸素運動の健康上の必要性を解説し、運動処方条件（強度・時間・頻度）に関する知識を養う。また、運動強度の指標を理解し、健康づくりのための運動所要量の算出法や、ウォーミング・アップおよび、クール・ダウンを含めた、運動処方プログラムの構成についても解説する。さらに、食生活と疾病の関係、特に肥満や生活習慣病との関係および健康生活を確立するための食生活の重要性を理解するとともに、肥満に関する正しい知識を身につけ適正な減量の方法を解説する。また、講義だけでなく実際の調査およびエネルギー代謝測定を通じて、栄養素の種類とその機能、栄養の消化・吸収、日本人の栄養所要量、日常生活のエネルギー代謝および消費量、タンパク質等栄養所要量を算出するための方法論の基礎と実際を教授する。	
		健康管理学Ⅱ	近年、生活習慣病の危険因子が次第に明らかにされつつある。危険因子を多く有する人は疾病に罹患する確率も高くなることから、現代社会では、日常生活においていかに健康管理を行うかについての関心が高まっている。本講義では、疾病構造の変化と体力・運動不足の関連性、健康診断（メディカルチェック）に関する基本的な考え方、および健康度の一つの尺度となる体力について、理解を深めさせると同時に、第一予防の視点に立って運動が健康づくり、特に生活習慣病予防に役立つ根拠について教授する。また、個人および集団の健康の現状を把握し、人間の健康を疾病から予防し、維持・増進するための理論や具体的な方法についても解説する。	
		栄養学	栄養は生物が増殖、成長、活動するために外界から必要な物質を取り込み、生命を維持していく現象を指す。ここでは医療人として必要な知識である、栄養と生命活動に焦点を絞った内容を教授する。それらは食生活と疾病の関連、摂取した栄養素の体内での働き、植物の消化と栄養素の吸収、エネルギー代謝、脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルの代謝、遺伝子発現と栄養の関係、人間の成長発達と栄養所要量ならびに栄養状態の判定等で構成する。	
		身体運動科学	本講義では、競技スポーツ、健康運動、運動療法、日常生活活動、労働などの身体活動に対する生体の一時的変化や適応現象のメカニズムについて教授する。また身体活動の生理学的基礎と、健康、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのトレーニング方法について解説する。さらに栄養学的な見地から、運動時の筋力増強や、心肺機能を増強させるために効果的な栄養素やその補給方法などを交えて、栄養と運動の関連性についても教授する。	
		東洋医療概論	東アジアで発祥し発展した診断治療体系である東洋医学は、近年エビデンスの検証が進むにつれて批判的吟味と見直しが行われ、有効性と安全性が示されたものについては現代医療の中で応用する試みがなされるようになってきた。東洋医学は心と身体の調和を重視しており、その考え方や具体的な手法を学ぶことは、健康増進だけでなく健康回復の過程においても充実した生活と人生観を取り戻す一助になると考えられる。この授業では、東洋で発祥し伝承されてきた各種治療体系の概要・生命観・具体的手法を知り、患者や高齢者にどのように臨床応用していけばよいか考える機会を与える。この授業では特に理論と体系の基本を教授する。	
		統合医療概論	現代医学と伝統医学、あるいはBody・Mind・Spiritの視点のいずれも重視しながら患者を包括的にケアすることを目指す統合医療の概念を教授する。まず、今日の医療に必要なEBMの概念と治療法の批判的吟味の仕方について理解させ、次に統合医療の定義、従来の医療や補完代替医療との違い、統合医療の普及状況、現代における統合医療の必要性について解説する。また、各論として統合医療を構成する個々の主要な補完代替療法についても概観し、それを実際に臨床応用している医療機関の実践手法を解説する。統合医療の良い点だけでなく問題点も指摘し、各医療職種が統合医療の概念を取り入れて向かうべき方向性について教授する。 本科目の単位認定者は山下 仁である。 (オムニバス方式／全15回) (17 山下 仁／10回) 医療におけるエビデンスの重要性、EBMの概要と実践例、代替医療研究における倫理、代替医療概論、代替医療の主な診断治療体系の特徴、統合医療の概念と現状、および統合医療の理解と応用について解説する。 (18 森 美侑紀／2回) 代替医療における代表的な手法の一例としてアロマセラピーの概要と実際について解説および実演をする。 (31 増山 祥子／3回) 研究デザイン、有効性検証のための臨床試験、手技療法の概要と実際について解説および実演をする。	オムニバス方式

授業科目の概要		(総合リハビリテーション学部作業療法学科)	
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 専 門 科 目 群 専 門 基 礎 科 目 人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	人体の構造演習Ⅰでは、運動器系総論と体幹(頭蓋・脊柱・胸郭)の骨とその連結、および筋について教授する。総論では、骨・骨の連結・筋の各々についての分類や構造などについて教授する。また、体幹の運動器では、各骨や各関節の部位、構造、形態的特徴などを、講義のみならず骨模型実習を通して教授する。筋については、各筋の起始、停止、支配神経、作用などを教授する。これらの理解を通じて、骨と筋が運動器としてどのような連携しているか考える、また運動時に重要な役割を果たしている関節や靭帯の形態と機能についても理解を深めさせる。	
	人体の構造演習Ⅱ(運動器)	人体の構造演習Ⅱでは、四肢(上肢と下肢)の骨とその連結、および筋を学修する。骨とその連結では、各骨や各関節の部位、構造、形態的特徴などを、講義のみならず骨模型実習を通して教授する。筋については、各筋の起始、停止、支配神経、作用などを教授する。これらの理解を通じて、骨と筋が運動器としてどのような連携しているか考える、また運動時に重要な役割を果たしている関節や靭帯の形態と機能についても理解を深めさせる。	
	人体の構造Ⅰ(神経系)	人体の構造Ⅰでは神経系の基本的構造について教授する。神経系は末梢神経系と中枢神経系から構成される。末梢神経系は感覚器により得られた外界の情報を中枢神経系に送り、また中枢神経系で処理・統合された命令を効果器に伝える神経系である。中枢神経系は末梢神経系からの感覚情報を整理するとともに、中枢神経系内に蓄積されている情報を統合して最終的な命令を効果器に出力する。これら神経系の構成要素の基本的構造を修得させ、体内での情報伝達機構の精緻さと生命維持における重要性の理解を目指す。	
	人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	人体の構造Ⅱでは、循環・内臓系の基本的構造について教授する。循環・内臓系は人体の恒常性維持、すなわち生命維持において重要な機能を有する臓器を包含している。循環系と内臓系の構成要素の体内での相互位置関係や、臓器一つ一つの構造を学修することにより、ヒト一個体での「システム」としての連携した形態と機能の理解に繋がる知識を修得する。単なる部位名称の暗記に留まらず、機能を含めた臨床に繋がる有機的な循環・内臓系の理解を目指す。	
	人体の構造実習	人体の構造実習では、一年次に学修した「人体の構造」と「人体の機能」の知識を基盤に、人体を構成する様々な器官・臓器の正常な組織構造について、光学顕微鏡観察を通じてより深く解説する。人体の構造的機能的最小単位である「細胞」には様々な形態を有しているものがある。器官や臓器は「細胞」が一定の秩序に従って配列し構成されており、それらが連携して機能を営んでいることを「顕微鏡観察」を通じて実感し理解を深める。この実習を通じて、「形態」と「機能」との関連性を考察する能力を高めることを目指す。	
	人体の機能Ⅰ(動物性機能)	人体の機能Ⅰでは、神経系の機能について解説する。生理学の意義、細胞の一般に続き、神経と筋の機能、神経系の解剖を概説し、反射を中心とした脊髄や脳幹の機能、小脳、大脳基底核、大脳皮質による運動の調節について解説する。また、体性感覚、特殊感覚の受容器レベルでの特性及び中枢での情報処理について解説し、感覚が運動の調節にも関わることを解説する。また、感覚や運動の情報が、学修により記憶に変換される過程や、情動や動機づけを含めた統合機能についても解説する。最後に、自律機能についても解説する。	
	人体の機能Ⅱ(植物性機能)	人体の機能Ⅱでは、主として生命維持に必要な各臓器の機能について解説する。呼吸、循環、消化について解説した後、運動機能との関連について概説する。また、排泄、循環、体温などの機能について解説し、内分泌系の機能を自律神経との関連も含めながら解説する。さらに、植物性機能の多くが生体に外乱が加わっても生体の内部状態を一定に保つフィードバック機構を備え、外乱に対して予測的に内部状態を制御することを解説する。最後に、生命維持機能の解明がホメオスタシス維持機構の解明に他ならないことを解説する。	
	基礎運動学	身体運動の評価・治療技術に必要な運動学に対して、骨学、筋学、関節学、神経学など運動器と感覚器の構造と機能、力学、運動の法則、運動の中枢制御、栄養とエネルギー代謝などの基礎を踏まえ、骨の構造と運動、関節構造と運動、筋の力学的特性、神経機構と運動・姿勢制御など、四肢・体幹における運動、動作、姿勢の分析、運動の発達、運動学習など身体運動の理解と治療技術に対する基礎知識を解説する。そして、運動、動作、姿勢を観察・分析した結果に対し、専門用語を用いて表現できることを目的とする。	
臨床運動学	骨関節障害、神経筋障害、中枢神経障害、呼吸循環障害などにより引き起こされる異常運動を、自然科学(解剖学・力学・運動生理学・神経生理学など)と人文・社会科学(心理学やコミュニケーションなど)の観点から理解する、いわゆる病態運動学を教授する。その運動機能を分析するため、過去から現在の最新の測定機器までを理解させる。また、運動機能障害に対し、基本的な理学療法や作業療法と関連付け、検査・測定・評価法の選択、理学療法計画の立案、理学療法手技の選択、理学療法効果判定について自立し判断できることを目標とする。		

授業科目の概要		要	
(総合リハビリテーション学部作業療法学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目群 専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの全体像を教授し、全体の中での作業療法のあり方を理解することを目標とする。その主な指導内容は、リハビリテーションの概念、理念、歴史、リハビリテーションの対象となる障害、障害の意味（国際障害分類および国際生活機能分類による）、障害者の種別や人数、心理、障害者に対する自立支援・就労支援、リハビリテーションチームの構成、リハビリテーションの関係施設（病院リハ、高齢者入所施設リハ、通所リハ、訪問リハ等）、地域包括ケアシステム及び多職種連携、リハビリテーションの諸制度と関係法規及び行政に関することである。	
	公衆衛生学	個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、公衆衛生学は社会水準で健康を取り扱うので社会医学とも呼ばれる。その範囲は多岐にわたり、健康に影響をおよぼす様々なリスクを同定し、予防活動に結びつける学問である。本講義では「社会に役立つ公衆衛生」を基本として、公衆衛生学の理論、衛生統計、衛生行政、食品保健、成人・老人保健、母子保健、産業保健、精神保健などについて教授する。さらに、健康との関連からヘルスプロモーションに関する考え方も教授する。	
	生化学	生化学では、①「生命の維持と仕事」細胞・エネルギー・熱・pHなどの基本的な事について ②「栄養素」（糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・電解質・水・核酸）についてとそれらの代謝 ③「酵素による代謝」体内の代謝のほとんどは酵素反応である ④「血液による恒常性」栄養素の運搬・ホルモンの運搬・血液ガス老廃物の運搬・熱の運搬・pHと浸透圧について ⑤「血液と免疫」血液の組成と働きのメカニズム ⑥「臓器の生化学」肝臓・膵臓・胃・小腸・腎臓・神経・筋肉などの代謝の特異性について教授する。また、栄養素が細胞・臓器を構成し、その臓器の中をどの様に流れて行き、どの様にコントロールされているか（ホルモンと神経）を教授する。	
	病理学	病理学は疾病に関する基本的概念を扱うことから、医療に従事する者にとっては欠くことの出来ない学問である。したがって本講義では、まず病理学の意義ならびに病態を捉えるための病理学的手法について教授する。次いで人の疾病を理解するための基礎となる発生機序、経過、予後などの疾病の成り立ちについて解説する。また、これらの知識を基礎として、様々な臓器や組織に共通してみられる病変である退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、免疫異常、腫瘍、先天性異常などについて、総括的に教授する。	
	臨床病態学Ⅰ	よき医療人になる上で必要不可欠な内科学について講義する。診断学・症候学を理解し、医療の現場で応用できるようにする。診断学・症候学では人体の解剖学的構造・生理機能などを考慮し、系統的に理解させる。また循環・呼吸・消化・肝胆膵の各種疾患について臓器別に講義を行い、その病態メカニズムを把握し、症状を論理的に説明でき、同時に治療の合理性を理解させる。必要に応じて疾患に必要な外科的処置、周術期管理についても講義する。さらに臓器のつながりを考慮し、各種疾患の関連を系統的に講義する。	
	臨床病態学Ⅱ	消化器、泌尿器、免疫系、神経・筋疾患、感染症などの代表的な疾患を取り上げる。また、加齢に伴う様々な生理学的変化により、これらの疾患を合併・併発しやすい老年期の特徴についても概説する。各疾患について、成因と病態生理について理解し定義、症状、検査法、診断・鑑別診断、経過と予後、治療方法、薬理について教授する。治療方法には外科的処置、周術期管理も含む。また、臨床病態学Ⅰで学修した分野の疾患も含め、各種内科疾患についての知識を整理すると共に症候から鑑別診断・確定診断へと至る思考のプロセスについて教授する。	

授業科目の概要		講義等の内容	備考
科目	授業科目の名称		
学 科 専 門 科 目 群 専 門 基 礎 科 目 疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	臨床病態学Ⅲ	作業療法士が関与する機会の多い脳神経外科、神経内科、老年医学について代表的な疾患を取り上げ講義する。各疾患について、成因と病態生理について理解し定義、症状、検査法、診断・鑑別診断、経過と予後、治療方法について学修すると同時に治療の合理性を理解させる。また医療人として欠かすことのできないBLSについても講義する。作業療法士が業務を遂行する際のリスク管理の一環として、救命救急についても触れる。本科目の単位認定者は前川 佳敬である。 （オムニバス方式／全15回） （23 前川 佳敬／6回） 老年期医療、神経内科学疾患の特徴について講義する。 （24 松崎 伸介／7回） 脳神経外科疾患の特徴について講義する。 （25 吉岡 敏治／2回） 医療従事者に必要な救急医療について、BLSを中心に実践ならびに講義を行う。	オムニバス方式
	整形外科学	整形外科学では、運動器の疾患について解説し、運動器の基礎、診断、治療、外傷、感染症、腫瘍、関節リウマチと類縁疾患、変性疾患、炎症性疾患、先天性疾患などについて教授する。また、上肢、下肢、脊柱に分かれた運動器別の疾患について解説し、日々の臨床で遭遇する様々な疾患の理解と臨機応変に対応できる知識を修得するのが目的である。さらに、スポーツに関連した事項についても教授し、スポーツに関連した治療にも対応できるようにする。	
	小児科学（人間発達学）	医療者や保護者を含めて我々大人は、子ども達が病気でないだけでなく、健やかに育ち社会の一員となってくれることを願っている。子ども達は、生物学的にヒトとしての一定の「発達の過程」を経る一方で、身体もこころも自然・社会・文化から様々な影響を受けて、時には大きなダメージを受けることもあるし、生まれた時にすでに病気や障害をもっていることもあり、一人一人個別で尊重すべき「発達の歴史」を有する。人間発達学では、新生児からの成長発達過程及び子どもをとりまく環境や保健について学びながら、人がいかにしてヒトから人間へと変化していくのか、生涯を通じての発達とは何かについて考えさせる。	
	精神医学	精神医学では、精神症状の把握・評価、検査、薬物療法を中心とした身体的治療、精神療法（心理社会的治療）、精神障害の成因論と、身体により基礎付けられた精神障害から心理的側面の強い精神障害に至るまでの疾患について理解を深めることを目標とする。そのため、頻度の高い精神障害の診断と対応、身体疾患と精神障害との関係を修得する。また、児童期から老年期までのライフステージ各段階における精神障害についても教授する。	
	精神医学各論	精神医学各論では、（内因性）精神病（統合失調症、気分障害など）、脳器質性精神疾患（てんかん性精神病、認知症など）、心因性精神疾患、人格障害、発達障害（注意欠陥/多動性障害、広汎性発達障害など）などの代表的な障害をとりあげ、Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (DSM-V) による定義、精神症状などの特徴、成因、治療方法などについて講義する。そしてより臨床に即した知識へと発展できるように教授する。	
	臨床心理学	臨床心理学では、個人が抱えている心の問題、行動上の食い違い、人間関係の問題などを心理学的な知識と技術を用いて、適応的な方向にもっていくための心理学の方法や理論について教授する。心理学的な問題にはどのようなものがあるのか、心理アセスメント、臨床心理の理論と技法、心理的援助の技法などを中心に取り扱い、事例を通して臨床家として望ましい治療援助のあり方をクライアント中心の立場から理解できるように教授する。	
	リハビリテーション医学 （画像診断・予防・栄養含む）	リハビリテーション医学は高次脳機能障害を伴う疾患、もしくは肢体不自由を主症状とする疾患を対象とする医学の一分野であり、医学的リハビリテーションと同一のものではない。授業においてはまず両者の違いを十分理解させ、その上に立ってリハビリテーション医学の歴史、医師の立場から見たリハビリテーションの概念、画像診断を含めた診断法、治療法、他の医学分野（ことに整形外科学、脳神経外科学、神経内科学など）との関連性について教授する。また、治療法のひとつとして、クライアントの目標達成を左右するリハビリテーション栄養についても触れる。さらには、リハビリテーションの視点から、第1次、2次、3次予防の概念と具体的な方法について教授する。	

授業科目の概要		講義等の内容	備考
科目	授業科目の名称		
学科専門科目群 専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医療関係法規論	作業療法士に直接間接を問わず関連のある法律ならびに行政について理解させる。その主な内容は、理学療法士作業療法士法、医療法（病院）、医師法ほか医療関係者関連法の概要、社会福祉関連法（特に身体障害者福祉法および老人福祉法）と行政、介護保険法と行政、老人保健法と行政、障害者総合支援法等のほか、医療における作業療法関係の診療保険点数ならびに介護保険点数についても言及し、作業療法士の法的な位置づけについての知識を教授する。	
	チームリハビリテーション概論	近年、社会・医療現場におけるリハビリテーションのニーズが高まる中、QOLの向上、質の高いリハビリテーションの提供には、各専門職の役割・専門性を理解し、共通の目標に向け互いに専門性を活かし合いながら協働・連携することが不可欠である。そのため本講義では、チームリハビリテーションの概念や重要性、リハビリテーション専門職である作業療法士・理学療法士・言語聴覚士の役割・専門性を理解、学修し、社会・医療現場での多職種連携を卒前より想起できるよう教授する。本科目の単位認定者は未定である。 （オムニバス方式／全15回） （26 堀 竜次／2回） 嚥下機能と姿勢調整についてや嚥下に関わる解剖学と生理学および誤嚥性肺炎予防のアプローチについて教授する。 （4 橋本 弘子・10 金森 幸／5回）（共同） 芸術療法（ダンスセラピー、アートセラピーなど）の体験を通じて自身や他者に表れた身体的・精神的効果を実感し、その効果がなぜ表れるのかを脳機能からも理解し、芸術療法がどのようにリハビリテーションに生かされるのかについて教授する。 （27 金尾 顕郎／5回） リハビリテーションにおける作業療法と理学療法の位置づけや、理学療法についての概略を教授する。 （51 渋谷 静英・52 戸名久美子／3回）（共同） 言語・高次脳機能障害におけるコミュニケーション障害の内容と評価・訓練方法について教授する。	オムニバス方式・共同（一部）
	介護学概論・ボランティア活動論	介護学概論：介護（ケア）は、病气や障害、老いのための体身上又は精神上の障害により日常生活を営むことに支障が出てきた者の生活の質を高め、自己実現を図るために援助することである。具体的には日常生活を営むことが困難な者に専門的な知識及び技術をもって、入浴、排泄、食事その他必要な世話をし、その人らしく生きることを支援することである。介護学概論では、介護の意義と障害のある人や高齢者における介護の役割を理解させ、介護に関する基礎的な知識と技術を身につさせる。特に介護に必要な福祉機器と介護保険や自立支援法等の社会保障制度上の介護について深めさせる。 ボランティア活動論：ボランティアは、自発性に裏付けられた主体的な活動であり、現代社会において介護保険をはじめ社会保障制度の整備が進む中での、制度の狭間にある問題点を少しでも埋めようとする相互扶助による活動である。講義では、医療・福祉・保健現場をはじめ、在宅で障害のある方や高齢者が自立して暮らせるための活動および障害児支援活動など様々なボランティア活動について考察させると共に、日本の医療・保健・福祉行政との連携について考察させる。そして、人間的にも幅の広い作業療法士の育成を図る。	
	スポーツ医学	スポーツ医学とは、スポーツ活動による生体の一時的、持続的な反応について医学的な面から考究する学問と考えられる。したがって、その対象範囲は広範に及ぶが、ここでは、将来必要とされるであろう（1）スポーツ外傷・障害の予防と処置、（2）スポーツ復帰のためのリハビリテーション、に主眼を置き解説する。また、“ヒトの進化とスポーツ医学”といった面から人体の有利な点、不利な点を論じ、なぜその部位にスポーツ傷害（外傷・障害）が頻発しやすいのかについても教授する。	

授業科目の概要		講義等の内容	備考	
科目	授業科目の名称			
学科専門科目群	基礎作業療法学	基礎作業学	作業療法の治療場面で活用される、あらゆる作業活動について学ぶことは、作業療法士となるために重要である。本授業は、作業療法の基礎となる作業活動についての実践を通し作業療法の学びを深めさせることを目的としている。作業療法の治療場面において用いる作業について、まず実践させる。そして、その作業活動について分析させ、作業療法治療計画の基礎を学ぶ機会を提供する。具体的には、手工芸の実践、作業活動の工程分析、作業療法理論を基盤とした、作業活動を治療として活用するための様々な理論の理解と演習などが挙げられる。	
		作業科学入門	作業を分析して利用、提供していくことは作業療法の核である。中でも大切なことは、対象者が必要とする作業が、それを行う個人にとってどのような意味を持ち、どの程度ニーズに沿ったものであるのかということである。対象者をひとりの生活者として捉え、その人の立場にたった援助が行えるよう作業の概念を構築する。また、実際の作業場面を通して、その人らしさや作業ニーズをとらえる技術を教授する。 本科目の単位認定者は由利 緑巳である。 （オムニバス方式／全15回） （5 由利 緑巳／7回） 作業療法評価および介入の核となる作業について、より深く分析（作業の形態、作業の意味、作業の機能）できるようにする。加えて、作業の歴史を振り返ることの重要性を知り、作業的存在の意味を考察できるようにする。 （4 橋本 弘子・8 小川 泰弘／8回）（共同） 人が日々の生活へ参加・従事することは、毎日の生活における満足感や健康を達成する可能性を担っている。そこでまず自身の生活を振り返り、その日常生活についてどのような環境のもと活動参加が可能になっているかを分析的に捉え、満足感や達成感に与える影響は何かを考察する。さらに他者に対しても同様に分析し考察できるようにする。	オムニバス方式・共同（一部）
		作業療法概論	世界と日本の作業療法の歴史を学び、作業療法が本来、すべての人の健康と幸福に貢献するリハビリテーションの専門職であることを教授する。さらに、作業療法がすべての人に必要不可欠であることも解説する。日本や大阪における身体障害、精神障害、発達障害、高齢期障害領域の先人の功績を知る機会を通じて、自分たちがどのような作業療法士になりたいのか、自らイメージできるように、自分自身で調べ、創造する姿勢を身につけさせる。市民として地域に貢献できる作業療法士のキャリアデザインを行い、自分の人生における作業療法を構築させることを目的とする。	
	作業療法管理学	職場管理（教育を含む）	チーム医療に携わる一員として、そしてリハビリテーション科のチームの一員として必要になるリーダーシップ、フォロワーシップ、マネジメント、教育・人材育成、コミュニケーション、キャリアデザインについて教授する。具体的には、安全管理、施設運営、スタッフ教育、多職種連携、診療報酬算定を中心に修得させる。また、クライアントのリハビリテーション目標を達成するため、環境や人的資源の活かし方についても教授する。本講義を通して、臨床で必要となる自身のキャリア形成の基盤をつくることを重要視している。	
		職業倫理	リハビリテーション部門におけるスタッフの増加に伴い、働く価値観が多様化している。作業療法士の対象は、主に人であり、1次予防対象の地域住民から施設入居者まで広範囲に及ぶ。知識・技術の修得を基盤に、人間性を磨き、効率よく、効果的なリハビリテーションを実施するために、保健・医療・福祉の専門職として必要となる職業倫理を修得しなければならない。特に、（社）日本作業療法士協会が掲げる作業療法士としての職業倫理の要綱については詳細に教授する。また、命令倫理と理想追求倫理を心得、専門的な行動の範囲内で、相手の健康と福祉に寄与し、相手を利己的に利用せず、一人ひとりを人間として尊重し、秘密を保持し、インフォームド・コンセントと自己決定権を尊重し、社会的な正義と公正・平等の精神を具現することを繰り返し教授する。	

授業科目の概要		講義等の内容	備考
科目	授業科目の名称		
学 科 専 門 科 目 目 録 専 門 科 目 作 業 療 法 評 価 学	作業療法評価学総論	<p>対象者に作業療法を実施するには、対象者の生活上の困り事と必要な作業ニーズを把握する必要がある。そして、対象者の心身機能と対象者を取りまく環境、必要とする作業の3つの側面と治療計画が適切に関係づけられなければならない。そのためには評価が重要になる。評価は、作業ニーズの把握、作業の観察、検査測定から得た情報を整理・分析・解釈することで対象者の全体像を把握し、問題点と強みを明らかにして作業療法での対応課題を導き出していく一連の過程である。この講義では、作業療法評価の意義と目的、対象と過程、評価の順など講義形式で評価の概要について解説する。そして、今後修得する領域別の評価学を意欲的にまた意味付けながら学ぶための手掛かりとする。</p> <p>本科目の単位認定者は松下 太である。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（3 松下 太／7回） 作業を必要としている全ての方を対象に、作業療法プロセスで必要となる評価（「作業ニーズの特定」、「作業の観察」、「評価」、「全体像の予測と焦点化」、「全体像の再構成」）の流れについて教授する。評価のプロセスは、作業に焦点をあて、かつクライアント中心のトップダウン実践モデルである「OTIPM (Occupational therapy intervention process model)」を中心に教授する。</p> <p>（4 橋本 弘子・8 小川 泰弘／8回）（共同） 精神障害における対象者の生活上の困り事と必要な作業ニーズを把握するため、精神障害リハビリテーションの歴史、精神障害の実態とニーズ、精神障害リハビリテーションの基本的な考え方を教授する。その上で精神障害作業療法評価に対するプロセスを教授する。</p>	オムニバス方式 共同（一部）
	身体障害作業療法評価学	<p>身体障害を有する人々に作業療法を実践していくには、クライアントの作業ニーズを把握した上で、身体機能の状態を正しく捉えてクライアントの障害像を明確に理解する必要がある。この講義では、身体機能障害の障害像を正確に捉えるための評価プロセスや方法、技術（検査・測定）を教授する。特にバイタルサイン、身体計測、関節可動域測定、徒手筋力テスト、感覚検査、反射検査などの主要な身体機能評価についてその概要や方法、あるいは基礎技法を実習し教授する。</p>	
	精神障害作業療法評価学	<p>精神障害作業療法における評価は、一通りの評価を終えてから治療を開始するといった方法が取りにくい。初回の面接時から援助関係を築きながら評価を随時行っていく事となる。その評価の基本的な流れ（導入評価→初期評価→再評価→最終評価）といった、評価のプロセス、そして面接、観察の具体的方法、基本的な留意点について学修し、実施できるようにさせる。また対象者主体に考えた評価項目（過去・現在の生活、これからの生活、環境因子、個人因子、自己理解と受容）と評価の視点を理解し、精神科作業療法における評価手段を教授する。</p>	
	発達障害作業療法評価学	<p>作業療法における発達の側面からの評価ができるように教授する。人間発達の知識を背景に、人の発達の原則や身体、精神、認知、心理社会的発達の過程や関連性を学ぶことから、発達障害や定型発達から逸脱するリスクを理解させる。上肢機能、口腔機能、視覚や聴覚などの感覚機能がどのように認知につながるか、自分自身はどのように発達してきたのかを考えさせることで、他者の発達にも関心を持たせ、発達の可能性を信じる作業療法の精神の根幹を教授する。</p>	
	高次脳機能障害作業療法評価学	<p>脳血管障害、頭部外傷、変性疾患、発達障害など、あらゆる領域において作業療法を展開する上で、高次脳機能の状態を正しく捉えるための評価手法や評価手段を身につけておくことが必要である。本授業では、高次脳機能を理解するとともに、高次脳機能障害患者の注意機能、遂行機能、行為機能、認知機能、視覚機能、聴覚機能などの評価に使用する評価バッテリーや、医用画像の評価、日常生活における観察場面での評価方法について実践を交えて教授する。事例検討により高次脳機能障害の評価の優先順位を教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要		(総合リハビリテーション学部作業療法学科)	
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目群	専門科目 作業療法治療学	日常生活活動学	日常生活動作（ADL）とその概念を知り、疾病や障がいをもたらす問題点や課題を考える。誰もが繰り返し毎日営む、その人らしい日常生活動作を評価・動作分析し、その過程を通して作業や活動の特性を知り、個別性を知り、人としての生きる力を支えることを教授する。作業療法士として、QOLを支える基本動作（起居・移乗移動等）・セルフケア（食事・排泄・整容・更衣・入浴・コミュニケーション等）・応用動作・生活関連動作等の支援技術を解説し、QOLを向上させるためのADL支援について教授する。
		身体障害作業療法治療学総論	これまでに学んだ基礎作業療法学や作業療法評価学等の知識・技術を用い、身体障害作業療法に関連する理論・モデル、及びその基本的実践論について学び、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を教授する。また、身体障害に対する作業療法を実施するために必要となる、中枢疾患や骨関節疾患、変性疾患等の様々な問題の整理を行い、心と体を包括した観点からクライアントを理解できるようにする。ICF（国際生活機能分類）を通じて対象者の問題点整理の方法も解説する。
		精神障害作業療法治療学総論	これまでに学んだ基礎作業療法学や作業療法評価学等の知識・技術を用い、精神障害作業療法に関連する理論・モデル、及びその基本的実践論について学修させ、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を教授する。また、精神障害に対する作業療法を実施するために必要となる、内因性精神障害や心因性精神障害等の様々な問題の整理を行い、心と体を包括した観点からクライアントを理解できるようにする。ICF（国際生活機能分類）を通じて対象者の問題点整理の方法も解説する。
		高齢期障害作業療法治療学総論	これまでに学んだ基礎作業療法学や作業療法評価学等の知識・技術を用い、高齢期障害作業療法に関連する理論・モデル、及びその基本的実践論について学び、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を教授する。また、高齢期障害に対する作業療法を実施するために必要となる、変性疾患や整形疾患等の様々な問題の整理を行い、心と体を包括した観点からクライアントを理解できるようにする。ICF（国際生活機能分類）を通じて対象者の問題点整理の方法も解説する。
		発達障害作業療法治療学総論	これまでに学んだ基礎作業療法学や作業療法評価学等の知識・技術を用い、発達障害作業療法に関連する理論・モデル、及びその基本的実践論について学び、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を教授する。また、発達障害に対する作業療法を実施するために必要となる、中枢疾患や神経筋疾患等の様々な問題の整理を行い、心と体を包括した観点からクライアントを理解できるようにする。ICF（国際生活機能分類）を通じて対象者の問題点整理の方法も解説する。
		身体障害作業療法治療学各論	身体障害作業療法治療学総論で学んだ、身体障害作業療法の基本的な治療理論を踏まえ、対象疾患ごとに特徴的な目標設定および治療の選択について教授し、臨床に応用するための理論を理解させ、治療技術を身につけさせる。特に、代表的な身体障害作業療法の対象である脳卒中やパーキンソン病、上肢骨折、慢性関節リウマチ等における、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を教授する。さらに、クライアントのニーズをかなえるため、他の専門職と協業するための方法についても教授し、臨床で応用できるようにする。作業療法実践とともに臨床において必要性の高い喀痰等の吸引についても教授する。当該科目は、4年次に実施する身体障害領域の臨床総合実習における治療プログラム立案と、治療実施につながるように組み立てられている。
		精神障害作業療法治療学各論	精神障害作業療法治療学総論で学んだ、精神障害作業療法の基本的な治療理論を踏まえ、対象疾患ごとに特徴的な目標設定および治療の選択について教授し、臨床に応用するための理論を理解させ、治療技術を身につけさせる。特に、代表的な精神障害作業療法の対象である統合失調症や躁うつ病、神経症等における、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を教授する。さらに、クライアントのニーズをかなえるため、他の専門職と協業するための方法についても教授し、臨床で応用できるようにする。当該科目は、4年次に実施する精神障害領域の臨床総合実習における治療プログラム立案と、治療実施につながるように組み立てられている。
		高齢期障害作業療法治療学各論	高齢期障害作業療法治療学総論で学んだ、高齢期障害作業療法の基本的な治療理論を踏まえ、対象疾患ごとに特徴的な目標設定および治療の選択について教授し、臨床に応用するための理論を理解させ、治療技術を身につけさせる。特に、代表的な高齢期障害作業療法の対象である認知症や大腿骨頸部骨折等における、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を教授する。さらに、クライアントのニーズをかなえるため、他の専門職と協業するための方法についても教授し、臨床で応用できるようにする。当該科目は、4年次に実施する高齢期障害領域の臨床総合実習における治療プログラム立案と、治療実施につながるように組み立てられている。
発達障害作業療法治療学各論	発達障害作業療法治療学総論で学んだ、発達障害作業療法の基本的な治療理論を踏まえ、対象疾患ごとに特徴的な目標設定および治療の選択について教授し、臨床に応用するための理論を理解させ、治療技術を身につけさせる。特に、代表的な発達障害作業療法の対象である脳性まひ、学習障害、自閉症、筋ジストロフィー、ダウン症等における、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を教授する。さらに、クライアントのニーズをかなえるため、他の専門職と協業するための方法についても教授し、臨床で応用できるようにする。当該科目は、4年次に実施する発達障害領域の臨床総合実習における治療プログラム立案と、治療実施につながるように組み立てられている。		

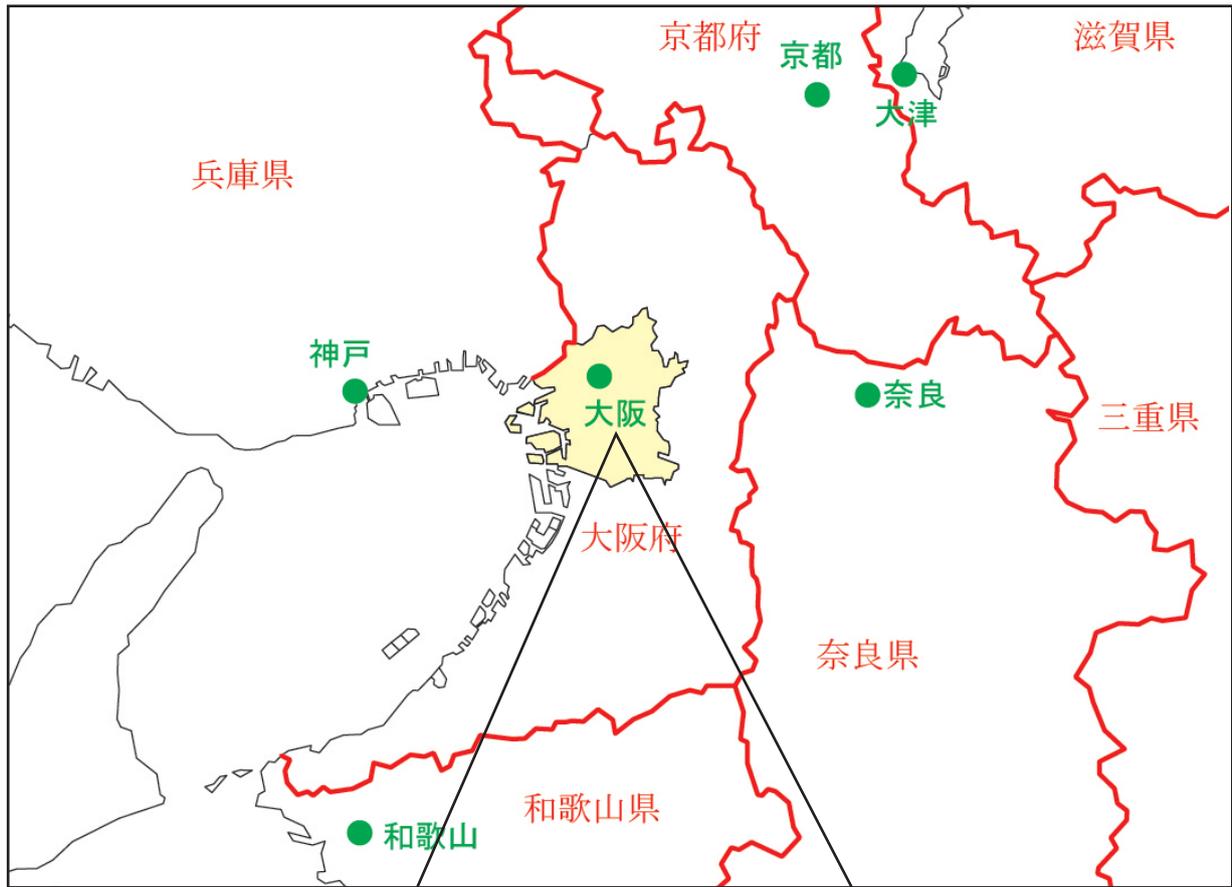
授業科目の概要		講義等の内容	備考	
科目	授業科目の名称			
学科専門科目群	作業療法治療学 専門科目	義肢装具学	義手・義足・上下肢装具等の義肢装具に関する基本的な知識(構造・種類・適合等)を解説し、疾病や障がいの特徴に応じた、評価や選択・作成や適合技術などを教授する。導入時の残存機能評価と補装具の適応・調整、さらにスプリントの作成などの体験を通して義肢装具の適応支援の実践を教授する。作業療法士として、疾病モデル、障がいモデルから機能の代替・代償としての義肢装具を介して、物的環境を伴う総合的な生活支援について教授する。	
		作業療法特論Ⅰ	これまで修得した専門基礎科目の知識と技術を振り返り、クライアントに対するの評価・治療プログラム立案の基盤を固める。そして、臨床に活かすための作業の実践的な活用方法を教授する。さらに、疾患の特徴を踏まえた上で、作業の治療的応用についても教授する。加えて、作業療法の各領域における最新のトピックスや新しい理論などを教授する。	
		作業療法特論Ⅱ	作業療法の新しい領域への社会の期待や広がり、新しい領域での活動のトピックスなどを教授する。そして、作業療法士として働くにあたって希望する分野(身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害)を考え、決定するための考え方を教授する。また、専門職として働くことで社会に貢献することについて、改めて考え直す機会とし、作業療法士として働くにあたっての自己課題解決の幅を広げ、作業療法研究の方向性を広げさせる。これまで修得した専門基礎科目、専門科目の知識と技術を振り返り、クライアントに対するの治療介入の基盤を固め、治療的応用に結び付けられるよう教授する。	
		身体障害作業療法治療学演習	身体障害領域における作業療法の先駆的实践やトピックスを取り上げ、より専門的な身体障害に対する作業療法の治療理論や治療技術を教授する。具体的には、臨床事例を基にした小グループでの文献レビューを行い、症例についてのグループディスカッションや発表を通して、障害像と治療イメージをリンクさせる。そして、基本的な理論・モデルを個別の事例に応用できる能力と、その根拠を他者に説明できる能力を養わせる。さらに、卒業研究にも繋がるよう、治療の根拠を見出すための文献検索等の手法も修得させる。	
		精神障害作業療法治療学演習	精神障害領域における作業療法の先駆的实践やトピックスを取り上げ、より専門的な精神障害に対する作業療法の治療理論や治療技術を教授する。具体的には、臨床事例を基にした小グループでの文献レビューを行い、症例についてのグループディスカッションや発表を通して、障害像と治療イメージをリンクさせる。そして、基本的な理論・モデルを個別の事例に応用できる能力と、その根拠を他者に説明できる能力を養う。さらに、卒業研究にも繋がるよう、治療の根拠を見出すための文献検索等の手法も修得させる。	
		高齢期障害作業療法治療学演習	高齢期障害領域における作業療法の先駆的实践やトピックスを取り上げ、より専門的な高齢期障害に対する作業療法の治療理論や治療技術を教授する。具体的には、臨床事例を基にした小グループでの文献レビューを行い、症例についてのグループディスカッションや発表を通して、障害像と治療イメージをリンクさせる。そして、基本的な理論・モデルを個別の事例に応用できる能力と、その根拠を他者に説明できる能力を養う。さらに、卒業研究にも繋がるよう、治療の根拠を見出すための文献検索等の手法も修得させる。	
		発達障害作業療法治療学演習	発達障害領域における作業療法の先駆的实践やトピックスを取り上げ、より専門的な発達障害に対する作業療法の治療理論や治療技術を教授する。具体的には、臨床事例を基にした小グループでの文献レビューを行い、症例についてのグループディスカッションや発表を通して、障害像と治療イメージをリンクさせる。そして、基本的な理論・モデルを個別の事例に応用できる能力と、その根拠を他者に説明できる能力を養う。さらに、卒業研究にも繋がるよう、治療の根拠を見出すための文献検索等の手法も修得させる。	
		総合リハビリテーションIPW演習	チームリハビリテーション概論で学修したリハビリにおける各医療職の役割、専門性をさらに理解させ、ペーパーペイシエントを通じて患者に適切なリハビリテーションを提供すべく検討し、包括的なチームアプローチを討論させる。また卒業前から臨床でのチームアプローチを想定した多方面からの連携を、講義及び学生間で討論する中で能動的に感じ、医療人としての心構えやコミュニケーション能力を身につけさせることで、専門職間連携の在り方を理解させることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (総合リハビリテーション学部作業療法学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域作業療法学	地域作業療法学	地域作業療法では対象者の作業ニーズを把握し、他職種との協働の中で作業療法の役割を認識し、心身機能、社会適応能力生活に基づいた支援が重要となる。この授業では個人の機能を全体像として統合し、他職種とどのように協働していけばよいか、その中で、作業療法理論がどのように実践されるのかについて教授する。さらに、作業療法の対象は健康な方も含まれるため、対象者個人のみでなく環境も含めて理解していく視点も身につけ、高齢者の介護を要する原因の上位を占める認知症予防や転倒予防など介護予防の考え方を教授するとともに、実際の予防教室に触れる機会を設ける。	
	生活環境論	多様な障害を持つ人にとって、その人らしい生活を支援するためには自助具、補装具、福祉用具、住宅環境などの物的環境、人的環境、社会制度の整備・調整・活用等が必要不可欠である。作業療法における日常生活活動（ADL）とその概念を解説し、生活支援機器等を含む環境因子の視点に立った評価を行い、様々な疾患特性に対応した活動・作業の遂行、適応・代償機能獲得等を目的とした支援・援助技術を教授する。特に福祉用具の選定と実際の体験、バリアフリー住宅環境の体験、リハビリテーション工学に基づく最先端技術の紹介・体験などを通して、より総合的な生活環境への支援を教授する。	
	障害者地域生活支援論	世界や日本の障害者自立運動の歴史を踏まえ、住み慣れた地域で障害者や高齢者が安心して生活するための支援方法を開発する。地域の実情や行政の現実、一般大衆の心理など、現実的な制約はあっても、当事者がのぞむ人生を実現するために、作業療法士ができることを考える機会とする。さらに、可能な範囲で当事者運動に参画し、当事者から学ぶ姿勢を持ちながら、一市民としての知識と良識を踏まえた活動を展開するための手段について教授する。	
卒業研究	卒業研究Ⅰ	作業療法士は保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職であり、臨床実践の質を高め、社会に貢献していくためには実践の内容について研究していくことが重要な位置を占める。この科目では、作業療法士にとっての研究意義について理解させ、研究を進める方法を教授する。具体的にはテーマの見つけ方、文献検索および文献抄読の方法、調査・実験の方法、研究論文の基本的な構成、研究発表の方法などを教授する。さらに、卒業論文に向けての準備も指導する。	
	卒業研究Ⅱ（身体障害）	身体障害領域における作業療法について、中枢神経疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患等の主要疾患や障害について課題を抽出させる。臨床実習で得られた経験等を振り返り課題を抽出し、担当教員の指導の下、個人またはグループで決めた研究テーマを決定させる。そして研究計画書の作成、実験やデータ収集の実施、データ分析、結果の考察といった研究におけるプロセスを体験させる。また、その結果をまとめ、その総括として、身体障害領域における作業療法分野の論文完成を目指す。	
	卒業研究Ⅱ（精神障害）	精神障害を取り巻く現在の環境は、様々な問題を抱えている。その精神障害を取り巻く様々な課題に目を向け、疑問を持ち、それらを解決していくための思考プロセスを教授する。さらに自らの課題に、主体的に取り組み、明らかにする行動力を修得させる。そのために担当教員の指導の下、研究テーマに基づいた研究計画書の作成、データの収集と分析、結果の考察というプロセスを、段階を踏みながら修得させることを目標とする。その総括として、精神科領域における作業療法分野での論文完成を目指すよう教授する。	
	卒業研究Ⅱ（高齢期障害・地域）	作業療法学演習で学んだ高齢期における認知症高齢者や寝たきり高齢者、介護予防や認知症予防、施設や在宅におけるさまざまな課題、あるいは認知機能や脳科学といった基礎研究を中心に、担当教員の指導の下に個人またはグループで決めた研究テーマに基づいて研究計画を作成し、実験等によるデータの収集と分析、結果の考察というプロセスを、段階を踏みながら修得させる。その総括として、高齢期障害や地域における作業療法分野の論文完成を目指すよう教授する。	
	卒業研究Ⅱ（発達障害）	発達障害領域における障害の理解や実際の作業療法アプローチに関して、あるいは地域施設や在宅におけるさまざまな課題を中心に、担当教員の指導の下に個人またはグループで決めた研究テーマに基づいた研究計画書を作成させる。さらに、研究課題に応じ、倫理審査に必要な資料を作成する。そして、データの収集と分析、結果の考察というプロセスを、段階を踏みながら修得させることを目標とする。その総括として、発達障害や地域における作業療法分野の研究論文完成を目指すよう教授する。	

学 科 専 門 科 目 群
専 門 科 目

授 業 科 目 の 概 要 (総合リハビリテーション学部作業療法学科)					
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学 科 専 門 科 目 群	専 門 科 目	臨 床 実 習	臨地見学実習	保健・医療・福祉領域における臨地・臨床現場での見学実習を通して、作業療法の対象となる人々の特性を理解させ、専門職、社会人としてのルールやマナーに基づいて行動できるようになることを目的とする。それに加えて、作業療法で用いる作業（セルフケア、生産活動、レジャー）の目的を考え、対象者とコミュニケーションの取り方についても解説する。さらに、対象者を中心としたリハビリテーションチームの構成について教授し、その役割を把握させる。	
			臨床検査実習	臨床現場での実習を通じて、作業療法実施のプロセスの中で必要となる心身機能、身体構造、活動、参加、個人因子、環境などICFで分類されている項目の検査・測定を実践する機会とする。これまで修得してきた各領域での作業療法の面接・観察および検査・測定を疾患別に対応して、対象者に正確に実施できる技術を修得する。さらに、得られた検査・測定結果に対して考察を加え、その結果が生活場面にどのように影響するかを予測できるようになることも目的とする。	
			地域作業療法実習	通所リハビリテーション、通所介護などの通所系サービスおよび訪問看護、訪問リハビリテーションなどの訪問系サービスにおける実習を通して、地域で暮らす人のニーズに対応するための知識・技術を修得し、さらに保健・医療・福祉の専門職としての人間性を磨く。実習では、地域特性を知り、その地域に住む人・環境・作業を分析し、作業療法介入を経験させるとともに、地域での多職種連携に必要な知識・技能と地域包括ケアの中での作業療法士の役割と位置づけを教授する。	
			臨床評価実習	臨床現場での実習を通して、「作業ニーズの特定」、「特定された作業の観察」、「評価による確認」、「全体像の予測と焦点化」、「全体像の再構成」という作業療法評価の過程を経験させ、修得させることを目的とする。対象者への面接、観察、検査・測定実施と生活場面の情報収集から対象者の生活障害を構造的に捉え、全体像をまとめ、問題点を抽出し治療プログラムを立案させることを目標とする。さらに、実習指導者が実施する疾患別の作業療法評価場面を見学させ、疾患に対する作業療法評価の特性を教授する。	
			臨床総合実習	臨床現場での実習を通して、「評価（面接、観察、検査・測定など）→治療プログラム立案→治療実施→考察→再評価→治療プログラム検討・修正」という作業療法の過程を経験させ、修得させることを目的とする。作業療法を実施する中で対象者及び自己の変化を捉え、治療プログラムの検討させる。それに加えて、対象者への援助方法や治療的存在としての作業療法士の態度や行動を身につけさせ、専門職チームの中の作業療法士の役割を教授する。	

森ノ宮医療大学 府内における位置関係



図面-1

森ノ宮医療大学 最寄り駅からの距離、周辺地図



大阪メトロ中央線 コスモスクエア駅より約 80m 徒歩 1 分

森ノ宮医療大学 校舎、運動場等の配置図



森ノ宮医療大学の校地面積…30,495.44㎡

森ノ宮医療大学の校舎面積…28,853.21㎡

-  全学で共用する校舎 (一部、理学療法学科の専用部分を含む)
-  全学で共用する校舎 (一部、他学科等の専用部分を含む)
-  全学で共用する校舎

森ノ宮医療大学

学 則（案）

第一章	目的
第二章	自己点検評価及び第三者評価
第三章	学部・学科等及び附属施設
第四章	学年、学期及び休業日
第五章	修業年限及び在学年限
第六章	入学
第七章	教育課程、履修方法等
第八章	休学、復学、転学、退学及び除籍
第九章	卒業及び学位
第十章	科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴 講生及び外国人留学生
第十一章	職員組織
第十二章	教授会、各種委員等
第十三章	入学検定料、入学料、授業料等
第十四章	賞罰
第十五章	大学開放及び生涯学習事業
第十六章	雑則

第一章 目的

(目的)

第1条 豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす。

第二章 自己点検評価及び第三者評価

(自己点検評価及び第三者評価)

第2条 本学は、教育水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育・研究・組織・運営・施設及び設備の状況について、自己点検評価を行う。

2 自己点検評価に関する必要な事項は別に定める。

3 本学は前項の措置に加え、その教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者（以下「認証評価機関」という。）による評価（以下「認証評価」という。）を受けるものとする。

4 自己点検評価および第三者評価の結果を公表するものとする。

(情報の積極的な公開)

第3条 本学における教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができする方法によって積極的にその情報を公開するものとする。

第三章 学部・学科等及び附属施設

(学部、学科、入学定員及び収容定員)

第4条 本学に看護学部、総合リハビリテーション学部及び医療技術学部を置く。

2 看護学部に看護学科を置き、総合リハビリテーション学部に理学療法学科及び作業療法学科を置き、医療技術学部に鍼灸学科、臨床検査学科、臨床工学科及び診療放射線学科を置く。

3 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
看護学部	看護学科	90	360
総合リハビリテーション学部	理学療法学科	70	280
	作業療法学科	40	160

医療技術学部	鍼灸学科	60	240
	臨床検査学科	70	280
	臨床工学科	60	240
	診療放射線学科	80	320
合計		470	1880

4 医療技術学部鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。

5 鍼灸コースは、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。

(学部の目的)

第4条の2 前条第1項に定める各学部の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 看護学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。
- (2) 総合リハビリテーション学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーションを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人の育成を目的とする。
- (3) 医療技術学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、チーム医療において科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。

(学科の目的)

第4条の3 第4条第2項に定める各学科の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 看護学部看護学科は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、利他主義や論理性などの人間として豊かな教養、医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。
- (2) 総合リハビリテーション学部理学療法学科は、チーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ、人に優しい理学療法を創造的に実践できる能力を身につけた人材の育成を目的とする。
- (3) 総合リハビリテーション学部作業療法学科は、命の尊さや人としての尊厳を大切にす感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献する作業療法士の養成を目的とする。
- (4) 医療技術学部鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。
- (5) 医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。

(6) 医療技術学部臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。

(7) 医療技術学部臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。

(8) 医療技術学部診療放射線学科は、人間性豊かで高いモラルを有する医療人として、チーム医療における役割と職責を自覚し、放射線診療を実践できる確かな専門知識と技術を身につけた人材の育成を目的とする。

(大学院)

第4条の4 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する規則は別に定める。

(専攻科)

第4条の5 本学に次の専攻科を置く。

(1) 助産学専攻科

2 専攻科に関する規則は別に定める。

(附属施設)

第5条 本学に次の附属施設を置く。

(1) 附属図書館

(2) 附属臨床実習施設

2 前項の附属施設に関し必要な事項は別に定める。

第四章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を次の2学期にわけるとする。

(1) 前期4月1日から9月30日まで

(2) 後期10月1日から3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 土曜日及び日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
 - (3) 春期休業日 3月21日から3月31日まで
 - (4) 夏期休業日 8月11日から9月30日まで
 - (5) 冬期休業日 12月25日から1月7日まで
- 2 学長は前項の規定に関わらず、特別の必要があると認めるときは、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更し、若しくは休業日に授業を行うことができる。

第五章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第9条 本学の修業年限は4年とする。

(在学年限)

第10条 学生は8年を超えて在学することはできない。ただし、第16条、第17条、第18条の規定により入学した学生は、第19条の規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する期間を超えて在学することができない。

第六章 入学

(入学の時期)

第11条 入学の時期は学年の始めとする。

- 2 ただし、第16条、第17条、第18条の規定により入学する場合及び特別の必要があり、かつ、教育上支障がないと認められる場合は、学期の始めとする。

(入学資格)

第12条 本学に入学することができる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに該当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

(7) 前各号に定める者の他、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者

(入学の出願)

第13条 本学に入学を志願する者は、本学指定の期日までに、入学願書に入学検定料を添えて学長に提出しなければならない。

(入学者の選考)

第14条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第15条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学料及び学納金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第16条 学長は、編入学を志望するものがあるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に編入学を許可することができる。

2 本学に入学することができる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

(1) 大学及び短期大学の課程を卒業した者か、卒業見込みの者

(2) 高等専門学校の課程を卒業した者か、卒業見込みの者

(3) 学校教育法第三十二条に定める専修学校を卒業した者か、卒業見込みの者

(転入学)

第17条 学長は、他の大学に在籍しているもので、本学への転入学を志願する者があるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(再入学)

第18条 学長は、再入学を志願する者があるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(編入学等の場合の取扱い)

第19条 第16条、第17条、第18条の規定により入学を許可された者が既に修得した授業科目及びその単位数の取扱い、履修すべき授業科目並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴き、学長が決定する。

第七章 教育課程、履修方法等

(教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 看護学部看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 総合リハビリテーション学部理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 総合リハビリテーション学部作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 医療技術学部鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 医療技術学部臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 医療技術学部臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。
- 9 医療技術学部診療放射線学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第8のとおりとする。

第21条 授業は、講義、演習、実習のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

第22条 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(単位の計算方法)

第23条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実習については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

(1年間の授業期間)

第24条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週とすることを原則とする。

(単位の授与)

第25条 授業科目を履修し、その試験に合格した者に、担当の教員は所定の単位を与える。

- 2 前項の試験は、当該授業科目を履修した者でなければ、受けることができない。

(成績の評価)

第26条 成績の評価は、優、良、可及び不可の4段階をもって表示し、優、良及び可を合格とする。

(試験の種類)

第27条 各授業科目の試験は、定期試験、追試験、再試験及び臨時試験等とする。

(入学前及び在学時における他大学等での既修得単位等の認定)

第28条 学長は教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学等で履修した授業科目について修得した単位（大学等で科目等履修生として修得した単位を含む）を、該当する授業科目を本学において履修及び修得したものと見なし、単位を与えることができる。

- 2 学長は教育上有益と認めるときは、あらかじめ他の大学等と協議の上、学生が授業科目を履修することを認め、その履修した授業科目について修得した単位は本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 3 前二項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、第16条の編入学、第17条の転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、60単位を超えないものとする。

(教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状	養護
医療技術学部	鍼灸学科スポーツ特修コース	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健体育 保健体育

- 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第1の看護学部看護学科の教育課程及び別表第5の医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースの教育課程及び別表第9の教職に関する科目のうちから、所定の単位を修得しなければならない。
- 3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

第八章 休学、復学、転学、退学及び除籍

(休学)

第29条 疾病その他やむを得ない事情により3ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

- 2 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合において、学長の許可を得たときは、この限りでない。
- 3 休学の期間は通算して4年を超えることはできない。
- 4 休学の期間は第10条に規定する在学年限に算入しない。

(復学)

第30条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第31条 本学への在学期間中、他の大学等への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(退学)

第32条 退学しようとするものは、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第33条 次の各号に該当する者は、学長が除籍することができる。

- (1) 第10条の規定により定められた在学年限を超えた者
 - (2) 第29条の規定により定められた休学期間を超えて、なお復学することができない者
 - (3) 授業料を納入しない者
 - (4) 死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者
- 2 前項(3)により除籍となった者が、所定の期日内に学費を納付した場合、復籍を認めることがある。

第九章 卒業及び学位

(卒業)

第34条 本学に4年(第16条、第17条、第18条の規定により入学したものについては、第19条の規定により定められた在学すべき年数)以上在学し、所定の授業科目を履修し、単位を修得した者については、教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定する。

- 2 学長は、前項の卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

(学位の授与)

第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
看護学部	看護学科	学士(看護学)

総合リハビリテーション学部	理学療法学科 作業療法学科	学士（理学療法学） 学士（作業療法学）
医療技術学部	鍼灸学科 臨床検査学科 臨床工学科 診療放射線学科	学士（鍼灸学） 学士（臨床検査学） 学士（臨床工学） 学士（診療放射線学）

第十章 科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講生及び外国人留学生

（科目等履修生）

第36条 本学において、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、学長は選考の上、科目等履修生として履修を許可することができる。

（研究生）

第37条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学長は選考の上、入学を許可することができる。

2 研究生となることを志願することができる者は大学を卒業した者又はこれと同等以上の能力があると学長が認めた者とする。

（聴講生）

第38条 本学において、特定の授業科目について聴講を志願するものがあるときは、学長は選考の上、入学を許可することができる。

（特別聴講生）

第38条の2 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。以下この条において同じ）の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他の大学又は短期大学との協議に基づき、学長は、特別聴講生として入学を許可することができる。

（外国人留学生）

第39条 外国人で、本学に入学を志願する者があるときは、学長は選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

第十一章 職員組織

（職員）

第40条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員及びその他の必要な職員を置く。

2 学長が必要と認めた場合には副学長を置くことができる。

(各組織の長)

第41条 本学に、学長のほか、事務局長、研究科長、学部長、専攻科長、学科長、附属臨床実習施設長、及び附属図書館長等を置く。

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

5 学部長は、本学の教授をもって充て、各学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。

7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。

8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

第十二章 教授会、各種委員等

(教授会)

第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。

2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

3 本条に定めるもののほか、教授会に関して必要な事項は、別に定める。

(専門委員会)

第44条 本学に、専門事項を審議する専門委員会を置く。

2 専門委員会は学長の付託を受け専門事項を審議する。

3 専門委員会に関し、必要な事項は別に定める。

第十三章 入学検定料、入学料、授業料等

(授業料等の金額)

第45条 本学の入学検定料、入学料、授業料、教育充実費の納入額は別表第10のとおりとする。

(授業料等の納付)

第46条 本学の学生の授業料等は4月1日から9月30日までを前期、10月1日から翌年3月31日までを後期とし、その年額の2分の1に相当する額を、学長が指定した日までに納付しなければならない。

2 経済的事由により授業料等の納付が困難であって、学業優秀と認められた者その他やむを得ない事情があると認められた者については、授業料等の全部若しくは一部の納付を免除し、又はその徴収を猶予することができる。

3 第29条により休学を認められた学生の学納金は、各学期の授業料の5分の1とする。

4 既に納付した入学検定料、授業料は、返還しない。

第十四章 賞罰

(表彰)

第47条 学長は、表彰に値する行為があった学生を表彰することができる。

(懲戒)

第48条 学長は、本学の学則その他学生に関する諸規定に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者に対して、懲戒することができる。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行うことができる。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業を怠り卒業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席が常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第十五章 大学開放及び生涯学習事業

(大学開放)

第49条 本学は、教育研究上の支障のない限りにおいて、その教育研究施設及び設備を積極的に開放する。

(生涯学習事業)

第50条 本学は、地域社会の発展に寄与するため、生涯学習事業をとおして本学の教育研究資源の地域社会への還元に積極的に努めるものとする。

第十六章 雑則

(雑則)

第51条 この学則に定めるもののほか、この学則の施行に関し必要な事項は学長が別に定める。

附 則

- 1 この学則は平成19年4月1日から施行する。ただし、第12条、第13条、第14条、第15条、第45条、第46条の規定は、文部科学大臣が本学の設置を認可した日より施行する。
- 2 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成19年度	120人				120人
平成20年度	120人	120人			240人
平成21年度	120人	120人	120人		360人
平成22年度	120人	120人	120人	120人	480人

- 3 この学則は平成23年4月1日から施行する。
- 4 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成23年度	200人	120人	120人	120人	560人
平成24年度	200人	200人	120人	120人	640人
平成25年度	200人	200人	200人	120人	720人
平成26年度	200人	200人	200人	200人	800人

- 5 平成23年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 6 この学則は平成24年4月1日から施行する。ただし、平成24年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 7 この学則は平成25年4月1日から施行する。
- 8 この学則は平成27年4月1日から施行する。
- 9 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成28年度	300人	200人	200人	200人	900人
平成29年度	300人	300人	200人	200人	1000人
平成30年度	300人	300人	300人	200人	1100人
平成31年度	300人	300人	300人	300人	1200人

- 10 この学則は平成28年4月1日から施行する。ただし、平成28年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 11 この学則は平成29年4月1日から施行する。ただし、平成29年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 12 この学則は平成30年4月1日から施行する。
- 13 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替

えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成30年度	380人	300人	300人	200人	1180人
平成31年度	380人	380人	300人	300人	1360人
平成32年度	380人	380人	380人	300人	1440人
平成33年度	380人	380人	380人	380人	1520人

14 この学則は平成31年4月1日から施行する。

15 この学則は令和2年4月1日から施行する。

16 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の人数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
令和2年度	470人	380人	380人	300人	1530人
令和3年度	470人	470人	380人	380人	1700人
令和4年度	470人	470人	470人	380人	1790人
令和5年度	470人	470人	470人	470人	1880人

17 この学則は令和3年3月1日から施行する。

18 この学則は令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。

別表第1
看護学部 看護学科 教育課程

区分		授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
	語学	英語Ⅰ（初級）	2		
		英語Ⅱ（中級）	2		
		英会話	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
		応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
			チーム医療見学実習	1	
			医療コミュニケーション	1	
チーム医療論			1		
IPW論			1		
基礎体育			2		
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2		
健康管理学Ⅰ			2		
健康管理学Ⅱ			2		
栄養学			2		
身体運動科学			2		
東洋医療概論			2		
統合医療概論			2		
学科専門科目群			人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1
				形態機能学Ⅱ	1
	形態機能学Ⅲ	1			
	形態機能学Ⅳ	1			
	フィジカルアセスメント	2			
	生化学	2			
	発達心理学	2			
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学		1	
		病理学		1	
		臨床薬理学		1	
		臨床病態学Ⅰ	1		
		臨床病態学Ⅱ	1		
		臨床病態学Ⅲ	1		
		臨床病態学Ⅳ	1		
		臨床病態学Ⅴ	1		
		臨床心理学	2		
		健康支援と社会保障制度	医療概論	1	
	公衆衛生学		2		
	看護関係法規		2		
	保健統計学		2		
	疫学		2		

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎看護学	看護学概論	1	
		看護理論	2	
		生活援助論Ⅰ	2	
		生活援助論Ⅱ	2	
		診療援助論Ⅰ	2	
		診療援助論Ⅱ	2	
		看護過程演習	1	
		在宅看護論	地域・在宅看護概論	2
			地域・在宅看護援助論Ⅰ	2
			地域・在宅看護援助論Ⅱ	1
	外来看護論		1	
	成人看護学	成人看護学概論	2	
		成人看護援助論Ⅰ	1	
		成人看護援助論Ⅱ	1	
		成人看護援助論Ⅲ	1	
	看護学 老年	老年看護学概論	2	
		老年看護援助論Ⅰ	1	
		老年看護援助論Ⅱ	1	
	看護学 母性	母性看護学概論	2	
		母性看護援助論Ⅰ	1	
		母性看護援助論Ⅱ	1	
	看護学 小児	小児看護学概論	2	
		小児看護援助論Ⅰ	1	
		小児看護援助論Ⅱ	1	
	看護学 精神	精神看護学概論	2	
		精神看護援助論Ⅰ	1	
		精神看護援助論Ⅱ	1	
	看護の統合と実践Ⅰ	健康教育論	2	
		家族看護学	1	
		看護管理論	1	
		災害・国際看護論	1	
		養護概説	2	
		学校保健	2	
		健康相談活動論	2	
		臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1
			基礎看護学実習Ⅱ	2
			地域・在宅看護論実習Ⅰ	1
	地域・在宅看護論実習Ⅱ		2	
	成人看護学実習Ⅰ（急性）		3	
	成人看護学実習Ⅱ（慢性）		3	
	老年看護学実習		3	
	母性看護学実習		2	
	小児看護学実習		2	
	精神看護学実習		2	
	公衆衛生看護学実習	4		
	主題実習Ⅰ	2		
	主題実習Ⅱ	1		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	
		公衆衛生看護学演習	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅲ	2	
公衆衛生看護活動論Ⅳ		2		
公衆衛生看護管理論		2		
保健医療福祉行政論	2			
研究	看護研究	1		
	卒業研究	2		
看護の統合と実践Ⅱ	臨床看護学セミナーⅠ	2		
	臨床看護学セミナーⅡ	2		
	公衆衛生看護セミナー	2		
	臨床看護技術セミナー	1		
卒業要件（最低必要単位数）			127	

別表第2

総合リハビリテーション学部 理学療法学科 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	西洋史概説	2	
		英語Ⅰ（初級）	2	
		英語Ⅱ（中級）	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	応用英語演習	2
			MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群			専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達
	人体の構造演習Ⅱ（運動器）	1		
	人体の構造Ⅰ（神経系）	2		
	人体の構造Ⅱ（循環・内臓）	2		
	人体の構造実習	1		
	人体の機能Ⅰ（動物性機能）	2		
	人体の機能Ⅱ（植物性機能）	2		
	基礎運動学	1		
	臨床運動学	1		
	運動学実習	1		
	臨床心理学	1		
	リハビリテーション概論	2		
	公衆衛生学	2		
	生化学	2		
	病理学	2		
	臨床病態学Ⅰ	2		
	臨床病態学Ⅱ	2		
	臨床病態学Ⅲ	2		
	整形外科学	2		
	小児科学（人間発達学）	2		
	精神医学	2		
	リハビリテーション医学（画像診断・予防・栄養含む）	2		
	チームリハビリテーション概論	1		
	介護学概論・ボランティア活動論	1		
	スポーツ医学	1		
	テーピング技術論	1		

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎理学療法学	医療関係法規論	2
		理学療法触診法	1
		基礎理学療法学Ⅰ	1
		基礎理学療法学Ⅱ	1
		基礎理学療法学実習	1
	法医学療法学	職場管理(教育を含む)	1
		職業倫理	1
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	1
		理学療法評価学各論	2
		臨床理学療法評価学（動作分析）	1
		臨床理学療法評価学実習	1
	理学療法治療学	基礎日常生活活動学	1
		基礎運動療法学総論	1
		基礎運動療法学各論	1
		物理療法学	1
		運動器系理学療法学Ⅰ	1
		運動器系理学療法学Ⅱ	2
		運動器系理学療法学Ⅲ	1
		神経系理学療法学Ⅰ	1
		神経系理学療法学Ⅱ	2
		神経系理学療法学Ⅲ	1
		内部障害系理学療法学Ⅰ	1
		内部障害系理学療法学Ⅱ	2
		内部障害系理学療法学Ⅲ	1
	発達障害理学療法学	1	
	義肢装具学	2	
	臨床理学療法治療学実習	1	
	地域理学療法学	地域理学療法学	2
		生活環境論	1
		老年期理学療法学	1
	総合領域	理学療法臨床推論概論	1
		理学療法臨床推論演習	1
		総合リハビリテーションIPW演習	1
理学療法特論Ⅰ		1	
理学療法特論Ⅱ		1	
理学療法特論Ⅲ		2	
運動器系理学療法セミナー		1	
神経系理学療法セミナー		1	
内部障害系理学療法セミナー		1	
地域理学療法セミナー		1	
卒業研究	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2	
臨床実習	臨床見学実習	1	
	検査測定実習	1	
	臨床評価実習	4	
	地域理学療法実習	1	
	臨床総合実習Ⅰ	7	
臨床総合実習Ⅱ	7		
卒業要件（最低必要単位数）		126	

別表第3

総合リハビリテーション学部 作業療法学科 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	英語Ⅰ（初級）	2	
		英語Ⅱ（中級）	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	MBS (Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群			人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ（運動器）
	人体の構造演習Ⅱ（運動器）	1		
	人体の構造Ⅰ（神経系）	2		
	人体の構造Ⅱ（循環・内臓）	2		
	人体の構造実習	1		
	人体の機能Ⅰ（動物性機能）	2		
	人体の機能Ⅱ（植物性機能）	2		
	基礎運動学	2		
	臨床運動学	2		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論		2
		公衆衛生学		2
		生化学		2
		病理学		2
		臨床病態学Ⅰ		2
		臨床病態学Ⅱ	2	
		臨床病態学Ⅲ	2	
		整形外科学	2	
		小児科学（人間発達学）	2	
		精神医学	2	
		精神医学各論	2	
		臨床心理学	1	
		リハビリテーション医学（画像診断・予防・栄養含む）	1	
		医療関係法規論	2	
	チームリハビリテーション概論	1		
	介護学概論・ボランティア活動論	2		
	スポーツ医学	1		

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	作業療法基礎学	基礎作業学	2
		作業科学入門	2
		作業療法概論	2
	作業療法管理学	職場管理（教育を含む）	1
		職業倫理	1
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	2
		身体障害作業療法評価学	2
		精神障害作業療法評価学	1
		発達障害作業療法評価学	1
		高次脳機能障害作業療法評価学	1
	作業療法治療学	日常生活活動学	2
		身体障害作業療法治療学総論	2
		精神障害作業療法治療学総論	2
		高齢期障害作業療法治療学総論	2
		発達障害作業療法治療学総論	2
		身体障害作業療法治療学各論	1
		精神障害作業療法治療学各論	1
		高齢期障害作業療法治療学各論	1
		発達障害作業療法治療学各論	1
		義肢装具学	1
		作業療法特論Ⅰ	1
		作業療法特論Ⅱ	1
		身体障害作業療法治療学演習	1
		精神障害作業療法治療学演習	1
		高齢期障害作業療法治療学演習	1
		発達障害作業療法治療学演習	1
	総合リハビリテーションIPW演習	1	
	地域作業療法学	地域作業療法学	2
		生活環境論	1
		障害者地域生活支援論	1
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2
		卒業研究Ⅱ（身体障害）	2
		卒業研究Ⅱ（精神障害）	2
		卒業研究Ⅱ（高齢期障害・地域）	2
		卒業研究Ⅱ（発達障害）	2
	臨床実習	臨地見学実習	2
臨床検査実習		2	
地域作業療法実習		1	
臨床評価実習		4	
	臨床総合実習	16	
卒業要件（最低必要単位数）		126	

別表第4

医療技術学部 鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
		心理学	2	
	人間理解と社会	生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
	語学	英語Ⅰ（初級）	2	
		英語Ⅱ（中級）	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			2	
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ（骨・筋）	4	
		解剖学Ⅱ（神経）	2	
		解剖学Ⅲ（内臓・尿管）	2	
		生理学Ⅰ（動物生理学）	2	
		生理学Ⅱ（植物生理学）	2	
		生理学Ⅲ（応用生理学）	2	
		運動学	2	
		生化学	2	
		疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学	2
			臨床医学総論	2
			整形外科学	2
			内科学	2
			臨床医学各論Ⅰ	2
			臨床医学各論Ⅱ	2
	臨床医学各論Ⅲ		2	
	スポーツ医学		2	
	リハビリテーション医学		2	
	画像診断学		2	
	保健医療福祉と社会の理念	衛生学公衆衛生学	2	
		保健医療倫理	1	
	基礎はりきゆう学	経絡経穴学Ⅰ	1	
		経絡経穴学Ⅱ	1	
		経穴局所解剖演習Ⅰ	1	
		経穴局所解剖演習Ⅱ	1	
		鍼灸科学概論Ⅰ	1	
		鍼灸科学概論Ⅱ	1	
		東洋医学概論Ⅰ	1	
東洋医学概論Ⅱ	1			
東洋医学概論Ⅲ	1			

区分	授業科目	単位数		
学科専門科目群	臨床はりきゆう学	鍼灸安全学	1	
		臨床生理学	1	
		臨床鍼灸学	1	
		生体観察	1	
		運動機能検査法	1	
		現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）	2	
		現代医学系鍼灸学Ⅱ（整形外科系）	2	
		現代医学系鍼灸学Ⅲ（内科系）	1	
		東洋医学系検査法	1	
		東洋医学各論Ⅰ	1	
		東洋医学各論Ⅱ	1	
		社会はりきゆう学	鍼灸経営論	1
			関係法規	1
		実習	基礎鍼灸実技Ⅰ	1
	基礎鍼灸実技Ⅱ		1	
	基礎灸実技Ⅰ		1	
	基礎灸実技Ⅱ		1	
	応用鍼灸実技Ⅰ		1	
	応用鍼灸実技Ⅱ		1	
	現代医学系鍼灸学実習Ⅰ		1	
	現代医学系鍼灸学実習Ⅱ		1	
	現代医学系鍼灸学実習Ⅲ		1	
	東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ		1	
	東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ		1	
	東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ		1	
	東洋医学系鍼灸学実習Ⅳ		1	
	東洋医学系鍼灸学実習Ⅴ		1	
	実臨床	附属施設所基礎実習	2	
		附属施設所応用実習	2	
	総合領域	キャリアデザイン	1	
		鍼灸総合演習Ⅰ	2	
		鍼灸総合演習Ⅱ	2	
		鍼灸総合演習Ⅲ	2	
		卒業研究Ⅰ	1	
		卒業研究Ⅱ	1	
	専門領域	学外見学実習Ⅰ	1	
		学外見学実習Ⅱ	1	
		美容鍼灸学総論	1	
		テーピング技術論	1	
		コンディショニング技術論	1	
		スポーツ鍼灸学総論	1	
		スポーツ鍼灸学各論	1	
		介護学概論	1	
老年ケア演習		1		
美容鍼灸学各論Ⅰ		1		
美容鍼灸学各論Ⅱ	1			
応用鍼灸学Ⅰ	1			
応用鍼灸学Ⅱ	1			
スポーツ経営学	1			
卒業要件（最低必要単位数）		126		

別表第5

医療技術学部 鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分		授業科目	単位数	区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	臨床はりきゅう学	鍼灸安全学	1		
		物理学	2		臨床生理学	1		
		生物学	2		臨床鍼灸学	1		
		化学	2		生体観察	1		
		情報処理	2		運動機能検査法	1		
		統計学	2		現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）	2		
	人間理解と社会	心理学	2		現代医学系鍼灸学Ⅱ（整形外科系）	2		
		生命倫理学	2		現代医学系鍼灸学Ⅲ（内科系）	1		
		哲学	2		東洋医学系検査法	1		
		社会福祉学	2		東洋医学各論Ⅰ	1		
		日本国憲法	2		東洋医学各論Ⅱ	1		
		東洋史概説	2		鍼灸経営論	1		
	語学	西洋史概説	2		関係法規	1		
		英語Ⅰ（初級）	2		実習	基礎鍼灸実技Ⅰ	1	
		英語Ⅱ（中級）	2	基礎鍼灸実技Ⅱ		1		
		英会話	2	基礎灸実技Ⅰ		1		
		医学英語	2	基礎灸実技Ⅱ		1		
		基礎英語演習	2	応用鍼灸実技Ⅰ		1		
	応用英語演習	2	応用鍼灸実技Ⅱ	1				
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1	
			チーム医療見学実習	1		現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1	
医療コミュニケーション			1	現代医学系鍼灸学実習Ⅲ		1		
チーム医療論			1	東洋医学系鍼灸実習Ⅰ		1		
IPW論			1	東洋医学系鍼灸実習Ⅱ		1		
基礎体育			2	東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ		1		
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	東洋医学系鍼灸学実習Ⅳ		1		
健康管理学Ⅰ			2	応用鍼灸治療学		1		
健康管理学Ⅱ			2	臨床灸実習	1			
栄養学			2	特殊鍼灸治療学	1			
身体運動科学			2	実臨床実習	附属施設所基礎実習	2		
東洋医療概論			2		附属施設所応用実習	2		
学科専門科目群			人体の構造と機能	統合医療概論	2	総合領域	キャリアデザイン	1
				解剖学Ⅰ（骨・筋）	4		鍼灸総合演習Ⅰ	2
	解剖学Ⅱ（神経）	2		鍼灸総合演習Ⅱ	2			
	解剖学Ⅲ（内臓・脈管）	2		鍼灸総合演習Ⅲ	2			
	生理学Ⅰ（動物生理学）	2		運動生理学	2			
	生理学Ⅱ（植物生理学）	2		運動生理機能学演習	2			
	生理学Ⅲ（応用生理学）	2		卒業研究Ⅰ	1			
	運動学	2		卒業研究Ⅱ	1			
	生化学	2		学外見学実習Ⅰ	1			
	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学		2	学外見学実習Ⅱ		1	
		臨床医学総論		2	スポーツ実習Ⅰ 体づくり運動		1	
		整形外科		2	スポーツ実習Ⅱ 球技A		1	
		内科学		2	スポーツ実習Ⅱ 球技B		1	
		臨床医学各論Ⅰ		2	スポーツ実習Ⅱ 球技C		1	
		臨床医学各論Ⅱ	2	スポーツ実習Ⅲ 陸上競技	1			
		臨床医学各論Ⅲ	2	スポーツ実習Ⅳ 柔道	1			
		スポーツ医学	2	スポーツ実習Ⅴ ダンス	1			
		リハビリテーション医学	2	スポーツ実習Ⅵ 器械運動	1			
		画像診断学	2	スポーツ実習Ⅶ 水泳	1			
	保健医療福祉の理念	衛生学公衆衛生学	2	スポーツ実習Ⅷ 生涯スポーツ	1			
		保健医療倫理	1	学校保健（小児保健・精神保健）	2			
	基礎はりきゅう学	経絡経穴学Ⅰ	1	学校保健（学校安全・救急処置）	2			
		経絡経穴学Ⅱ	1	トレーニング科学演習Ⅰ（レジスタンスエクササイズ1）	1			
		経穴局所解剖演習Ⅰ	1	トレーニング科学演習Ⅱ（エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング）	1			
		経穴局所解剖演習Ⅱ	1	トレーニング科学演習Ⅲ（レジスタンスエクササイズ2・水中運動）	1			
		鍼灸科学概論Ⅰ	1	トレーニング科学演習Ⅳ（指導実習）	1			
		鍼灸科学概論Ⅱ	1	体力トレーニング論	2			
		東洋医学概論Ⅰ	1	テーピング技術論	1			
		東洋医学概論Ⅱ	1	スポーツバイオメカニクス	2			
		東洋医学概論Ⅲ	1	介護学概論	1			
				老年ケア演習	1			
	学科専門科目群	専門科目			体育原理	2		
					スポーツ心理学	2		
					スポーツ鍼灸学総論	1		
				スポーツ鍼灸学各論	1			
				スポーツ傷害学・栄養学	2			
				スポーツ経営学	1			
				卒業要件（最低必要単位数）	144			

別表第6

医療技術学部 臨床検査学科 教育課程

区分	授業科目	単位数	
教養科目群	基礎ゼミナール	2	
	物理学	2	
	生物学	2	
	化学	2	
	情報処理	2	
	統計学	2	
	科学的思考	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	人間理解と社会	西洋史概説	2
		英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
	語学	基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
		共通科目群	MBS (Morinomiya Basic Seminar)
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論	1		
IPW論	1		
基礎体育	1		
健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2		
健康管理学 I	2		
健康管理学 II	2		
栄養学	2		
身体運動科学	2		
東洋医療概論	2		
統合医療概論	2		
学科専門科目群	専門基礎科目		人体の構造 I
		人体の構造 II	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能 I	2
		人体の機能 II	2
		生化学	2
		生化学特論	2
		生化学実習	1
		分析化学	2
		小児医学	2
		老年医学	2
		救急災害医学	2
		薬理学	2
		リハビリテーション概論	2
	と医療保健検査学社医工学療	臨床検査学総論	2
		検査技術科学序論	2
		病理学	2
		医学概論	2
		公衆衛生学	2
		医用工学概論	2
医用工学実習	1		

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	病態臨床学	臨床病態学 I	2
		臨床病態学 II	2
	形態検査学	血液検査学 I	2
		血液検査学 II	2
		血液検査学実習	1
		病理検査学	2
		病理検査学実習	1
	生物化学検査学	一般検査学	1
		臨床化学検査学 I	2
		臨床化学検査学 II (放射性同位元素学含む)	2
		臨床化学検査学実習	1
		遺伝子検査学	2
	病原因・生体防御検査学	遺伝子検査学実習	1
		生命工学概論	1
		微生物検査学 I	2
		微生物検査学 II	2
		微生物検査学実習	1
		寄生虫検査学	1
		免疫検査学 I	2
		免疫検査学 II	2
		免疫検査学実習	1
		輸血・移植検査学	2
	生理機能検査学	輸血・移植検査学実習	1
		生理機能検査学 I	2
		生理機能検査学 II	2
		生理機能検査学実習 I	1
		生理機能検査学実習 II	1
	検査総論	画像検査学	2
		超音波検査学 I	1
		超音波検査学 II	1
	検査管理	検査総合管理	2
		医療情報科学	2
	全医療安全管理	関係法規	1
		医療安全管理学	1
	総合領域	臨床薬理学	2
		食品衛生学	1
		食品関係法規	1
		総合演習 I	2
		総合演習 II	2
	研究	総合演習 III	2
卒業研究 I		2	
卒業	卒業研究 II	2	
	実臨地	臨地実習	7
細胞診断学		臨床細胞学概論	1
	臨床細胞学実習 I	1	
	臨床細胞学実習 II	1	
	臨床細胞学総論 I	1	
	臨床細胞学総論 II	1	
	臨床細胞学各論 I	1	
	臨床細胞学各論 II	1	
	臨床細胞学各論 III	1	
	細胞診断学実習 I	3	
	細胞診断学実習 II	3	
細胞診断学実習 III	3		
細胞診断学特別実習 I	3		
細胞診断学特別実習 II	3		
卒業要件 (最低必要単位数)		124	

別表第7

医療技術学部 臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
	語学	英語Ⅰ（初級）	2		
		英語Ⅱ（中級）	2		
		英会話	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
		応用英語演習	2		
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1		
		チーム医療見学実習	1		
		医療コミュニケーション	1		
		チーム医療論	1		
		IPW論	1		
		基礎体育	1		
		健康科学（スポーツ社会学を含む）	2		
		健康管理学Ⅰ	2		
		健康管理学Ⅱ	2		
		栄養学	2		
		身体運動科学	2		
		東洋医療概論	2		
		統合医療概論	2		
		学科専門科目群	及ぶ機能	医学概論	1
				公衆衛生学	2
人体の構造Ⅰ	2				
人体の構造Ⅱ	1				
人体の機能Ⅰ	2				
人体の機能Ⅱ	1				
臨床工学に必要な医学的基礎	生化学		2		
	病理学		2		
	免疫学		2		
	薬理学		2		
	看護学概論		1		
	基礎医学実習		1		
臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学		2		
	数学演習		1		
	応用数学		2		
	応用物理学		1		
	応用化学		1		
	電気工学Ⅰ		2		
	電気工学Ⅱ		2		
	電気工学実習		1		
	電子工学Ⅰ		2		
	電子工学Ⅱ		2		
	電子工学実習		1		
臨床工学に必要な情報技術の基礎	放射線工学概論		1		
	情報処理工学		2		
	医療統計学		2		
	システム制御工学		2		
	情報処理・システム制御工学実習	1			

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	医用生体工学	生体物性工学	2	
		生体材料工学	2	
		バイオメカニクス	2	
		バイオレオロジー	1	
		計測工学	1	
		生体情報処理工学	2	
		医用機器学	医用機器学概論	2
	生体計測装置学		2	
	生体計測装置学実習		1	
	医用治療機器学		2	
	医用治療機器学実習		1	
	画像診断装置学		2	
	医用監視システム装置学		2	
	生体機能代行装置学	体外循環装置学	1	
		体外循環療法学	2	
		体外循環実習	1	
		血液浄化装置学	1	
		血液浄化療法学	2	
		血液浄化実習	1	
		人工呼吸装置学	1	
		人工呼吸療法学	2	
		人工呼吸実習	1	
		人体機能補助装置学	1	
		人体機能補助療法学	2	
	人体機能補助実習	1		
	全医用安全管理	医用機器安全管理学	2	
		医用機器安全管理学実習	1	
	関連臨床医学	関係法規	2	
		臨床医学総論（内科学・外科学）	2	
		内科学各論（循環器・呼吸器・腎・感染症）	2	
	実臨床	外科学各論（循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学）	2	
		臨床医学演習	1	
	専門特講	臨床実習	4	
		医用生体工学特講	1	
		医用機器学特講	1	
		生体機能代行技術特講	1	
		関連臨床医学特講	1	
	研究分野	先進科学技術	基礎工学特講	1
			先進科学技術論	1
			先進計測技術学	1
			先進治療技術学	1
			機能評価分析学	1
研卒業		機能評価学演習	1	
		医療情報システム学	1	
		医療情報システム学演習	1	
		医用ロボット工学	1	
		遺伝子検査学	1	
卒業研究Ⅰ	2			
卒業研究Ⅱ	2			
卒業要件（最低必要単位数）			126	

別表第8

医療技術学部 診療放射線学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	西洋史概説	2	
		英語 I (初級)	2	
		英語 II (中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	応用英語演習	2
			MBS (Morinomiya Basic Seminar)	1
チーム医療見学実習			1	
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学 I			2	
健康管理学 II			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群	基礎科目演習	数学	2	
		数学演習	1	
		物理学演習	1	
		生物学演習	1	
		化学演習	1	
		医学概論	1	
	人間の構造と機能及び 疾病の成り立ち	公衆衛生学	1	
		人体の構造 I	1	
		人体の構造 II	1	
		人体の機能 I	1	
		人体の機能 II	1	
		生化学	1	
		病理学	1	
		内科学 I	1	
		内科学 II	1	
		薬理学	1	
		看護学概論	1	
		基礎医学演習	1	
		外科学	1	
		救急災害医学	1	
	保健医療福祉における放射線の科学及び技術 並びに放射線の科学及び技術	電気・電子工学	2	
		医用工学	2	
		工学演習	1	
		情報処理工学	2	
		医療統計学	1	
		放射化学	2	
		放射線生物学	2	
		放射線化学・生物学演習	1	
		放射線物理学	2	
		放射線計測学	2	
		放射線物理学・計測学演習	1	
		放射線科学	1	
		専門基礎科目実験	2	

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	診療画像技術学	放射線医学概論	1	
		X線撮影技術学 I	2	
		X線撮影技術学 II	2	
		X線機器工学	2	
		放射線撮影技術学	2	
		CT・MRI撮影技術学	2	
		CT・MRI機器工学	2	
		撮影技術学・機器工学実験 I	1	
		撮影技術学・機器工学実験 II	1	
		画像解剖学	1	
		画像解剖学演習	1	
		機器工学演習	1	
		核医学検査	核医学検査技術学 I	2
			核医学検査技術学 II	2
	核医学検査技術学実験		1	
	放射性薬品学		1	
	放射線治療	放射線治療技術学 I	2	
		放射線治療技術学 II	2	
		放射線治療技術学実験	1	
	医用画像情報	放射線治療学	1	
		画像工学	2	
		医療情報学	1	
		医用画像情報学	2	
	安全管理学	医用画像情報学実験	1	
		放射線安全管理学	2	
		放射線関係法規	1	
	全放射線安全管理	安全管理学実験	1	
		医療安全管理学	2	
	臨床実習	断画像技術	2	
		臨床画像解剖学	2	
		臨床実習 I	6	
		臨床実習 II	2	
	専門特講	臨床実習 III	2	
		臨床実習ゼミナール	2	
		診療放射線	診療画像技術学特講	1
		核医学・放射線治療学特講	1	
放射線技術学特講		1		
研究分野	基礎医学特講	1		
	先進核医学	1		
	先進放射線治療学	1		
	先進画像解析学	1		
	先進医学	1		
卒業研究	卒業研究 I	2		
	卒業研究 II	2		
卒業要件 (最低必要単位数)			126	

別表第9
教職に関する科目 教育課程

区分	授業科目	単位数
教職に関する科目	保健体育科教育法Ⅰ	2
	保健体育科教育法Ⅱ	2
	保健体育科教育法Ⅲ	2
	保健体育科教育法Ⅳ	2
	教育原理	2
	教職論	2
	教育行政学	2
	教育心理学	2
	特別支援教育概論	1
	教育課程論	2
	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法	2
	特別活動論	2
	教育方法論	2
	生徒指導・進路指導論	2
	生徒指導論	2
	教育相談の基礎と方法	2
	教育実習事前事後指導	1
	教育実習Ⅰ	2
	教育実習Ⅱ	2
	養護実習(事前事後指導を含む)	5
	教職実践演習(中・高)	2
	教職実践演習(養護教諭)	2

別表第10

(単位：円)

学部名 学科名	学 年	入学料	授業料	教育充実費	合計	入学検定料
看護学部 看護学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	3年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	4年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
総合リハビリテーション学部 理学療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
総合リハビリテーション学部 作業療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
医療技術学部 鍼灸学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	3年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	4年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
医療技術学部 臨床検査学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
医療技術学部 臨床工学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
医療技術学部 診療放射線学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	

大学 学則改定 新旧対照表

(下線は変更部分)

現行	改定案																																																														
<p>(学部、学科、入学定員及び収容定員)</p> <p>第4条 本学保健医療学部鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科、臨床工学科及び診療放射線学科を置く。</p> <p>2 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">保健医療学部</td> <td>鍼灸学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>理学療法学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>看護学科</td> <td>90</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td>臨床検査学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td>40</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>臨床工学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>診療放射線学科</td> <td>80</td> <td>320</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>470</td> <td>1880</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 保健医療学部鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。</p> <p>4 鍼灸コースは、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。</p> <p>(学部及び学科の目的)</p> <p>第4条の2 保健医療学部は、大学の目的に則り、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。</p> <p>2 鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>3 鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の</p>	学部	学科	入学定員	収容定員	保健医療学部	鍼灸学科	60	240	理学療法学科	70	280	看護学科	90	360	臨床検査学科	70	280	作業療法学科	40	160	臨床工学科	60	240	診療放射線学科	80	320	合計		470	1880	<p>(学部、学科、入学定員及び収容定員)</p> <p>第4条 本学に<u>看護学部、総合リハビリテーション学部及び医療技術学部</u>を置く。</p> <p><u>2 看護学部</u>に看護学科を置き、<u>総合リハビリテーション学部</u>に理学療法学科及び作業療法学科を置き、<u>医療技術学部</u>に鍼灸学科、臨床検査学科、臨床工学科及び診療放射線学科を置く。</p> <p>3 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>看護学部</u></td> <td>看護学科</td> <td>90</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"><u>総合リハビリテーション学部</u></td> <td>理学療法学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td>40</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td rowspan="4"><u>医療技術学部</u></td> <td>鍼灸学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>臨床検査学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>臨床工学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>診療放射線学科</td> <td>80</td> <td>320</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>470</td> <td>1880</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>4 医療技術学部</u>鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。</p> <p><u>5 鍼灸コース</u>は、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。</p> <p>(学部の目的)</p> <p>第4条の2 <u>前条第1項に定める各学部の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。</u></p> <p><u>(1) 看護学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(2) 総合リハビリテーション学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーシ</u></p>	学部	学科	入学定員	収容定員	<u>看護学部</u>	看護学科	90	360	<u>総合リハビリテーション学部</u>	理学療法学科	70	280	作業療法学科	40	160	<u>医療技術学部</u>	鍼灸学科	60	240	臨床検査学科	70	280	臨床工学科	60	240	診療放射線学科	80	320	合計		470	1880
学部	学科	入学定員	収容定員																																																												
保健医療学部	鍼灸学科	60	240																																																												
	理学療法学科	70	280																																																												
	看護学科	90	360																																																												
	臨床検査学科	70	280																																																												
	作業療法学科	40	160																																																												
	臨床工学科	60	240																																																												
	診療放射線学科	80	320																																																												
合計		470	1880																																																												
学部	学科	入学定員	収容定員																																																												
<u>看護学部</u>	看護学科	90	360																																																												
<u>総合リハビリテーション学部</u>	理学療法学科	70	280																																																												
	作業療法学科	40	160																																																												
<u>医療技術学部</u>	鍼灸学科	60	240																																																												
	臨床検査学科	70	280																																																												
	臨床工学科	60	240																																																												
	診療放射線学科	80	320																																																												
合計		470	1880																																																												

<p>人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。</p> <p>4 理学療法学科は、科学性を持ちつつ人に優しい理学療法と、チーム医療を創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>5 看護学科は、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>6 臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>7 作業療法学科は、チーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>8 臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>9 診療放射線学科は、人間性豊かで高いモラルを有する医療人として、チーム医療における役割と職責を自覚し、放射線診療を実践できる確かな専門知識と技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p>	<p><u>ヨンを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(3) 医療技術学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、</u> 生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、<u>チーム医療において</u>科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。</p>
<p>(大学院)</p> <p>第4条の3 本学に大学院を置く。</p> <p>2 大学院に関する規則は別に定める。</p>	<p><u>(学科の目的)</u></p> <p><u>第4条の3 第4条第2項に定める各学科の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。</u></p> <p><u>(1) 看護学部看護学科は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、利他主義や論理性などの人間として豊かな教養、医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(2) 総合リハビリテーション学部理学療法学科は、チーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ、人に優しい理学療法を創造的に実践できる能力を身につけた</u></p>

<p>(専攻科)</p> <p>第4条の4 本学に次の専攻科を置く。</p> <p>(1) 助産学専攻科</p> <p>2 専攻科に関する規則は別に定める。</p> <p>(番号変更)</p>	<p><u>人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(3) 総合リハビリテーション学部作業療学科は、命の尊さや人としての尊厳を大切にする感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献する作業療法士の養成を目的とする。</u></p> <p><u>(4) 医療技術学部鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(5) 医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(6) 医療技術学部臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(7) 医療技術学部臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(8) 医療技術学部診療放射線学科は、人間性豊かで高いモラルを有する医療人として、チーム医療における役割と職責を自覚し、放射線診療を実践できる確かな専門知識と技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(大学院)</u></p> <p><u>第4条の4 本学に大学院を置く。</u></p> <p><u>2 大学院に関する規則は別に定める。</u></p> <p><u>(専攻科)</u></p> <p><u>第4条の5 本学に次の専攻科を置く。</u></p> <p><u>(1) 助産学専攻科</u></p> <p><u>2 専攻科に関する規則は別に定める。</u></p>
---	--

(教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。
- 9 診療放射線学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第8のとおりとする。

(教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
保健医療学部	鍼灸学科 スポーツ 特修コース	中学校教諭一種 免許状 高等学校教諭一 種免許状	保健体育 保健体育
	看護学科	養護教諭一種免 許状	養護

- 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第2の鍼灸学科スポーツ特修コースの教育課程及び別表第4の看護学科の教育課程及び別表第9の教職に関する科目のうちから、所定の単位を修得

(教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 看護学部**看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 総合リハビリテーション学部**理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 総合リハビリテーション学部**作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 医療技術学部**鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 医療技術学部**鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 医療技術学部**臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 医療技術学部**臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。
- 9 医療技術学部**診療放射線学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第8のとおりとする。

(教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
看護学部	看護学科	養護教諭一種免 許状	養護
医療技術学部	鍼灸学科 スポーツ 特修コース	中学校教諭一種 免許状 高等学校教諭一 種免許状	保健体育 保健体育

- 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第1の**看護学部看護学科**の教育課程及び別表第5の**医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コース**の教育課程及び別表第9の教職に関する科目のうちか

しなければならない。

3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

(学位の授与)

第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
保健医療学部	鍼灸学科	学士(鍼灸学)
	理学療法学科	学士(理学療法学)
	看護学科	学士(看護学)
	臨床検査学科	学士(臨床検査学)
	作業療法学科	学士(作業療法学)
	臨床工学科	学士(臨床工学)
	診療放射線学科	学士(診療放射線学)

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

- 2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 5 学部長は、本学の教授をもって充て、保健医療学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。
- 7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。
- 8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

ら、所定の単位を修得しなければならない。

3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

(学位の授与)

第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
看護学部	看護学科	学士(看護学)
総合リハビリテーション学部	理学療法学科	学士(理学療法学)
	作業療法学科	学士(作業療法学)
医療技術学部	鍼灸学科	学士(鍼灸学)
	臨床検査学科	学士(臨床検査学)
	臨床工学科	学士(臨床工学)
	診療放射線学科	学士(診療放射線学)

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

- 2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 5 学部長は、本学の教授をもって充て、**各**学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。
- 7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。
- 8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

<p>(教授会)</p> <p>第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。</p> <p>2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。</p> <p>3 教授会は理事長、学長、副学長、教授、准教授、講師及び事務局長をもって組織する。</p> <p>附 則 (追加)</p>	<p>(教授会)</p> <p>第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。</p> <p>2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。</p> <p><u>3 本条に定めるもののほか、教授会に関して必要な事項は、別に定める。</u></p> <p>附 則</p> <p><u>18 この学則は令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。</u></p>
--	---

別表第1

鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
	人間理解と社会	統計学	2
		心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
	語学	日本語 I (初級)	2
		英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	2
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学 I	2
		健康管理学 II	2
		栄養学	2
	身体運動科学	2	
	東洋医療概論	2	
	統合医療概論	2	
	人体の構造と機能	解剖学 I (骨・筋)	4
		解剖学 II (神経)	2
解剖学 III (内臓・脈管)		2	
生理学 I (動物生理学)		2	
生理学 II (植物生理学)		2	
生理学 III (応用生理学)		2	
運動学		2	
生化学		2	
病理学		2	
臨床医学総論		2	
疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	整形外科学	2	
	内科学	2	
	臨床医学各論 I	2	
	臨床医学各論 II	2	
	臨床医学各論 III	2	
	スポーツ医学	2	
	リハビリテーション医学	2	
	画像診断学	2	
	保健学公衆衛生学	2	
	保健医療倫理	1	
専門科目群	基礎はりきゅう学	経絡経穴学 I	1
		経絡経穴学 II	1
		経穴局所解剖演習 I	1
		経穴局所解剖演習 II	1
	はりきゅう学	鍼灸科学概論 I	1
		鍼灸科学概論 II	1
		東洋医学概論 I	1
		東洋医学概論 II	1
東洋医学概論 III	1		

別表第1

看護学部 看護学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
	人間理解と社会	統計学	2
		心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
	語学	日本語 I (初級)	2
		英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	2
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学 I	2
		健康管理学 II	2
		栄養学	2
	身体運動科学	2	
	東洋医療概論	2	
	統合医療概論	2	
	人体の構造と機能	形態機能学 I	1
		形態機能学 II	1
形態機能学 III		1	
形態機能学 IV		1	
フィジカルアセスメント		2	
疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	
	病理学	1	
	臨床薬理学	1	
	臨床病態学 I	1	
	臨床病態学 II	1	
	臨床病態学 III	1	
	臨床病態学 IV	1	
	臨床病態学 V	1	
	臨床心理学	2	
	社会健康支援と保健制度	医療概論	1
公衆衛生学		2	
看護関係法規		2	
疫学	2		

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	臨床はりきゆう学	鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅱ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅲ（内科系）	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論Ⅰ	1
	東洋医学各論Ⅱ	1	
	うきは社 学ゆり会	鍼灸経営論	1
		関係法規	1
	実習	基礎鍼灸技Ⅰ	1
		基礎鍼灸技Ⅱ	1
		基礎灸実技Ⅰ	1
		基礎灸実技Ⅱ	1
		応用鍼灸実技Ⅰ	1
		応用鍼灸実技Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
		実習床	附属施設所基礎実習
	附属施設所応用実習		2
	総合領域	キャリアデザイン	1
		鍼灸総合演習Ⅰ	2
		鍼灸総合演習Ⅱ	2
		鍼灸総合演習Ⅲ	2
		卒業研究Ⅰ	1
		卒業研究Ⅱ	1
専門領域	学外見学実習Ⅰ	1	
	学外見学実習Ⅱ	1	
	美容鍼灸学総論	1	
	テーピング技術論	1	
	コンディショニング技術論	1	
	スポーツ鍼灸学総論	1	
	スポーツ鍼灸学各論	1	
	介護学概論	1	
	老年ケア演習	1	
	美容鍼灸学各論Ⅰ	1	
	美容鍼灸学各論Ⅱ	1	
応用鍼灸学Ⅰ	1		
応用鍼灸学Ⅱ	1		
スポーツ経営学	1		
卒業要件（最低必要単位数）		126	

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎看護学	看護学概論	1
		看護理論	2
		生活援助論Ⅰ	2
		生活援助論Ⅱ	2
		診療援助論Ⅰ	2
		診療援助論Ⅱ	2
		看護過程演習	1
	在宅看護論	地域・在宅看護概論	2
		地域・在宅看護援助論Ⅰ	2
		地域・在宅看護援助論Ⅱ	1
	成人看護学	外来看護論	1
		成人看護学概論	2
		成人看護援助論Ⅰ	1
		成人看護援助論Ⅱ	1
		成人看護援助論Ⅲ	1
	看護学 老年	成人看護援助論Ⅳ	1
		老年看護学概論	2
		老年看護援助論Ⅰ	1
	看護学 母性	老年看護援助論Ⅱ	1
		母性看護学概論	2
母性看護援助論Ⅰ		1	
看護学 小児	母性看護援助論Ⅱ	1	
	小児看護学概論	2	
	小児看護援助論Ⅰ	1	
看護学 精神	小児看護援助論Ⅱ	1	
	精神看護学概論	2	
	精神看護援助論Ⅰ	1	
看護学 実践Ⅰ	精神看護援助論Ⅱ	1	
	健康教育論	2	
	家族看護学	1	
	看護管理論	1	
	災害・国際看護論	1	
	養護概説	2	
	学校保健	2	
	健康相談活動論	2	
	看護学 実践Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ	1
		基礎看護学実習Ⅱ	2
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	1
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2
		成人看護学実習Ⅰ（急性）	3
成人看護学実習Ⅱ（慢性）		3	
老年看護学実習		3	
母性看護学実習		2	
小児看護学実習		2	
精神看護学実習		2	
公衆衛生看護学実習		4	
公衆衛生看護学	主題実習Ⅰ	2	
	主題実習Ⅱ	1	
	公衆衛生看護学概論	2	
	公衆衛生看護学演習	2	
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	
	公衆衛生看護活動論Ⅲ	2	
	公衆衛生看護活動論Ⅳ	2	
	公衆衛生看護管理論	2	
	保健医療福祉行政論	2	
研卒業	看護研究	1	
	卒業研究	2	
看護学 実践Ⅲ	臨床看護学セミナーⅠ	2	
	臨床看護学セミナーⅡ	2	
	公衆衛生看護セミナー	2	
	臨床看護技術セミナー	1	
卒業要件（最低必要単位数）		127	

別表第2

鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
	人間理解と社会	統計学	2	
		心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
	語学	日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
		英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
共通科目群	保健医療	英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	2	
健康科学(スポーツ社会学を含む)	2			
健康管理学Ⅰ	2			
健康管理学Ⅱ	2			
栄養学	2			
身体運動科学	2			
東洋医療概論	2			
統合医療概論	2			
学科専門科目群	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ(骨・筋)	4	
		解剖学Ⅱ(神経)	2	
		解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2	
		生理学Ⅰ(動物生理学)	2	
		生理学Ⅱ(植物生理学)	2	
		生理学Ⅲ(応用生理学)	2	
		運動学	2	
		生化学	2	
		疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学	2
			臨床医学総論	2
	整形外科学		2	
	内科学		2	
	臨床医学各論Ⅰ		2	
	臨床医学各論Ⅱ		2	
	臨床医学各論Ⅲ		2	
	スポーツ医学		2	
	リハビリテーション医学		2	
	画像診断学		2	
	社会と医療の連携	衛生学公衆衛生学	2	
		保健医療倫理	1	
	基礎はりきゆう学	経絡経穴Ⅰ	1	
		経絡経穴Ⅱ	1	
		経穴局所解剖演習Ⅰ	1	
		経穴局所解剖演習Ⅱ	1	
		鍼灸科学概論Ⅰ	1	
鍼灸科学概論Ⅱ		1		
東洋医学概論Ⅰ		1		
東洋医学概論Ⅱ	1			
東洋医学概論Ⅲ	1			

別表第2

総合リハビリテーション学部 理学療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
	人間理解と社会	統計学	2
		心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
	語学	日本国憲法	2
		東洋史概説	2
		西洋史概説	2
		英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
共通科目群	保健医療	英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
健康科学(スポーツ社会学を含む)	2		
健康管理学Ⅰ	2		
健康管理学Ⅱ	2		
栄養学	2		
身体運動科学	2		
東洋医療概論	2		
統合医療概論	2		
学科専門科目群	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1
		人体の構造Ⅰ(神経系)	2
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	2
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	2
		基礎運動学	1
		臨床運動学	1
		運動学実習	1
	臨床心理学	1	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
		生化学	2
		病理学	2
		臨床病態学Ⅰ	2
		臨床病態学Ⅱ	2
		臨床病態学Ⅲ	2
		整形外科学	2
		小児科学(人間発達学)	2
		精神医学	2
		リハビリテーション医学(画像診断・予防・栄養含む)	2
		チームリハビリテーション概論	1
		介護学概論・ボランティア活動論	1
		スポーツ医学	1
テーピング技術論		1	

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	臨床はりきゆう学	鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅱ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅲ（内科系）	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論Ⅰ	1
		東洋医学各論Ⅱ	1
		東洋医学各論Ⅲ	1
	社会はりきゆう学	鍼灸経営論	1
		関係法規	1
	実習	基礎鍼灸技Ⅰ	1
		基礎鍼灸技Ⅱ	1
		基礎鍼灸実技Ⅰ	1
		基礎鍼灸実技Ⅱ	1
		応用鍼灸実技Ⅰ	1
		応用鍼灸実技Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学応用実習	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		東洋医学系鍼灸学応用実習	1
		応用鍼灸治療学	1
		臨床灸実習	1
		特殊鍼灸治療学	1
		実習床	附属施設所基礎実習
	附属施設所応用実習		2
	総合領域	キャリアデザイン	1
		鍼灸総合演習Ⅰ	2
		鍼灸総合演習Ⅱ	2
		鍼灸総合演習Ⅲ	2
		運動生理学	2
		運動生理機能学演習	2
		卒業研究Ⅰ	1
		卒業研究Ⅱ	1
		学外見学実習Ⅰ	1
		学外見学実習Ⅱ	1
	保健体育	スポーツ実習Ⅰ 体づくり運動	1
スポーツ実習Ⅱ 球技A		1	
スポーツ実習Ⅱ 球技B		1	
スポーツ実習Ⅱ 球技C		1	
スポーツ実習Ⅲ 陸上競技		1	
スポーツ実習Ⅳ 柔道		1	
スポーツ実習Ⅴ ダンス		1	
スポーツ実習Ⅵ 器械運動		1	
スポーツ実習Ⅶ 水泳		1	
スポーツ実習Ⅷ 生涯スポーツ		1	
学校保健（小児保健・精神保健）		2	
学校保健（学校安全・救急処置）		2	
トレーニング科学演習Ⅰ（レジスタンスエクササイズ1）		1	
トレーニング科学演習Ⅱ（エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング）		1	
トレーニング科学演習Ⅲ（レジスタンスエクササイズ2・水中運動）		1	
トレーニング科学演習Ⅳ（指導実習）		1	
体力トレーニング論		2	
テーピング技術論		1	
スポーツバイオメカニクス		2	
介護学概論		1	
老年ケア演習		1	
体育原理		2	
スポーツ心理学		2	
スポーツ鍼灸学総論		1	
スポーツ鍼灸学各論	1		
スポーツ傷害学・栄養学	2		
スポーツ経営学	1		
卒業要件（最低必要単位数）			144

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	基礎理学療法学	医療関係法規論	2
		理学療法触診法	1
		基礎理学療法学Ⅰ	1
		基礎理学療法学Ⅱ	1
		基礎理学療法学実習	1
		職場管理（教育を含む）	1
	理学療法評価学	職業倫理	1
		理学療法評価学総論	1
	理学療法治療学	理学療法評価学各論	2
		臨床理学療法評価学（動作分析）	1
		臨床理学療法評価学実習	1
		基礎日常生活活動学	1
		基礎運動療法学総論	1
		基礎運動療法学各論	1
		物理療法学	1
		運動器系理学療法学Ⅰ	1
		運動器系理学療法学Ⅱ	2
		運動器系理学療法学Ⅲ	1
		神経系理学療法学Ⅰ	1
		神経系理学療法学Ⅱ	2
		神経系理学療法学Ⅲ	1
		内部障害系理学療法学Ⅰ	1
	内部障害系理学療法学Ⅱ	2	
	内部障害系理学療法学Ⅲ	1	
	発達障害系理学療法学	1	
	義肢装具学	2	
	臨床理学療法治療学実習	1	
	地域学療法	地域理学療法学	2
		生活環境論	1
	総合領域	老年期理学療法学	1
		理学療法臨床推論概論	1
		理学療法臨床推論演習	1
		総合リハビリテーションIPW演習	1
		理学療法特論Ⅰ	1
		理学療法特論Ⅱ	1
		理学療法特論Ⅲ	2
		運動器系理学療法セミナー	1
		神経系理学療法セミナー	1
		内部障害系理学療法セミナー	1
	地域理学療法セミナー	1	
	卒業	卒業研究Ⅰ	2
		卒業研究Ⅱ	2
臨床実習	臨床見学実習	1	
	検査測定実習	1	
	臨床評価実習	4	
	地域理学療法実習	1	
		臨床総合実習Ⅰ	7
		臨床総合実習Ⅱ	7
卒業要件（最低必要単位数）			126

別表第3

理学療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学 I	2
		健康管理学 II	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	1
		人体の構造演習 I (運動器)	1
		人体の構造演習 II (運動器)	1
		人体の構造 I (神経系)	2
		人体の構造 II (循環・内臓)	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能 I (動物性機能)	2
		人体の機能 II (植物性機能)	2
		基礎運動学	1
		臨床運動学	1
		運動学実習	1
		臨床心理学	1
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
		生化学	2
		病理学	2
		臨床病態学 I	2
		臨床病態学 II	2
		臨床病態学 III	2
		整形外科学	2
		小児科学 (人間発達学)	2
		精神医学	2
		リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	2
		チームリハビリテーション概論	1
介護学概論・ボランティア活動論	1		
スポーツ医学	1		
テーピング技術論	1		

別表第3

総合リハビリテーション学部 作業療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学 I	2
		健康管理学 II	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	1
		人体の構造演習 I (運動器)	1
		人体の構造演習 II (運動器)	1
		人体の構造 I (神経系)	2
		人体の構造 II (循環・内臓)	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能 I (動物性機能)	2
		人体の機能 II (植物性機能)	2
		基礎運動学	2
		臨床運動学	2
		リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
	生化学	2	
	病理学	2	
	臨床病態学 I	2	
	臨床病態学 II	2	
	臨床病態学 III	2	
	整形外科学	2	
	小児科学 (人間発達学)	2	
	精神医学	2	
	精神医学各論	2	
	臨床心理学	1	
	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	1	
	医療関係法規論	2	
チームリハビリテーション概論	1		
介護学概論・ボランティア活動論	2		
スポーツ医学	1		

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	基礎理学療法	医療関係法規論	2
		理学療法触診法	1
		基礎理学療法Ⅰ	1
		基礎理学療法Ⅱ	1
		基礎理学療法実習	1
	理学療法管理	職場管理(教育を含む)	1
		職業倫理	1
	理学療法評価	理学療法評価学総論	1
		理学療法評価学各論	2
		臨床理学療法評価学(動作分析)	1
		臨床理学療法評価学実習	1
	理学療法治療学	基礎日常生活活動学	1
		基礎運動療法学総論	1
		基礎運動療法学各論	1
		物理療法学	1
		運動器系理学療法Ⅰ	1
		運動器系理学療法Ⅱ	2
		運動器系理学療法Ⅲ	1
		神経系理学療法Ⅰ	1
		神経系理学療法Ⅱ	2
		神経系理学療法Ⅲ	1
		内部障害系理学療法Ⅰ	1
		内部障害系理学療法Ⅱ	2
		内部障害系理学療法Ⅲ	1
		発達障害理学療法	1
	義肢装具学	2	
	臨床理学療法治療学実習	1	
	学地域療法	地域理学療法	2
		生活環境論	1
		老年期理学療法	1
	総合領域	理学療法臨床推論概論	1
		理学療法臨床推論演習	1
		総合リハビリテーションIPW演習	1
		理学療法特論Ⅰ	1
		理学療法特論Ⅱ	1
		理学療法特論Ⅲ	2
		運動器系理学療法セミナー	1
		神経系理学療法セミナー	1
	内部障害系理学療法セミナー	1	
	地域理学療法セミナー	1	
研究業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2	
臨床実習	臨床見学実習	1	
	検査測定実習	1	
	臨床評価実習	4	
	地域理学療法実習	1	
	臨床総合実習Ⅰ	7	
	臨床総合実習Ⅱ	7	
卒業要件(最低必要単位数)		126	

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	業療法基礎	基礎作業学	2
		作業科学入門	2
		作業療法概論	2
	作業療法管理	職場管理(教育を含む)	1
		職業倫理	1
	作業療法評価	作業療法評価学総論	2
		身体障害作業療法評価学	2
		精神障害作業療法評価学	1
		発達障害作業療法評価学	1
		高次脳機能障害作業療法評価学	1
		日常生活活動学	2
	作業療法治療学	身体障害作業療法治療学総論	2
		精神障害作業療法治療学総論	2
		高齢期障害作業療法治療学総論	2
		発達障害作業療法治療学総論	2
		身体障害作業療法治療学各論	1
		精神障害作業療法治療学各論	1
		高齢期障害作業療法治療学各論	1
		発達障害作業療法治療学各論	1
		義肢装具学	1
		作業療法特論Ⅰ	1
		作業療法特論Ⅱ	1
		身体障害作業療法治療学演習	1
		精神障害作業療法治療学演習	1
		高齢期障害作業療法治療学演習	1
	発達障害作業療法治療学演習	1	
	総合リハビリテーションIPW演習	1	
	業地域療法	地域作業療法学	2
		生活環境論	1
		障害者地域生活支援論	1
研究業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ(身体障害)	2	
	卒業研究Ⅱ(精神障害)	2	
	卒業研究Ⅱ(高齢期障害・地域)	2	
	卒業研究Ⅱ(発達障害)	2	
臨床実習	臨地見学実習	2	
	臨床検査実習	2	
	地域作業療法実習	1	
	臨床評価実習	4	
	臨床総合実習	16	
卒業要件(最低必要単位数)		126	

別表第4

看護学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	2	
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2	
		健康管理学Ⅰ	2	
		健康管理学Ⅱ	2	
		栄養学	2	
		身体運動科学	2	
		東洋医療概論	2	
		統合医療概論	2	
		学科専門科目群	人間の構造と機能	形態機能学Ⅰ
形態機能学Ⅱ	1			
形態機能学Ⅲ	1			
形態機能学Ⅳ	1			
フィジカルアセスメント	2			
生化学	2			
発達心理学	2			
疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学			1
	病理学			1
	臨床薬理学			1
	臨床病態学Ⅰ		1	
	臨床病態学Ⅱ		1	
	臨床病態学Ⅲ		1	
	臨床病態学Ⅳ		1	
	臨床病態学Ⅴ		1	
	臨床心理学		2	
	社会保健支援と疫学		医療概論	1
公衆衛生学			2	
看護関係法規			2	
保健統計学			2	
疫学		2		

別表第4

医療技術学部 鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	2	
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2	
		健康管理学Ⅰ	2	
		健康管理学Ⅱ	2	
		栄養学	2	
		身体運動科学	2	
		東洋医療概論	2	
		統合医療概論	2	
		学科専門科目群	人間の構造と機能	解剖学Ⅰ(骨・筋)
解剖学Ⅱ(神経)	2			
解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2			
生理学Ⅰ(動物生理学)	2			
生理学Ⅱ(植物生理学)	2			
生理学Ⅲ(応用生理学)	2			
運動学	2			
生化学	2			
疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学			2
	臨床医学総論			2
	整形外科学		2	
	内科学		2	
	臨床医学各論Ⅰ		2	
	臨床医学各論Ⅱ		2	
	臨床医学各論Ⅲ		2	
	スポーツ医学		2	
	リハビリテーション医学		2	
	画像診断学		2	
基礎はりきゅう学	衛生学公衆衛生学		2	
	保健医療倫理		1	
	経絡経穴Ⅰ	1		
	経絡経穴Ⅱ	1		
	経穴局所解剖演習Ⅰ	1		
	経穴局所解剖演習Ⅱ	1		
	鍼灸科学概論Ⅰ	1		
	鍼灸科学概論Ⅱ	1		
	東洋医学概論Ⅰ	1		
	東洋医学概論Ⅱ	1		
東洋医学概論Ⅲ	1			

区分		授業科目	単位数
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論	1
		看護理論	2
生活援助論 I		2	
生活援助論 II		2	
診療援助論 I		2	
診療援助論 II		2	
看護過程演習		1	
実習地	基礎看護学実習 I	1	
	基礎看護学実習 II	2	
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	2
		成人看護援助論 I	1
		成人看護援助論 II	1
		成人看護援助論 III	1
	看護学 老年	成人看護援助論 IV	1
		老年看護学概論	2
	看護学 母性	老年看護援助論 I	1
		老年看護援助論 II	1
		母性看護学概論	2
	看護学 小児	母性看護援助論 I	1
母性看護援助論 II		1	
小児看護学概論		2	
看護学 精神	小児看護援助論 I	1	
	小児看護援助論 II	1	
	精神看護学概論	2	
実習地	精神看護援助論 I	1	
	精神看護援助論 II	1	
	成人看護学実習 I (急性)	3	
	成人看護学実習 II (慢性)	3	
	老年看護学実習 I	3	
	老年看護学実習 II	1	
	母性看護学実習	2	
小児看護学実習	2		
在宅看護論	精神看護学実習	2	
	在宅看護概論	2	
	在宅看護援助論 I	1	
	在宅看護援助論 II	1	
看護の統合と実践 I	外来看護論	1	
	健康教育論	2	
	家族看護学	1	
	看護管理論	1	
	災害・国際看護論	1	
	義護概説	2	
	学校保健	2	
健康相談活動論	2		
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	
	公衆衛生看護学演習	2	
	公衆衛生看護活動論 I	2	
	公衆衛生看護活動論 II	2	
	公衆衛生看護活動論 III	2	
	公衆衛生看護活動論 IV	2	
	公衆衛生看護管理論	2	
保健医療福祉行政論	2		
実習地	在宅看護論実習	2	
	公衆衛生看護学実習	4	
	主題実習 I	2	
卒業と看護の統合	主題実習 II	1	
	看護研究	1	
卒業と看護の統合	卒業研究	2	
	臨床看護学セミナー I	2	
	臨床看護学セミナー II	2	
	公衆衛生看護セミナー	1	
卒業要件 (最低必要単位数)		126	

区分		授業科目	単位数
専門科目	臨床はりきゆう学	鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学 I (整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学 II (整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学 III (内科系)	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論 I	1
	東洋医学各論 II	1	
	うきは社会学ゆり会	鍼灸経営論	1
		関係法規	1
	実習	基礎鍼灸技 I	1
		基礎鍼灸技 II	1
		基礎灸実技 I	1
		基礎灸実技 II	1
		応用鍼灸実技 I	1
		応用鍼灸実技 II	1
		現代医学系鍼灸学実習 I	1
現代医学系鍼灸学実習 II		1	
現代医学系鍼灸学実習 III		1	
東洋医学系鍼灸学実習 I		1	
東洋医学系鍼灸学実習 II	1		
実習 臨床	東洋医学系鍼灸学実習 III	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 IV	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 V	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 VI	1	
総合領域	東洋医学系鍼灸学実習 VII	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 VIII	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 IX	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 X	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 XI	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 XII	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 XIII	1	
専門領域	東洋医学系鍼灸学実習 XIV	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 XV	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 XVI	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 XVII	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 XVIII	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 XIX	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 XX	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 XXI	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 XXII	1	
	東洋医学系鍼灸学実習 XXIII	1	
卒業要件 (最低必要単位数)		126	

別表第5

臨床検査学科 教育課程

区分		授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
	語学	西洋史概説	2		
		英語Ⅰ(初級)	2		
		英語Ⅱ(中級)	2		
		英会話	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	応用英語演習	2	
			MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
チーム医療見学実習			1		
医療コミュニケーション			1		
チーム医療論			1		
IPW論			1		
基礎体育			1		
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2		
健康管理学Ⅰ			2		
健康管理学Ⅱ			2		
栄養学			2		
身体運動科学			2		
東洋医療概論			2		
統合医療概論			2		
学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造と機能	人体の構造Ⅰ	2	
			人体の構造Ⅱ	2	
			人体の構造実習	1	
			人体の機能Ⅰ	2	
			人体の機能Ⅱ	2	
			生化学	2	
			生化学特論	2	
			生化学実習	1	
			分析化学	2	
			小児医学	2	
			老年医学	2	
			救急災害医学	2	
			薬理学	2	
			リハビリテーション概論	2	
	その基礎と関連学	臨床検査学	臨床検査学	臨床検査学総論	2
				検査技術科学序論	2
				病理学	2
				医学概論	2
				公衆衛生学	2
				医用工学概論	2
工学療	臨床検査学	臨床検査学	医用工学概論	2	
			医用工学実習	1	

別表第5

医療技術学部 鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分		授業科目	単位数				
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2				
		物理学	2				
		生物学	2				
		化学	2				
		情報処理	2				
		統計学	2				
	人間理解と社会	心理学	2				
		生命倫理学	2				
		哲学	2				
		社会福祉学	2				
		日本国憲法	2				
		東洋史概説	2				
	語学	西洋史概説	2				
		英語Ⅰ(初級)	2				
		英語Ⅱ(中級)	2				
		英会話	2				
		医学英語	2				
		基礎英語演習	2				
	共通科目群	保健医療	応用英語演習	2			
			MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1			
チーム医療見学実習			1				
医療コミュニケーション			1				
チーム医療論			1				
IPW論			1				
基礎体育			2				
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2				
健康管理学Ⅰ			2				
健康管理学Ⅱ			2				
栄養学			2				
身体運動科学			2				
東洋医療概論			2				
統合医療概論			2				
学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ(骨・筋)	4			
			解剖学Ⅱ(神経)	2			
			解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2			
			生理学Ⅰ(動物生理学)	2			
			生理学Ⅱ(植物生理学)	2			
			生理学Ⅲ(応用生理学)	2			
			運動学	2			
			生化学	2			
			その基礎と関連学	臨床検査学	臨床検査学	病理学	2
						臨床医学総論	2
	整形外科	2					
	内科学	2					
	臨床医学各論Ⅰ	2					
	臨床医学各論Ⅱ	2					
	臨床医学各論Ⅲ	2					
	スポーツ医学	2					
	リハビリテーション医学	2					
	画像診断学	2					
	基礎はりきゅう学	鍼灸学科	鍼灸学科	衛生学公衆衛生学	2		
				保健医療倫理	1		
経絡経穴Ⅰ				1			
経絡経穴Ⅱ				1			
経穴局所解剖演習Ⅰ				1			
経穴局所解剖演習Ⅱ				1			
鍼灸科学概論Ⅰ				1			
鍼灸科学概論Ⅱ				1			
東洋医学概論Ⅰ				1			
東洋医学概論Ⅱ				1			
東洋医学概論Ⅲ	1						

区分	授業科目	単位数	
学 科 専 門 科 目 群	臨床病態学	臨床病態学Ⅰ	2
		臨床病態学Ⅱ	2
	形態検査学	血液検査学Ⅰ	2
		血液検査学Ⅱ	2
		血液検査学実習	1
		病理検査学	2
		病理検査学実習	1
	生物化学検査学	一般検査学	1
		臨床化学検査学Ⅰ	2
		臨床化学検査学Ⅱ(放射性同位元素学含む)	2
		臨床化学検査学実習	1
		遺伝子検査学	2
	病 因 ・ 生 体 防 御 検 査 学	遺伝子検査学実習	1
		生命工学概論	1
		微生物検査学Ⅰ	2
		微生物検査学Ⅱ	2
		微生物検査学実習	1
		寄生虫検査学	1
		免疫検査学Ⅰ	2
		免疫検査学Ⅱ	2
		免疫検査学実習	1
		輸血・移植検査学	2
	生 理 機 能 検 査 学	輸血・移植検査学実習	1
		生理機能検査学Ⅰ	2
		生理機能検査学Ⅱ	2
		生理機能検査学実習Ⅰ	1
		生理機能検査学実習Ⅱ	1
	合 査 学 管 理 総 務 学	画像検査学	2
		超音波検査学Ⅰ	1
		超音波検査学Ⅱ	1
	検査総管理	検査総合管理学	2
		医療情報科学	2
	医 学 安 全 理 論	関係法規	1
		医療安全管理学	1
	総 合 領 域	臨床薬理学	2
		食品衛生学	1
		食品関係法規	1
		総合演習Ⅰ	2
		総合演習Ⅱ	2
	研 究 業	総合演習Ⅲ	2
		卒業研究Ⅰ	2
	実 習 地	卒業研究Ⅱ	2
臨地実習		7	
細 胞 診 断 学	臨床細胞学概論	1	
	臨床細胞学実習Ⅰ	1	
	臨床細胞学実習Ⅱ	1	
	臨床細胞学総論Ⅰ	1	
	臨床細胞学総論Ⅱ	1	
	臨床細胞学各論Ⅰ	1	
	臨床細胞学各論Ⅱ	1	
	臨床細胞学各論Ⅲ	1	
	細胞診断学実習Ⅰ	3	
	細胞診断学実習Ⅱ	3	
	細胞診断学実習Ⅲ	3	
細胞診断学特別実習Ⅰ	3		
細胞診断学特別実習Ⅱ	3		
卒業要件(最低必要単位数)		124	

区分	授業科目	単位数	
学 科 専 門 科 目 群	臨 床 は り き ゆう 学	鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学Ⅱ(整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学Ⅲ(内科系)	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論Ⅰ	1
	東洋医学各論Ⅱ	1	
	社 会 は り き ゆう 学	鍼灸経営論	1
		関係法規	1
	実 習	基礎鍼灸Ⅰ	1
		基礎鍼灸Ⅱ	1
		基礎灸実技Ⅰ	1
		基礎灸実技Ⅱ	1
		応用鍼灸実技Ⅰ	1
		応用鍼灸実技Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ		1	
東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ	1		
実 習 床	東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ	1	
	応用鍼灸治療学	1	
総 合 領 域	臨床灸実習	1	
	特殊鍼灸治療学	1	
	附属施術所基礎実習	2	
	附属施術所応用実習	2	
	キャリアデザイン	1	
	鍼灸総合演習Ⅰ	2	
	鍼灸総合演習Ⅱ	2	
	鍼灸総合演習Ⅲ	2	
	運動生理学	2	
	運動生理機能学演習	2	
卒業研究Ⅰ	1		
卒業研究Ⅱ	1		
保 健 体 育	学外見学実習Ⅰ	1	
	学外見学実習Ⅱ	1	
	スポーツ実習Ⅰ体づくり運動	1	
	スポーツ実習Ⅱ球技A	1	
	スポーツ実習Ⅱ球技B	1	
	スポーツ実習Ⅱ球技C	1	
	スポーツ実習Ⅲ陸上競技	1	
	スポーツ実習Ⅳ柔道	1	
	スポーツ実習Ⅴダンス	1	
	スポーツ実習Ⅵ器械運動	1	
	スポーツ実習Ⅶ水泳	1	
	スポーツ実習Ⅷ生涯スポーツ	1	
	学校保健(小児保健・精神保健)	2	
	学校保健(学校安全・救急処置)	2	
	トレーニング科学演習Ⅰ(レジスタンスエクササイズ1)	1	
	トレーニング科学演習Ⅱ(エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング)	1	
	トレーニング科学演習Ⅲ(レジスタンスエクササイズ2・水中運動)	1	
	トレーニング科学演習Ⅳ(指導実習)	1	
体力トレーニング論	2		
テーピング技術論	1		
スポーツバイオメカニクス	2		
介護学概論	1		
老年ケア演習	1		
体育原理	2		
スポーツ心理学	2		
スポーツ鍼灸学総論	1		
スポーツ鍼灸学各論	1		
スポーツ傷害学・栄養学	2		
スポーツ経営学	1		
卒業要件(最低必要単位数)		144	

別表第6

作業療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	西洋史概説	2
		英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
	共通科目群	保健医療	応用英語演習
MBS(Morinomiya Basic Seminar)			1
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学Ⅰ			2
健康管理学Ⅱ			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1
		人体の構造Ⅰ(神経系)	2
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	2
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	2
		基礎運動学	2
		臨床運動学	2
		リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
		生化学	2
		病理学	2
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床病態学Ⅰ	2
		臨床病態学Ⅱ	2
		臨床病態学Ⅲ	2
		整形外科学	2
		小児科学(人間発達学)	2
		精神医学	2
		精神医学各論	2
		臨床心理学	1
		リハビリテーション医学(画像診断・予防・栄養含む)	1
		医療関係法規論	2
		チームリハビリテーション概論	1
		介護学概論・ボランティア活動論	2
		スポーツ医学	1

別表第6

医療技術学部 臨床検査学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	西洋史概説	2
		英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
	共通科目群	保健医療	応用英語演習
MBS(Morinomiya Basic Seminar)			1
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学Ⅰ			2
健康管理学Ⅱ			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	人体の構造と機能	人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能Ⅰ	2
		人体の機能Ⅱ	2
		生化学	2
		生化学特論	2
		生化学実習	1
		分析化学	2
		小児医学	2
		老年医学	2
		救急災害医学	2
		薬理学	2
	リハビリテーション概論	2	
	その基礎と臨床検査と福祉医療	臨床検査学総論	2
		検査技術科学序論	2
		病理学	2
		医学概論	2
		公衆衛生学	2
		工医療	2
		医用工学概論	2
		医用工学実習	1

区分	授業科目	単位数
基礎学	基礎作業学	2
	作業科学入門	2
	作業療法概論	2
	職場管理(教育を含む)	1
作業療法管理学	職業倫理	1
	作業療法評価学総論	2
作業療法評価学	身体障害作業療法評価学	2
	精神障害作業療法評価学	1
	発達障害作業療法評価学	1
	高次脳機能障害作業療法評価学	1
作業療法治療学	日常生活活動学	2
	身体障害作業療法治療学総論	2
	精神障害作業療法治療学総論	2
	高齢期障害作業療法治療学総論	2
	発達障害作業療法治療学総論	2
	身体障害作業療法治療学各論	1
	精神障害作業療法治療学各論	1
	高齢期障害作業療法治療学各論	1
	発達障害作業療法治療学各論	1
	義肢装具学	1
	作業療法特論Ⅰ	1
	作業療法特論Ⅱ	1
	身体障害作業療法治療学演習	1
	精神障害作業療法治療学演習	1
高齢期障害作業療法治療学演習	1	
発達障害作業療法治療学演習	1	
総合リハビリテーションIPW演習	1	
地域学	地域作業療法学	2
	生活環境論	1
	障害者地域生活支援論	1
卒業研究	卒業研究Ⅰ	2
	卒業研究Ⅱ(身体障害)	2
	卒業研究Ⅱ(精神障害)	2
	卒業研究Ⅱ(高齢期障害・地域)	2
臨床実習	卒業研究Ⅱ(発達障害)	2
	臨地見学実習	2
	臨床検査実習	2
	地域作業療法実習	1
	臨床評価実習	4
	臨床総合実習	16
卒業要件(最低必要単位数)		126

区分	授業科目	単位数
臨床学	臨床病態学Ⅰ	2
	臨床病態学Ⅱ	2
形態検査学	血液検査学Ⅰ	2
	血液検査学Ⅱ	2
	血液検査学実習	1
	病理検査学	2
	病理検査学実習	1
生物検査学	一般検査学	1
	臨床化学検査学Ⅰ	2
	臨床化学検査学Ⅱ(放射性同位元素学含む)	2
	臨床化学検査学実習	1
	遺伝子検査学	2
病因子・生体防御検査学	遺伝子検査学実習	1
	生命工学概論	1
	微生物検査学Ⅰ	2
	微生物検査学Ⅱ	2
	微生物検査学実習	1
生理機能検査学	寄生虫検査学	1
	免疫検査学Ⅰ	2
	免疫検査学Ⅱ	2
	免疫検査学実習	1
	輸血・移植検査学	2
検査管理学	輸血・移植検査学実習	1
	生理機能検査学Ⅰ	2
	生理機能検査学Ⅱ	2
	生理機能検査学実習Ⅰ	1
	生理機能検査学実習Ⅱ	1
総合領域	画像検査学	2
	超音波検査学Ⅰ	1
	超音波検査学Ⅱ	1
	検査総合管理学	2
	医療情報科学	2
臨床検査学	関係法規	1
	医療安全管理学	1
	臨床薬理学	2
	食品衛生学	1
	食品関係法規	1
研究実習	総合演習Ⅰ	2
	総合演習Ⅱ	2
	総合演習Ⅲ	2
	卒業研究Ⅰ	2
	卒業研究Ⅱ	2
細胞診断学	臨床実習	7
	臨床細胞学概論	1
	臨床細胞学実習Ⅰ	1
	臨床細胞学実習Ⅱ	1
	臨床細胞学総論Ⅰ	1
	臨床細胞学総論Ⅱ	1
	臨床細胞学各論Ⅰ	1
	臨床細胞学各論Ⅱ	1
	臨床細胞学各論Ⅲ	1
	細胞診断学実習Ⅰ	3
	細胞診断学実習Ⅱ	3
細胞診断学実習Ⅲ	3	
細胞診断学特別実習Ⅰ	3	
細胞診断学特別実習Ⅱ	3	
卒業要件(最低必要単位数)		124

別表第7

臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
		統合医療概論	2
		学科専門科目群	人体の構造及び機能
公衆衛生学	2		
人体の構造Ⅰ	2		
人体の構造Ⅱ	1		
人体の機能Ⅰ	2		
人体の機能Ⅱ	1		
臨床工学に必要な医学的基礎	生化学		2
	病理学		2
	免疫学		2
	薬理学		2
	看護学概論		1
	基礎医学実習		1
臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学		2
	数学演習		1
	応用数学		2
	応用物理学		1
	応用化学		1
	電気工学Ⅰ		2
	電気工学Ⅱ		2
	電気工学実習		1
	電子工学Ⅰ		2
	電子工学Ⅱ		2
電子工学実習	1		
臨床工学に必要な情報技術と医療情報学の基礎	放射線工学概論		1
	情報処理工学	2	
	医療統計学	2	
	システム制御工学	2	
		情報処理・システム制御工学実習	1

別表第7

医療技術学部 臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
		統合医療概論	2
		学科専門科目群	人体の構造及び機能
公衆衛生学	2		
人体の構造Ⅰ	2		
人体の構造Ⅱ	1		
人体の機能Ⅰ	2		
人体の機能Ⅱ	1		
臨床工学に必要な医学的基礎	生化学		2
	病理学		2
	免疫学		2
	薬理学		2
	看護学概論		1
	基礎医学実習		1
臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学		2
	数学演習		1
	応用数学		2
	応用物理学		1
	応用化学		1
	電気工学Ⅰ		2
	電気工学Ⅱ		2
	電気工学実習		1
	電子工学Ⅰ		2
	電子工学Ⅱ		2
電子工学実習	1		
臨床工学に必要な情報技術と医療情報学の基礎	放射線工学概論		1
	情報処理工学	2	
	医療統計学	2	
	システム制御工学	2	
		情報処理・システム制御工学実習	1

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	専門科目	医用生体工学	生体物性工学	2
			生体材料工学	2
			バイオメカニクス	2
			バイオレオロジー	1
			計測工学	1
			生体情報処理工学	2
		医用機器学	医用機器学概論	2
			生体計測装置学	2
			生体計測装置学実習	1
			医用治療機器学	2
			医用治療機器学実習	1
			画像診断装置学	2
		生体機能代行装置学	体外循環装置学	1
			体外循環療法学	2
			体外循環実習	1
			血液浄化装置学	1
			血液浄化療法学	2
			血液浄化実習	1
	人工呼吸装置学		1	
	人工呼吸療法学		2	
	人工呼吸実習		1	
	全医用安全管理学	医用機器安全管理学	2	
		医用機器安全管理学実習	1	
		関係法規	2	
	関連臨床医学	臨床医学総論 (内科学・外科学)	2	
		内科学各論 (循環器・呼吸器・腎・感染症)	2	
		外科学各論 (循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学)	2	
		臨床医学演習	1	
	実習臨床	臨床実習	4	
	専門特講	技術臨床工学特講	医用生体工学特講	1
			医用機器学特講	1
			生体機能代行技術特講	1
			関連臨床医学特講	1
基礎工学特講			1	
研究分野	先進科学技術	先進科学技術論	1	
		先進計測技術学	1	
		先進治療技術学	1	
		機能評価分析学	1	
		機能評価学演習	1	
		医療情報システム学	1	
		医療情報システム学演習	1	
		医用ロボット工学	1	
		遺伝子検査学	1	
	先進科学技術演習	1		
研卒業	卒業研究 I	2		
卒業研究 II	2			
卒業要件 (最低必要単位数)			126	

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	専門科目	医用生体工学	生体物性工学	2
			生体材料工学	2
			バイオメカニクス	2
			バイオレオロジー	1
			計測工学	1
			生体情報処理工学	2
		医用機器学	医用機器学概論	2
			生体計測装置学	2
			生体計測装置学実習	1
			医用治療機器学	2
			医用治療機器学実習	1
			画像診断装置学	2
		生体機能代行装置学	体外循環装置学	1
			体外循環療法学	2
			体外循環実習	1
			血液浄化装置学	1
			血液浄化療法学	2
			血液浄化実習	1
	人工呼吸装置学		1	
	人工呼吸療法学		2	
	人工呼吸実習		1	
	全医用安全管理学	医用機器安全管理学	2	
		医用機器安全管理学実習	1	
		関係法規	2	
	関連臨床医学	臨床医学総論 (内科学・外科学)	2	
		内科学各論 (循環器・呼吸器・腎・感染症)	2	
		外科学各論 (循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学)	2	
		臨床医学演習	1	
	実習臨床	臨床実習	4	
	専門特講	技術臨床工学特講	医用生体工学特講	1
			医用機器学特講	1
			生体機能代行技術特講	1
			関連臨床医学特講	1
基礎工学特講			1	
研究分野	先進科学技術	先進科学技術論	1	
		先進計測技術学	1	
		先進治療技術学	1	
		機能評価分析学	1	
		機能評価学演習	1	
		医療情報システム学	1	
		医療情報システム学演習	1	
		医用ロボット工学	1	
		遺伝子検査学	1	
	先進科学技術演習	1		
研卒業	卒業研究 I	2		
卒業研究 II	2			
卒業要件 (最低必要単位数)			126	

別表第8

診療放射線学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
	語学	英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論	2			
学科専門科目群	基礎科目演習	数学	2	
		数学演習	1	
		物理学演習	1	
		生物学演習	1	
	人間の構造と機能及び 疾病の成り立ち	化学演習	1	
		医学概論	1	
		公衆衛生学	1	
		人体の構造Ⅰ	1	
		人体の構造Ⅱ	1	
		人体の機能Ⅰ	1	
		人体の機能Ⅱ	1	
		生化学	1	
		病理学	1	
		内科学Ⅰ	1	
		内科学Ⅱ	1	
		薬理学	1	
		看護学概論	1	
		基礎医学演習	1	
		外科学	1	
		救急災害医学	1	
	保健医療福祉における理工学的基礎 並びに放射線の科学及び技術	電気・電子工学	2	
		医用工学	2	
		工学演習	1	
		情報処理工学	2	
		医療統計学	1	
		放射化学	2	
		放射線生物学	2	
		放射線化学・生物学演習	1	
		放射線物理学	2	
		放射線計測学	2	
放射線物理学・計測学演習	1			
放射線科学	1			
専門基礎科目実験	2			

別表8

医療技術学部 診療放射線学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
	語学	英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論	2			
学科専門科目群	基礎科目演習	数学	2	
		数学演習	1	
		物理学演習	1	
		生物学演習	1	
	人間の構造と機能及び 疾病の成り立ち	化学演習	1	
		医学概論	1	
		公衆衛生学	1	
		人体の構造Ⅰ	1	
		人体の構造Ⅱ	1	
		人体の機能Ⅰ	1	
		人体の機能Ⅱ	1	
		生化学	1	
		病理学	1	
		内科学Ⅰ	1	
		内科学Ⅱ	1	
		薬理学	1	
		看護学概論	1	
		基礎医学演習	1	
		外科学	1	
		救急災害医学	1	
	保健医療福祉における理工学的基礎 並びに放射線の科学及び技術	電気・電子工学	2	
		医用工学	2	
		工学演習	1	
		情報処理工学	2	
		医療統計学	1	
		放射化学	2	
		放射線生物学	2	
		放射線化学・生物学演習	1	
		放射線物理学	2	
		放射線計測学	2	
放射線物理学・計測学演習	1			
放射線科学	1			
専門基礎科目実験	2			

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	診療画像技術学	放射線医学概論	1
		X線撮影技術学Ⅰ	2
		X線撮影技術学Ⅱ	2
		X線機器工学	2
		放射線撮影技術学	2
		CT・MRI撮影技術学	2
		CT・MRI機器工学	2
		撮影技術学・機器工学実験Ⅰ	1
		撮影技術学・機器工学実験Ⅱ	1
		画像解剖学	1
		画像解剖学演習	1
		機器工学演習	1
	核医学検査	核医学検査技術学Ⅰ	2
		核医学検査技術学Ⅱ	2
		核医学検査技術学実験	1
		放射性薬品学	1
	放射線治療技術学	放射線治療技術学Ⅰ	2
		放射線治療技術学Ⅱ	2
		放射線治療技術学実験	1
	医用画像情報学	放射線治療学	1
		画像工学	2
		医療情報学	1
		医用画像情報学	2
	放射線安全管理学	医用画像情報学実験	1
		放射線安全管理学	2
		放射線関係法規	1
	医療安全管理学	安全管理学実験	1
		医療安全管理学	2
	画像診断・技術	臨床画像解剖学	2
		臨床画像解析学	2
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	6
		臨床実習Ⅱ	2
		臨床実習Ⅲ	2
		臨床実習ゼミナール	2
	専門特講	診療画像技術学特講	1
		核医学・放射線治療学特講	1
		放射線技術学特講	1
		基礎医学特講	1
	研究分野	先進核医学	1
		先進放射線治療学	1
先進画像解析学		1	
先進医学		1	
卒業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2	
卒業要件（最低必要単位数）		126	

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	診療画像技術学	放射線医学概論	1
		X線撮影技術学Ⅰ	2
		X線撮影技術学Ⅱ	2
		X線機器工学	2
		放射線撮影技術学	2
		CT・MRI撮影技術学	2
		CT・MRI機器工学	2
		撮影技術学・機器工学実験Ⅰ	1
		撮影技術学・機器工学実験Ⅱ	1
		画像解剖学	1
		画像解剖学演習	1
		機器工学演習	1
	核医学検査	核医学検査技術学Ⅰ	2
		核医学検査技術学Ⅱ	2
		核医学検査技術学実験	1
		放射性薬品学	1
	放射線治療技術学	放射線治療技術学Ⅰ	2
		放射線治療技術学Ⅱ	2
		放射線治療技術学実験	1
	医用画像情報学	放射線治療学	1
		画像工学	2
		医療情報学	1
		医用画像情報学	2
	放射線安全管理学	医用画像情報学実験	1
		放射線安全管理学	2
		放射線関係法規	1
	医療安全管理学	安全管理学実験	1
		医療安全管理学	2
	画像診断・技術	臨床画像解剖学	2
		臨床画像解析学	2
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	6
		臨床実習Ⅱ	2
		臨床実習Ⅲ	2
		臨床実習ゼミナール	2
	専門特講	診療画像技術学特講	1
		核医学・放射線治療学特講	1
		放射線技術学特講	1
		基礎医学特講	1
	研究分野	先進核医学	1
		先進放射線治療学	1
先進画像解析学		1	
先進医学		1	
卒業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2	
卒業要件（最低必要単位数）		126	

別表第10

(単位：円)

学部名 学科名	学 年	入学料	授業料	教育 充実費	合計	入学 検定料
保健医療学部 鍼灸学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	3年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	4年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
保健医療学部 理学療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
保健医療学部 看護学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	3年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	4年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
保健医療学部 臨床検査学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
保健医療学部 作業療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
保健医療学部 臨床工学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
保健医療学部 診療放射線学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	

別表第10

(単位：円)

学部名 学科名	学 年	入学料	授業料	教育 充実費	合計	入学 検定料
看護学部 看護学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	3年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	4年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
総合リハビリテーション学部 理学療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
総合リハビリテーション学部 作業療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
医療技術学部 鍼灸学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	3年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	4年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
医療技術学部 臨床検査学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
医療技術学部 臨床工学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
医療技術学部 診療放射線学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	

森ノ宮医療大学 教授会規程

平成19年4月1日制定
平成22年10月19日改定
平成26年7月29日改定
平成27年4月1日改定
平成28年5月24日改定
令和元年6月18日改定
令和2年10月20日改定

(趣旨)

第1条 森ノ宮医療大学学則の規定による森ノ宮医療大学教授会（以下「教授会」という。）の組織、権限、運営等については、この規程の定めるところによる。

(審議事項)

第2条 教授会は、次に掲げる事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 教育課程の編成に関する事
- (2) 授業及び試験に関する事
- (3) 学生の入学、卒業または課程の修了、その他学生の在籍に関する事、及び学位の授与に関する事
- (4) 学生指導に関する事
- (5) その他、教育または研究に関する事項

2 前項の規定に掲げる事項のほか、理事長ならびに学長の諮問した事項を審議し、意見を述べることができる。

(組織)

第3条 教授会は森ノ宮医療大学（以下「本学」という。）の理事長ならびに学長、教授、准教授、専任講師、事務局長をもって組織する。

(議長)

第4条 教授会は、学長が招集し、その議長となる。

2 議長に事故あるときは、構成員のうちから議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。

(招集)

第5条 教授会は、前条の規定に関する事項について、審議する必要があると認めるときに、あらかじめ審議事項を通知して招集する。ただし、緊急の場合は、この限りではない。

(議事)

- 第6条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
- 2 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の時は、議長が決す。ただし、特別の必要があると認められるときは別に定める割合以上の多数をもって議決することがある。
- 3 教授会は、必要があると認めたときは、構成員以外の者を教授会に出席させることができる。

(議事録)

第7条 議長は、議事録を作成しなければならない。

(議案の提出)

- 第8条 教授会に議案を提出しようとする者は、会議の開催日の3日前までに議長に申し出なければならない。
- 2 臨時に教授会を開くことを要求する者は、議長に議案を添えて申し出なければならない。

(委員会)

第9条 教授会に専門的事項を審議するため、委員会を置くことができる。

(事務)

第10条 教授会の事務は、大学教務室において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規程は平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程は平成22年10月19日から施行する。
- 3 この規程は平成27年4月1日から施行する。
- 4 この規程は平成28年5月24日から施行する。
- 5 この規程は令和元年6月18日から施行する。
- 6 この規程は令和2年10月20日から施行する。

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部

理学療法学科 作業療法学科

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

1	設置の趣旨及び必要性	1
	(1) 大学設置の沿革	1
	(2) 総合リハビリテーション学部設置の趣旨	2
	(3) 総合リハビリテーション学部設置の必要性	2
	(4) 教育研究上の目的及び学位授与の方針（ディプロマポリシー）	7
2	学部・学科等の特色	10
	(1) 総合リハビリテーション学部の特色	10
	(2) 理学療法学科の目的と特色	11
	(3) 作業療法学科の目的と特色	12
3	学部・学科等の名称及び学位の名称	13
4	教育課程の編成の考え方及び特色	14
	(1) 教育課程の基本構成と方針（カリキュラム・ポリシー）	14
	(2) 教養科目群の編成と特色	15
	(3) 共通科目群の編成と特色	16
	(4) 学科専門科目群（専門基礎科目）の編成と特色	16
	(5) 学科専門科目群（専門科目）の編成と特色	18
	(6) 卒業認定	20
5	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	21
	(1) 教育方法	21
	(2) 履修方法とその指導	23
	(3) 卒業要件	23
6	実習の具体的計画 理学療法学科	24
	(1) 実習計画の概要	24
	(2) 実習指導体制と方法	28
	(3) 大学と実習施設との連携体制と方法	29
	(4) 大学における具体的な成績評価体制、単位認定方法・基準	30
7	実習の具体的計画 作業療法学科	31
	(1) 実習計画の概要	31
	(2) 実習指導体制と方法	34
	(3) 大学と実習施設との連携体制と方法	35
	(4) 単位認定評価方法	38
8	取得可能な資格	39

(1) 理学療法学科	39
(2) 作業療法学科	39
9 入学者選抜の概要	39
(1) 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）	39
(2) 入学者選抜方法	40
(2) 入学前教育	42
10 教員組織の編制の考え方及び特色	43
(1) 教員組織の編制について	43
(2) 主要科目と教員配置について	44
(3) 教員の年齢構成について	45
(4) 若手教員の育成計画	46
11 施設、設備の整備計画	47
(1) 校地、運動場の整備計画	47
(2) 校舎等施設の整備計画	49
(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画	51
12 管理運営	53
(1) 教学面における管理運営体制	53
(2) 教授会に関連する下部組織としての委員会	54
13 自己点検・評価	54
(1) 実施の方法と体制	54
(2) 結果の活用・公表	55
(3) 評価項目	56
(4) 認証評価	57
14 情報の公表	57
(1) 大学の教育研究上の目的に関する事	57
(2) 教育研究上の基本組織に関する事	57
(3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する事	58
(4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数、並びに進学者数及び就職者数、その他進学及び就職等の状況に関する事	58
(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する事	58
(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する事	58
(7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する事	58
(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する事	59
(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する事	59
(10) その他	59

1 5	教育内容の改善を図るための組織的な研修等	60
	(1) 自己点検評価・FSD 委員会実施体制	60
	(2) SD の実施体制	60
	(3) FD の実施体制	61
1 6	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	62
	(1) 教育課程内の取り組み	62
	(2) 教育課程外の取り組みについて	64
	(3) 適切な体制の整備	64

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部
理学療法学科 作業療法学科
設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 大学設置の沿革

学校法人森ノ宮医療学園は、「臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する」という建学の精神のもと、昭和 48（1973）年、大阪市東成区に鍼灸師養成のための専門学校「大阪鍼灸専門学校（現：森ノ宮医療学園専門学校）」を開設した。その後は、「生命（いのち）への愛と畏敬」を学園の精神とし、基本理念である「人によりそい幸福（しあわせ）を希う学園」を目指して発展を続けてきた。平成 12（2000）年には同専門学校に柔道整復学科を新設し、これまでに 3,000 人以上の鍼灸師、1,500 人以上の柔道整復師を輩出している。

平成 19（2007）年 4 月には、大阪市住之江区に保健医療学部鍼灸学科と理学療法学科を備えた森ノ宮医療大学を開設した。森ノ宮医療大学は、設立の目的を「幅広い知識と高度な専門技術を有し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と高い倫理観を備えた専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす」と定めている。

また、開学から 4 年後の平成 23（2011）年 4 月には、保健医療学部看護学科と、大学院保健医療学研究科保健医療学専攻（修士課程）を設置し、さらに 5 年後の平成 28

（2016）年 4 月には、保健医療学部臨床検査学科と作業療法学科の 2 学科と、1 年課程の助産学専攻科を設置、平成 30（2018）年 4 月には保健医療学部臨床工学科と、大学院保健医療学研究科医療科学専攻（博士後期課程）を設置、令和 2（2020）年 4 月に保健医療学部診療放射線学科と大学院保健医療学研究科看護学専攻（修士課程）設置したことから、本学は現在 1 学部 7 学科、1 専攻科、大学院 1 研究科 3 専攻（修士課程・博士後期課程）という体制になった。

令和 4（2022）年 4 月に保健医療学部を再編し、総合リハビリテーション学部と看護学部を新設し、保健医療学部を医療技術学部へ名称変更することで、大学の目的として掲げるチーム医療の教育をより充実させるとともに、広く社会に貢献できる医療人の育成を通してさらなる保健医療分野の発展に寄与することを目指す。

(2) 総合リハビリテーション学部設置の背景

これまで、本学では保健医療学部の中で理学療法学科、作業療法学科としてリハビリテーション医学教育を実践し、「チーム医療」の中で活躍し得る人材の育成に貢献してきた。その上で、我が国のリハビリテーション医療を取り巻く環境の変化、今般の新型コロナウイルス感染症のように、グローバル化に伴う全世界規模での医療環境の変化に機敏に対応できる人材育成を目指して、以下の観点から総合リハビリテーション学部の設置を目指す。

厚生労働省「令和2年版厚生労働白書」によれば、平成2（1990）年に12.1%であった我が国の高齢化率は令和元（2019）年までの間に16.3ポイント上昇して、28.4%に達しており、30年間で急激な高齢化が進行した。他方、内閣府「令和2年版高齢社会白書」によると、我が国の65歳以上人口は、「団塊の世代」（ベビーブーム世代）が75歳以上となる令和7（2025）年には3,677万人に達すると見込まれている。その後も65歳以上人口は増加傾向が続き、令和24（2042）年に3,935万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計している。我が国における高齢化の問題は、高齢化の進展の「速さ」の問題だけでなく、高齢化率の「高さ」（＝高齢者数の多さ）への対応が問題となっていると考えられている【資料1-1】。

そのような中、厚生労働省は、平成30（2018）年に「未来投資戦略2018」を発表し、その中で「健康寿命の延伸」を重点施策のひとつとして位置づけている。したがって、リハビリテーションに携わる理学療法士、作業療法士等の専門職に対しても、「チーム医療」の中での知識や技能に加えて、リハビリテーション対象者の「健康寿命の延伸」をも見据えた多様な要望に対応するアプローチが期待されており、今後は更なる資質の向上が求められる。つまり、医師のリーダーシップのもとで、リハビリテーションの専門職として「自律性」を持った対応や判断ができる人材育成が必須である。そのためには、絶え間なく変化していく医療環境の中で、リハビリテーションに求められる社会の要望や期待がどのようなものであるかを明確にする能力の涵養が必要となる。

【資料1-1】高齢化の推移と将来推計（令和2年版高齢社会白書）

(3) 総合リハビリテーション学部設置の必要性

ア. 総合リハビリテーション学部設置の必要性

本学ではこれまでに保健医療学部の既存7学科で「チーム医療」に貢献できる人材育成を実践してきた。その中で「理学療法学科」、「作業療法学科」は、その他の5学科とともに

に「横並び」の関係で教育を行ってきた。今回、設置する「総合リハビリテーション学部」では、「リハビリテーション」という広い視点に移して理学療法士、作業療法士が果たすべき役割について思考できるカリキュラムを構築し、自分自身が専門職として他の医療スタッフを尊重しつつ、対象者に最適なリハビリテーション医療を提供できる人材育成を目指す。また、卒後教育においても、リアルタイムで最新情報を大学と卒業生との双方向で共有し、リハビリテーション医療のさらなる前進への貢献を目指す。

平成 22 (2010) 年の厚生労働省「チーム医療の推進に関わる検討会」では、医療スタッフの専門性の向上や業務範囲・役割の拡大を活かして医師からの「包括的指示」を活用しつつ各医療スタッフの専門性に積極的に委ねることの必要性、すなわち医療専門職として「自律性」の重要性が提言されている。平成 19 (2007) 年の開学以来、本学で実践してきた「チーム医療」を支える教育をさらに推し進め、リハビリテーション医療の中で専門職として「自律的」に思考する能力を持った理学療法士、作業療法士を育成することは、社会の要請と期待に応えるものであるといえる。

本学が計画している総合リハビリテーション学部は、既設の保健医療学部での基礎医学、臨床医学の教育を基本として、リハビリテーション職としての専門的知識・技術を修得し、リハビリテーション分野において今後求められる、保健・医療から介護・地域への領域の広がりまでを包含したリハビリテーション教育を目指すものである。それぞれの学科での専門性を活かしながら、同じリハビリテーション分野の学科で構成された学部化の実現により、課題に協力して共同で取り組み、今後求められる「自律性」を持ったリハビリテーション医療職の育成が可能となると考えている。

また、近畿エリアにおいて、令和 3 年 (2021) 年 4 月現在、理学療法学科 (専攻を含む) を設置している大学は 26 校、このうち大阪府には本学を含めて 13 校である。また、令和 3 年 (2021) 年 4 月現在、近畿エリアにおいて、作業療法学科 (専攻を含む) を設置している大学は 20 校、このうち大阪府には本学を含めて 11 校である。なお、近畿エリアにおいてリハビリテーション分野で構成された総合リハビリテーション学部 (リハビリテーション学部を含む) を持つ大学は 6 大学、このうち大阪府では 3 大学に設置されている【資料 1-2】。

これらの設置状況から近畿エリアにおいては、他の医療専門職を含めて構成された学部における学科単位でのリハビリテーション教育が主流であるといえ、リハビリテーション分野で構成された学部単位での教育を行う大学、すなわち総合リハビリテーション学部を持つ大学はまだ多くはなく、エリアから見た本学の総合リハビリテーション学部設置に対する必要性があると考えている。

イ. 理学療法士・作業療法士の現状と社会的ニーズ

(ア) 理学療法士

我が国の高齢化の進展に伴い、令和 7（2025）年には 65 歳以上の高齢者人口が 3 割を超え、令和 37（2055）年には 4 人に 1 人が 75 歳以上になるという推計がある。

そういった高齢化と共に医療の需要が増大している中、地域医療構想として、高度急性期、急性期、回復期、慢性期病床の機能分化・連携が進められている。そのような地域医療構想における各領域でのニーズに対応するリハビリテーション専門職の必要性が高まっている。

また、令和 7（2025）年に向けて、地域包括ケアシステムの構築を進めていく中、在宅医療や介護などの分野においても、高齢者の単身世帯の増加に伴う生活支援のニーズは急速に高まっていくことが予想される。しかしそのような社会的ニーズを支えることができるリハビリテーション専門職数は、要介護度者の増加に対応できるほど充足しておらず、その確保が急務となっている。

上記のような状況下において、その社会的ニーズに応えることができるリハビリテーション専門職の一つが理学療法士である。理学療法は、身体に障害のある者に対して、その基本的動作能力の回復を図るため、標準的なエビデンスに個別性を加えた運動療法、物理療法、動作指導を対象者に提供することができる。そしてその対象は、脳血管疾患、運動器疾患を筆頭に、呼吸器疾患、心疾患が、診療報酬の体系の中で核として位置づけられている。さらに、地域住民・虚弱高齢者などに対する地域での介護予防や、スポーツ領域における選手パフォーマンスの向上、コンディショニングの維持管理、産業保健領域では、勤労者の腰痛予防、運動指導による復職支援、生産性向上などが可能である。

よって、このように多岐に渡る領域において、高まっている社会的ニーズを満たすためには、今後より一層、質と量を高めた理学療法士の養成を進める必要がある。

しかし本学科では、今まで、基本動作能力の回復のための理学療法にやや偏ったリハビリテーションの教育が進められてきたため、上記のような、特に生活期について、今後の社会的ニーズに対応できない部分が生じる可能性が懸念された。そこで、今後は生活期と社会復帰を見据えた広い視野を持つために、リハビリテーション専門職の一つである作業療法士とのシームレスな連携を含めたリハビリテーションチームアプローチの視点を兼ね備えることが重要だと考えた。

その結果、本学では、理学療法学科と作業療法学科を総合リハビリテーション学部に再編し、一部のカリキュラムを共有することで、高度なリハビリテーション医療の視点が生まれ、教育の質を高めることが可能であると考えた。

最後に、需給バランスについて触れておきたい。病院で働く理学療法士の数は、平成 19

(2007)年から平成29(2017)年の間に3万4783人から9万1695人へと3倍以上の伸びを示しており、理学療法士はリハビリテーション専門職の中でも、作業療法士とともに増加が目立つ職種の一つとなっている【資料1-3】。病院に対する調査においても、理学療法士は基準上充足していると答える病院が9割を超えている反面、運営上では充足していないと答えている病院の割合も4割を超えている状況である【資料1-4】。募集の現状と将来の見通しについての回答では、理学療法士を増やしたいが、募集人数に比べて集まらないという声が上がっており、近畿エリアは他地域と比較してその割合が高い【資料1-5】。また、病院だけでなく、介護保険施設や居宅サービス事業所などの介護サービス施設で従事している理学療法士の数も8772人から2万7789人へと3倍以上に増えている。

本学の理学療法学科においては開学初期より、求人倍率は10～15倍を維持している。全国の理学療法士の需給バランスを鑑みると、供給数が増えてきている現在にあつて、これほどの求人数を継続し得ている本学は、社会から期待されている証拠と言える。よって今後もリハビリテーション医療・福祉を中心とした領域に質の高い理学療法士を継続して輩出する必要があると考える。

(イ) 作業療法士

超高齢社会が進展する中、わが国の医療保険や介護保険などの社会保障制度の整備、改革が進められている。このような背景の中で、病院で行われる急性期のリハビリテーション、回復期のリハビリテーション、さらには、在宅を中心とした生活期リハビリテーションにおいて、高齢者の寝たきり予防、健康寿命の延伸を目指した介護予防への取り組みなど、保健・医療・福祉領域のリハビリテーション専門職としての作業療法士の活動は幅広く行われており、医療機関以外からの需要が高まっている。

作業療法士は、クライアントが必要とする意味のある作業を捉え、その作業とクライアントを結びつける事により、健康に貢献する専門職である。したがって、生活に最低限必要な排泄や食事等ができるための身体機能面の回復を目指すだけでなく、より充実した生活をはじめ、趣味や余暇活動、スポーツや買い物、仕事、旅行など、クライアントに満足感や充足感をもたらす様々な活動をも可能にすることを旨とする。作業療法は作業を通じて生活を創造し、生きがいを支援することを本質としており、作業療法士が社会に於いて果たす役割は、近年ますます拡大している。

例えば、病院で働く作業療法士の数は、平成19(2007)年から平成29(2017)年の間に2万1777人から4万7852人へと3倍以上の伸びを示しており、作業療法士はリハビリテーション専門職の中でも、理学療法士とともに増加が目立つ職種の一つとなっている【資料

1-3】。病院に対する調査においても、作業療法士は基準上充足していると答える病院が多い反面、運営上では充足していないと答えている病院の割合が多く、作業療法士を増やしたいが、募集人数に比べて集まらないという声が上がっている【資料1-6】。また、近畿では令和7(2025)年までに作業療法士の雇用を増やすとする病院が半数近くを占めている。また、病院だけでなく、介護保険施設や居宅サービス事業所などの介護サービス施設で従事している作業療法士の数も増えている【資料1-7】。本学においても、令和元(2019)年度の作業療法士の求人は843件となっており、定員に対する求人倍率は21倍となっている。

作業療法士の有資格者は、平成26(2014)年には7万人を突破したが、大阪エリアにおける作業療法士はまだまだ足りないのが現状である。平成30(2018)年度の日本作業療法士協会の会員数を都道府県別に見ると、大阪府は東京都、福岡県について第3位であるが【資料1-8】、人口10万人に対する数では大阪府の作業療法士数は少なく、供給の必要性が高いことが伺える。

作業療法士の養成校の数は、平成12(2000)年の養成校設置に関する規制緩和を機に急増し、平成26(2014)年には全国で180校を超え、入学定員も7,000人を超えるまで拡大しているが、平成22(2010)年頃より養成校の数は横ばい傾向にある。作業療法士の需給推計(案)では、現時点では供給数は需要数を上回っているものの、平成22(2010)年頃には需要数の1.5倍とされている。また、作業療法士の国家試験合格率は、平成20(2008)年頃から90%を下回るようになり、合格率の低下傾向が懸念されている。

これらのことから、作業療法士は現時点では病院での需要も高く、なお且つ病院以外の在宅・地域における領域からのニーズも高いが、養成校の拡大により質の低下が懸念されている。このような中で総合リハビリテーション学部にも再編して、学生教育の質を高めることが必要に重要であると考えられる。

(ウ) 入学定員

前項で述べた社会ニーズに加え、本学の施設・設備、教室等の状況から教育の質を保つことが可能な入学定員数を検討し、理学療法学科の入学定員を70名、作業療法学科の入学定員を40名に設定した。なお、この定員は現在の保健医療学部理学療法学科及び作業療法学科の入学定員と同数である。

【資料1-2】 近畿エリアのリハビリテーション分野設置大学

【資料1-3】 理学療法士・作業療法士従事者数の年次推移

【資料1-4】 病院に勤務する理学療法士数の充足

【資料1-5】 理学療法士雇用の意向と現状

【資料 1-6】 病院に勤務する作業療法士数の充足

【資料 1-7】 作業療法士雇用の意向と現状

【資料 1-8】 日本作業療法士協会 都道府県別会員数

(4) 教育研究上の目的及び学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

ア. 総合リハビリテーション学部が研究対象とする学問分野

総合リハビリテーション学部の教育研究上の中心的学問分野は「リハビリテーション分野」である。研究の対象とする主たる学問分野は、「リハビリテーション学」及び関連した保健医療分野である。理学療法学科では「理学療法学」、作業療法学科では「作業療法学」を研究対象とする。

イ. 教育研究上の目的

森ノ宮医療大学は、「幅広い知識と高度な専門技術を有し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と高い倫理観を備えた専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす」ことを目的とする。

なお、ここで言う「高度な専門技術」とは、大学教育で重視される教養教育や、基礎から応用まで体系的に積み上げられた専門教育をベースに、専門性を更に深めていく中で身につけていく様々なスキルの事であり、将来、医療の専門家として頼られ、各分野で重要な役割を担っていくために欠かせないものと考えている。また、保健医療学部は上で述べた大学の目的に則り、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的としている。

総合リハビリテーション学部においては、豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーションを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成することを目的としている。

理学療法学科の教育研究上の目的は以下のとおりである。

(ア) どのような人材を養成するのか

チーム医療に貢献できる貢献性と科学性を持ちつつ、人に優しい理学療法を創造的に実践できる能力を身につけた人材を養成する。

(イ) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

- ・急性疾患、慢性疾患に伴い、障害を抱えて生活する人々の身体的な機能回復や健康管理のための理学療法を理解し、実践に即した高い知識と専門技術を習得させる。
- ・社会人としての素養を高めつつ、他者の想いを理解し、コミュニケーション能力を駆使して、チーム医療に貢献できる協調性のある人材を養成する。
- ・科学的根拠に基づいた治療（EBM）だけでなく、生命と真摯に向き合い、人の思いに寄り添った治療（NBM）も尊重できるような豊かな人間力を育む。
- ・様々な障害や生活習慣病、そしてフレイルなど、地域の全ての世代のニーズを見極め、主体的に問題を解決することができる人材を養成する。

作業療法学科の教育研究上の目的は以下のとおりである。

(ア) どのような人材を養成するのか

命の尊さや人としての尊厳を大切にする感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献する作業療法士を養成する。

(イ) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

- ・チームの一員として、関連専門職種との緊密な連携と協業を実践するために求められる豊かな感性やコミュニケーション能力を習得させる。
- ・東洋医学的な視点を踏まえ、クライアント自身を理解した作業療法を行える能力を習得させる。
- ・子どもから高齢者までが、住み慣れた地域でその人らしく暮らせるよう、地域リハビリテーションの水準向上に貢献できる能力を習得させる。

ウ. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

(ア) 理学療法学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

理学療法学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（理学療法学）の学位が与えられる。これは理学療法士国家試験受験資格となる。チーム医療に貢献できる貢献性と科学性を持ちつつ人に優しい理学療法を創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与する。

【DP1】精度の高い専門的知識と専門技術

地域社会や医療現場等でのチームにおける理学療法の役割を理解し、それぞれの専門領域において、実践に即した精度の高い知識と専門技術を発揮することができる。

【DP2】 チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた理学療法を提供することができる。

【DP3】 豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。

【DP4】 主体的問題解決能力

理学療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々のニーズを見極め、個別のニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。

(イ) 作業療法学科の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

作業療法学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（作業療法学）の学位が与えられる。これは作業療法士国家試験受験資格となる。チーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与する。

【DP1】 精度の高い専門的知識と専門技術

保健・医療・福祉の現場でのチームにおける作業療法の役割を理解し、それぞれの専門職の立場を理解した上で、作業療法実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用することができる。

【DP2】 チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた作業療法を提供することができる。

【DP3】 豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。

【DP4】 主体的問題解決能力

作業療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々の作業

ニーズを見極め、個別の作業ニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。

2. 学部・学科等の特色

(1) 総合リハビリテーション学部の特色

昭和 22 (1947) 年に採択された WHO 憲章では、前文において、「健康」を次のように定義している。

「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。(日本 WHO 協会訳)」

人々の「健康」を取り巻く環境は一人ひとり違っている。同じ診断名がついた人々であっても、「健康」であることを回復、維持、増進していくためには、一人ひとりがおかれている状況に合わせた医療 (narrative-based medicine, NBM) が必要になる。つまり、患者の「健康」を考えたときに、リハビリテーションの立場から、どのように対象者の「健康」に貢献できるのか、そのような視点から自律的に思考できる専門職医療人を育成することが社会から期待されている。このような社会からの要請に応えていくためには、広く医学・医療や地域の中でリハビリテーションに関わるプロフェッショナルとしての役割を認識し、科学的知識および根拠に基づいた医療 (evidence-based medicine, EBM) を修得し、責任ある専門職医療人として自律的に判断、行動できる能力を養う必要がある。その中でも特に重要なのは、「チーム医療」の中で、様々な職種からの患者情報を基盤として、客観的に自己が果たすべき役割を判断し、その結果を他職種のメンバーと共有していく能力である。このような理念の下でディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるために、教育内容、教育方針、学修成果の評価方針を明示し、「今、何のために、どういう学修に取り組まないといけないのか」が学生にとって明快なカリキュラムを構築する。

総合リハビリテーション学部では低学年から高学年に至る過程で、積み上げてきた知識や技術が効果的につながるように科目配置を設定し、さらに学生がそれぞれの学修環境に合わせて主体的に学びに取り組む機会を確保するために、ICT 技術の活用、少人数・双方向型の授業を取り入れるとともに、学修支援センターとの連携でリメディアル教育やステップアップ講座の開講、さらに国家試験対策などについて適切にサポートを行っていく。

チーム医療の実践的教育

チーム医療に積極的に参画できる人材を育てることに重点を置き、そのための実践的な教育に力を入れる。

具体的には、他学科と密に連携をもち、専門職種間での相互の理解を深めた教育を目指す。学部・学科を越えて同じ目標に向かい、ともに学ぶ機会を設けることで異なる医療職種の理解につなげる。

1年次には「MBS (Morinomiya Basic Seminar)」と「チーム医療見学実習」において、入学当初から座学と見学実習を通して医療への興味と理解を深め、専門職医療人のベースを確立する。また、「リハビリテーション概論」や「理学療法概論」「作業療法概論」においてチームの概念を修得する。2年次には、「チーム医療論」と「医療コミュニケーション」を配置し、医療の現場でチームとして協働するために必要とされる資質や素養を身につけるために必修とした。ここでは医療者と患者、そして医療者同士でのコミュニケーションを学ぶとともに、医療におけるコミュニケーションの重要性とチーム医療の意義を学び、多様な環境に対応できる能力を育む。3年次には総合リハビリテーション学部だけでなく他学部とともに「IPW論」を展開し必修とした。「IPW論」では、異なる医療職を目指す他学部・他学科の学生との症例検討等を通し、専門職種連携の方法について学びを深める。このように、3年次までのカリキュラムを通じて互いの職域の違いや他職種との連携・協業の重要性を理解し、4年次の「臨床総合実習」の場にかすことで、将来のチーム医療の実践につなげる。

(2) 理学療法学科の目的と特色

理学療法学科の目的は、人に優しい理学療法を創造的に実践でき、協調性と科学性をもってチーム医療に貢献できる理学療法士を養成することである。

理学療法学科は総合リハビリテーション学部を設置し、入学定員は70人、収容定員は280人とする。

理学療法学科の特色を以下に示す。

ア. 複数領域の基本的なスキルを持つ理学療法士育成

理学療法の対象者は、小児から高齢者に至るまで様々な世代に渡っており、またその家族、あるいは地域住民にも関係が広がっている。そして、特に高齢者では、運動器疾患、神経系疾患、内部疾患などを複数併存している人も多い。またそのような疾患を未然に防ぐために理学療法士が地域で関わることも増えている。

よって、本学科は、このような現状に対応できる人材育成を考えている。特色として

は、予防から治療、社会復帰に至るまでシームレスに、且つ多領域に渡って基本的な理学療法が実施できるような教育カリキュラムと教員を配置している。具体的には、「運動器系理学療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「神経系理学療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「内部障害系理学療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で各疾患に関する基本的な知識、技術を習得し、「地域理学療法学」においては予防、障害治療、社会復帰に至る過程を学習する。そして理学療法だけではなく、他職種と連携しながらチーム医療を実践するための協調性、コミュニケーションスキルなど情意領域を高めるための科目を配置し、障害を抱えている人だけではなく、医療チームの他職種の医療従事者にも思いやりの心を持てるような感性を高めることを考えている。

イ. EBM と NBM の視点を持つ

近年、医療は EBM (Evidence-based Medicine エビデンス・ベイスト・メディスン 根拠に基づいた医療) という診療理念が重視されている。しかしその有効率は 60~90%とされ、有効でない患者が 40~10%存在することになる。そこでそれを補完するものとして NBM (Narrative-based Medicine ナラティブ・ベイスト・メディスン：物語に基づいた医療) が、新しい診療理念として、サイエンスとしての医学と、人間同士の触れ合いのギャップを埋めることが期待されている。理学療法についても同様に、EBM に基づいた治療に加え、NBM の視点で患者と向き合える人材が求められる。

本学科では、EBM の視点を持つために 1 年次から「運動学実習」、2 年次では「基礎運動療法学総論」を配置して最新の評価装置を経験し、3 年次から「統計学」「卒業研究」を配置し科学的視点を育成する。また NBM の視点を持つために、障害を呈した人と関わる学外の臨床実習に加え、学内においても post 患者との交流を可能にした OSCE

(Objective Structured Clinical Examination ; 客観的臨床能力試験) 科目を 2 年次から 4 年次まで配置している。そこでは、学内においても障害を有した人に対するコミュニケーション技法が実践できる。また収集して得られた個々のエピソードから、社会に復帰するための理学療法プロセスを学生自ら考えることで、NBM の視点から障害構造を理解する臨床推論力を高めることが可能である。

(3) 作業療法学科の目的と特色

作業療法学科の目的は、命の尊さや人としての尊厳を大切にする感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献する作業療法士を養成することである。

作業療法学科は総合リハビリテーション学部を設置し、入学定員は 40 人、収容定員は 160

人とする。作業療法では、その人の作業のニーズを捉え実現させることを目指し、人が人にはたらきかける行為を基盤としている。そのため、保健・医療・福祉の専門知識・技術の修得に加え、豊かな人間性を有する人材の養成を目的として教育・研究を行うこととする。

作業療法学科の特色を以下に示す。

ア. 地域のヘルスプロモーション

作業療法があらゆる年齢の人を対象としていることや、地域における作業療法の役割が拡大している現状を踏まえ、小児や高齢者に対する作業療法に重点を置いた教育プログラムを配置する。

具体的には、発達障害や難病、ヘルスプロモーションに関する研究成果を持つ教員を複数配置し、住宅での暮らしがイメージできる日常生活動作室を設置している。また、「発達障害作業療法評価学」や「発達障害作業療法治療学総論」等で発達障害児への作業療法等について学ぶほか、「高齢期障害作業療法治療学総論」等で、高齢者への理解を深める。さらに、発達障害や難病の方を対象に、環境整備の方法や、二次予防に必要な暮らしの中の工夫等についての指導を行うほか、専門科目において当事者の方を授業に招いて、作業療法プロセスを学修する当事者参加型の授業を展開する。3年次の「地域作業療法学」では、地域の高齢者を対象にした認知症の啓発、認知症予防の取り組みを学生とともに行う。これらのカリキュラムを通じて、地域のヘルスプロモーションに貢献する。また、教員が関わっている患者会や施設と連携した学外ボランティアに、本学の学生を積極的に参加させていく。

イ. 共感的理解を育む人間性重視の教育

作業療法では、病を捉えるだけでなくその人自身を理解してリハビリテーションを行うことが重要である。病気や事故で障がいを持ったクライアントは、様々な喪失感の中で生活を送っている。そのようなクライアントの「痛み」を感じ取り、共感し寄り添える人材育成のために、各種のボランティア実践、あるいは地域における保健・福祉関連や事業所等の各種イベントへの参加の機会を多く設ける。そして、障がいをもつ人への理解を深め、寄り添う心を育み、障がい児・者や高齢者などのクライアントはもちろん、友人を含めて人に優しく、親切にでき、作業療法を通してクライアントに寄り添うことのできる作業療法士を育成していく。これらの行動は、自分自身の自尊心をも高め、広く社会に貢献できる人づくりにも繋がるものである。

3. 学部・学科の名称及び学位の名称

超高齢化社会に向け、チーム医療におけるリハビリテーションの役割はますます大きくなっていくことが予想され、また医療現場だけでなく在宅医療・介護・福祉分野での役割も重要となっていく。本学部はチーム医療においてリハビリテーションを主体的に担うた

めの専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成することを目的として、名称を総合リハビリテーション学部（Faculty of Rehabilitation）とする。

理学療法学科は、理学療法士を養成する学科であり、理学療法士の国家試験受験資格を取得できることから、その主旨が最も伝わりやすい「理学療法学科」（Department of Physical Therapy）とする。本学科の卒業要件を満たしたものに対して学士の学位を授与する。学位の名称はその教育・研究内容から「学士（理学療法学）」（B.S.in Physical Therapy）とする。

作業療法学科は、作業療法士を養成する学科であり、作業療法士の国家試験受験資格を取得できることから、その主旨が最も伝わりやすい「作業療法学科」（Department of Occupational Therapy）とする。本学科の卒業要件を満たしたものに対して学士の学位を授与する。学位の名称はその教育・研究内容から「学士（作業療法学）」（B.S.in Occupational Therapy）とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

（1）教育課程の基本構成と方針（カリキュラム・ポリシー）

総合リハビリテーション学部が掲げる「養成する人材像」及び「目的と特色」の趣旨を実現するために、両学科の教育課程は『教養科目群』、『共通科目群』、『学科専門科目群（専門基礎科目、専門科目）』と順次体系的に構成されている。この構成は医療に携わる専門職の養成に有効なプログラムを提供するのみならず、中央教育審議会の答申を踏まえ、学士力（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力）を育むように編成されている。

なお、教育課程については、保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科）の現行カリキュラム・教育体制を継承し、保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科）から総合リハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科）へ移行しても、教育の実態に大きな変更が生じないようにカリキュラムを編成しつつ、一部の専門科目では学部共同授業の実施を行い、教育方法において学部化によるリハビリテーション教育の充実と他学科との相互理解を図る仕組みをつくっていく。

総合リハビリテーション学部の教育課程編成・実施の方針として、カリキュラム・ポリシーを以下に記す。

① 教育内容

- ・1、2年次には教養科目、学部共通科目ならびに各学科の専門知識の基礎を修得し、リハビリテーション職の礎となる知識、技術、人間力の習得を目指す。
- ・3、4年次には専門的に深化した知識を基に多様な領域で活用できる知識、技術、さらにはチーム医療における自らの役割について学修し、実践を通して確固たる知識・技術を身に付ける。また、授業の集大成として卒業論文に取り組む。

② 教育方法

- ・医療知識、教養知識を修得するための講義科目を配置する。
- ・リハビリテーション実践の基盤となる各領域のリハビリテーション学に対応した実習科目を配置し、最終学年ではそれらを統合した実習科目を配置する。
- ・他職種連携教育（IPE）を積極的に導入し、チームで模索・討議し、協調性をもって解決策を検討するチーム医療実践のための演習科目を配置する。また各リハビリテーション学では技術演習、ケーススタディ、グループワーク等の多様な学修方法を取り入れる。
- ・予習、復習などをシラバスに記載し、学修すべきポイントを明確にすることで、積極的に課題を見出し自ら問題解決に取り組む主体的な学修を促す手法で教育を行う。

③ 学修成果の評価方法

- ・科目ごとに学修到達目標を明確にし、目標到達度に応じて学修成果の評価を行う。
- ・ルーブリック等を積極的に活用し、評価基準を教員・学生ともに共有し、評価の透明性・公平性が確保された手法で学修成果の評価を行う。

（2）教養科目群の編成と特色

本学の教養科目群は『科学的思考』、『人間理解と社会』、『語学』の科目区分によって構成される。『科学的思考』では、物事の相互関係を正しく理解し分析できる力、また得られたデータから推論によって仮説を出し、それを検証していくという科学的思考力を培う。

『科学的思考』の科目区分では、医療従事者としての心構えと科学的思考の基礎を築く。「基礎ゼミナール」では、高校から大学へのスムーズな移行と、大学で自ら学ぶことへの動機付けをおこなう。「情報処理」では昨今の情報コミュニケーション技術の発展とともに膨大な知識と情報を有効に活用するためのメディア・リテラシーを修得する。

『人間理解と社会』の科目区分では、人と人との関係において他者を理解する事、すな

わち人の心の様相を理解することの意味を学ぶ。また人と社会の結びつきについて学修することで、社会の中で生きていく人のあるべき姿を考える。「生命倫理学」、「哲学」では人の尊厳を幅広く理解し、医療に携わる上で必要な倫理的判断力を育む。

『語学』では、国際共通語である英語に特化した語学力の向上を日指す。医療の分野においても、グローバル化に対応するために英語の重要性は増している。英語を用いて異文化を理解し、英語でコミュニケーションがとれるよう実践的な英語力の修得を目指す。

(3) 共通科目群の編成と特色

既設の保健医療学部では令和2(2020)年度からカリキュラムを変更し、保健医療学部の全7学科で『学部共通科目群』の科目編成が統一された。新設する総合リハビリテーション学部においても科目編成を踏襲することにより、『共通科目群』では他学部・他学科と密に連携をもち、専門職種間での相互の理解を深めた教育を目指す。学部・学科を越えて同じ目標に向かい、ともに学ぶ機会を設けることで異なる医療職種の理解につなげる。特に「MBS (Morinomiya Basic Seminar)」と「チーム医療見学実習」は入学当初から座学と見学実習を通して医療への興味と理解と深め、専門職医療人のベースを確立する。また、「チーム医療論」と「医療コミュニケーション」は、医療の現場でチームとして協働するために必要とされる資質や素養を身につけるために必修とした。ここでは医療者と患者、そして医療者同士でのコミュニケーションを学ぶとともに、医療におけるコミュニケーションの重要性とチーム医療の意義を学び、多様な環境に対応できる能力を育む。また、同じく必修とした「IPW論」では、異なる医療職を目指す他学部・他学科の学生との症例検討等を通し、専門職間連携の方法について学びを深める。

(4) 学科専門科目群(専門基礎科目)の編成と特色

ア. 理学療法学科

理学療法学科の専門基礎科目は、理学療法士資格取得を目指す者が学ぶべき専門教育に直結する知識と技術、並びに専門教育の理解と理論付けの基礎として必要な科目で『人体の構造と機能及び心身の発達』、『疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進』の2つの科目区分で構成し、それぞれについて、より深い知識と技術の修得を目指すように設定している。多くを必修科目とし、それらの考え方及び特色は次の通りである。

『人体の構造と機能及び心身の発達』領域は、「人体の構造演習Ⅰ・Ⅱ(運動器)」「人体の構造Ⅰ(神経系)」「人体の構造Ⅱ(循環・内臓系)」を配置し、系統的に学修する。また、「人体の構造実習」を配置し、理解を深めるようにした。「人体の機能Ⅰ(動物性機

能)」は動物生理学、「人体の機能Ⅱ（植物性機能）」は植物生理学について系統的に学修する。さらに身体の運動について理解させるための「基礎運動学」とEBMの視点を高める「運動学実習」を配置した。またNBMの視点を高めるために「臨床心理学」を配置した。

『疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進』領域は、『人体の構造と機能及び心身の発達』の学修を基礎として、リハビリテーションの対象となる疾患をより深く理解できるように疾病の病態・診断・治療を修得する。必修科目として「病理学」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「整形外科学」「小児科学（人間発達学）」「精神医学」「リハビリテーション医学（画像診断・予防・栄養含む）」を配置した。また、保健医療福祉とリハビリテーションの理念について全体像を学修し、全体の中での理学療法のある方を理解できるように、「リハビリテーション概論」を必修科目として配置した。また、リハビリテーション専門職である理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割・専門性を理解し、社会・医療現場での多職種連携を想起できるよう「チームリハビリテーション概論」を必修科目として配置した。また、周辺分野である「公衆衛生学」「スポーツ医学」、「介護学概論・ボランティア活動論」、「テーピング技術論」を選択科目として配置する。

イ. 作業療法学科

作業療法学科の専門基礎科目は、保健・医療・福祉に携わる者として共通に理解しておくべき知識・技術を学ぶ『人体の構造と機能及び心身の発達』と『疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進』という2つの科目区分で構成され、他の医療職との相互理解においても重要な位置を占める。『人体の構造と機能及び心身の発達』では、作業療法を実施する上で必要となる生命現象を総合的に理解するため、基本的な解剖・生理学の知識の修得を図る。さらに、ここで身につけた知識が『疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進』の科目の理解に結び付くように科目を設定している。

『人体の構造と機能及び心身の発達』領域は、「人体の構造演習Ⅰ・Ⅱ（運動器）」「人体の構造Ⅰ（神経系）」「人体の構造Ⅱ（循環・内臓系）」を配置し、系統的に学修する。また、「人体の構造実習」を配置し、理解を深めるようにした。「人体の機能Ⅰ（動物性機能）」は動物生理学、「人体の機能Ⅱ（植物性機能）」は植物生理学について系統的に学修する。さらに身体の運動について理解させるための「基礎運動学」と病態運動学の理解を深める「臨床運動学」を配置した。

『疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進』領域は、『人体の構造と機能及び心身の発達』の学修を基礎として、リハビリテーションの対象となる疾患をより深く理解できる

ように疾病の病態・診断・治療を学修する。必修科目として「病理学」「臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「整形外科学」「小児科学（人間発達学）」「精神医学」「リハビリテーション医学（画像診断・予防・栄養含む）」を配置した。また、「精神医学各論」「臨床心理学」を必修科目として配置する。「精神医学各論」では様々な精神疾患や障害の特徴、成因、治療方法について学修する。「臨床心理学」では心理アセスメント、臨床心理の理論と技法、心理的援助の技法などを学修する。また、理学療法学科と同じく、「リハビリテーション概論」「チームリハビリテーション概論」を必修科目として配置し、周辺分野である「医療関係法規論」「介護学概論・ボランティア活動論」「スポーツ医学」を選択科目として配置する。

（５）学科専門科目群（専門科目）の編成と特色

ア．理学療法学科

学科専門科目群の中の専門科目については、理学療法士としての専門性を高めるために必要とされる『基礎理学療法学』、『理学療法管理学』、『理学療法評価学』、『理学療法治療学』、『地域理学療法学』、『総合領域』、『卒業研究』、『臨床実習』に分けて科目を配置している。将来、医療だけでなく予防・地域福祉や教育・研究など様々な分野に進むことができるように、その基礎となる科目を設けている。

『基礎理学療法学』では、社会福祉・介護保険と行政等との関りを理解させるための科目として「医療関係法規論」を１年次に修得させ、２年次以降にそれまでに学んだ理学療法の基盤的な知識を用い、科学的な視点を養いつつ、理学療法の基礎的な技術を理解・定着させるために「基礎理学療法学Ⅰ・Ⅱ」と「基礎理学療法学実習」で OSCE を実施する。

『理学療法評価学』では、理学療法の評価に関する基礎的な技術を修得させるために「理学療法評価学総論」「理学療法評価学各論」を配置する。理学療法プロセスにおいて、対象の機能と動作の障害構造を理解させるために、画像評価・動画分析を用いて動作観察の能力を向上させる「臨床理学療法評価学（動作分析）」、また具体的な医療面接や評価方法の技術を修得できるように「臨床理学療法評価学実習」で OSCE を実施する。

『理学療法治療学』では、基礎的な内容に関する科目として「基礎運動療法学総論」「基礎運動療法学各論」「基礎物理療法学」「基礎日常生活活動学」を配置し、理学療法治療に関する理論と技術について修得する。さらに、障害に応じた治療に関する知識と技術を修得できるように「運動器系理学療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「神経系理学療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「内部障害系理学療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の各疾患領域別の理学療法学と、「臨床理学療法治療学実習」で OSCE を実施する。また、関連科目である「発達障害理学療法学」、「義肢装具学」も本領域に配置する。

『地域理学療法学』では、高齢化社会において必須である、地域に密着した地域医療、在宅医療に関する理論と技術を修得できるように、「生活環境論」、「地域理学療法学」、「老年

期理学療法学」を配置する。

『総合領域』では、「理学療法特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置し、多くの疾患や障害に対する基礎知識から応用知識までの総まとめを行う。「理学療法臨床推論概論」「理学療法臨床推論演習」では、臨床現場において必要な NBM の視点で理学療法評価過程の理解・修得を促す。また、理学療法に関する基本的な内容と最新のトピックスや文献的な情報等を交えて、実践に則した精度の高い知識・専門技術を修得し EBM の視点を育成することを目的に「運動器系理学療法セミナー」、「神経系理学療法セミナー」、「内部障害系理学療法セミナー」「地域理学療法セミナー」を配置する。また、専門基礎科目の「チームリハビリテーション概論」で学修したリハビリテーションにおける各医療専門職の役割、専門性、専門職間連携の在り方をさらに理解させるために、作業療法学科との合同授業を行う「総合リハビリテーション IPW 演習」を 3 年次に必修科目として配置した。

『卒業研究』では、EBM に基づいた理学療法の実践を学ぶとともに、自身で研究を進めるために必要な研究の手順を修得する。具体的には、3 年次の「卒業研究Ⅰ」で、研究を行う上での基本的な知識・技術を学んだ上で、研究課題の設定に取り組み、4 年次の「卒業研究Ⅱ」で、研究課題の解明ならびに研究成果の公表について指導する。

『臨床実習』では、医療専門職の教育課程で早期の臨床体験の重要性が認識されていることから、学習の進度に応じて 1 年次から「臨床見学実習」を配置している。臨床実習では社会人としての基本的な遵守事項を身につけるとともに、理学療法の展開に必要な情報収集・検査測定能力の修得、理学療法評価、計画立案、実施ができるように教育する。なお、本科目では各実習施設と密に連携を取りながら、診療参加型の実習を展開していく。

イ. 作業療法学科

学科専門科目群の中の専門科目については、作業療法士としての専門性を高めるために必要とされる『基礎作業療法学』、『作業療法管理学』、『作業療法評価学』、『作業療法治療学』、『地域作業療法学』、『卒業研究』、『臨床実習』に分けて科目を配置している。将来、医療だけでなく地域での介護福祉や教育・研究など様々な分野に進むことができるように、その基礎となる科目を設けている。さらに、作業療法の核となる作業に関する分析を学修する「作業科学入門」や、地域ケアシステムをはじめとした地域における作業療法士の役割について理解を深める「地域作業療法学」も設定している。

『基礎作業療法学』は 1 年次に履修し、作業療法の概念と基本を学ぶとともに、作業療法士として問題解決のための基本的な能力を養う。1 年前期には作業療法の核となる作業を科学的に分析し、作業の知識を深めるために「作業科学入門」を設定している。この科目では、全ての人の健康に寄与するための作業の特性についても修得する。

『作業療法評価学』では、作業療法の現場で必要とされる評価内容や評価技術を学ぶ。

リハビリテーションは評価に始まり、評価に終わると言われるように、作業療法が対象とする全領域の評価を網羅するための科目を設定している。

『作業療法治療学』では、専門基礎科目で学んだ各種疾患に対する作業療法の理論と実際を修得するとともに、チームの一員として職を全うする重要性を学ぶ。身体障害・精神障害・高齢期障害・発達障害の4領域について、それぞれ「作業療法治療学総論」「作業療法治療学各論」「作業療法治療学演習」を配置し、作業療法に関連する理論・モデル、及びその基本的実践論について学ぶ総論、臨床に応用するための理論を学ぶ各論を必修としている。また、各領域についてより専門的な治療理論や治療技術を学ぶ演習は、興味・関心に合わせて、身体障害・精神障害・高齢期障害・発達障害の4領域から一つ以上を選択する形とした。「作業療法特論Ⅰ・Ⅱ」においては、作業療法を実践するための根拠となる作業療法理論を学び、最新の作業療法に関する知見と科学的なものの見方を養う。また、専門基礎科目の「チームリハビリテーション概論」で学修したリハビリテーションにおける各医療専門職の役割、専門性、専門職間連携の在り方をさらに理解させるために、理学療法学科との合同授業を行う「総合リハビリテーション IPW 演習」を3年次に必修科目として配置した。

『地域作業療法学』では、障がい者、高齢者を取り巻く制度や環境、地域における社会資源について学び、地域社会に根差した作業療法を修得する。今後、わが国で進められていく地域ケアシステムでの作業療法士の役割についても修得する。さらに、介護予防の概念を学び、認知症予防や転倒予防など介護予防の実践に必要な作業療法も修得する。

『卒業研究』では、科学的根拠に基づいた作業療法の実践を学ぶとともに、自身で研究を進めるために必要な研究の手順を修得する。具体的には、3年次に必修としている「卒業研究Ⅰ」で、研究を行う上での基本的な知識・技術を学んだ上で、4年次では、特定の領域について深く掘り下げた研究を行うため、身体障害・精神障害・高齢期障害・発達障害の4領域のうち関心のある領域の「卒業研究Ⅱ」を選択する。

『臨床実習』では、医療専門職の教育課程で早期の臨床体験の重要性が認識されていることから、学習の進度に応じて1年次から臨地見学実習を配置している。臨床実習では社会人としての基本的な遵守事項を身につけるとともに、作業療法の展開に必要な情報収集能力の修得、そして作業療法評価、統合と解釈、計画立案、実施ができるように教育する。なお、本科目では各実習施設と密に連携を取りながら展開していく。

(6) 卒業認定

ア. 理学療法学科

理学療法学科に4年以上在籍し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数（126単位）を修得し、卒業までに身につける能力としての理学療法学科のディプロマ・ポリシーの必要要件を満たしたものに卒業を認定する。

イ. 作業療法学科

作業療法学科に4年以上在籍し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数（126単位）を修得し、卒業までに身につける能力としての作業療法学科のディプロマ・ポリシーの必要要件を満たしたものに卒業を認定する。

カリキュラムマップ（授業科目とディプロマ・ポリシーの対応表）【資料4-1】【資料4-2】を示す。

【資料4-1】理学療法学科カリキュラムマップ

（授業科目とディプロマ・ポリシーとの対応表）

【資料4-2】作業療法学科カリキュラムマップ

（授業科目とディプロマ・ポリシーとの対応表）

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（1）教育方法

総合リハビリテーション学部が掲げる「養成する人材像」及び「総合リハビリテーション学部の特色」の趣旨を実現するため、また学生が主体的に学習に取り組むことができるようにするために効果的な教育方法として以下のような体制をとる。

① 他学部・他学科との連携教育

チーム医療の実践に求められる豊かな感性と高い倫理観を備えた専門職医療人を育成するためには他学部・他学科（他職種）との連携教育が必要不可欠となる。学部共通科目においてチーム医療やIPW（Interprofessional Work）（専門職連携）を他学部・他学科の学生と共に学び、自分の専門領域のみならず他領域の広範な視点を加えてチームで目標を共有し実践できる能力を育成する。

② 少人数教育

総合リハビリテーション学部の教育方法の特徴は、年次毎に臨床実習を設け、修得した知識・技術を臨地や臨床で確認し、実施するプロセスを踏んでいることである。さらに、専門科目は個人の到達レベルが確認しやすいよう、少人数制によるグループワークを中心に展

開する。さらに、当事者参加型の授業を多く取り入れ、修得した知識・技術を確認できるように工夫している。

なお、理学療法学科では、実習期間が1～4年次で計21週間、作業療法学科では1～4年次で計25週間に及ぶ。特に実習期間中は、多くの教員が実習先の巡回指導等に出向くため、学内での指導体制が手薄にならないよう、実習地をできるだけ本学から近隣の地域に集中させて効率的に巡回指導を行い、学生に対してつねにきめ細かい指導が行えるよう配慮する。

③ 課題探究・問題解決能力を養う教育

将来、現場で遭遇する可能性のある多種多様な問題を解決するには論理的・総合的な判断能力が必要である。実習・演習では「なぜ」という問いを大切にし、教員が安易に答えを提示するのではなく学生自ら答えを導き出すことを手助けする。たとえその答えが間違っているとしてもそのプロセスを重視し掘り下げて考える力を育む。また卒業研究では問題点を抽出し解決するための科学的思考力や、新しいものを見つけようとする課題探究能力を養う。

④ 学年担任制度の導入

理学療法学科及び作業療法学科では学年担任制をとり、定期的に履修方法や学生生活に関して面接指導を行う。3年次以降は、学年担任とゼミの教員が連携してそれらの対応・指導にあたる。また、学生と教員とのコミュニケーションを充実させるため、専任教員はオフィスアワーを設定し、講義に関する質問だけでなく、勉強の仕方や学生生活に関する相談にも応じる。

⑤ キャップ制の導入

総合リハビリテーション学部においてはキャップ制を導入し、理学療法学科は履修科目の年間登録上限単位数を48単位（半期では48単位）に、作業療法学科は履修科目の年間登録上限単位数を44単位（半期では24単位）に設定している。

年間登録上限単位数を設定することは、単位の実質化を目的に、学生負担の軽減と履修科目の学修時間の確保を行うことで、十分な学修効果を上げることを目指している

特に、4年次の病院等医療施設における臨床総合実習を履修するまでに、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定める単位数をおおよそ修得し、十分な知識を兼ね備えたうえで臨床総合実習に出ることが望ましいことに加え、一般教養科目群等に関する科目の履修に十分な学修時間を確保できるような上限とした。

なお、次の授業科目は、履修登録単位数の上限の対象から除くこととし、学生に対して履修案内で周知している。

- (ア) 資格取得に必要と学長が認めた場合
- (イ) 他大学等において行う「大学コンソーシアム大阪」等、本学が認めた
単位互換授業科目
- (ウ) 卒業要件外科目、臨床または臨地での実習科目および集中講義で開催される
実習科目
- (エ) 本学において既修得単位として認定された科目

(2) 履修方法とその指導

大学における履修は高等学校までの履修と比べて相違点が多いことから、学生が履修方法を理解できるよう定例的に履修指導を行い、最終的には自律できるようにする。

まず、各年次の前期開始日にオリエンテーションで履修指導を実施し、学生自身の興味・関心を尊重し、卒業後の進路も視野に入れた科目履修を促す。さらに、履修に関わる質問への対応や成績不良者の指導などは、随時個別に実施する。

学年担任制をとり、担任が中心となって学生指導に当たるが、基礎ゼミナールの担当者などとも連携して、適切な対応・指導を実施する。

(3) 卒業要件

ア. 理学療法学科

卒業要件は、4年以上在籍し、教養科目群から必修14単位+選択2単位以上、共通科目群から必修5単位+選択2単位以上、学科専門科目群の専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」から必修15単位、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」から必修19単位+選択1単位以上、学科専門科目群の「専門科目」から必修67単位+選択1単位以上の計126単位以上修得することとしている。なお、履修できる単位数は半期24単位、通年で48単位以内としている。

なお、履修モデルを【資料5-1】に示す。

イ. 作業療法学科

卒業要件は、4年以上在籍し、教養科目群から必修12単位+選択2単位以上、共通科目群から必修5単位+選択2単位以上、学科専門科目群の専門基礎科目である「人体の構造と機能及び心身の発達」から必修15単位、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」から必修21単位+選択2単位以上、学科専門科目群の専門科目である「基礎作業療法学」

から必修 6 単位、「作業療法管理学」から必修 2 単位、「作業療法評価学」から必修 7 単位、「作業療法治療学」から必修 18 単位+選択 1 単位以上、「地域作業療法学」から必修 4 単位、「卒業研究」から必修 2 単位+選択 2 単位以上、「臨床実習」から必修 25 単位の計 126 単位以上修得することとしている。なお、半期で履修できる単位数は上限 24 単位、通年では 44 単位以内としている。

なお、履修モデルを【資料 5-2】に示す。

【資料 5-1】理学療法学科履修モデル

【資料 5-2】作業療法学科履修モデル

6. 実習の具体的計画 理学療法学科

(1) 実習計画の概要

ア 実習目標

大学での実習は、将来理学療法の専門家として頼られ、指導的な立場で重要な役割を担っていくために必要な技術・知識を修得するためのものと位置付けられる。したがって、長期的な視点で理学療法士としての仕事を見据え、科学的な思考で物事を捉え、主体的に課題を探究していく姿勢を重視して実習を進めていく点が、専門学校とやや異なる。

具体的には、理学療法が実践される現場に適応し、症例検討による実習内容の振り返りや、実習後に課されるレポートで、先行研究等を踏まえた考察を行うことに重点を置く。同時に患者や家族あるいは地域住民といった人々のニーズを見極め、個別のニーズに応えられるよう主体的、創造的に問題を解決する主体的問題解決能力を養うことを目標とする。

イ 実習先の確保の状況

本学科の実習目標を達成するための要素や、協力体制を備えていることを条件に、本学が所在する大阪市内をはじめとして、大阪府下を中心に、兵庫県、京都府、奈良県の中核病院あるいは大学病院を選定し、合計 220 施設から臨床実習受け入れの承諾を得ており、本学科の定員 70 名に対して十分な臨床実習先を確保できている。

なお、本学および大阪市中心部からの移動時間は一部の地域を除き片道 1 時間 30 分以内である。これを超える実習施設もあるが、教員の居住地や実習施設まで車を使用するなど効率化を図ることにより、実習指導体制に大きな影響はないと考える。また、学生については実習施設までの通学時間等を配慮し、原則自宅近くの実習施設への配置を優先する。

【資料 6-1】実習施設の概要

【資料 6-2】承諾書

ウ 実習単位および内容、事前・事後の指導計画

臨床実習に臨むにあたり、十分な事前学習を実施し、臨床実習における基本事項を学生に

確認させ、実習生としての態度、身だしなみ、対象者に対する心得等周知徹底させる。実習後は学生にレポート提出を課し、教員は学生個々の評価を行った後、臨床実習会議において大学実習担当教員全員で学生の評価を確認する。

また実習先とも実習前、実習中、実習後を通じて密に連携し、学生への実習指導、評価が適切に行われるようにする。

臨床実習は、必修 6 科目 21 単位、個々の実習内容は以下の通りである。

(ア) 臨床見学実習

「臨床見学実習」は、1 単位 45 時間、1 年次後期に 1 週間（1 日 9 時間×5 日）実施。

保健・医療・福祉領域における臨床現場での見学実習を通して、理学療法の対象となる人々の特性を理解させ、専門職、社会人としてのルールやマナーに基づいて行動できるようにさせることを目的とする。理学療法場面の運動療法、物理療法の目的を考え、対象者とのコミュニケーションの取り方についても解説する。さらに、対象者を中心としたリハビリテーションチームの構成についても教授し、理学療法士としての役割を把握させる。

(イ) 検査測定実習

「検査測定実習」は、1 単位 45 時間、2 年次前期に 1 週間（1 日 9 時間×5 日）。

臨床現場での実習を通じて、理学療法実施のプロセスの中で必要となる心身機能、身体構造、活動、参加、個人因子、環境など ICF で分類されている項目の検査・測定を実践する機会とする。これまで修得してきた各領域での理学療法の面接・観察および検査・測定を疾患別に対応して、対象者に正確に実践できる技術を修得させる。さらに、得られた検査・測定結果に対して考察を加え、その結果が生活場面にどのように影響するかを予測できるようになることも目的とする。

(ウ) 臨床評価実習

「臨床評価実習」は、4 単位 180 時間、3 年次後期に 4 週間（1 日 9 時間×5 日×4 週）。

専門分野において理学療法評価学と運動療法・物理療法の基本的な手技の履修後 3 年次に 3 週間行われる実習である。理学療法プロセスにおいては、情報収集と検査測定を行い治療計画まで行えることを目標とし、臨床において基本的技術の実践を行うための実習である。学生自身においては修得した知識と技術の確認的要素も有り今までの学修方法のフィードバック機能を期待するものである。具体的には、疾患に応じた障害評価を可能にする評価項目の選択と実施、抽出された問題点に対する治療計画の立案と治療実施に対する準備やリスクの確認を含め、疾患と障害の変化を日々確認する実習である。また実習時に記録・経過報告を付加し、評価報告書を 1 例作成する。

(エ) 臨床総合実習 I

「臨床総合実習Ⅰ」は、7単位 315時間、4年次通年で7週間（1日9時間×5日×7週）。

これまで履修した専門科目を応用し、障害を評価し、立案した治療計画を実行し経過を観察する実習である。担当した症例を通し情報収集・検査測定と評価・問題点の抽出・治療計画立案と実施を実践し理学療法プロセスを経験するだけでなく、実習期間中の経過や変化、理学療法の効果を学修させる目的で実施する。

（オ）臨床評価実習Ⅱ

「臨床総合実習Ⅱ」は、7単位 315時間、4年次通年で7週間（1日9時間×5日×7週）。

臨床総合実習Ⅰに続く臨床での実践力を向上させるための実習である。臨床総合実習Ⅰで履修した一連の理学療法プロセスを学内でフィードバックし、経験が不十分な項目を反復学修する目的で実施する。実際には、臨床総合実習Ⅰでの未達項目の反復学修と未経験症例の担当を目標とする。一連の理学療法プロセスを実施し、理学療法士の社会的役割や責任についても専門職として修得し一貫した理学療法士の職務を深く理解させる実習である。

（カ）地域理学療法実習

「地域理学療法実習」は、1単位 45時間、4年次前期に1週間（1日9時間×5日）。

患者及び障がい児・者、高齢者の地域での生活を知るとともに、地域社会での理学療法士の役割及び業務内容、他職種と連携・協力した生活支援を理解するための実習である。また、専門科目において学修した地域包括ケア・地域リハビリテーション、社会保険制度、住宅環境設備などの理解を深め、施設・在宅の生活期に至る幅広い対象者に対して、柔軟に対応できる能力を養わせる目的で実施する。

【資料6-3】各実習の概要及び週間計画

エ 臨床実習会議の設置

実習に関するきめ細かな指導を行うために臨床実習会議を設置する。同会議は、理学療法学科全教員が参加対象となっており、学科長が議長を務め教員の指導体制、実習の進捗状況の確認、実習時の安全管理体制などを協議し、各教員へ周知徹底を図っている。具体的には以下の内容などを協議している。

- ・臨床実習教育方針の策定
- ・臨床実習施設の確保
- ・年間実習計画の立案
- ・臨床実習教育内容や指導方法の検討
- ・臨床実習施設との連携会議の開催
- ・臨床実習指導体制と巡回指導計画の立案と実施
- ・学生に対する臨床実習オリエンテーションの実施

オ 学生へのオリエンテーションの内容、方法

各学期開始前に実施される学科オリエンテーションにおいて、実習セミナーおよび実習の期日を伝え、実習に関わる先修条件の説明を行う。各臨床実習前には、学年の担任を中心として大学実習担当教員（学科の実習委員会委員を含む）による実習オリエンテーションを行う。

オリエンテーションの内容は、実習目標の確認、実習先一覧と学生配置、実習の進め方と提出課題、実習日数と欠席などの取り扱い、実習に取り組む姿勢、理学療法を学ぶ学生としての倫理規定、単位認定の方法、個人情報保護、実習中の事故などについてである。

カ 学生の臨床実習参加基準・要件等

学生が実習を履修するにあたり、「臨床見学実習」、「検査測定実習」、「地域理学療法実習」には先修条件を定めていないが、それ以外は以下のように定めている。また実習に先立って開催される実習セミナーへの参加はすべての臨床実習において必須である。

（ア）3年次後期 「臨床評価実習」

- 1年次の「臨床見学実習」、2年次の「検査測定実習」
- 2年次の「基礎理学療法学Ⅰ」、「基礎理学療法学実習（OSCE実施）」、

（イ）4年次通年 「臨床総合実習Ⅰ」

- 3年次の「臨床理学療法評価学」、「基礎理学療法学Ⅱ」、「臨床理学療法評価学実習（OSCE実施）」「臨床評価実習」

（ウ）4年次通年 「臨床総合実習Ⅱ」

- 4年次の「臨床総合実習Ⅰ」

キ 実習中の安全管理体制

学生は、「安全教育」「倫理教育」「医療安全管理体制」「医療現場におけるリスクマネジメント」について理解した上で臨床実習に参加する。

事故および感染症予防については、授業および実習オリエンテーションにて十分に事前の指導を行うとともに、B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の抗体価検査の結果、抗体価が陰性あるいは疑陽性であった学生については、ワクチン接種を促し、抗体保有状況を事前に確認したうえで実習を開始する。学生には、実習中の事故に備えて一般社団法人日本看護学校協議会共済会共済制度に加入することを義務付けている。

実習中に事故が発生した場合、施設の臨床実習指導者および学生から速やかに連絡を受け、大学実習担当教員が実習施設に出向き、対応を協議する。

個人情報保護に関しては、実習中知り得た情報については、法令・条例を遵守し、一切漏洩させない旨の誓約書を臨床実習指導者に提出する。また対象者の個人情報に限らず、実習施設や実習中の生活に関する情報を、SNS（LINEやFacebookなど）やブログなど公共性の高いサービスにおいて発信しないよう実習前オリエンテーション時に注意喚起する。

【資料6-4】実習要項（抜粋）

【資料6-5】感染症予防管理確認表

【資料6-6】誓約書

（2）実習指導体制と方法

ア 担当専任教員の配置と指導計画、実習訪問計画

理学療法学科の臨床実習では、すべて専任教員が実習指導にあたり、実習指導及び実習巡回を目的とした非常勤助手等は配置しない。実習全体については実習統括教員が、個々の実習生については施設担当教員が把握し、実習の運営や指導上で問題が発生した場合には、いずれかが対応する。実習期間中は必要に応じて施設担当教員が訪問する。

実習訪問以外にも、電話連絡等により学生の実習状況の把握に努める。ただし、臨床実習指導者からの要請があれば、適宜訪問を行う予定である。実習訪問においては、臨床実習指導者の指摘事項を参考に、学生の指導にあたる。実習担当教員は、実習終了後に担当学生と面談し、実習の総括を行う。

【資料6-7】1～4年次 実習計画表

【資料6-8】全ての実習計画を示す一覧表

【資料6-9】教員の配置と指導計画

イ 学生へのフィードバック、アドバイスの方法等

大学実習担当教員は実習期間中、実習訪問で臨床実習指導者から実習の進捗状況および実習目標の到達度を聞きとるとともに、学生の実習への取り組み方や、提出物の内容を確認する。その際、実習訪問時点での学生の到達度を把握し、以降の実習において解決すべき事柄を明確にする。

また、学生との面談を行い、実習指導者の指摘と学生自身が捉えた実習の評価に差異がないか確認する。実習の評価において両者の捉え方に違いがあれば、学生・臨床実習指導者・大学実習担当教員の三者で協議し、再確認する。

ウ 学生の実習中、実習後のレポート作成・提出等

（ア）実習中の課題

理学療法学科が課す実習中の課題は、「デイリーノート」、「症例レポート」「症例検討用資料」がある。学生は作成後、実習指導者に提出し、添削を受ける。

「デイリーノート」は、実習実施日毎の学習・経験内容の要約や自己学習内容を記載し、実習指導者から添削を受けた際には、翌日に必ずそれに対する回答を追記する。

「症例レポート」は、担当した一症例についての症例紹介や評価、治療プログラム等を記載する。

「症例検討用資料」は、症例検討会の資料用に作成する「症例レポート」要約である。
なお「症例レポート」「症例検討用資料」は、「臨床評価実習」「臨床総合実習Ⅰ・Ⅱ」のみの課題である。

【資料6-10】実習課題・デイリーノートの記載例

【資料6-11】症例レポートの執筆要綱

(イ) 実習後の学内での課題

実習終了後に、「実習後レポート」として、実習の感想（成果や今後の課題等）を400字詰原稿用紙4ページ程度に記載し提出する。

(3) 大学と実習施設との連携体制と方法

ア 各施設での臨床実習指導者の配置状況と連携会議等の開催計画

大学実習担当教員と施設の臨床実習指導者は「臨床実習連携会議」を開催し、本学の教育方針、臨床実習の目的、目標、学生の到達度に対する評価方法等を確認し、共通理解のもとに円滑な臨地実習を行えるようにする。

また、大学実習担当教員と施設の臨床実習指導者が、本学の教育方針、臨床実習の目的、目標、学生の到達度に対する評価方法等を確認し、共通理解のもとに臨地実習を円滑に行うことができるようにするため「臨床実習連携会議」を開催する。

各実習における大学実習担当教員と実習先との連携体制については、一覧表で示している。

（前出の【資料6-9】「教員の配置と指導計画」）

イ 実習前、実習中、実習後における調整・連携の具体的方法

(ア) 実習前打ち合わせ

各年度の実習開始前には、事前に各実習施設で調整会議を開き、大学実習担当教員と施設の臨床実習指導者とで打ち合わせを行う。実習の目的、目標、実習方法の確認などを行い、施設側からの要望や注意点などを確認する。そして、学生が十分に学べるための環境を整える。

(イ) 実習期間中における連携

施設の臨床実習指導者は大学実習担当教員と連携をとり、学生の実習指導を行う。大学実習担当教員は定期的に実習施設を訪問し施設の臨床実習指導者と学生の実習における学修状況について相互に密接な連携を取り、学生の学びを促す。

(ウ) 実習終了後における実習評価及び連携

実習終了後、教員は学生個々の評価を行い臨床実習会議において大学実習担当教員全員で学生の評価を確認する。また、実習施設と事後会議を開き学生の学びの報告、当該実習に

関する総括を行い、評価や課題を話し合う。

(エ) 大学と実習施設との評価方法についての連携

実習終了後、大学実習担当教員は施設の臨床実習指導者と実習目標の到達度、実習への取り組み態度、学生の学びについて意見交換を行い、学生評価の参考とする。

ウ 実習施設における臨床実習指導者の配置計画

質の高い臨床実習を行うため、臨床経験が豊富な理学療法士が在籍する施設を実習先として選定している。「検査測定実習」、「臨床評価実習」、「臨床総合実習」ともに、学生1名に対して臨床経験5年以上の理学療法士が臨床実習指導、および評価を行う。可能な限り2名以上の臨床実習指導者が学生を指導し、学生の評価に関しては、他の理学療法士の意見を総合して、臨床実習指導者が評価表に記載する。

【資料6-12】実習施設総括表

エ 大学教育としての実習の質の確保に関する具体的な配慮方策

実習科目を担当する教員は専任教員とし、単位認定者の監督・指示の下に、実習教育の水準を維持、向上できる実習指導体制を構築する。また、施設の臨床実習指導者と密に連携し学生への指導体制を構築するとともに実習水準を維持する。

- ・大学実習担当教員は各自が担当する実習施設との調整と指導を行う。
- ・大学実習担当教員は定期的の実習施設を訪問し、施設の臨床実習指導者と実習の進

捗状況や実習中における学生の日々の行動や態度などについて情報交換を行い、指導方法の見直し等を協議する。

- ・実習施設での状況などについては毎週1回開催される「臨床実習会議」において大学実習担当教員と共有し、実習の進捗状況の確認と今後の指導内容の確認等を行う。

オ 緊急時の連絡体制等

実習中は常に安全への配慮を行い、事故防止に努める。実習中に事故が発生した場合（学生が対象者に怪我を負わせた場合、施設の器物を破損した場合、個人情報流出させた場合、実習地への移動中に事故に遭遇した場合、感染症に罹患した場合、ハラスメントを受けた場合等）には、まず臨床実習指導者に報告し、指示を受けた後、理学療法学科の実習担当教員に連絡する。休日や早朝、夜間の緊急時の連絡に備え、実習担当教員は実習専用の携帯電話を所持し、学生および臨床実習指導者へ連絡先を伝えておく。必要に応じ、教員が実習先へ訪問し臨床実習指導者と協議する。また、事故の報告は書面に残し、実習委員会にも報告する。

【資料6-13】事故・インシデント発生時における対応方法

(4) 大学における具体的な成績評価体制、単位認定方法・基準

成績評価は、臨床実習指導者が学生の実習に対する取り組み方や実習での目標達成を総合的に判断し決定する。臨床実習合格基準は、臨床実習の規定日数以上の出席、指定されたレポート課題（デイリーノート、事例報告レポートなど）の提出、学内でのセミナーの成績で判定される。臨床実習指導者は、学生の実習中の取り組み方および提出されたレポートより実習目標の達成度で評価し点数をつける。この臨床実習指導者の成績と学内でのセミナーの成績を総合して可否を判断する。臨床実習指導者が合格基準に達していないと判断した場合、大学実習担当教員と協議して対応を決定する。

【資料6-14】実習評価票

7. 実習の具体的な計画 作業療法学科

(1) 実習計画の概要

ア 実習目標

大学での実習は、将来作業療法の専門家として頼られ、指導的な立場で重要な役割を担っていくために必要な技術・知識を修得するためのものと位置付けられる。したがって、長期的な視点で作業療法士としての仕事を見据え、科学的な思考で物事を捉え、主体的に課題を探究していく姿勢を重視して実習を進めていく点が、専門学校とやや異なる。

具体的には、作業療法が実践される現場に適応し、症例検討による実習内容の振り返りや、実習後に課されるレポートで先行研究等を踏まえた考察を行うことに重点を置きながら、患者や家族あるいは地域住民といった人々のニーズを見極め、個別のニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決する主体的問題解決能力を養うことを目標とする。

イ 実習先の確保の状況

本学科の実習目標を達成するための要素や、協力体制を備えていることを条件に実習先を選定し、本学が所在する大阪府下を中心に、病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション等 196 施設を確保した。作業療法の対象となる領域は多岐にわたるが、確保した実習先は身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害の4領域を含む。

なお、本学および大阪市中心部からの移動時間は一部の地域を除き片道1時間30分以内である。これを超える実習施設もあるが、教員の居住地や実習施設まで車を使用するなど効率化を図ることにより、実習指導体制に大きな影響はないと考える。また、学生については実習施設までの通学時間等を配慮し、原則自宅近くの実習施設への配置を優先する。

【資料7-1】実習施設の概要

【資料7-2】承諾書

ウ 実習単位および内容、事前・事後の指導計画

臨床実習に臨むにあたり、十分な事前学習を実施し、臨床実習における基本事項を学生に確認させ、実習生としての態度、身だしなみ、対象者に対する心得等周知徹底させる。実習後は学生にレポート提出を課し、教員は学生個々の評価を行った後、臨床実習会議において大学実習担当教員全員で学生の評価を確認する。

また実習先とも実習前、実習中、実習後を通じて密に連携し、学生への実習指導、評価が適切に行われるようにする。

臨床実習は、必修 5 科目 25 単位、個々の実習内容は以下の通りである。

(ア) 臨地見学実習

2 単位 90 時間、1 年次前期に 1 週間（1 日 9 時間×5 日）を同じ内容で 2 回実施する。

大学実習担当教員の引率のもとで実施し、施設の臨床実習指導者により説明・指導を受ける。複数名の学生を 1 グループとして、病院もしくは施設の作業療法の実態を見学する。1 年前期に開講される「リハビリテーション概論」や「基礎作業学」、「作業科学入門」等の知識を実際の臨床現場で確認することとする。実習に先立って、臨地で行われる実習への心構えや見学実習のあり方について、受け入れ先の施設情報を踏まえ見学のオリエンテーションを行い、事前指導を徹底する。事後指導として、全体の討議と意見交換の場として実習セミナーを開催する。学生は見学時に知り得た事をレポートにまとめ提出する。

(イ) 臨床検査実習

2 単位 90 時間、2 年次後期に 2 週間（1 日 9 時間×5 日）実施する。

大学実習担当教員の指導の下、学内で履修した検査・測定に関する知識・技術を実際の症例を対象として実習する。1 施設 1 名から 4 名の学生で、病院もしくは施設において、講義・演習で修得した作業療法検査・測定の手技を臨床で試みる。事前指導は「臨地見学実習」と同様に受け入れ先施設の情報を踏まえて指導を徹底する。講義や演習で修得した作業療法プロセスを実際の臨床に照らし合わせて、「臨床評価実習」の課題を見つけることができるようにする。事後指導としては、実習中の評価手技実施における問題点や疑問点について討議し、知識・技術を深める。さらに、全体で担当した症例についての報告会を開催する。

(ウ) 臨床評価実習

4 単位 180 時間、3 年次通年で 4 週間（1 日 9 時間×5 日×4 週）実施する。

施設の臨床実習指導者の指導の下、代表的な作業療法対象疾患に対して、作業療法評価のプロセス（情報収集、面接、検査・測定、結果の解釈、問題点抽出、目標設定、介入方針の決定・プログラム立案）を経験する。1 施設 1 名から 4 名の学生で、病院もしくは施設において、作業療法評価の実施を通じて、対象者の生活における肯定的な側面（残存機能）と否定的な側面（問題点）について学修する。「臨床検査実習」の経験を生かし、事前指導を行い、作業療法評価の意義を理解するとともに、系統的な作業療法プロセスの中の評価につい

での理解を深める。実習後は実習セミナーを開催して症例報告を実施し、学生の理解度や到達度に応じて指導を行う。

(エ) 臨床総合実習

16 単位 720 時間、4 年次前期で 8 週間 360 時間（1 日 9 時間×5 日×8 週）を同じ内容で施設を変えて 2 回実施する。

1 施設 4 名から 8 名の学生で、総合病院、リハビリテーション病院、精神科病院、小児医療施設、老人専門病院の内、2 施設において、施設の臨床実習指導者の指導の下、主要な疾患について系統だった作業療法プロセス（評価、プログラム立案、実施、再評価、プログラム検討・修正）を経験する。作業療法を実施する中で、対象者および自己の変化を捉え、プログラムの検討を行えるようにする。実習期間が各 8 週間と長期になるため、臨床総合実習の目的を明確にし、綿密な事前指導を行ったうえで、実習期間の中ごろに担当教員が実習訪問を行い、実習の進行具合や実施状況を把握するとともに、学生に臨床上の問題解決について指導する。ただし、実習指導者の要請があれば、実習施設を適宜訪問できるようにする。事後指導は、担当した症例報告会を開催するとともに、各領域および個別の討議を行い、実習中の疑問点を解決するための実習セミナーを開催する。

(オ) 地域作業療法実習

1 単位 45 時間、4 年後期に 1 週間（1 日 9 時間×5 日）実施する。

臨床実習指導者の指導の下、実習を行う地域の特性を知り、その地域に住む人・環境・作業を分析し、地域での作業療法介入のプロセスを経験する。さらに、地域での多職種連携に必要な知識・技能と地域包括ケアの中での作業療法士の役割と位置づけについて、クライアントを通して学ぶ。

また、作業療法対象者は多岐にわたるため、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害の 4 領域のうち、できる限り異なる領域を経験する。

【資料 7-3】各実習の概要及び週間計画」

エ 臨床実習委員会の設置

実習に関するきめ細かな指導を行うために臨床実習委員会を設置する。同委員会は定期的で開催され、実習計画、実習手引きの作成、実習前後に開催される実習セミナーの計画、実習中の学生への指導方法、実習中の事故に関する対応方法、感染症予防に関する対応方法、個人情報保護に関する対応方法などを指導するための指針を示す。実習中に発生した事故などの問題については、臨時に同委員会を招集し問題解決にあたる。

オ 学生へのオリエンテーションの内容、方法

各学期開始前に実施される学科オリエンテーションにおいて、実習セミナーおよび実習の期日を伝え、実習に関わる先修条件の説明を行う。各臨床実習前には、学年の担任を中心に

として大学実習担当教員（学科の実習委員会委員を含む）による実習オリエンテーションを行う。

オリエンテーションの内容は、実習目標の確認、実習先一覧と学生配置、実習の進め方と提出課題、実習日数と欠席などの取り扱い、実習に取り組む姿勢、作業療法を学ぶ学生としての倫理規定、単位認定の方法、個人情報保護、実習中の事故などについてである。さらに、実習先の領域（身体障害、精神障害、高齢期障害、発達障害）別に、大学実習担当教員が症例報告の記載方法などを指導する。

カ 学生の臨床実習参加基準・要件等

学生が実習を履修するにあたり、「臨地見学実習」、「臨床検査実習」、「地域作業療法実習」には先修条件を定めていないが、それ以外は以下のように定めている。また実習に先立って開催される実習セミナーへの参加はすべての臨床実習において必須である。

（ア）3年次通年 臨床評価実習

3年次前期までの専門科目の必修科目

（イ）4年次前期 臨床総合実習

3年次後期までの専門基礎科目の必修科目

3年次後期までの専門科目の必修科目（「身体障害・精神障害・高齢期障害・発達障害作業療法治療学各論」においてOSCEを実施）

キ 実習中の安全管理体制

学生は、「安全教育」「倫理教育」「医療安全管理体制」「医療現場におけるリスクマネジメント」について理解した上で臨床実習に参加する。

事故および感染症予防については、授業および実習オリエンテーションにて十分に事前の指導を行うとともに、B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の抗体価検査の結果、抗体価が陰性あるいは疑陽性であった学生については、ワクチン接種を促し、抗体保有状況を事前に確認したうえで実習を開始する。学生には、実習中の事故に備えて一般社団法人日本看護学校協議会共済会共済制度に加入することを義務付けている。

実習中に事故が発生した場合、施設の臨床実習指導者および学生から速やかに連絡を受け、大学実習担当教員が実習施設に出向き、対応を協議する。

個人情報保護に関しては、実習中知り得た情報については、法令・条例を遵守し、一切漏洩させない旨の誓約書を臨床実習指導者に提出する。また対象者の個人情報に限らず、実習施設や実習中の生活に関する情報を、SNS（LINEやFacebookなど）やブログなど公共性の高いサービスにおいて発信しないよう実習前オリエンテーション時に注意喚起する。

【資料7-4】実習要項（抜粋）

【資料7-5】感染症予防管理確認表

【資料7-6】誓約書

(2) 実習指導体制と方法

ア 担当専任教員の配置と指導計画、実習訪問計画

本学科の専任教員は「臨地見学実習」において各施設への引率ならびに指導を行う。実習訪問については、「臨床検査実習」、「臨床評価実習」、「臨床総合実習」の期間半ばで各1回を予定している。各教員には、毎週1日あるいは2日、授業を担当しない曜日を設定しており、その曜日に実習の巡回を行う。

実習訪問以外にも、電話連絡等により学生の実習状況の把握に努める。ただし、臨床実習指導者からの要請があれば、適宜訪問を行う予定である。実習訪問においては、臨床実習指導者の指摘事項を参考に、学生の指導にあたる。実習担当教員は、実習終了後に担当学生と面談し、実習の総括を行う。なお、作業療法学科では実習指導および実習巡回を目的とした非常勤助手等を配置しない。

【資料7-7】1~4年次 実習計画表

【資料7-8】全ての実習計画を示す一覧表

【資料7-9】教員の配置と指導計画

イ 学生へのフィードバック、アドバイスの方法等

大学実習担当教員は実習期間中、実習訪問で臨床実習指導者から実習の進捗状況および実習目標の到達度を聞きとるとともに、学生の実習への取り組み方や、提出物の内容を確認する。その際、実習訪問時点での学生の到達度を把握し、以降の実習において解決すべき事柄を明確にする。

また、学生との面談を行い、実習指導者の指摘と学生自身が捉えた実習の評価に差異がないか確認する。実習の評価において両者の捉え方に違いがあれば、学生・臨床実習指導者・大学実習担当教員の三者で協議し、再確認する。

ウ 学生の実習中、実習後のレポート作成・提出等

(ア) 実習中の課題

作業療法学科が課す実習中の提出課題は、「自己目標シート」「実習日誌」、「評価計画書」「ケースノート」「事例報告書」「実習セミナー報告資料」とする。さらに、臨床実習指導者は教員との協議のうえ、必要に応じ課題を設定する。

「事例報告書」では、担当した事例のうち1事例について症例報告を作成する。内容には、実習の日程、実施内容、疑問や感想等が含まれる。「実習日誌」は、実習を円滑に進めるために、学生がその日に経験したことなどを記録するものである。「実習セミナー報告資料」は、実習セミナーで報告する1事例についてセミナー配付資料を作成する。

【資料7-10】自己目標・実習日誌

【資料7-11】事例報告書作成指針

(イ) 実習後の学内での課題

実習終了後に学内で開催するセミナーにおいて、実習で修得・体得した知識、技能、態度、その他を発表し、実習の内容を再確認して学生間で共有する。さらに、担当した症例の報告を行う。

(3) 大学と実習施設との連携体制と方法

ア 各施設での臨床実習指導者の配置状況と連携会議等の開催計画

臨床実習を行う上で、臨床実習施設と本学との連携体制を強化することは大変重要となる。そこで、臨床実習指導者と本学との連絡を密にするため、各臨床実習施設に担当教員を配置し、原則として同一教員が連絡をとるようにする。

また、大学実習担当教員と臨床実習指導者が協議する場として、実習前に年1回の「臨床実習指導者会議」を開催する。この会議は、臨床実習受け入れ施設の実習指導者と大学の実習担当教員で構成され、本学教育水準と臨床の理解を深め、充実した実習を構築するための建設的な意見交換を行うほか、実習指導上の問題や情報交換の場としても活用する。具体的には、1)実習カリキュラムの検討、2)学生の実習への適応、3)実習の評価に関する基準等について話し合う。この会議までに受け入れ施設への学生配置が決定した場合は、学生と臨床実習指導者との情報交換も行う。各実習における大学実習担当教員と実習先との連携体制については、一覧表で示している。(前出の【資料7-9】「教員の配置と指導計画」)

イ 実習前、実習中、実習後における調整・連携の具体的方法

1年次の臨地見学実習では、大学実習担当教員が実習前に見学施設の情報を確認し、学生に伝えておく。当日は実習担当教員引率のもとで実習を行い、見学先の実習指導者から説明・指導を受け、必要に応じて大学実習担当教員からも補足説明を行う。

2年次の臨床検査実習では、事前に大学実習担当者が臨床実習指導者と連絡を取り、実習目的や実習方法、実習到達目標について確認するほか、配置された学生の学内での知識・技術の修得レベルを報告し、指導方法について協議する。実習期間半ばに担当教員が施設を訪問し、臨床実習指導者および学生から実習の進捗状況を確認する。

3、4年次の臨床評価実習、臨床総合実習および地域作業療法実習に関しては、実習前に開催する臨床実習指導者会議において、実習目的や実習方法、実習到達目標について確認し、前年度に実施した全実習の総括を行う。臨床実習指導者会議欠席の施設には議事録を送付し、不明な点がある場合には実習施設担当者が電話連絡もしくは訪問して対応する。実習期間の半ばには、大学実習担当教員が訪問し、実習の進捗状況を確認するほか、担当教員は適宜電話連絡で学生の状況を把握しておく。

いずれの実習でも、実習期間中は大学実習担当教員と臨床実習指導者が連絡を密にしておくことで、実習指導上の問題が発生した際に迅速に対応できるようにする。終了後は大学実習指導者と臨床実習指導者が、実習目標の到達度、実習への取り組み態度、

学生の学びについて意見交換を行い、学生評価の参考とする。

ウ 実習施設における臨床実習指導者の配置計画

質の高い臨床実習を行うため、臨床経験が豊富な作業療法士が在籍する施設を実習先として選定している。「臨床検査実習」、「臨床評価実習」、「臨床総合実習」とともに、学生1名に対して臨床経験5年以上の作業療法士が臨床実習指導、および評価を行う。可能な限り2名以上の臨床実習指導者が学生を指導し、学生の評価に関しては、他の作業療法士の意見を総合して、臨床実習指導者が評価表に記載する。

【資料7-12】実習施設総括表

エ 大学教育としての実習の質の確保に関する具体的な配慮方策

本学の臨床実習は、学外の医療施設・福祉施設で実施する。臨床実習は、学内において修得した知識・技術の臨床での体験学修であるため、本学の教育水準と同レベルに保つことは重要となる。実習水準の確保と方策として、下記に示すことを実施する。

臨床実習開始前に、各施設の臨床実習指導者に対して、本学のカリキュラムならびに授業概要を提示し、教育内容を説明する。さらに、実習指導方法について本学の実習担当教員と実習指導者間で十分に調整する。そして、各施設の実習指導者と本学の連携を密にするために、各実習施設に大学実習担当教員を配置する。

作業療法は理論に基づいた実践の学問であるため、治療プログラムを展開するための理論的背景や根拠を提示する必要がある。そのために、実習中に課しているデイリーノートおよび事例報告レポートにおいて、先行研究などを引用した考察を重要視する。また、臨床実習指導者と本学の実習担当教員が一体となり、臨床現場での指導や抄読会、症例報告会（検討会）、臨床講義などを行い、それらを通じて学生の課題解決能力等を養う。

各臨床実習終了時には、実習セミナーを開催する。中でも、臨床総合実習終了時は、評価実習で修得した知識・技術を再確認するとともに、各施設の実習指導内容が本学の教育水準を満たしている事を確認する。実習先の実習水準が本学の教育水準を満たさない場合、もしくは本学の教育内容と合致しない場合は、本学の教育水準を再提示し、教育内容を指導することで実習水準の確保に努める。

なお、大学だけでなく専門学校の実習を受け入れている実習施設については、大学教育にふさわしい実習の質が確保されるよう、臨床実習指導者会議等の場を利用して各施設の臨床実習指導者に実習目標や実習内容を十分に伝え、本学の教員と認識を共有できるよう努める。

オ 緊急時の連絡体制等

実習中は常に安全への配慮を行い、事故防止に努める。実習中に事故が発生した場合（学生が対象者に怪我を負わせた場合、施設の器物を破損した場合、個人情報流出させた場合、

実習地への移動中に事故に遭遇した場合、感染症にり患した場合、ハラスメントを受けた場合等)には、まず臨床実習指導者に報告し、指示を受けた後、作業療法学科の実習担当教員に連絡する。休日や早朝、夜間の緊急時の連絡に備え、実習担当教員は実習専用の携帯電話を所持し、学生および実習指導者へ連絡先を伝えておく。必要に応じ、教員が実習先へ訪問し実習指導者と協議する。また、事故の報告は書面に残し、実習委員会にも報告する。

【資料7-13】インシデント・事故（アクシデント）対応及び報告書

（４）単位認定等評価方法

ア 各施設の指導者と大学側の指導者との評価方法・連携（臨床実習指導者と教員の役割）

臨床実習における教育計画の立案および遂行は、大学が責任をもって行い、臨床実習指導者と教員は次のような教育の役割を分担し、円滑で効率的な運営を図る。

（ア）教員の役割

- ・ 臨床実習内容および方法の計画、臨床実習の手引きの作成
- ・ 実習依頼とその調整、学生の配置先の決定
- ・ 事前の実習行動計画の指導
- ・ 臨床実習指導者会議の計画と開催
- ・ 実習に関連する問題の調整
- ・ 実習期間中の訪問指導および電話連絡による状況把握
- ・ 実習終了後のセミナーの計画および開催

（イ）臨床実習指導者の役割

- ・ オリエンテーションの実施
- ・ 学生の実習内容と方法に関する教員との連絡調整
- ・ 担当症例に対する治療および記録に関する指導
- ・ 学生の課題学修や専門職として社会適応技能の指導
- ・ 本学の評価様式を用いた実習中の学生に対する中間評価と最終評価
- ・ 学生の自己評価に対する指導

当該実習終了後、大学実習指導者は臨床実習指導者と、実習目標の到達度、実習への取り組み態度、学生の学びについて意見交換を行い、学生評価の参考とする。臨床実習終了後、大学の専任教員は学生個々の評価を行い、当該実習の全体の評価会議において実習担当教員全員で学生の評価を確認する。

イ 大学における具体的な成績評価体制、単位認定方法・基準

成績評価は、臨床実習指導者が学生の実習に対する取り組み方や実習での目標達成を総合的に判断し決定する。臨床実習合格基準は、臨床実習の規定日数以上の出席、指定されたレポート課題（デイリーノート、事例報告レポートなど）の提出、学内でのセミナーの成績

で判定される。臨床実習指導者は、学生の実習中の取り組み方および提出されたレポートより実習目標の達成度で評価し点数をつける。この臨床実習指導者の成績と学内でのセミナーの成績を総合して合否を判断する。臨床実習指導者が合格基準に達していないと判断した場合、大学実習担当教員と協議して対応を決定する。

【資料7-14】実習評価票（臨床総合実習）

8. 取得可能な資格

（1）理学療法学科

理学療法学科の教育課程は、【資料8-1】の対比表のとおり、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則で定める教育内容及び単位数等の条件を満たしているため、卒業要件に必要な単位を修得することにより、卒業と同時に国家資格である理学療法士及び作業療法士法に定める理学療法士国家試験受験資格を得ることができる。

【資料8-1】教育課程と指定規則との対比表 理学療法学科

（2）作業療法学科

作業療法学科の教育課程は、【資料8-2】の対比表のとおり、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則で定める教育内容及び単位数等の条件を満たしているため、卒業要件に必要な単位を修得することにより、卒業と同時に国家資格である理学療法士及び作業療法士法に定める作業療法士国家試験受験資格を得ることができる。

【資料8-2】教育課程と指定規則との対比表 作業療法学科

9. 入学者選抜の概要

（1）入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

総合リハビリテーション学部理学療法学科及び作業療法学科が求める学生像は以下のとおりである。

教育目標に定める専門職医療人の人材を育成するために、本学の学修内容に強い関心と意欲を有しているのと同時に、専門知識修得のために最低限度必要な高等学校までの基礎学力、さらには主体的な行動力・協働力を兼ね備えて入学してくることを求める。具体的には以下のような人物像を求める。

<具体的な求める人物像>

①リハビリテーション専門職の仕事及び本学の教育方針を理解し、リハビリテーションに関する学修を継続し修了する意欲がある。

- ②高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得している。
- ③他者と協働できるコミュニケーション力、思考・判断力を有している。
- ④自分のため、人のために努力を惜しまず、最後までやり遂げることができる。

<高等学校で修得しておくことが望ましい水準>

- ①高等学校の教育課程において、文系理系を問わず幅広く教科・科目を修得し、論理的思考、コミュニケーション力を身につけている。具体的には国語、英語、数学、生物、化学、物理に相当する科目のうち、複数科目を修得している。
- ②生徒会活動や特別活動などの課外活動に参加することにより、主体的な行動力や協調性を身につけている。
- ③自分の考えを人前で話すことや書くことができる程度の思考力や表現力を身につけている。
- ④実用英語技能検定、GTEC、日本漢字能力検定、実用数学技能検定の資格取得に積極的に取り組んでいる。

<入学者選抜の方針>

高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」については以下の方法で評価を行う。また、各入試特性に合わせて、それぞれの評価比重（配点）を変えて評価する。

- ①知識・技能については、筆記試験、調査書、資格取得で評価する。
- ②思考力・判断力・表現力については、筆記試験、面接、志望動機書で評価する。
- ③主体性・多様性・協働性については、面接、志望動機書、調査書（課外活動）、資格取得で評価する。

【禁煙への取り組み】

本学では、学生の健康を確保するため、また医療人を育成する大学の責務として、大学の全敷地内及び大学周辺の全面禁煙化を実施している。入学者は大学敷地内及び大学周辺での喫煙行為を行わないことを約束できる方とする。

(2) 入学者選抜方法

本学科が求める学生を多面的・総合的に評価し選抜できるよう、すべての入試において、本学科への入学を志望する動機、ならびに卒業後の目標について記載する「入学志望動機書」の提出及び「面接試験」を課すこととする。これにより、アドミッション・ポリシーに掲げている「職業への理解と関心」、「学修に関する意欲」等が本学科の求める水準に達していることを判定する。

具体的な選抜方法は以下のとおりである。

【1】総合型選抜【学習成果重視型】（理学療法学科 6 名、作業療法学科 13 名）

〔試験日 2021 年 10 月 17 日 実施予定〕

「将来、社会に貢献するために本学で学びたい」という高い目的意識と強い学習意欲を持った人たちを積極的に評価するために実施する。基礎学力試験による基礎学力、面接による人物評価、高等学校や社会での取り組みを総合的に判定する。

【2】総合型選抜【学力重視型】（理学療法学科 30 名、作業療法学科 12 名、指定校推薦選抜含む）〔試験日 2021 年 11 月 6 日、11 月 7 日 実施予定〕

入学志望動機書、基礎学力試験、面接試験等によって、学力到達度や適性を総合的に判定する。

【3】学校推薦型選抜指定校推薦選抜〔試験日 2021 年 11 月 19 日 実施予定〕

入学志望動機書、推薦書、面接試験によって、学力到達度や適性を総合的に判定する。

【4】一般選抜（理学療法学科 30 名、作業療法学科 12 名、社会人選抜含む）

〔試験日 2022 年 2 月～3 月 実施予定〕

入学志望動機書、学科試験、面接試験によって学力到達度や適性を総合的に判定する。

【5】大学入学共通テスト利用選抜（面接併用型）（理学療法学科 4 名、作業療法学科 3 名）

〔試験日 2022 年 3 月 8 日 実施予定〕

入学志望動機書、「大学入学共通テスト」の成績、面接試験によって、学力到達度や適性を総合的に判定する。

【6】社会人選抜〔試験日 2022 年 2 月 6 日、2 月 23 日 実施予定〕

職業に従事した経験を持つ社会人を対象とし、面接を重視し、学科試験を含め、総合的に判定する。なお、社会人とは下記のいずれかに該当する現役高校生以外のすべての方で、おおむね 2 年以上の就労経験（アルバイト含む）がある方とする。

- ①高等学校・中等教育学校を卒業した方
- ②通常の課程による 12 年の学校教育を修了した方
- ③学校教育法施行規則第 150 条の規定により、高等学校卒業と同等以上の学力があると認められる方

【入試区分ごとの試験科目と科目選択方法】

入試区分	試験科目	選択方法等
総合型選抜 【学習成果重視型】	○基礎学力試験：「国語総合（古文・漢文を除く）」、「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」に相当する科目	2 科目選択

	○面接試験（個人面接）																						
総合型選抜 【学力重視型】	○基礎学力試験：「国語総合（古文・漢文を除く）」、「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」、「生物基礎」、「化学基礎」に相当する科目 ○面接試験（グループ面接）	2科目選択																					
学校推薦型選抜 指定校推薦選抜	○面接試験（個人面接）	—																					
一般選抜 （前期・中期・後期）	○学科試験：「国語総合（古文・漢文を除く）」、「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」、「生物基礎・生物」、「化学基礎・化学」「物理基礎・物理」 ○面接試験（グループ面接）	前期は2 or 3科目選択、 中・後期は2科目選択																					
大学入学共通テスト利用選抜 （面接併用型）	○大学入学共通テスト：以下の7科目のうち、2科目を合否判定に採用。3科目以上受験した場合は高得点の2科目を合否判定に採用する。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>教科</th> <th>出題科目と選択方法等 ※1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数学</td> <td>「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」から1科目選択</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td rowspan="4">理科</td> <td>「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択 ※2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「化学」</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「生物」</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「物理」</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>外国語</td> <td>「英語」（リーディング・リスニング）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>国語</td> <td>「国語総合（近代以降の文章）」</td> </tr> </tbody> </table> ※1 7科目全てを受験する必要はない ※2 2科目で1科目とみなす ○面接試験（グループ面接）	科目	教科	出題科目と選択方法等 ※1	1	数学	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」から1科目選択	2	理科	「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択 ※2	3	「化学」	4	「生物」	5	「物理」	6	外国語	「英語」（リーディング・リスニング）	7	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	2科目以上選択
科目	教科	出題科目と選択方法等 ※1																					
1	数学	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」から1科目選択																					
2	理科	「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」から2科目選択 ※2																					
3		「化学」																					
4		「生物」																					
5		「物理」																					
6	外国語	「英語」（リーディング・リスニング）																					
7	国語	「国語総合（近代以降の文章）」																					
社会人選抜	○学科試験：「国語総合（古文・漢文を除く）」、「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」、「生物基礎・生物」、「化学基礎・化学」「物理基礎・物理」 ○面接試験（個人面接）	2科目選択																					

(3) 入学前教育

早期に合格が決定した後の学習意欲を継続する観点から、本学では令和2(2020)年度現在、「入学後に学ぶ内容の把握」、「必要な基礎知識の確認」、「高校までとは異なる主体的な学習方法への理解」を深めることを目的とした、「入学前教育プログラム」を実施している。

ア 対象

総合型選抜(学習成果重視型)(学力重視型)・学校推薦型選抜指定校推薦選抜に合格した者(12月以前の入学内定者)。

イ 内容

リハビリ・医療系総合テキスト、課題提出、ワークショップによる採点指導付き自習。

令和4(2022)年度以降の入学前教育に関しては、令和3(2021)年度の入学前教育の趣旨を基本としつつ、本学部の特性を考慮した上で教材等の適正化を図っていく予定である。

10. 教員組織の編制の考え方及び特色

(1) 教員組織の編制について

設置の趣旨、並びに学科の特色に合致した教育を行うため、臨床を重視した教育および研究指導ができる教員を配置している。そのため、臨床経験が豊富な理学療法士、作業療法士、大学教育・専門学校教育に従事してきた理学療法士、作業療法士を配置した。

ア. 理学療法学科

本学科は専任教員16名(教授7名、准教授4名、講師2名、助教3名)で組織される。中心となる研究分野は「理学療法学」であり、教員組織を構成する教員16名のうち13名が理学療法士の資格を有し、5年以上の臨床経験がある。

研究指導に関しては、専任教員16名のうち、博士の学位を持つものが8名(医学5名、歯学2名、医療科学1名)、修士の学位を持つものが7名(医科学1名、学術2名、人間健康科学1名、健康科学1名、教育学1名、保健医療学1名)であり、それぞれの分野で研究指導及び補助に当たることができる。

イ. 作業療法学科

本学科は専任教員 10 名（教授 5 名、講師 4 名、助教 1 名）で組織される。中心となる研究分野は「作業療法学」であり、教員組織を構成する全ての教員が、作業療法士の資格を有し、5 年以上の臨床経験がある。一般社団法人日本作業療法士協会が指定する認定作業療法士が 3 名、専門作業療法士（認知症）が 1 名であり、作業療法士の各専門分野において、高い見識と優れた技術力を持ち、それらの教育能力を兼ね備えた教員を配置している。作業療法に関わる領域のうち発達障害領域が 1 名、身体障害領域が 3 名、精神障害領域が 2 名、高齢期障害領域が 2 名であり、全ての作業療法領域の教員が配置されている。研究指導に関しては、専任教員 10 名のうち、博士の学位を持つものが 5 名（医学 1 名、保健学 4 名）、修士の学位を持つものが 3 名（リハビリテーション科学 1 名、保健学 1 名、人間健康科学 1 名）であり、それぞれの分野で研究指導及び補助に当たることができる。

（2）主要科目と教員配置について

教養科目群については、既存の保健医療学部が培ってきた教育水準を引き継ぐため、同一の教員を配置した。また、本学は医療系大学であるため、専門基礎科目の一部は学科を超えて共通の科目であることから、学内で最適な人選をおこない実績のある教員を配置した。一部の科目において非常勤講師を依頼する場合も優れた教育・研究実績を持つ人材を配置した。

ア. 理学療法学科

理学療法学科の専門科目群においては、理学療法士という専門職業人養成の観点から、臨床現場の経験と研究実績の豊富な教員を配置することで、臨床に直結した教育を行う。

特に 3 年次までには、理学療法治療学領域で「運動器系理学療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「神経系理学療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「内部障害系理学療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、地域理学療法領域で「地域理学療法学」「生活環境論」などを、それぞれの領域に精通した教員を配置している。また 4 年次の「臨床総合実習Ⅰ・Ⅱ」に向けて、複数の疾患を抱え障害構造が複雑な症例であっても能動的な行動が取れるような学生が育つように、臨床総合実習前に「臨床理学療法治療学実習」を配置し、各領域の教員が集まり OSCE を実施することで、多領域にまたがった基本的な理学療法を実践できるように工夫している。

イ. 作業療法学科

作業療法学科の専門科目群においては、作業療法士という専門職業人養成の観点から、

臨床現場の経験が豊富な教員を配置することで、臨床に直結した教育を行う。同時に、高度な専門知識の教育・研究の場としての役割を果たすべく、教育実績および研究実績の豊富な教員を配置し、臨床と教育、研究が相互に作用できるように工夫している。さらに、地域で活躍する作業療法士が増えることを見込み、障害者や高齢者を取り巻く住環境や制度の理解を深めるために、福祉住環境に精通した教員を配置した。また、介護予防の概念が普及する中、認知症予防や転倒予防に精通した作業療法士も配置している。「基礎ゼミナール」や「作業療法特論Ⅰ、Ⅱ」については、全ての教員が担当することで作業療法に関して総合的なものの見方ができるように配慮した。

(3) 教員の年齢構成について

ア. 理学療法学科

総合リハビリテーション学部開設時、理学療法学科の専任教員の年齢構成は、70歳代に教授1名、60歳代に教授1名、50歳代に教授4名、40歳代に教授2名、准教授3名、講師1名、30歳代に講師2名、助教2名となっている。

本学の定年年齢が満60才であり、完成年度には、4名が定年に達している。本学の定年規程では、「大学の学部学科等の設置に係り、就任することが予定されている者は、それぞれの学部学科等の開設後、学年進行が終了する年度末まで在職を認める」と規定しているため、定年年齢に達した教員については、完成年度まで在籍させる。また、学年進行終了時以降は再雇用規程に基づき、リハビリテーション学の必要な分野に基づいた必要に応じて在籍を継続する【資料10-1】【資料10-2】【資料10-3】。

さらに、学年進行終了時以降は、教育研究水準に支障をきたさず世代交代が円滑に行われるよう、退職する教員の専門性、年齢、職位等を考慮し、適宜後任を補充する。この後任の採用は以下に示す方針で行う。

- ・ 現行の教員数16名から、若手教員を2名増員する
- ・ 本学の教育研究の維持・向上をはかるため、採用方法を内部昇格のみに限定せず、公募により外部からも広く候補者を求め、その中から適任者を確保する。
- ・ 採用はバランスのとれた年齢構成となるよう年齢も考慮する。
- ・ 原則として、定年まで4年以上の期間がある者を採用する。
- ・ 年齢構成は、【資料10-4】で職位ごとに定めた構成を目途に配慮して採用する。

イ. 作業療法学科

総合リハビリテーション学部開設時、作業療法学科の専任教員の年齢構成は、60歳代に教授3名、50歳代に教授2名、40歳代に講師2名、30歳代に講師2名、助教1名となっている。

本学の定年年齢が満60才であり、完成年度には、4名が定年に達している。本学の定年規程では、「大学の学部学科等の設置に係り、就任することが予定されている者は、それぞれの学部学科等の開設後、学年進行が終了する年度末まで在職を認める」と規定しているため、定年年齢に達した教員については、完成年度まで在籍させる。また、学年進行終了時以降は再雇用規程に基づき、リハビリテーション学の必要な分野に基づいた必要に応じて在籍を継続する【資料10-1】【資料10-2】【資料10-3】。

さらに、学年進行終了時以降は、教育研究水準に支障をきたさず世代交代が円滑に行われるよう、退職する教員の専門性、年齢、職位等を考慮し、適宜後任を補充する。この後任の採用は以下に示す方針で行う。

- ・ 現行の教員数10名から、若手教員を3名増員する
- ・ 本学の教育研究の維持・向上をはかるため、採用方法を内部昇格のみに限定せず、公募により外部からも広く候補者を求め、その中から適任者を確保する。
- ・ 採用はバランスのとれた年齢構成となるよう年齢も考慮する。
- ・ 原則として、定年まで4年以上の期間がある者を採用する。
- ・ 年齢構成は、【資料10-4】で職位ごとに定めた構成を目途に配慮して採用する。

【資料10-1】教員等定年規程

【資料10-2】再雇用規程

【資料10-3】教育職員等の任期制に関する規程

【資料10-4】将来の教員配置計画

(4) 若手教員の育成計画

本学では、教員の自己研鑽を促し研究・研修を推進する目的で、研究内容や研究環境を考慮した上で、専任教員が週1日程度を学外等での研究・研修活動に充てることを認めている。本学自己点検評価・FSD委員会において組織的な教育活動改善への取り組みを担当しており、経験の浅い若手教員に対して教育方法の改善・指導する体制を整えている。また、大学院が主催する「大学院学術セミナー」を月に1回（原則として第4木曜日）開催し、各教員が現在取り組んでいる自身の研究成果や進捗状況などを本学教職員や学生、外

部の参加希望者に対して講演し、教職員からの質疑応答に対応している。また、「研究支援センター」では、若手教員の研究に対する助言や支援に加え、研究における倫理教育を実施している。同センターでは研究費配分も行っており、若手教員のプロジェクトについても積極的に採用していく。さらに、若手教員の教育研究活動の資質向上のため、助教等を対象とした大学院（修士課程・博士課程）への進学についてもサポートしていく。今後専門職業人の養成に必要なFD研修や各種セミナー等を通して教員育成を行い、教員の質向上に努めていく。

1.1. 施設、設備の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

ア. 校地の状況

校地は平成18（2006）年に大阪市住之江区南港北1丁目26番16号（地番：1丁目39番1号）に7,683.81㎡の土地（容積率800%）を大阪市から購入し、平成20（2008）年に隣接する同南港北1丁目39番2号に8,311.43㎡を追加購入、さらに平成28（2016）年に隣接する同南港北1丁目40番1号～3号、8号～9号に16,941.41㎡を追加購入したことにより、合計32,936.65㎡を保有している。大阪メトロ中央線のコスモスクエア駅から徒歩約1分の場所にあり、学生の通学や教職員の通勤に高い利便性と、市民に開かれた大学としての役割を担うことができる立地条件である。

近隣には、高層マンションやオフィスビルが林立し、徒歩5分圏内には出入国在留管理局や大阪府咲洲庁舎等があり、行政との連携を積極的に行っている。一方、海辺等の自然が間近にあり、学生と市民が触れ合うことができる憩いの場を介し、豊かな人間性を醸成し、学生に活力をもたらす、専門職医療人の育成の環境としてふさわしい立地であると考えられる。

イ. 校舎等施設の整備計画

平成19（2007）年の大学開学に伴い、鍼灸学科および理学療法学科の校舎「東棟」を建設し、残りの校地を緑豊かな空地とした。平成22（2010）年度に「学生食堂棟」、平成23（2011）年度には看護学科設置に伴い「西棟」を建設した。また平成28（2016）年度には「南棟」を建設し、臨床検査学科、作業療法学科、臨床工学科、大学院保健医療学研究科医療科学専攻が使用している。また、診療放射線学科設置に伴い、新校舎「桜棟」（5,422.25㎡）が令和2（2020）年1月に竣工している。

ウ. 運動施設の確保

大学にとって運動場は、教育や休息のために必要であることから、校地内に整備することを検討したが、学内に設けるのではなく代替運動施設を利用することとした。その理由とし

て以下の点が挙げられる。

- ・校地内にスポーツ系実習や課外活動を行うに足る、十分な広さを持つ運動場を設けることが困難である
- ・大学の近接地域に大規模な運動施設が存在している
- ・近隣運動施設を大学が使用することによって地域振興につながる
- ・学内に運動場がなくとも、体育館を備えることで教育や研究に支障を来さない

(ア) 代替運動施設

「運動場を設けることと同等と認められる措置」としての代替運動施設として、次のとおり舞洲スポーツアイランド等を使用し、「運動場に係る要件の弾力化による大学設置事業(828)」の特例措置の適応を受けるべく、「ビジネス人材育成特区」として申請、認定されている。

i) 舞洲スポーツアイランド (所在地 大阪市此花区北港緑地 2 丁目 2 番 15 号)

舞洲スポーツアイランドは、運動場 4 面、球技場 2 面、体育館 2 棟、テニスコート 21 面を有し、大学から専用バスではほぼ遅延無く約 7 分で到着する。利用については、移動時間を考慮し、実習自体や前後の授業に時間的な支障が生じないように時間割の策定に配慮する。また、学生の経済的負担軽減のため、授業及び課外活動の際には専用バスを大学～舞洲スポーツアイランド間にて往復巡回させている。さらに学生数増加に伴う課外活動の活発化に合わせて、学部・学科や学年の枠組みを超えて、共通の目的や趣味を持つ仲間と互いに刺激しあいながらあらゆるスポーツを楽しむことができるよう、施設利用回数の増加や休憩施設等の充実を図り、課外活動運営を支援している。

ii) 本学体育館

バスケットボールコート 2 面、バレーボールコート 2 面、バドミントンコート 6 面を取ることができる体育館を南棟に併設しており、授業や課外活動で利用できるようにし、学内における運動施設環境の充実を図っている。

(イ) 多目的スポーツ施設

平成 29 (2017) 年度に多目的スポーツ施設「グリーンスクエア」を整備した。これは、フットサルやサッカーに対応した人工芝舗装部 (約 1,936 m²)、多目的広場としてクレイ舗装部 (約 1,468 m²)、ランニングコースとしてウレタン舗装部 (周回 300m) を備えた施設となっており、夜間の使用にも対応するべく人工芝舗装部には LED 照明も設置している。

(ウ) 体育系の授業

既設学科においては「基礎体育(2単位)」の授業を本学の「多目的スポーツ施設グリーンスクエア」や「舞洲スポーツアイランド」を活用して実施している。総合リハビリテーション学部においても既存の保健医療学部同様、これら本学施設等を活用し授業運営を行う。

(エ) 課外活動支援

課外活動においては現在、大学が認可した部13団体(柔道部、バドミントン部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、陸上部、ハンドボール部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、サッカー部、茶道部、軽音部、硬式テニス部、準硬式野球部、ライフサポート部)および公認サークル2団体(ボランティアサークル、アコースティックギターサークル)の合計16団体が活動している。

主な活動場所としては、本学体育館や「多目的スポーツ施設グリーンスクエア」に加え、隣接地域にある運動場・競技施設を活用している。

i) 舞洲スポーツアイランド 「おおきにアリーナ舞洲」

利用時間：17:30～21:00(休暇期間中13:00～16:00)

利用回数：年間約70日

ii) セレッソスポーツパーク舞洲

利用時間：19:00～21:00(休暇期間中13:00～15:00)

利用回数：年間約109日

iii) その他各団体の施設

(例：ミズノ株式会社所有テニスコート・港スポーツセンターなど)

上記施設を確保し、課外活動運営を支援している。今後も本学体育館や多目的スポーツ施設「グリーンスクエア」の利用状況に応じて継続予定である。

(2) 校舎等施設の整備計画

現有校舎は「東棟」(延床面積7,333.26㎡)、「学生食堂棟」(同603.63㎡)と「西棟」(同4,523.74㎡)、「南棟」(同10,939.69㎡)などがあり、および新校舎「桜棟」(5,422.25㎡)が令和2(2020)年1月に竣工している。

講義室等の設備の整備状況は以下の通りである。なお、講義室、実験室及び実習室、演習室については基本的に既存の保健医療学部理学療法学科及び作業療法学科と共用することとし、教育・研究機材、器具などの備品についても同様に共用することとする。保健医療学部理学療法学科及び作業療法学科ならびに他学部との共用でも支障なく使用できるように

整備している。【資料 11-1】【資料 11-2】で総合リハビリテーション学部理学療法学科および作業療法学科の時間割（案）を示す。

ア. 講義室群

講義室は大学全体で大小併せて47室ある（情報処理学習施設1室を含む）。大学共有で使用を予定している講義室を用いて、合同講義や少人数制の講義を全ての学年で同時に行えるよう整備している。理学療法学科は主に東棟の講義室、作業療法学科は主に南棟の講義室を使用する。

イ. 基礎的な技術指導が可能な実習室・機器・備品

実習室は大学全体で40室あり、総合リハビリテーション学部で10室ある。内訳は、理学療法学科6室、作業療法学科4室である。総合リハビリテーションで使用する実習室は、東棟と南棟に配置しており、理学療法学科・作業療法学科の用途、実習に合わせた機器・設備を配備している。

ウ. 専任教員の実験・研究施設

専任教員の研究室は、大学全体で 82 室あり、個人研究室が 56 室、共同研究室が 26 室で、すべての専任教員が使用するのに十分な数と広さを備えている。実験室は大学全体で 9 室あり、東棟に大学共有の動物実験室 1 室及び飼育室 1 室と生理学系実験室 1 室、西棟に生理学系実験室 1 室と多目的実験室 1 室、南棟に検査系実験室 3 室、桜棟に実験室 1 室を整備する。

エ. 個別指導及び問題解決能力を養う演習室

語学演習や卒業研究に活用できる小スペースの演習室が大学全体で19室ある。学生と教員が直接対話できる小空間を用いることにより、問題提起の訓練や解決能力向上の育成に役立たせる。

オ. 地域との交流の場、生涯学習の拠点

南棟の2階に図書館（愛称：メディカル・アイ）を整備している。図書館の面積は 881.58㎡、閲覧座席数は273席、収納可能冊数は8万冊、蔵書数は3万冊である。体育館についても南棟に設置しており、図書館や体育館、大講義室等の学内施設は、内部の利用だけに留まらず、研修会や市民講座などを誘致して地域の人たちの利用を促し、生涯学習の拠点とする。

カ. その他

学生が自習等を行うためのフリースペースを東棟1階と西棟1階、南棟の1, 3, 4, 5階のロビー、桜棟の5階のロビーに整備している。また各棟にはラーニング・コモンズを設置し、学生同士はもとより教員も交えてディスカッションや自習をおこなうなどフレキシブルに活用できるスペースとなっている。専任教員の研究室に近い場所に学生の自習等のスペースを設けることにより、学生と教員が気軽にコミュニケーションをとれる空間を作っ

ている。

【資料 11-1】総合リハビリテーション学部理学療法学科 時間割表 (案)

【資料 11-2】総合リハビリテーション学部作業療法学科 時間割表 (案)

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

ア. 図書館の整備状況

本学図書館（愛称：メディカル・アイ）は南棟の 2 階部分に位置し、面積は 881.58m²。図書収容能力は約 8 万冊、閲覧座席数は 273 席である。開館時間は平日 8 時から 20 時 30 分まで、土曜日と日曜日は 11 時から 17 時までとし、平日の利用が困難な実習中の学生の利用も可能にしているほか、試験期間には閉館時間を 21 時まで延長する等、学生の学習支援に力を注いでおり、各学科、専攻科、研究科を対象としたガイダンスも実施している。

図書館内は全面的に私語を禁止して静寂な環境を維持しているが、入口カウンター前に設けたブラウジングスペースにはソファと低層の書架を設置して利用者がくつろげる空間とし、利用者の多様なニーズに合わせた環境づくりに努めている。

書架が並ぶ閲覧スペースとは別にパソコン専用のスペースを設け、常設型パソコン 52 台、プリンター 4 台を設置、他に貸出用のノートパソコン 18 台も用意しており、電子書籍の閲覧や文献情報の検索とダウンロード、課題レポートの作成等に利用できる。Wi-Fi 環境が完備した館内では持ち込みのノートパソコンからの出力も可能となっており、多様なニーズに沿った利用者サービスを提供している。また、常設型パソコンスペースの横にはグループ学習室を 3 室設置し、ノートパソコンを持ち込んだプレゼンテーションの練習や、視聴覚資料を用いたグループ学習等に利用できる。

また、図書館入口には磁気ゲートシステム（BDS）を設置し、資料を管理している。

イ. 図書資料整備計画

総合リハビリテーション学部開設予定の令和 4（2022）年度には図書の蔵書数が 3 万冊を超え、リハビリテーション学を学ぶ学生に必要な関連図書については、理学療法、作業療法、言語聴覚、整形外科、スポーツ医学、内科、精神科、生理学、解剖学、運動学、社会福祉と多岐に渡る収集を行っている。（【資料 11-3】森ノ宮医療大学附属図書館 リハビリテーション関連図書 所蔵冊数）今後は、既刊図書の改訂に合わせた購入や複本の購入、新たに出版される専門図書の購入等により更なる充実を図るとともに、一般教養的な資料についても常時リクエストを受け付けている。

図書館の資料購入費として、毎年 1,400 万円の予算が予定されており、各学科及び専攻からの購入希望による選書を年に 2 回（6～7 月、10 月～11 月）実施しているほか、学生や教職員のリクエストカードによる購入希望も随時受け付けている。いずれも選書後に附属図書館運営委員会（年間 3～4 回開催）で購入を検討し、決定している

学術雑誌の整備計画については、本学図書館で所蔵する 440 誌（和雑誌 378 誌、洋雑誌

62 誌)のうち、リハビリテーション学関連の雑誌 282 誌(和雑誌 193 誌、洋雑誌 40 誌、紀要 49 誌)を引き続き整備していく。(【資料 11-4】森ノ宮医療大学附属図書館 リハビリテーション関連雑誌 所蔵リスト)

電子ジャーナルについては、洋雑誌 18 タイトルを契約しているほか、医学文献データベースとしては国内最大の「医中誌 Web 版」、医学文献データベース「メディカルオンライン」、「メディカルファインダー」、保健医療の研究者、医療関連専門家や看護科学生を対象としたフルテキストデータベース「ProQuest Nursing & Allied Health Source」等の利用が可能であり、保健医療関連の幅広い分野における文献情報の検索、閲覧、取得等を可能にしている。(【資料 11-5】森ノ宮医療大学附属図書館 リハビリテーション関連 データベース・電子ジャーナル 所蔵リスト)

ウ. 他情報機関との協力

国立情報学研究所目録所在情報サービス(NACISIS-CAT/ILL)に加入、全国の情報機関と連携して文献複写及び相互貸借機能の充実を図るとともに、国立国会図書館の文献複写サービスも利用して利用者の希望に迅速に対応できるよう努めている。

また、私立大学図書館協会西地区部会阪神地区協議会に所属し、地区内での相互協力を努めている。

エ. 学術情報センターとしての機能

館内の蔵書管理には、オンライン蔵書目録検索システム(OPAC)を導入、OPAC 検索専用のパソコンを上記とは別に 2 台設置し、迅速な検索環境を提供している。

また、リンクリゾルバとして「360Link」を導入し、国外主要医学文献データベース「PubMed」を始めとして、「イ 図書資料整備計画」に記載した各種文献データベース等とOPACをリンクさせ、必要文献のフルテキストのスムーズな入手を可能にしている。入手困難な文献については、「ウ 他情報機関との協力」に記載した文献複写依頼や相互貸借機能の利用により、迅速な文献情報の提供が可能となっている。

利用者には毎年、全学科・専攻を対象として教育研究内容に合った図書館ガイダンスを実施し、適切かつスムーズな学術情報の利用につなげている。

具体的には、図書館内の常設型パソコンのスペースで実施する検索実習(OPAC、データベース)、データベース利用案内(医中誌、ProQuestを重点的に)、申込制の平日限定プチツアー(図書館の利用案内、検索実習、電子書籍の使い方、データベースの使い方等のミニガイダンス)等実施しているほか、学科からの要望によるガイダンス(図書館の利用案内、電子書籍の利用のし方とリモートアカウント作成、レポートの書き方、著作権について等)も実施している。

オ. 感染症予防対策として

令和2(2020)年より流行した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染予防対策として、三密を回避した図書館ガイダンスのメニューを作成し実施するとともに、常設型パソコンのスペースの座席を密にならないように配置し、52台から25台に利用制限、貸

出用ノートパソコンをオンライン授業視聴に対応するため10台から18台に増台する等の対応を行った。今後しばらくはこの対応を実施していく。

【資料11-3】森ノ宮医療大学附属図書館 リハビリテーション関連図書 所蔵冊数

【資料11-4】森ノ宮医療大学附属図書館 リハビリテーション関連雑誌 所蔵リスト

【資料11-5】森ノ宮医療大学附属図書館 リハビリテーション関連
データベース・電子ジャーナル 所蔵リスト

12. 管理運営

(1) 教学面における管理運営体制

本学では教育研究目的の達成のため、以下の管理運営体制を構築する。

教授会

森ノ宮医療大学学則【資料12-1】及び教授会規程【資料12-2】に基づき、教学面における重要事項を審議し、学長に意見を述べる。教授会は学長が招集し、その議長となる。主な審議事項は以下のとおりである。

- ① 教育課程の編成に関すること
- ② 授業及び試験に関すること
- ③ 学生の入学、卒業または課程の修了、その他学生の在籍に関すること、及び学位の授与に関すること
- ④ 学生指導に関すること
- ⑤ 学則その他重要な規程の制定改廃に関すること
- ⑥ 森ノ宮医療大学の教学に関する予算の具体的運営に関すること
- ⑦ その他、教育または研究に関する事項

また、これらの事項のほか、理事会ならびに学長の諮問した事項を審議する。

教授会の編成は学長、副学長、教授、准教授、専任講師、事務局長のほか、教学面からの設置者への要望と連携を効果的にするため学園理事長をもって組織する。

教授会の開催については、月1回（毎月第3木曜日）を定例教授会とし、また、議長は必要に応じて教授会構成員を会議に招集し、臨時教授会を開催することができることとし、教授会の機動的な体制を確保している。

管理運営会議

上記教授会で審議する事項及び教学に係る重要事項をあらかじめ検討、調整するために、管理運営会議を置く。この構成メンバーは、理事長、学長、副学長、図書館長、研究科長、学部長、専攻科長、学科長、事務局長、大学事務局内の管理職等で構成し、会議については

月1回(毎月第2木曜日)を定例の管理運営会議とする。

【資料12-1】森ノ宮医療大学 学則

【資料12-2】森ノ宮医療大学 教授会規程

(2) 教授会に関連する下部組織としての委員会

教授会の運営を適切かつ有効的に行うために、専門的事項を審議、起案、また実行することを目的として、諮問機関として下記委員会を常設し、構成メンバーは各委員会において定める。

教務委員会

各学科と教務室が連携し、教育課程の編成、運営及び学生の転学、留学、休学及び退学除籍等に関することを検討し、教授会に上申することのほか、単位互換制度、既修得単位の認定、聴講生、研究生、科目等履修生及び留学生に関することを審議検討するため設けている。

自己点検評価・FSD委員会

※FSDとはFDとSDを総称する本学独自の造語。以下FSDとする。

自己点検・評価に関する必要な事項を審議するとともに、教職員の資質向上に資する組織的な取り組みについて検討、提案、具体的運営を図るため設けている。

人権問題委員会

人権を尊重し、人権侵害問題が発生した際に適切な対処を行うことを目的に設けている。活動の一環として、人権意識の啓発のためにセミナー等を定期的で開催している。

教職課程委員会

教職課程に関する諸事項を検討し実行することにより充実した教職教育を行うために設けている。

学生支援委員会

各学科と学生支援室が連携し、総合的な学生支援を図り、その円滑な運営を行うために設けている。

附属図書館運営委員会

附属図書館と連携し、その運営に関する重要事項を協議し、充実した図書館運営を行うことを目的に設けている。

13. 自己点検・評価

(1) 実施の方法と体制

本学では、自己点検・評価に関して、必要な事項を定めた森ノ宮医療大学自己点検評価・FSD委員会規程【資料13】に則り、自己点検評価・FSD委員会を設置して、自己点検・評価に関わる活動を展開している。

自己点検評価・FSD委員会は、研究科長、学部長、学科長、事務局長、事務局管理職、専任教員と専任職員等で構成し、積極的に自己点検・評価活動及びFD及びSDへの取り組みを推進する。

教育活動評価の重要な指標として、「授業評価アンケート」を年2回実施しているほか、年に2回、教員同士が相互に評価を行う「公開授業週間」を全学的に実施している。

自己点検・評価は4年に1回実施することになっており、本学では令和2(2020)年度「自己点検報告書」を公表している。また、ホームページの情報の公表ページの中でも各種の教育関連データの公表を行っている。

自己点検・評価は4年に1回実施することになっているが、本学では平成23(2011)～令和2(2020)年度にかけて毎年実施しており、それぞれの報告書を翌年6月に公表している。令和2(2020)年度分については、令和2(2020)年度大学機関別認証評価「自己点検報告書」として令和2年7月に公開した。

【資料13】森ノ宮医療大学自己点検評価・FSD委員会規程

(2) 結果の活用・公表

①結果の活用

評価の結果に基づき、成果が到達目標に至った項目については、さらに向上を目指すための検討材料として利用する。また、成果が到達目標に至らず、今後も継続して改善が必要な項目については、「自己点検評価・FSD委員会」と対象部署が協力して原因を追求するとともに、改善の方向性を検討し、随時具体化を図る。また、評価の結果については「中期経営計画」にも反映させている。

②評価報告書の作成と公表

各評価項目の評価結果とそれらを集約、分析した結果、見出された課題等の詳細を「自己点検報告書」にまとめている。自己点検・評価の結果等の関連情報の発信手段としては、大学のホームページや各種制作物を活用して、学内外へ公表している。

③評価

各評価項目について、4段階で評価する。さらに、「自己点検評価・FSD委員会」では、評価の指標によって表現しきれない側面、要因、状況等を考慮に入れて結果を総合的に検討、点検し、必要な調整、修正により補正を行い、自己点検・評価を確定する。

自己点検・評価・改善のそれぞれの活動の中でも、大学を改革し発展させるために最も重要なことは、全学を挙げて達成に取り組む姿勢と不断の努力の積み重ねであると考えられる。本学では1年サイクルで「事業報告書」と「事業計画書(年報)」を作成し自己点検・評価を実施している。

(3) 評価項目

本学の全学科及び大学院の教育、研究活動に携わる全部門の活動を対象とし、認証評価機関である公益財団法人日本高等教育評価機構の定める大学評価基準を基本に、以下の項目について自己点検・評価を行っている。

①使命・目的等

- ・使命・目的及び教育目的の設定
- ・使命・目的及び教育目的の反映

②学生

- ・学生の受入れ
- ・学修支援
- ・キャリア支援
- ・学生サービス
- ・学修環境の整備
- ・学生の意見・要望への対応

③教育課程

- ・単位認定、卒業認定、修了認定
- ・教育課程及び教授方法
- ・学修成果の点検・評価

④教員・職員

- ・教学マネジメントの機能性
- ・教員の配置・職能開発等
- ・職員の研修
- ・研究支援

⑤経営・管理と財務

- ・経営の規律と誠実性
- ・理事会の機能
- ・管理運営の円滑化と相互チェック
- ・財務基盤と収支
- ・会計

⑥内部質保証

- ・内部質保証の組織体制

- ・内部質保証のための自己点検・評価
- ・内部質保証の機能性

(4) 認証評価

学校教育法第109条において、大学・大学院は政令で定める期間（7年以内）ごとに、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価を受けることとされている。

森ノ宮医療大学及び大学院では、令和2（2020）年度に「公益財団法人日本高等教育評価機構」による認証評価を受審し、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合しているという大学機関別認証評価を受けた。認定の期間は、令和10年（2028年）までとなっている。

今後も自己点検・評価・改善計画に則り、教育に関わる様々な情報を集約し、教育の質の保証に向けたシステムを構築するとともに、「中期計画」とリンクしながらPDCAサイクルを取り入れた取り組みを実施していく。

14. 情報の公表

学校法人としての公共性に鑑み、社会に対する説明責任を果たすため、法人の基本情報、法人の経営及び財政に関する情報、法人が設置する学校の教育研究に関する情報、事業報告に関する情報、設置認可(届出)申請に関する情報等を本学ホームページによって広く公開している。

学校教育法施行規則の一部改正に伴い、平成23（2011）年4月1日より施行された教育情報の公表については、ホームページのトップページに「情報の公表」メニューを設定して、必要十分な情報にすばやく到達できるよう設定し、年度ごとの事業報告（年報）等の最新情報を提供している。

財務情報の公開についても、ホームページ上で計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、固定資産明細表）監査報告書を公開し、閲覧や印刷ができるようにしている。また、財務情報については、別資料を作成し、解説、グラフ等を多用して、分かりやすさに配慮して公表・公開している。

本学では、教育研究活動を含め、大学運営に関わるあらゆる状況について、事業報告書をホームページに掲載することにより広く周知を図っている。情報の提供は、以下の方法により教育研究活動、入学試験情報、社会活動等に関わる内容を広く提供している。この際、個人情報保護への配慮を怠らないようにしている。なお、情報の提供については、学部等と協働で実施している。

以下の本学のホームページアドレスは細分化されているため、主なアドレスのみ記載している。

(1) 大学の教育研究上の目的に関すること

森ノ宮医療学園の概要や大学の目的、学部目的、学科目的(鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科、臨床工学科、診療放射線学科)、大学院(保健医療学専攻修士課程、看護学専攻修士課程、医療科学専攻博士後期課程)、助産学専攻科の教育研究上の目的を公表している。

HOME>大学紹介>建学の精神・教育理念

<http://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/mind.html>

HOME>情報の公表

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/1_1_2020%283%29.pdf

(2) 教育研究上の基本組織に関すること

学校法人森ノ宮医療学園の構成等について公表している。

HOME>情報の公表

<http://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/organizational.html>

(3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

専任教員数・教員が有する学位及び業績・教員1人当たりの学生数・年齢別教員数・職階別教員数・専任教員数と非常勤教員数の比率等について公表している。

HOME>情報の公表

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2_1_2_2020.pdf 他

(4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数、並びに進学者数及び就職者数、その他進学及び就職等の状況に関すること

アドミッション・ポリシー、入学者数、収容定員、在学者数、卒業(修了)者数、就職者(進学者)数、入学者推移、社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数等について公表している。

HOME>情報の公表

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/admissionpolicy.html> 他

(5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

各学科の授業科目・単位数・講義概要の検索と一覧表・シラバス照会システム等を公表している。

HOME>森ノ宮医療大学シラバス照会システム

<https://portal.morinomiya-u.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp>

(6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること(学則からの抜粋)や教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学位授与数と授与率、退学・除籍者数、中退率、留年者数等を公表している。

HOME>情報の公表

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2_4_2020.pdf

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2_6_2020.pdf

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5_1_6_2020.pdf

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5_1_9_2020.pdf

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5_1_10_2020.pdf

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5_1_11_2020.pdf

(7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎の概要、キャンパスマップ、施設紹介、図書館の概要や学生生活(クラブサークル紹介、学修サポート、学生生活サポート、就職・キャリアサポート、年間スケジュール、学生食堂、下宿・マンション紹介、交通アクセス)について公表している。

HOME>情報の公表

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/1_3_1_2020%284%29.pdf

HOME>サポートプログラム・施設紹介

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/campus/map.html> 他

HOME>大学紹介>アクセス・ロケーション

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/access.html>

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料、入学料その他の大学が徴収する費用(年間)を公表している。

HOME>情報の公表

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/1_4_2020%283%29.pdf

(9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

学生の修学に関する支援体制、学生の進路選択に関する支援体制、心身の健康等に関する支援体制について公表している。

HOME>情報の公表

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2_5_2020.pdf

(10) その他

①教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

本学の3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッショ

ン・ポリシー) 及びアセスメント・ポリシーについて公表している。

HOME>情報の公表

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2_6_2020.pdf

HOME>大学紹介>〔教育方針〕ディプロマ・ポリシー

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/diplomapolicy.html>

HOME>大学紹介>〔教育方針〕カリキュラム・ポリシー

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/curriculumpolicy.html>

HOME>大学紹介>〔教育方針〕アドミッション・ポリシー

<https://www.morinomiya-u.ac.jp/guide/admissionpolicy.html>

②学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等

学則、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等を公表している。

HOME>情報の公表

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/5_2_1_2020.pdf 他

③財務に関する情報

財産目録、貸借対照表、収支計算書、監事の監査報告書、財務の状況を平易に説明する資料、事業報告書（年報）、事業計画書等を公表している。

HOME>情報の公表

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2019_zaisanmokuroku.pdf 他

④大学院学位論文に係る評価に当たっての基準

大学院の学位論文に係る評価の基準を公表している。

HOME>情報の公表

https://www.morinomiya-u.ac.jp/images/ckupload/files/2_8.pdf

以上のように、教育情報と財務情報は、「ホームページ」<http://www.morinomiya-u.ac.jp/>により、学内外すべてに公開されている。

15. 教育内容等の改善のための組織的な研修等

本学では、教育、研究、臨床を通じて広く社会的、国際的貢献を果たすため、それらに携わる教員の資質の維持向上を目的に自己点検評価・FSD委員会を設置し、方策を立て実施、改善を図る。

(1) 自己点検評価・FSD 委員会実施体制

自己点検評価・FSD 委員会は、研究科長、学部長、学科長、事務局長、事務局管理職、専任教員と専任職員等で構成し、積極的に自己点検・評価活動及び FD 並びに SD への取り組みを推進する。

(2) SD の実施体制

毎年 2 回以上、SD に関する研修会等を開催している。令和 2 (2020) 年度においては教職員を対象としたものとして、「研究費コンプライアンス研修」を実施したほか、外部講師による「論理的なコミュニケーション」研修を開催した。なお、令和 2 (2020) 年度の SD 研修は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、動画コンテンツ配信にて実施した。また、新卒採用者を対象とした新卒研修の実施や、他大学と連携し、ロジカルシンキング、タイムマネジメントなどに関する合同研修を実施するなど、大学職員に必要な知識、技能の取得、資質向上を図っている。これらの企画は本学人事制度などに基づき、自己点検評価・FSD 委員会において年度計画が検討され、毎年開催されている。

(3) FD の実施体制

①教員の資質を判断する客観的・合理的な評価の策定

以下の 5 項目の視点から各教員を客観的・合理的に評価し、人事配置、その他本学のシステムを検証、改革するための指針とし、さらに学生による授業評価ならびに教職員による公開授業見学会の結果分析を踏まえ、教育環境の改善を図り教員の資質向上に資する。なお、教員の資質を判断する際の客観的・合理的基準や評価項目については、本学の管理運営体制、社会的要請などを考慮し策定を進めるものとする。

ア. 学生による授業評価

学生による授業評価を前期と後期に 1 回ずつ実施し、全教員が最低でも年に 1 回は評価されるよう対象となる科目を設定している。各科目の評価結果は自己点検評価・FSD 委員会を通じて各教員に還元するとともに、結果の総括を学内に公表し、それ自体を本学の自己評価の対象とすることにより、教育活動の向上・改善に活用する。状況に応じ、学長、学部長、学科長より直接指導を行うことがある。

イ. 教職員による公開授業見学会

教職員による公開授業見学会を、前期と後期に 1 回ずつ実施し、全教員が最低でも年に 1 回は評価されるよう対象となる科目を設定している。

公開授業見学会に参加した教職員は見学した授業のアンケートを記入し、そのアンケート集計結果については自己点検評価・FSD 委員会を通じて各教員に還元するとともに、結

果の総括を学内に公表し、それ自体を本学の自己評価の対象とすることにより、教育活動の向上・改善に活用する。状況に応じ、学長、学部長、学科長より直接指導を行うことがある。

ウ. 研究活動の評価

各年度に、研究進捗状況、競争的研究資金の獲得状況、研究業績（専門誌掲載、著作、学会発表、シンポジウム発表）、研究を通じた社会貢献など、各教員の研究活動評価を行う。これら研究活動状況は、各年度に各教員により策定される「教員目標管理シート」にて共有・評価され、各教員へフィードバックすることで、研究能力の向上、研究活動の推進を促し、同時に教育内容の充実にもつなげる。また、この評価を本学の自己評価の対象とすることにより、大学全体の研究・教育体制の強化を図る。

エ. 大学運営への貢献度に対する評価

担任やチューター業務、各種委員会活動等、大学運営にかかわる様々な業務の取り組み内容に対し評価を行う。取り組み状況は、各年度に各教員により策定される「教員目標管理シート」にて共有・評価され、各教員へフィードバックすることで、大学運営への積極的な貢献を促し、より優れた教育現場の確立につなげる。また、この評価を人事配置に活用、あるいは本学の自己評価の対象とすることにより、組織全体の教育体制の強化を図る。

オ. その他の活動報告

各種社会活動やボランティア活動など、教員が参加しているさまざまな活動についても、その活動状況は、各年度に各教員から策定される「教員目標管理シート」にて共有・評価され、教員の資質向上の契機とする。各教員の活動を学生教育に生かす施策を講じ、研究内容の充実を図る。

②教員の研修・研鑽機会の創出

教育活動改善への取り組みを積極的に進める。学生による授業評価および公開授業見学会（前述）に加え、大学としての組織的な教育方法、教育内容の改善に取り組み、教員の研修、研鑽機会の創出を通じて、大学に対する社会の要請に応えるとともに、教員の資質向上を目指す。具体的には以下の方策をとる。

ア. 教育活動改善への取り組み

自己点検評価・FSD委員会において組織的な教育活動改善への取り組みを担当しており、教育活動の改善・指導する体制を整えている。

イ. 教育活動改善に関する研修、研究機会の確保

「大学院学術セミナー」を月に1回（原則として第4木曜日）開催し、各教員が現在取り

組んでいる自身の研究成果や進捗状況などを本学教職員や学生、外部の参加希望者に対して講演し、教職員からの質疑応答に対応している。また、「研究支援センター」では、若手教員の研究に対する助言や支援に加え、研究における倫理教育を実施している。同センターでは研究費配分も行っており、若手教員のプロジェクトについても積極的に採用していく。2020年に開設されたインクルーシブ医科学研究所では学科横断的な若手教員の研究力育成に取り組んでいる。また、教員に学外での教育活動改善に関する研修・研究機会の情報提供を行うとともにその活用を奨励する。

16. 社会的・職業的自立に関する取り組み

(1) 教育課程内の取組について

総合リハビリテーション学部では社会的・職業的自立に関する取り組みについて、1年次より国家資格に必要な専門科目を配置し、4年間を通して取り組むよう教育課程を構成している。4年間を通じて、自ら選択した職業への知識や技術を習得し、職業倫理を理解する。

1年次においては「基礎ゼミナール」で理学療法士、作業療法士としての職務内容を理解し、「チーム医療見学実習」においては自身の就業先となりえる医療機関の見学を行うことで自身が目指すキャリアへの意識醸成を図る。また、一般教養科目群の科目を履修することで社会に必要な一般教養の修得を行う。

2年次においては自身の目指す職業に対する知識や技術の修得に向けた科目数が増加する。また、「医療コミュニケーション」では、患者様や他の医療職種との関係構築、連携方法などを学修し、実際に両現場におけるコミュニケーションの必要性を修得する。これらの学修を礎に、リハビリテーションにおける医療現場と各職種における必要な技術等を学修する「検査測定実習（理学療法学科）」「臨床検査実習（作業療法学科）」を履修し、自身の目指す職種の実際を見学し、学修する。

3年次においては患者様や他の医療従事者との関係性や実際などについて、実践的に学修を進める。「IPW論」においてはペーパーペイシェントを題材に、患者様の治療から社会復帰に向けてまでのプラン構築を他職種（他学科）の学生とディスカッションしながら自職種において何ができるのかを検討し、議論することで医療現場におけるチーム医療の実際を身に付ける。また専門科目において、患者様の治療に必要な知識と技術をより臨床に近づけるための実践的な学びとして分野別に科目を配置し学修する。さらに「職場管理」「職業倫理」の科目を配置し、それぞれの職業が社会的にどのような位置づけにあるのか、国の制度との関連性、職業に対する倫理観等について学修する。これら科目の履修後に臨床実習を実施し、患者様の治療案作成などの実践的な取り組みを行う。

4年次には4年間の学びの集大成として、実技においては臨床総合実習、座学においては「理学療法特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「作業療法特論Ⅰ・Ⅱ」を配置している。これまで積み重ねてきた技術や知識を組み合わせることで自身の学びの振り返りと医療現場での応用を学修する。また、4カ月に及ぶ臨床実習では就職先と同様の医療施設で学修し、患者様と触れ、仕

事の流れ、病院の仕組みなども学修することで自身のキャリア形成をより明確なものとする。これにより、学生自身が将来を見据え、社会的、職業的自立に向けた歩みを進めることができるよう支援体制を構築している。

なお、これら教育課程については教務委員会やキャリアセンターと連携し、早期より学問の重要性と職業としての重要性を伝えることができる内容としている。また、担任、チューター制を導入し、学生自身が選択した職業種において、社会的・職業的自立を早期より支援する体制を構築している。

(2) 教育課程外の取り組み

総合リハビリテーション学部、キャリアセンター、学生支援室が連携し、社会的自立、キャリア形成の必要性と意義を理解できるよう、教育課程外においてもキャリア支援体制を構築している。

1年次においては新入生オリエンテーション時にキャリアガイダンスを開催し、入学時より卒業後のキャリアに向けた意識醸成とこれから必要となる知識、技術の修得方法、自身が目指す職種を知ることの重要性などについて解説する。当該ダンスは教育課程受講に向けた導線としても位置づけている。

2年次においては前期のオリエンテーションにおいて、キャリアガイダンスを開催し、自身のこれまでのキャリア形成を振り返りながら自己分析を行い、自身の目指すキャリアをより明確なものにする。

3年次より就職、進学等、具体的な進路に向けた支援が行われる。学生への個別面談、自己分析、履歴書作成などのキャリアに関するガイダンス、大学内で行われる合同就職説明会の見学、希望者による医療施設等へのインターンシップなどを実施する。

4年次には進路に向けた具体的な活動を支援する。学生への個別面談、学内合同就職説明会への参加、一般教養試験対策講座、ビジネスマナー、履歴書等に関する就職ガイダンス、卒業生によるキャリアガイダンスなどを実施し、進路に直結した支援を行う。

また学年を問わず、実施する支援策もある。キャリアカウンセラー等による個別のキャリアカウンセリングを実施し、学生個々の進路に合わせた個別指導を実施する。また、医療資格保有者によるキャリア支援セミナーを行い、医療現場の実際などについて解説する。

このように教育課程外においても教育課程と連動し、また大学内外の関係各所と連携し、社会的・職業的自立を支援する体制を構築している。

(3) 適切な体制の整備

本学では学生の社会的・職業的自立を支援するために、キャリアセンターを教職協働で設置し、全学的なキャリアに関する方針と施策を企画、立案している。施策についてはキャリアに対する大学の方針を基礎として、各学部、各学科の特性に合わせた内容を策定している。また、学生支援室ではキャリアセンター、各学部、各学科と連携し、キャリアセンターの方

針を受けて各学科での進路支援に関する施策の支援、キャリアカウンセラーを配置し学生への進路に関する個別指導、就職、進路情報の収集などを行い、学生へ情報提供を行っている。このように教員、職員が連携し、学生の社会的・職業的自立を支援する体制を構築している。

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部

理学療法学科、作業療法学科

設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

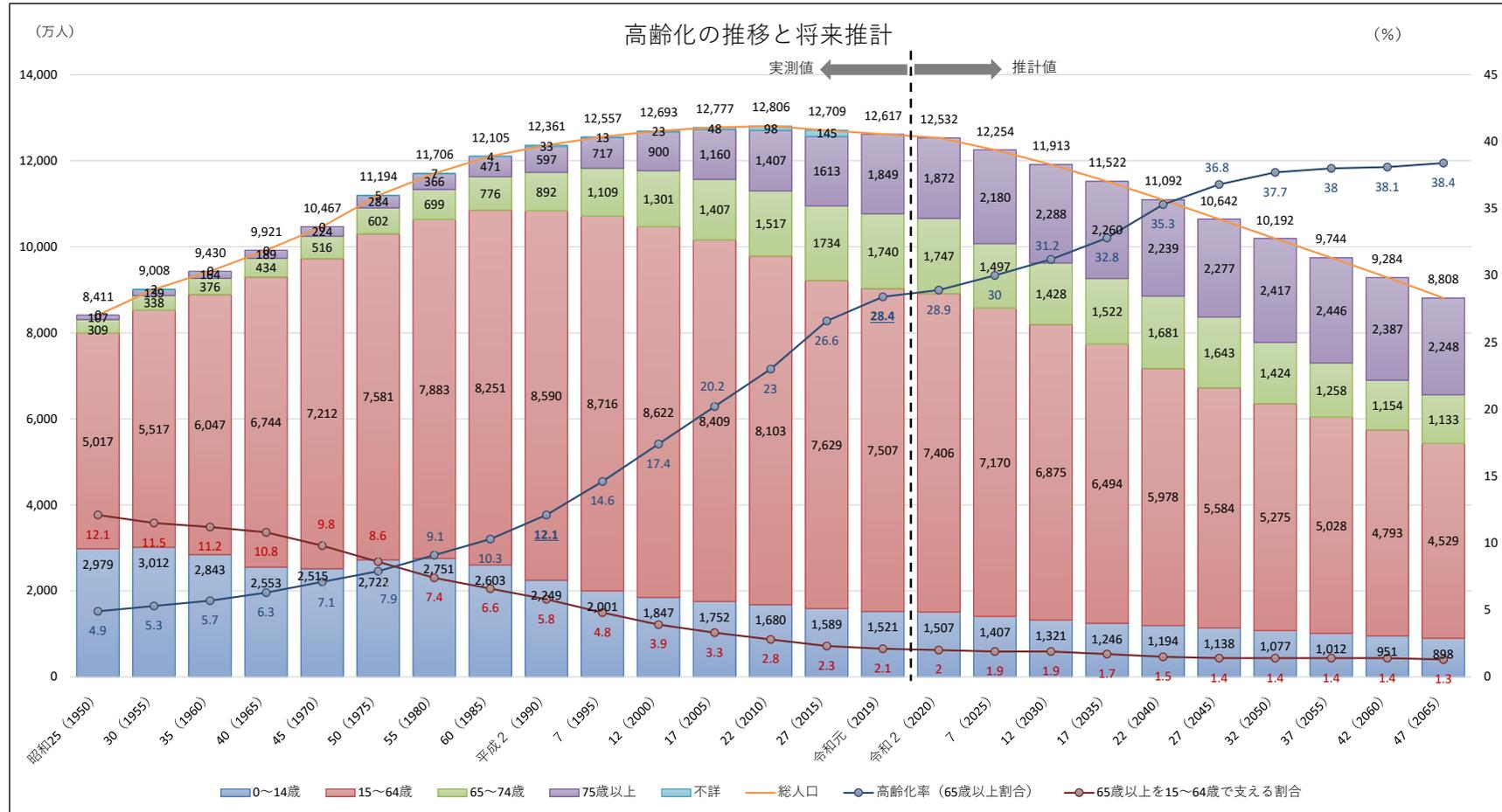
資料	1-1	高齢化の推移と将来推計（令和2年版高齢社会白書）
資料	1-2	近畿エリアのリハビリテーション分野設置大学
資料	1-3	理学療法士・作業療法士従事者数の年次推移
資料	1-4	病院に勤務する理学療法士数の充足
資料	1-5	理学療法士雇用の意向と現状
資料	1-6	病院に勤務する作業療法士数の充足
資料	1-7	作業療法士雇用の意向と現状
資料	1-8	日本作業療法士協会 都道府県別会員数
資料	4-1	理学療法学科カリキュラムマップ (授業科目とディプロマ・ポリシーとの対応表)
資料	4-2	作業療法学科カリキュラムマップ (授業科目とディプロマ・ポリシーとの対応表)
資料	5-1	履修モデル 理学療法学科
資料	5-2	履修モデル 作業療法学科
資料	6-1	実習施設の概要
資料	6-2	承諾書
資料	6-3	各実習の概要及び週間計画
資料	6-4	実習要項（抜粋）
資料	6-5	感染症予防管理確認表
資料	6-6	誓約書
資料	6-7	1～4年次 実習計画表
資料	6-8	全ての実習計画を示す一覧表
資料	6-9	教員の配置と指導計画
資料	6-10	実習課題・デイリーノートの記載例
資料	6-11	症例レポートの執筆要綱
資料	6-12	実習施設総括表
資料	6-13	事故・インシデント発生時における対応方法
資料	6-14	実習評価票
資料	7-1	実習施設の概要
資料	7-2	承諾書
資料	7-3	各実習の概要及び週間計画
資料	7-4	実習要項（抜粋）
資料	7-5	感染症予防管理確認表

- 資料 7-6 誓約書
- 資料 7-7 1～4年次 実習計画表
- 資料 7-8 全ての实習計画を示す一覧表
- 資料 7-9 教員の配置と指導計画
- 資料 7-10 自己目標・実習日誌（臨床総合実習）
- 資料 7-11 事例報告書作成指針
- 資料 7-12 実習施設総括表
- 資料 7-13 インシデント・事故（アクシデント）対応及び報告書
- 資料 7-14 実習評価票（臨床総合実習）
- 資料 8-1 教育課程と指定規則との対比表 理学療法学科
- 資料 8-2 教育課程と指定規則との対比表 作業療法学科
- 資料 10-1 教員等定年規程
- 資料 10-2 再雇用規程
- 資料 10-3 教育職員等の任期制に関する規程
- 資料 10-4 将来の教員配置計画
- 資料 11-1 理学療法学科 時間割表（案）
- 資料 11-2 作業療法学科 時間割表（案）
- 資料 11-3 森ノ宮医療大学附属図書館 所蔵雑誌リスト
- 資料 11-4 森ノ宮医療大学附属図書館 リハビリテーション関連雑誌 所蔵リスト
- 資料 11-5 森ノ宮医療大学附属図書館 リハビリテーション関連データベース・電子ジャーナル 所蔵リスト
- 資料 12-1 森ノ宮医療大学 学則
- 資料 12-2 森ノ宮医療大学 教授会規程
- 資料 13 森ノ宮医療大学自己点検評価・FSD 委員会規程

【資料 1 - 1】 高齢化の推移と将来推計

令和 2 年版高齢社会白書 第 1 節 高齢化の状況 1 高齢化の現状と将来像より

65歳以上人口のうち、65～74歳人口は「団塊の世代」が高齢期に入った後に平成28（2016）年の1,768万人でピークを迎える。その後は、令和10（2028）年まで減少傾向となるが再び増加に転じ、令和23（2041）年の1,715万人に至った後、減少に転じると推計されている。一方、75歳以上人口は、令和36（2054）年まで増加傾向が続くものと見込まれている



資料：棒グラフと実線の高齢化率については、2015年までは総務省「国勢調査」、2019年は総務省「人口推計」（令和元年10月1日確定値）、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果。

- (注1) 2018年以降の年齢階級別人口は、総務省統計局「平成27年国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口（参考表）」による年齢不詳をあん分した人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。なお、1950年～2015年の高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。
- (注2) 沖縄県の昭和25年70歳以上の外国人136人（男55人、女81人）及び昭和30年70歳以上23,328人（男8,090人、女15,238人）は65～74歳、75歳以上の人口から除き、不詳に含めている。
- (注3) 将来人口推計とは、基準時点までに得られた人口学的データに基づき、それまでの傾向、趨勢を将来に向けて投影するものである。基準時点以降の構造的な変化等により、推計以降に得られる実績や新たな将来推計との間には乖離が生じうるものであり、将来推計人口はこのような実績等を踏まえて定期的に見直すこととしている。

【資料1-2】近畿エリアのリハビリテーション分野設置大学

(理学療法学科)

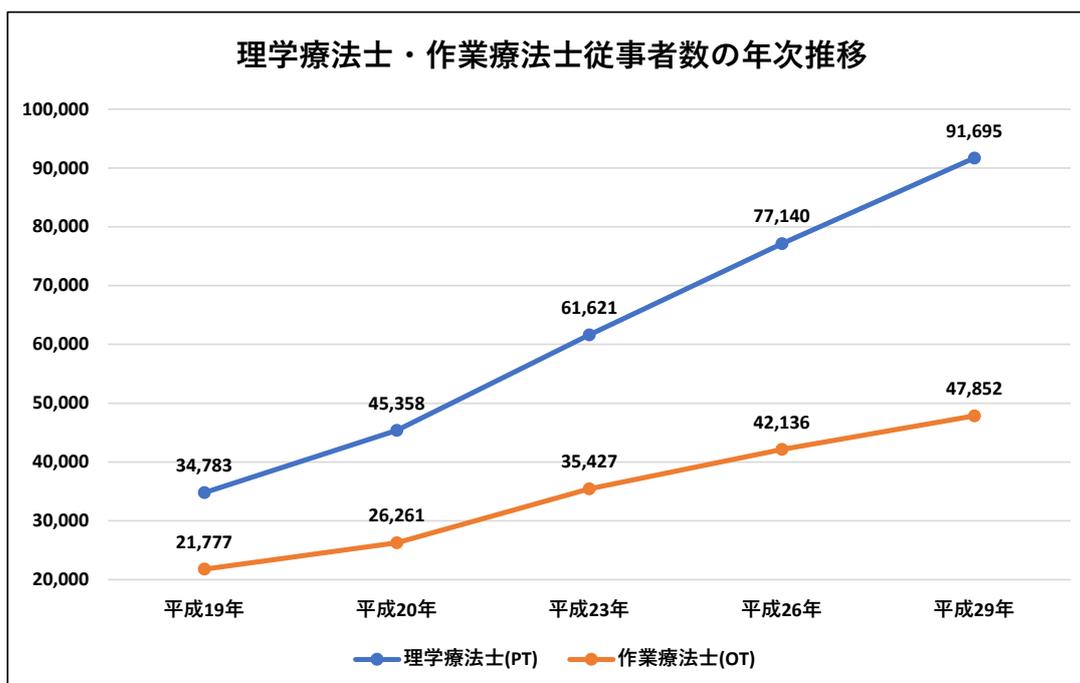
	所在地	大学名	学部	学科	入学定員	
1	京都府	京都大学	医	人間健康科学	100	
2	京都府	京都橘大学	健康科学	理学療法	66	
3	京都府	佛教大学	保健医療	理学療法	40	
4	大阪府	大阪府立大学	地域保健	総－理学療法	25	1
5	大阪府	藍野大学	医療保健	理学療法	100	2
6	大阪府	大阪河崎リハビリテーション大学	リハビリテーション	理学療法	60	3
7	大阪府	大阪電気通信大学	医療健康	理学療法	40	4
8	大阪府	大阪人間科学大学	保健医療	理学療法	60	5
9	大阪府	大阪保健医療大学	保健医療	理学療法	70	6
10	大阪府	大阪行岡医療大学	医療	理学療法	80	7
11	大阪府	関西医科大学	リハビリテーション	理学療法	60	8
12	大阪府	関西医療大学	保健医療	理学療法	60	9
13	大阪府	関西福祉科学大学	保健医療	理学療法学	80	10
14	大阪府	四條畷学園大学	リハビリテーション	理学療法学	40	11
15	大阪府	森ノ宮医療大学	保健医療	理学療法	70	12
16	大阪府	大和大学	保健医療	総－理学療法	40	13
17	兵庫県	神戸大学	医	保－理学療法	20	
18	兵庫県	甲南女子大学	看護リハビリテーション	理学療法	60	
19	兵庫県	神戸学院大学	総合リハビリテーション	理学療法	40	
20	兵庫県	神戸国際大学	リハビリテーション	理学療法	80	
21	兵庫県	宝塚医療大学	保健医療	理学療法	70	
22	兵庫県	姫路獨協大学	医療保健	理学療法	40	
23	兵庫県	兵庫医療大学	リハビリテーション	理学療法	40	
24	奈良県	畿央大学	健康科学	理学療法	76	
25	奈良県	奈良学園大学	保健医療	リ－理学療法	40	
26	和歌山県	宝塚医療大学	和歌山保健	理学療法学	60	

(作業療法学科)

	所在地	大学名	学部	学科	入学定員	
1	京都府	京都大学	医	人間健康科学	100	
2	京都府	京都橘大学	健康科学	作業療法	40	
3	京都府	佛教大学	保健医療	作業療法	40	
4	大阪府	大阪府立大学	地域保健	総－作業療法	25	1
5	大阪府	藍野大学	医療保健	作業療法	40	2
6	大阪府	大阪河崎リハビリテーション大学	リハビリテーション	作業療法	60	3
7	大阪府	大阪人間科学大学	保健医療	作業療法	40	4
8	大阪府	大阪保健医療大学	保健医療	作業療法	30	5
9	大阪府	関西医科大学	リハビリテーション	作業療法	40	6
10	大阪府	関西医療大学	保健医療	作業療法	40	7
11	大阪府	関西福祉科学大学	保健医療	作業療法学	50	8
12	大阪府	四條畷学園大学	リハビリテーション	作業療法学	40	9
13	大阪府	森ノ宮医療大学	保健医療	作業療法	40	10
14	大阪府	大和大学	保健医療	総－作業療法	40	11
15	兵庫県	神戸大学	医	保－作業療法	20	
16	兵庫県	神戸学院大学	総合リハビリテーション	作業療法	40	
17	兵庫県	姫路獨協大学	医療保健	作業療法	40	
18	兵庫県	兵庫医療大学	リハビリテーション	作業療法	40	
19	奈良県	奈良学園大学	保健医療	リ－作業療法	40	
20	和歌山県	宝塚医療大学	和歌山保健	作業療法学	40	

【資料 1 - 3】理学療法士・作業療法士従事者数の年次推移

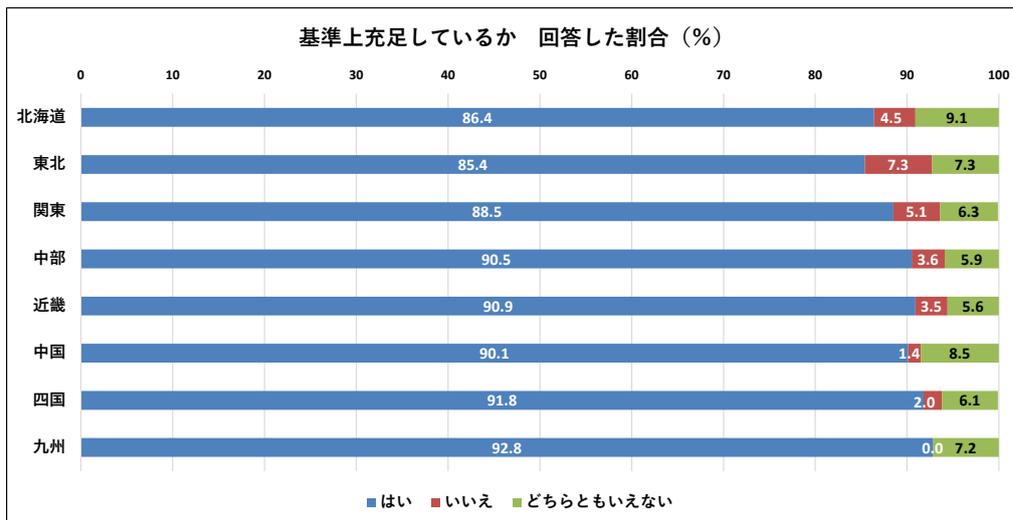
白書年次	平成21年版	平成24年版	平成27年版	平成30年版	令和2年版
資料年次	平成19年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年
西暦	2007年	2008年	2011年	2014年	2017年
理学療法士(PT)	34,783	45,358	61,621	77,140	91,695
作業療法士(OT)	21,777	26,261	35,427	42,136	47,852



厚生労働白書 平成21年版～令和2年版 資料編『②保健医療』 「医療関係従事者」より

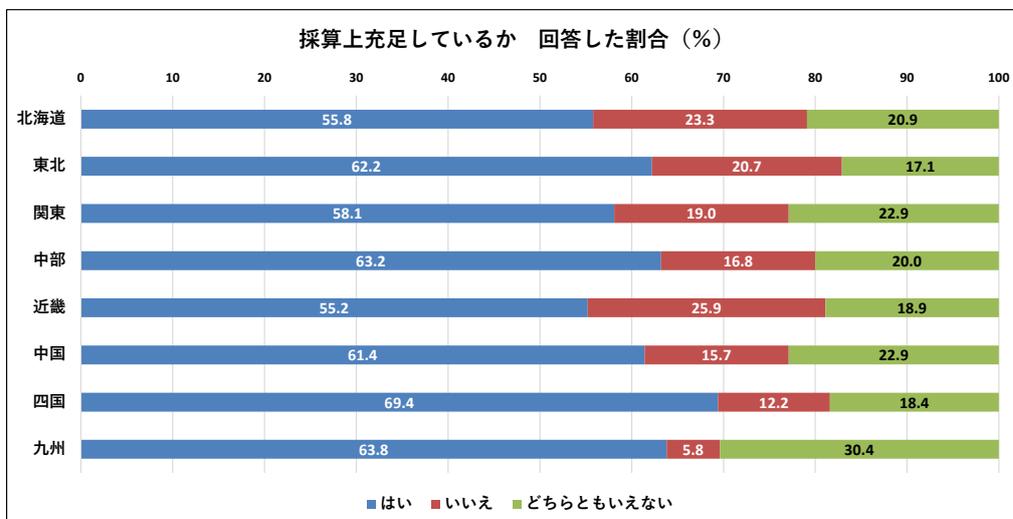
【資料 1 - 4】 病院に勤務する理学療法士数の充足

「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査」（四病院団体協議会 平成28年5月～6月実施）より
問：現在、貴院において数は充足していますか



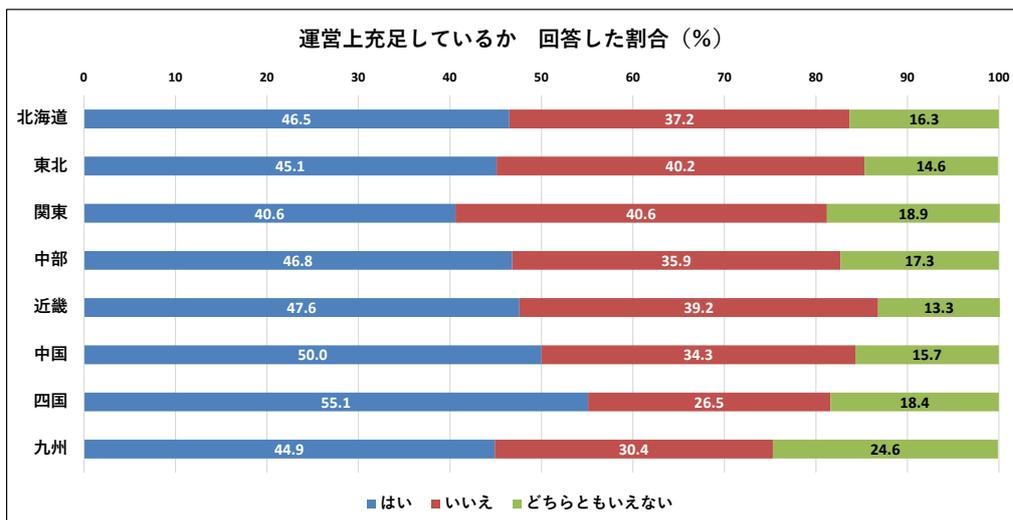
	n 数
北海道	44
東北	82
関東	253
中部	220
近畿	143
中国	71
四国	49
九州	69

基準上は、すべての地域の施設でほぼ充足していると回答している



	n 数
北海道	43
東北	82
関東	253
中部	220
近畿	143
中国	70
四国	49
九州	69

採算上（経営上必要な人員数）充足していると回答した割合は、基準上の充足に比べると減少している



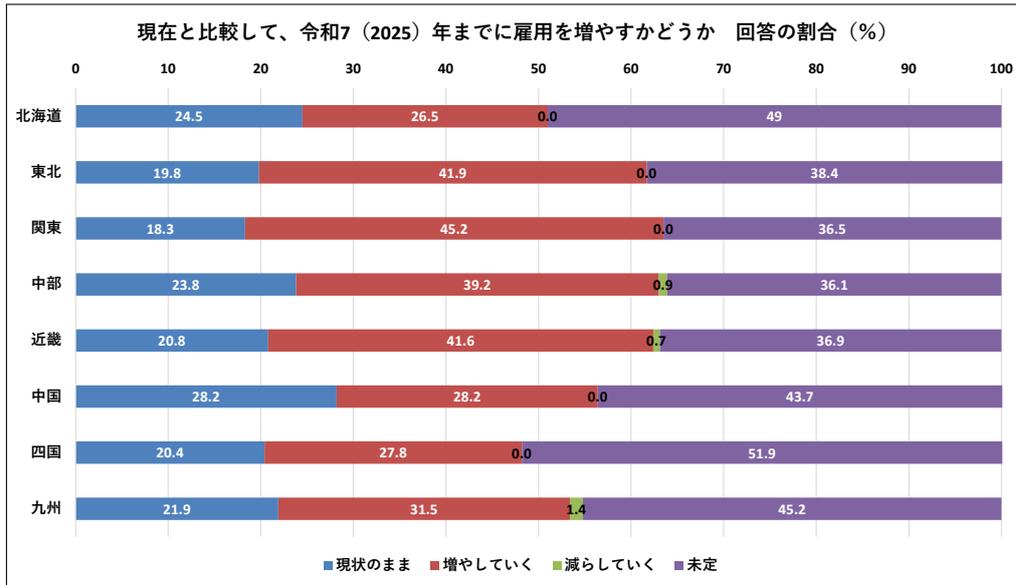
	n 数
北海道	43
東北	82
関東	254
中部	220
近畿	143
中国	70
四国	49
九州	69

運営上（患者の状況に応じた必要な人員）では、充足していないと回答した割合が増加している

【資料 1 - 5】理学療法士雇用の意向と現状

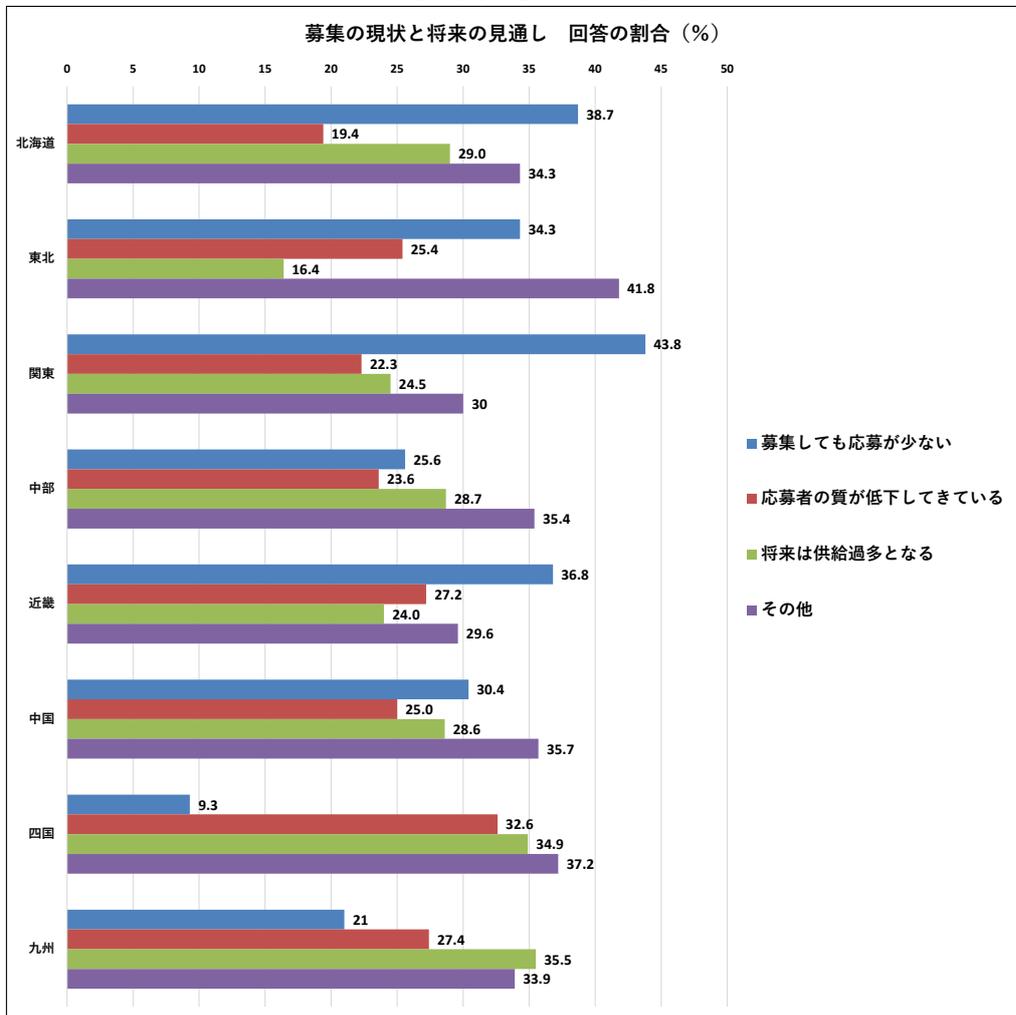
「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査」（四病院団体協議会 平成28年5月～6月実施）より

問：現在と比較して、令和7（2025）年までに雇用を増やしていく予定ですか



	n 数
北海道	49
東北	86
関東	263
中部	227
近畿	149
中国	71
四国	54
九州	73

問：現状について、貴院において該当するものをお選びください

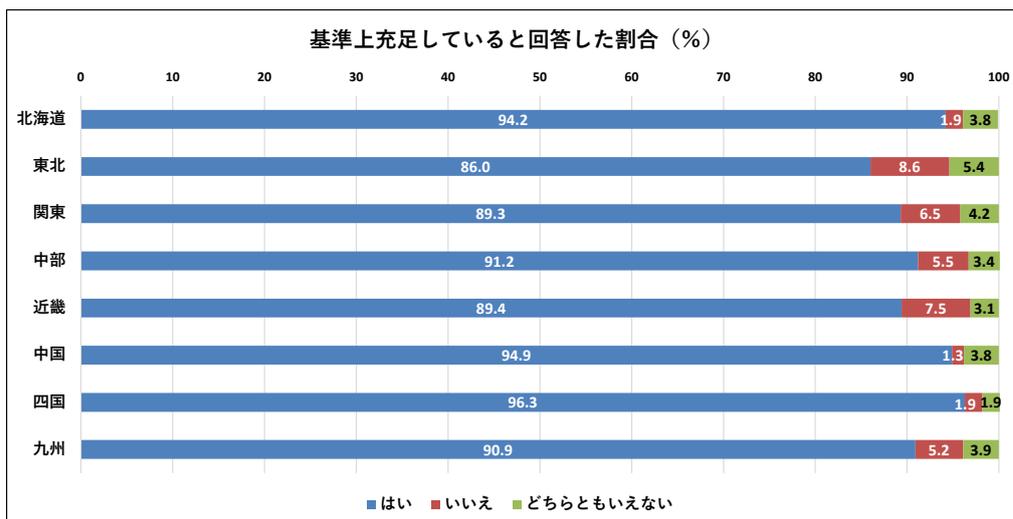


	n 数
北海道	31
東北	67
関東	233
中部	195
近畿	125
中国	56
四国	43
九州	62

【資料 1 - 6】 病院に勤務する作業療法士数の充足

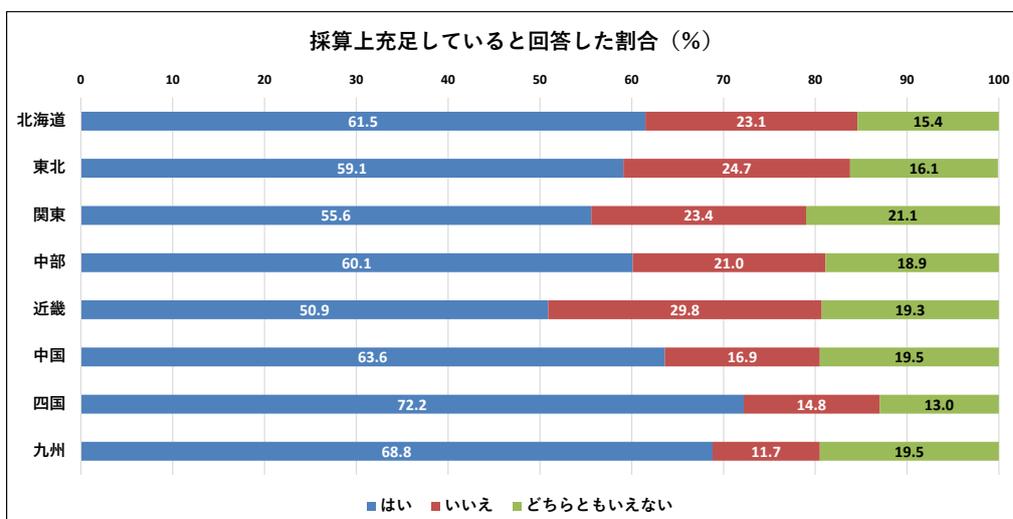
「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査」（四病院団体協議会 平成28年5月～6月実施）

問：現在、貴院において数は充足していますか



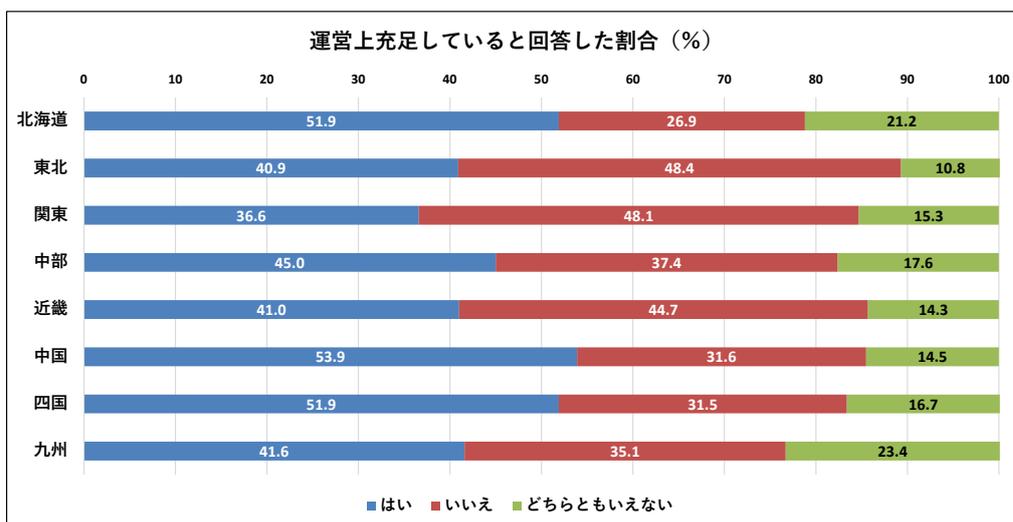
	n 数
北海道	52
東北	93
関東	262
中部	238
近畿	161
中国	78
四国	54
九州	77

基準上は、すべての地域の施設がほぼ充足していると回答している



	n 数
北海道	52
東北	93
関東	261
中部	238
近畿	161
中国	77
四国	54
九州	77

採算上（経営上必要な人員数）充足していると回答した割合は、基準上の充足に比べると減少している



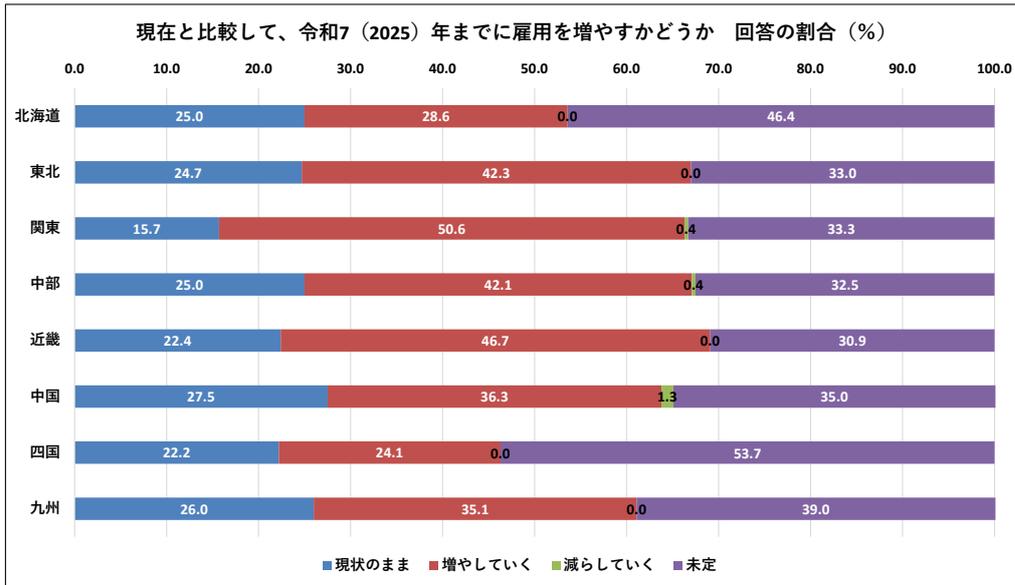
	n 数
北海道	52
東北	93
関東	262
中部	238
近畿	161
中国	76
四国	54
九州	77

運営上（患者の状況に応じた必要な人員）では、充足していないと回答した割合が増加している

【資料1-7】作業療法士雇用の意向と現状

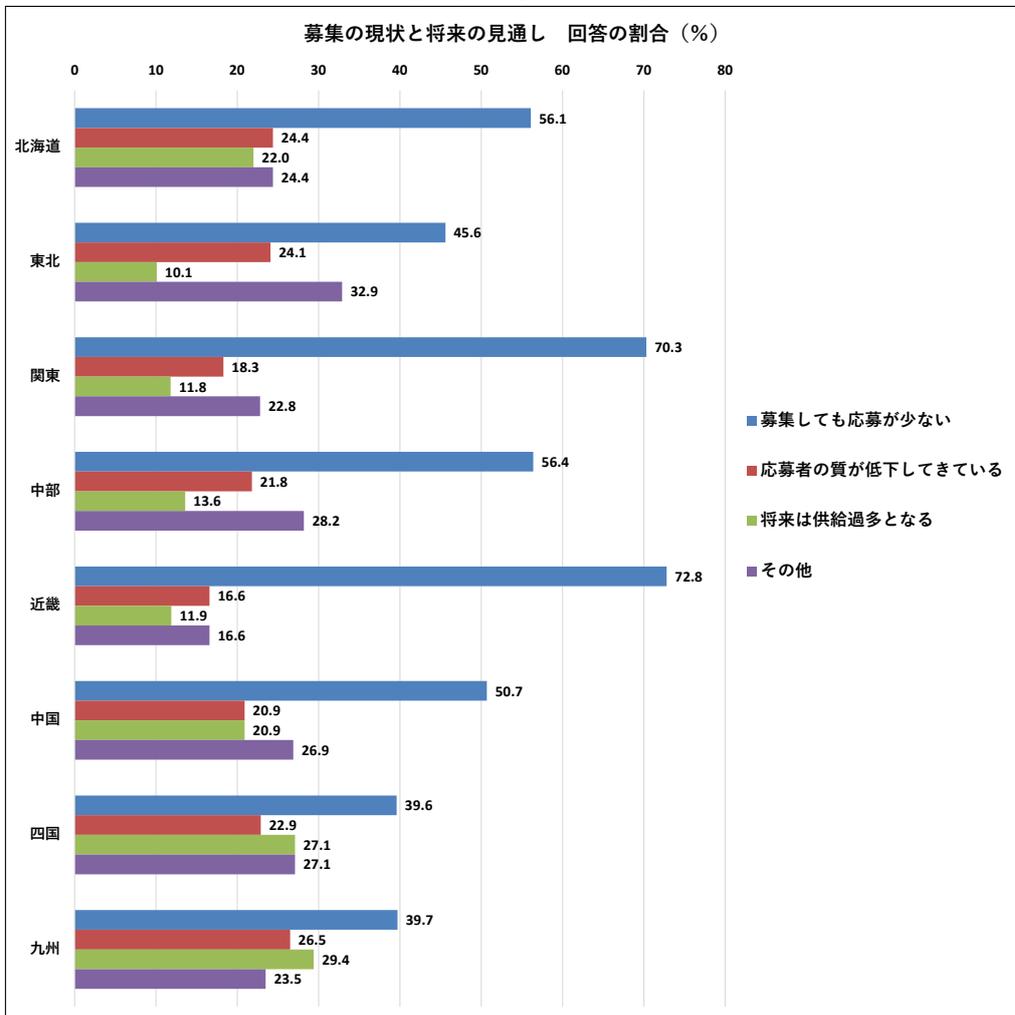
「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査」（四病院団体協議会 平成28年5月～6月実施）より

問：現在と比較して、令和7（2025）年までに雇用を増やしていく予定ですか



	n数
北海道	56
東北	97
関東	267
中部	240
近畿	165
中国	80
四国	54
九州	77

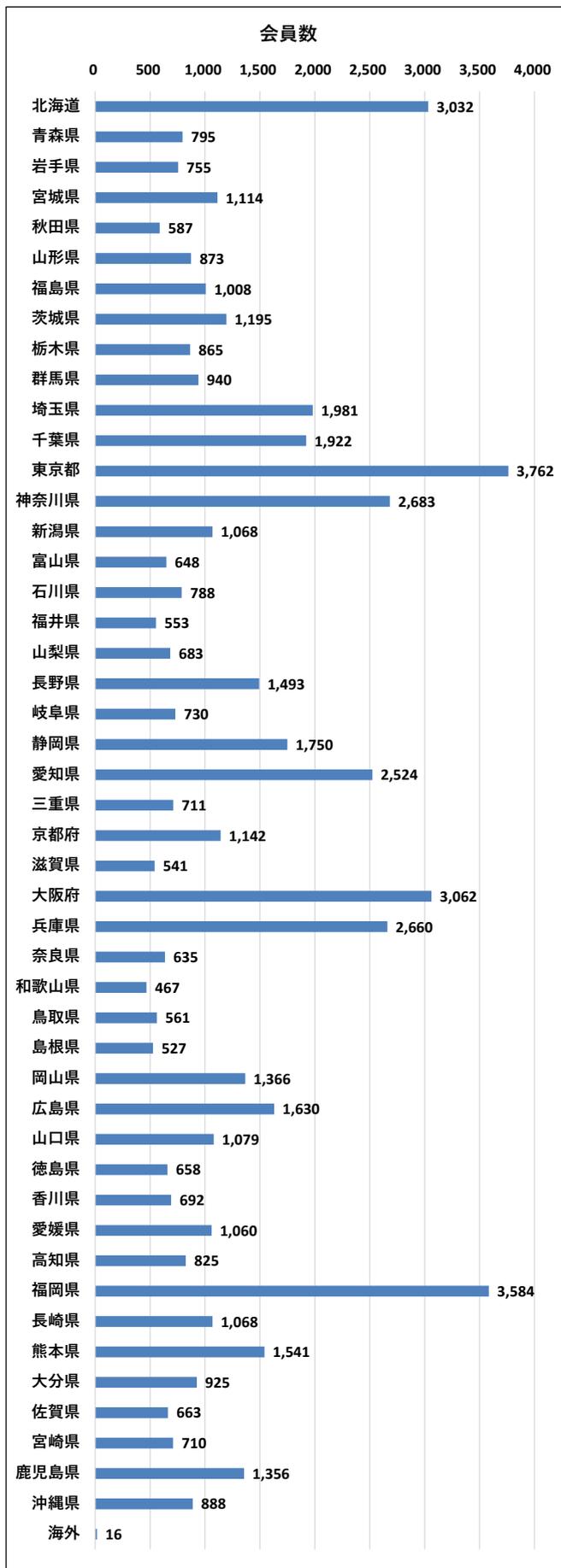
問：現状について、貴院において該当するものをお選びください



	n数
北海道	41
東北	79
関東	246
中部	220
近畿	151
中国	67
四国	48
九州	68

【資料 1 - 8】日本作業療法士協会 都道府県別会員数

都道府県	会員数
北海道	3,032
青森県	795
岩手県	755
宮城県	1,114
秋田県	587
山形県	873
福島県	1,008
茨城県	1,195
栃木県	865
群馬県	940
埼玉県	1,981
千葉県	1,922
東京都	3,762
神奈川県	2,683
新潟県	1,068
富山県	648
石川県	788
福井県	553
山梨県	683
長野県	1,493
岐阜県	730
静岡県	1,750
愛知県	2,524
三重県	711
京都府	1,142
滋賀県	541
大阪府	3,062
兵庫県	2,660
奈良県	635
和歌山県	467
鳥取県	561
島根県	527
岡山県	1,366
広島県	1,630
山口県	1,079
徳島県	658
香川県	692
愛媛県	1,060
高知県	825
福岡県	3,584
長崎県	1,068
熊本県	1,541
大分県	925
佐賀県	663
宮崎県	710
鹿児島県	1,356
沖縄県	888
海外	16
合計	60,116



【資料4-1】森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 理学療法学科 カリキュラム・マップ（授業科目とディプロマ・ポリシーの対応表）

区分					卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）				
					D P ①	D P ②	D P ③	D P ④	
ディプロマポリシー (DP：学位授与方針)					<p>●理学療法学科の方針</p> <p>理学療法学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（理学療法学）の学位が与えられます。これは理学療法士国家試験受験資格となります。チーム医療と科学性を持ちつつ人に優しい理学療法を創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。</p> <p>●4つのディプロマ・ポリシー</p> <p>【DP1】精度の高い専門的知識と専門技術 地域社会や医療現場等でのチームにおける理学療法の役割を理解し、それぞれの専門領域において、実践に即した精度の高い知識と専門技術を発揮することができる。</p> <p>【DP2】チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力 チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた理学療法を提供することができる。</p> <p>【DP3】豊かな人間力 他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。</p> <p>【DP4】主体的問題解決能力 理学療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々のニーズを見極め、個別のニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。</p>				
区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	D P ①	D P ②	D P ③	D P ④
			必修	選択					
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	1前	2	必修14単位＋選択2単位以上	○	○	○	○
		物理学	1後	2		○		○	
		生物学	1前	2		○		○	
		化学	1前	2		○		○	
		情報処理	1前	2		○		○	
		統計学	3前	2		○		○	
	人間理解と社会	心理学	1前	2		○		○	
		生命倫理学	1前	2		○		○	
		哲学	1後	2				○	
		社会福祉学	1前	2		○		○	
		日本国憲法	1後	2				○	
		東洋史概説	3前	2				○	
	語学	西洋史概説	3前	2				○	
		英語Ⅰ（初級）	1前	2		○	○		
		英語Ⅱ（中級）	1後	2		○	○		
		英会話	2前	2		○	○		
		医学英語	2後	2		○	○		
		基礎英語演習	2前	2		○	○		
共通科目群	保健医療	応用英語演習	2後	2	○	○			
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1	○	○	○	○	
		チーム医療見学実習	1前	1	○	○	○	○	
		医療コミュニケーション	2前	1	○	○	○	○	
		チーム医療論	2後	1	○	○	○	○	
		IPW論	3前	1	○	○	○	○	
		基礎体育	1前	1			○		
		健康科学（スポーツ社会学を含む）	1前	2			○	○	
		健康管理学Ⅰ	2前	2	○		○	○	
		健康管理学Ⅱ	2後	2	○		○	○	
		栄養学	2後	2	○		○		
		身体運動科学	2後	2	○		○		
東洋医療概論	2後	2			○	○			
統合医療概論	3前	2			○	○			

ディプロマポリシー
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●理学療法学科の方針

理学療法学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（理学療法学）の学位が与えられます。これは理学療法士国家試験受験資格となります。チーム医療と科学性を持ちつつ人に優しい理学療法を創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

【DP1】精度の高い専門的知識と専門技術

地域社会や医療現場等でのチームにおける理学療法の役割を理解し、それぞれの専門領域において、実践に即した精度の高い知識と専門技術を発揮することができる。

【DP2】チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた理学療法を提供することができる。

【DP3】豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。

【DP4】主体的問題解決能力

理学療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々のニーズを見極め、個別のニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。

区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	D P ①	D P ②	D P ③	D P ④
			必修	選択					
学 科 専 門 科 目 群	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1前	1	必 修 1 5 単 位	○	○	○	
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1後	1		○	○	○	
		人体の構造Ⅰ(神経系)	1前	2		○	○	○	
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	1後	2		○	○	○	
		人体の構造実習	2後	1			○	○	○
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	1前	2		○	○	○	
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	1後	2		○	○	○	
		基礎運動学	1後	1		○	○	○	
		臨床運動学	2前	1		○	○	○	
		運動学実習	1後	1		○	○		
		臨床心理学	1後	1		○	○		
	疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	リハビリテーション概論	1前	2	必 修 1 9 単 位 + 選 択 1 単 位 以 上	○	○	○	
		公衆衛生学	1後	2		○	○	○	
		生化学	2前	2		○		○	
		病理学	2前	2		○	○		
		臨床病態学Ⅰ	2前	2		○	○		
		臨床病態学Ⅱ	2後	2		○	○		
		臨床病態学Ⅲ	2後	2		○	○		
		整形外科学	2前	2		○	○		
小児科学(人間発達学)		2後	2	○		○			
精神医学		2前	2	○		○	○		
リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	2前	2	○	○					
チームリハビリテーション概論	2前	1		○	○				
介護学概論・ボランティア活動論	2後	1		○					
スポーツ医学	3前	1	○	○	○				
テーピング技術論	2後	1	○						

ディプロマポリシー
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●理学療法学科の方針

理学療法学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（理学療法学）の学位が与えられます。これは理学療法士国家試験受験資格となります。チーム医療と科学性を持ちつつ人に優しい理学療法を創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

【DP1】精度の高い専門的知識と専門技術

地域社会や医療現場等でのチームにおける理学療法の役割を理解し、それぞれの専門領域において、実践に即した精度の高い知識と専門技術を発揮することができる。

【DP2】チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた理学療法を提供することができる。

【DP3】豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。

【DP4】主体的問題解決能力

理学療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々のニーズを見極め、個別のニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。

区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	D P ①	D P ②	D P ③	D P ④
			必修	選択					
学 科 専 門 科 目 群	基礎 理 学 療 法 学	医療関係法規論	1前	2	必修 6 単 位	○			
		理学療法触診法	3後	1		○			
		基礎理学療法学Ⅰ	2前	1		○			
		基礎理学療法学Ⅱ	3前	1		○			
		基礎理学療法学実習	2通	1		○			
	理 学 療 法 管 理 学	職場管理(教育を含む)	3後	1	必修 2 単 位	○	○	○	
		職業倫理	3後	1		○	○	○	
	理 学 療 法 評 価 学	理学療法評価学総論	1後	1	必修 5 単 位	○			
		理学療法評価学各論	2前	2		○			
		臨床理学療法評価学（動作分析）	3前	1		○	○		
		臨床理学療法評価学実習	3通	1		○			
	理 学 療 法 治 療 学	基礎日常生活活動学	1後	1	必修 2 0 単 位	○			
		基礎運動療法学総論	2前	1		○			
		基礎運動療法学各論	2後	1		○			
		物理療法学	2前	1		○			
		運動器系理学療法学Ⅰ	2後	1		○			
		運動器系理学療法学Ⅱ	3前	2		○			
		運動器系理学療法学Ⅲ	3前	1		○			
		神経系理学療法学Ⅰ	2後	1		○			
		神経系理学療法学Ⅱ	3前	2		○			
神経系理学療法学Ⅲ		3前	1	○					
内部障害系理学療法学Ⅰ		2後	1	○					
内部障害系理学療法学Ⅱ		3前	2	○					
内部障害系理学療法学Ⅲ		3前	1	○					
発達障害理学療法学		3前	1	○					
義肢装具学	2後	2	○	○					
臨床理学療法治療学実習	4通	1	○						

ディプロマポリシー
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●理学療法学科の方針

理学療法学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（理学療法学）の学位が与えられます。これは理学療法士国家試験受験資格となります。チーム医療と科学性を持ちつつ人に優しい理学療法を創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

【DP1】精度の高い専門的知識と専門技術

地域社会や医療現場等でのチームにおける理学療法の役割を理解し、それぞれの専門領域において、実践に即した精度の高い知識と専門技術を発揮することができる。

【DP2】チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた理学療法を提供することができる。

【DP3】豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。

【DP4】主体的問題解決能力

理学療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々のニーズを見極め、個別のニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。

区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	D P ①	D P ②	D P ③	D P ④	
			必修	選択						
学 科 専 門 科 目 群	地 域 理 学 療 法 学	地域理学療法学	2後	2	必修 4 単 位	○				
		生活環境論	2後	1		○				
		老年期理学療法学	3後	1		○				
	総 合 領 域	理学療法臨床推論概論	2後		1	必修 5 単 位 + 選 択 1 単 位 以 上	○			
		理学療法臨床推論演習	3前		1		○			
		総合リハビリテーションIPW演習	3前	1			○	○		○
		理学療法特論Ⅰ	3後	1			○			
		理学療法特論Ⅱ	4前	1			○			
		理学療法特論Ⅲ	4後	2			○			
		運動器系理学療法セミナー	4前		1		○			
		神経系理学療法セミナー	4前		1		○			
		内部障害系理学療法セミナー	4前		1		○			
	地域理学療法セミナー	4前		1	○					
	研 究 業	卒業研究Ⅰ	3通	2		必修 4 単 位	○			○
		卒業研究Ⅱ	4通	2			○			○
臨 床 実 習	臨床見学実習	1後	1		必修 2 1 単 位	○		○	○	
	検査測定実習	2前	1			○		○	○	
	臨床評価実習	3通	4			○		○	○	
	地域理学療法実習	4前	1			○		○	○	
	臨床総合実習Ⅰ	4集	7			○		○	○	
	臨床総合実習Ⅱ	4集	7			○		○	○	
卒業要件単位数					126					

【資料4-2】 ■森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科 カリキュラム・マップ（授業科目とディプロマ・ポリシーの対応表）

区分					卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）				
					D P ①	D P ②	D P ③	D P ④	
<p style="text-align: center;">ディプロマポリシー (DP：学位授与方針)</p>					<p>【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】</p> <p>●作業療法学科の方針 作業療法学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（作業療法学）の学位が与えられます。これは作業療法士国家試験受験資格となります。チーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。</p> <p>●4つのディプロマ・ポリシー</p> <p>【DP1】 精度の高い専門的知識と専門技術 保健・医療・福祉の現場でのチームにおける作業療法の役割を理解し、それぞれの専門職の立場を理解した上で、作業療法実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用することができる。</p> <p>【DP2】 チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力 チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた作業療法を提供することができる。</p> <p>【DP3】 豊かな人間力 他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。</p> <p>【DP4】 主体的問題解決能力 作業療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々の作業ニーズを見極め、個別の作業ニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。</p>				
					区 分	授業科目	配 次 当 年	単 位 数 必 修 選 択	履修方法 及び 卒業要件
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	1前	2	必修12単位+選択2単位以上	○	○	○	○
		物理学	1後	2		○		○	
		生物学	1前	2		○		○	
		化学	1前	2		○		○	
		情報処理	1前	2		○		○	
		統計学	3後	2		○		○	
	人間理解と社会	心理学	1前	2		○	○	○	
		生命倫理学	1後	2		○		○	
		哲学	1後	2				○	
		社会福祉学	1後	2		○		○	
		日本国憲法	1後	2				○	
		東洋史概説	3前	2				○	
	語学	西洋史概説	3前	2				○	
		英語Ⅰ（初級）	1前	2		○	○		
		英語Ⅱ（中級）	1後	2		○	○		
		英会話	2前	2		○	○		
		医学英語	2後	2		○	○		
		基礎英語演習	2前	2		○	○		
応用英語演習	2後	2	○	○					
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1	○	○	○	○	
		チーム医療見学実習	1前	1	○	○	○	○	
		医療コミュニケーション	2前	1	○	○	○	○	
		チーム医療論	2後	1	○	○	○	○	
		IPW論	3前	1	○	○	○	○	
		基礎体育	1前	1		○	○		
		健康科学（スポーツ社会学を含む）	1前	2		○	○		
		健康管理学Ⅰ	2前	2	○		○		
		健康管理学Ⅱ	2後	2	○		○		
		栄養学	2後	2	○		○		
		身体運動科学	2後	2	○		○		
		東洋医療概論	3前	2		○	○		
統合医療概論	3前	2		○	○				
学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1前	1	必修15単位	○	○	○	
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1後	1		○	○	○	
		人体の構造Ⅰ(神経系)	1前	2		○	○	○	
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	1後	2		○	○	○	
		人体の構造実習(運動器)	2後	1		○	○	○	
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	1前	2		○	○	○	
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	1後	2		○	○	○	
		基礎運動学	1後	2		○	○	○	
		臨床運動学	2前	2		○	○	○	

ディプロマポリシー
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●作業療法学科の方針

作業療法学科に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（作業療法学）の学位が与えられます。これは作業療法士国家試験受験資格となります。チーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

【DP1】精度の高い専門的知識と専門技術

保健・医療・福祉の現場でのチームにおける作業療法の役割を理解し、それぞれの専門職の立場を理解した上で、作業療法実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用することができる。

【DP2】チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた作業療法を提供することができる。

【DP3】豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。

【DP4】主体的問題解決能力

作業療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々の作業ニーズを見極め、個別の作業ニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。

区分	授業科目	配次 当年	単位数		履修方法及び 卒業要件	D P ①	D P ②	D P ③	D P ④		
			必修	選択							
学 科 専 門 科 目 群	専 門 基 礎 科 目	疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	リハビリテーション概論	1前	2		○	○	○		
			公衆衛生学	1後		2		○	○	○	
			生化学	2前		2		○			
			病理学	2前	2			○			
			臨床病態学Ⅰ	2前	2			○	○	○	
			臨床病態学Ⅱ	2後	2			○	○	○	
			臨床病態学Ⅲ	2後	2			○	○	○	
			整形外科学	2後	2			○	○	○	
			小児科学（人間発達学）	2後	2			○	○	○	
			精神医学	2前	2			○	○	○	
			精神医学各論	2後	2			○	○	○	
			臨床心理学	2後	1			○	○	○	○
			リハビリテーション医学 （画像診断・予防・栄養含む）	3前	1			○	○	○	
			医療関係法規論	2前		2		○		○	
			チームリハビリテーション概論	2前	1			○	○	○	○
介護学概論・ボランティア活動論	2後		2		○	○	○				
スポーツ医学	2前		2		○	○					
専 門 科 目	基 礎 法 学	作 業 療 法	基礎作業学	1前	2		○	○	○	○	
			作業科学入門	1前	2		○	○	○	○	
			作業療法概論	1後	2		○	○	○	○	
専 門 科 目	管 理 学	作 業 療 法	職場管理(教育を含む)	3後	1		○		○		
			職業倫理	3後	1		○		○		
専 門 科 目	作 業 療 法 評 価 学	作 業 療 法 評 価 学	作業療法評価学総論	1後	2		○	○	○	○	
			身体障害作業療法評価学	2前	2		○	○		○	
			精神障害作業療法評価学	2後	1		○	○		○	
			発達障害作業療法評価学	2後	1		○	○		○	
			高次脳機能障害作業療法評価学	2前	1		○	○		○	

ディプロマポリシー
(DP：学位授与方針)

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

●作業療法学の方針

作業療法学に4年以上在籍し、卒業要件単位数を取得したものに卒業が認定され、学士（作業療法学）の学位が与えられます。これは作業療法士国家試験受験資格となります。チーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できるよう下記の能力を身につけた人材に学位を授与します。

●4つのディプロマ・ポリシー

【DP1】精度の高い専門的知識と専門技術

保健・医療・福祉の現場でのチームにおける作業療法の役割を理解し、それぞれの専門職の立場を理解した上で、作業療法実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用することができる。

【DP2】チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた作業療法を提供することができる。

【DP3】豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。

【DP4】主体的問題解決能力

作業療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々の作業ニーズを見極め、個別の作業ニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。

区分	授業科目	配次当年	単位数		履修方法及び卒業要件	D	D	D	D	
			必修	選択		P ①	P ②	P ③	P ④	
学 科 専 門 科 目 群	作 業 療 法 治 療 学	日常生活活動学	1後	2	必 修 1 8 単 位 + 選 択 1 単 位	○	○		○	
		身体障害作業療法治療学総論	3前	2		○	○		○	
		精神障害作業療法治療学総論	3前	2		○	○		○	
		高齢期障害作業療法治療学総論	3前	2		○	○		○	
		発達障害作業療法治療学総論	3前	2		○	○		○	
		身体障害作業療法治療学各論	3後	1		○	○		○	
		精神障害作業療法治療学各論	3後	1		○	○		○	
		高齢期障害作業療法治療学各論	3後	1		○	○		○	
		発達障害作業療法治療学各論	3後	1		○	○		○	
		義肢装具学	2後	1		○	○		○	
		作業療法特論Ⅰ	4後	1		○	○		○	
		作業療法特論Ⅱ	4後	1		○	○		○	
		身体障害作業療法治療学演習	3後			1	○	○	○	○
		精神障害作業療法治療学演習	3後			1	○	○	○	○
		老年期障害作業療法治療学演習	3後			1	○	○	○	○
	発達障害作業療法治療学演習	3後		1	○	○	○	○		
	総合リハビリテーションIPW演習	3前	1		○	○	○	○		
	地 域 作 業 療 法 学	地域作業療法学	3前	2	4 単 位 必 修	○	○	○	○	
		生活環境論	3前	1		○	○	○	○	
		障害者地域生活支援論	3後	1		○	○	○	○	
	卒 業 研 究	卒業研究Ⅰ	3通	2	選 択 2 単 位 +	○		○	○	
		卒業研究Ⅱ（身体障害）	4通	2		○		○	○	
		卒業研究Ⅱ（精神障害）	4通	2		○		○	○	
		卒業研究Ⅱ（高齢期障害・地域）	4通	2		○		○	○	
		卒業研究Ⅱ（発達障害）	4通	2		○		○	○	
臨 床 実 習	臨地見学実習	1前	2	必 修 2 5 単 位	○	○	○	○		
	臨床検査実習	2後	2		○	○	○	○		
	地域作業療法実習	4後	1		○	○	○	○		
	臨床評価実習	3通	4		○	○	○	○		
	臨床総合実習	4前	16		○	○	○	○		
卒業要件単位数					126					

【資料5-1】●履修モデル 理学療法学科

黒字：必修科目 青字：選択科目

科目区分	学年	1年次		2年次		3年次		4年次		計						
		科目名	必修	選択	科目名	必修	選択	科目名	必修		選択					
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2								必修14単位+選択2単位以上					
		物理学 情報処理	2 2													
	人間理解と社会	心理学 社会福祉学	2 2													
		英語 I (初級) 英語 II (中級)	2 2				統計学			2						
	小計		14	0		0	0		0	2						
共通科目群	保健医療医	MBS(Morimotoya Basic Seminar) チーム医療見学実習	1 1		医療コミュニケーション チーム医療論	1 1		IPW論 栄養学	1 2		必修5単位+選択2単位以上					
		小計	2		2		1	2								
専門基礎科目	人々の心身の発達	人体の構造演習 I (運動器) 人体の構造演習 II (運動器) 人体の構造 I (神経系) 人体の構造 II (循環・内臓) 人体の機能 I (動物性機能) 人体の機能 II (植物性機能) 基礎運動学 運動学実習 臨床心理学	1 1 2 2 2 2 1 1 1		人体の構造実習 臨床運動学	1 1						必修15単位				
		小計	13		2											
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論	2		病理学 臨床病態学 I 臨床病態学 II 臨床病態学 III 整形外科学 小児科学 (人間発達学) 精神医学 リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養 チームリハビリテーション概論 テーピング技術論	2 2 2 2 2 2 2 1						必修19単位+選択1単位以上			
			小計	2		17	1		0							
			基礎理学療法	医療関係法規論	2		基礎理学療法学 I 基礎理学療法学実習	1 1		理学療法触診法 基礎理学療法学 II	1 1				必修6単位	
				小計	2		2			2						
			理学療法管							職場管理 (教育を含む) 職業倫理	1 1					必修2単位
				小計	0		0			2						
	理学療法評価学		理学療法評価学総論	1		理学療法評価学各論	2		臨床理学療法評価学 (動作分析) 臨床理学療法評価学実習	1 1				必修5単位		
		小計	1		2			2								
	理学療法治療学	基礎日常生活活動学	1		基礎運動療法学総論 基礎運動療法学各論 物理療法学 運動器系理学療法学 I 神経系理学療法学 I 内部障害系理学療法学 I 義肢装具学	1 1 1 1 1 1 2		運動器系理学療法学 II 運動器系理学療法学 III 神経系理学療法学 II 神経系理学療法学 III 内部障害系理学療法学 II 内部障害系理学療法学 III 発達障害理学療法学	2 1 2 1 2 1 1	臨床理学療法治療学実習	1	必修20単位				
		小計	1		8		10		1							
		地域理学療法学			地域理学療法学 生活環境論	2 1		老年期理学療法学	1				必修4単位			
小計			3		1											
総合領域				理学療法臨床推論概論		1	総合リハビリテーションIPW演習 理学療法特論 I	1 1	理学療法特論 II 理学療法特論 III	1 2	必修5単位+選択1単位以上					
	小計	0	0		0	1		2	0	3		0				
卒業研究							卒業研究 I	2	卒業研究 II	2	必修4単位					
	小計						2		2							
臨床実習	臨床見学実習	1		検査測定実習	1		臨床評価実習	4	地域理学療法実習 臨床総合実習 I 臨床総合実習 II	1 7 7	必修21単位					
	小計	1		1			4		15							
合計		36	0		37	2		26	4		21	0	126			

【資料5-2】●履修モデル 作業療法学科

黒字：必修科目 青字：選択科目

学年 科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次			計	
	科目名	必修	選択	科目名	必修	選択	科目名	必修	選択	科目名	必修	選択		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2										必修12単位+選択2単位以上	
	社会人理解と	心理学	2											
		生命倫理学	2											
		社会福祉学	2							統計学		2		
語学	英語Ⅰ（初級）	2												
	英語Ⅱ（中級）	2												
	小計	12	0		0	0		0	2					
共通科目群	保健医療	MBS(Morinoiwa Basic Seminar)	1		医療コミュニケーション	1		IPW論	1				必修5単位+選択2単位以上	
		チーム医療見学実習	1		チーム医療論	1		統合医療概論		2				
	小計	2	2		2			1	2					
学科専門科目群	人及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1		人体の構造実習(運動器)	1							必修15単位	
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1		臨床運動学	2								
		人体の構造Ⅰ(神経系)	2											
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	2											
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	2											
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	2											
		基礎運動学	2											
	小計	12			3									
	専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論	2		病理学	2		リハビリテーション医学(画像診断・予防・栄養含む)	1				必修21単位+選択2単位以上
			公衆衛生学	2		臨床病態学Ⅰ	2							
	小計	2	2		18	0		1						
法学	基礎作業学	2											必修6単位	
	作業科学入門	2												
	作業療法概論	2												
	小計	6			0									
理学療法	作業療法管							職場管理(教育を含む)	1				必修2単位	
								職業倫理	1					
	小計	0			0			2						
評価学	作業療法評価学総論	2		身体障害作業療法評価学	2								必修7単位	
				精神障害作業療法評価学	1									
	小計	2		発達障害作業療法評価学	1									
	小計	2		高次脳機能障害作業療法評価学	1									
専門科目	作業療法治療学	日常生活活動学	2		義肢装具学	1		身体障害作業療法治療学総論	2		作業療法特論Ⅰ	1	必修18単位+選択1単位以上	
								精神障害作業療法治療学総論	2		作業療法特論Ⅱ	1		
								高齢期障害作業療法治療学総論	2					
								発達障害作業療法治療学総論	2					
								身体障害作業療法治療学各論	1					
								精神障害作業療法治療学各論	1					
								高齢期障害作業療法治療学各論	1					
								発達障害作業療法治療学各論	1					
								総合リハビリテーションIPW演習	1					
								発達障害作業療法治療学演習		1				
	小計	2			1		13	1		2				
療域作業	地域作業						地域作業療法	2				必修4単位		
							生活環境論	1						
	小計						1							
卒業	卒業						卒業研究Ⅰ	2		卒業研究Ⅱ(発達障害)		2	必修2単位+選択2単位以上	
	小計							2			2			
実習	臨床見学実習	2		臨床検査実習	2		臨床評価実習	4		臨床総合実習	16		必修25単位	
	小計	2		2			4			1				
	小計	2		2			4			17				
	合計	40	4	31	0		27	5		19	2	128		

実習施設概要、承諾書

(実習先については資料 6 - 1 2 の実習施設総括表を参照)

【資料 6-3】 各実習の概要及び週間計画

1. 臨床見学実習

配当年次	1 年次	
実習場所	大阪急性期・総合医療センター 南大阪病院 大阪回生病院 大阪国際がんセンター 星ヶ丘医療センター 東大阪病院	千里中央病院 辻外科リハビリテーション病院 天仁病院 みどりの風クリニック 介護老人保健施設 雅秀苑
単位数（時間数）	1 単位 45 時間	
実習内容	保健・医療・福祉領域における臨床現場での見学実習を通して、理学療法の対象となる人々の特性を理解し、専門職、社会人としてのルールやマナーに基づいて行動できるようになることを目的とする。理学療法場面の運動療法、物理療法の目的を考え、対象者とのコミュニケーションの取り方についても解説する。さらに、対象者を中心としたリハビリテーションチームの構成についても学び、理学療法士としての役割を把握する。	
実習目標	<ul style="list-style-type: none"> ①理学療法の対象となる人々の特性を理解する。 ②理学療法の対象となる方々とのコミュニケーション力を養う。 ③医療現場におけるルールやマナーを身につける。 ④運動療法、物理療法の目的を理解する。 ⑤リハビリテーションのチーム構成について理解する。 ⑥見学を通じて理学療法士としての役割を理解する。 	
	実習週間計画（原則、臨地では 8:30～17:30）	
1 週目	<ul style="list-style-type: none"> ①病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ。 ②患者と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを学ぶ。 ③医学的兆候を知る為の血圧測定や脈拍の計測などのバイタルチェックや問診などの実技を経験する。 ④今まで履修した分野の知識を臨床の場で確認する。 ⑤実習開始時と現在までの変化を自覚し、弱点の克服に努める。 	

2. 検査測定実習

配当年次	2年次	
実習場所	愛仁会リハビリテーション病院 藍野病院 上山病院 大阪回生病院 大阪暁明館病院 大阪病院 大阪南医療センター 大阪母子医療センター 北野病院 東大阪病院 関西メディカル病院 千里中央病院 伊丹せいふう病院 東宝塚さとう病院	浅香山病院 植木病院 阪和第一泉北病院 辻外科リハビリテーション病院 白庭病院 奈良春日病院 耳原総合病院 城山病院 明生第二病院 星ヶ丘医療センター おかたに病院 佐野記念病院 辻整形外科
単位数（時間数）	1単位 45時間	
実習内容	臨床現場での実習を通じて、理学療法実施のプロセスの中で必要となる心身機能、身体構造、活動、参加、個人因子、環境などICFで分類されている項目の検査・測定を実践する。これまで習得してきた各領域での理学療法の面接・観察および検査・測定を疾患別に対応して、対象者に正確に実践できる技術を修得する。さらに、得られた検査・測定結果に対して考察を加え、その結果が生活場面にどのように影響するかを予測する。	
実習目標	①問診・医療面接を経験する。 ②これまでに学修した領域別での面接・観察および検査・測定を疾患別に対応できる技術を修得する。 ③実習で得られた検査・測定等の結果に対し考察を加え、その結果が対象者の生活場面においてどのように影響するのかを予測できるようになる。	
実習週間計画（原則、臨地では8:30～17:30）		
1週目	①病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ。 ②患者と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを学ぶ。 ③患者情報の収集方法を学ぶ。 ④問診・医療面接を経験する。 ⑤検査・測定項目を想起する。 ⑥検査・測定を経験する。	

	⑦実習開始時と現在までの変化を自覚し、弱点の克服に努める。
--	-------------------------------

3. 臨床評価実習

配当年次	3年次	
実習場所	あびこ病院 浅香山病院 厚生会第一病院 友愛会病院 喜馬病院 八尾はあとふる病院 朋愛病院 緑風会病院 南大阪病院 医誠会病院 大阪回生病院 大阪府済生会中津病院 千里リハビリテーション病院 高槻赤十字病院 辻外科リハビリテーション病院 帝塚山リハビリテーション病院 大阪国際がんセンター 大阪警察病院 星ヶ丘医療センター 暁生会脳神経外科病院	交野病院 日野病院 佐野記念病院 おかたに病院 東生駒病院 阪奈中央病院 わかくさ竜間リハビリテーション病院 明石仁十病院 神戸リハビリテーション病院 神戸市立西神戸医療センター 京都武田病院 八幡中央病院 中谷病院 辻整形外科 土庫病院 山の辺病院 奈良県総合医療センター 甲南医療センター 協立温泉病院 西宮渡辺病院
単位数（時間数）	4単位 180時間	
実習内容	理学療法プロセスにおいては、情報収集と検査測定を行い治療計画まで行えることを目標とし、臨床において基本的技術の実践を行う。当実習はこれまでに修得した知識と技術の確認的要素もあり、今まで学修した疾患に応じた障害評価を可能にする評価項目の選択と実施、抽出された問題点に対する治療計画の立案と治療実施に対する準備やリスクの確認を含め、疾患と障害の変化を日々確認する。また実習時に記録・経過報告を付加し、評価報告書を1例作成する。	
実習目標	①対象者への問診を通じて、対象者の主訴や Hope を理解できる。 ②疾病の症候学を理解し、必要な検査・測定項目を想起できる。 ③実習指導者の指導のもと、安全に配慮した検査・測定を経験する。 ④問診内容ならびに、検査・測定結果について考察する。	
	実習週間計画（原則、臨地では 8:30～17:30）	
1週目	①病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ。 ②患者と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを学ぶ。	

2週目	<ul style="list-style-type: none"> ①患者情報の収集方法を学ぶ。 ②患者接遇の実際を経験する。 ③検査・測定・理学療法評価を経験する。
3週目	<ul style="list-style-type: none"> ①患者情報の収集方法を学ぶ。 ②患者接遇の実際を経験する。 ③検査・測定・理学療法評価を経験する。
4週目	<ul style="list-style-type: none"> ①患者情報の収集方法を学ぶ。 ②患者接遇の実際を経験する。 ③検査・測定・理学療法評価を経験する。

4. 臨床総合実習 I

配当年次	4年次	
実習場所	<p>大阪急性期・総合医療センター 大阪発達総合療育センター 大阪警察病院 多根脳神経リハビリテーション病院 大阪国際がんセンター 大手前病院 東大阪病院 ポバース記念病院 住友病院 北野病院 南大阪病院 緑風会病院 友愛会病院 大阪府済生会泉尾病院 厚生会第一病院 愛泉会病院 藤本病院 寝屋川生野病院 星ヶ丘医療センター 八幡中央病院 大阪大学医学部附属病院 関西メディカル病院 堺市立総合医療センター</p>	<p>高村病院 高槻赤十字病院 阪奈中央病院 東生駒病院 京都山城総合医療センター わかくさ竜間リハビリテーション病院 白庭病院 近畿大学病院 阪和第一泉北病院 辻外科リハビリテーション病院 葛城病院 馬場記念病院 南堺病院 佐野記念病院 おかたに病院 和歌山県立医科大学附属病院 中谷病院 大阪晴愛病院 河西田村病院 あびこ病院 浅香山病院 朋愛病院 阪和第二泉北病院</p>
単位数（時間数）	7単位 315時間	
実習内容	<p>これまで履修した専門科目を応用し、障害を評価し、立案した治療計画を実行し経過を観察する。担当した症例を通し情報収集・検査測定と評価・問題点の抽出・治療計画立案と実施を実践し理学療法プロセスを経験するだけでなく、実習期間中の経過や変化、理学療法の効果を学修する。</p>	
実習目標	<p>①理学療法評価の経験を通じて、対象者の生活機能を想起できる。 ②対象者の生活機能をふまえた理学療法プログラムを想起できる。 ③実習指導者の指導の下、安全に配慮した理学療法介入を経験する。 ④理学療法介入を通じて、対象者が日々変化していることを認識する。 ⑤対象者の変化を通じて、理学療法評価の内容を再度検証する。</p>	
	<p>実習週間計画（原則、臨地では8:30～17:30）</p>	
1週間	<p>①病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ。 ②患者と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを学ぶ。</p>	

2週目	<ul style="list-style-type: none"> ①患者情報を収集する。 ②患者接遇の実際を経験する。 ③検査・測定・理学療法評価を経験する。
3週目	<ul style="list-style-type: none"> ①患者情報を収集する。 ②患者接遇の実際を経験する。 ③検査・測定・理学療法評価を経験する。
4週目	<ul style="list-style-type: none"> ①問題点の抽出方法を学ぶ。 ②訓練プログラムの立案方法を学ぶ。 ③訓練プログラムの実施を経験する。 ④実施したプログラムの効果について再評価と考察を行う。
5週目	<ul style="list-style-type: none"> ①問題点の抽出方法を学ぶ。 ②訓練プログラムの立案方法を学ぶ。 ③訓練プログラムの実施を経験する。 ④実施したプログラムの効果について再評価と考察を行う。
6週目	<ul style="list-style-type: none"> ①問題点の抽出方法を学ぶ。 ②訓練プログラムの立案方法を学ぶ。 ③訓練プログラムの実施を経験する。 ④実施したプログラムの効果について再評価と考察を行う。
7週目	<ul style="list-style-type: none"> ①問題点の抽出方法を学ぶ。 ②訓練プログラムの立案方法を学ぶ。 ③訓練プログラムの実施を経験する。 ④実施したプログラムの効果について再評価と考察を行う。 ⑤最終報告会を行う。

5. 臨床総合実習Ⅱ

配当年次	4年次	
実習場所	ボバース記念病院 住友病院 北野病院 東大阪病院 大阪発達総合療育センター 大阪国際がんセンター 大阪警察病院 大阪急性期・総合医療センター 高槻赤十字病院 大阪大学医学部附属病院 友愛会病院 大阪府済生会泉尾病院 南大阪病院 多根脳神経リハビリテーション病院 西中病院 星ヶ丘医療センター 愛泉会病院 藤本病院 八幡中央病院 寝屋川生野病院 堺市立総合医療センター 高槻病院 高村病院	啜生会脳神経外科病院 千里リハビリテーション病院 わかくさ竜間リハビリテーション病院 白庭病院 奈良県総合医療センター 東生駒病院 土庫病院 正愛病院 あびこ病院 浅香山病院 朋愛病院 阪和第二泉北病院 馬場記念病院 南堺病院 近畿大学病院 阪和第一泉北病院 和歌山県立医科大学附属病院 中谷病院 大阪晴愛病院 河西田村病院 葛城病院 佐野記念病院 おかたに病院
単位数（時間数）	7単位 315時間	
実習内容	臨床総合実習Ⅰで修得した一連の理学療法プロセスで、経験が不十分な項目を反復学修する。実際には、臨床総合実習Ⅰでの未達項目と未経験症例を担当する。一連の理学療法プロセスを実施し、理学療法士の社会的役割や責任についても理解し一貫した理学療法士の職務を深く理解する。	
実習目標	①臨床総合実習Ⅰでの内容を基に反復学修する。 ②臨床総合実習Ⅰで未経験の症例を学修する。 ③理学療法評価の経験を通じて、対象者の生活機能を想起できる。 ④対象者の生活機能をふまえた理学療法プログラムを想起できる。 ⑤実習指導者の指導の下、安全に配慮した理学療法介入を経験する。 ⑥理学療法介入を通じて、対象者が日々変化していることを認識する。 ⑦対象者の変化を通じて、理学療法評価の内容を再度検証する。	
実習週間計画（原則、臨地では8:30～17:30）		

1 週目	<p>①病院・施設における理学療法部門の位置づけおよび現場における理学療法士の業務全般・他職種との役割分担やチーム活動を学ぶ。</p> <p>②患者と直接かかわり、医療人としての医療倫理に基づく基本的マナーを学ぶ。</p>
2 週目	<p>①患者情報を収集する。</p> <p>②患者接遇の実際を経験する。</p> <p>③検査・測定・理学療法評価を経験する。</p>
3 週目	<p>①患者情報を収集する。</p> <p>②患者接遇の実際を経験する。</p> <p>③検査・測定・理学療法評価を経験する。</p>
4 週目	<p>①問題点の抽出方法を学ぶ。</p> <p>②訓練プログラムの立案方法を学ぶ。</p> <p>③訓練プログラムの実施を経験する。</p> <p>④実施したプログラムの効果について再評価と考察を行う。</p>
5 週目	<p>①問題点の抽出方法を学ぶ。</p> <p>②訓練プログラムの立案方法を学ぶ。</p> <p>③訓練プログラムの実施を経験する。</p> <p>④実施したプログラムの効果について再評価と考察を行う。</p>
6 週目	<p>①問題点の抽出方法を学ぶ。</p> <p>②訓練プログラムの立案方法を学ぶ。</p> <p>③訓練プログラムの実施を経験する。</p> <p>④実施したプログラムの効果について再評価と考察を行う。</p>
7 週目	<p>①問題点の抽出方法を学ぶ。</p> <p>②訓練プログラムの立案方法を学ぶ。</p> <p>③訓練プログラムの実施を経験する。</p> <p>④実施したプログラムの効果について再評価と考察を行う。</p> <p>⑤最終報告会を行う。</p>

6. 地域理学療法実習

配当年次	4年次
実習場所	大阪回生病院 大阪晴愛病院 辻外科リハビリテーション病院 東大阪病院 南堺病院
単位数（時間数）	1単位 45時間
実習内容	地域理学療法実習は、患者及び障がい児・者、高齢者の地域での生活を知るとともに、地域社会での理学療法士の役割及び業務内容、他職種と連携・協力した生活支援を理解するための実習である。また、専門科目において学修した地域包括ケア・地域リハビリテーション、社会保険制度、住宅環境設備などの理解を深め、施設・在宅の生活期に至る幅広い対象者に対して、柔軟に対応できる能力を養う目的で実施する。
実習目標	①地域社会における理学療法士の役割について理解する。 ②地域社会における多職種連携について理解する。 ③実習指導者の指導の下、地域包括ケア・地域リハビリテーションを見学ならびに一部を経験する。 ④ケアプランの立案過程を見学する。
実習週間計画（原則、臨地では8:30～17:30）	
1週目	①通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割を学ぶ。 ②地域での多職種連携について学ぶ。 ③地域における理学療法プロセス（評価から治療まで）を見学、経験する。

実習要項（抜粋）

Ⅱ. 臨床実習の実施方法

1. 実習科目の履修および単位認定にかかわる条件

～省略～

2. 臨床実習における基本事項

（1）実習時間

実習時間は原則として 8:30～17:30 までとする。ただし、対象者の状況や実習施設の特徴などに応じて時間調整を行うことがある。実習科目、実習施設により異なる場合もある。実習中はゆとりを持って行動する。時間を厳守し、決められた時間の5分前行動を原則とする。

（2）出欠席、遅刻、早退

～省略～

（3）身だしなみ

～省略～

（4）実習生としての態度

～省略～

（5）対象者に対する心得

1) 対象者への倫理的配慮を遵守する

- ①実習中は学生といえども社会人としての行動を心がける。
- ②対象者や家族からの病状に関する質問には不用意な即答は避け、施設の臨床実習指導者に報告する。
- ③対象者の個人情報の保護に努め、他者に知られたくない過去および個人情報は決して口外しない。

2) 言葉遣いや態度に留意する

- ①対象者には、学ばせていただいている学修者であると同時に、医療人であるという自覚を持って接する。
- ②対象者はさまざまな人生経験者であることを認識し、尊敬の念を持ち接する。

3) 学生としての関係性を保つ

- ①対象者からの贈答は受け取らない。対応できないときは大学実習担当教員または施設の臨床実習指導者に相談する。
- ②実習終了後は対象者や家族と個人的な関わりを持たない。また、プライベートな連

絡先の交換をしない。

(6) 事故防止

- 1) 臨床現場で迅速に対応できるよう、十分な事前学習・練習を踏まえて実習に臨む。
- 2) 対象者と接点を持つ際は必ず施設の臨床実習指導者に確認・報告をし、決して独断で行動しない。
- 3) 事故・インシデント発生時（施設の物品・器具の破損、暴力・暴言・セクシャルハラスメント等の被害・危害の受難、交通事故の遭遇およびこれらの未遂を含む）は、直ちに大学実習担当教員と施設の臨床実習指導者に報告するとともに、「事故・インシデント発生時の手引き」に従い行動する。施設によって別途届け等の必要がある場合は、所定の手続きに従って行動する。

(7) 健康管理、感染症予防

- 1) 健康管理、感染症予防においては、「感染症予防の手引き」を熟読し、遵守する。
- 2) 臨床実習前に各自で保険加入状況、感染症抗体価保有状況について確認しておく。
- 3) 規則正しい生活を習慣づけ、自己の体調管理に努める。（実習期間中はアルバイトを入れない。）
- 4) 処置やケアの前後には手洗いを十分に行う。

(8) 学生更衣室の使用

～省略～

(9) 交通手段

～省略～

(10) 気象異常・ストライキ時の対応

～省略～

3. 個人情報使用に関するガイドライン

(1) 当ガイドラインの趣旨について

- 1) 個人情報取扱事業者に該当するか否かを問わず、理学療法士を志す学生として患者個人情報の漏洩が守秘義務違反に相当することを強く認識し、これの保護に努めること。
- 2) 本学学生として以下の記載内容に反する行為があった場合に関しては、直ちに実習を中断し、状況に応じた処分を検討する。

(2) 実習時に使用が想定される個人情報について

- 1) 患者・利用者（以下、対象者）の疾患、障害、予後に関する討議・質問は、原則として対象者やその家族はもとより、他の対象者など無関係な者であっても耳に入ることのない場所で行う。
- 2) 対象者やその周囲の者からの場合においても、疾患、症状、予後に関する質問に対しては、決して返答せずに主治医・臨床実習指導者に相談する。
- 3) カルテの使用、カンファレンス資料等の取り扱いに留意し、必要に応じて施設の臨床実習指導者を始めとする実習施設職員の指示を受ける。
- 4) 症例報告・レポートの提出に際しては、以下の事項に留意する。
 - ①対象者氏名：記載しない。イニシャル表記も禁止する。記載上やむを得ず2者以上を区別する必要がある場合はA, B,・・・とする。
 - ②生年月日：記載しない。年齢は対象者像の把握に必要である場合に限り記載を許可するが、○歳代などに留める。
 - ③性別：記載する。
 - ④現病歴：対象者像の把握に必要とされる最小限度の記載のみとする。
 - ⑤家族構成：対象者像の把握に必要とされる最小限度の記載のみとする。
 - ⑥家族歴：対象者像の把握に必要とされる最小限度の記載のみとする。
- 5) 画像・動画記録については、別途「画像・動画資料の撮影ならびに使用に関する誓約書」に基づき使用の趣旨を説明の上、対象者あるいはその家族から署名による同意を得た後に使用する。また、使用においては誓約内容を遵守する。

(3) 情報媒体（電子媒体）の使用について

- 1) ワード、エクセルなどの電子ファイルを作成する際には必ずパスワードを設定する。
- 2) 原則として、ネットワーク接続されていないPCを使用する。
- 3) やむを得ずネットワーク接続下にあるPCを使用する場合は、必ずセキュリティソフトを使用し、毎回安全を確認する。
- 4) 現在オフラインにあるPCであっても、peer to peer (P2P) ソフトやその他の情報流出の可能性が高いソフトをインストールしたことのあるPCは、使用を禁止する。
- 5) フラッシュメモリやポータブルHDDなど、携帯性の高い端末への保存はファイル提出など、やむを得ずファイル移動が必要な場合に限り、常時保存することを禁止する。また、その際はパスワードにより暗号化できるもののみを使用する。
- 6) 電子媒体への記録は、ファイルを消去した後も復元可能性が極めて高いことに留意し、データの不必要な記録は厳に慎む。（ゴミ箱の中身を完全に消去した後であっても、復元は容易である）

(4) 情報媒体（紙媒体）の使用について

- 1) 実習中得られた情報について、容易に他人の目に触れる形で記録することは禁止する（例、掌へのメモ、透過性の高いファイルの使用など）。
- 2) デイリーノート、症例レポートなど、紙媒体で記録されたものに関して、紛失・散逸が無いよう厳重に取り扱う。
- 3) 実習終了後、不必要となった記録物・メモ類はシュレッダー等により、個人データを復元不可能な形にして廃棄する。

(5) web サービスの利用について

- 1) 対象者個人情報によらず、実習施設ならびに実習中の生活に関する情報は、SNS（LINE や Facebook など）やブログなど公共性の高いサービスに決して発信してはならない。
- 2) 原則としてオンラインストレージサービス（iCloud や dropbox、google drive など）を利用したファイル保存は禁止する。また、web メールをはじめとするその他の web サービスを使用する際などにも必ず利用法、利用規約を確認し、不作為による情報の漏洩を避ける。

4. 事故・インシデント発生時の手引き

(1) 目的

学生が行う臨床実習において、不測の事態により事故が生じた場合や事故につながるようなこと（インシデント）が起こった場合は、この手引きに従い適切な対応を速やかに行う。また、所定の報告書「事故・インシデント発生報告書」に基づき報告を行い、発生原因などを明らかにすることにより、事故・インシデントの再発防止を図り、また教育への指針とする。

(2) 用語の定義

- 1) ここでいう「事故」とは、以下のようなことをいう。
 - ①学生が臨床実習で対象者に対して傷害を与えた場合。
 - ②学生が対象者および実習施設の物品を破損するなどの損害を与えた場合。
 - ③学生自身が臨床実習で感染や危害（セクシャルハラスメント、暴力を含む）を受けた場合。
 - ④実習施設への通学途上および実習中に交通事故などに遭遇した場合。
- 2) ここでいう「インシデント」とは以下のことをいう。

事故発生にはいたらなかったが、適切な対処を行っていなかったら事故になる可能性があるとして施設の臨床実習指導者または大学実習担当教員が判断した場合。

(3) 事故・インシデント発生時における対応方法

事故・インシデント発生時は、以下の方法に従って適切かつ迅速に対応する。また事故・インシデントのレベルに基づく発生時の具体的な対応は、表1、図1に準ずる。

*ここでいう事故のレベルは患者に影響を与えた場合に適応する。その事故のレベルは、その状況により適宜判断する。

1) 学生の責務

①学生は、実習中に事故が発生した場合は、図1に従って速やかに施設の臨床実習指導者および大学実習担当教員へ報告する。

②学生は、事故の状況により「事故・インシデント発生報告書」(以下、報告書と略称)に記載し、大学実習担当教員へ提出する。

2) 大学実習担当教員の責務

①大学実習担当教員は、実習中の事故発生の実事関係の確認、および事故発生に関わる学生に対する指導・助言、施設側の直接の指導者との協議により、問題を適切かつ迅速に解決するように努める。

②大学実習担当教員は、発生した事故について速やかに単位認定者に報告する。大学実習担当教員は、学生当事者からの報告書の受理を行う。

③大学実習担当教員は、関係者のプライバシーおよび人権を尊重し、知り得た秘密を洩らさないよう注意する。

3) 単位認定者の責務

①単位認定者は、事故発生状況の詳細な把握、大学実習担当教員に対する指導・助言、臨床側との協議・調整を行い、問題を適切かつ迅速に解決するよう努める。

②単位認定者は、事故のレベルにより速やかに理学療法学科長へ報告する。

③必要に応じて、大学実習担当教員、および事故の関係者を招集し協議を行うなど、速やかに適切な措置を講じる。

4) 学科長の責務

①学科長は、単位認定者から実習中の事故について報告を受け、実習施設責任者の協議・調整を行い、問題を適切かつ迅速に解決するよう努める。

②学科長は、報告書の受理を行う。

③学科長は、事故のレベルや状況により、速やかに学部長、学長へ報告する。

④学科長は、関係者のプライバシーおよび人権を尊重し、知り得た秘密を他に漏らさないよう注意する。

⑤学科長は、学内での事故の対応や事故防止教育が必要であると判断したときは、大学実習担当教員、および事故の関係者を招集し協議を行うなど、速やかに適切な措置を講じる。

(4) 記録物紛失事故

記録物紛失事故とは、その個人名が特定できると判断される記録物の紛失を言う。
事故・インシデント発生の「レベル4」に相当すると判断して対処する。

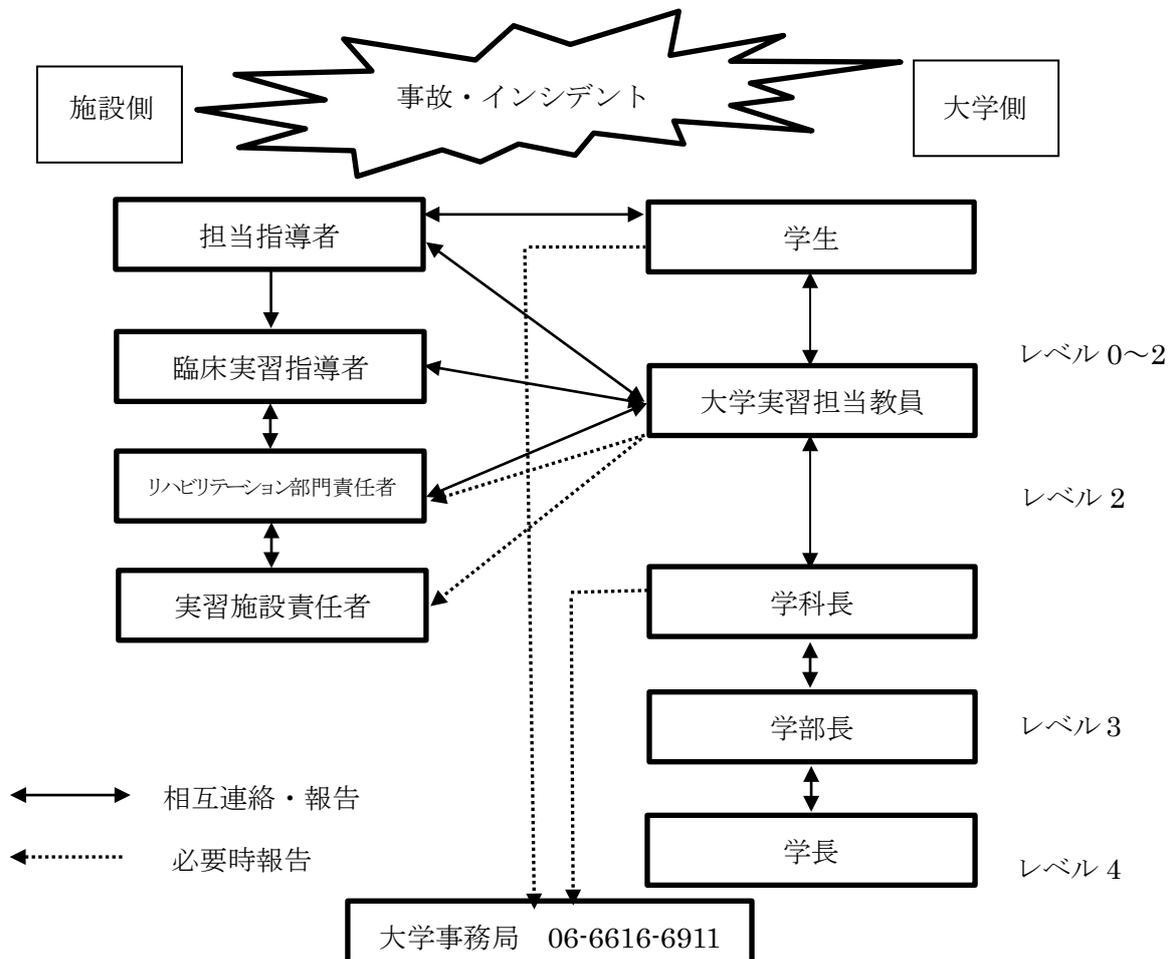
表 1 事故・インシデント発生レベル

レベル	対象者への影響	報告判断基準
0	間違っことは発生したが、対象者には実施されなかった (インシデント ^注)	大学実習担当教員から単位認定者へ、単位認定者から学科長へ報告
ハイ リスク	レベル0の状況ではあるが、実施されれば「レベル2」以上が予測される (インシデント ^注)	
1	事故による対象者への実害はなかったが、何らかの影響を与えた可能性がある 観察を強化し、心身の配慮の可能性が生じた場合	
2	事故により対象者への観察の強化の必要とバイタルサインに変化が生じた、または、検査の必要が生じた場合	学科長は学部長へ報告
3	事故により必要でなかった治療、処置の必要性や入院日数の増加が生じた場合	
4	事故による障害が一生続く場合	学科長は学長へ報告
5	事故が死因となる場合	

注：レベル0あるいはレベルハイリスクを、用語の定義（2）のインシデントとする。

（参考、原 洋子：「リスクマネジメント」の体制づくりを考える．看護展望, 24(10), p41-45, 1999, 一部
改変）

図 1 事故・インシデント発生時対応図



5. 感染症予防の手引き

(1) 臨床実習に伴う感染症抗体価検査および予防接種の実施について

- 1) 実習施設での院内感染防止のため、風疹、麻疹、流行性耳下腺炎、水痘の抗体価検査を受ける。抗体がなければ自己責任で予防接種を受け、結果を健康管理センターに報告する。
- 2) その他、病院の指定する予防接種を確認し、実習開始までに接種しておく。

(2) 感染症発生時・発生が疑われる場合の対処

- 1) 風邪症状や、37.5℃以上の発熱があるときは実習施設に出向せず、速やかに大学実習担当教員に連絡し、受診等の指示に従う。
- 2) 実習中に体調不良のため休む場合は、大学実習担当教員に連絡した後、医療機関を受診し診断書を提出する。
- 3) インフルエンザの流行する時期に38℃以上の発熱があり、咳や咽頭痛等の急性呼吸器症状を伴う場合にはインフルエンザに感染している可能性がある。また、インフルエンザに感染している人との濃厚接触歴があることなども、感染を疑う上での参考になる。その他の感染症に関しても、地域、実習施設、学内、家族の感染症の動向に注意を払う。
- 4) 実習期間中に、発熱、咳、下痢、嘔吐、発疹等の感染症が疑われる症状がある場合は、大学実習担当教員および施設の臨床実習指導者に連絡^{注1)}し、指示に従う（自己判断しない）。実習施設ならびに対象者によっては、微細な風邪症状でも実習内容の制限が必要になるため、大学実習担当教員への連絡を怠らない。
- 5) 実習施設内での感染が疑われる場合の対処は、原則として実習施設の方針に従う。

(3) 実習への復帰について

- 1) 実習において出席停止もしくは実習制限となりうる感染症は、学校保健安全法施行規則に準ずる。
- 2) 実習復帰の時期は学校保健安全法施行規則に準ずる。
- 3) 実習期間中の感染症発症に関しては、医師が発行する実習へ復帰しても可能であることが書かれた内容を含む診断書を提出のうえ復帰する。
- 4) 学校保健安全法施行規則に定める感染症以外に関しても、自己判断で復帰せず、大学実習担当教員に確認する。実習施設ならびに対象者により対応が異なるため、大学実習担当教員に連絡^{注1)}し、指示に従う。

注意事項

- 1) 家族、友人等に感染症発症者がいる場合、濃厚接触歴を併せて報告する。

感染症予防管理確認表

2019年度入学生書式(理学・作業・臨検・臨工)

学科：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

I. 小児4種感染症とB型肝炎の罹患歴・予防接種歴・抗体価検査の結果について

	罹患歴（有無と時期） ※母子手帳確認	入学前予防接種歴（接種年月日） ※母子手帳確認	入学時抗体価検査 年 月 日実施	入学後 予防接種歴（接種年月日）
麻疹 (はしか)	罹患歴 有・無・不明 年 月 ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種	【EIA法基準値16.0以上】 _____ 抗体価（満たす・満たさない）	年 月 日接種 年 月 日接種
風疹 (三日ばしか)	罹患歴 有・無・不明 年 月 ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種	【EIA法基準値8.0以上】 _____ 抗体価（満たす・満たさない）	年 月 日接種 年 月 日接種
水痘 (水ぼうそう)	罹患歴 有・無・不明 年 月 ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種	【EIA法基準値4.0以上】 _____ 抗体価（満たす・満たさない）	年 月 日接種 年 月 日接種
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ ムンプス)	罹患歴 有・無・不明 年 月 ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種	【EIA法基準値4.0以上】 _____ 抗体価（満たす・満たさない）	年 月 日接種 年 月 日接種
B型肝炎	罹患歴 有・無・不明 年 月 ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種 年 月 日接種	抗原【CLIA法基準値1.0未満】 _____（陽性 陰性） 抗体【CLIA法基準値10.0以上】 _____（陽性 陰性）	年 月 日接種 年 月 日接種 年 月 日接種 抗体価検査2年 年 月 日 HBs抗体_____（陽性・陰性）

※ 健康診断時の「感染症検査の結果」は大切に保管し、不明な点は健康管理センターに確認する。

問合せ先：森ノ宮医療大学 健康管理センター 〒559-8611 大阪市住之江区南港北1-26-16 TEL：06-6105-4098

1. 小児感染症（4種）予防接種について

（1）入学時健康診断における小児感染症抗体価検査結果が、日本環境感染学会「医療関係者のためのワクチンガイドライン」のE I A法基準値を満たさない場合、予防接種を推奨する。

<接種回数> 基準値を満たさない場合

- ・入学前予防接種歴がない場合、2回接種。（2回目接種は、1回目接種後から少なくとも1ヶ月以上をあけて接種する。）
- ・入学前予防接種歴が1回の場合、1回接種。

2. B型肝炎予防接種について

（1）入学時健康診断におけるHBs抗体価検査が、C L I A法基準値をみたさない場合、予防接種を推奨する。

<接種回数> 基準値を満たさない場合

- ・入学前予防接種歴がない場合、3回接種。（1年次に大学でもB型肝炎ワクチンの予防接種を実施します。＜6月・7月・11月予定＞）

※ 実習地における感染防御あるいは感染症蔓延予防の立場から、予防接種を完了していない学生は学外実習の許可が出ないことがあるので注意する。
但し、アレルギー等により予防接種が実施できない人は診断書を提出する（要相談）。

実習における個人情報の保護に関する
誓約書

施設長 殿

私は、当院の実習学生として、実習における個人情報の保護に関する規則を十分に理解し、これを遵守いたします。

私は、実習中はもちろん、実習終了後においても、知り得た個人情報を、正当な事由なく第三者に漏らしません。

以上、誠実に遵守することを誓います。

年 月 日

森ノ宮医療大学保健医療学部 理学療法学科

学生氏名

様式 6

学校提出用（実習終了後）

画像・動画資料の撮影ならびに使用に関する誓約書

私は、森ノ宮医療大学理学療法学科学生として「理学療法学科 学外臨床実習における個人情報使用に関するガイドライン」の趣旨を十分理解し、実習に臨んでいます。その上で、対象者に対し、より良い理学療法を実践するため、画像・動画を撮影・閲覧し、理学療法プログラムの内容を向上させたいと考えます。この目的に反し、対象者に不利益が生じることの無いよう、撮影にあたっては以下の内容を遵守します。

画像・動画撮影の目的について

- 実習における画像・動画撮影の目的は、対象者の身体状況・生活状況を理解し、よりよい理学療法プログラムを立案するため、またその効果を検証し、プログラムの修正を検討するために限定されることを理解する。

画像・動画撮影の対象について

- 上記目的のために必要とされる撮影対象は、対象者の基本姿勢・動作、生活環境等に限定されることを理解する。
- したがって、みだりに対象者のプライバシーが明らかとなるような撮影手法を用いてはならないことを理解する。

撮影した資料の閲覧、保管について

- 上記目的のために必要とされる資料の閲覧については、実習学生本人ならびに当該実習期間中において実習学生に対し指導的立場にある者に限定されることを理解する。
- したがって、撮影した資料の保管については、「理学療法学科 学外臨床実習における個人情報使用に関するガイドライン」を遵守し、不特定多数への漏洩等が決して生じないように努める義務があることを理解する。

年 月 日

森ノ宮医療大学理学療法学科
学生 _____

【資料6-7】 1～4年次 実習計画表

1～4年次 実習計画表

	実習科目名	臨床見学実習【1単位】	検査測定実習【1単位】	臨床評価実習【4単位】	臨床総合実習Ⅰ【7単位】	臨床総合実習Ⅱ【7単位】	地域理学療法実習【1単位】	計21週間945時間	
	日数	1週間45時間	1週間45時間	4週間180時間	7週間315時間	7週間315時間	1週間45時間	医療提供施設	病院または診療所
グループ①	実習施設	大阪急性期・総合医療センター	愛仁会リハビリテーション病院	あびこ病院	大阪急性期・総合医療センター	ポパース記念病院	大阪回生病院	21週間945時間	20週間900時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ②	実習施設	南大阪病院	大阪暁明館病院	喜馬病院	東大阪病院	大阪警察病院	大阪回生病院	21週間945時間	20週間900時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ③	実習施設	大阪回生病院	大阪母子医療センター	緑風会病院	南大阪病院	友愛会病院	大阪回生病院	21週間945時間	20週間900時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ④	実習施設	大阪国際がんセンター	北野病院	南大阪病院	厚生会第一病院	西中病院	大阪晴愛病院	21週間945時間	20週間900時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ⑤	実習施設	星ヶ丘医療センター	関西メディカル病院	大阪回生病院	星ヶ丘医療センター	八幡中央病院	大阪晴愛病院	21週間945時間	20週間900時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ⑥	実習施設	東大阪病院	東宝塚さとう病院	大阪国際がんセンター	阪奈中央病院	わかくさ竜間リハビリテーション病院	辻外科リハビリテーション病院	21週間945時間	20週間900時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ⑦	実習施設	千里中央病院	植木病院	大阪警察病院	近畿大学病院	あびこ病院	辻外科リハビリテーション病院	21週間945時間	20週間900時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ⑧	実習施設	辻外科リハビリテーション病院	辻外科リハビリテーション病院	交野病院	馬場記念病院	朋愛病院	辻外科リハビリテーション病院	21週間945時間	20週間900時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ⑨	実習施設	天仁病院	城山病院	おかたに病院	河西田村病院	阪和第二泉北病院	東大阪病院	21週間945時間	20週間900時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ⑩	実習施設	みどりの風クリニック	星ヶ丘医療センター	阪奈中央病院	朋愛病院	阪和第一泉北病院	東大阪病院	21週間945時間	20週間900時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ⑪	実習施設	介護老人保健施設 雅秀苑	おかたに病院	神戸リハビリテーション病院	阪和第二泉北病院	葛城病院	南堺病院	21週間945時間	19週間855時間
	実習区分	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		

1年次 臨床見学実習計画表 *2月1日～2月5日予定

グループ	担当 教員	2月			
		1	2	3	4
1G 8名	杉本 圭 講師	大阪急性期・総合医療センター			
2G 6名	前田 薫 准教授	南大阪病院			
3G 6名	澤田 優子 准教授	大阪回生病院			
4G 6名	三木屋 良輔 教授	大阪国際がんセンター			
5G 8名	堀 竜次 教授	星ヶ丘医療センター			
6G 6名	角田 晃啓 講師	東大阪病院			
7G 6名	木内 隆裕 准教授	千里中央病院			
8G 8名	工藤 慎太郎 教授	辻外科リハビリテーション病院			
9G 6名	河村 廣幸 教授	天仁病院			
10G 5名	中根 征也 教授	みどりの風クリニック			
11G 5名	仲本 正美 講師	介護老人保健施設 雅秀苑			

2年次 検査測定実習計画表 *8月1日~8月5日予定

学籍 番号	担当 教員	8月				
		1	2	3	4	5
1	木内 隆裕 准教授	愛仁会リハビリテーション病院				
2						
3						
4						
5						
6						
7	前田 薫 准教授	大阪回生病院				
8						
9		大阪暁明館病院				
10						
11	澤田 優子 准教授	大阪病院				
12						
13		大阪南医療センター				
14						
15	杉本 圭 講師	大阪母子医療センター				
16						
17						
18						
19	北野病院					
20						
21						
22						
23	東大阪病院					
24						
25						
26						
27	関西メディカル病院					
28						
29						
30						
31	千里中央病院					
32						
33						
34						
35	伊丹せいふう病院					
36						
37						
38						
39	東宝塚さとう病院					
40						
41						
42						
43	浅香山病院					
44						
45						
46						
47	辻外科リハビリテーション病院					
48						
49						
50						
51	白庭病院					
52						
53						
54						
55	奈良春日病院					
56						
57						
58						
59	耳原総合病院					
60						
61						
62						
63	城山病院					
64						
65						
66						
67	明生第二病院					
68						
69						
70						
71	星ヶ丘医療センター					
72						
73						
74						
75	おかたに病院					
76						
77						
78						
79	佐野記念病院					
80						
81						
82						
83	辻整形外科					
84						
85						
86						

3年次 臨床評価実習計画表 *11月1日～11月26日・12月1日～12月26日予定

学籍 番号	担当 教員	11月				12月				5
		1	2	3	4	1	2	3	4	
1	河村 廣幸 教授		あびこ病院							
2			浅香山病院							
3			厚生会第一病院							
4			友愛会病院							
5							あびこ病院			
6							浅香山病院			
7							厚生会第一病院			
8							友愛会病院			
9	工藤 慎太郎 教授		喜馬病院							
10			八尾はあとふる病院							
11			朋愛病院							
12							喜馬病院			
13						八尾はあとふる病院				
14						朋愛病院				
15	杉本 圭 講師		緑風会病院							
16										
17			南大阪病院							
18										
19							緑風会病院			
20										
21						南大阪病院				
22										
23	木内 隆裕 准教授		医誠会病院							
24			大阪回生病院							
25			大阪府済生会中津病院							
26							医誠会病院			
27						大阪回生病院				
28						大阪府済生会中津病院				
29	澤田 優子 准教授		千里リハビリテーション病院							
30			高槻赤十字病院							
31							千里リハビリテーション病院			
32						高槻赤十字病院				
33	角田 晃啓 講師		辻外科リハビリテーション病院							
34			帝塚山リハビリテーション病院							
35			大阪国際がんセンター							
36							辻外科リハビリテーション病院			
37						帝塚山リハビリテーション病院				
38						大阪国際がんセンター				
39	仲本 正美 講師		南大阪病院							
40			大阪警察病院							
41										
42							南大阪病院			
43										
44	堀 竜次 教授		星ヶ丘医療センター							
45			礮生会脳神経外科病院							
46			交野病院							
47							星ヶ丘医療センター			
48							京都武田病院			
49						八幡中央病院				
50	前田 薫 准教授		日野病院							
51			佐野記念病院							
52			おかたに病院							
53							おかたに病院			
54						中谷病院				
55						辻整形外科				
56	中根 征也 教授		東生駒病院							
57			阪奈中央病院							
58			わかくさ竜間リハビリテーション病院							
59							阪奈中央病院			
60							土庫病院			
61							山の辺病院			
62							奈良県総合医療センター			
63	三木屋 良輔 教授		明石仁十病院							
64			神戸リハビリテーション病院							
65			神戸市立西神戸医療センター							
66							甲南医療センター			
67							協立温泉病院			
68						西宮渡辺病院				
69										
70										

4年次 臨床総合実習計画表 * I期 6月1日~7月17日予定 II期 8月22日~10月7日予定

学籍 番号	担当 教員	5月					6月					7月					学籍 番号	担当 教員	8月					9月					10月												
		臨床総合実習 I					臨床総合実習 I					臨床総合実習 I							臨床総合実習 II					臨床総合実習 II					臨床総合実習 II												
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1			2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5							
1	仲本 正美 講師					大阪急性期・総合医療センター									1	河村 廣幸 教授					ポバース記念病院																				
2						大阪発達総合療育センター									2						住友病院																				
3						大阪警察病院									3						北野病院																				
4						多根脳神経リハビリテーション病院									4						東大阪病院																				
5						大阪国際がんセンター									5																										
6						大手前病院									6																										
7															7						大阪発達総合療育センター																				
8	河村 廣幸 教授					東大阪病院									8	杉本 圭 講師					大阪国際がんセンター																				
9															9						大阪警察病院																				
10						ポバース記念病院									10						大阪急性期・総合医療センター																				
11															11																										
12														12																											
13					南大阪病院									13	三木屋 良輔 教授					高槻赤十字病院																					
14														14										大阪大学医学部附属病院																	
15					緑風会病院									15						友愛会病院																					
16														16										大阪府済生会泉尾病院																	
17														17									南大阪病院																		
18	三木屋 良輔 教授					友愛会病院									18	三木屋 良輔 教授					多根脳神経リハビリテーション病院																				
19															19										友愛会病院																
20						大阪府済生会泉尾病院									20						西中病院																				
21															21										星ヶ丘医療センター																
22															22																										
23	堀 竜次 教授					星ヶ丘医療センター									23	堀 竜次 教授					愛泉会病院																				
24															24										藤本病院																
25						八幡中央病院									25						八幡中央病院																				
26															26										寝屋川生野病院																
27														27									堺市立総合医療センター																		
28					大阪大学医学部附属病院									28	前田 薫 准教授					高槻病院																					
29														29										堺市立総合医療センター																	
30	前田 薫 准教授					関西メディカル病院										30	前田 薫 准教授					高村病院																			
31																31										堺市立総合医療センター															
32															32										高村病院																
33						高槻赤十字病院									33						隣生会脳神経外科病院																				
34															34										千里リハビリテーション病院																
35	中根 征也 教授					阪奈中央病院									35	中根 征也 教授					わかくさ電間リハビリテーション病院																				
36															36										白庭病院																
37						京都山城総合医療センター									37						奈良県総合医療センター																				
38															38										東生駒病院																
39															39										土庫病院																
40						白庭病院									40						正愛病院																				
41														41									あびこ病院																		
42	工藤 慎太郎 教授					阪和第一泉北病院									42	工藤 慎太郎 教授					浅香山病院																				
43															43																										
44															44																										
45	木内 隆裕 准教授					葛城病院									45	松尾 浩希 助教					朋愛病院																				
46															46																										
47						馬場記念病院									47		澤田 優子 准教授					阪和第二泉北病院																			
48															48																										
49														49																											
50					南堺病院									50																											
51														51																											
52	角田 晃啓 講師					おかたに病院									52	角田 晃啓 講師					馬場記念病院																				
53															53																										
54						和歌山県立医科大学附属病院									54																										
55															55																										
56															56																										
57	杉本 圭 講師					あびこ病院									57	工藤 慎太郎 教授					南堺病院																				
58															58																										
59						浅香山病院									59						近畿大学病院																				
60															60																										
61					朋愛病院									61	角田 晃啓 講師					阪和第一泉北病院																					
62														62																											
63														63																											
64	澤田 優子 准教授					和歌山県立医科大学附属病院										64	木内 隆裕 准教授					大阪晴愛病院																			
65															65																										
66						中谷病院									66						河西田村病院																				
67															67																										
68															68																										
69						葛城病院									69						佐野記念病院																				
70															70																										
70					わかくさ電間リハビリテーション病院									70					わかくさ電間リハビリテーション病院																						
70														70																											

4年次 地域理学療法実習計画表 *4月8日~4月26日予定

学籍 番号	担当 教員	4月			
		1	2	3	4
1	堀 竜次 教授		大阪回生病院		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8				大阪回生病院	
9					
10					
11					
12					
13					
14					大阪回生病院
15					
16					
17					
18	木内 隆裕 准教授		大阪晴愛病院		
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25				大阪晴愛病院	
26					
27					
28					
29					
30					大阪晴愛病院
31					
32					
33					
34	工藤 慎太郎 教授		辻外科リハビリテーション病院		
35					
36					
37					
38					
39					
40					
41				辻外科リハビリテーション病院	
42					
43					
44					
45					
46					辻外科リハビリテーション病院
47					
48					
49					
50	仲本 正美 講師		東大阪病院		
51					
52					
53					
54					
55					
56					
57				東大阪病院	
58					
59					
60					
61					
62					東大阪病院
63					
64					
65					
66	澤田 優子 准教授		南堺病院		
67					
68				南堺病院	
69					
70					

臨床実習の課題について

1. 各実習課題の書式

① 実習前レポート

実習の目標を記載する。実習前に必ず施設担当教員の添削を受けること。

【書式】

- ・ 縦A4のマス目付き原稿用紙（20字×20行）（右図参照）
- ・ 横書き
- ・ 2ページ程度（ただし表紙は枚数に数えない）

② 実習後レポート

実習の感想（成果や今後の課題）を記載する。

【書式】

- ・ 縦A4のマス目付き原稿用紙（20字×20行）（右図参照）
- ・ 横書き
- ・ 4ページ程度（ただし表紙は枚数に数えない）

③ デイリーノート

実習実施日毎の学習・経験内容の要約や自己学習内容を記載する。

実習指導者から添削をいただいた際には、翌日に必ずそれに対する回答を追記する。

【書式】

- ・ 縦A4
- ・ 横書き
- ・ 次頁の記載例を参考にする（施設に規定の書式がある場合にはそれに従う）

④ 症例レポート

症例レポートの執筆要綱を参照のうえ、担当した一症例のレポートを作成する。

【書式】

- ・ 縦A4
- ・ 横書き
- ・ 余白 : 上下左右 25 mm
- ・ 一行の文字数×行数 : 40字×30行
- ・ フォント : 游明朝 11 pt
- ・ ページ番号 : 下部
- ・ 15ページを目安とする（表紙や検査チャートなどを除く）

⑤ 症例検討用資料

症例レポートの要約を作成する。

【書式】

- ・ A4用紙（横書き）
- ・ 2枚（配布資料としてはA3サイズで印刷）
- ・ 1枚目の左上に学籍番号と氏名を記載
- ・ その他の指定はなし



2. 実習中の課題提出時の注意事項

- 1) 全ての実習課題は自主的に実習指導者へ提出する。
- 2) レポート課題には本学指定の表紙を付け、左上をホチキス止めして提出する。
- 3) デイリーノートや自己学習は必ずファイルに閉じて提出する。
- 4) 提出用ファイルの表紙と背表紙にはタイトルと氏名を記載する（右上図）。
- 5) 誤字、脱字には細心の注意を払う。
- 6) 可能な限り専門用語を使用し、簡潔明瞭に記載する。
- 7) 実習指導者と約束をした期限がある場合には必ず厳守する。

3. デイリーノートの記載例

パターン 1		コメント欄
○月○日	<p>9:00～10:00</p> <p>見学症例 1（腰椎圧迫骨折）</p> <p>取得した情報や評価・治療内容</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>指導内容</p> <p>① 多発性骨髄腫による病的骨折である。</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>〈自己学習のテーマ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見学症例 2（腰椎圧迫骨折）の原因疾患である多発性骨髄腫の病態について ・ 多発性骨髄腫に対する理学療法について 	
○月○日	<p>※SOAP の記載は臨床評価実習以降可能</p> <p>S（Subjective. 主観的所見）</p> <p>患者が直接提供する主観的な情報を記載する。</p> <p>O（Objective. 客観的所見）</p> <p>患者に関する客観的な情報を記載する。</p> <p>A（Assessment. 判定）</p> <p>収集した情報をもとに解釈する。</p> <p>P（Plan. 計画）</p> <p>解釈に基づいて患者への診断や治療方針および患者教育などを計画する。</p> <p>治療内容を記載する。</p>	

添付資料 I

4. 自己学習の記載例

多発性骨髄腫

多発性骨髄腫とは・・・

.....である¹⁾.....
に多く見られる。.....。

症状

- ①.....
- ②.....
- ③.....
- ④.....

理学療法

.....
.....²⁾。

参考文献

- 1) 森ノ宮花子：骨髄—その機能と臨床—（第3版）．医療書院，2001，pp.156-168.
- 2) 森ノ宮太郎，他：多発性骨髄腫に対する理学療法の効果と限界．日本理学療法学会雑誌．2014；XX：XX-XX.

● これらの情報と見学症例2の相違点、およびそれに対する考察

.....
.....。

症例レポートの執筆要綱

1. 目的

- ① 学生自身が自らの経験を整理し、理解を深めるため
- ② 実習指導者および本学の教員がレポートを通して教育的指導を行うため

2. 記述上のルール

- ・ 客観的データと主観（自身の考え）を明確に区別し、「統合と解釈」と「考察」のセクション以外には主観を入れない
- ・ 改行後は1マス字下げをする
- ・ 略語を使用する場合には、最初に何の略語かを明記する
例) ～については徒手筋力検査（以下、MMTと略す）を使用する。
- ・ 英単語はアルファベット表記とする
- ・ 図を添付する場合は、必ず説明を記載する
- ・ 謝辞以外は、敬語を使用しない

3. 作成過程の注意点

- ・ 提出毎に表紙の提出日を更新する。
- ・ 前回提出時から修正および追加した箇所を赤字にする。
※ 修正前のレポートも必要に応じて提示できるようにしておく
- ・ 課題として提出する症例レポートでは、赤字をすべて黒字とする。

4. 症例レポートの項目

臨床評価実習

はじめに
I. 症例紹介
II. 評価
III. 統合と解釈
IV. 問題点の抽出
V. 目標設定
VI. 治療プログラム
VII. 謝辞
参考文献
付録（検査チャートなど）

臨床総合実習

はじめに
I. 症例紹介
II. 初期評価
III. 問題点の抽出
IV. 目標設定
V. 治療プログラム
VI. 経過
VII. 最終評価
VIII. 考察
IX. 謝辞
参考文献
付録（検査チャートなど）

※臨床総合実習で初期評価レポートを求められた場合には、こちらに準じて作成すること

添付資料 II

5. 各項目の詳細

はじめに

レポートの内容の要約（考察で主に述べたいこと）

例）症例の特徴、本症例を選択した理由、治療にあたって特に重視した点

I 症例紹介

基礎情報

※ 氏名は記載しない（頭文字や記号も不可）

- ・ 年齢・性別・身長・体重・BMI
- ・ 診断名あるいは主病名・発症年月日
- ・ 障害名：リハビリテーションに関与するもの
- ・ 合併症：主病に関連して発症する疾患
- ・ 併存症：主病と関連しない疾患
- ・ 主たる入院目的
- ・ 社会歴：現在の職業など
- ・ 家族構成
- ・ 主訴：患者が訴える症状のうち、主要なもの
- ・ ホープ（ダイヤモンド）：患者、若しくはその家族が求める到達点
- ・ ニーズ：専門的見地から判断される到達点

病歴

- ・ 現病歴：カルテに記載されている現病歴に、学生が担当するまでの経過を加えて記載する
- ・ 既往歴：既に治癒あるいは、治療終了した疾患（診断日を記載）

カルテおよび他部門よりの情報（情報の出典を明記する）

- ・ 画像所見
- ・ 手術記録
- ・ 検査値：理学療法を行う上で影響が考えられるもの
- ・ 投薬：理学療法を行う上で影響が考えられるもの（注意すべき副作用など）
- ・ PT・OT・ST、医師、看護師、家族など

II 初期評価（要日付）

全体像：

大まかな移動能力やコミュニケーション能力、精神状態などを記載する

全身状態：

理学療法を行う上で考慮すべき合併症や併存症などの状態を、具体的な検査値を提示しながら記述する

検査・測定：

必要なものを本文中に簡潔に記載し、チャートも積極的に使用する

※ チャートは、実習指導者の許可があれば、その施設で利用しているものを使用してもよい
項目は分野別（運動器、反射、感覚など）に記載する

姿勢・動作の観察（ADL含む）：

観察した現象のみを運動学的かつ運動力学的に、簡潔に記述する

III 統合と解釈（※臨床総合実習の症例レポートでは記載しない）

- ・ 評価項目ごとに意味づけされた情報を集約し、それらの互いの関係を分析する（因果関係、対立関係、相互関係など）
- ・ 症例の病態に対して影響力の強い問題要素を論理的に抽出する
- ・ 自分の考えに客観性をもたせるため、適宜、参考文献などを引用する
- ・ 文字数を多くすることを目標とせず、他者に自分の考えを理解してもらうことを目標として、簡潔に述べる
- ・ 読者が同様の患者を担当した際に必要となる情報かどうかを考えて書く

IV 問題点の抽出

- ・ 初期評価によって抽出した問題点を要約する
- ・ 障害分類の記述に関しては、ICFおよびICIDHのうち、その実習施設で利用している方の分類に従う

V 目標設定

- 短期目標：長期目標の達成に向け、おおむね2週後に到達する内容を記載する
- 長期目標：実習終了あるいは退院時までには到達する内容を記載する
- ※ 短期目標、長期目標ともに到達予想時期を具体的に明記する
- ※ ホープとニーズの兼ね合いを十分に考慮した上で設定する

VI 治療プログラム

方法と目的を具体的に記載する

VII 経過

- ・ 日付（急性期においては発症あるいは術後日数も併記）の後に、プログラムの変更を含む理学療法
の経過や、担当症例の変化の過程を記載する
- ・ 継続的に具体的な数値を記録している場合には、積極的に図表を利用する

VIII 最終評価（要日付）

初期評価との相違点を対比的に、かつ簡潔に記載する

IX 考察（※臨床評価実習の症例レポートでは記載しない）

- ・ 初期評価の結果からどのような論理（統合と解釈）で問題点を抽出したか、その問題点に対してど
のような論理で介入方法を選択したか、その介入によって得られた効果をどう分析するか、生活機
能の予後をどう予測するかについて述べる
- ・ 自分の考えに客観性をもたせるため、適宜、参考文献などを引用する
- ・ 文字数を多くすることを目標とせず、他者に自分の考えを理解してもらおうことを目標として、簡潔
に述べる
- ・ 読者が同様の患者を担当した場合に必要な情報かどうかを考えて書く

謝辞

指導者・患者などお世話になった人や施設を対象に、敬語を用いて記載する

参考文献

- ・ 作成者の実名や所属、および作成日や更新日が明記されていないウェブサイトや文書は、参考文献
として用いてはならない
- ・ 引用順に並べる
- ・ 雑誌の場合は、著者氏名、論文題目、雑誌名、西暦年号、巻、頁（最初～最終）の順に書く
- ・ 単行本の場合は、著者氏名、書名、編集者名、発行所名、発行地（海外の場合）、西暦年号、頁を
記載する
- ・ 文献名の省略は米国国立医学図書館の方法に従うこと
- ・ 引用文献の著者氏名が2名以上の場合は最初の1名を記載する
この記載方法の場合、文章中には（筆頭著者、西暦年号）の形式で記載する

[例] 厚生労働省ホームページ 障害者白書平成23年度版. <http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h23hakusho/zenbun/index.html> (2011.12.19 引用)

名郷直樹：EBMの現状と課題，エビデンスに基づく理学療法活用と臨床思考過程の実際．内山
靖（編），医歯薬出版，2008，pp. 18-38.

信原克哉：肩—その機能と臨床—（第3版）．医学書院，2001，pp. 156-168.

宮本謙三 他：加齢による敏捷性機能の変化過程— Ten Step Test を用いて—．理学療法学，
2008；35：35-41.

Kocher MS：Evaluation of the medical literature. Chap 4. In：Morrissy RT and Weinstein SL
(eds)：Lovell and Winter's Pediatric Orthopaedics. 6th ed, Lippincott Williams & Wilkins,
Philadelphia, 2006, pp. 97-112.

Tompkins J et al.：Changes in functional walking distance and health-related quality of life after
gastric bypass surgery. Phys Ther. 2008；88：928-935.

付録（検査チャート・ホームエクササイズなどの指導用紙）

巻末に綴じておくこと

実習施設総括表

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
1	介護老人保健施設 おひさま園	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
2	大手前病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
3	石井記念愛染園附属 愛染橋病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
4	介護老人保健施設 桑の実	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
5	介護老人保健施設 たちばな	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
6	あびこ病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
7	介護老人保健施設 つるまち	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
8	友愛会病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
9	社会医療法人 三宝会 南港病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
10	うえだ下田部病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
11	松下介護老人保健施設 はーとびあ	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
12	鶴見緑地病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
13	医療法人 清翠会 牧リハビリテーション病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
14	社会医療法人 信愛会 暁生会脳神経外科病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
15	医療法人 はあとふる 八尾はあとふる病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
16	浅香山病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
17	植木病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
18	田中病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
19	社会医療法人 頌徳会 日野病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
20	辻本病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
21	藤井病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
22	吉川病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
23	介護老人保健施設 華	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
24	河西田村病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
25	橋本市民病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
26	医療法人社団 阿星会 甲西リハビリ病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
27	大阪府済生会中津病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
28	公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
29	育和会記念病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
30	大阪府済生会泉尾病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
31	独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO） 大阪病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
32	社会医療法人 景岳会 南大阪病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
33	医療法人 慈心会 咲洲病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
34	医療法人社団 和風会 千里リハビリテーション病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
35	医療法人 協和会 協和会病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
36	医療法人 協和会 介護老人保健施設 ウエルハウス協和	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
37	大阪府済生会千里病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
38	国立循環器病研究センター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
39	社会医療法人 信愛会 交野病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
40	独立行政法人 国立病院機構 大阪南医療センター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
41	医療法人 恒昭会 青葉丘病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
42	社会医療法人 さくら会 さくら会病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
43	学校法人 近畿大学 近畿大学病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
44	野上病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
45	高井病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
46	中谷病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
47	一般財団法人 神戸在宅医療・介護推進財団 神戸リハビリテーション病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
48	地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立西神戸医療センター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
49	医療法人 協和会 協和マリナホスピタル	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
50	医療法人 愛心会 東宝塚さとう病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
51	医療法人 錦秀会 阪和第一泉北病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
52	医療法人 錦秀会 阪和第二泉北病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
53	医療法人社団 松下会 東生駒病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
54	社会福祉法人 帝塚山福祉会 介護老人保健施設 雅秀苑	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
55	社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 大阪府 済生会 大阪整肢学院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
56	医療法人 愛泉会 愛泉会病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
57	和歌山県立医科大学附属病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
58	医療法人 尚信会 整形外科河村医院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
59	奈良春日病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
60	社会福祉法人 遺徳会 介護老人保健施設 サンシャイン高石	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
61	帝塚山病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
62	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
63	地方独立行政法人 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
64	医療法人 歓喜会 辻外科リハビリテーション病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
65	医療法人 博愛会 松倉病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
66	医療法人 晋真会 ベリタス病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
67	社会医療法人 愛仁会 高槻病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
68	社会医療法人 三和会 永山病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
69	耳原総合病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
70	社会医療法人 山弘会 上山病院 訪問看護ステーション	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
71	関西電力病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
72	医療法人 郁慈会 服部記念病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
73	独立行政法人 地域医療機能推進機構（ＪＣ ＨＯ） 大阪みなと中央病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
74	ベルランド総合病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
75	大阪リハビリテーション病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
76	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
77	多根脳神経リハビリテーション病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
78	地方独立行政法人 奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
79	辻整形外科	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
80	介護老人保健施設 サンガーデン府中	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
81	摂津医誠会病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
82	佐野記念病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
83	朋愛病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
84	社会医療法人 緑風会 緑風会病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
85	医療法人 はあとふる 運動器ケアしまだ病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
86	協立温泉病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
87	特定医療法人 健和会 介護老人保健施設 ふれあい	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
88	公益財団法人 甲南会 甲南医療センター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
89	社会医療法人 有隣会 東大阪病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
90	香里ヶ丘有恵会病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
91	医療法人 功德会 大阪晴愛病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
92	社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
93	土庫病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
94	千里中央病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
95	介護老人保健施設 あじさいガーデン伏見	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
96	八尾市立医療型児童発達支援センターいちよう	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
97	高村病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
98	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
99	医療法人 清翠会 牧病院デイケアセンター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
100	白庭病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
101	阪和第二住吉病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
102	西中病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
103	西中介護老人保健施設 ヴィーブルジョワ	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
104	医誠会病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
105	介護老人保健施設 やまのバグリーンヒルズ	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
106	山の辺病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
107	南堺病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
108	ベルピアノ病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
109	介護老人保健施設 ベルアルト	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
110	介護老人保健施設 ベルアモール	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
111	馬場記念病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
112	前田クリニック	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
113	多根総合病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
114	帝塚山リハビリテーション病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
115	アクティブ訪問看護ステーション大阪	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
116	大阪大学医学部附属病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
117	彩都リハビリテーション病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
118	東大阪生協病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
119	わかくさ竜間リハビリテーション病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
120	医療法人 大植会 葛城病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
121	独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO） 星ヶ丘医療センター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
122	株式会社 互恵会 大阪回生病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
123	医療法人 警和会 大阪警察病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
124	医療法人 成和会 北大阪ほうせんか病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
125	社会医療法人 弘道会 守口生野記念病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
126	ボバース記念病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
127	医療法人 晴風園 伊丹せいふう病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
128	森ノ宮医療学園附属 みどりの風クリニック	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
129	医療法人 雄徳会 たつみクリニック	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
130	医療法人社団 創生会 カネディアンヒル 介護老人保健施設	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
131	医療法人 厚生医学会 厚生会第一病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
132	医療法人社団 創生会 介護老人保健施設 ロココリハ	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
133	大阪発達総合療育センター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
134	社会福祉法人 帝塚山福祉会 介護老人保健施設 聖和苑	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
135	社会福祉法人 帝塚山福祉会 特別養護老人ホーム 玲風苑	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
136	医療法人社団 医聖会 八幡中央病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
137	株式会社 ワイズライン やわらりハビリ訪問看護ステーション	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
138	医療法人 和幸会 阪奈中央病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
139	医療法人財団 医道会 十条武田リハビリテーション病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
140	社会医療法人 弘道会 寝屋川生野病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
141	医療法人社団 恵心会 京都武田病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
142	医療法人 寿山会 喜馬病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
143	一般財団法人 住友病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
144	医療法人 優仁会 かとう整形在宅クリニック	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
145	日本医療機能評価機構認定病院 京都山城総合医療センター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
146	介護老人保健施設 五十忠	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
147	社会医療法人 愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
148	医療法人 恒昭会 藍野病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
149	特定医療法人 公仁会 明石仁十病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
150	社会医療法人 医真会 介護老人保健施設 あおぞら	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
151	社会福祉法人 甲有会 介護老人保健施設 アネシス御影	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
152	医療法人社団 千春会 介護老人保健施設 春風	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
153	医療法人 桜医会 さくらクリニック	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
154	医療法人 春秋会 城山病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
155	医療法人社団 千春会 千春会病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
156	社会医療法人 純幸会 関西メディカル病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
157	医療法人 一祐会 藤本病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
158	社会医療法人 ペガサス ペガサスリハビリテーション病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
159	社会医療法人 山弘会 上山病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
160	医療法人 清仁会 水無瀬病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
161	社会医療法人 協和会 加納総合病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
162	社会医療法人 美杉会 男山病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
163	医療法人 大寿会 大寿会病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
164	社会医療法人 祐生会 みどりヶ丘病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
165	医療法人 博悠会 名取病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
166	医療法人社団 岡田会 介護老人保健施設 まきむく草庵	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
167	医療法人 薫風会 西川クリニック	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
168	一般財団法人 京都地域医療学際研究所 がくさい病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
169	おかたに病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
170	地方独立行政法人 加古川市民病院機構 加古川中央市民病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
171	医療法人社団 医聖会 学研都市病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
172	明生第二病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
173	日本赤十字社 高槻赤十字病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
174	パナソニック健康保険組合 松下記念病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
175	社会福祉法人 三篠会 堺市立重症心身障害者(児)支援センターベル デさかい	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
176	医療法人 徳洲会 宇治徳洲会病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
177	東和病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
178	株式会社MON ぼると訪問看護ステーション	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
179	医療法人社団 千春会 介護老人保健施設 桃山	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
180	医療法人 村上整形外科	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
181	社会医療法人 協和会 淀川介護老人保健施設 ハートフル	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
182	社会医療法人 栄公会 介護老人保健施設 栄公苑	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
183	医療法人 正和会 新協和病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
184	医療法人 燦恵会 首藤病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
185	平成記念病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
186	社会福祉法人 博光福祉会 介護老人保健施設 寿里苑フェリス	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
187	医療法人 弘正会 西京都病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
188	日本赤十字社 京都第二赤十字病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
189	医療法人 孟仁会 東大阪山路病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
190	医療法人 河北会 河北病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
191	医療法人 仁誠会 箕面正井病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
192	社会医療法人 盛和会 本田病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
193	社会福祉法人 恩賜財団 済生会奈良病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
194	医療法人 孟仁会 介護老人保健施設 南荘の郷	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
195	正愛病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
196	医療法人 弘善会 矢木脳神経外科病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
197	社会医療法人 渡邊高記念会 西宮渡辺病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
198	社会医療法人 渡邊高記念会 西宮渡辺心臓脳・血管センター	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
199	社会医療法人 医真会 医真会八尾総合病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
200	上田整形外科	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
201	医療法人 嘉誠会 ヴァンサンクポルテ	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
202	公益財団法人 淀川勤労者厚生協会 附属 西淀病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備 考
203	社会福祉法人 慶生会 慶生会 訪問看護ステーション 大今里サテライト	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
204	医療法人 桜桃会 たくみ整形外科	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習 地域理学療法実習	
205	ヘルスケアリンク株式会社 草尾リハビリ訪問看護ステーション	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
206	医療法人 弘善会 介護老人保健施設 アロンティアクラブ	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
207	医療法人社団 彦星会 岩橋クリニック	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
208	医療法人 愛幸会 天仁病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	

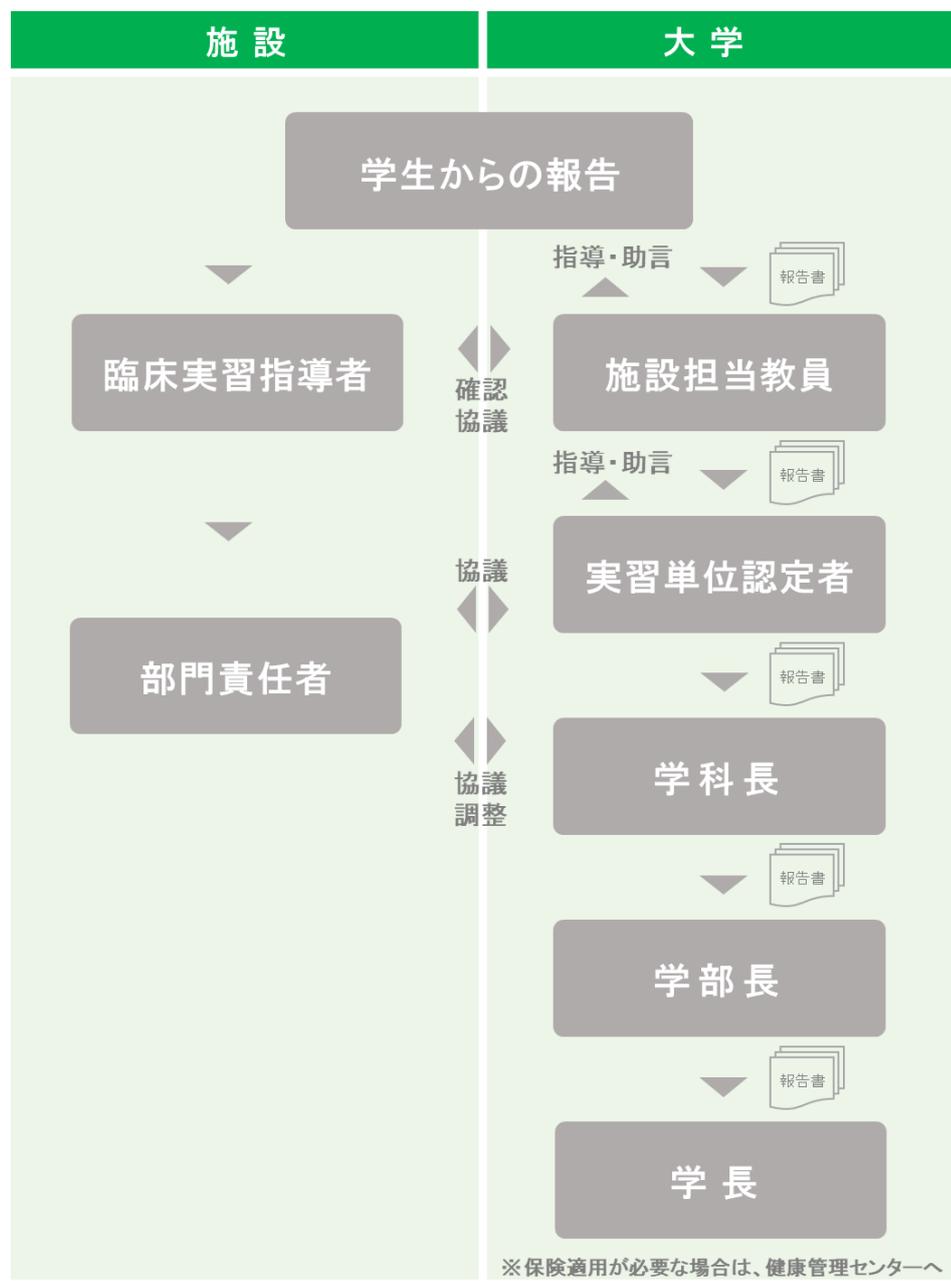
	実習施設名	当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
209	公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
210	社会福祉法人 カナン 訪問看護ステーション カナン	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
211	六甲アイランド甲南病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
212	社会福祉法人 協同福祉会 特別養護老人ホーム あすなら苑	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
213	社会福祉法人 協同福祉会 あすならホーム 富雄	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
214	医療法人 康仁会 西の京病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
215	医療法人 警和会 第二大阪警察病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
216	医療法人 桜希会 東朋八尾病院	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
217	医療法人 桜希会 介護老人保健施設 東雄苑	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
218	医療法人 桜希会 介護老人保健施設 東雄苑都島	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
219	医療法人 桜希会 介護老人保健施設 東雄苑豊南	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
220	うめだ整形外科	臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ 臨床総合実習	
	合計実習施設数 (220) 施設		

6) 報告書について

「インシデント・事故（アクシデント）発生報告書」および「感染症の発生（または疑い）に関する報告書」は、レベルに関わらず施設担当教員・単位認定者・学科長・学部長を経て学長へ提出する。なお、「感染症感染症の発生（または疑い）に関する報告書」は、健康管理センター長を経由する。

7) 注意事項

関係者のプライバシーおよび人権を尊重し、知りえた秘密を他者に漏らさないようにする。



図：インシデント・事故(アクシデント)発生時における対応

様式 10

年 月 日

森ノ宮医療大学
学長 様

インシデント・事故（アクシデント）発生報告書

学 科	学科	学年	年	氏 名	
科 目 名					
発生日時	年 月 日 ()				時 分頃
施 設 名				臨床実習 指導者	
学生記入欄	事故の状況				
施設担当者記入欄	事故への対応				
学科長記入欄	今後の対策等				
	学 長	学部長	学科長	単位認定者	施設担当教員
		事務局長	学生支援室長	教務室長	総務室長

*事務局閲覧後、学科にて保管

年 月 日

森ノ宮医療大学
学長 様

感染症の発生（または疑い）に関する報告書

学 科	学 科	学 年	年	氏 名	
実習期間	年 月 日 () ~ 年 月 日 ()				
施 設 名				臨床実習 指導者	
発生日時	年 月 日 () 時 分頃				
発生時の状況 ／経過	症 状：体温 (°C) ・ 発疹 ・ 下痢 ・ 嘔吐 ・ 咳				
他者との接触 状況					
疑われる病名 ／ 関連する予防 接種歴・抗体価					
受診状況	日 時	年 月 日 ()			時
	医療機関名				
	診断結果				
備 考					
学 長	学部長	学科長	単位認定者	健康管理センター長	施設担当教員
		事務局長	学生支援室長	教務室長	総務室長

* 事務局閲覧後、学科にて保管

1年次 臨床見学実習 評価票

実習態度	患者様やスタッフに対する礼儀が適切である	A	B	C	D	E	F
	服装・身だしなみが適切である	A	B	C	D	E	F
	周囲の状況に対応できる	A	B	C	D	E	F
	指導に対する対応が適切である	A	B	C	D	E	F
	提出物の期限が守られている	A	B	C	D	E	F
	コメント						

報告・記録	専門用語など適切な記録ができる	A	B	C	D	E	F
	求められている内容が記載できている	A	B	C	D	E	F
	口頭報告の時期・態度が適切である	A	B	C	D	E	F
	提出期限を守ることができる	A	B	C	D	E	F
	思考プロセスが理解できる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

接遇	言葉遣いが適切である	A	B	C	D	E	F
	表情が適切である	A	B	C	D	E	F
	挨拶ができる	A	B	C	D	E	F
	態度が適切である	A	B	C	D	E	F
	コメント						

経験項目	項目	内容
	<input type="checkbox"/> 医療面接	
	<input type="checkbox"/> バイタルサイン	例：血圧、脈拍
	<input type="checkbox"/> 形態測定	
	<input type="checkbox"/> 関節可動域測定	
	<input type="checkbox"/> 観察による情報収集	例：姿勢・動作、FIM
	<input type="checkbox"/> その他	
※経験した項目にチェックを入れ、右欄に詳細な内容をご記入ください。 コメント		

様式 2 - 2

2年次 検査測定実習 評価票

実習態度	対象者やスタッフに対する礼儀が適切である	A	B	C	D	E	F
	服装・身だしなみが適切である	A	B	C	D	E	F
	周囲の状況に対応できる	A	B	C	D	E	F
	指導に対する対応が適切である	A	B	C	D	E	F
	コメント						

報告・記録	専門用語など適切な記録ができる	A	B	C	D	E	F
	求められている内容が記載できている	A	B	C	D	E	F
	口頭報告の時期・態度が適切である	A	B	C	D	E	F
	提出期限を守ることができる	A	B	C	D	E	F
	思考プロセスが理解できる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

検査・測定	検査のために必要な説明ができ、理解と協力を得ることができる	A	B	C	D	E	F
	検査測定項目の作業手順を考慮できる	A	B	C	D	E	F
	安全に配慮して検査測定を実施できる	A	B	C	D	E	F
	対象者の負担を考慮し迅速に検査測定を実施できる	A	B	C	D	E	F
	測定結果に妥当性・正確性がある	A	B	C	D	E	F
	コメント						

経験項目	項目	内容
	<input type="checkbox"/> バイタルサイン	例：血圧、脈拍
	<input type="checkbox"/> 形態測定	
	<input type="checkbox"/> 関節可動域測定	
	<input type="checkbox"/> 徒手筋力検査	
	<input type="checkbox"/> 感覚検査	
	<input type="checkbox"/> 反射検査	
	<input type="checkbox"/> 観察による情報収集	例：姿勢・動作、FIM
	<input type="checkbox"/> その他	
※経験した項目にチェックを入れ、右欄に詳細な内容をご記入ください。		
コメント		

経験する機会がありましたら以下の項目も評価をお願いいたします。

問題点の抽出	動作観察より心身機能・身体構造の問題を想起することができる	A	B	C	D	E	F
	心身機能・身体構造の問題を確認するための検査測定項目を抽出できる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

3 年次 臨床評価実習 評価票 (1/2)

実習態度	患者様やスタッフに対する礼儀が適切である	A	B	C	D	E	F
	服装・身だしなみが適切である	A	B	C	D	E	F
	周囲の状況に対応できる	A	B	C	D	E	F
	指導に対する対応が適切である	A	B	C	D	E	F
	コメント						

報告・記録	専門用語など適切な記録ができる	A	B	C	D	E	F
	求められている内容が記載できている	A	B	C	D	E	F
	口頭報告の時期・態度が適切である	A	B	C	D	E	F
	提出期限を守ることができる	A	B	C	D	E	F
	思考プロセスが理解できる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

検査・測定	必要な検査測定項目を選択できる	A	B	C	D	E	F
	検査測定項目の意義・目的が説明できる	A	B	C	D	E	F
	検査測定項目の順位付けができる	A	B	C	D	E	F
	検査測定項目の作業手順を考慮できる	A	B	C	D	E	F
	検査測定項目の結果が信頼できる	A	B	C	D	E	F
	検査測定項目の結果の考察ができる	A	B	C	D	E	F
	結果から起こる動作障害を予測できる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

検査・測定 の実施	血圧測定・関節可動域測定など実施項目を記入						
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
	コメント						

様式 2 - 4

3年次 臨床評価実習 評価票 (2/2)

動作観察	どの動作の観察が必要か説明できる	A	B	C	D	E	F
	観察項目の表現が明確・適切である	A	B	C	D	E	F
	内容を解析し、説明できる	A	B	C	D	E	F
	結果から機能障害を予測できる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

動作観察 の実施	歩行観察など経験した項目を記入						
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
コメント							

評価発表	得られた情報を統合し解釈できる	A	B	C	D	E	F
	統合・解釈した内容を適切に表現できる	A	B	C	D	E	F
	問題点を抽出できる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

治療計画	短期・長期目標の意義・目的が説明できる	A	B	C	D	E	F
	短期・長期目標の時期が適切である	A	B	C	D	E	F
	目標に対する治療手段の選択ができる	A	B	C	D	E	F
	選択された治療の順位付けが適切である	A	B	C	D	E	F
	コメント						

義肢・装具 杖等含む	義肢・杖のチェックアウトなど経験項目を記入						
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
	コメント						

4 年次 臨床総合実習 I・II 評価票 (1/3)

実習態度	患者様やスタッフに対する礼儀が適切である	A	B	C	D	E	F
	服装・身だしなみが適切である	A	B	C	D	E	F
	周囲の状況に対応できる	A	B	C	D	E	F
	指導に対する対応が適切である	A	B	C	D	E	F
	コメント						

報告・記録	専門用語など適切な記録ができる	A	B	C	D	E	F
	求められている内容が記載できている	A	B	C	D	E	F
	口頭報告の時期・態度が適切である	A	B	C	D	E	F
	提出期限を守ることができる	A	B	C	D	E	F
	思考プロセスが理解できる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

検査・測定	必要な検査測定項目を選択できる	A	B	C	D	E	F
	検査測定項目の意義・目的が説明できる	A	B	C	D	E	F
	検査測定項目の順位付けができる	A	B	C	D	E	F
	検査測定項目の作業手順を考慮できる	A	B	C	D	E	F
	検査測定項目の結果が信頼できる	A	B	C	D	E	F
	検査測定項目の結果の考察ができる	A	B	C	D	E	F
	結果から起こる動作障害を予測できる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

検査・測定 の実施	血圧測定・関節可動域測定など実施項目を記入						
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
	コメント						

様式 2 - 4

4 年次 臨床総合実習 I・II 評価票 (2/3)

動作観察	どの動作の観察が必要か説明できる	A	B	C	D	E	F
	観察項目の表現が明確・適切である	A	B	C	D	E	F
	内容を解析し、説明できる	A	B	C	D	E	F
	結果から機能障害を予測できる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

動作観察 の実施	歩行観察など経験した項目を記入						
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
コメント							

評価発表	得られた情報を統合し解釈できる	A	B	C	D	E	F
	統合・解釈した内容を適切に表現できる	A	B	C	D	E	F
	問題点を抽出できる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

治療計画	短期・長期目標の意義・目的が説明できる	A	B	C	D	E	F
	短期・長期目標の時期が適切である	A	B	C	D	E	F
	目標に対する治療手段の選択ができる	A	B	C	D	E	F
	選択された治療の順位付けが適切である	A	B	C	D	E	F
	コメント						

治療実施	適切な指示指導が出来る	A	B	C	D	E	F
	安全性への配慮が出来る	A	B	C	D	E	F
	治療効果を判定できる	A	B	C	D	E	F
	経過に応じて対応できる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

4年次 臨床総合実習 I・II 評価票 (3/3)

物理療法	温熱療法など実施経験項目を記入						
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
	コメント						

運動療法	関節可動域訓練など経験した項目を記入						
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
	コメント						

動作訓練	起居動作・歩行など実施経験項目を記入						
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
	コメント						

セルフケア 福祉用具の 活用など	起居動作・歩行など実施経験項目を記入						
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
	コメント						

義肢・装具 杖等含む	義肢・杖のチェックアウトなど経験項目を記入						
		A	B	C	D	E	F
		A	B	C	D	E	F
	コメント						

最終評価発 表	得られた情報を経過を通して統合し解釈できる	A	B	C	D	E	F
	統合解釈した内容から次の問題点を抽出できる	A	B	C	D	E	F
	予後予測ができる	A	B	C	D	E	F
	コメント						

様式 2 - 4

4年次 臨床総合実習 I・II 評価票

※この項目はすべての臨床実習の評価票にあります

実習成果

今後の課題

実習施設概要、承諾書

(実習先については資料 7 - 1 2 の実習施設総括表を参照)

【資料 7-3】 各実習の概要及び週間計画

⑨-2 各実習の概要及び週間計画

1. 臨地見学実習

配当年次	1 年次	
実習場所	北野病院 星ヶ丘医療センター 南大阪病院 堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかい 堺市立総合医療センター 介護老人保健施設 ベルアルト 阪和第一泉北病院 永山病院	大阪刀根山医療センター 愛仁会リハビリテーション病院 東大阪病院 大阪暁明館病院 清恵会三宝病院 葛城病院 阪和第二泉北病院 介護老人保健施設 ベルアモール
単位数 (時間数)	2 単位 90 時間	
実習内容	<p>大学実習担当教員の引率のもとで実施し、施設の臨床実習指導者により説明・指導を受ける。</p> <p>病院や施設の組織・機能について、リハビリテーション部門の機能と役割について見学する。</p> <p>実習前に、職員とともに見学のオリエンテーションを行い、実習終了後に実習セミナーを開催する。</p> <p>学生は見学時に知り得た事をレポートにまとめ提出する。</p>	
実習目標	<p>①1 年前期に開講される「リハビリテーション概論」や「基礎作業学」、「作業科学入門」などの知識を実際の臨床現場で確認できる。</p> <p>②1 日の行動予定を立てるとともに、参加・見学した内容をデイリーノートにまとめる。デイリーノートには見たこと、体験したことなどの事実を記録し、事実に対する考察を記録できる。</p> <p>③実習生としての基本的態度をとることができる。</p> <p>④対象者を一人の人間として尊重する。</p> <p>⑤実習指導者に必要な報告、連絡、相談ができる。</p> <p>⑥自ら対象者とのコミュニケーションの機会を持つことができる。</p> <p>⑦対象者の話を傾聴できる。対象者に不安を与えない対応ができる。</p> <p>⑧見学した施設における作業療法の役割を述べることができる。</p> <p>⑨見学した施設におけるチームの役割を述べるができる。</p>	
実習週間計画 (原則、実習施設の勤務時間に準ずる)		
1 週目	<p>①病院・施設および作業療法場面を見学する。</p> <p>②作業療法士の役割について学ぶ。</p> <p>③保健・医療・福祉の専門職としての基本的マナーを学ぶ。</p>	

※1 週間を 2 回、同様の内容で行う

2. 臨床検査実習

配当年次	2年次	
実習場所	北野病院 星ヶ丘医療センター 南大阪病院 堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかい 阪和第一泉北病院 永山病院 木島病院 堺市立総合医療センター 介護老人保健施設 ベルアルト 特別養護老人ホーム ベルライブ	特別養護老人ホーム ベルファミリア 大阪刀根山医療センター 愛仁会リハビリテーション病院 東大阪病院 大阪暁明館病院 清恵会三宝病院 葛城病院 さくら会病院 阪和第二泉北病院 介護老人保健施設 ベルアモール
単位数 (時間数)	2単位 90時間	
実習内容	<p>大学実習担当教員の指導の下、学内で履修した検査・測定に関する知識・技術を実際の症例を対象として実習する。</p> <p>事前に症例に関する情報を得ることで、疾患特性や障害を理解する。また、担当教員が面接や検査・測定の手順について指導し、学生間で十分に練習を重ねる。</p> <p>実習終了後は症例報告会を開催する。</p>	
実習目標	<p>①2年前後期に開講される各領域の「作業療法評価学」の知識を活用し、検査・測定を実際の臨床現場で明らかな誤りのない範囲で遂行できる。そのために、以下の4つの下位目標を提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 検査・測定実施前に場所の設定や必要な道具の準備をする。 2) 検査・測定時にクライアントに目的を適切に説明する。 3) 検査・測定時にクライアントが理解できる言葉で手順を説明する。 4) 検査・測定を適切に実施する 5) 検査・測定中は、クライアントの状態を観察し、必要に応じて柔軟に内容を変更する。 <p>②作業療法士の面接・観察および検査・測定場面を見学・模倣し、その内容を客観的に記録できる。</p> <p>③1日の行動計画を立てるとともに、検査・測定した内容をデイリーノートにまとめる。デイリーノートには検査・測定の実態を記録し、事実に対する考察を記録できる。</p>	
実習週間計画 (原則、実習施設の勤務時間に準ずる)		

1 週目	<ul style="list-style-type: none"> ①保健・医療・福祉の専門職としての基本的マナーを学ぶ。 ②作業療法士の面接・観察および検査・測定場面を見学し模倣する。 ③検査・測定を経験する。
2 週目	<ul style="list-style-type: none"> ①検査・測定を経験する。 ②検査・測定した内容について知識・技術・態度の面から振り返りを行う。

3. 臨床評価実習

配当年次	3年次	
実習場所	介護老人保健施設 ベルアモール 阪和第二泉北病院 さくら会病院 葛城病院 清恵会三宝病院 大阪暁明館病院 東大阪病院 愛仁会リハビリテーション病院 大阪刀根山医療センター 木島病院 永山病院 阪和第一泉北病院	特別養護老人ホーム ベルファミリア 特別養護老人ホーム ベルライブ 介護老人保健施設 ベルアルト 堺市立総合医療センター 堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかい 南大阪病院 星ヶ丘医療センター 北野病院
単位数 (時間数)	4単位 180時間	
実習内容	<p>施設の臨床実習指導者の指導の下、代表的な作業療法対象疾患に対して、作業療法評価のプロセス（情報収集、面接、検査・測定、結果の解釈、問題点抽出、目標設定、介入方針の決定・プログラム立案）を経験する。</p> <p>学生が実施した評価をもとに、臨床実習指導者から指導を受け、評価の妥当性について確認する。</p>	
実習目標	<p>①2年次の臨床検査実習において習得した検査・測定に関する知識と技術を踏まえ、3年前期に開講される各領域の「作業療法総論」の知識・技術を活用し、作業療法評価を実際の臨床現場で明らかな誤りのない範囲で遂行できる。作業療法評価のプロセスは、クライアントの作業ニーズを捉え、作業遂行場面を観察し、検査・測定によりクライアントの強み（肯定的側面）と弱み（否定的側面）を明確にして、全体像を把握することである。そして、可能な範囲で治療プログラムを立案することを含む。加えて、作業療法の領域別、疾患別の評価にも対応できるようになる。</p> <p>②臨床教育指導者（作業療法士）の評価場面を見学・模倣し、その内容を客観的に記録できる。</p> <p>③1日の行動計画を立てるとともに、評価した内容をデイリーノートにまとめる。デイリーノートには評価内容の事実を記録し、事実に対する考察を記録できる。</p>	
実習週間計画（原則、実習施設の勤務時間に準ずる）		

1 週間	<p>①臨床実習指導者の評価場面を見学する。</p> <p>②臨床実習指導者の評価場面を模倣し、客観的事実と考察を記録する。</p>
2 週目	<p>①検査・測定・作業療法評価を経験する。</p> <p>②クライアントの強み（肯定的側面）と弱み（否定的側面）を明確にして、臨床教育指導者の指導のもと全体像をまとめる。</p>
3 週目	<p>①検査・測定・作業療法評価を経験する。</p> <p>②クライアントの強み（肯定的側面）と弱み（否定的側面）を明確にして、臨床教育指導者の指導のもと全体像をまとめる。</p>
4 週目	<p>①検査・測定・作業療法評価を経験する。</p> <p>②クライアントの強み（肯定的側面）と弱み（否定的側面）を明確にして、臨床教育指導者の指導のもと全体像をまとめる。</p>

4. 臨床総合実習

配当年次	4年次	
実習場所	さくら会病院 南大阪病院 大阪暁明館病院 北野病院 星ヶ丘医療センター 東大阪病院 愛仁会リハビリテーション病院 高槻病院 第一東和会病院 水無瀬病院 協和会病院 千里中央病院 大阪刀根山医療センター 清恵会三宝病院 浅香山病院	大阪急性期・総合医療センター 大阪発達総合療育センター 阪和第二泉北病院 堺市立総合医療センター 阪和第一泉北病院 葛城病院 永山病院 白庭病院 秋津鴻池病院 第二協立病院 協立温泉病院 ベルランド総合病院 ベルピアノ病院 府中病院
単位数（時間数）	16 単位 720 時間	
実習内容	施設の臨床実習指導者の指導の下、代表的な作業療法対象疾患に対して、作業療法プロセス（情報収集、面接、検査・測定、結果の解釈、問題点抽出、目標設定、介入方針の決定・プログラム立案、実施、効果判定）を経験する。学生が実施した作業療法プロセスをもとに、臨床実習指導者から指導を受け、作業療法実施の妥当性について確認する。 なお、作業療法対象者は多岐にわたるため、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害の4領域のうち、できる限り異なる領域を経験する。	
実習目標	臨床現場での実習を通じて、クライアントのニーズを把握し、クライアントへの面接、観察、評価実施と生活場面の情報収集から、クライアントの生活障害を構造的に捉える。そして、全体像をまとめ、予後予測・焦点化をおこない、作業療法プロセスを実施し、学生自身で検討・修正できることを目標とする。 これを実現するための目標を以下の通りとする。 ①職業人として望ましい態度や行動をとることができる。 ②クライアントの全体像を把握できる。 ③クライアントへの作業療法介入計画を立案できる。 ④クライアントへ治療・指導・援助を実施することができる。 ⑤作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すこと	

	<p>ができる。</p> <p>⑥記録・報告をすることができる。</p> <p>⑦管理・運営について理解することができる。</p>
<p>実習週間計画（原則、実習施設の勤務時間に準ずる）</p>	
1 週目	①保健・医療・福祉の専門職としての基本的マナーを学ぶ。
2 週目	<p>①クライアントの情報収集を行う。</p> <p>②評価計画の立案方法を学ぶ。</p> <p>③面接・観察・検査・測定を含めた作業療法評価を経験する。</p>
3 週目	①実施した作業療法評価をもとに、クライアントの強み（肯定的側面）と弱み（否定的側面）を明確にして、臨床教育指導者の指導のもと全体像をまとめる。
4 週目	<p>①作業療法介入プログラムを立案する。</p> <p>②作業療法介入プログラムの実施を経験する。</p>
5 週目	<p>①再評価計画を立案する。</p> <p>②面接・観察・検査・測定を含めた再評価を経験する。</p>
6 週目	①作業療法評価をもとに、クライアントの強み（肯定的側面）と弱み（否定的側面）を明確にして、臨床教育指導者の指導のもと全体像をまとめる。
7 週目	<p>①作業療法介入プログラムを立案する。</p> <p>②作業療法介入プログラムの実施を経験する。</p>
8 週目	<p>①再評価計画を立案する。</p> <p>②面接・観察・検査・測定を含めた再評価を経験する。</p>

※8 週間を 2 回、同様の内容で行う

5. 地域作業療法実習

配当年次	4年次
実習場所	介護老人保健施設 ベルアモール 協立温泉病院 東大阪病院 ベルピアノ病院
単位数（時間数）	1単位 45時間
実習内容	臨床実習指導者の指導の下、実習を行う地域の特性を知り、その地域に住む人・環境・作業を分析し、地域での作業療法介入のプロセスを経験する。さらに、地域での多職種連携に必要な知識・技能と地域包括ケアの中での作業療法士の役割と位置づけについて、クライアントを通して学ぶ。
実習目標	通所リハビリテーションなどの通所系サービスおよび訪問リハビリテーションなどの訪問系サービスにおける実習を通して、地域で暮らす人のニーズに対応するための作業療法の知識・技術を修得し、さらに保健・医療・福祉の専門職としての人間性を磨く。また、地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割を明確にすることができる。 これを実現するための目標を以下の通りとする。 ①職業人として望ましい態度や行動をとることができる。 ②地域の中でのクライアントの全体像を把握できる。 ③地域作業療法プロセスを経験する。 ④クライアントへ治療・指導・援助を経験する。 ⑤地域作業療法の成果を確認する。 ⑥記録・報告をすることができる。 ⑦管理・運営について理解することができる。
実習週間計画（原則、実習施設の勤務時間に準ずる）	
1週目	①通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションにおける作業療法士の役割を学ぶ。 ②地域での多職種連携について学ぶ。 ③地域における作業療法プロセス（評価から治療まで）を見学、経験する。

実習要項（抜粋）

Ⅱ. 臨床実習の実施方法

1. 実習科目の履修および単位認定にかかわる条件

～省略～

2. 臨床実習における基本事項

(1) 実習時間

実習時間帯は当該施設の勤務時間に準ずる。ただし、対象者の状況や実習施設の特徴などに応じて時間調整を行うことがある。実習科目、実習施設により異なる場合もある。

実習中はゆとりを持って行動する。時間を厳守し、決められた時間の5分前行動を原則とする。

(2) 出欠席、遅刻、早退

～省略～

(3) 身だしなみ

～省略～

(4) 実習生としての態度

～省略～

(5) 対象者に対する心得

1) 対象者への倫理的配慮を遵守する

- ①実習中は学生といえども社会人としての行動を心がける。
- ②対象者や家族からの病状に関する質問には不用意な即答は避け、施設の臨床実習指導者に報告する。
- ③対象者の個人情報の保護に努め、他者に知られたくない過去および個人情報は決して口外しない。

2) 言葉遣いや態度に留意する

- ①対象者には、学ばせていただいている学修者であると同時に、医療人であるという自覚を持って接する。
- ②対象者はさまざまな人生経験者であることを認識し、尊敬の念を持ち接する。

3) 学生としての関係性を保つ

- ①対象者からの贈答は受け取らない。対応できないときは大学実習担当教員または施

設の臨床実習指導者に相談する。

②実習終了後は対象者や家族と個人的な関わりを持たない。また、プライベートな連絡先の交換をしない。

(6) 事故防止

- 1) 臨床現場で迅速に対応できるよう、十分な事前学習・練習を踏まえて実習に臨む。
- 2) 対象者と接点を持つ際は必ず施設の臨床実習指導者に確認・報告をし、決して独断で行動しない。
- 3) 事故・インシデント発生時（施設の物品・器具の破損、暴力・暴言・セクシャルハラスメント等の被害・危害の受難、交通事故の遭遇およびこれらの未遂を含む）は、直ちに大学実習担当教員と施設の臨床実習指導者に報告するとともに、「事故・インシデント発生時の手引き」に従い行動する。施設によって別途届け等の必要がある場合は、所定の手続きに従って行動する。

(7) 健康管理、感染症予防

- 1) 健康管理、感染症予防においては、「感染症予防の手引き」を熟読し、遵守する。
- 2) 臨床実習前に各自で保険加入状況、感染症抗体価保有状況について確認しておく。
- 3) 規則正しい生活を習慣づけ、自己の体調管理に努める。（実習期間中はアルバイトを入れない。）
- 4) 処置やケアの前後には手洗いを十分に行う。

(8) 学生更衣室の使用

～省略～

(9) 交通手段

～省略～

(10) 気象異常・ストライキ時の対応

～省略～

3. 個人情報使用に関するガイドライン

(1) 当ガイドラインの趣旨について

- 1) 個人情報取扱事業者に該当するか否かを問わず、作業療法士を志す学生として患者個人情報の漏洩が守秘義務違反に相当することを強く認識し、これの保護に努めること。

- 2) 本学学生として以下の記載内容に反する行為があった場合に関しては、直ちに実習を中断し、状況に応じた処分を検討する。

(2) 実習時に使用が想定される個人情報について

- 1) 患者・利用者（以下、対象者）の疾患、障害、予後に関する討議・質問は、原則として対象者やその家族はもとより、他の対象者など無関係な者であっても耳に入ることのない場所で行う。
- 2) 対象者やその周囲の者からの場合においても、疾患、症状、予後に関する質問に対しては、決して返答せずに主治医・臨床実習指導者に相談する。
- 3) カルテの使用、カンファレンス資料等の取り扱いに留意し、必要に応じて施設の臨床実習指導者を始めとする実習施設職員の指示を受ける。
- 4) 症例報告・レポートの提出に際しては、以下の事項に留意する。
 - ①対象者氏名：記載しない。イニシャル表記も禁止する。記載上やむを得ず2者以上を区別する必要がある場合はA, B,・・・とする。
 - ②生年月日：記載しない。年齢は対象者像の把握に必要である場合に限り記載を許可するが、○歳代などに留める。
 - ③性別：記載する。
 - ④現病歴：対象者像の把握に必要とされる最小限度の記載のみとする。
 - ⑤家族構成：対象者像の把握に必要とされる最小限度の記載のみとする。
 - ⑥家族歴：対象者像の把握に必要とされる最小限度の記載のみとする。
- 5) 画像・動画記録については、別途「画像・動画資料の撮影ならびに使用に関する誓約書」に基づき使用の趣旨を説明の上、対象者あるいはその家族から署名による同意を得た後に使用する。また、使用においては誓約内容を遵守する。

(3) 情報媒体（電子媒体）の使用について

- 1) ワード、エクセルなどの電子ファイルを作成する際には必ずパスワードを設定する。
- 2) 原則として、ネットワーク接続されていないPCを使用する。
- 3) やむを得ずネットワーク接続下にあるPCを使用する場合は、必ずセキュリティソフトを使用し、毎回安全を確認する。
- 4) 現在オフラインにあるPCであっても、peer to peer (P2P) ソフトやその他の情報流出の可能性が高いソフトをインストールしたことがあるPCは、使用を禁止する。
- 5) フラッシュメモリやポータブルHDDなど、携帯性の高い端末への保存はファイル提出など、やむを得ずファイル移動が必要な場合に限り、常時保存することを禁止する。また、その際はパスワードにより暗号化できるもののみを使用する。

- 6) 電子媒体への記録は、ファイルを消去した後も復元可能性が極めて高いことに留意し、データの不必要な記録は厳に慎む。(ゴミ箱の中身を完全に消去した後であっても、復元は容易である)

(4) 情報媒体(紙媒体)の使用について

- 1) 実習中得られた情報について、容易に他人の目に触れる形で記録することは禁止する(例、掌へのメモ、透過性の高いファイルの使用など)。
- 2) デイリーノート、症例レポートなど、紙媒体で記録されたものに関して、紛失・散逸が無いよう厳重に取り扱う。
- 3) 実習終了後、不必要となった記録物・メモ類はシュレッダー等により、個人データを復元不可能な形にして廃棄する。

(5) webサービスの利用について

- 1) 対象者個人情報によらず、実習施設ならびに実習中の生活に関する情報は、SNS(LINEやFacebookなど)やブログなど公共性の高いサービスに決して発信してはならない。
- 2) 原則としてオンラインストレージサービス(iCloudやdropbox、google driveなど)を利用したファイル保存は禁止する。また、webメールをはじめとするその他のwebサービスを使用する際などにも必ず利用法、利用規約を確認し、不作為による情報の漏洩を避ける。

4. 事故・インシデント発生時の手引き

(1) 目的

学生が行う臨床実習において、不測の事態により事故が生じた場合や事故につながるようなこと(インシデント)が起こった場合は、この手引きに従い適切な対応を速やかに行う。また、所定の報告書「事故・インシデント発生報告書」に基づき報告を行い、発生原因などを明らかにすることにより、事故・インシデントの再発防止を図り、また教育への指針とする。

(2) 用語の定義

- 1) ここでいう「事故」とは、以下のようなことをいう。
 - ① 学生が臨床実習で対象者に対して傷害を与えた場合。
 - ② 学生が対象者および実習施設の物品を破損するなどの損害を与えた場合。
 - ③ 学生自身が臨床実習で感染や危害(セクシャルハラスメント、暴力を含む)を受けた場合。
 - ④ 実習施設への通学途上および実習中に交通事故などに遭遇した場合。

2) ここでいう「インシデント」とは以下のことをいう。

事故発生にはいたらなかったが、適切な対処を行っていなかったら事故になる可能性があるとして施設の臨床実習指導者または大学実習担当教員が判断した場合。

(3) 事故・インシデント発生時における対応方法

事故・インシデント発生時は、以下の方法に従って適切かつ迅速に対応する。また事故・インシデントのレベルに基づく発生時の具体的な対応は、表1、図1に準ずる。

*ここでいう事故のレベルは患者に影響を与えた場合に適応する。その事故のレベルは、その状況により適宜判断する。

1) 学生の責務

①学生は、実習中に事故が発生した場合は、図1に従って速やかに施設の臨床実習指導者および大学実習担当教員へ報告する。

②学生は、事故の状況により「事故・インシデント発生報告書」(以下、報告書と略称)に記載し、大学実習担当教員へ提出する。

2) 大学実習担当教員の責務

①大学実習担当教員は、実習中の事故発生の実事関係の確認、および事故発生に関わる学生に対する指導・助言、施設側の直接の指導者との協議により、問題を適切かつ迅速に解決するように努める。

②大学実習担当教員は、発生した事故について速やかに単位認定者に報告する。大学実習担当教員は、学生当事者からの報告書の受理を行う。

③大学実習担当教員は、関係者のプライバシーおよび人権を尊重し、知り得た秘密を洩らさないよう注意する。

3) 単位認定者の責務

①単位認定者は、事故発生状況の詳細な把握、大学実習担当教員に対する指導・助言、臨床側との協議・調整を行い、問題を適切かつ迅速に解決するよう努める。

②単位認定者は、事故のレベルにより速やかに作業療法学科長へ報告する。

③必要に応じて、大学実習担当教員、および事故の関係者を招集し協議を行うなど、速やかに適切な措置を講じる。

4) 学科長の責務

①学科長は、単位認定者から実習中の事故について報告を受け、実習施設責任者の協議・調整を行い、問題を適切かつ迅速に解決するよう努める。

②学科長は、報告書の受理を行う。

③学科長は、事故のレベルや状況により、速やかに学部長、学長へ報告する。

④学科長は、関係者のプライバシーおよび人権を尊重し、知り得た秘密を他に漏ら

さないよう注意する。

⑤学科長は、学内での事故の対応や事故防止教育が必要であると判断したときは、大学実習担当教員、および事故の関係者を招集し協議を行うなど、速やかに適切な措置を講じる。

(4) 記録物紛失事故

記録物紛失事故とは、その個人名が特定できると判断される記録物の紛失を言う。事故・インシデント発生の「レベル4」に相当すると判断して対処する。

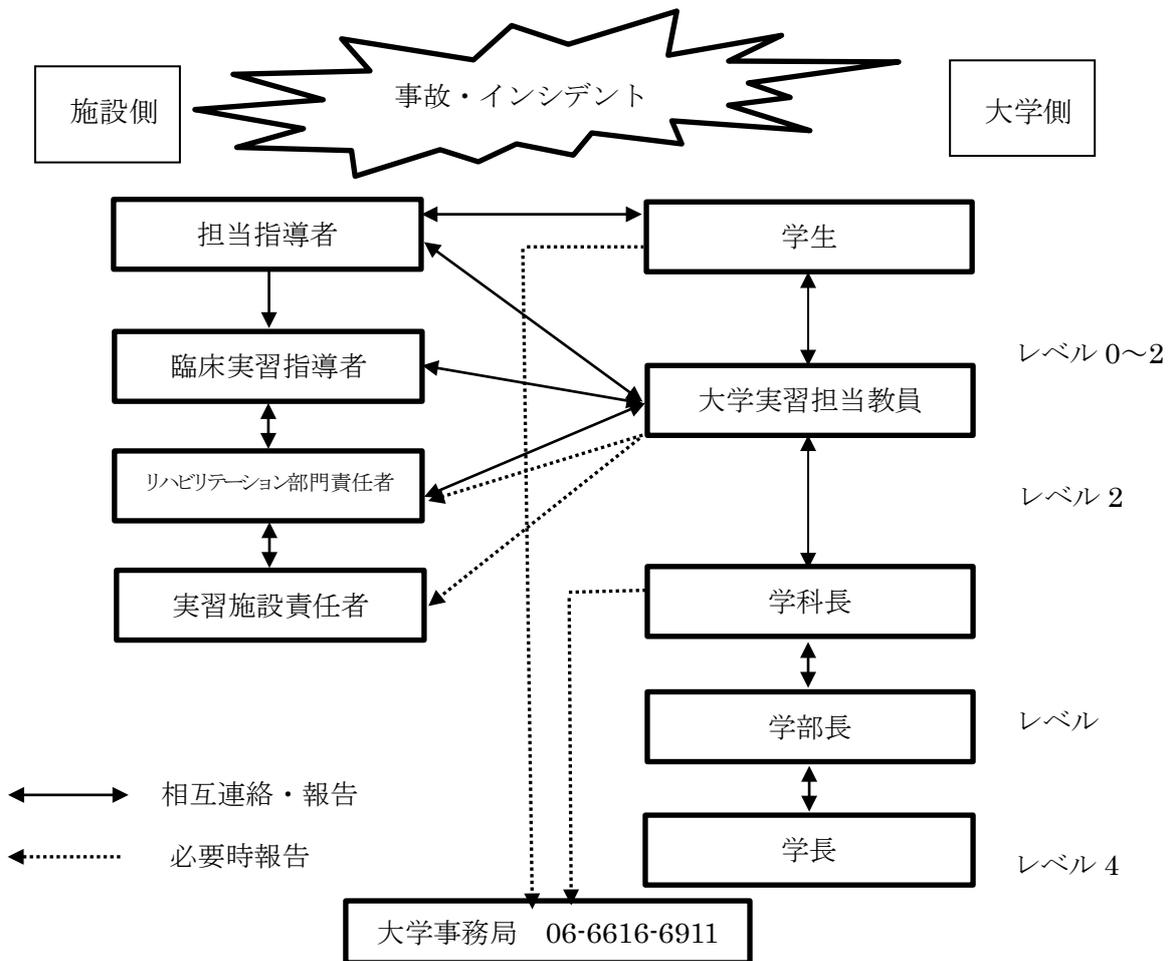
表 1 事故・インシデント発生レベル

レベル	対象者への影響	報告判断基準
0	間違っことは発生したが、対象者には実施されなかった (インシデント ^注)	大学実習担当教員から 単位認定者へ、単位認 定者から学科長へ報告
ハイ リスク	レベル0の状況ではあるが、実施されれば「レベル2」以上が予測される (インシデント ^注)	
1	事故による対象者への実害はなかったが、何らかの影響を与えた可能性がある 観察を強化し、心身の配慮の可能性が生じた場合	
2	事故により対象者への観察の強化の必要性和バイタルサインに変化が生じた、または、検 査の必要が生じた場合	
3	事故により必要でなかった治療、処置の必要性や入院日数の増加が生じた場合	学科長は学部長へ報告
4	事故による障害が一生続く場合	学科長は学長へ報告
5	事故が死因となる場合	

注：レベル0あるいはレベルハイリスクを、用語の定義(2)のインシデントとする。

(参考、原 洋子：「リスクマネジメント」の体制づくりを考える。看護展望, 24(10), p41-45, 1999, 一部改変)

図 1 事故・インシデント発生時対応図



5. 感染症予防の手引き

(1) 臨床実習に伴う感染症抗体価検査および予防接種の実施について

- 1) 実習施設での院内感染防止のため、風疹、麻疹、流行性耳下腺炎、水痘の抗体価検査を受ける。抗体がなければ自己責任で予防接種を受け、結果を健康管理センターに報告する。
- 2) その他、病院の指定する予防接種を確認し、実習開始までに接種しておく。

(2) 感染症発生時・発生が疑われる場合の対処

- 1) 風邪症状や、37.5℃以上の発熱があるときは実習施設に出向せず、速やかに大学実習担当教員に連絡し、受診等の指示に従う。
- 2) 実習中に体調不良のため休む場合は、大学実習担当教員に連絡した後、医療機関を受診し診断書を提出する。
- 3) インフルエンザの流行する時期に38℃以上の発熱があり、咳や咽頭痛等の急性呼吸器症状を伴う場合にはインフルエンザに感染している可能性がある。また、インフルエンザに感染している人との濃厚接触歴があることなども、感染を疑う上での参考になる。その他の感染症に関しても、地域、実習施設、学内、家族の感染症の動向に注意を払う。
- 4) 実習期間中に、発熱、咳、下痢、嘔吐、発疹等の感染症が疑われる症状がある場合は、大学実習担当教員および施設の臨床実習指導者に連絡^{注1)}し、指示に従う（自己判断しない）。実習施設ならびに対象者によっては、微細な風邪症状でも実習内容の制限が必要になるため、大学実習担当教員への連絡を怠らない。
- 5) 実習施設内での感染が疑われる場合の対処は、原則として実習施設の方針に従う。

(3) 実習への復帰について

- 1) 実習において出席停止もしくは実習制限となりうる感染症は、学校保健安全法施行規則に準ずる。
- 2) 実習復帰の時期は学校保健安全法施行規則に準ずる。
- 3) 実習期間中の感染症発症に関しては、医師が発行する実習へ復帰しても可能であることが書かれた内容を含む診断書を提出のうえ復帰する。
- 4) 学校保健安全法施行規則に定める感染症以外に関しても、自己判断で復帰せず、大学実習担当教員に確認する。実習施設ならびに対象者により対応が異なるため、大学実習担当教員に連絡^{注1)}し、指示に従う。

注意事項

- 1) 家族、友人等に感染症発症者がいる場合、濃厚接触歴を併せて報告する。

感染症予防管理確認表

2019年度入学生書式(理学・作業・臨検・臨工)

学科：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

I. 小児4種感染症とB型肝炎の罹患歴・予防接種歴・抗体価検査の結果について

	罹患歴 (有無と時期) ※母子手帳確認	入学前予防接種歴 (接種年月日) ※母子手帳確認	入学時抗体価検査 年 月 日実施	入学後 予防接種歴 (接種年月日)
麻疹 (はしか)	罹患歴 有・無・不明 年 月 日ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種	【EIA法基準値 16.0 以上】 _____ 抗体価 (満たす・満たさない)	年 月 日接種 年 月 日接種
風疹 (三日ばしか)	罹患歴 有・無・不明 年 月 日ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種	【EIA法基準値 8.0 以上】 _____ 抗体価 (満たす・満たさない)	年 月 日接種 年 月 日接種
水痘 (水ぼうそう)	罹患歴 有・無・不明 年 月 日ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種	【EIA法基準値 4.0 以上】 _____ 抗体価 (満たす・満たさない)	年 月 日接種 年 月 日接種
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ ムンプス)	罹患歴 有・無・不明 年 月 日ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種	【EIA法基準値 4.0 以上】 _____ 抗体価 (満たす・満たさない)	年 月 日接種 年 月 日接種
B型肝炎	罹患歴 有・無・不明 年 月 日ごろ	接種歴 有・無・不明 年 月 日接種 年 月 日接種 年 月 日接種	抗原【CLIA法基準値 1.0 未満】 _____ (陽性 陰性) 抗体【CLIA法基準値 10.0 以上】 _____ (陽性 陰性)	年 月 日接種 年 月 日接種 年 月 日接種 抗体価検査 2年 年 月 日 HBs抗体 _____ (陽性・陰性)

※ 健康診断時の「感染症検査の結果」は大切に保管し、不明な点は健康管理センターに確認する。

問合せ先：森ノ宮医療大学 健康管理センター 〒559-8611 大阪市住之江区南港北 1-26-16 TEL：06-6105-4098

1. 小児感染症（4種）予防接種について

（1）入学時健康診断における小児感染症抗体価検査結果が、日本環境感染学会「医療関係者のためのワクチンガイドライン」のE I A法基準値を満たさない場合、予防接種を推奨する。

<接種回数> 基準値を満たさない場合

- ・入学前予防接種歴がない場合、2回接種。（2回目接種は、1回目接種後から少なくとも1ヶ月以上をあけて接種する。）
- ・入学前予防接種歴が1回の場合、1回接種。

2. B型肝炎予防接種について

（1）入学時健康診断におけるHBs抗体価検査が、C L I A法基準値をみたさない場合、予防接種を推奨する。

<接種回数> 基準値を満たさない場合

- ・入学前予防接種歴がない場合、3回接種。（1年次に大学でもB型肝炎ワクチンの予防接種を実施します。＜6月・7月・11月予定＞）

※ 実習地における感染防御あるいは感染症蔓延予防の立場から、予防接種を完了していない学生は学外実習の許可が出ないことがあるので注意する。
但し、アレルギー等により予防接種が実施できない人は診断書を提出する（要相談）。

資料 3 : 個人情報保護に関する誓約書 (実習生)

実習における個人情報の保護に関する誓約書

病院名・施設名 _____

院長・施設長 様

私は、森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科の学生として、実習における個人情報の保護に関する規則（「森ノ宮医療大学 実習における個人情報の取扱いに関するガイドライン」）を十分に理解し、これを遵守いたします。

私は、実習中はもちろん、期間終了後においても、知り得た個人情報を正当な事由なく第三者に漏らしません。

以上の事柄を、誓約いたします。

西暦 年 月 日

森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科

学年 _____ 年 _____ 学籍番号 _____

氏名 _____

【資料7-7】 1～4年次 実習計画表

1～4年次 実習計画表

	実習科目名	臨地見学実習【2単位】	臨床検査実習【2単位】	臨床評価実習【4単位】	臨床総合実習【16単位】	地域作業療法実習【1単位】	計25週間1125時間	
	日数	2週間90時間	2週間90時間	4週間180時間	16週間720時間	1週間45時間	医療提供施設	病院または診療所
グループ ①	実習施設	北野病院	星ヶ丘医療センター	阪和第二泉北病院	南大阪病院	介護老人保健施設 ベルアモール	25週間1125時間	24週間1080時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ ②	実習施設	星ヶ丘医療センター	南大阪病院	さくら会病院	大阪暁明館病院	介護老人保健施設 ベルアモール	25週間1125時間	24週間1080時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ ③	実習施設	堺市立総合医療センター	永山病院	大阪暁明館病院	東大阪病院	協立温泉病院	25週間1125時間	24週間1080時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ ④	実習施設	堺市立総合医療センター	木島病院	東大阪病院	愛仁会リハビリテーション病院	協立温泉病院	25週間1125時間	24週間1080時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ ⑤	実習施設	介護老人保健施設 ベルアルト	堺市立総合医療センター	愛仁会リハビリテーション病院	水無瀬病院	協立温泉病院	25週間1125時間	22週間990時間
	実習区分	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ ⑥	実習施設	阪和第一泉北病院	介護老人保健施設 ベルアルト	大阪刀根山医療センター	千里中央病院	協立温泉病院	25週間1125時間	22週間990時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		
グループ ⑦	実習施設	阪和第二泉北病院	さくら会病院	南大阪病院	永山病院	ベルピアノ病院	25週間1125時間	24週間1080時間
	実習区分	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 病院または診療所	医療提供施設 通所リハまたは訪問リハ		

【資料7-7】 1～4年次 実習計画表

作業療法学科 年間実習計画表

学籍 番号	4月				5月				6月				7月					8月				9月				10月					11月				12月					1月					2月				3月			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4
1	①				①				②				③				④				⑤																															
2																																																				
3																																																				
4																																																				
5																																																				
6																																																				
7																																																				
8																																																				
9																																																				
10																																																				
11																																																				
12																																																				
13																																																				
14																																																				
15																																																				
16																																																				
17																																																				
18																																																				
19																																																				
20																																																				
21																																																				
22																																																				
23																																																				
24																																																				
25																																																				
26																																																				
27																																																				
28																																																				
29																																																				
30																																																				
31																																																				
32																																																				
33																																																				
34																																																				
35																																																				
36																																																				
37																																																				
38																																																				
39																																																				
40																																																				
備考	①4年次臨床総合実習 ②1年次臨地見学実習 ③3年次臨床評価実習 ④4年次地域作業療法実習 ⑤2年次臨床検査実習																																																			

【資料7-9】教員の配置と指導計画

1年次 臨地見学実習計画表 * 8月15日～26日 9月1日～12日予定

学籍 番号	グループ	担当 教員	8月		9月	
			3	4	1	2
1	1G	小林 貴代 教授	北野病院			
2						
3						
4						
5	2G				星ヶ丘医療センター	
6						
7	3G	由利 祿巳 教授	南大阪病院			
8						
9	4G				堺市立重症心身障害者(児) 支援センター ベルデさかい	
10						
11	5G	伊藤 直子 教授	堺市立総合医療センター			
12						
13						
14						
15	6G				介護老人保健施設 ベルアルト	
16						
17	7G	橋本 弘子 教授	阪和第一泉北病院			
18						
19						
20						
21	8G				永山病院	
22						
23	9G	松下 太 教授	大阪刀根山医療センター			
24						
25	10G				愛仁会リハビリテーション病院	
26						
27	11G	中村 めぐみ 講師	東大阪病院			
28						
29	12G				大阪暁明館病院	
30						
31	13G	中西 一 講師	清恵会三宝病院			
32						
33	14G				葛城病院	
34						
35	15G	金森 幸 助教	阪和第二泉北病院			
36						
37						
38						
39	16G				介護老人保健施設 ベルアモール	
40						

2年次 臨床検査実習計画表 *2月22日～3月5日予定

学籍 番号	担当 教員	2月		3月	
		3	4	1	2
1	小林 貴代 教授		北野病院		
2					
3			星ヶ丘医療センター		
4					
5			南大阪病院		
6					
7	由利 禄巳 教授		堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかい		
8					
9			阪和第一泉北病院		
10					
11			永山病院		
12					
13	伊藤 直子 教授		木島病院		
14					
15			堺市立総合医療センター		
16					
17			介護老人保健施設 ベルアルト		
18					
19	橋本 弘子 教授		特別養護老人ホーム ベルライブ		
20					
21			特別養護老人ホーム ベルファミリア		
22					
23			大阪刀根山医療センター		
24					
25	松下 太 教授		愛仁会リハビリテーション病院		
26					
27			東大阪病院		
28					
29			大阪暁明館病院		
30					
31	中村 めぐみ 講師		清恵会三宝病院		
32					
33			葛城病院		
34					
35			さくら会病院		
36					
37	中西 一 講師		阪和第二泉北病院		
38					
39			介護老人保健施設 ベルアモール		
40					

4年次 臨床総合実習計画表 *4月8日～6月5日予定 6月22日～8月14日予定

学籍 番号	担当 教員	4月				5月				6月				7月					8月	
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2
1	小林 貴代 教授					さくら会病院								南大阪病院						
2						南大阪病院								さくら会病院						
3						大阪暁明館病院								北野病院						
4						北野病院								大阪暁明館病院						
5						星ヶ丘医療センター								東大阪病院						
6						東大阪病院								星ヶ丘医療センター						
7	由利 祿巳 教授					愛仁会リハビリテーション病院								第一東和会病院						
8						高槻病院								水無瀬病院						
9						第一東和会病院								愛仁会リハビリテーション病院						
10						水無瀬病院								高槻病院						
11						協和会病院								大阪刀根山医療センター						
12						千里中央病院								第二協立病院						
13	橋本 弘子 教授					大阪刀根山医療センター								協立温泉病院						
14						清恵会三宝病院								阪和第二泉北病院						
15						浅香山病院								阪和第一泉北病院						
16						大阪急性期・総合医療センター								堺市立総合医療センター						
17						大阪発達総合療育センター								堺市立総合医療センター						
18						阪和第一泉北病院								堺市立総合医療センター						
19	松下 太 教授					葛城病院								永山病院						
20						永山病院								葛城病院						
21						白庭病院								秋津鴻池病院						
22						秋津鴻池病院								白庭病院						
23						白庭病院								秋津鴻池病院						
24						秋津鴻池病院								白庭病院						
25	中村 めぐみ 講師					白庭病院								秋津鴻池病院						
26						秋津鴻池病院								白庭病院						
27						秋津鴻池病院								白庭病院						
28						秋津鴻池病院								白庭病院						
29						秋津鴻池病院								白庭病院						
30						秋津鴻池病院								白庭病院						
31	中西 一 講師					秋津鴻池病院								白庭病院						
32						秋津鴻池病院								白庭病院						
33						秋津鴻池病院								白庭病院						
34						秋津鴻池病院								白庭病院						
35	中西 一 講師					秋津鴻池病院								白庭病院						
36						秋津鴻池病院								白庭病院						
37						秋津鴻池病院								白庭病院						
38						秋津鴻池病院								白庭病院						
39	中西 一 講師					秋津鴻池病院								白庭病院						
40						秋津鴻池病院								白庭病院						

4年次 地域作業療法実習計画表 * 11月15日～11月26日予定

学籍 番号	担当 教員	11月				
		1	2	3	4	
1	小林 貴代 教授			介護老人保健施設 ベルアモール		
2						
3						
4						
5						
6	由利 禄巳 教授			介護老人保健施設 ベルアモール		
7						
8						
9						
10						
11	伊藤 直子 教授			協立温泉病院		
12						
13						
14						
15						
16	橋本 弘子 教授				協立温泉病院	
17						
18						
19						
20						
21				東大阪病院		
22						
23						
24						
25						
26	松下 太 教授			東大阪病院		
27						
28						
29						
30						
31	中村 めぐみ 講師			ベルピアノ病院		
32						
33						
34						
35						
36	中西 一 講師			ベルピアノ病院		
37						
38						
39						
40						

【資料7-10】自己目標・実習日誌（臨床総合実習）

森ノ宮医療大学保健医療学部／作業療法学科

資料2.

臨床総合実習 自己目標シート①

学生氏名： _____

臨床実習施設名： _____

〈評価基準〉

4：問題なく自ら遂行できると思う 3：何とか遂行できると思う
2：助言が無いと遂行できないと思う 1：助言があっても難しいと思う

右の基準をもとに自己の現状をチェックしてください。

1. 職業人として望ましい態度や行動をとることができる。				
一般目標1：社会人としての基本的態度・行動を身につける。				
1-1 時間や約束を守る。	4	3	2	1
1-2 その場にふさわしい服装や身なりを整える。	4	3	2	1
1-3 挨拶・自己紹介等、礼儀正しい行動をとる。	4	3	2	1
1-4 適切な言葉遣いをする。	4	3	2	1
1-5 必要に応じ、報告・連絡・相談をする。	4	3	2	1
1-6 課題等の提出期限を守る。	4	3	2	1
1-7 職場での規律や心得を守り、公私を区別する。	4	3	2	1
1-8 守秘義務を果たす。	4	3	2	1
一般目標2：クライアントおよび家族と望ましい人間関係を持つ。				
2-1 クライアント・家族とアイコンタクトをとる。	4	3	2	1
2-2 挨拶・自己紹介等、礼儀正しい行動をとる。	4	3	2	1
2-3 クライアント・家族の理解しやすい言葉を用いる。	4	3	2	1
2-4 クライアント・家族の話を傾聴する	4	3	2	1
2-5 クライアントおよび家族を、一人の人間として尊重する。	4	3	2	1
2-6 自分の言動について相手がどのように感じたかを振り返る。	4	3	2	1
2-7 クライアント・家族の訴えに適切に応える。	4	3	2	1
一般目標3：必要に応じて関連職種と連携をとる。				
3-1 関連職種をあげる。	4	3	2	1
3-2 関連職種の特徴と役割を説明する。	4	3	2	1
3-3 関連職種の中における作業療法士の役割を説明する。	4	3	2	1
3-4 関連職種と情報交換を行う。	4	3	2	1
一般目標4：意欲的に取り組む姿勢（探究心・創造性）を持つ。				
4-1 疑問点を列挙する。	4	3	2	1
4-2 必要に応じて文献や資料を収集する。	4	3	2	1
4-3 集めた文献や資料を理解する。	4	3	2	1
4-4 必要に応じて質問する。	4	3	2	1
4-5 自分の意見を述べる。	4	3	2	1
2. クライアントの全体像を把握できる。（評価）				
一般目標5：クライアントの背景を理解する				
5-1 クライアントが作業療法に参加する目的を説明する。	4	3	2	1
5-2 クライアントの主訴・希望を列挙する。	4	3	2	1
5-3 クライアントのニーズを探る	4	3	2	1
5-4 クライアントの予後を予測する	4	3	2	1
一般目標6：評価計画を立てる。				
6-1 評価内容を想起する。	4	3	2	1
6-2 評価手段を選択する。	4	3	2	1
6-3 選択した評価手段(情報収集・面接・観察・検査測定)の実施計画を立てる。	4	3	2	1
6-4 評価手順と期間について計画を立てる。	4	3	2	1

一般目標7：評価を実施する。				
7-1 必要な機器や道具等を事前に準備する。	4	3	2	1
7-2 適切なオリエンテーションを実施する。	4	3	2	1
7-3 選択した評価内容(情報収集・面接・観察・検査測定)を適切に実施する。	4	3	2	1
一般目標8：評価結果から全体像をまとめる。				
8-1 「心身機能と身体構造」について列挙する。	4	3	2	1
8-2 「活動と参加」について列挙する。	4	3	2	1
8-3 「環境因子と個人因子」について列挙する。	4	3	2	1
8-4 「生活機能と障害」との相互関係をまとめる。	4	3	2	1
一般目標9：将来像を予測する。				
9-1 将来の生活に影響する環境因子と個人因子を説明する。	4	3	2	1
9-2 リハビリテーションゴールを説明する。	4	3	2	1
一般目標10：作業療法の対象となる生活機能と障害について焦点化する。				
10-1 「肯定的側面と否定的側面」を抽出する。	4	3	2	1
10-2 抽出した各側面に優先順位をつける。	4	3	2	1
3. 作業療法介入計画を立案できる。				
一般目標11：長期目標および短期目標を設定する。				
11-1 リハビリテーションゴールに沿った作業療法目標(長期・短期)を設定する。	4	3	2	1
11-2 長期目標と短期目標を関連づけて設定する。	4	3	2	1
11-3 クライアント及び家族と目標を共有する。	4	3	2	1
一般目標12：治療・指導・援助を計画する。				
12-1 優先順位を設定する。	4	3	2	1
12-2 リスクを説明する。	4	3	2	1
12-3 目標に沿って期間を設定する。	4	3	2	1
12-4 他部門と連絡調整をすることができる。	4	3	2	1
4. 作業療法介入(治療・指導・援助)を実施することができる。				
一般目標13：準備する。				
13-1 他部門やクライアントおよび家族との連絡調整(時間・場所・人)をする。	4	3	2	1
13-2 連絡調整した内容に沿って環境を整える。	4	3	2	1
一般目標14：治療・指導・援助について説明し、了承を得る。				
14-1 作業療法目標について説明し、了承を得る。	4	3	2	1
14-2 計画について説明し、了承を得る。	4	3	2	1
14-3 目的について説明し、了承を得る。	4	3	2	1
一般目標15：計画に沿った治療・指導・援助を実施する。				
15-1 時間内に実施する。	4	3	2	1
15-2 クライアントの反応から実施内容の適否を判断する。	4	3	2	1
15-3 安全性を確保する。	4	3	2	1
15-4 要点(ポイント)を押さえて実施する。	4	3	2	1
一般目標16：実施中のクライアントの状況変化に対応する。				
16-1 状況変化に気づく。	4	3	2	1
16-2 状況変化に応じて実施内容を変更する。	4	3	2	1
5. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法介入計画を見直すことができる。(再評価)				
一般目標17：再評価計画を立てる。				
17-1 再評価の必要性について説明する。	4	3	2	1
17-2 再評価手段を選択する。	4	3	2	1
一般目標18：再評価を実施する。				
18-1 再評価を実施する。	4	3	2	1

一般目標19：再評価結果を整理し、クライアントの全体像をまとめ直す。				
19-1 全体像の変化を説明する。	4	3	2	1
19-2 実施内容の成果を説明する。	4	3	2	1
一般目標20：再評価によって作業療法介入計画を見直す。				
20-1 再評価の結果により、必要があれば計画を修正する。	4	3	2	1
6. 記録・報告をすることができる。				
一般目標21：記録すべき必要な事項を選択し、記録する。				
21-1 記録すべき必要な事項を選択する。	4	3	2	1
21-2 選択した必要な事項を事実として簡潔に記録する。	4	3	2	1
21-3 事実に基づき、自分の考えや感想を記録する。	4	3	2	1
21-4 適切に経過を記録する。	4	3	2	1
一般目標22：報告すべき必要な事項を選択し、報告する。				
22-1 報告すべき必要な事項を選択する。	4	3	2	1
22-2 選択した必要な事項を簡潔に報告する。	4	3	2	1
22-3 適切に経過を報告する。	4	3	2	1
7. 管理・運営について理解することができる。				
一般目標23：組織の概要を理解する。				
23-1 施設の設定主体や規模について説明する。	4	3	2	1
23-2 当該地域における施設の役割について説明する。	4	3	2	1
23-3 施設における作業療法士の役割について説明する。	4	3	2	1
23-4 施設におけるクライアントの特徴を説明する。	4	3	2	1
23-5 他職種と作業療法士との関係を説明する。	4	3	2	1
一般目標24：作業療法の過程を理解する。				
24-1 作業療法で用いられている作業の種目について説明する。	4	3	2	1
24-2 作業療法で用いられている作業の目的について説明する。	4	3	2	1
24-3 作業療法の行なわれている場所について説明する。	4	3	2	1
24-4 作業療法に関連する制度について説明する。	4	3	2	1
24-5 指示、記録、診療報酬請求などについて説明する。	4	3	2	1
一般目標25：管理業務の概要を理解する。				
25-1 備品・カルテ・書類など必要な管理義務を説明する。	4	3	2	1

実習前担当教員検印

臨床総合実習 自己目標シート②

学生氏名： _____

＜現状の評価を参考に、実習において達成すべき目標を最大3つ記載してください＞

達成すべき目標	目標達成のためにやるべき行動
①	
②	
③	

※達成すべき目標には、「自己目標シート①」の項目をそのまま記載

実習前担当教員検印

＜実習後に、下記基準をもとに目標に対する遂行度・満足度・考察を記載してください＞

行動目標	遂行度	満足度	考察
①	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	
②	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	
③	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	

実習後担当教員検印

評価基準

＜遂行度＞	＜満足度＞
1：全くできなかった	1：全く満足できなかった
2：あまりできなかった	2：満足できないことがあった
3：できた	3：ある程度満足できた
4：よくできた	4：満足できた
5：大変よくできた	5：大変満足できた

資料 3.

実習日誌（初日の例）

学生氏名： _____

日付： _____ 年 _____ 月 _____ 日

AM行動記録（時間・項目）	PM行動記録（時間・項目）
8:30-8:45 実習に関するオリエンテーション 8:45-9:00 リハビリテーション科朝のミーティング・自己紹介	
施設の特徴及び作業療法部門の特徴	
理解したこと・学んだことのまとめ	
疑問に思ったこと・調べたこと	
感想	
明日実施したいこと	
臨床教育指導者のコメント	

※

※各項目の幅は必要に応じて各自で調整すること。A4一枚で記載する必要はない。

資料 4.

実習日誌（2日目以降の例）

学生氏名： _____

日付： 年 月 日

AM行動記録（時間・項目）	PM行動記録（時間・項目）
8:45-9:00 リハビリテーション科朝のミーティング 9:00-9:40 A氏訓練場面見学	
理解したこと・学んだことのまとめ	
疑問に思ったこと・調べたこと	
感想	
明日実施したいこと	
臨床教育指導者のコメント	

※

※各項目の幅は必要に応じて各自で調整すること。A4一枚で記載する必要はない。

資料 5.

評価計画書

学生氏名： _____

日付・評価項目・手段・方法	留意事項

※時系列に記載すること

資料 6.

ケースノート

学生氏名： _____

日付： _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 曜日

事実 (S・O)	考察 (A)
明日実施したいこと (P)	
臨床教育指導者のコメント	



※各項目の縦幅は記載量に応じて調節すること。1枚に収めて記載する必要はない。

資料 10.

事例報告書 作成指針

- I. はじめに
- II. 基本情報（他部門からの情報を含む）
- III. 作業療法評価（評価期間：○年○月○日～○年○月○日）
 1. 第一印象
 2. 主訴，希望
 3. 作業のニーズ
 4. ICFを基本にした評価（肯定的側面と否定的側面）
 - 1)心身機能・身体構造
 - 2)活動
 - 3)参加
 - 4)個人因子
 - 5)環境因子
- IV. 生活機能と障害についての焦点化
- V. 作業療法計画
 1. リハビリテーションゴール（チームによるゴール設定の機会がなければ予測する）
 2. 長期目標（LTG）
 3. 短期目標（STG）
 4. 作業療法介入計画（プログラム）
- VI. 経過
- VII. 作業療法結果（再評価）
- VIII. 全体像のまとめ（統合と解釈）
- IX. 引用文献

実習施設総括表

【資料7-12】実習施設総括表

実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
1	大阪急性期・総合医療センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
2	独立行政法人国立病院機構 大阪刀根山医療センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
3	北野病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
4	南大阪病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
5	大阪発達総合療育センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
6	大阪暁明館病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
7	社会医療法人 有隣会 東大阪病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
8	協和会病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
9	千里中央病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
10	星ヶ丘医療センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
11	愛仁会リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
12	高槻病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
13	第一東和会病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
14	水無瀬病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
15	堺市立総合医療センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
16	浅香山病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
17	清恵会 三宝病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	

実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
18	阪和第二泉北病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
19	ベルランド総合病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
20	ベルピアノ病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
21	阪和第一泉北病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
22	社会医療法人 さくら会 さくら会病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
23	府中病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
24	葛城病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
25	木島病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
26	永山病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
27	白井病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
28	野上病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
29	阪南市民病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
30	大阪リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
31	兵庫県立リハビリテーション中央病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
32	協和マリナホスピタル	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
33	第二協立病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
34	協立温泉病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	

実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
35	白庭病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
36	秋津鴻池病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
37	介護老人保健施設 ベルアルト	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
38	特別養護老人ホーム ベルライブ	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
39	堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかい	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
40	介護老人保健施設 ベルアモール	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
41	特別養護老人ホーム ベルファミリア	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
42	介護老人保健施設 サンガーデン府中	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
43	株式会社かなえるリンク かなえるリハビリ訪問看護ステーション	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
44	株式会社メディケア・リハビリ メディケア・リハビリ訪問看護ステーション	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
45	バウムリハビリテーションセンター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
46	医療法人社団 千春会 千春会病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
47	医療法人社団 千春会 介護老人保健施設 春風	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
48	大阪府済生会富田林病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
49	社会医療法人 愛仁会 尼崎だもつ病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
50	医療法人 稲門会 いわくら病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
51	一般財団法人 大阪府結核予防会 大阪病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
52	医療法人 豊済会 小曾根病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	

実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
53	社会医療法人 美杉会 男山病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
54	社会医療法人 美杉会 佐藤病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
55	医療法人 美喜和会 美喜和会 オレンジホスピタル	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
56	医療法人 嘉誠会 介護老人保健施設 ヴァンサンク	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
57	医療法人 泰山会 介護老人保健施設 千里	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
58	医療法人社団 向陽会 向陽病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
59	医療法人 聖和錦秀会 阪本病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
60	医療法人 爽神堂 七山病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
61	市立池田病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
62	医療法人 昌円会 高村病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
63	医療法人 尚和会 宝塚リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
64	医療法人 丹比荘 丹比荘病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
65	医療法人 康仁会 西の京病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
66	医療法人 長尾会 ねや川サナトリウム	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
67	医療法人 仁泉会 阪奈病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
68	医療法人 孟仁会 東大阪山路病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
69	医療法人 藤井会 藤井会リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	

実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
70	医療法人 朋愛会 朋愛病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
71	医療法人 清翠会 牧リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
72	医療法人 清心会 八尾こころのホスピタル	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
73	八尾はあとふる病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
74	社会福祉法人 三秀會 リハ&トレ デイサービス 生野南いらか	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
75	NPO法人 日本学び協会 ワンモア豊中	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
76	医療法人 杏和会 阪南病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
77	医療法人 敬天会 星のクリニック	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
78	医療法人財団 北林厚生会 五条山病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
79	社会福祉法人 和貴会 介護老人保健施設 スローライフ八尾	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
80	社会医療法人 純幸会 関西メディカル病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
81	医療法人 一祐会 介護老人保健施設 ハーモニー	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
82	一般財団法人 信貴山病院 ハートランドしぎさん	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
83	医療法人 徳洲会 宇治徳洲会病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
84	医療法人 厚生医学会 厚生会第一病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
85	医療法人 岡谷会 おかたに病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
86	公立大学法人 和歌山県立医科大学 みらい医療推進センター サテライト診療所本町	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	

実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
87	株式会社 かなえるリンク かなえる広場 さくら	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
88	公益社団法人 京都保健会 吉祥院病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
89	一般社団法人 みーる リカバリースペース みーる	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
90	医療法人社団 松下会 東生駒病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
91	医療法人 総心会 長岡京病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
92	社会医療法人 医真会 医真会八尾リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
93	社会福祉法人 東大阪市社会福祉事業団 東大阪市立障害児者支援センター レピラ	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
94	医療法人 正和会 新協和病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
95	医療法人 嘉誠会 ヴァンサンク ポルテ	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
96	医療法人 恵生会 恵生会病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
97	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
98	医療法人 弘善会 矢木脳神経外科病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
99	東和病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
100	独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO) 大阪病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
101	医療法人 徳洲会 岸和田徳洲会病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
102	社会医療法人 渡邊高記念会 西宮渡辺病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
103	社会医療法人 渡邊高記念会 西宮渡辺心臓脳・血管センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
104	社会医療法人 平成記念会 平成記念病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	

実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
105	医療法人 康生会 泉佐野優人会病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
106	株式会社 縁 訪問看護ステーション えにし	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
107	社会医療法人 信愛会 曙生会脳神経外科病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
108	医療法人 晋救館 和田病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
109	医療法人 展生会 こみ整形外科	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
110	社会医療法人 蒼生会 蒼生病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
111	社会福祉法人 三ヶ山学園 いずみ診療所	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
112	社会福祉法人 石井記念愛染園附属 愛染橋病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
113	医療法人 伯鳳会 はくほう会セントラル病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
114	社会医療法人 若弘会 わかくさ竜間リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
115	医療法人 晴風園 今井病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
116	医療法人 友愛会 かつらぎクリニック	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
117	日本赤十字社 大阪赤十字病院附属大手前整肢学園	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
118	社会医療法人 三和会 りんくう永山病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
119	医療法人 南労会 紀和病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
120	学校法人 関西医科大学 関西医科大学総合医療センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
121	社会福祉法人 高槻市社会福祉事業団 高槻市立療育園	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
122	社会福祉法人 愛徳園 愛徳医療福祉センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	

実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
123	株式会社 アイデル アイデルリハビリ訪問看護ステーション	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
124	岸和田市立総合通園センター いながわ療育園	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
125	医療法人 はあとふる 運動器ケア しまだ病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
126	医療法人 はあとふる 介護老人保健施設 悠々亭	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
127	医療法人 栄仁会 宇治おうばく病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
128	医療法人 東布施辻本クリニック ひがし布施クリニック	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
129	医療法人 三家クリニック	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
130	独立行政法人 国立病院機構 やまと精神医療センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
131	大阪府済生会中津病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
132	医療法人社団 敬誠会 合志病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
133	社会医療法人 信愛会 交野病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
134	医療法人(社団)有恵会 香里ヶ丘有恵会病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
135	社会医療法人 協和会 加納総合病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
136	和泉市立総合医療センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
137	社会医療法人 清恵会 清恵会病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
138	医療法人 浩仁会 南堺病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
139	社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 大阪府済生会泉尾病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	

実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
140	社会医療法人 スミヤ 角谷リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
141	特定医療法人 大阪精神医学研究所 新阿武山病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
142	社会医療法人 大道会 ポバース記念病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
143	医療法人 聖志会 渡辺病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
144	医療法人 弘生会 関屋病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
145	社会医療法人 弘道会 守口生野記念病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
146	医療法人 和泉会 和泉丘病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
147	医療法人社団 生和会 登美ヶ丘リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
148	医療法人 友紘会 友紘会総合病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
149	社会医療法人 ペガサス 馬場記念病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
150	医療法人社団 和風会 千里リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
151	地方独立行政法人 奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
152	医療法人 歓喜会 辻外科リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
153	社会医療法人 同仁会 耳原総合病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
154	医療法人 マックシール 巽今宮病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
155	医療法人 微風会 浜寺病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
156	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	

実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
157	社会医療法人 祐生会 みどりヶ丘病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
158	医療法人 慈心会 咲洲病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
159	社会医療法人 健生会 土庫病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
160	公益財団法人 甲南会 甲南加古川病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
161	医療法人 愛泉会 愛泉会病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
162	医療法人 慈心会 あびこ病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習 地域作業療法実習	
163	学校法人 関西医科大学 関西医科大学附属病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
164	株式会社UTケアシステム リハビリ発達支援ルーム UTキッズ香芝	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
165	株式会社UTケアシステム リハビリ発達支援ルーム UTキッズ三田	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
166	社会福祉法人 甲山福祉センター 西宮すなご医療福祉センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
167	社会福祉法人 枚方療育園 枚方総合発達医療センター	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
168	医療法人 いずみ会 阪堺病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
169	社会医療法人 ペガサス ペガサスリハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
170	なやクリニック	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
171	独立行政法人 労働者健康安全機構 関西労災病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
172	学校法人 関西医科大学 関西医科大学香里病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
173	医療法人 晴風園 阪神リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	

実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	備考
174	社会福祉法人 寺田萬寿会 寺田萬寿病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
175	社会医療法人 栄公会 佐野記念病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
176	医療法人 藤井会 石切生喜病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
177	株式会社UTケアシステム リハビリ発達支援ルーム UTキッズ田原本	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
178	株式会社UTケアシステム リハビリ発達支援ルーム UTキッズplus	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
179	株式会社UTケアシステム リハビリ発達支援ルーム UTキッズ河合	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
180	株式会社UTケアシステム リハビリ発達支援ルーム UTキッズ広陵	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
181	株式会社UTケアシステム リハビリ発達支援ルーム UTキッズ大和高田	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
182	医療法人社団 西中医学会 西中介護老人保健施設ヴィーブルジョワ	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
183	株式会社 ユニケア わくわくこらぼ南森町	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
184	医療法人 篤友会 関西リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
185	医療法人 桜希会 東朋八尾病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
186	医療法人 桜希会 介護老人保健施設 東雄苑	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
187	医療法人 桜希会 介護老人保健施設 東雄苑都島	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
188	独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪みなと中央病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
189	医療法人 健友会 帝塚山リハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
190	医療法人 遊心会 にじクリニック	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	
191	公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習	

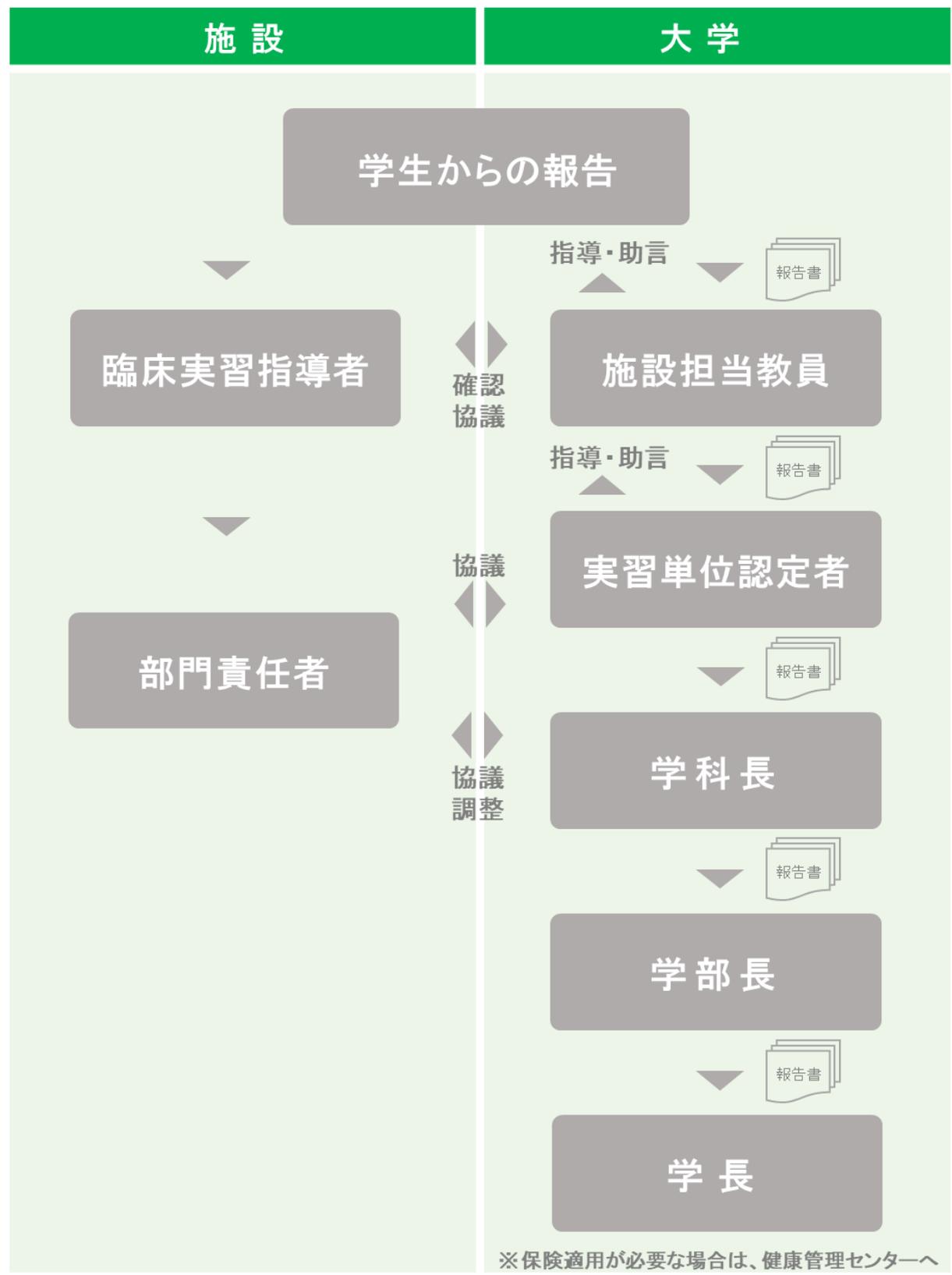
実習施設名		当該実習施設を使用する 授業科目名	備 考	
192	社会医療法人 頌徳会 日野病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習		
193	医療法人社団 生和会 ならまちリハビリテーション病院	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習		
194	合同会社 BASEともかな FLOW郡山	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習		
195	合同会社 BASEともかな FLOW香芝	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習		
196	合同会社 BASEともかな FLOW上牧	臨地見学実習 臨床検査実習 臨床評価実習 臨床総合実習		
合計実習施設数 (196) 施設				

【資料7-13】 インシデント・事故（アクシデント）対応及び報告書

資料4：インシデント・事故（アクシデント）対応図

インシデント・事故（アクシデント）対応図

【図1】



資料5：インシデント・事故（アクシデント）発生報告書

年 月 日

森ノ宮医療大学

学長 様

インシデント・事故（アクシデント）発生報告書

学 科	学科	学年	年	氏 名	
科 目 名					
発生日時	年	月	日 ()	時	分頃
施 設 名				臨床実習 指導者	
学生記入欄	事故の状況				
単位認定者記入欄 施設担当教員または	事故への対応				
学科長記入欄	今後の対策等				
	学 長	学部長	学科長	単位認定者	施設担当教員
		事務局長	学生支援室長	教務室長	総務室長

*事務局閲覧後、学科にて保管

資料6：感染症の発生（または疑い）に関する報告書

年 月 日

森ノ宮医療大学
学長 様

感染症の発生（または疑い）に関する報告書

学 科	学科	学年	年	氏 名	
実習期間	年 月 日 () ~ 年 月 日 ()				
施 設 名				臨床実習 指導者	
発生日時	年 月 日 () 時 分頃				
発生時の状況 ／経過	症 状：体温 (℃) ・ 発疹 ・ 下痢 ・ 嘔吐 ・ 咳				
他者との接触 状況					
疑われる病名 ／ 関連する予防 接種歴・抗体価					
受診状況	日 時	年 月 日 () 時			
	医療機関名				
	診断結果				
備 考					
学 長	学部長	学科長	単位認定者	健康管理センター長	施設担当教員
		事務局長	学生支援室長	教務室長	総務室長

*事務局閲覧後、学科にて保管

【資料 7 - 1 4】実習評価票（臨床総合実習）

森ノ宮医療大学保健医療学部／作業療法学科

資料 7.

臨床総合実習報告書 1（成績表 1）

学生氏名： _____

臨床実習施設名： _____

臨床教育指導者名： _____

<評価基準>

- 5：助言・指導がなくても自ら遂行できる。
- 4：1,2回の助言・指導があれば遂行できる。
- 3：多くの助言・指導が必要であるが、遂行できる。
- 2：助言・指導しても遂行できないことがある。
- 1：何度、助言・指導しても遂行できない。

1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。	学生評価					臨床教育指導者評価				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般目標 1：社会人としての基本的態度・行動を身につける。										
1-1 時間や約束を守る。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
1-2 その場にふさわしい服装や身なりを整える。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
1-3 挨拶・自己紹介等、礼儀正しい行動をとる。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
1-4 適切な言葉遣いをする。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
1-5 必要に応じ、報告・連絡・相談をする。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
1-6 課題等の提出期限を守る。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
1-7 職場での規律や心得を守り、公私を区別する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
1-8 守秘義務を果たす。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般目標 2：クライアントおよび家族と望ましい人間関係を持つ。										
2-1 クライアント・家族とアイコンタクトをとる。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2-2 挨拶・自己紹介等、礼儀正しい行動をとる。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2-3 クライアント・家族の理解しやすい言葉を用いる。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2-4 クライアント・家族の話を傾聴する	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2-5 クライアントおよび家族を、一人の人間として尊重する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2-6 自分の言動について相手がどのように感じたかを振り返る。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2-7 クライアント・家族の訴えに適切に応える。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般目標 3：必要に応じて関連職種と連携をとる。										
3-1 関連職種をあげる。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3-2 関連職種の特徴と役割を説明する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3-3 関連職種の中における作業療法士の役割を説明する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3-4 関連職種と情報交換を行う。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般目標 4：意欲的に取り組む姿勢（探究心・創造性）を持つ。										
4-1 疑問点を列挙する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4-2 必要に応じて文献や資料を収集する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4-3 集めた文献や資料を理解する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4-4 必要に応じて質問する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4-5 自分の意見を述べる。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
小計（120点満点）										
2. クライアントの全体像を把握できる。（評価）	学生評価					臨床教育指導者評価				
一般目標 5：クライアントの背景を理解する										
5-1 クライアントが作業療法に参加する目的を説明する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5-2 クライアントの主訴・希望を列挙する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5-3 クライアントのニーズを探る	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5-4 クライアントの予後を予測する	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般目標 6：評価計画を立てる。										
6-1 評価内容を想起する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6-2 評価手段を選択する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6-3 選択した評価手段(情報収集・面接・観察・検査測定)の実施計画を立てる。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6-4 評価手順と期間について計画を立てる。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

一般目標7：評価を実施する。										
7-1 必要な機器や道具等を事前に準備する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7-2 適切なオリエンテーションを実施する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7-3 選択した評価内容(情報収集・面接・観察・検査測定)を適切に実施する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般目標8：評価結果から全体像をまとめる。										
8-1 「心身機能と身体構造」について列挙する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8-2 「活動と参加」について列挙する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8-3 「環境因子と個人因子」について列挙する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8-4 「生活機能と障害」との相互関係をまとめる。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般目標9：将来像を予測する。										
9-1 将来の生活に影響する環境因子と個人因子を説明する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
9-2 リハビリテーションゴールを説明する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般目標10：作業療法の対象となる生活機能と障害について焦点化する。										
10-1 「肯定的側面と否定的側面」を抽出する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
10-2 抽出した各側面に優先順位をつける。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
小計（95点満点）										
3. 作業療法介入計画を立案できる。	学生評価	臨床教育指導者評価								
一般目標11：長期目標および短期目標を設定する。										
11-1 リハビリテーションゴールに沿った作業療法目標(長期・短期)を設定する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
11-2 長期目標と短期目標を関連づけて設定する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
11-3 クライアント及び家族と目標を共有する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般目標12：治療・指導・援助を計画する。										
12-1 優先順位を設定する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
12-2 リスクを説明する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
12-3 目標に沿って期間を設定する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
12-4 他部門と連絡調整をすることができる。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
小計（35点満点）										
4. 作業療法介入（治療・指導・援助）を実施することができる。	学生評価	臨床教育指導者評価								
一般目標13：準備する。										
13-1 他部門やクライアントおよび家族との連絡調整(時間・場所・人)をする。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
13-2 連絡調整した内容に沿って環境を整える。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般目標14：治療・指導・援助について説明し、了承を得る。										
14-1 作業療法目標について説明し、了承を得る。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
14-2 計画について説明し、了承を得る。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
14-3 目的について説明し、了承を得る。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般目標15：計画に沿った治療・指導・援助を実施する。										
15-1 時間内に実施する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
15-2 クライアントの反応から実施内容の適否を判断する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
15-3 安全性を確保する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
15-4 要点(ポイント)を押さえて実施する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一般目標16：実施中のクライアントの状況変化に対応する。										
16-1 状況変化に気づく。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
16-2 状況変化に応じて実施内容を変更する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
小計（55点満点）										
5. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法介入計画を見直すことができる。（再評価）	学生評価	臨床教育指導者評価								
一般目標17：再評価計画を立てる。										
17-1 再評価の必要性について説明する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
17-2 再評価手段を選択する。	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

一般目標18：治療・指導・援助について説明し、了承を得る。		
18-1 再評価を実施する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
一般目標19：再評価結果を整理し、クライアントの全体像をまとめ直す。		
19-1 全体像の変化を説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
19-2 実施内容の成果を説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
一般目標20：再評価によって作業療法介入計画を見直す。		
20-1 再評価の結果により、必要があれば計画を修正する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
小計（30点満点）		
6. 記録・報告をすることができる。	学生評価	臨床教育指導者評価
一般目標21：記録すべき必要な事項を選択し、記録する。		
21-1 記録すべき必要な事項を選択する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
21-2 選択した必要な事項を事実として簡潔に記録する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
21-3 事実に基づき、自分の考えや感想を記録する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
21-4 適切に経過を記録する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
一般目標22：報告すべき必要な事項を選択し、報告する。		
22-1 報告すべき必要な事項を選択する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
22-2 選択した必要な事項を簡潔に報告する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
22-3 適切に経過を報告する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
小計（35点満点）		
7. 管理・運営について理解することができる。	学生評価	臨床教育指導者評価
一般目標23：組織の概要を理解する。		
23-1 施設の設置主体や規模について説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
23-2 当該地域における施設の役割について説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
23-3 施設における作業療法士の役割について説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
23-4 施設におけるクライアントの特徴を説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
23-5 他職種と作業療法士との関係を説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
一般目標24：作業療法の過程を理解する。		
24-1 作業療法で用いられている作業の種目について説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
24-2 作業療法で用いられている作業の目的について説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
24-3 作業療法の行なわれている場所について説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
24-4 作業療法に関連する制度について説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
24-5 指示、記録、診療報酬請求などについて説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
一般目標25：管理業務の概要を理解する。		
25-1 備品・カルテ・書類など必要な管理義務を説明する。	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
小計（55点満点）		
合計（425点満点）	点	点

資料 8.

臨床総合実習報告書 2 (成績表 2)

学生氏名：

臨床実習施設名：

臨床教育指導者記入欄

総括
学生の今後の課題
備考

記入日 年 月 日

臨床教育指導者氏名 _____ 印

学生記入欄

感想

記入日 年 月 日

学生氏名 _____

資料 9.

臨床総合実習 学内評価（成績表 3）

学生氏名：

臨床実習施設名：

1. 評価基準は以下の通りです.

4	よくできた	(自身の意見や考えも踏まえて表現できた)
3	及第点 (普通)	(事実のみ表現できた)
2	部分的にできた	(項目全体を表現できていない)
1	できなかった	(確認できておらず述べる事が出来なかった)

2. 大学側は下記の評価項目に対して、実習前後の取り組みについて評価を行う。下線 1-3 の項目は発表を行っている際の担当教員が採点する。4は実習記録を確認した教員が採点する。5は担任。

1 【実習後セミナー発表】 実習施設の特徴と作業療法の特徴について述べる事ができる。								
①	施設の種類と関連施設, 対象者の特徴	4	3	2	1			
②	作業療法士ならびに作業療法部門の役割	4	3	2	1			
2 【実習後セミナー発表】 実習で学んだ作業療法について述べる事ができる。								
①	基本情報を記載し報告されている。	4	3	2	1			
②	主訴や希望, 作業ニーズを捉えている。	4	3	2	1			
③	ICFを基本にした評価 (心身機能・身体構造) が適切である。	4	3	2	1			
④	ICFを基本にした評価 (参加) が適切である。	4	3	2	1			
⑤	ICFを基本にした評価 (個人因子) が適切である。	4	3	2	1			
⑥	ICFを基本にした評価 (環境) が適切である。	4	3	2	1			
⑦	全体像のまとめ (統合と解釈) が適切である。	4	3	2	1			
⑧	生活機能と障害についての焦点化ができています。	4	3	2	1			
⑨	目標設定 (長期・短期) ができている。	4	3	2	1			
⑩	作業療法介入計画を立案している。	4	3	2	1			
⑪	作業療法経過を簡潔に記載し報告している。	4	3	2	1			
⑫	再評価を記載し報告している。	4	3	2	1			
⑬	引用文献の記載がある。	4	3	2	1			
⑭	分かりやすい表現で発表できている	4	3	2	1			
⑮	質問に対する応答が適切である	4	3	2	1			
⑯	過不足なく (1分未満の誤差) 発表時間を守ることができる	4	3	2	1			
3 【実習後セミナー時の態度】 セミナーへ積極的に参加する								
①	実習後セミナーに時間を守って出席する	4	3	2	1			
②	質問を複数回行っている	4	3	2	1			
4 【実習記録】 実習記録・実習記録ファイルを管理できる								
①	実習記録や実習記録ファイルを整理し保管している	4	3	2	1			
②	実習記録の内容は具体的で十分なものである	4	3	2	1			
③	自己学習について日々立案し, 実施できている	4	3	2	1			
④	面談時に, 実習に対する振り返りができている	4	3	2	1			
⑤	実習後セミナーの際, 量, 質の不備なくすべての記録が提出されている	4	3	2	1			
5 【事前学習・セミナー出欠等取り組み】 合計 マイナス 点								
①	実習前セミナーを欠席している	欠席	-10	遅刻	-5			
②	実習後セミナーを欠席している	欠席	-10	遅刻	-5			
③	事前学習を欠席している	欠席	回× (-10)	遅刻	回× (-5)			
採点	4× ()	3× ()	2× ()	1× ()		小計	マイナス点	合計 (100点)

資料 10.

事例報告書 作成指針

- I. はじめに
- II. 基本情報（他部門からの情報を含む）
- III. 作業療法評価（評価期間：○年○月○日～○年○月○日）
 1. 第一印象
 2. 主訴，希望
 3. 作業のニーズ
 4. ICFを基本にした評価（肯定的側面と否定的側面）
 - 1)心身機能・身体構造
 - 2)活動
 - 3)参加
 - 4)個人因子
 - 5)環境因子
- IV. 生活機能と障害についての焦点化
- V. 作業療法計画
 1. リハビリテーションゴール（チームによるゴール設定の機会がなければ予測する）
 2. 長期目標（LTG）
 3. 短期目標（STG）
 4. 作業療法介入計画（プログラム）
- VI. 経過
- VII. 作業療法結果（再評価）
- VIII. 全体像のまとめ（統合と解釈）
- IX. 引用文献

【資料8-1】教育課程と指定規則との対比表 理学療法学科

様式第2号(その2)

教育課程と指定規則との対比表

(理学療法士学校) (森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 理学療法学科)

指定規則の教育内容						別表1													
教育課程						基礎分野	専門基礎分野			専門分野				計					
区分	授業科目	配当年次	単位数	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤 人間の生活 社会の理解	人体の構造と機能 及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	基礎理学療法学	理学療法管理学	理学療法評価学	理学療法治療学		地域理学療法学	臨床実習			
						14	12	14	4	6	2	6	20	3	20	101			
						必修	選択												
教養科目群	基礎ゼミナール	1前	2	15	必修14単位+選択2単位以上	②													
	物理学	1後	2	15		②													
	生物学	1前	2	15		②													
	化学	1前	2	15		②													
	情報処理	1前	2	15		②													
	統計学	3前	2	15		②													
	心理学	1前	2	15		②													
	生命倫理学	1前	2	15		②													
	哲学	1後	2	15		②													
	社会福祉学	1前	2	15		②													
	日本国憲法	1後	2	15		②													
	東洋史概説	3前	2	15		②													
	西洋史概説	3前	2	15		②													
	英語Ⅰ(初級)	1前	2	15		②													
	英語Ⅱ(中級)	1後	2	15		②													
	英会話	2前	2	15		②													
医学英語	2後	2	15	②															
基礎英語演習	2前	2	15	②															
応用英語演習	2後	2	15	②															
小計						16	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
共通科目群	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1	15	必修5単位+ 選択2単位以上	①													
	チーム医療見学実習	1前	1	15		①													
	医療コミュニケーション	2前	1	15		①													
	チーム医療論	2後	1	30		①													
	IPW論	3前	1	15		①													
	基礎体育	1前	1	30		①													
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前	2	15		②													
	健康管理学Ⅰ	2前	2	15		②													
	健康管理学Ⅱ	2後	2	15		②													
	栄養学	2後	2	15		②													
	身体運動科学	2後	2	15		②													
	東洋医療概論	2後	2	15		②													
統合医療概論	3前	2	15	②															
小計						7	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
学科専門科目群	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1前	1	30	必修15単位		①												
	人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1後	1	30			①												
	人体の構造Ⅰ(神経系)	1前	2	15			②												
	人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	1後	2	15			②												
	人体の構造実習	2後	1	30			①												
	人体の機能Ⅰ(動物性機能)	1前	2	15			②												
	人体の機能Ⅱ(植物性機能)	1後	2	15			②												
	基礎運動学	1後	1	30			①												
	臨床運動学	2前	1	30			①												
	運動学実習	1後	1	30			①												
	臨床心理学	1後	1	30			①												
	小計						0	15	0	0	0	0	0	0	0	0			
	学科専門科目群	リハビリテーション概論	1前	2		15	必修19単位+ 選択1単位以上				②								
		公衆衛生学	1後	2		15					②								
		生化学	2前	2		15				②									
病理学		2前	2	15				②											
臨床病態学Ⅰ		2前	2	15				②											
臨床病態学Ⅱ		2後	2	15				②											
臨床病態学Ⅲ		2後	2	15				②											
整形外科学		2前	2	15				②											
小児科学(人間発達学)		2後	2	15				②											
精神医学		2前	2	15				②											
リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)		2前	2	15				②											
チームリハビリテーション概論		2前	1	30					①										
介護学概論・ボランティア活動論		2後	1	30				①											
スポーツ医学	3前	1	30			①													
テーピング技術論	2後	1	30			①													
小計						0	0	16	3	0	0	0	0	0	0				
						選択1単位													

教育課程と指定規則との対比表

(理学療法士学校) (森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 理学療法学科)

指定規則の教育内容						別表1															
教育課程						基礎分野	専門基礎分野				専門分野					計					
区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	人体の構造と機能 及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	基礎理学療法学	理学療法管理学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学	臨床実習						
			必修	選択												1単位当たりの時間数	14	12	14	4	6
理学療法学科 専門科目	医療関係法規論	1前	2		15					②										必修 6単位	6
	理学療法触診法	3後	1		30					①											
	基礎理学療法学Ⅰ	2前	1		30					①											
	基礎理学療法学Ⅱ	3前	1		30					①											
	基礎理学療法学実習	2通	1		45					①											
	小計					6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0			
	理学療法管理学	職場管理(教育を含む)	3後	1		15						①								必修 2単位	2
	職業倫理	3後	1		15						①										
	小計					2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0			
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	1後	1		30							①							必修 5単位	5
	理学療法評価学各論	2前	2		30							②									
	臨床理学療法評価学(動作分析)	3前	1		30							①									
	臨床理学療法評価学実習	3通	1		45							①									
	小計					5	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0			
	理学療法治療学	基礎日常生活活動学	1後	1		30								①						必修 20単位	20
	基礎運動療法学総論	2前	1		30									①							
	基礎運動療法学各論	2後	1		30									①							
	物理療法学	1後	1		30									①							
	運動器系理学療法学Ⅰ	2後	1		30									①							
	運動器系理学療法学Ⅱ	3前	2		15									②							
運動器系理学療法学Ⅲ	3前	1		30									①								
神経系理学療法学Ⅰ	2後	1		30									①								
神経系理学療法学Ⅱ	3前	2		15									②								
神経系理学療法学Ⅲ	3前	1		30									①								
内部障害系理学療法学Ⅰ	2後	1		30									①								
内部障害系理学療法学Ⅱ	3前	2		15									②								
内部障害系理学療法学Ⅲ	3前	1		30									①								
発達障害理学療法学	3前	1		30									①								
義肢装具学	2後	2		15									②								
臨床理学療法治療学実習	4通	1		45									①								
小計					20	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0				
地域理学療法学	地域理学療法学	2後	2		15									②					4 必修 単位	4	
生活環境論	2後	1		30										①							
老年期理学療法学	3後	1		30										①							
小計					4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0				
総合領域	理学療法臨床推論概論	2後		1	15							①							+ 必修 5単位 + 選択 1単位以上	6	
理学療法臨床推論演習	3前		1	30								①									
総合リハビリテーションIPW演習	3前	1		30				①													
理学療法特論Ⅰ	3後	1		30								①									
理学療法特論Ⅱ	4前	1		30									①								
理学療法特論Ⅲ	4後	2		30					②		②	②	②	②							
運動器系理学療法セミナー	4前		1	30					①		①	①	①								
神経系理学療法セミナー	4前		1	30					①		①	①	①								
内部障害系理学療法セミナー	4前		1	30					①		①	①	①								
地域理学療法セミナー	4前		1	30					①		①	①	①								
小計					6	0	0	0	1	0	0	1	1	0							
															3						

教育課程と指定規則との対比表

(理学療法士学校) (森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 理学療法学科)

指定規則の教育内容						別表1												
						基礎分野		専門基礎分野				専門分野				計		
区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	人体の構造と機能 及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	基礎理学療法学	理学療法管理学	理学療法評価学	理学療法治療学	地域理学療法学	臨床実習			
			1単位当たりの時間数	必修												選択	14	12
学科専門科目群	卒業研究	卒業研究 I	3通	2	30					②		②	②	②		4		
		卒業研究 II	4通	2	30					②		②	②	②				
	小計					4	0	0	0	0	4							
	臨床実習	臨床見学実習	1後	1	45	必修 2 1 単位										①	21	
		検査測定実習	2前	1	45													①
		臨床評価実習	3後	4	45													④
		地域理学療法実習	4前	1	45													①
		臨床総合実習 I	4通	7	45													⑦
		臨床総合実習 II	4通	7	45											⑦		
	小計					21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21		
卒業要件単位数					126	23	15	16	4	6	2	6	21	4	21	126		
指定規則に対する増単位数						9	3	2	0	0	0	0	1	1	1	25		
								1		7								

【資料 8 - 2】教育課程と指定規則との対比表 作業療法学科

様式第2号(その2)

教育課程と指定規則との対比表

(作業療法士学校) (森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科)

指定規則の教育内容					別表2													
					基礎分野		専門基礎分野			専門分野					計			
区分	授業科目	配当年次	単位数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤 社会的理解	14	12	14	4	5	2	5	19	4		22	101	
															基礎作業療法学			作業療法管理学
教育課程	基礎セミナー	1前	2	15														
	物理学	1後	2	15	②													
	生物学	1前	2	15	②													
	化学	1前	2	15	②													
	情報処理	1前	2	15	②													
	統計学	3後	2	15	②													
	心理学	1前	2	15	②													
	生命倫理学	1後	2	15	②													
	哲学	1後	2	15	②													
	社会福祉学	1後	2	15	②													
	日本国憲法	1後	2	15	②													
	東洋史概説	3前	2	15	②													
	西洋史概説	3前	2	15	②													
	英語Ⅰ(初級)	1前	2	15	②													
英語Ⅱ(中級)	1後	2	15	②														
英会話	2前	2	15	②														
医学英語	2後	2	15	②														
基礎英語演習	2前	2	15	②														
応用英語演習	2後	2	15	②														
小計				14	14 (選択2単位含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
教養科目群	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1前	1	15														
	チーム医療見学実習	1前	1	15	①													
	医療コミュニケーション	2前	1	15	①													
	チーム医療論	2後	1	30	①													
	IPW論	3前	1	15	①													
	基礎体育	1前	1	30	①													
	健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前	2	15	②													
	健康管理学Ⅰ	2前	2	15	②													
	健康管理学Ⅱ	2後	2	15	②													
	栄養学	2後	2	15	②													
	身体運動科学	2後	2	15	②													
	東洋医療概論	3前	2	15	②													
	統合医療概論	3前	2	15	②													
	小計				7	7 (選択2単位含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
共通科目群	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1前	1	30			①											
	人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1後	1	30			①											
	人体の構造Ⅰ(神経系)	1前	2	15			②											
	人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	1後	2	15			②											
	人体の構造実習	2後	1	30			①											
	人体の機能Ⅰ(動物性機能)	1前	2	15			②											
	人体の機能Ⅱ(植物性機能)	1後	2	15			②											
	基礎運動学	1後	2	30			②											
	臨床運動学	2前	2	30			②											
	小計				15	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	学科専門科目群	リハビリテーション概論	1前	2	15				②									
		公衆衛生学	1後	2	15				②									
		生化学	2前	2	15													
		病理学	2前	2	15				②									
臨床病態学Ⅰ		2前	2	15				②										
臨床病態学Ⅱ		2後	2	15				②										
臨床病態学Ⅲ		2後	2	15				②										
整形外科学		2後	2	15				②										
小児科学(人間発達学)		2前	2	15				②										
精神医学		2前	2	15				②										
精神医学各論		2後	2	15				②										
臨床心理学		2後	1	30				①										
リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)		3前	1	30				①										
医療関係法規論		2前	2	15					②									
チームリハビリテーション概論	2前	1	30					①										
介護学概論・ボランティア活動論	2後	2	15					②										
スポーツ医学	3前	1	30					①										
小計				23	0	0	18	3	0	0	0	0	0	0	0			
					選択2単位													

教育課程と指定規則との対比表

(作業療法士学校) (森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科)

教育課程					別表2										計		
					基礎分野		専門基礎分野				専門分野						
区分	授業科目	配当年次	単位数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤 社会人としての生活	人体の構造と機能 及び心身の発達	疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進	保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	基礎作業療法学	作業療法管理学	作業療法評価学	作業治療学	地域作業療法学	臨床実習			
															14	12	14
学科 専門科目	基礎作業学	基礎作業学	1前	2	30	6 必修					②						
		作業科学入門	1前	2	15						②						
		作業療法概論	1後	2	15						②						
	小計					6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	
	作業管理 学	職場管理(教育を含む)		3後	1	15	必修 2 単位					①					
		職業倫理		3後	1	15						①					
		小計						2	0	0	0	0	2	0	0	0	0
	作業療法 評価学	作業療法評価学総論		1後	2	15	必修 7 単位					②					
		身体障害作業療法評価学		2前	2	30						②					
		精神障害作業療法評価学		2後	1	30						①					
		発達障害作業療法評価学		2後	1	30						①					
		高次脳機能障害作業療法評価学		2後	1	30						①					
	小計					7	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	
	作業療法 治療学	日常生活活動学		1後	2	15	必修 18 単位 + 選択 1 単位 以上						②				
		身体障害作業療法治療学総論		3前	2	15							②				
		精神障害作業療法治療学総論		3前	2	15							②				
		高齢期障害作業療法治療学総論		3前	2	15							②				
		発達障害作業療法治療学総論		3前	2	15							②				
		身体障害作業療法治療学各論		3後	1	30							①				
精神障害作業療法治療学各論		3後	1	30							①						
高齢期障害作業療法治療学各論		3後	1	15							①						
発達障害作業療法治療学各論		3後	1	15							①						
義肢装具学		2後	1	30							①						
作業療法特論Ⅰ		4後	1	30							①						
作業療法特論Ⅱ		4後	1	30							①						
身体障害作業療法治療学演習		3後	1	30							①						
精神障害作業療法治療学演習		3後	1	30							①						
高齢期障害作業療法治療学演習		3後	1	30							①						
発達障害作業療法治療学演習		3後	1	30						①							
総合リハビリテーションLPW演習		3前	1	30				①									
小計					19	0	0	0	1	0	0	0	18 【選択1単位含む】	0	0	0	
地域作業 療法学	地域作業療法学		3前	2	15	4 必修 単位							②				
	生活環境論		3前	1	30								①				
	障害者地域生活支援論		3後	1	30								①				
小計					4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0		
卒業 研究	卒業研究Ⅰ		3通	2	30	+必修 以 上 2 単 位						②					
	卒業研究Ⅱ(身体障害)		4通	2	30							②					
	卒業研究Ⅱ(精神障害)		4通	2	30							②					
	卒業研究Ⅱ(高齢期障害・地域)		4通	2	30							②					
	卒業研究Ⅱ(発達障害)		4通	2	30							②					
小計					4	0	0	0	0	0	0	4 【選択2単位含む】	0	0	0		
臨床 実習	臨地見学実習		1前	2	45	2 5 必修 単位							②				
	臨床検査実習		2後	2	45								②				
	地域作業療法実習		4後	1	45								①				
	臨床評価実習		3通	4	45								④				
	臨床総合実習		4前	16	45								⑤				
小計					25	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0		
卒業要件単位数					126	21	15	18	4	6	2	7	22	4	25	126	
指定規則に対する増単位数						7	3	4	0	1	0	2	3	0	3	25	

森ノ宮医療大学 教員等定年規程

平成19年4月1日制定

平成22年10月19日改訂

平成26年12月16日改訂

(目的)

第1条 この規程は、森ノ宮医療大学（以下「大学」という）の教授、准教授、講師及び助教（以下「教員」という）並びに助手の定年に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(定年)

第2条 教員並びに助手は、満60歳に達した後に到来する3月31日をもって定年退職する。但し、大学の学部学科等の設置に係り、就任することが予定されている者は、それぞれの学部学科等の開設後、学年進行が終了する年度末まで在職を認める。

(再雇用)

第3条 前2条にかかわらず、本人が希望する場合で、労使協定に定める選考基準に達した教員は、1年の期間を定めて嘱託教員として、再雇用する。再雇用に関し必要な事項は、別に定める再雇用規程において定める。

(規程の改廃)

第4条 この規程の改廃は、理事会の議を経て、理事長がこれを行う。

附 則

- 1 この規程は平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程施行の際、現に在職する教員及び大学の設置に係り、就任することが予定されている者は、第2条の規定にかかわらず、平成23年3月31日まで在職することができる。
- 3 この規程は平成22年4月1日から施行する。
- 4 この規程施行の際、看護学科設置及び大学院設置に係り、就任をすることが予定されている者は、第2条の規定にかかわらず、それぞれの学年進行終了時まで在職することができる。
- 5 この規程は平成22年10月19日から施行する。(改廃条文)
- 6 この規程は平成26年12月16日から施行する。

学校法人森ノ宮医療学園 再雇用規程

平成27年3月24日制定

(目的)

第1条 この規程は、就業規則第17条第5項の規定に基づき、定年に達した職員の再雇用に関する事項を定めることを目的とする。

(定年の通知)

第2条 学園は、定年の日の3カ月前に本人に対して定年の通知を行う。

(再雇用の申出)

第3条 前条による定年の通知を受けた者で再雇用を希望する者は、通知日より15日以内に学園に再雇用の申し出を行わなければならない。

(再雇用の可否の決定)

第4条 学園は、再雇用の申し出があった場合は、労使協定に定める再雇用の基準に基づきその可否、並びに労働条件を決定し、再雇用の申し出の日から2カ月以内に本人に通知する。但し、就業規則第17条第1項但し書に該当する年齢に達するまでの間は、希望者全員を再雇用する。

(再雇用の期間)

第5条 再雇用の期間は1年とする。但し、労使協定に定める更新基準を満たした場合は、満65歳までを限度に再雇用契約を更新する。

(再雇用の解約)

第6条 再雇用の期間中に、再雇用の条件を欠くに至った場合は、雇用期間中とはいえども再雇用を打ち切ることがある。

(就業場所及び従事業務)

第7条 再雇用後の就業場所及び従事業務は再雇用契約締結の際、学園が決定する。

(再雇用後の給与)

第8条 再雇用後の給与は、本人の能力、経験等を勘案して学園が決定する。

2 定期昇給は行わない。

(賞与)

第9条 賞与は支給しない。

(退職金)

第10条 退職金は支給しない。

(労働条件)

第11条 再雇用者の次に定める労働条件については、個別に定める雇用契約による。

- (1) 始業時間及び終業時間
- (2) 休日
- (3) 年次有給休暇
- (4) 各種社会保険

附 則

- 1 この規程は平成27年4月1日から施行する。

森ノ宮医療大学 教育職員等の任期制に関する規程

平成19年4月1日制定

平成23年4月1日改定

平成27年3月24日改定

平成29年2月21日改定

平成31年3月26日改定

(目的)

第1条 この規程は、学校法人森ノ宮医療学園 森ノ宮医療大学（以下「本学」という。）において、教育研究上の能力又は業績を有する教育職員（以下「教員」という。）相互の教育・学問的交流が不断に行われる状況を創設し、本学における教育研究の活性化と発展を図るため、「大学の教員等の任期に関する法律」（平成9年法律第82号、以下「任期制法」という。）に基づき採用する教員の任期制に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(任期等)

第2条 任期制法第4条第1項第1号ないし第3号により、任期を定めて任用する教員の教育研究組織、職位、任期及び再任に関する事項は、別表のとおりとする。

(雇用契約)

第3条 理事長は、前条の定めに基づく教員の採用は次の各号について合意した者と雇用契約を締結して行う。

(1) 任期は、5年以内の期間をもって定める期間とする。

(2) 前号の任期満了により雇用契約は終了し、退職する。ただし、第4条第3項、第1号乃至第2号に基づき、再任用する場合には、改めて雇用契約を締結する。

2 雇用契約は、当該教員の申し出により途中解約することができる。ただし、解約の日は、教育研究に支障のないよう双方協議のうえ、決定するものとする。

3 任用の期間内に、森ノ宮医療学園就業規則第17条第1項に定める定年に達する場合には、その任期は、定年退職日までの期間とする。

(再任用)

第4条 理事長は、学長の意見を聴き、総合審査の結果を踏まえ、第2条及び別表に定める再任用を相当と認めるときは再任用を決定する。

2 理事長は再任用を相当とするときは、任期満了までに当該教員に通知する。

3 再任用に関する基準は、次の各号による。

(1) 同職位において、任期を定めて再任用

(2) 昇任させたい場合、任期を定めて再任用

(その他)

第5条 この規程の実施に関し必要な事項は、理事長が定める。

附 則

- 1 この規程は平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程は平成23年4月1日から施行する。
- 3 この規程は平成27年4月1日から施行する。
- 4 この規程は平成29年4月1日から施行する。
- 5 この規程は、第3条、第4条、別表の改定により平成31年4月1日から施行する。

別表

教育研究組織	対象の職位	任 期	再任用事項	適 用
大学院 保健医療学研究科 保健医療学部 助産学専攻科	教授 准教授 講師 助教 助手	5年以内	再任用する場合がある	任期制法第4条第1項第1号

【資料 10-4】 将来の教員配置計画

(理学療法学科)

		30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	計
開設時 (令和 4 年度)	教授		2	4	1	1	8
	准教授		3				3
	講師	2	1				3
	助教	2					2
	計	4	6	4	1	1	16
計画 (令和 12 年度)	教授		2	5	2		9
	准教授	1	3				4
	講師	3					3
	助教	2					2
	計	6	5	5	2	0	18

(作業療法学科)

		30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	計
開設時 (令和 4 年度)	教授			2	3		5
	准教授						0
	講師	2	2				4
	助教	1					1
	計	3	2	2	3	0	10
計画 (令和 12 年度)	教授		1	3	1		5
	准教授		2	1			3
	講師	1	2				3
	助教	2					2
	計	3	5	4	1	0	13

【各棟および施設の名称について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟、W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、MTC=メディカル・トレーニング・センター(体育館)

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 ~ 10:30	科目	(選)健康科学 (スポーツ社会学を含む)	基礎ゼミナール	Aクラス (選)基礎体育		
	担当教員	佐野 加奈絵	中根 征也・角田 晃啓 阿部 秀高・松尾 浩希	伊奈 新太郎・中原 英博 佐野 加奈絵・信江 彩加		
	教室	S棟471	E棟221	MTC・グリーンスクエア他		
2時限 10:40 ~ 12:10	科目	(選)生物学	情報処理	Bクラス (選)基礎体育	リハビリテーション概論	
	担当教員	久国 正章	河村 廣幸・角田 晃啓	伊奈 新太郎・中原 英博 佐野 加奈絵・信江 彩加	角田 晃啓・金尾 顕郎 中根 征也	
	教室	E棟221	E棟401	MTC・グリーンスクエア他	E棟221	
3時限 13:00 ~ 14:30	科目	人体の構造Ⅰ(神経系)	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	Aクラス 英語Ⅰ(初級)	Bクラス 英語Ⅰ(初級)	
	担当教員	森谷 正之	北村 清一郎	藤重 仁子	長尾 晋宏	
	教室	E棟221	E棟221・E棟201	E棟414	E棟412	
4時限 14:40 ~ 16:10	科目	(選)生命倫理学	チーム医療見学実習		医療関係法規論	人体の機能Ⅰ(動物性機能)
	担当教員	神田 靖士	中根 征也		李 庸吉	今村 行雄
	教室	E棟221	E棟221		E棟221	C棟352
5時限 16:20 ~ 17:50	科目	社会福祉学	MBS (Morinomiya Basic Seminar)		(選)化学	心理学
	担当教員	掛川 直之	中根 征也		安部 辰夫	海蔵寺 陽子
	教室	E棟221	コスモホール		C棟352	C棟352

時間割表

後期

理学療法学科 1年

【各棟および施設の名称について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟、W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、MTC=メディカル・トレーニング・センター(体育館)

		月	火	水	木	金	
1時限 9:00 10:30	科目		(選) 哲学	基礎日常生活活動学	物理療法学		
	担当教員		松枝 啓至	仲本 正美・林 真太郎	仲本 正美・林 真太郎		
	教室		E棟415	E棟221・E棟304	E棟221		
2時限 10:40 12:10	科目		理学療法評価学総論	Aクラス 英語Ⅱ(中級)	Bクラス 英語Ⅱ(中級)	物理学	(選) 公衆衛生学
	担当教員		杉本 圭・仲本 正美 松尾 浩希・木内 隆裕	藤重 仁子	長尾 晋宏	久国 正章	今村 行雄
	教室		E棟221・E棟304	E棟412	E棟414	E棟415	E棟221
3時限 13:00 14:30	科目		基礎運動学	人体の構造Ⅱ(循環・内臓)		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	
	担当教員		角田 晃啓	森谷 正之		今村 行雄	
	教室		E棟221	E棟221		C棟352	
4時限 14:40 16:10	科目	基礎日常生活活動学		運動学実習	人体の構造演習Ⅱ(運動器)	臨床心理学	
	担当教員	仲本 正美・林 真太郎		前田 薫・工藤 慎太郎 角田 晃啓・仲本 正美	北村 清一郎	海蔵寺 陽子	
	教室	E棟221・E棟304		E棟304・305・307	E棟221・E棟201	C棟352	
5時限 16:20 17:50	科目					(選) 日本国憲法	
	担当教員					植田 重幸	
	教室					C棟559	

【臨床実習】臨床見学実習

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 ~ 10:30	科目	基礎理学療法学Ⅰ		(選)基礎英語演習	(選)生化学	
	担当教員	角田 晃啓・工藤 慎太郎 澤田 優子		長尾 晋宏	南方 克之	
	教室	E棟221		S棟374	C棟353	
2時限 10:40 ~ 12:10	科目		理学療法評価学各論	病理学	臨床運動学	(選)英会話
	担当教員		木内 隆裕・仲本 正美 杉本 圭・松尾 浩希	木田 岩男	工藤 慎太郎	藤重 仁子
	教室		E棟222・E棟304	E棟222	E棟222・E棟304	S棟374
3時限 13:00 ~ 14:30	科目	基礎理学療法学実習	理学療法評価学各論		(選)健康管理学Ⅰ	臨床病態学Ⅰ
	担当教員	中根 征也・堀 竜次・三木屋 良輔 杉本 圭・松尾 浩希・林 真太郎	木内 隆裕・仲本 正美 杉本 圭・松尾 浩希		中原 英博	青木 元邦
	教室	E棟304	E棟222・E棟304		E棟415	E棟222
4時限 14:40 ~ 16:10	科目	精神医学	チームリハビリテーション概論	整形外科学	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	医療コミュニケーション
	担当教員	石井 淳一	堀 竜次・小林 貴代・橋本 弘子・金尾 顕郎・ 渋谷 静英・井下 久美子	宮田 重樹 (8回)	前田 薫	三木屋 良輔・中根 征也・角田 晃啓
	教室	E棟222	E棟222・E棟304	C棟351	E棟222	E棟222
5時限 16:20 ~ 17:50	科目			整形外科学	基礎運動療法学総論	
	担当教員			宮田 重樹 (7回)	前田 薫・三木屋 良輔	
	教室			C棟351	E棟222・E棟304~308	

時間割表

後期

理学療法学科 2年

【各棟および施設の名称について】 E棟：イーストポート(East Port)=東棟、 W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、 C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、 S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、 MTC=メディカル・トレーニング・センター(体育館)

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 ~ 10:30	科目	基礎理学療法実習	(選) 身体運動科学	(選) 介護学概論・ボランティア活動論	(選) 医学英語	義肢装具学
	担当教員	中根 征也・堀 竜次・三木屋 良輔 杉本 圭・松尾 浩希・林 真太郎	中根 征也・木内 隆裕・松尾 浩希・中原 英博	前田 薫	長尾 晋宏	河村 廣幸・仲本 正美
	教室	E棟304	E棟222	E棟222	E棟222	E棟222
2時限 10:40 ~ 12:10	科目		内部障害系理学療法 I	生活環境論	チーム医療論	人体の構造実習
	担当教員		堀 竜次・角田 晃啓・金尾 顕郎	三木屋 良輔・林 真太郎	三木屋 良輔・中根 征也・角田 晃啓	川畑 浩久
	教室		E棟222	E棟222・E棟304	E棟222	C棟654
3時限 13:00 ~ 14:30	科目	(選) テーピング技術論	基礎運動療法学各論	臨床病態学Ⅲ	(選) 健康管理学Ⅱ	小児科学(人間発達学)
	担当教員	伊黒 浩二	三木屋 良輔・工藤 慎太郎	前川 佳敬・吉岡 敏治・松崎 伸介	中原 英博	澤田 優子
	教室	E棟222・E棟304	E棟222・E棟304・E棟401	E棟222	E棟415	E棟222
4時限 14:40 ~ 16:10	科目	(選) 理学療法臨床推論概論	運動器系理学療法 I	臨床病態学Ⅱ	(選) 東洋医療概論	地域理学療法学
	担当教員	中根 征也・杉本 圭	工藤 慎太郎	青木 元邦	横山 浩之	澤田 優子
	教室	E棟222	E棟222	E棟222	S棟374	E棟222
5時限 16:20 ~ 17:50	科目	神経系理学療法 I		(選) 応用英語演習	(選) 栄養学	
	担当教員	木内 隆裕・杉本 圭 松尾 浩希・中根 征也		長尾 晋宏	南方 克之	
	教室	E棟222・E棟304		S棟374	C棟352	

時間割表

前期

理学療法学科 3年

【各棟および施設の名称について】 E棟：イーストポート(East Port)=東棟、 W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、 C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、 S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、 MTC=メディカル・トレーニング・センター(体育館)

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 ~ 10:30	科目	臨床理学療法評価学実習	(選) 西洋史概説		基礎理学療法学Ⅱ	内部障害系理学療法学Ⅱ
	担当教員	中根 征也・堀 竜次・三木屋 良輔 杉本 圭・松尾 浩希・林 真太郎	松枝 啓至		角田 晃啓・工藤 慎太郎 澤田 優子	堀 竜次・角田 晃啓・金尾 顕郎
	教室	E棟304	S棟473		E棟223	E棟223・E棟304・E棟323
2時限 10:40 ~ 12:10	科目	(選) 統計学	(選) 東洋史概説	(選) スポーツ医学	臨床理学療法評価学(動作分析)	内部障害系理学療法学Ⅲ
	担当教員	井手口 範男	重信 あゆみ	川畑 浩久	三木屋 良輔・中根 征也	堀 竜次・角田 晃啓・金尾 顕郎
	教室	E棟401	S棟473	E棟223	E棟223・E棟304	E棟223・E棟304・E棟323
3時限 13:00 ~ 14:30	科目		IPW論	運動器系理学療法学Ⅱ		発達障害理学療法学
	担当教員		三木屋 良輔・中根 征也・角田 晃啓	工藤 慎太郎・前田 薫 河村 廣幸		澤田 優子
	教室		E棟223	E棟223・E棟304		E棟223
4時限 14:40 ~ 16:10	科目	神経系理学療法学Ⅱ		運動器系理学療法学Ⅲ		
	担当教員	木内 隆裕・杉本 圭 松尾 浩希・中根 征也		前田 薫・河村 廣幸 三木屋 良輔・工藤 慎太郎		
	教室	E棟223・E棟304・E棟323		E棟223・E棟304		
5時限 16:20 ~ 17:50	科目	神経系理学療法学Ⅲ		総合リハビリテーションIPW演習	(選) 統合医療概論	卒業研究Ⅰ
	担当教員	木内 隆裕・杉本 圭 松尾 浩希・中根 征也		三木屋 良輔・中根 征也	山下 仁・増山 祥子・森 美侖紀	理学療法学科教員
	教室	E棟223・E棟304・E棟323		E棟223・E棟304	C棟559・E棟201	担当教員の指示に従うこと

時間割表
後期
理学療法学科 3年

【各棟および施設の名称について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟、W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、MTC=メディカル・トレーニング・センター(体育館)

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 ~ 10:30	科目					老年期理学療法学
	担当教員					澤田 優子・林 真太郎
	教室					E棟223
2時限 10:40 ~ 12:10	科目					老年期理学療法学
	担当教員					澤田 優子・林 真太郎
	教室					E棟223
3時限 13:00 ~ 14:30	科目				理学療法特論Ⅰ	
	担当教員				木内 隆裕・澤田 優子・仲本 正美・杉本 圭・松尾 浩希	
	教室				E棟321	
4時限 14:40 ~ 16:10	科目		職場管理(教育を含む)	理学療法触診法	臨床理学療法評価学実習	
	担当教員		三木屋 良輔	工藤 慎太郎・前田 薫	中根 征也・堀 竜次・三木屋 良輔 杉本 圭・松尾 浩希・林 真太郎	
	教室		E棟223・E棟304	E棟223・E棟304	E棟304	
5時限 16:20 ~ 17:50	科目		職業倫理	理学療法触診法		卒業研究Ⅰ
	担当教員		三木屋 良輔	工藤 慎太郎・前田 薫		理学療法学科教員
	教室		E棟223・E棟304	E棟223・E棟304		担当教員の指示に従うこと

【臨床実習】臨床評価実習

時間割表
前期
理学療法学科 4年

【各棟および施設の名前について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟、W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、MTC=メディカル・トレーニング・センター(体育館)

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 ~ 10:30	科目			(選)神経系理学療法セミナー		
	担当教員			木内 隆裕・杉本 圭 松尾 浩希・中根 征也		
	教室			E棟321		
2時限 10:40 ~ 12:10	科目	(選)運動器系理学療法セミナー	臨床理学療法治療学実習	(選)内部障害系理学療法セミナー		
	担当教員	河村 廣幸・三木屋 良輔・仲本 正美 工藤 慎太郎	中根 征也・三木屋 良輔・堀 竜次 杉本 圭・松尾 浩希・林 真太郎	堀竜次・角田 晃啓		
	教室	E棟321	E棟321	E棟321		
3時限 13:00 ~ 14:30	科目		理学療法特論Ⅱ	(選)地域理学療法セミナー		
	担当教員		木内 隆裕・澤田 優子・仲本 正美・杉本 圭・松尾 浩希	澤田 優子		
	教室		E棟321	E棟321		
4時限 14:40 ~ 16:10	科目					
	担当教員					
	教室					
5時限 16:20 ~ 17:50	科目					卒業研究Ⅱ
	担当教員					理学療法学科教員
	教室					担当教員の指示に従うこと

【臨床実習】地域理学療法実習、臨床総合実習Ⅰ、臨床総合実習Ⅱ

時間割表
後期
理学療法学科 4年

【各棟および施設の名前について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟、W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、MTC=メディカル・トレーニング・センター(体育館)

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 ~ 10:30	科目	卒業研究Ⅱ				
	担当教員	理学療法学科教員				
	教室	担当教員の指示に従うこと				
2時限 10:40 ~ 12:10	科目	理学療法特論Ⅲ	理学療法特論Ⅲ	臨床理学療法治療学実習 ※詳細は担当教員の指示に従うこと		
	担当教員	木内 隆裕・澤田 優子・仲本 正美・杉本 圭・松尾 浩希	木内 隆裕・澤田 優子・仲本 正美・杉本 圭・松尾 浩希	中根 征也・三木屋 良輔・堀 竜次 杉本 圭・松尾 浩希・林 真太郎		
	教室	E棟321	E棟321	E棟321		
3時限 13:00 ~ 14:30	科目					理学療法特論Ⅲ ※詳細は担当教員の指示に従うこと
	担当教員					木内 隆裕・澤田 優子・仲本 正美・杉本 圭・松尾 浩希
	教室					E棟321
4時限 14:40 ~ 16:10	科目					
	担当教員					
	教室					
5時限 16:20 ~ 17:50	科目					卒業研究Ⅱ
	担当教員					理学療法学科教員
	教室					担当教員の指示に従うこと

【各棟および施設の名称について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟、W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、MTC=体育館

		月	火	水	木	金	
1時限	科 目	作業科学入門	人体の構造 I (神経系)	Aクラス (選)基礎体育	基礎ゼミナール		
	担当教員	由利 祿巳(7回)	森谷 正之	伊奈 新太郎・中原 英博 佐野 加奈絵・信江 彩加	小林 貴代・伊藤 直子・松下 太・橋本 弘子・由利 祿巳 中村 めぐみ・中西 一・東 泰弘・小川 泰弘・金森 幸		
	教 室	C棟453	E棟223	MTC・グリーンスクエア他 (作業・理学 合同)	C棟351・354・355 C棟551~554(詳細は学科の指示に従うこと)		
2時限	科 目	(選) 情報処理	基礎ゼミナール	Bクラス (選)基礎体育	人体の構造演習 I (運動器)		
	担当教員	信太 宗也	阿部 秀高(7回)	伊奈 新太郎・中原 英博 佐野 加奈絵・信江 彩加	北村 清一郎		
	教 室	E棟401	コスモホール (作業・検査 合同)	MTC・グリーンスクエア他 (作業・理学 合同)	C棟351・555・556・557		
3時限	科 目	基礎作業学	チーム医療見学実習 ※詳細は学科から連絡があります	作業科学入門		リハビリテーション概論	
	担当教員	橋本 弘子・中村 めぐみ 金森 幸・小川 泰弘	小林 貴代・橋本 弘子 小川 泰弘	橋本弘子・小川泰弘(8回)		由利 祿巳	
	教 室	C棟555・舞洲陶芸館	C棟352	C棟453		C棟454	
4時限	科 目	基礎作業学	MBS (Morinomiya Basic Seminar)	(選) 健康科学 (スポーツ社会学を含む) ※履修制限あり	人体の機能 I (動物性機能)	Aクラス 英語 I (初級)	Bクラス 英語 I (初級)
	担当教員	橋本 弘子・中村 めぐみ 金森 幸・小川 泰弘	橋本 弘子・小川 泰弘 金森 幸	佐野 加奈絵	五十嵐 淳介	藤重 仁子	長尾 晋宏
	教 室	C棟555・舞洲陶芸館	コスモホール・C棟352	C棟559 (作業・工学・放射線 合同)	C棟352	S棟374	S棟373
5時限	科 目		MBS (Morinomiya Basic Seminar)		(選) 化学	(選) 生物学	
	担当教員		橋本 弘子・小川 泰弘 金森 幸		安部 辰夫	安部 辰夫	
	教 室		コスモホール		C棟352 (作業・理学・放射線 合同)	C棟453 (作業・工学・放射線 合同)	

■臨地見学実習の履修登録は前期に行うこと(詳細は学科の指示に従ってください)

時間割表（案）

後期

作業療法学科 1年

【各棟および施設の名称について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟、W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、MTC=体育館

		月	火	水	木	金	
1時限	科 目	基礎運動学	(選) 哲学	人体の機能Ⅱ (植物性機能)	生命倫理学		
	9:00 10:30 担当教員	中西 一・東 泰弘	松枝 啓至	五十嵐 淳介	日高 明		
	教 室	C棟556・557	E棟415 (鍼灸・理学・看護・検査・作業 合同)	C棟351	C棟352		
2時限	科 目	基礎運動学		人体の構造Ⅱ (循環・内臓)	(選) 物理学	(選) 公衆衛生学	
	10:40 12:10 担当教員	中西 一・東 泰弘		森谷 正之	久国 正章	今村 行雄	
	教 室	C棟556・557		C棟351	E棟415 (理学・作業合同)	E棟221 (理学・作業 合同)	
3時限	科 目	作業療法概論	人体の構造演習Ⅱ (運動器)	作業療法評価学総論	心理学	作業療法評価学総論	
	13:00 14:30 担当教員	伊藤 直子	北村 清一郎	橋本 弘子・小川 泰弘 (8回)	神澤 創	松下 太 (7回)	
	教 室	C棟352	C棟452・555・556・557	C棟351	C棟352	S棟471	
4時限	科 目	社会福祉学		日常生活活動学		Aクラス 英語Ⅱ (中級)	Bクラス 英語Ⅱ (中級)
	14:40 16:10 担当教員	掛川 直之		小林 貴代・東 泰弘		藤重 仁子	長尾 晋宏
	教 室	C棟352		C棟556・C棟557		S棟374	S棟373
5時限	科 目					(選) 日本国憲法	
	16:20 17:50 担当教員					植田 重幸	
	教 室					C棟559 (理学・検査・作業・工学 合同)	

時間割表（案）

前期

作業療法学科 2年

【各棟および施設の名称について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟、W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、MTC=体育館

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 10:30	科目		チームリハビリテーション概論	精神医学	(選)基礎英語演習	(選)生化学
	担当教員		金尾 顕郎(5回)	正木 慶大	藤重 仁子	南方 克之
	教室		C棟352		E棟414 (作業・検査 合同)	C棟353 (理学・作業合同)
2時限 10:40 12:10	科目	小児科学(人間発達学)	精神医学	臨床病態学Ⅰ	医療コミュニケーション	(選)英会話
	担当教員	伊藤 直子・金森 幸	正木 慶大	五十嵐 淳介	小林 貴代・橋本 弘子	藤重 仁子
	教室	C棟352	C棟352	C棟453	C棟352	S棟374 (作業・理学 合同)
3時限 13:00 14:30	科目		病理学		(選)健康管理学Ⅰ ※履修制限あり	身体障害作業療法評価学
	担当教員		安部 辰夫		中原 英博	松下 太・中村 めぐみ・中西 一
	教室		C棟453		E棟415 (理学・看護・検査・作業・工学 合同)	C棟556・557
4時限 14:40 16:10	科目	臨床運動学	チームリハビリテーション概論			身体障害作業療法評価学
	担当教員	中西 一・東 泰弘	橋本 弘子・金森 幸・堀 竜次 渋谷 静英・戸名 久美子			松下 太・中村 めぐみ・中西 一
	教室	C棟556・557	C棟453			C棟556・557
5時限 16:20 17:50	科目	臨床運動学	チームリハビリテーション概論	チーム医療見学実習 ※詳細は後日連絡	(選)医療関係法規論	
	担当教員	中西 一・東 泰弘	渋谷 静英・戸名 久美子	作業療法学科教員(3回)	李 庸吉	
	教室	C棟556・557	C棟453		C棟453	

時間割表（案）

後期

作業療法学科 2年

【各棟および施設の名前について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟、W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、MTC=体育館

		月	火	水	木	金
1時限	科目		精神医学各論		(選)医学英語	人体の構造実習
	担当教員		正木 慶大		長尾 晋宏	川畑 浩久
	教室		C棟352		C棟354	C棟654
9:00 ~ 10:30						
2時限	科目	(選) 介護学概論・ボランティア活動論	精神医学各論	臨床病態学Ⅱ	精神障害作業療法評価学	発達障害作業療法評価学
	担当教員	上田 喜敏	正木 慶大	五十嵐 淳介	橋本 弘子・小川 泰弘	伊藤 直子・金森 幸
	教室	C棟354	C棟352	C棟352	C棟556	C棟556
10:40 ~ 12:10						
3時限	科目	臨床病態学Ⅲ	チーム医療論 ※詳細は担当教員の指示に従うこと		(選) 健康管理学Ⅱ ※履修制限あり	
	担当教員	前川 佳敏・松崎 伸介・吉岡 敏治	小林 貴代・橋本 弘子		中原 英博	
	教室	C棟453	C棟352		E棟415 (理学・看護・検査・作業・工学 合同)	
13:00 ~ 14:30						
4時限	科目		(選)応用英語演習	整形外科学	臨床心理学	高次脳機能障害作業療法評価学
	担当教員		藤重 仁子	宮田 重樹(8回)	神澤 創	中村 めぐみ・中西 一
	教室		S棟373 (作業・検査 合同)	C棟352	C棟352	C棟354
14:40 ~ 16:10						
5時限	科目	義肢装具学	(選) 身体運動科学	整形外科学	(選) 栄養学	
	担当教員	小林 貴代・中村 めぐみ	中根 征也・杉本 圭・松尾 浩希	宮田 重樹(7回)	南方 克之	
	教室	C棟555・556	E棟415 (看護・作業・検査・工学 合同)	C棟352	C棟352 (作業・理学・検査 合同)	
16:20 ~ 17:50						

時間割表(案)

前期

作業療法学科 3年

【各棟および施設の名称について】 E棟：イーストポート(East Port)=東棟、 W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、 C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、 S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、 MTC=体育館

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 10:30	科目	発達障害作業療法治療学総論		精神障害作業療法治療学総論	リハビリテーション医学	卒業研究Ⅰ ※12回目以降は各担当教員の指示に従うこと
	担当教員	伊藤 直子・金森 幸		橋本 弘子・小川 泰弘	前田 薫	松下 太(1~11回) 以降、作業療法学科教員
	教室	C棟454		C棟556	C棟454	担当教員の指示に従うこと
2時限 10:40 12:10	科目	身体障害作業療法治療学総論	地域作業療法学	高齢期障害作業療法治療学総論		総合リハビリテーションIPW演習
	担当教員	中村 めぐみ・小林 貴代 中西 一・東 泰弘	由利 祿巳	松下 太		松下 太
	教室	C棟454・556・557	C棟454	C棟351		C棟556
3時限 13:00 14:30	科目	東洋史概論	IPW論	生活環境論		
	担当教員	重信 あゆみ	作業療法学科教員	小林 貴代・東 泰弘		
	教室	E棟415	C棟454・556・557 ※担当教員の指示に従うこと	C棟556・557・558		
4時限 14:40 16:10	科目		西洋史概論		統合医療概論	
	担当教員		松枝 啓至		森 美侑紀(1回)	
	教室		E棟415		E棟201 (作業・理学・検査 合同)	
5時限 16:20 17:50	科目			IPW論	統合医療概論	
	担当教員			作業療法学科教員	山下 仁(10回)・増山 祥子(3回) 森 美侑紀(1回)	
	教室			担当教員の指示に従うこと	C棟559・E棟201 (作業・理学・検査 合同)	

■臨床評価実習の履修登録は前期に行うこと(詳細は学科の指示に従ってください)

時間割表(案)
後期
作業療法学科 3年

【各棟および施設の名称について】E棟：イーストポート(East Port)=東棟、W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、MTC=体育館

		月	火	水	木	金
1時限	科 目		発達障害作業療法治療学各論	精神障害作業療法治療学各論	障害者地域生活支援論	
	担当教員		伊藤 直子・金森 幸 (8回)	橋本 広子・小川 泰弘	伊藤 直子	
	教 室		C棟351	C棟556	C棟452	
2時限	科 目	統計学	(選)発達障害作業療法治療学演習	(選)精神障害作業療法治療学演習		
	担当教員	井手口 範男	伊藤 直子・金森 幸	橋本 弘子・小川 泰弘		
	教 室	E棟415	C棟556・557	C棟556		
3時限	科 目	身体障害作業療法治療学各論	職場管理	(選) 東洋医学概論Ⅱ	(選) 東洋医学概論Ⅰ	(選) 東洋医学概論Ⅱ
	担当教員	中西 一・小林 貴代・中村 めぐみ・東 泰弘	松下 太	横山 浩之(1回)	横山 浩之(8回)	横山 浩之(7回)
	教 室	C棟354・556	C棟354	S棟374	S棟374	
4時限	科 目	(選)身体障害作業療法治療学演習			職業倫理	(選)高齢期障害作業療法治療学演習
	担当教員	東 泰弘・小林 貴代・中村 めぐみ・中西 一			松下 太	由利 禄巳(14回) ※残りの1回は別途連絡
	教 室	C棟351・556			C棟354	C棟351
5時限	科 目					高齢期障害作業療法治療学各論
	担当教員					由利 禄巳(8回)
	教 室					C棟351

■卒業研究Ⅰ、臨床評価実習の履修登録は前期に終了しています

時間割表(案)

前期

作業療法学科 4年

【各棟および施設の名称について】 E棟：イーストポート(East Port)=東棟、 W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、 C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、 S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、 MTC=体育館

		月	火	水	木	金
1時限 9:00 ~ 10:30	科目	卒業研究Ⅱ ※詳細は担当教員の指示に従うこと				
	担当教員	作業療法学科教員				
	教室	担当教員の指示に従うこと				
2時限 10:40 ~ 12:10	科目					
	担当教員					
	教室					
3時限 13:00 ~ 14:30	科目					
	担当教員					
	教室					
4時限 14:40 ~ 16:10	科目					
	担当教員					
	教室					
5時限 16:20 ~ 17:50	科目					
	担当教員					
	教室					

■臨床総合実習の履修登録は前期に行うこと(詳細は担当教員の指示に従ってください)

時間割表（案）

後期

作業療法学科 4年

【各棟および施設の名称について】 E棟：イーストポート(East Port)=東棟、 W棟：ウエストポート(West Port)=西棟、 C棟：キャナルポート(Canal Port)=南棟、 S棟：さくらポート(SAKURA Port)=さくら棟、 MTC=体育館

		月	火	水	木	金
1時限	科目				作業療法特論Ⅰ ※詳細は担当教員の指示に従うこと	
	担当教員				作業療法学科教員	
	9:00 10:30 教室				C棟355・356	
2時限	科目				作業療法特論Ⅱ ※詳細は担当教員の指示に従うこと	
	担当教員				作業療法学科教員	
	10:40 12:10 教室				C棟355・356	
3時限	科目					
	担当教員					
	13:00 14:30 教室					
4時限	科目					
	担当教員					
	14:40 16:10 教室					
5時限	科目					
	担当教員					
	16:20 17:50 教室					

■卒業研究Ⅱの履修登録は前期に終了しています

【資料 1 1 - 3】 森ノ宮医療大学附属図書館 リハビリテーション関連図書 所蔵冊数

リハビリテーション関連図書

令和 2 年 11 月現在

分野	図書	製本雑誌	消耗図書	映像資料	電子書籍	小計
理学療法	1,062	97	98	0	1	1,258
作業療法	552	34	120	3	0	709
言語聴覚	19	0	0	0	0	19
スポーツ医学	33	60	0	0	0	93
整形外科	388	95	1	1	0	485
内科	229	6	1	6	0	242
精神科	120	20	1	16	0	157
心療内科	20	0	0	2	0	22
解剖学	367	0	1	5	8	381
生理学	368	5	21	0	0	394
運動学	100	0	1	0	0	101
バイオメカニクス	33	4	0	3	0	40
社会福祉	94	18	4	0	0	116
リハビリテーション	671	73	1	14	1	760
小計	4,056	412	249	50	10	4,777

【資料11-4】森ノ宮医療大学附属図書館 リハビリテーション関連雑誌 所蔵リスト

和雑誌 (193誌)

No.	雑誌名	出版者
1	Anti-aging science	メディカルレビュー社
2	Astellas square	アステラス製薬
3	日本循環器学会 会告 Circulation journal	社団法人 日本循環器学会
4	EBMジャーナル	中山書店
5	Food function	国際食品機能学会
6	Geriatric medicine	[ライフサイエンス社]
7	Health sciences	日本健康科学学会
8	Japan Medical Society	菊医会
9	Nature digest	ネイチャー・ジャパン
10	Newton	教育社
11	The Lipid	メディカルレビュー社
12	アンチ・エイジング医学	メディカルレビュー社
13	医と食	生命科学振興会「医と食」編集部
14	医学教育	日本医学教育学会
15	医学と薬学	自然科学出版
16	医学のあゆみ	医歯薬出版
17	Infection control	メディカ出版
18	エルダー	高齢者雇用開発協会
19	大阪医学	大阪府医師会医学会
20	家族看護	日本看護協会出版会
21	環境感染	日本環境感染学会
22	看護	日本助産婦看護婦保健婦協會
23	看護技術	メヂカルフレンド社
24	看護研究	医学書院
25	看護展望	メヂカルフレンド社
26	看護と情報	看護図書館協議会
27	看護人間工学研究誌	日本人間工学会看護人間工学会
28	緩和ケア	青海社
29	がん看護	南江堂
30	眼科ケア	メディカ出版
31	杏雨	武田科学振興財団
32	血管医学	メディカルレビュー社
33	血圧	先端医学社
34	健康医科学	明治生命厚生事業団
35	月刊ナースデータ	日総研出版
36	公衆衛生	日本醫學雑誌
37	高次脳機能研究	日本高次脳機能障害学会
38	厚生指標	厚生統計協会
39	呼吸と循環	医学書院
40	呼吸器ケア	メディカ出版
41	呼吸器ジャーナル	医学書院
42	子どもと家族のケア	日総研出版
43	消化器外科nursing	メディカ出版
44	消化器ナーシング	メディカ出版
45	小児看護	へるす出版
46	職リハネットワーク	日本障害者雇用促進協会障害者職業総合センター
47	診断と治療	診断と治療社
48	新薬と臨床	医薬情報研究所
49	心理臨床学研究	日本心理臨床学会
50	循環器ジャーナル	医学書院
51	循環器専門医	日本循環器学会
52	循環器内科	科学評論社
53	循環器科	科学評論社
54	循環器病ガイドシリーズ	一般社団法人日本循環器学会
55	整形外科看護	メディカ出版
56	精神医学	医学書院
57	精神看護	医学書院
58	精神療法	金剛出版
59	精神科	科学評論社
60	精神科治療学	星和書店
61	精神科臨床サービス	星和書店
62	成人病と生活習慣病	東京医学社

63	総合臨牀	永井書店
64	ターミナルケア	三輪書店
65	チャイルドヘルス	診断と治療社
66	内科	南江堂
67	日本医師會雑誌	[日本医師会]
68	日本医事新報	日本医事新報社
69	日本栄養・食糧学会誌	日本栄養・食糧学会
70	日本周産期メンタルヘルス学会会誌	日本周産期メンタルヘルス学会
71	日本周産期メンタルヘルス研究会会誌	日本周産期メンタルヘルス研究会
72	日本食品安全協会誌	健康食品管理士認定協会 日本食品安全協会
73	日本循環器学会近畿地方会	一般社団法人日本循環器学会
74	日本精神保健看護学会誌	日本精神保健看護学会
75	日本内科学会雑誌	日本内科学会
76	日本内分泌学会雑誌	日本内分泌学会
77	日本認知症ケア学会誌	日本認知症ケア学会
78	日本ペインクリニック学会誌	日本ペインクリニック学会
79	日本臨牀	日本臨牀社
80	日本臨床内科医会会誌	日本臨床内科医会
81	日本老年医学会雑誌	日本老年医学会
82	Neonatal care	メディカ出版
83	Brain nursing	メディカ出版
84	ペリネイタル・ケア	メディカ出版
85	訪問看護と介護	医学書院
86	母性衛生	日本母性衛生学会
87	麻酔	克誠堂出版
88	みんなの呼吸器Respica	メディカ出版
89	臨床心理学	金剛出版
90	臨床透視	日本メディカルセンター
91	臨床老年看護	日総研出版
92	老健	全国老人保健施設協会
93	老年社会科学	サンエイジング
94	老年精神医学雑誌	ワールドプランニング
95	ロハス・メディカル	ロハスメディア
96	Japanese journal of medical ultrasonics	日本超音波医学会
97	Medical technology	医歯薬出版
98	The Bone	メディカルレビュー社
99	画像診断	秀潤社
100	検査と技術	医学書院
101	Clinical neuroscience	中外医学社
102	ゲノム医学	メディカルレビュー社
103	心エコー	文光堂
104	生化学	日本生化学會
105	生体の科学	醫學書院
106	バイオメカニクス研究	日本バイオメカニクス学会
107	日本運動生理学雑誌	イセブ
108	日本臨床生理学会雑誌	日本臨床生理学会
109	Clinical engineering	秀潤社
110	医療機器学	日本医療機器学会
111	循環制御	小玉株式会社出版部
112	人間工学	日本人間工学会
113	生命倫理	成文堂
114	大阪作業療法ジャーナル	大阪府作業療法士会
115	こころの科学	日本評論社
116	コミュニティケア	日本看護協会出版会
117	作業療法	日本作業療法士協会
118	作業療法ジャーナル	三輪書店
119	日本温泉気候物理医学会雑誌	日本温泉気候物理医学会
120	認知症ケア最前線	QOLサービス
121	脳と発達	診断と治療社
122	働く広場	身体障害者雇用促進協会
123	臨床作業療法	青海社
124	日本環境感染学会総会・学術集会プログラム・抄録集	日本環境感染学会総会事務局
125	日本環境感染学会誌	日本環境感染学会
126	日本物理療法学会会誌	日本物理療法学会
127	Medical practice	文光堂

128	Brain and nerve	医学書院
129	Journal of spine research.	日本脊椎脊髄病学会
130	Medical science digest.	ニュー・サイエンス社
131	Rehabilitation engineering	日本リハビリテーション工学協会
132	Training journal	ブックハウスHD
133	愛知県理学療法白書	社団法人日本理学療法士協会 愛知県理学療法士会
134	エム・オー・エー健康科学センター研究報告集	エム・オー・エー健康科学センター編集委員会
135	大阪府理学療法士会誌：physiotherapy Osaka	大阪府理学療法士会
136	Monthly book orthopaedics	全日本病院出版会
137	関節外科	メジカルビュー社
138	近代柔道	ベースボールマガジン社
139	Journal of clinical rehabilitation.	医歯薬出版株式会社
140	高知県理学療法	高知県理学療法士会学術教育部
141	骨・関節・靭帯	アークメディア
142	サッカークリニック	ベースボール・マガジン社
143	手技療法	たにぐち書店
144	神経心理学	日本神経心理学会
145	柔道整復接骨医学会誌	日本柔道整復・接骨医学会
146	自律神経	日本ヘキスト
147	整形・災害外科	金原出版株式会社
148	整形外科	南江堂
149	整形外科リハビリテーション学会学会誌	整形外科リハビリテーション学会
150	精神障害とリハビリテーション	日本精神障害者リハビリテーション学会
151	総合リハビリテーション	医学書院
152	中部リハビリテーション雑誌	中部リハビリテーション専門学校同窓会「同友会」
153	地域リハビリテーション	三輪書店
154	治療	南山堂書店
155	デサントスポーツ科学	デサントスポーツ科学振興財団
156	東北理学療法学会	日本理学療法士協会東北ブロック協議会
157	日本柔道整復接骨医学会誌	日本柔道整復接骨医学会
158	日本整形外科学会雑誌	
159	日本体育学会	日本体育学会大会事務局
160	日本体力医学会大会予稿集	[日本体力医学会]
161	日本東洋医学雑誌	日本東洋医学会
162	日本腰痛学会雑誌	日本腰痛学会
163	日本腰痛研究会雑誌	日本腰痛研究会
164	日本理学療法学会 プログラム・抄録集	社団法人全国病院理学療法協会
165	日本臨床スポーツ医学会誌	日本臨床スポーツ医学会
166	脳21	金芳堂
167	Monthly book medical rehabilitation.	全日本病院出版会
168	理学療法	メディカルプレス
169	理学療法学会	日本理学療法士協会
170	理学療法京都	京都府理学療法士会
171	理学療法ジャーナル	医学書院
172	理学療法探求	長崎大学理学療法学会同門会
173	理学療法と作業療法	医学書院
174	理学療法の歩み	宮城県理学療法士会
175	理学療法の医学的基礎	理学療法の医学的基礎研究会学術誌編集委員会
176	理学療法白書	日本理学療法士協会
177	リハビリナース	メディカ出版
178	リハビリテーション	鉄道身障者福祉協会
179	リハビリテーション医学	医学書院
180	リハビリテーション教育研究	全国私立リハビリテーション学校連絡協議会
181	リハビリテーション研究	日本障害者リハビリテーション協会
182	リハビリテーションひろば	日本リハビリテーション振興会
183	リハビリテーション連携科学	メヂカルフレンド社
184	臨床スポーツ医学	文光堂
185	臨床整形外科	医学書院
186	臨床と研究	大道學館出版部
187	臨床理学療法	日本理学療法士協会
188	解剖学雑誌	日本解剖学会
189	PNF fun!	日本PNF協会
190	PNFリサーチ	日本PNF研究会
191	体力科学	高山書院
192	日経メディカル	日経BP社
193	大阪府立急性期・総合医療センター医学雑誌	大阪府立急性期・総合医療センター

洋雑誌 (40誌)

No.	雑誌名	出版者
1	The lancet	Elsevier
2	Translational research	Elsevier
3	The journal of clinical hypertension	Le Jacq Communication
4	The journal of alternative and complementary medicine.	Mary Ann Liebert
5	Science	American Association for the Advancement of Science
6	PAIN	Elsevier/North-Holland
7	New England journal of medicine	Massachusetts Medical Society
8	Nature medicine	Nature Pub. Co.
9	Nature	Macmillan Journal
10	Journal of hypertension	Wolters Kluwer/Lippincott Williams & Wilkins
11	JAMA	American Medical Association
12	Integrative Medicine Research	Elsevier
13	Hypertension research.	Japanese Society of Hypertension
14	Geriatrics & gerontology international.	Blackwell Science Asia ; The Japan Geriatrics Society
15	Endocrine news	The Endocrine Society
16	Complementary therapies in medicine	Churchill Livingstone
17	Complementary therapies in clinical practice	Elsevier
18	Chinesische Medizin	Urban & Vogel
19	American journal of Chinese medicine	World Scientific Publishing CO Pte Ltd.
20	Clinical chemistry	American Association for Clinical Chemistry
21	Journal of Pharmacopuncture	Korean Phamacopuncture Institute
22	Journal of bone and mineral research (JBMR)	Mary Ann Liebert
23	Journal of bone and mineral metabolism.	Japanese Society for Bone and Mineral Research
24	Focus on alternative and complementary therapies	Pharmaceutical Press
25	Transactions of the ASME. Ser. K, Journal of biomechanical engineering	American Society of Mechanical Engineers
26	The Canadian journal of occupational therapy	Sage
27	The British journal of occupational therapy	British Association of Occupational Therapists
28	Journal of occupational science	Association for the journal of Occupational Science
29	The j ournal of orthopaedic and sports physical therapy	Journal of orthopaedic & sports physical therapy
30	Physiotherapy	Elsevier
31	Physical therapy	American Physical Therapy Association
32	Neurology	American Academy of Neurology
33	Medicine and science in sports and exercise	American College of Sports Medicine
34	Journal of the Japanese Physical Thrapy Association	Japanese Physical Therapy Association
35	International journal of sports medicine	G. Thieme
36	Gait & posture	Butterworth-Heinemann
37	Archives of physical medicine and rehabilitation	Elsevier
38	Advances in exercise and sports physiology.	Japan Society of Exercise and Sports Physiology
39	Anatomical science international.	Blackwell Publishing / Springer Japan
40	American journal of occupational therapy	American Occupational Therapy

研究紀要（49誌）

No.	雑誌名	出版者
1	藍野学院紀要	藍野学院
2	藍野大学紀要	藍野大学
3	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要	大阪体育大学
4	関西医療大学紀要	関西医療大学
5	九州看護福祉大学紀要	九州看護福祉大学
6	群馬医療福祉大学紀要	昌賢学園群馬医療福祉大学
7	群馬バース大学紀要	群馬バース大学
8	群馬保健学紀要	群馬大学医学部保健学科
9	札幌保健医療大学紀要	札幌保健医療大学
10	札幌保健科学雑誌	札幌医科大学保健医療学部
11	仙台白百合女子大学紀要	仙台白百合女子大学：[仙台白百合]短期大学
12	東京医療学院大学紀要	[東京医療学院大学図書紀要委員会]
13	東北福祉大学研究紀要	東北福祉大学
14	日本保健医療大学紀要	日本保健医療大学
15	浜松大学保健医療学部紀要	浜松大学
16	兵庫医療大学紀要	兵庫医療大学紀要編集委員会
17	広島大学保健学ジャーナル	広島大学医学部保健学出版会
18	森ノ宮医療大学紀要	森ノ宮医療大学紀要編集委員会
19	了徳寺大学研究紀要	了徳寺大学
20	老人病研究所紀要	博慈会
21	甲南女子大学研究紀要・看護学・リハビリテーション学編	甲南女子大学図書・メディア委員会
22	紀要	関西総合リハビリテーション専門学校
23	植草学園大学研究紀要	植草学園大学研究委員会
24	大阪河崎リハビリテーション大学紀要	大阪河崎リハビリテーション大学
25	大阪体育大学教育学研究	大阪体育大学教育学部
26	会報	社団法人 東洋療法学校協会
27	学術研究論文集	中部リハビリテーション専門学校
28	神戸学院総合リハビリテーション研究	神戸学院大学総合リハビリテーション学会
29	神戸国際大学紀要	神戸国際大学学術研究会
30	神戸国際大学リハビリテーション研究	神戸国際大学リハビリテーション学研究所
31	佐久大学看護研究雑誌	佐久大学看護学部
32	作新学院大学紀要	作新学院大学経営学部
33	作新学院大学女子短期大学部紀要	作新学院大学女子短期大学部
34	作新学院大学人間文化学部紀要	作新学院大学人間文化学部
35	作新経営論集	作新学院大学経営学部
36	作新総合政策研究	作新学院大学総合政策学部
37	作大論集	作新学院大学：作新学院大学女子短期大学部
38	社会安全学研究	関西大学社会安全学部
39	四條畷学園大学リハビリテーション学部紀要	四條畷学園大学
40	常葉大学健康科学部研究報告集	常葉大学健康科学部
41	常葉大学健康プロデュース学部雑誌	常葉大学浜松キャンパス
42	名古屋学院大学論集・医学・健康科学・スポーツ科学篇	名古屋学院大学総合研究所
43	新潟リハビリテーション大学紀要	新潟リハビリテーション大学
44	西九州リハビリテーション研究	西九州大学リハビリテーション学部
45	北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要	北翔大学
46	北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報	北翔大学
47	目白大学健康科学研究	目白大学
48	リハビリテーション科学：東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科学科長	東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科学科長
49	リハビリテーション科学ジャーナル	聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部紀要委員会

**【資料 1 1 - 5】 森ノ宮医療大学附属図書館 リハビリテーション関連データベース・電子ジャーナル
所蔵リスト**

データベース (4タイトル)

No.	タイトル	掲載誌件数
1	メディカルファインダー (検索サイト名「医書.jp」)	56誌 (医学系ジャーナル、リハビリテーション関係ジャーナル、学会誌等 閲覧・入手可能)
2	ProQuest Nursing & Allied Health Source	1686誌 (MEDLINE, Nursing & Allied Health Source等、保健医療系学生に最適なリソース)
3	医中誌Web版	7000誌
4	メディカルオンライン	1354誌

電子ジャーナル (18タイトル)

No.	タイトル	和洋区別
1	Nursing Science Quarterly	洋
2	Journal of Applied Physiology	洋
3	British Medical Journal	洋
4	Brain: Journal of Neurology	洋
5	Complementary Medicine Research	洋
6	Clinical Rehabilitation	洋
7	Neurorehabilitation and Neural Repair	洋
8	Annals of Biomedical Engineering	洋
9	Clinical Chemistry	洋
10	American Journal of Occupational Therapy	洋
11	Journal of Orthopaedic & Sports Physical Therapy	洋
12	British Journal of Occupational Therapy	洋
13	Canadian Journal of Occupational Therapy	洋
14	Annals of Biomedical Engineering	洋
15	American Journal of Chinese Medicine	洋
16	European Journal of Integrative Medicine	洋
17	Journal of Electromyography and Kinesiology	洋
18	Neuroscience Research	洋

森ノ宮医療大学

学 則 (案)

第一章	目的
第二章	自己点検評価及び第三者評価
第三章	学部・学科等及び附属施設
第四章	学年、学期及び休業日
第五章	修業年限及び在学年限
第六章	入学
第七章	教育課程、履修方法等
第八章	休学、復学、転学、退学及び除籍
第九章	卒業及び学位
第十章	科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴 講生及び外国人留学生
第十一章	職員組織
第十二章	教授会、各種委員等
第十三章	入学検定料、入学料、授業料等
第十四章	賞罰
第十五章	大学開放及び生涯学習事業
第十六章	雑則

第一章 目的

(目的)

第1条 豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療の実践に求められる幅広い知識・高度な専門技術・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成する。疾病の予防と治療や健康の維持と増進に有用な科学的根拠を示し、現代医学と伝統医学の双方を尊重した特色ある教育研究活動によって医学と医療の発展に寄与し、広く社会に貢献する。これをもって、専門職業人養成と社会貢献の機能を果たす。

第二章 自己点検評価及び第三者評価

(自己点検評価及び第三者評価)

第2条 本学は、教育水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育・研究・組織・運営・施設及び設備の状況について、自己点検評価を行う。

2 自己点検評価に関する必要な事項は別に定める。

3 本学は前項の措置に加え、その教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者（以下「認証評価機関」という。）による評価（以下「認証評価」という。）を受けるものとする。

4 自己点検評価および第三者評価の結果を公表するものとする。

(情報の積極的な公開)

第3条 本学における教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができする方法によって積極的にその情報を公開するものとする。

第三章 学部・学科等及び附属施設

(学部、学科、入学定員及び収容定員)

第4条 本学に看護学部、総合リハビリテーション学部及び医療技術学部を置く。

2 看護学部に看護学科を置き、総合リハビリテーション学部に理学療法学科及び作業療法学科を置き、医療技術学部に鍼灸学科、臨床検査学科、臨床工学科及び診療放射線学科を置く。

3 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
看護学部	看護学科	90	360
総合リハビリテーション学部	理学療法学科	70	280
	作業療法学科	40	160

医療技術学部	鍼灸学科	60	240
	臨床検査学科	70	280
	臨床工学科	60	240
	診療放射線学科	80	320
合計		470	1880

4 医療技術学部鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。

5 鍼灸コースは、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。

(学部の目的)

第4条の2 前条第1項に定める各学部の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 看護学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。
- (2) 総合リハビリテーション学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーションを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人の育成を目的とする。
- (3) 医療技術学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、チーム医療において科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。

(学科の目的)

第4条の3 第4条第2項に定める各学科の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 看護学部看護学科は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、利他主義や論理性などの人間として豊かな教養、医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。
- (2) 総合リハビリテーション学部理学療法学科は、チーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ、人に優しい理学療法を創造的に実践できる能力を身につけた人材の育成を目的とする。
- (3) 総合リハビリテーション学部作業療法学科は、命の尊さや人としての尊厳を大切にする感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献する作業療法士の養成を目的とする。
- (4) 医療技術学部鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。
- (5) 医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。

- (6) 医療技術学部臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。
- (7) 医療技術学部臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。
- (8) 医療技術学部診療放射線学科は、人間性豊かで高いモラルを有する医療人として、チーム医療における役割と職責を自覚し、放射線診療を実践できる確かな専門知識と技術を身につけた人材の育成を目的とする。

(大学院)

第4条の4 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する規則は別に定める。

(専攻科)

第4条の5 本学に次の専攻科を置く。

(1) 助産学専攻科

2 専攻科に関する規則は別に定める。

(附属施設)

第5条 本学に次の附属施設を置く。

(1) 附属図書館

(2) 附属臨床実習施設

2 前項の附属施設に関し必要な事項は別に定める。

第四章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を次の2学期にわけるとする。

(1) 前期4月1日から9月30日まで

(2) 後期10月1日から3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 土曜日及び日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
 - (3) 春期休業日 3月21日から3月31日まで
 - (4) 夏期休業日 8月11日から9月30日まで
 - (5) 冬期休業日 12月25日から1月7日まで
- 2 学長は前項の規定に関わらず、特別の必要があると認めるときは、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更し、若しくは休業日に授業を行うことができる。

第五章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第9条 本学の修業年限は4年とする。

(在学年限)

第10条 学生は8年を超えて在学することはできない。ただし、第16条、第17条、第18条の規定により入学した学生は、第19条の規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する期間を超えて在学することができない。

第六章 入学

(入学の時期)

第11条 入学の時期は学年の始めとする。

- 2 ただし、第16条、第17条、第18条の規定により入学する場合及び特別の必要があり、かつ、教育上支障がないと認められる場合は、学期の始めとする。

(入学資格)

第12条 本学に入学することができる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに該当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

(7) 前各号に定める者の他、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者

(入学の出願)

第13条 本学に入学を志願する者は、本学指定の期日までに、入学願書に入学検定料を添えて学長に提出しなければならない。

(入学者の選考)

第14条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第15条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学料及び学納金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第16条 学長は、編入学を志望するものがあるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に編入学を許可することができる。

2 本学に入学することができる者は、次の各号の一つに該当する者とする。

(1) 大学及び短期大学の課程を卒業した者か、卒業見込みの者

(2) 高等専門学校の課程を卒業した者か、卒業見込みの者

(3) 学校教育法第三十二条に定める専修学校を卒業した者か、卒業見込みの者

(転入学)

第17条 学長は、他の大学に在籍しているもので、本学への転入学を志願する者があるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(再入学)

第18条 学長は、再入学を志願する者があるときは、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(編入学等の場合の取扱い)

第19条 第16条、第17条、第18条の規定により入学を許可された者が既に修得した授業科目及びその単位数の取扱い、履修すべき授業科目並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴き、学長が決定する。

第七章 教育課程、履修方法等

(教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 看護学部看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 総合リハビリテーション学部理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 総合リハビリテーション学部作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 医療技術学部鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 医療技術学部臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 医療技術学部臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。
- 9 医療技術学部診療放射線学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第8のとおりとする。

第21条 授業は、講義、演習、実習のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

第22条 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(単位の計算方法)

第23条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実習については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

(1年間の授業期間)

第24条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週とすることを原則とする。

(単位の授与)

第25条 授業科目を履修し、その試験に合格した者に、担当の教員は所定の単位を与える。

- 2 前項の試験は、当該授業科目を履修した者でなければ、受けることができない。

(成績の評価)

第26条 成績の評価は、優、良、可及び不可の4段階をもって表示し、優、良及び可を合格とする。

(試験の種類)

第27条 各授業科目の試験は、定期試験、追試験、再試験及び臨時試験等とする。

(入学前及び在学時における他大学等での既修得単位等の認定)

第28条 学長は教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学等で履修した授業科目について修得した単位（大学等で科目等履修生として修得した単位を含む）を、該当する授業科目を本学において履修及び修得したものと見なし、単位を与えることができる。

- 2 学長は教育上有益と認めるときは、あらかじめ他の大学等と協議の上、学生が授業科目を履修することを認め、その履修した授業科目について修得した単位は本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 3 前二項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、第16条の編入学、第17条の転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、60単位を超えないものとする。

(教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状	養護
医療技術学部	鍼灸学科スポーツ特修コース	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健体育 保健体育

- 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第1の看護学部看護学科の教育課程及び別表第5の医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースの教育課程及び別表第9の教職に関する科目のうちから、所定の単位を修得しなければならない。
- 3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

第八章 休学、復学、転学、退学及び除籍

(休学)

第29条 疾病その他やむを得ない事情により3ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

- 2 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合において、学長の許可を得たときは、この限りでない。
- 3 休学の期間は通算して4年を超えることはできない。
- 4 休学の期間は第10条に規定する在学年限に算入しない。

(復学)

第30条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第31条 本学への在学期間中、他の大学等への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(退学)

第32条 退学しようとするものは、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第33条 次の各号に該当する者は、学長が除籍することができる。

- (1) 第10条の規定により定められた在学年限を超えた者
 - (2) 第29条の規定により定められた休学期間を超えて、なお復学することができない者
 - (3) 授業料を納入しない者
 - (4) 死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者
- 2 前項(3)により除籍となった者が、所定の期日内に学費を納付した場合、復籍を認めることがある。

第九章 卒業及び学位

(卒業)

第34条 本学に4年(第16条、第17条、第18条の規定により入学したものについては、第19条の規定により定められた在学すべき年数)以上在学し、所定の授業科目を履修し、単位を修得した者については、教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定する。

- 2 学長は、前項の卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

(学位の授与)

第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
看護学部	看護学科	学士(看護学)

総合リハビリテーション学部	理学療法学科 作業療法学科	学士（理学療法学） 学士（作業療法学）
医療技術学部	鍼灸学科 臨床検査学科 臨床工学科 診療放射線学科	学士（鍼灸学） 学士（臨床検査学） 学士（臨床工学） 学士（診療放射線学）

第十章 科目等履修生、研究生、聴講生、特別聴講生及び外国人留学生

（科目等履修生）

第36条 本学において、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、学長は選考の上、科目等履修生として履修を許可することができる。

（研究生）

第37条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学長は選考の上、入学を許可することができる。

2 研究生となることを志願することができる者は大学を卒業した者又はこれと同等以上の能力があると学長が認めた者とする。

（聴講生）

第38条 本学において、特定の授業科目について聴講を志願するものがあるときは、学長は選考の上、入学を許可することができる。

（特別聴講生）

第38条の2 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。以下この条において同じ）の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他の大学又は短期大学との協議に基づき、学長は、特別聴講生として入学を許可することができる。

（外国人留学生）

第39条 外国人で、本学に入学を志願する者があるときは、学長は選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

第十一章 職員組織

（職員）

第40条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員及びその他の必要な職員を置く。

2 学長が必要と認めた場合には副学長を置くことができる。

(各組織の長)

第41条 本学に、学長のほか、事務局長、研究科長、学部長、専攻科長、学科長、附属臨床実習施設長、及び附属図書館長等を置く。

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

5 学部長は、本学の教授をもって充て、各学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。

6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。

7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。

8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

第十二章 教授会、各種委員等

(教授会)

第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。

2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

3 本条に定めるもののほか、教授会に関して必要な事項は、別に定める。

(専門委員会)

第44条 本学に、専門事項を審議する専門委員会を置く。

2 専門委員会は学長の付託を受け専門事項を審議する。

3 専門委員会に関し、必要な事項は別に定める。

第十三章 入学検定料、入学料、授業料等

(授業料等の金額)

第45条 本学の入学検定料、入学料、授業料、教育充実費の納入額は別表第10のとおりとする。

(授業料等の納付)

第46条 本学の学生の授業料等は4月1日から9月30日までを前期、10月1日から翌年3月31日までを後期とし、その年額の2分の1に相当する額を、学長が指定した日までに納付しなければならない。

2 経済的事由により授業料等の納付が困難であって、学業優秀と認められた者その他やむを得ない事情があると認められた者については、授業料等の全部若しくは一部の納付を免除し、又はその徴収を猶予することができる。

3 第29条により休学を認められた学生の学納金は、各学期の授業料の5分の1とする。

4 既に納付した入学検定料、授業料は、返還しない。

第十四章 賞罰

(表彰)

第47条 学長は、表彰に値する行為があった学生を表彰することができる。

(懲戒)

第48条 学長は、本学の学則その他学生に関する諸規定に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者に対して、懲戒することができる。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行うことができる。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業を怠り卒業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席が常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第十五章 大学開放及び生涯学習事業

(大学開放)

第49条 本学は、教育研究上の支障のない限りにおいて、その教育研究施設及び設備を積極的に開放する。

(生涯学習事業)

第50条 本学は、地域社会の発展に寄与するため、生涯学習事業をとおして本学の教育研究資源の地域社会への還元に積極的に努めるものとする。

第十六章 雑則

(雑則)

第51条 この学則に定めるもののほか、この学則の施行に関し必要な事項は学長が別に定める。

附 則

- 1 この学則は平成19年4月1日から施行する。ただし、第12条、第13条、第14条、第15条、第45条、第46条の規定は、文部科学大臣が本学の設置を認可した日より施行する。
- 2 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成19年度	120人				120人
平成20年度	120人	120人			240人
平成21年度	120人	120人	120人		360人
平成22年度	120人	120人	120人	120人	480人

- 3 この学則は平成23年4月1日から施行する。
- 4 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成23年度	200人	120人	120人	120人	560人
平成24年度	200人	200人	120人	120人	640人
平成25年度	200人	200人	200人	120人	720人
平成26年度	200人	200人	200人	200人	800人

- 5 平成23年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 6 この学則は平成24年4月1日から施行する。ただし、平成24年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 7 この学則は平成25年4月1日から施行する。
- 8 この学則は平成27年4月1日から施行する。
- 9 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成28年度	300人	200人	200人	200人	900人
平成29年度	300人	300人	200人	200人	1000人
平成30年度	300人	300人	300人	200人	1100人
平成31年度	300人	300人	300人	300人	1200人

- 10 この学則は平成28年4月1日から施行する。ただし、平成28年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 11 この学則は平成29年4月1日から施行する。ただし、平成29年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。
- 12 この学則は平成30年4月1日から施行する。
- 13 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の数に読み替

えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
平成30年度	380人	300人	300人	200人	1180人
平成31年度	380人	380人	300人	300人	1360人
平成32年度	380人	380人	380人	300人	1440人
平成33年度	380人	380人	380人	380人	1520人

14 この学則は平成31年4月1日から施行する。

15 この学則は令和2年4月1日から施行する。

16 第4条第2項適用にあたって、同条中の収容定員については、次表に掲げる年度の人数に読み替えるものとする。

年度	1年次	2年次	3年次	4年次	収容定員
令和2年度	470人	380人	380人	300人	1530人
令和3年度	470人	470人	380人	380人	1700人
令和4年度	470人	470人	470人	380人	1790人
令和5年度	470人	470人	470人	470人	1880人

17 この学則は令和3年3月1日から施行する。

18 この学則は令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。

別表第1
看護学部 看護学科 教育課程

区分		授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
	語学	英語Ⅰ（初級）	2		
		英語Ⅱ（中級）	2		
		英会話	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
		応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
			チーム医療見学実習	1	
			医療コミュニケーション	1	
チーム医療論			1		
IPW論			1		
基礎体育			2		
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2		
健康管理学Ⅰ			2		
健康管理学Ⅱ			2		
栄養学			2		
身体運動科学			2		
東洋医療概論			2		
統合医療概論			2		
学科専門科目群			人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1
				形態機能学Ⅱ	1
	形態機能学Ⅲ	1			
	形態機能学Ⅳ	1			
	フィジカルアセスメント	2			
	生化学	2			
	発達心理学	2			
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学		1	
		病理学		1	
		臨床薬理学		1	
		臨床病態学Ⅰ		1	
		臨床病態学Ⅱ		1	
		臨床病態学Ⅲ	1		
		臨床病態学Ⅳ	1		
		臨床病態学Ⅴ	1		
		臨床心理学	2		
		社会保健制度	医療概論	1	
	疫学		2		

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎看護学	看護学概論	1	
		看護理論	2	
		生活援助論Ⅰ	2	
		生活援助論Ⅱ	2	
		診療援助論Ⅰ	2	
		診療援助論Ⅱ	2	
		看護過程演習	1	
		在宅看護論	地域・在宅看護概論	2
			地域・在宅看護援助論Ⅰ	2
			地域・在宅看護援助論Ⅱ	1
			外来看護論	1
		成人看護学	成人看護学概論	2
			成人看護援助論Ⅰ	1
			成人看護援助論Ⅱ	1
			成人看護援助論Ⅲ	1
		看護学 老年	老年看護学概論	2
			老年看護援助論Ⅰ	1
			老年看護援助論Ⅱ	1
		看護学 母性	母性看護学概論	2
			母性看護援助論Ⅰ	1
			母性看護援助論Ⅱ	1
	看護学 小児	小児看護学概論	2	
		小児看護援助論Ⅰ	1	
		小児看護援助論Ⅱ	1	
	看護学 精神	精神看護学概論	2	
		精神看護援助論Ⅰ	1	
		精神看護援助論Ⅱ	1	
	看護の統合と実践Ⅰ	健康教育論	2	
		家族看護学	1	
		看護管理論	1	
		災害・国際看護論	1	
		養護概説	2	
		学校保健	2	
		健康相談活動論	2	
		臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1
			基礎看護学実習Ⅱ	2
			地域・在宅看護論実習Ⅰ	1
	地域・在宅看護論実習Ⅱ		2	
	成人看護学実習Ⅰ（急性）		3	
	成人看護学実習Ⅱ（慢性）		3	
	老年看護学実習		3	
	母性看護学実習		2	
	小児看護学実習		2	
	精神看護学実習		2	
	公衆衛生看護学実習		4	
	主題実習Ⅰ		2	
	主題実習Ⅱ		1	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	
		公衆衛生看護学演習	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅲ	2	
		公衆衛生看護活動論Ⅳ	2	
		公衆衛生看護管理論	2	
保健医療福祉行政論	2			
研究	看護研究	1		
	卒業研究	2		
看護の統合と実践Ⅱ	臨床看護学セミナーⅠ	2		
	臨床看護学セミナーⅡ	2		
	公衆衛生看護セミナー	2		
	臨床看護技術セミナー	1		
卒業要件（最低必要単位数）			127	

別表第2

総合リハビリテーション学部 理学療法学科 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	西洋史概説	2	
		英語Ⅰ（初級）	2	
		英語Ⅱ（中級）	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	応用英語演習	2
			MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群			専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達
	人体の構造演習Ⅱ（運動器）	1		
	人体の構造Ⅰ（神経系）	2		
	人体の構造Ⅱ（循環・内臓）	2		
	人体の構造実習	1		
	人体の機能Ⅰ（動物性機能）	2		
	人体の機能Ⅱ（植物性機能）	2		
	基礎運動学	1		
	臨床運動学	1		
	運動学実習	1		
	臨床心理学	1		
	リハビリテーション概論	2		
	公衆衛生学	2		
	生化学	2		
	病理学	2		
	臨床病態学Ⅰ	2		
	臨床病態学Ⅱ	2		
	臨床病態学Ⅲ	2		
	整形外科学	2		
	小児科学（人間発達学）	2		
	精神医学	2		
	リハビリテーション医学（画像診断・予防・栄養含む）	2		
	チームリハビリテーション概論	1		
	介護学概論・ボランティア活動論	1		
	スポーツ医学	1		
	テーピング技術論	1		

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎理学療法学	医療関係法規論	2
		理学療法触診法	1
		基礎理学療法学Ⅰ	1
		基礎理学療法学Ⅱ	1
		基礎理学療法学実習	1
	法医学管理	職場管理(教育を含む)	1
		職業倫理	1
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	1
		理学療法評価学各論	2
		臨床理学療法評価学（動作分析）	1
		臨床理学療法評価学実習	1
	理学療法治療学	基礎日常生活活動学	1
		基礎運動療法学総論	1
		基礎運動療法学各論	1
		物理療法学	1
		運動器系理学療法学Ⅰ	1
		運動器系理学療法学Ⅱ	2
		運動器系理学療法学Ⅲ	1
		神経系理学療法学Ⅰ	1
		神経系理学療法学Ⅱ	2
		神経系理学療法学Ⅲ	1
		内部障害系理学療法学Ⅰ	1
		内部障害系理学療法学Ⅱ	2
		内部障害系理学療法学Ⅲ	1
	発達障害理学療法学	1	
	義肢装具学	2	
	臨床理学療法治療学実習	1	
	地域療法学	地域理学療法学	2
		生活環境論	1
		老年期理学療法学	1
	総合領域	理学療法臨床推論概論	1
		理学療法臨床推論演習	1
		総合リハビリテーションIPW演習	1
理学療法特論Ⅰ		1	
理学療法特論Ⅱ		1	
理学療法特論Ⅲ		2	
運動器系理学療法セミナー		1	
神経系理学療法セミナー		1	
内部障害系理学療法セミナー		1	
地域理学療法セミナー	1		
卒業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2	
臨床実習	臨床見学実習	1	
	検査測定実習	1	
	臨床評価実習	4	
	地域理学療法実習	1	
	臨床総合実習Ⅰ	7	
臨床総合実習Ⅱ	7		
卒業要件（最低必要単位数）		126	

別表第3

総合リハビリテーション学部 作業療法学科 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	英語Ⅰ（初級）	2	
		英語Ⅱ（中級）	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
	共通科目群	保健医療	MBS (Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学（スポーツ社会学を含む）			2	
健康管理学Ⅰ			2	
健康管理学Ⅱ			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論			2	
学科専門科目群			人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ（運動器）
	人体の構造演習Ⅱ（運動器）	1		
	人体の構造Ⅰ（神経系）	2		
	人体の構造Ⅱ（循環・内臓）	2		
	人体の構造実習	1		
	人体の機能Ⅰ（動物性機能）	2		
	人体の機能Ⅱ（植物性機能）	2		
	基礎運動学	2		
	臨床運動学	2		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論		2
		公衆衛生学		2
		生化学		2
		病理学		2
		臨床病態学Ⅰ		2
		臨床病態学Ⅱ	2	
		臨床病態学Ⅲ	2	
		整形外科学	2	
		小児科学（人間発達学）	2	
		精神医学	2	
		精神医学各論	2	
		臨床心理学	1	
		リハビリテーション医学（画像診断・予防・栄養含む）	1	
		医療関係法規論	2	
	チームリハビリテーション概論	1		
	介護学概論・ボランティア活動論	2		
	スポーツ医学	1		

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎作業学	基礎作業学	2
		作業科学入門	2
		作業療法概論	2
	作業療法学	職場管理（教育を含む）	1
		職業倫理	1
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	2
		身体障害作業療法評価学	2
		精神障害作業療法評価学	1
		発達障害作業療法評価学	1
		高次脳機能障害作業療法評価学	1
		日常生活活動学	2
	作業療法治療学	身体障害作業療法治療学総論	2
		精神障害作業療法治療学総論	2
		高齢期障害作業療法治療学総論	2
		発達障害作業療法治療学総論	2
		身体障害作業療法治療学各論	1
		精神障害作業療法治療学各論	1
		高齢期障害作業療法治療学各論	1
		発達障害作業療法治療学各論	1
		義肢装具学	1
		作業療法特論Ⅰ	1
		作業療法特論Ⅱ	1
		身体障害作業療法治療学演習	1
		精神障害作業療法治療学演習	1
		高齢期障害作業療法治療学演習	1
	発達障害作業療法治療学演習	1	
	総合リハビリテーションIPW演習	1	
	地域作業療法学	地域作業療法学	2
		生活環境論	1
		障害者地域生活支援論	1
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	2
		卒業研究Ⅱ（身体障害）	2
		卒業研究Ⅱ（精神障害）	2
		卒業研究Ⅱ（高齢期障害・地域）	2
卒業研究Ⅱ（発達障害）		2	
臨床実習	臨地見学実習	2	
	臨床検査実習	2	
	地域作業療法実習	1	
	臨床評価実習	4	
	臨床総合実習	16	
卒業要件（最低必要単位数）		126	

別表第4

医療技術学部 鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分	授業科目	単位数			
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
		心理学	2		
	人間理解と社会	生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
		西洋史概説	2		
		英語 I (初級)	2		
	語学	英語 II (中級)	2		
		英会話	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
		応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
			チーム医療見学実習	1	
			医療コミュニケーション	1	
			チーム医療論	1	
			IPW論	1	
			基礎体育	2	
			健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2	
			健康管理学 I	2	
健康管理学 II			2		
栄養学			2		
身体運動科学			2		
東洋医療概論			2		
統合医療概論			2		
学科専門科目群			専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学 I (骨・筋)
	解剖学 II (神経)	2			
	解剖学 III (内臓・脈管)	2			
	生理学 I (動物生理学)	2			
	生理学 II (植物生理学)	2			
	生理学 III (応用生理学)	2			
	運動学	2			
	生化学	2			
	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学			2
		臨床医学総論			2
		整形外科学			2
		内科学			2
		臨床医学各論 I			2
		臨床医学各論 II			2
		臨床医学各論 III	2		
		スポーツ医学	2		
		リハビリテーション医学	2		
		画像診断学	2		
	保健医療福祉と社会の理念	衛生学公衆衛生学	2		
		保健医療倫理	1		
	専門科目	基礎はりきゆう学	経絡経穴学 I	1	
			経絡経穴学 II	1	
			経穴局所解剖演習 I	1	
			経穴局所解剖演習 II	1	
			鍼灸科学概論 I	1	
			鍼灸科学概論 II	1	
			東洋医学概論 I	1	
東洋医学概論 II			1		
東洋医学概論 III	1				

区分	授業科目	単位数		
学科専門科目群	臨床はりきゆう学	鍼灸安全学	1	
		臨床生理学	1	
		臨床鍼灸学	1	
		生体観察	1	
		運動機能検査法	1	
		現代医学系鍼灸学 I (整形外科系)	2	
		現代医学系鍼灸学 II (整形外科系)	2	
		現代医学系鍼灸学 III (内科系)	1	
		東洋医学系検査法	1	
		東洋医学各論 I	1	
		東洋医学各論 II	1	
		社会はりきゆう学	鍼灸経営論	1
			関係法規	1
		実習	基礎鍼灸技 I	1
	基礎鍼灸技 II		1	
	基礎灸実技 I		1	
	基礎灸実技 II		1	
	応用鍼灸実技 I		1	
	応用鍼灸実技 II		1	
	現代医学系鍼灸学実習 I		1	
	現代医学系鍼灸学実習 II		1	
	現代医学系鍼灸学実習 III		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 I		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 II		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 III		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 IV		1	
	東洋医学系鍼灸学実習 V		1	
	実臨床	附属施設所基礎実習	2	
		附属施設所応用実習	2	
	総合領域	キャリアデザイン	1	
		鍼灸総合演習 I	2	
		鍼灸総合演習 II	2	
		鍼灸総合演習 III	2	
		卒業研究 I	1	
		卒業研究 II	1	
	専門領域	学外見学実習 I	1	
		学外見学実習 II	1	
		美容鍼灸学総論	1	
		テーピング技術論	1	
		コンディショニング技術論	1	
		スポーツ鍼灸学総論	1	
		スポーツ鍼灸学各論	1	
		介護学概論	1	
老年ケア演習		1		
美容鍼灸学各論 I		1		
美容鍼灸学各論 II		1		
応用鍼灸学 I	1			
応用鍼灸学 II	1			
スポーツ経営学	1			
卒業要件 (最低必要単位数)		126		

別表第5

医療技術学部 鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分	授業科目	単位数			
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
	語学	西洋史概説	2		
		英語Ⅰ(初級)	2		
		英語Ⅱ(中級)	2		
		英会話	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
		応用英語演習	2		
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1		
共通科目群	保健医療	チーム医療見学実習	1		
		医療コミュニケーション	1		
		チーム医療論	1		
		IPW論	1		
		基礎体育	2		
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2		
		健康管理学Ⅰ	2		
		健康管理学Ⅱ	2		
		栄養学	2		
		身体運動科学	2		
		東洋医療概論	2		
		統合医療概論	2		
		学科専門科目群	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ(骨・筋)	4
				解剖学Ⅱ(神経)	2
解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2				
生理学Ⅰ(動物生理学)	2				
生理学Ⅱ(植物生理学)	2				
生理学Ⅲ(応用生理学)	2				
運動学	2				
生化学	2				
疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学			2	
	臨床医学総論			2	
	整形外科			2	
	内科学			2	
	臨床医学各論Ⅰ			2	
	臨床医学各論Ⅱ			2	
	臨床医学各論Ⅲ			2	
	スポーツ医学			2	
	リハビリテーション医学		2		
	画像診断学		2		
保健医療福祉の理念	衛生学公衆衛生学		2		
	保健医療倫理		1		
基礎はりきゅう学	経絡経穴学Ⅰ		1		
	経絡経穴学Ⅱ		1		
	経穴局所解剖演習Ⅰ		1		
	経穴局所解剖演習Ⅱ		1		
	鍼灸科学概論Ⅰ		1		
	鍼灸科学概論Ⅱ		1		
	東洋医学概論Ⅰ		1		
	東洋医学概論Ⅱ		1		
東洋医学概論Ⅲ	1				

区分	授業科目	単位数		
学科専門科目群	臨床はりきゅう学	鍼灸安全学	1	
		臨床生理学	1	
		臨床鍼灸学	1	
		生体観察	1	
		運動機能検査法	1	
		現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)	2	
		現代医学系鍼灸学Ⅱ(整形外科系)	2	
		現代医学系鍼灸学Ⅲ(内科系)	1	
		東洋医学系検査法	1	
		東洋医学各論Ⅰ	1	
		東洋医学各論Ⅱ	1	
		社会はりきゅう学	鍼灸経営論	1
			関係法規	1
		実習	基礎鍼実技Ⅰ	1
	基礎鍼実技Ⅱ		1	
	基礎灸実技Ⅰ		1	
	基礎灸実技Ⅱ		1	
	応用鍼灸実技Ⅰ		1	
	応用鍼灸実技Ⅱ		1	
	現代医学系鍼灸学実習Ⅰ		1	
	現代医学系鍼灸学実習Ⅱ		1	
	現代医学系鍼灸学実習Ⅲ		1	
	東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ		1	
	東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ		1	
	実臨床実習	東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ	1	
		臨床灸実習	1	
	総合領域	特殊鍼灸治療学	1	
		附属施設所基礎実習	2	
		附属施設所応用実習	2	
		キャリアデザイン	1	
		鍼灸総合演習Ⅰ	2	
		鍼灸総合演習Ⅱ	2	
		鍼灸総合演習Ⅲ	2	
		運動生理学	2	
		運動生理機能学演習	2	
		卒業研究Ⅰ	1	
		卒業研究Ⅱ	1	
		学外見学実習Ⅰ	1	
		学外見学実習Ⅱ	1	
		保健体育	スポーツ実習Ⅰ 体づくり運動	1
			スポーツ実習Ⅱ 球技A	1
	スポーツ実習Ⅱ 球技B		1	
スポーツ実習Ⅱ 球技C	1			
スポーツ実習Ⅲ 陸上競技	1			
スポーツ実習Ⅳ 柔道	1			
スポーツ実習Ⅴ ダンス	1			
スポーツ実習Ⅵ 器械運動	1			
スポーツ実習Ⅶ 水泳	1			
スポーツ実習Ⅷ 生涯スポーツ	1			
学校保健(小児保健・精神保健)	2			
学校保健(学校安全・救急処置)	2			
トレーニング科学演習Ⅰ(レジスタンスエクササイズ1)	1			
トレーニング科学演習Ⅱ(エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング)	1			
トレーニング科学演習Ⅲ(レジスタンスエクササイズ2・水中運動)	1			
トレーニング科学演習Ⅳ(指導実習)	1			
体力トレーニング論	2			
テーピング技術論	1			
スポーツバイオメカニクス	2			
介護学概論	1			
老年ケア演習	1			
体育原理	2			
スポーツ心理学	2			
スポーツ鍼灸学総論	1			
スポーツ鍼灸学各論	1			
スポーツ傷害学・栄養学	2			
スポーツ経営学	1			
卒業要件(最低必要単位数)		144		

別表第6

医療技術学部 臨床検査学科 教育課程

区分	授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	西洋史概説	2	
		英語 I (初級)	2	
		英語 II (中級)	2	
		英会話	2	
	共通科目群	保健医療	医学英語	2
			基礎英語演習	2
			応用英語演習	2
			MBS (Morinomiya Basic Seminar)	1
チーム医療見学実習			1	
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学 (スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学 I			2	
健康管理学 II			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論	2			
統合医療概論	2			
学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造 I	2	
		人体の構造 II	2	
		人体の構造実習	1	
		人体の機能 I	2	
		人体の機能 II	2	
		生化学	2	
		生化学特論	2	
		生化学実習	1	
		分析化学	2	
		小児医学	2	
		老年医学	2	
		救急災害医学	2	
		薬理学	2	
		リハビリテーション概論	2	
		と医療保健検査学社医工医療	臨床検査学総論	2
			検査技術科学序論	2
			病理学	2
			医学概論	2
	公衆衛生学		2	
	医用工学概論		2	
	医用工学実習		1	

区分	授業科目	単位数		
学科専門科目群	病態臨床学	臨床病態学 I	2	
		臨床病態学 II	2	
	形態検査学	血液検査学 I	2	
		血液検査学 II	2	
		血液検査学実習	1	
		病理検査学	2	
		病理検査学実習	1	
		一般検査学	1	
	生物化学検査学	臨床化学検査学 I	2	
		臨床化学検査学 II (放射性同位元素学含む)	2	
		臨床化学検査学実習	1	
		遺伝子検査学	2	
		遺伝子検査学実習	1	
		生命工学概論	1	
	病原因・生体防御検査学	微生物検査学 I	2	
		微生物検査学 II	2	
		微生物検査学実習	1	
		寄生虫検査学	1	
		免疫検査学 I	2	
		免疫検査学 II	2	
		免疫検査学実習	1	
		輸血・移植検査学	2	
		輸血・移植検査学実習	1	
		生理機能検査学	生理機能検査学 I	2
	生理機能検査学 II		2	
	生理機能検査学実習 I		1	
	生理機能検査学実習 II		1	
	画像検査学		2	
	超音波検査学 I		1	
	検査管理総論	超音波検査学 II	1	
		検査総合管理	2	
		医療情報科学	2	
		関係法規	1	
	全医療安全管理学	医療安全管理学	1	
		総合領域	臨床薬理学	2
			食品衛生学	1
	食品関係法規		1	
	総合演習 I		2	
	総合演習 II		2	
	総合演習 III		2	
研究卒業	卒業研究 I	2		
	卒業研究 II	2		
実臨地	臨床実習	7		
	細胞診断学	臨床細胞学概論	1	
		臨床細胞学実習 I	1	
		臨床細胞学実習 II	1	
		臨床細胞学総論 I	1	
		臨床細胞学総論 II	1	
		臨床細胞学各論 I	1	
		臨床細胞学各論 II	1	
		臨床細胞学各論 III	1	
		細胞診断学実習 I	3	
		細胞診断学実習 II	3	
		細胞診断学実習 III	3	
		細胞診断学特別実習 I	3	
		細胞診断学特別実習 II	3	
卒業要件 (最低必要単位数)		124		

別表第7

医療技術学部 臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ（初級）	2
		英語Ⅱ（中級）	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学（スポーツ社会学を含む）	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
	統合医療概論	2	
	人の機能	医学概論	1
		公衆衛生学	2
		人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	1
		人体の機能Ⅰ	2
人体の機能Ⅱ		1	
臨床工学に必要な医学的基礎	生化学	2	
	病理学	2	
	免疫学	2	
	薬理学	2	
	看護学概論	1	
	基礎医学実習	1	
	臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学	2
		数学演習	1
		応用数学	2
		応用物理学	1
		応用化学	1
		電気工学Ⅰ	2
電気工学Ⅱ		2	
電気工学実習		1	
電子工学Ⅰ		2	
電子工学Ⅱ		2	
電子工学実習		1	
放射線工学概論		1	
臨床工学に必要な医療情報技術の基礎	情報処理工学	2	
	医療統計学	2	
	システム制御工学	2	
	情報処理・システム制御工学実習	1	

区分		授業科目	単位数	
専門科目	医用生体工学	生体物性工学	2	
		生体材料工学	2	
		バイオメカニクス	2	
		バイオレオロジー	1	
		計測工学	1	
		生体情報処理工学	2	
		医用機器学	医用機器学概論	2
	生体計測装置学		2	
	生体計測装置学実習		1	
	医用治療機器学		2	
	医用治療機器学実習		1	
	画像診断装置学		2	
	医用監視システム装置学		2	
	生体機能代行装置学	体外循環装置学	1	
		体外循環療法学	2	
		体外循環実習	1	
		血液浄化装置学	1	
		血液浄化療法学	2	
		血液浄化実習	1	
		人工呼吸装置学	1	
		人工呼吸療法学	2	
		人工呼吸実習	1	
		人体機能補助装置学	1	
		人体機能補助療法学	2	
		人体機能補助実習	1	
	全医用安全管理	医用機器安全管理学	2	
		医用機器安全管理学実習	1	
		関係法規	2	
	関連臨床医学	臨床医学総論（内科学・外科学）	2	
		内科学各論（循環器・呼吸器・腎・感染症）	2	
		外科学各論（循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学）	2	
		臨床医学演習	1	
	実臨床	臨床実習	4	
	専門特講	技術特講	医用生体工学特講	1
			医用機器学特講	1
			生体機能代行技術特講	1
			関連臨床医学特講	1
			基礎工学特講	1
	研究分野	先進科学技術	先進科学技術論	1
			先進計測技術学	1
			先進治療技術学	1
			機能評価分析学	1
機能評価学演習			1	
医療情報システム学			1	
医療情報システム学演習			1	
医用ロボット工学		1		
遺伝子検査学		1		
先進科学技術演習		1		
研卒業	卒業研究Ⅰ	2		
	卒業研究Ⅱ	2		
卒業要件（最低必要単位数）			126	

別表第8

医療技術学部 診療放射線学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	西洋史概説	2
		英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
共通科目群	保健医療	基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
		MBS (Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学 I	2
		健康管理学 II	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
東洋医療概論	2		
統合医療概論	2		
学科専門科目群	基礎科目演習	数学	2
		数学演習	1
		物理学演習	1
		生物学演習	1
		化学演習	1
	人間の構造と機能及び 疾病の成り立ち	医学概論	1
		公衆衛生学	1
		人体の構造 I	1
		人体の構造 II	1
		人体の機能 I	1
		人体の機能 II	1
		生化学	1
		病理学	1
		内科学 I	1
		内科学 II	1
		薬理学	1
		看護学概論	1
		基礎医学演習	1
		外科学	1
		救急災害医学	1
	保健医療福祉における放射線の科学及び技術 並びに放射線の科学及び技術	電気・電子工学	2
		医用工学	2
		工学演習	1
		情報処理工学	2
		医療統計学	1
		放射化学	2
		放射線生物学	2
		放射線化学・生物学演習	1
		放射線物理学	2
		放射線計測学	2
		放射線物理学・計測学演習	1
		放射線科学	1
		専門基礎科目実験	2

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	診療画像技術学	放射線医学概論	1	
		X線撮影技術学 I	2	
		X線撮影技術学 II	2	
		X線機器工学	2	
		放射線撮影技術学	2	
		CT・MRI撮影技術学	2	
		CT・MRI機器工学	2	
		撮影技術学・機器工学実験 I	1	
		撮影技術学・機器工学実験 II	1	
		画像解剖学	1	
		画像解剖学演習	1	
		機器工学演習	1	
		核医学検査	核医学検査技術学 I	2
			核医学検査技術学 II	2
	核医学検査技術学実験		1	
	放射線治療	放射線治療技術学 I	2	
		放射線治療技術学 II	2	
		放射線治療技術学実験	1	
	医用画像情報	放射線治療学	1	
		画像工学	2	
		医療情報学	1	
		医用画像情報学	2	
	安全管理学	医用画像情報学実験	1	
		放射線安全管理学	2	
		放射線関係法規	1	
	全学管理	安全管理学実験	1	
		医療安全管理学	2	
	臨床実習	断画像技術	2	
		臨床画像解剖学	2	
		臨床実習 I	6	
		臨床実習 II	2	
	専門特講	臨床実習 III	2	
		臨床実習ゼミナール	2	
診療放射線		診療画像技術学特講	1	
核医学・放射線治療学特講		1		
放射線技術学特講		1		
研究分野	基礎医学特講	1		
	先進核医学	1		
	先進放射線治療学	1		
	先進画像解析学	1		
	先進医学	1		
卒業	卒業研究 I	2		
	卒業研究 II	2		
卒業要件 (最低必要単位数)			126	

別表第9
教職に関する科目 教育課程

区分	授業科目	単位数
教職に関する科目	保健体育科教育法Ⅰ	2
	保健体育科教育法Ⅱ	2
	保健体育科教育法Ⅲ	2
	保健体育科教育法Ⅳ	2
	教育原理	2
	教職論	2
	教育行政学	2
	教育心理学	2
	特別支援教育概論	1
	教育課程論	2
	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法	2
	特別活動論	2
	教育方法論	2
	生徒指導・進路指導論	2
	生徒指導論	2
	教育相談の基礎と方法	2
	教育実習事前事後指導	1
	教育実習Ⅰ	2
	教育実習Ⅱ	2
	養護実習(事前事後指導を含む)	5
	教職実践演習(中・高)	2
	教職実践演習(養護教諭)	2

別表第10

(単位：円)

学部名	学 年	入学料	授業料	教育充実費	合計	入学検定料
学科名						
看護学部 看護学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	3年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	4年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
総合リハビリテーション学部 理学療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
総合リハビリテーション学部 作業療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
医療技術学部 鍼灸学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	3年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	4年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
医療技術学部 臨床検査学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
医療技術学部 臨床工学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
医療技術学部 診療放射線学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	

大学 学則改定 新旧対照表

(下線は変更部分)

現行	改定案																																																														
<p>(学部、学科、入学定員及び収容定員)</p> <p>第4条 本学保健医療学部鍼灸学科、理学療法学科、看護学科、臨床検査学科、作業療法学科、臨床工学科及び診療放射線学科を置く。</p> <p>2 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">保健医療学部</td> <td>鍼灸学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>理学療法学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>看護学科</td> <td>90</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td>臨床検査学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td>40</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>臨床工学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>診療放射線学科</td> <td>80</td> <td>320</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>470</td> <td>1880</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 保健医療学部鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。</p> <p>4 鍼灸コースは、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。</p> <p>(学部及び学科の目的)</p> <p>第4条の2 保健医療学部は、大学の目的に則り、生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。</p> <p>2 鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>3 鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の</p>	学部	学科	入学定員	収容定員	保健医療学部	鍼灸学科	60	240	理学療法学科	70	280	看護学科	90	360	臨床検査学科	70	280	作業療法学科	40	160	臨床工学科	60	240	診療放射線学科	80	320	合計		470	1880	<p>(学部、学科、入学定員及び収容定員)</p> <p>第4条 本学に<u>看護学部、総合リハビリテーション学部及び医療技術学部</u>を置く。</p> <p><u>2 看護学部</u>に看護学科を置き、<u>総合リハビリテーション学部</u>に理学療法学科及び作業療法学科を置き、<u>医療技術学部</u>に鍼灸学科、臨床検査学科、臨床工学科及び診療放射線学科を置く。</p> <p>3 前項の学科の学生定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>看護学部</u></td> <td>看護学科</td> <td>90</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"><u>総合リハビリテーション学部</u></td> <td>理学療法学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>作業療法学科</td> <td>40</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td rowspan="4"><u>医療技術学部</u></td> <td>鍼灸学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>臨床検査学科</td> <td>70</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>臨床工学科</td> <td>60</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>診療放射線学科</td> <td>80</td> <td>320</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>470</td> <td>1880</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>4 医療技術学部</u>鍼灸学科に鍼灸コース及びスポーツ特修コースを置く。</p> <p><u>5 鍼灸コース</u>は、入学定員40名、収容定員160名とし、スポーツ特修コースは、入学定員20名、収容定員80名とする。</p> <p>(学部の目的)</p> <p>第4条の2 <u>前条第1項に定める各学部の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。</u></p> <p><u>(1) 看護学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(2) 総合リハビリテーション学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーシ</u></p>	学部	学科	入学定員	収容定員	<u>看護学部</u>	看護学科	90	360	<u>総合リハビリテーション学部</u>	理学療法学科	70	280	作業療法学科	40	160	<u>医療技術学部</u>	鍼灸学科	60	240	臨床検査学科	70	280	臨床工学科	60	240	診療放射線学科	80	320	合計		470	1880
学部	学科	入学定員	収容定員																																																												
保健医療学部	鍼灸学科	60	240																																																												
	理学療法学科	70	280																																																												
	看護学科	90	360																																																												
	臨床検査学科	70	280																																																												
	作業療法学科	40	160																																																												
	臨床工学科	60	240																																																												
	診療放射線学科	80	320																																																												
合計		470	1880																																																												
学部	学科	入学定員	収容定員																																																												
<u>看護学部</u>	看護学科	90	360																																																												
<u>総合リハビリテーション学部</u>	理学療法学科	70	280																																																												
	作業療法学科	40	160																																																												
<u>医療技術学部</u>	鍼灸学科	60	240																																																												
	臨床検査学科	70	280																																																												
	臨床工学科	60	240																																																												
	診療放射線学科	80	320																																																												
合計		470	1880																																																												

<p>人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。</p> <p>4 理学療法学科は、科学性を持ちつつ人に優しい理学療法と、チーム医療を創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>5 看護学科は、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>6 臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>7 作業療法学科は、チーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>8 臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p> <p>9 診療放射線学科は、人間性豊かで高いモラルを有する医療人として、チーム医療における役割と職責を自覚し、放射線診療を実践できる確かな専門知識と技術を身につけた人材の育成を目的とする。</p>	<p><u>ヨンを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(3) 医療技術学部は、豊かな感性と高い倫理観に加え、</u> 生命の尊厳を認識し、個々の人格を尊重できる寛容性と社会的倫理観を備え、<u>チーム医療において</u>科学的根拠に基づく問題解決能力を有し、患者本位の医療を選択、実践し得る指導的人材の育成を目的とする。</p>
<p>(大学院)</p> <p>第4条の3 本学に大学院を置く。</p> <p>2 大学院に関する規則は別に定める。</p>	<p><u>(学科の目的)</u></p> <p><u>第4条の3 第4条第2項に定める各学科の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。</u></p> <p><u>(1) 看護学部看護学科は、豊かな感性と高い倫理観に加え、チーム医療とヒューマンケアリングを創造的に実践できる確かな専門知識と専門技術ならびに、利他主義や論理性などの人間として豊かな教養、医療人としての態度を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(2) 総合リハビリテーション学部理学療法学科は、チーム医療に貢献できる協調性と科学性を持ちつつ、人に優しい理学療法を創造的に実践できる能力を身につけた</u></p>

<p>(専攻科)</p> <p>第4条の4 本学に次の専攻科を置く。</p> <p>(1) 助産学専攻科</p> <p>2 専攻科に関する規則は別に定める。</p> <p>(番号変更)</p>	<p><u>人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(3) 総合リハビリテーション学部作業療学科は、命の尊さや人としての尊厳を大切にする感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献する作業療法士の養成を目的とする。</u></p> <p><u>(4) 医療技術学部鍼灸学科鍼灸コースは、専門職医療人として、豊かな人間性、専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(5) 医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コースは、鍼灸コースと同様の人間性や知識、技術を身につけることに加え、保健体育に関する専門知識を修得し、実践的指導力を持つ人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(6) 医療技術学部臨床検査学科は、生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理観と強い責任感を有し、誠実に臨床検査を実践することができる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(7) 医療技術学部臨床工学科は、チーム医療における使命を理解し、臨床工学技士としての職責を自覚し、実践できる確かな専門知識と専門技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(8) 医療技術学部診療放射線学科は、人間性豊かで高いモラルを有する医療人として、チーム医療における役割と職責を自覚し、放射線診療を実践できる確かな専門知識と技術を身につけた人材の育成を目的とする。</u></p> <p><u>(大学院)</u></p> <p><u>第4条の4 本学に大学院を置く。</u></p> <p><u>2 大学院に関する規則は別に定める。</u></p> <p><u>(専攻科)</u></p> <p><u>第4条の5 本学に次の専攻科を置く。</u></p> <p><u>(1) 助産学専攻科</u></p> <p><u>2 専攻科に関する規則は別に定める。</u></p>
---	--

(教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。
- 9 診療放射線学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第8のとおりとする。

(教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
保健医療学部	鍼灸学科 スポーツ 特修コース	中学校教諭一種 免許状 高等学校教諭一 種免許状	保健体育 保健体育
	看護学科	養護教諭一種免 許状	養護

- 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第2の鍼灸学科スポーツ特修コースの教育課程及び別表第4の看護学科の教育課程及び別表第9の教職に関する科目のうちから、所定の単位を修得

(教育課程)

第20条 本学の教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 看護学部**看護学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第1のとおりとする。
- 3 総合リハビリテーション学部**理学療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第2のとおりとする。
- 4 総合リハビリテーション学部**作業療法学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第3のとおりとする。
- 5 医療技術学部**鍼灸学科鍼灸コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第4のとおりとする。
- 6 医療技術学部**鍼灸学科スポーツ特修コースの授業科目の種類及び単位数等は別表第5のとおりとする。
- 7 医療技術学部**臨床検査学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第6のとおりとする。
- 8 医療技術学部**臨床工学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第7のとおりとする。
- 9 医療技術学部**診療放射線学科の授業科目の種類及び単位数等は別表第8のとおりとする。

(教職に関する免許)

第28条の2 本学の学部学科において取得できる教育職員の免許状の種類及び教科免許は、次のとおりとする。

学部	学科等	免許状の種類	教科の種類
看護学部	看護学科	養護教諭一種免 許状	養護
医療技術学部	鍼灸学科 スポーツ 特修コース	中学校教諭一種 免許状 高等学校教諭一 種免許状	保健体育 保健体育

- 2 前項の免許の資格を得たい者は、第25条に基づく単位修得のほか、別表第1の**看護学部看護学科**の教育課程及び別表第5の**医療技術学部鍼灸学科スポーツ特修コース**の教育課程及び別表第9の教職に関する科目のうちか

しなければならない。

- 3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

(学位の授与)

第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
保健医療学部	鍼灸学科	学士(鍼灸学)
	理学療法学科	学士(理学療法学)
	看護学科	学士(看護学)
	臨床検査学科	学士(臨床検査学)
	作業療法学科	学士(作業療法学)
	臨床工学科	学士(臨床工学)
	診療放射線学科	学士(診療放射線学)

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

- 2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 5 学部長は、本学の教授をもって充て、保健医療学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。
- 7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。
- 8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

ら、所定の単位の修得しなければならない。

- 3 前項の所定の単位の修得に関し必要な事項は別に定める。

(学位の授与)

第35条 学長は、第34条1項により卒業を認定した者に次の学位を授与する。

学部	学科	学位
看護学部	看護学科	学士(看護学)
総合リハビリテーション学部	理学療法学科	学士(理学療法学)
	作業療法学科	学士(作業療法学)
医療技術学部	鍼灸学科	学士(鍼灸学)
	臨床検査学科	学士(臨床検査学)
	臨床工学科	学士(臨床工学)
	診療放射線学科	学士(診療放射線学)

(学長等の職務)

第42条 学長は本学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。

- 2 事務局長は、本学の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 研究科長は、本学の教授をもって充て、大学院の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 4 専攻科長は、本学の教授をもって充て、専攻科の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 5 学部長は、本学の教授をもって充て、**各**学部の教育研究及び学生の福利厚生に関する事項を掌理する。
- 6 学科長は、各学科の教授をもって充て、学部長の命を受け、各学科の運営に関する連絡調整を行う。
- 7 附属臨床実習施設長は、本学の教授をもって充て、附属臨床実習の活動に関する事項を掌理する。
- 8 附属図書館長は、本学の教職員をもって充て、附属図書館に関する事項を掌理する。

<p>(教授会)</p> <p>第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。</p> <p>2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。</p> <p>3 教授会は理事長、学長、副学長、教授、准教授、講師及び事務局長をもって組織する。</p> <p>附 則 (追加)</p>	<p>(教授会)</p> <p>第43条 本学の学生の入学、卒業及び課程の修了、学位授与その他教育研究に関する重要な事項を審議するため、教授会を置く。</p> <p>2 教授会は、学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。</p> <p><u>3 本条に定めるもののほか、教授会に関して必要な事項は、別に定める。</u></p> <p>附 則</p> <p><u>18 この学則は令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年3月31日に在学する者については、従前の規定を適用する。</u></p>
--	---

別表第1

鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
	人間理解と社会	統計学	2
		心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
	語学	日本語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	2
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学 I	2
		健康管理学 II	2
		栄養学	2
	身体運動科学	2	
	東洋医療概論	2	
	統合医療概論	2	
	人体の構造と機能	解剖学 I (骨・筋)	4
		解剖学 II (神経)	2
解剖学 III (内臓・脈管)		2	
生理学 I (動物生理学)		2	
生理学 II (植物生理学)		2	
生理学 III (応用生理学)		2	
運動学		2	
生化学		2	
病理学		2	
臨床医学総論		2	
疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	整形外科学	2	
	内科学	2	
	臨床医学各論 I	2	
	臨床医学各論 II	2	
	臨床医学各論 III	2	
	スポーツ医学	2	
	リハビリテーション医学	2	
	画像診断学	2	
	保健学公衆衛生学	2	
	保健医療倫理	1	
専門科目群	基礎はりきゅう学	経絡経穴学 I	1
		経絡経穴学 II	1
		経穴局所解剖演習 I	1
		経穴局所解剖演習 II	1
	社会保健制度と健康支援と疫学	鍼灸科学概論 I	1
		鍼灸科学概論 II	1
		東洋医学概論 I	1
		東洋医学概論 II	1
東洋医学概論 III	1		

別表第1

看護学部 看護学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
	人間理解と社会	統計学	2
		心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
	語学	日本語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	2
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学 I	2
		健康管理学 II	2
		栄養学	2
	身体運動科学	2	
	東洋医療概論	2	
	統合医療概論	2	
	人体の構造と機能	形態機能学 I	1
		形態機能学 II	1
形態機能学 III		1	
形態機能学 IV		1	
フィジカルアセスメント		2	
疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	
	病理学	1	
	臨床薬理学	1	
	臨床病態学 I	1	
	臨床病態学 II	1	
	臨床病態学 III	1	
	臨床病態学 IV	1	
	臨床病態学 V	1	
	臨床心理学	2	
	社会保健制度と健康支援と疫学	医療概論	1
公衆衛生学		2	
看護関係法規		2	
保健統計学		2	

別表第2

鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	西洋史概説	2
		英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
応用英語演習	2		
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	2
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
		統合医療概論	2
		学科専門科目群	人体の構造と機能
解剖学Ⅱ(神経)	2		
解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2		
生理学Ⅰ(動物生理学)	2		
生理学Ⅱ(植物生理学)	2		
生理学Ⅲ(応用生理学)	2		
運動学	2		
生化学	2		
疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学		
	臨床医学総論		2
	整形外科学		2
	内科学		2
	臨床医学各論Ⅰ		2
	臨床医学各論Ⅱ		2
	臨床医学各論Ⅲ		2
	スポーツ医学		2
	リハビリテーション医学		2
画像診断学	2		
社会と医療の連携	衛生学公衆衛生学	2	
	保健医療倫理	1	
基礎はりきゆう学	経絡経穴Ⅰ	1	
	経絡経穴Ⅱ	1	
	経穴局所解剖演習Ⅰ	1	
	経穴局所解剖演習Ⅱ	1	
	鍼灸科学概論Ⅰ	1	
	鍼灸科学概論Ⅱ	1	
	東洋医学概論Ⅰ	1	
東洋医学概論Ⅱ	1		
東洋医学概論Ⅲ	1		

別表第2

総合リハビリテーション学部 理学療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	西洋史概説	2
		英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
応用英語演習	2		
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
		統合医療概論	2
		学科専門科目群	人体の構造と機能及び心身の発達
人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1		
人体の構造Ⅰ(神経系)	2		
人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	2		
人体の構造実習	1		
人体の機能Ⅰ(動物性機能)	2		
人体の機能Ⅱ(植物性機能)	2		
基礎運動学	1		
臨床運動学	1		
運動学実習	1		
臨床心理学	1		
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション概論		2
	公衆衛生学		2
	生化学		2
	病理学		2
	臨床病態学Ⅰ		2
	臨床病態学Ⅱ		2
	臨床病態学Ⅲ		2
	整形外科学	2	
	小児科学(人間発達学)	2	
精神医学	2		
リハビリテーション医学(画像診断・予防・栄養含む)	2		
チームリハビリテーション概論	1		
介護学概論・ボランティア活動論	1		
スポーツ医学	1		
テーピング技術論	1		

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	臨床はりきゆう学	鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学Ⅰ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅱ（整形外科系）	2
		現代医学系鍼灸学Ⅲ（内科系）	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論Ⅰ	1
		東洋医学各論Ⅱ	1
		鍼灸経営論	1
		関係法規	1
	実習	基礎鍼灸技Ⅰ	1
		基礎鍼灸技Ⅱ	1
		基礎灸実技Ⅰ	1
		基礎灸実技Ⅱ	1
		応用鍼灸実技Ⅰ	1
		応用鍼灸実技Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
		応用鍼灸治療学	1
		臨床灸実習	1
		特殊鍼灸治療学	1
		附属施設所基礎実習	2
		附属施設所応用実習	2
	実臨床	キャリアデザイン	1
		鍼灸総合演習Ⅰ	2
		鍼灸総合演習Ⅱ	2
		鍼灸総合演習Ⅲ	2
		運動生理学	2
		運動生理機能学演習	2
		卒業研究Ⅰ	1
		卒業研究Ⅱ	1
		学外見学実習Ⅰ	1
		学外見学実習Ⅱ	1
	総合領域	スポーツ実習Ⅰ 体づくり運動	1
		スポーツ実習Ⅱ 球技A	1
		スポーツ実習Ⅱ 球技B	1
		スポーツ実習Ⅱ 球技C	1
		スポーツ実習Ⅲ 陸上競技	1
		スポーツ実習Ⅳ 柔道	1
		スポーツ実習Ⅴ ダンス	1
スポーツ実習Ⅵ 器械運動		1	
スポーツ実習Ⅶ 水泳		1	
スポーツ実習Ⅷ 生涯スポーツ		1	
学校保健（小児保健・精神保健）		2	
学校保健（学校安全・救急処置）		2	
トレーニング科学演習Ⅰ（レジスタンスエクササイズ1）		1	
トレーニング科学演習Ⅱ（エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング）		1	
トレーニング科学演習Ⅲ（レジスタンスエクササイズ2・水中運動）		1	
トレーニング科学演習Ⅳ（指導実習）		1	
体力トレーニング論		2	
テーピング技術論		1	
スポーツバイオメカニクス		2	
介護学概論		1	
老年ケア演習	1		
体育原理	2		
スポーツ心理学	2		
スポーツ鍼灸学総論	1		
スポーツ鍼灸学各論	1		
スポーツ傷害学・栄養学	2		
スポーツ経営学	1		
卒業要件（最低必要単位数）			144

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	基礎理学療法学	医療関係法規論	2	
		理学療法触診法	1	
		基礎理学療法学Ⅰ	1	
		基礎理学療法学Ⅱ	1	
		基礎理学療法学実習	1	
		職場管理（教育を含む）	1	
	理学療法学	職業倫理	1	
		理学療法評価学総論	1	
	理学療法評価学	理学療法評価学各論	2	
		臨床理学療法評価学（動作分析）	1	
		臨床理学療法評価学実習	1	
		基礎日常生活活動学	1	
	理学療法治療学	基礎運動療法学総論	1	
		基礎運動療法学各論	1	
		物理療法学	1	
		運動器系理学療法学Ⅰ	1	
		運動器系理学療法学Ⅱ	2	
		運動器系理学療法学Ⅲ	1	
		神経系理学療法学Ⅰ	1	
		神経系理学療法学Ⅱ	2	
		神経系理学療法学Ⅲ	1	
		内部障害系理学療法学Ⅰ	1	
		内部障害系理学療法学Ⅱ	2	
		内部障害系理学療法学Ⅲ	1	
		発達障害系理学療法学	1	
		義肢装具学	2	
		臨床理学療法治療学実習	1	
		地域学療法	地域理学療法学	2
			生活環境論	1
	老年期理学療法学		1	
	総合領域	理学療法臨床推論概論	1	
		理学療法臨床推論演習	1	
		総合リハビリテーションIPW演習	1	
		理学療法特論Ⅰ	1	
		理学療法特論Ⅱ	1	
		理学療法特論Ⅲ	2	
		運動器系理学療法セミナー	1	
	神経系理学療法セミナー	1		
	内部障害系理学療法セミナー	1		
	地域理学療法セミナー	1		
	研究	卒業研究Ⅰ	2	
		卒業研究Ⅱ	2	
	臨床実習	臨床見学実習	1	
		検査測定実習	1	
		臨床評価実習	4	
		地域理学療法実習	1	
			臨床総合実習Ⅰ	7
		臨床総合実習Ⅱ	7	
卒業要件（最低必要単位数）			126	

別表第3

理学療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学 I	2
		健康管理学 II	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の構造 I (神経系)	2
		人間の構造 II (循環・内臓)	2
		人間の構造実習	1
		人間の機能 I (動物性機能)	2
		人間の機能 II (植物性機能)	2
		基礎運動学	1
		臨床運動学	1
		運動学実習	1
		臨床心理学	1
		リハビリテーション概論	2
	公衆衛生学	2	
	生化学	2	
	病理学	2	
	臨床病態学 I	2	
	臨床病態学 II	2	
	臨床病態学 III	2	
	整形外科学	2	
	小児科学 (人間発達学)	2	
	精神医学	2	
	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	2	
	チームリハビリテーション概論	1	
	介護学概論・ボランティア活動論	1	
スポーツ医学	1		
テーピング技術論	1		

別表第3

総合リハビリテーション学部 作業療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語 I (初級)	2
		英語 II (中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学 I	2
		健康管理学 II	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	専門基礎科目	人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の構造と機能及び心身の発達	1
		人間の構造 I (神経系)	2
		人間の構造 II (循環・内臓)	2
		人間の構造実習	1
		人間の機能 I (動物性機能)	2
		人間の機能 II (植物性機能)	2
		基礎運動学	2
		臨床運動学	2
		リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
		生化学	2
	病理学	2	
	臨床病態学 I	2	
	臨床病態学 II	2	
	臨床病態学 III	2	
	整形外科学	2	
	小児科学 (人間発達学)	2	
	精神医学	2	
	精神医学各論	2	
	臨床心理学	1	
	リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	1	
	医療関係法規論	2	
	チームリハビリテーション概論	1	
介護学概論・ボランティア活動論	2		
スポーツ医学	1		

区分		授業科目	単位数
学科専門科目群	基礎理学療法学	医療関係法規論	2
		理学療法触診法	1
		基礎理学療法学Ⅰ	1
		基礎理学療法学Ⅱ	1
		基礎理学療法学実習	1
		理学療法管理	1
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	1
		理学療法評価学各論	2
		臨床理学療法評価学（動作分析）	1
		臨床理学療法評価学実習	1
	理学療法治療学	基礎日常生活活動学	1
		基礎運動療法学総論	1
		基礎運動療法学各論	1
		物理療法学	1
		運動器系理学療法学Ⅰ	1
		運動器系理学療法学Ⅱ	2
		運動器系理学療法学Ⅲ	1
		神経系理学療法学Ⅰ	1
		神経系理学療法学Ⅱ	2
		神経系理学療法学Ⅲ	1
		内部障害系理学療法学Ⅰ	1
		内部障害系理学療法学Ⅱ	2
		内部障害系理学療法学Ⅲ	1
		発達障害理学療法学	1
	義肢装具学	2	
	臨床理学療法治療学実習	1	
	学地域療法	地域理学療法学	2
		生活環境論	1
		老年期理学療法学	1
	総合領域	理学療法臨床推論概論	1
		理学療法臨床推論演習	1
		総合リハビリテーションIPW演習	1
		理学療法特論Ⅰ	1
		理学療法特論Ⅱ	1
		理学療法特論Ⅲ	2
		運動器系理学療法セミナー	1
		神経系理学療法セミナー	1
	内部障害系理学療法セミナー	1	
	地域理学療法セミナー	1	
	研究業	卒業研究Ⅰ	2
		卒業研究Ⅱ	2
	臨床実習	臨床見学実習	1
検査測定実習		1	
臨床評価実習		4	
地域理学療法実習		1	
臨床総合実習Ⅰ		7	
臨床総合実習Ⅱ		7	
卒業要件（最低必要単位数）		126	

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	業療法学	基礎作業学	2	
		作業科学入門	2	
		作業療法概論	2	
	作業療法管理学	職場管理(教育を含む)	1	
		職業倫理	1	
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	2	
		身体障害作業療法評価学	2	
		精神障害作業療法評価学	1	
		発達障害作業療法評価学	1	
		高次脳機能障害作業療法評価学	1	
		作業療法治療学	日常生活活動学	2
			身体障害作業療法治療学総論	2
	精神障害作業療法治療学総論		2	
	高齢期障害作業療法治療学総論		2	
	発達障害作業療法治療学総論		2	
	身体障害作業療法治療学各論		1	
	精神障害作業療法治療学各論		1	
	高齢期障害作業療法治療学各論		1	
	発達障害作業療法治療学各論		1	
	義肢装具学		1	
	作業療法特論Ⅰ		1	
	作業療法特論Ⅱ		1	
	身体障害作業療法治療学演習		1	
	精神障害作業療法治療学演習		1	
	高齢期障害作業療法治療学演習	1		
	発達障害作業療法治療学演習	1		
	総合リハビリテーションIPW演習	1		
	業地域療法学	地域作業療法学	2	
		生活環境論	1	
		障害者地域生活支援論	1	
研究業	卒業研究Ⅰ	2		
	卒業研究Ⅱ（身体障害）	2		
	卒業研究Ⅱ（精神障害）	2		
	卒業研究Ⅱ（高齢期障害・地域）	2		
	卒業研究Ⅱ（発達障害）	2		
臨床実習	臨地見学実習	2		
	臨床検査実習	2		
	地域作業療法実習	1		
	臨床評価実習	4		
	臨床総合実習	16		
卒業要件（最低必要単位数）		126		

別表第4

看護学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
	語学	英語Ⅰ(初級)	2	
		英語Ⅱ(中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
		応用英語演習	2	
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1	
		チーム医療見学実習	1	
		医療コミュニケーション	1	
		チーム医療論	1	
		IPW論	1	
		基礎体育	2	
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2	
		健康管理学Ⅰ	2	
		健康管理学Ⅱ	2	
		栄養学	2	
		身体運動科学	2	
		東洋医療概論	2	
統合医療概論	2			
学科専門科目群	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1	
		形態機能学Ⅱ	1	
		形態機能学Ⅲ	1	
		形態機能学Ⅳ	1	
		フィジカルアセスメント	2	
		生化学	2	
		発達心理学	2	
		疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1
			病理学	1
	臨床薬理学		1	
	臨床病態学Ⅰ		1	
	臨床病態学Ⅱ		1	
	臨床病態学Ⅲ		1	
	社会保健制度と健康支援	医療概論	1	
		公衆衛生学	2	
		看護関係法規	2	
	保健統計学	疫学	2	

別表第4

医療技術学部 鍼灸学科 鍼灸コース 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	2
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
	統合医療概論	2	
	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ(骨・筋)	4
		解剖学Ⅱ(神経)	2
		解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2
		生理学Ⅰ(動物生理学)	2
		生理学Ⅱ(植物生理学)	2
生理学Ⅲ(応用生理学)		2	
疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	運動学	2	
	生化学	2	
	病理学	2	
	臨床医学総論	2	
	整形外科学	2	
	内科学	2	
	臨床医学各論Ⅰ	2	
	臨床医学各論Ⅱ	2	
	臨床医学各論Ⅲ	2	
	スポーツ医学	2	
	リハビリテーション医学	2	
	画像診断学	2	
基礎はりきゅう学	衛生学公衆衛生学	2	
	保健医療倫理	1	
	経絡経穴Ⅰ	1	
	経絡経穴Ⅱ	1	
	経穴局所解剖演習Ⅰ	1	
	経穴局所解剖演習Ⅱ	1	
鍼灸科学概論Ⅰ	1		
鍼灸科学概論Ⅱ	1		
東洋医学概論Ⅰ	1		
東洋医学概論Ⅱ	1		
東洋医学概論Ⅲ	1		

区分		授業科目	単位数
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論	1
		看護理論	2
		生活援助論 I	2
		生活援助論 II	2
		診療援助論 I	2
		診療援助論 II	2
		看護過程演習	1
	実習地	基礎看護学実習 I	1
		基礎看護学実習 II	2
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	2
		成人看護援助論 I	1
		成人看護援助論 II	1
		成人看護援助論 III	1
		成人看護援助論 IV	1
	看護学 老年	老年看護学概論	2
		老年看護援助論 I	1
		老年看護援助論 II	1
	看護学 母性	母性看護学概論	2
		母性看護援助論 I	1
		母性看護援助論 II	1
	看護学 小児	小児看護学概論	2
		小児看護援助論 I	1
		小児看護援助論 II	1
	看護学 精神	精神看護学概論	2
		精神看護援助論 I	1
		精神看護援助論 II	1
	臨地実習	成人看護学実習 I (急性)	3
		成人看護学実習 II (慢性)	3
		老年看護学実習 I	3
老年看護学実習 II		1	
母性看護学実習		2	
小児看護学実習		2	
精神看護学実習		2	
在宅看護論	在宅看護概論	2	
	在宅看護援助論 I	1	
	在宅看護援助論 II	1	
	外来看護論	1	
看護の統合と実践 I	健康教育論	2	
	家族看護学	1	
	看護管理論	1	
	災害・国際看護論	1	
	義護概説	2	
	学校保健	2	
	健康相談活動論	2	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	
	公衆衛生看護学演習	2	
	公衆衛生看護活動論 I	2	
	公衆衛生看護活動論 II	2	
	公衆衛生看護活動論 III	2	
	公衆衛生看護活動論 IV	2	
	公衆衛生看護管理論	2	
保健医療福祉行政論	2		
臨地実習	在宅看護論実習	2	
	公衆衛生看護学実習	4	
	主題実習 I	2	
卒業と看護の統合	看護研究	1	
	卒業研究	2	
看護の統合と実践 II	臨床看護学セミナー I	2	
	臨床看護学セミナー II	2	
	公衆衛生看護セミナー	1	
	臨床看護技術セミナー	1	
卒業要件 (最低必要単位数)			126

区分		授業科目	単位数
専門科目	臨床はりきゆう学	鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学 I (整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学 II (整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学 III (内科系)	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論 I	1
	東洋医学各論 II	1	
	うきは社会学ゆり会	鍼灸経営論	1
		関係法規	1
	実習	基礎鍼灸技 I	1
		基礎鍼灸技 II	1
		基礎灸実技 I	1
		基礎灸実技 II	1
		応用鍼灸実技 I	1
		応用鍼灸実技 II	1
		現代医学系鍼灸学実習 I	1
現代医学系鍼灸学実習 II		1	
現代医学系鍼灸学実習 III		1	
東洋医学系鍼灸学実習 I		1	
東洋医学系鍼灸学実習 II		1	
東洋医学系鍼灸学実習 III		1	
実臨習床	臨床灸実習	1	
	特殊鍼灸治療学	1	
総合領域	附属施設所基礎実習	2	
	附属施設所応用実習	2	
	キャリアデザイン	1	
	鍼灸総合演習 I	2	
	鍼灸総合演習 II	2	
	鍼灸総合演習 III	2	
	卒業研究 I	1	
	卒業研究 II	1	
	学外見学実習 I	1	
	学外見学実習 II	1	
専門領域	美容鍼灸学総論	1	
	テーピング技術論	1	
	コンディショニング技術論	1	
	スポーツ鍼灸学総論	1	
	スポーツ鍼灸学各論	1	
	介護学概論	1	
	老年ケア演習	1	
	美容鍼灸学各論 I	1	
	美容鍼灸学各論 II	1	
	応用鍼灸学 I	1	
応用鍼灸学 II	1		
スポーツ経営学	1		
卒業要件 (最低必要単位数)			126

別表第5

臨床検査学科 教育課程

区分		授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
	語学	西洋史概説	2		
		英語Ⅰ(初級)	2		
		英語Ⅱ(中級)	2		
		英会話	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
共通科目群	保健医療	応用英語演習	2		
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1		
		チーム医療見学実習	1		
		医療コミュニケーション	1		
		チーム医療論	1		
		IPW論	1		
		基礎体育	1		
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2		
		健康管理学Ⅰ	2		
		健康管理学Ⅱ	2		
		栄養学	2		
		身体運動科学	2		
		東洋医療概論	2		
		統合医療概論	2		
		学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造Ⅰ	2
				人体の構造Ⅱ	2
				人体の構造実習	1
				人体の機能Ⅰ	2
人体の機能Ⅱ	2				
生化学	2				
生化学特論	2				
生化学実習	1				
分析化学	2				
小児医学	2				
老年医学	2				
救急災害医学	2				
薬理学	2				
リハビリテーション概論	2				
その他の基礎と関連学と福祉学と工学療	臨床検査学総論		2		
	検査技術科学序論		2		
	病理学		2		
	医学概論		2		
	公衆衛生学		2		
	医用工学概論		2		
	医用工学実習		1		

別表第5

医療技術学部 鍼灸学科 スポーツ特修コース 教育課程

区分		授業科目	単位数		
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2		
		物理学	2		
		生物学	2		
		化学	2		
		情報処理	2		
		統計学	2		
	人間理解と社会	心理学	2		
		生命倫理学	2		
		哲学	2		
		社会福祉学	2		
		日本国憲法	2		
		東洋史概説	2		
	語学	西洋史概説	2		
		英語Ⅰ(初級)	2		
		英語Ⅱ(中級)	2		
		英会話	2		
		医学英語	2		
		基礎英語演習	2		
共通科目群	保健医療	応用英語演習	2		
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1		
		チーム医療見学実習	1		
		医療コミュニケーション	1		
		チーム医療論	1		
		IPW論	1		
		基礎体育	2		
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2		
		健康管理学Ⅰ	2		
		健康管理学Ⅱ	2		
		栄養学	2		
		身体運動科学	2		
		東洋医療概論	2		
		統合医療概論	2		
		学科専門科目群	専門基礎科目	解剖学Ⅰ(骨・筋)	4
				解剖学Ⅱ(神経)	2
				解剖学Ⅲ(内臓・脈管)	2
				生理学Ⅰ(動物生理学)	2
生理学Ⅱ(植物生理学)	2				
生理学Ⅲ(応用生理学)	2				
運動学	2				
生化学	2				
及び回復の促進	病理学			2	
	臨床医学総論			2	
	整形外科			2	
	内科学			2	
	臨床医学各論Ⅰ		2		
	臨床医学各論Ⅱ		2		
	臨床医学各論Ⅲ		2		
	スポーツ医学		2		
	リハビリテーション医学		2		
	画像診断学		2		
	保健医療福祉の理念		衛生学公衆衛生学	2	
			保健医療倫理	1	
基礎はりきゅう学			経絡経穴Ⅰ	1	
			経絡経穴Ⅱ	1	
			経穴局所解剖演習Ⅰ	1	
			経穴局所解剖演習Ⅱ	1	
	鍼灸科学概論Ⅰ	1			
	鍼灸科学概論Ⅱ	1			
東洋医学概論Ⅰ	1				
東洋医学概論Ⅱ	1				
東洋医学概論Ⅲ	1				

区分	授業科目	単位数	
学 科 専 門 科 目 群	臨床病態学	臨床病態学Ⅰ	2
		臨床病態学Ⅱ	2
	形態検査学	血液検査学Ⅰ	2
		血液検査学Ⅱ	2
		血液検査学実習	1
		病理検査学	2
		病理検査学実習	1
	生物化学検査学	一般検査学	1
		臨床化学検査学Ⅰ	2
		臨床化学検査学Ⅱ(放射性同位元素学含む)	2
		臨床化学検査学実習	1
		遺伝子検査学	2
	病 因 ・ 生 体 防 御 検 査 学	遺伝子検査学実習	1
		生命工学概論	1
		微生物検査学Ⅰ	2
		微生物検査学Ⅱ	2
		微生物検査学実習	1
		寄生虫検査学	1
		免疫検査学Ⅰ	2
		免疫検査学Ⅱ	2
		免疫検査学実習	1
		輸血・移植検査学	2
	生 理 機 能 検 査 学	輸血・移植検査学実習	1
		生理機能検査学Ⅰ	2
		生理機能検査学Ⅱ	2
		生理機能検査学実習Ⅰ	1
		生理機能検査学実習Ⅱ	1
	合 査 学 管 理 総 務 学	画像検査学	2
		超音波検査学Ⅰ	1
		超音波検査学Ⅱ	1
	検 査 学 管 理 総 務 学	検査総合管理学	2
		医療情報科学	2
	管 理 総 務 学	関係法規	1
		医療安全管理学	1
	総 合 領 域	臨床薬理学	2
		食品衛生学	1
		食品関係法規	1
		総合演習Ⅰ	2
		総合演習Ⅱ	2
	研 究 業	総合演習Ⅲ	2
		卒業研究Ⅰ	2
	実 習 地	卒業研究Ⅱ	2
臨地実習		7	
細 胞 診 断 学	臨床細胞学概論	1	
	臨床細胞学実習Ⅰ	1	
	臨床細胞学実習Ⅱ	1	
	臨床細胞学総論Ⅰ	1	
	臨床細胞学総論Ⅱ	1	
	臨床細胞学各論Ⅰ	1	
	臨床細胞学各論Ⅱ	1	
	臨床細胞学各論Ⅲ	1	
	細胞診断学実習Ⅰ	3	
	細胞診断学実習Ⅱ	3	
	細胞診断学実習Ⅲ	3	
細胞診断学特別実習Ⅰ	3		
細胞診断学特別実習Ⅱ	3		
卒業要件(最低必要単位数)		124	

区分	授業科目	単位数	
学 科 専 門 科 目 群	臨 床 は り き ゆう 学	鍼灸安全学	1
		臨床生理学	1
		臨床鍼灸学	1
		生体観察	1
		運動機能検査法	1
		現代医学系鍼灸学Ⅰ(整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学Ⅱ(整形外科系)	2
		現代医学系鍼灸学Ⅲ(内科系)	1
		東洋医学系検査法	1
		東洋医学各論Ⅰ	1
	東洋医学各論Ⅱ	1	
	社 会 は り き ゆう 学	鍼灸経営論	1
		関係法規	1
	実 習	基礎鍼灸Ⅰ	1
		基礎鍼灸Ⅱ	1
		基礎灸実技Ⅰ	1
		基礎灸実技Ⅱ	1
		応用鍼灸実技Ⅰ	1
		応用鍼灸実技Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅰ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅱ	1
		現代医学系鍼灸学実習Ⅲ	1
東洋医学系鍼灸学実習Ⅰ		1	
東洋医学系鍼灸学実習Ⅱ	1		
実 習 床	東洋医学系鍼灸学実習Ⅲ	1	
	東洋医学系鍼灸学実習Ⅳ	1	
総 合 領 域	応用鍼灸治療学	1	
	臨床灸実習	1	
	特殊鍼灸治療学	1	
	附属施術所基礎実習	2	
	附属施術所応用実習	2	
	キャリアデザイン	1	
	鍼灸総合演習Ⅰ	2	
	鍼灸総合演習Ⅱ	2	
	鍼灸総合演習Ⅲ	2	
	運動生理学	2	
運動生理機能学演習	2		
保 健 体 育	卒業研究Ⅰ	1	
	卒業研究Ⅱ	1	
	学外見学実習Ⅰ	1	
	学外見学実習Ⅱ	1	
	スポーツ実習Ⅰ体づくり運動	1	
	スポーツ実習Ⅱ球技A	1	
	スポーツ実習Ⅱ球技B	1	
	スポーツ実習Ⅱ球技C	1	
	スポーツ実習Ⅲ陸上競技	1	
	スポーツ実習Ⅳ柔道	1	
	スポーツ実習Ⅴダンス	1	
	スポーツ実習Ⅵ器械運動	1	
	スポーツ実習Ⅶ水泳	1	
	スポーツ実習Ⅷ生涯スポーツ	1	
	学校保健(小児保健・精神保健)	2	
	学校保健(学校安全・救急処置)	2	
	トレーニング科学演習Ⅰ(レジスタンスエクササイズ1)	1	
	トレーニング科学演習Ⅱ(エアロビックダンス・ウォーキング・ジョギング)	1	
トレーニング科学演習Ⅲ(レジスタンスエクササイズ2・水中運動)	1		
トレーニング科学演習Ⅳ(指導実習)	1		
体力トレーニング論	2		
テーピング技術論	1		
スポーツバイオメカニクス	2		
介護学概論	1		
老年ケア演習	1		
体育原理	2		
スポーツ心理学	2		
スポーツ鍼灸学総論	1		
スポーツ鍼灸学各論	1		
スポーツ傷害学・栄養学	2		
スポーツ経営学	1		
卒業要件(最低必要単位数)		144	

別表第6

作業療法学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学Ⅰ			2
健康管理学Ⅱ			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論			2
学科専門科目群	人々の構造と機能及び心身の発達	人体の構造演習Ⅰ(運動器)	1
		人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1
		人体の構造Ⅰ(神経系)	2
		人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	2
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	2
		基礎運動学	2
		臨床運動学	2
		リハビリテーション概論	2
		公衆衛生学	2
		生化学	2
		病理学	2
		臨床病態学Ⅰ	2
	臨床病態学Ⅱ	2	
	臨床病態学Ⅲ	2	
	整形外科学	2	
	小児科学(人間発達学)	2	
	精神医学	2	
	精神医学各論	2	
	臨床心理学	1	
	リハビリテーション医学(画像診断・予防・栄養含む)	1	
	医療関係法規論	2	
	チームリハビリテーション概論	1	
	介護学概論・ボランティア活動論	2	
	スポーツ医学	1	

別表第6

医療技術学部 臨床検査学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)
チーム医療見学実習			1
医療コミュニケーション			1
チーム医療論			1
IPW論			1
基礎体育			1
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2
健康管理学Ⅰ			2
健康管理学Ⅱ			2
栄養学			2
身体運動科学			2
東洋医療概論			2
統合医療概論			2
学科専門科目群	専門基礎科目	人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	2
		人体の構造実習	1
		人体の機能Ⅰ	2
		人体の機能Ⅱ	2
		生化学	2
		生化学特論	2
		生化学実習	1
		分析化学	2
		小児医学	2
		老年医学	2
		救急災害医学	2
		薬理学	2
		リハビリテーション概論	2
	その基礎と臨床検査と福祉医療工医療	臨床検査学総論	2
		検査技術科学序論	2
		病理学	2
		医学概論	2
		公衆衛生学	2
		医用工学概論	2
		医用工学実習	1

区分	授業科目	単位数
基礎学	基礎作業学	2
	作業科学入門	2
	作業療法概論	2
	職場管理(教育を含む)	1
作業療法管理学	職業倫理	1
	作業療法評価学総論	2
作業療法評価学	身体障害作業療法評価学	2
	精神障害作業療法評価学	1
	発達障害作業療法評価学	1
	高次脳機能障害作業療法評価学	1
作業療法治療学	日常生活活動学	2
	身体障害作業療法治療学総論	2
	精神障害作業療法治療学総論	2
	高齢期障害作業療法治療学総論	2
	発達障害作業療法治療学総論	2
	身体障害作業療法治療学各論	1
	精神障害作業療法治療学各論	1
	高齢期障害作業療法治療学各論	1
	発達障害作業療法治療学各論	1
	義肢装具学	1
	作業療法特論Ⅰ	1
	作業療法特論Ⅱ	1
	身体障害作業療法治療学演習	1
	精神障害作業療法治療学演習	1
高齢期障害作業療法治療学演習	1	
発達障害作業療法治療学演習	1	
総合リハビリテーションIPW演習	1	
地域学	地域作業療法学	2
	生活環境論	1
	障害者地域生活支援論	1
卒業研究	卒業研究Ⅰ	2
	卒業研究Ⅱ(身体障害)	2
	卒業研究Ⅱ(精神障害)	2
	卒業研究Ⅱ(高齢期障害・地域)	2
臨床実習	卒業研究Ⅱ(発達障害)	2
	臨地見学実習	2
	臨床検査実習	2
	地域作業療法実習	1
	臨床評価実習	4
	臨床総合実習	16
卒業要件(最低必要単位数)		126

区分	授業科目	単位数
臨床学	臨床病態学Ⅰ	2
	臨床病態学Ⅱ	2
形態検査学	血液検査学Ⅰ	2
	血液検査学Ⅱ	2
	血液検査学実習	1
	病理検査学	2
	病理検査学実習	1
生物検査学	一般検査学	1
	臨床化学検査学Ⅰ	2
	臨床化学検査学Ⅱ(放射性同位元素学含む)	2
	臨床化学検査学実習	1
	遺伝子検査学	2
病因・生体防御検査学	遺伝子検査学実習	1
	生命工学概論	1
	微生物検査学Ⅰ	2
	微生物検査学Ⅱ	2
	微生物検査学実習	1
	寄生虫検査学	1
	免疫検査学Ⅰ	2
	免疫検査学Ⅱ	2
	免疫検査学実習	1
	輸血・移植検査学	2
輸血・移植検査学実習	1	
生理機能検査学	生理機能検査学Ⅰ	2
	生理機能検査学Ⅱ	2
	生理機能検査学実習Ⅰ	1
	生理機能検査学実習Ⅱ	1
	画像検査学	2
	超音波検査学Ⅰ	1
超音波検査学Ⅱ	1	
検査管理学	検査総合管理学	2
	医療情報科学	2
	関係法規	1
総合領域	医療安全管理学	1
	臨床薬理学	2
	食品衛生学	1
	食品関係法規	1
	総合演習Ⅰ	2
	総合演習Ⅱ	2
	総合演習Ⅲ	2
	卒業研究Ⅰ	2
	卒業研究Ⅱ	2
	細胞診断学	臨床実習
臨床細胞学概論		1
臨床細胞学実習Ⅰ		1
臨床細胞学実習Ⅱ		1
臨床細胞学総論Ⅰ		1
臨床細胞学総論Ⅱ		1
臨床細胞学各論Ⅰ		1
臨床細胞学各論Ⅱ		1
臨床細胞学各論Ⅲ		1
細胞診断学実習Ⅰ		3
細胞診断学実習Ⅱ		3
細胞診断学実習Ⅲ		3
細胞診断学特別実習Ⅰ		3
細胞診断学特別実習Ⅱ	3	
卒業要件(最低必要単位数)		124

別表第7

臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	人々の機能	医学概論	1
		公衆衛生学	2
		人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	1
		人体の機能Ⅰ	2
		人体の機能Ⅱ	1
	臨床工学に必要な医学的基礎	生化学	2
		病理学	2
		免疫学	2
		薬理学	2
		看護学概論	1
		基礎医学実習	1
	臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学	2
		数学演習	1
		応用数学	2
		応用物理学	1
		応用化学	1
		電気工学Ⅰ	2
		電気工学Ⅱ	2
		電気工学実習	1
		電子工学Ⅰ	2
		電子工学Ⅱ	2
	電子工学実習	1	
	臨床工学に必要な情報技術とシステム工学の基礎	放射線工学概論	1
情報処理工学		2	
医療統計学		2	
システム制御工学		2	
		情報処理・システム制御工学実習	1

別表第7

医療技術学部 臨床工学科 教育課程

区分		授業科目	単位数
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2
		物理学	2
		生物学	2
		化学	2
		情報処理	2
		統計学	2
	人間理解と社会	心理学	2
		生命倫理学	2
		哲学	2
		社会福祉学	2
		日本国憲法	2
		東洋史概説	2
	語学	英語Ⅰ(初級)	2
		英語Ⅱ(中級)	2
		英会話	2
		医学英語	2
		基礎英語演習	2
		応用英語演習	2
共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
		チーム医療見学実習	1
		医療コミュニケーション	1
		チーム医療論	1
		IPW論	1
		基礎体育	1
		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2
		健康管理学Ⅰ	2
		健康管理学Ⅱ	2
		栄養学	2
		身体運動科学	2
		東洋医療概論	2
統合医療概論	2		
学科専門科目群	人々の機能	医学概論	1
		公衆衛生学	2
		人体の構造Ⅰ	2
		人体の構造Ⅱ	1
		人体の機能Ⅰ	2
		人体の機能Ⅱ	1
	臨床工学に必要な医学的基礎	生化学	2
		病理学	2
		免疫学	2
		薬理学	2
		看護学概論	1
		基礎医学実習	1
	臨床工学に必要な理工学的基礎	医用工学	2
		数学演習	1
		応用数学	2
		応用物理学	1
		応用化学	1
		電気工学Ⅰ	2
		電気工学Ⅱ	2
		電気工学実習	1
		電子工学Ⅰ	2
		電子工学Ⅱ	2
	電子工学実習	1	
	臨床工学に必要な情報技術とシステム工学の基礎	放射線工学概論	1
情報処理工学		2	
医療統計学		2	
システム制御工学		2	
		情報処理・システム制御工学実習	1

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	専門科目	医用生体工学	生体物性工学	2
			生体材料工学	2
			バイオメカニクス	2
			バイオレオロジー	1
			計測工学	1
			生体情報処理工学	2
		医用機器学	医用機器学概論	2
			生体計測装置学	2
			生体計測装置学実習	1
			医用治療機器学	2
			医用治療機器学実習	1
			画像診断装置学	2
		生体機能代行装置学	医用監視システム装置学	2
			体外循環装置学	1
			体外循環療法学	2
			体外循環実習	1
			血液浄化装置学	1
			血液浄化療法学	2
	血液浄化実習		1	
	人工呼吸装置学		1	
	人工呼吸療法学		2	
	人工呼吸実習	1		
	全医用安全管理学	人体機能補助装置学	1	
		人体機能補助療法学	2	
	関連臨床医学	人体機能補助実習	1	
		医用機器安全管理学	2	
		医用機器安全管理学実習	1	
		関係法規	2	
		臨床医学総論 (内科学・外科学)	2	
	実臨床	内科学各論 (循環器・呼吸器・腎・感染症)	2	
		外科学各論 (循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学)	2	
		臨床医学演習	1	
	専門特講	技術臨床工学	臨床実習	4
医用生体工学特講			1	
医用機器学特講			1	
生体機能代行技術特講			1	
関連臨床医学特講			1	
研究分野		先進科学技術	基礎工学特講	1
			先進科学技術論	1
			先進計測技術学	1
			先進治療技術学	1
			機能評価分析学	1
			機能評価学演習	1
			医療情報システム学	1
			医療情報システム学演習	1
			医用ロボット工学	1
			遺伝子検査学	1
先進科学技術演習	1			
研究卒業	卒業研究 I	2		
	卒業研究 II	2		
卒業要件 (最低必要単位数)			126	

区分		授業科目	単位数	
学科専門科目群	専門科目	医用生体工学	生体物性工学	2
			生体材料工学	2
			バイオメカニクス	2
			バイオレオロジー	1
			計測工学	1
			生体情報処理工学	2
		医用機器学	医用機器学概論	2
			生体計測装置学	2
			生体計測装置学実習	1
			医用治療機器学	2
			医用治療機器学実習	1
			画像診断装置学	2
		生体機能代行装置学	医用監視システム装置学	2
			体外循環装置学	1
			体外循環療法学	2
			体外循環実習	1
			血液浄化装置学	1
			血液浄化療法学	2
	血液浄化実習		1	
	人工呼吸装置学		1	
	人工呼吸療法学		2	
	人工呼吸実習	1		
	全医用安全管理学	人体機能補助装置学	1	
		人体機能補助療法学	2	
	関連臨床医学	人体機能補助実習	1	
		医用機器安全管理学	2	
		医用機器安全管理学実習	1	
		関係法規	2	
		臨床医学総論 (内科学・外科学)	2	
	実臨床	内科学各論 (循環器・呼吸器・腎・感染症)	2	
		外科学各論 (循環器・呼吸器・泌尿器・麻酔・集中治療学)	2	
		臨床医学演習	1	
	専門特講	技術臨床工学	臨床実習	4
医用生体工学特講			1	
医用機器学特講			1	
生体機能代行技術特講			1	
関連臨床医学特講			1	
研究分野		先進科学技術	基礎工学特講	1
			先進科学技術論	1
			先進計測技術学	1
			先進治療技術学	1
			機能評価分析学	1
			機能評価学演習	1
			医療情報システム学	1
			医療情報システム学演習	1
			医用ロボット工学	1
			遺伝子検査学	1
先進科学技術演習	1			
研究卒業	卒業研究 I	2		
	卒業研究 II	2		
卒業要件 (最低必要単位数)			126	

別表第 8

診療放射線学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
	語学	英語 I (初級)	2	
		英語 II (中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学 I			2	
健康管理学 II			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論	2			
学科専門科目群	基礎科目演習	数学	2	
		数学演習	1	
		物理学演習	1	
		生物学演習	1	
	人間の構造と機能及び 疾病の成り立ち	医学概論	1	
		公衆衛生学	1	
		人体の構造 I	1	
		人体の構造 II	1	
		人体の機能 I	1	
		人体の機能 II	1	
		生化学	1	
		病理学	1	
		内科学 I	1	
		内科学 II	1	
		薬理学	1	
		看護学概論	1	
		基礎医学演習	1	
	外科学	1		
	救急災害医学	1		
	保健医療福祉における放射線の科学及び技術 並びに放射線の科学的基礎	電気・電子工学	2	
		医用工学	2	
		工学演習	1	
		情報処理工学	2	
		医療統計学	1	
		放射化学	2	
		放射線生物学	2	
		放射線化学・生物学演習	1	
放射線物理学		2		
放射線計測学		2		
放射線物理学・計測学演習	1			
放射線科学	1			
専門基礎科目実験	2			

別表 8

医療技術学部 診療放射線学科 教育課程

区分		授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考	基礎ゼミナール	2	
		物理学	2	
		生物学	2	
		化学	2	
		情報処理	2	
		統計学	2	
	人間理解と社会	心理学	2	
		生命倫理学	2	
		哲学	2	
		社会福祉学	2	
		日本国憲法	2	
		東洋史概説	2	
		西洋史概説	2	
	語学	英語 I (初級)	2	
		英語 II (中級)	2	
		英会話	2	
		医学英語	2	
		基礎英語演習	2	
	応用英語演習	2		
	共通科目群	保健医療	MBS(Morinomiya Basic Seminar)	1
			チーム医療見学実習	1
医療コミュニケーション			1	
チーム医療論			1	
IPW論			1	
基礎体育			1	
健康科学(スポーツ社会学を含む)			2	
健康管理学 I			2	
健康管理学 II			2	
栄養学			2	
身体運動科学			2	
東洋医療概論			2	
統合医療概論	2			
学科専門科目群	基礎科目演習	数学	2	
		数学演習	1	
		物理学演習	1	
		生物学演習	1	
	人間の構造と機能及び 疾病の成り立ち	医学概論	1	
		公衆衛生学	1	
		人体の構造 I	1	
		人体の構造 II	1	
		人体の機能 I	1	
		人体の機能 II	1	
		生化学	1	
		病理学	1	
		内科学 I	1	
		内科学 II	1	
		薬理学	1	
		看護学概論	1	
		基礎医学演習	1	
	外科学	1		
	救急災害医学	1		
	保健医療福祉における放射線の科学及び技術 並びに放射線の科学的基礎	電気・電子工学	2	
		医用工学	2	
		工学演習	1	
		情報処理工学	2	
		医療統計学	1	
		放射化学	2	
		放射線生物学	2	
		放射線化学・生物学演習	1	
放射線物理学		2		
放射線計測学		2		
放射線物理学・計測学演習	1			
放射線科学	1			
専門基礎科目実験	2			

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	診療画像技術学	放射線医学概論	1
		X線撮影技術学Ⅰ	2
		X線撮影技術学Ⅱ	2
		X線機器工学	2
		放射線撮影技術学	2
		CT・MRI撮影技術学	2
		CT・MRI機器工学	2
		撮影技術学・機器工学実験Ⅰ	1
		撮影技術学・機器工学実験Ⅱ	1
		画像解剖学	1
		画像解剖学演習	1
		機器工学演習	1
	核医学検査	核医学検査技術学Ⅰ	2
		核医学検査技術学Ⅱ	2
		核医学検査技術学実験	1
		放射性薬品学	1
	放射線治療技術学	放射線治療技術学Ⅰ	2
		放射線治療技術学Ⅱ	2
		放射線治療技術学実験	1
	医用画像情報学	放射線治療学	1
		画像工学	2
		医療情報学	1
		医用画像情報学	2
	放射線安全管理学	医用画像情報学実験	1
		放射線安全管理学	2
		放射線関係法規	1
	医療安全管理学	安全管理学実験	1
		医療安全管理学	2
	画像診断・技術	臨床画像解剖学	2
		臨床画像解析学	2
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	6
		臨床実習Ⅱ	2
		臨床実習Ⅲ	2
		臨床実習ゼミナール	2
	専門特講	診療画像技術学特講	1
		核医学・放射線治療学特講	1
		放射線技術学特講	1
		基礎医学特講	1
	研究分野	先進核医学	1
		先進放射線治療学	1
		先進画像解析学	1
		先進医学	1
卒業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2	
卒業要件（最低必要単位数）		126	

区分	授業科目	単位数	
学科専門科目群	診療画像技術学	放射線医学概論	1
		X線撮影技術学Ⅰ	2
		X線撮影技術学Ⅱ	2
		X線機器工学	2
		放射線撮影技術学	2
		CT・MRI撮影技術学	2
		CT・MRI機器工学	2
		撮影技術学・機器工学実験Ⅰ	1
		撮影技術学・機器工学実験Ⅱ	1
		画像解剖学	1
		画像解剖学演習	1
		機器工学演習	1
	核医学検査	核医学検査技術学Ⅰ	2
		核医学検査技術学Ⅱ	2
		核医学検査技術学実験	1
		放射性薬品学	1
	放射線治療技術学	放射線治療技術学Ⅰ	2
		放射線治療技術学Ⅱ	2
		放射線治療技術学実験	1
	医用画像情報学	放射線治療学	1
		画像工学	2
		医療情報学	1
		医用画像情報学	2
	放射線安全管理学	医用画像情報学実験	1
		放射線安全管理学	2
		放射線関係法規	1
	医療安全管理学	安全管理学実験	1
		医療安全管理学	2
	画像診断・技術	臨床画像解剖学	2
		臨床画像解析学	2
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	6
		臨床実習Ⅱ	2
		臨床実習Ⅲ	2
		臨床実習ゼミナール	2
	専門特講	診療画像技術学特講	1
		核医学・放射線治療学特講	1
		放射線技術学特講	1
		基礎医学特講	1
	研究分野	先進核医学	1
		先進放射線治療学	1
		先進画像解析学	1
		先進医学	1
卒業	卒業研究Ⅰ	2	
	卒業研究Ⅱ	2	
卒業要件（最低必要単位数）		126	

別表第10

(単位：円)

学部名 学科名	学 年	入学科	授業料	教育 充実費	合計	入学 検定料
保健医療学部 鍼灸学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	3年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	4年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
保健医療学部 理学療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
保健医療学部 看護学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	3年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	4年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
保健医療学部 臨床検査学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
保健医療学部 作業療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
保健医療学部 臨床工学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
保健医療学部 診療放射線学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	

別表第10

(単位：円)

学部名 学科名	学 年	入学科	授業料	教育 充実費	合計	入学 検定料
看護学部 看護学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	3年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
	4年次		1,000,000	720,000	1,720,000	
総合リハビリテーション学部 理学療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
総合リハビリテーション学部 作業療法学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	3年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
	4年次		1,000,000	710,000	1,710,000	
医療技術学部 鍼灸学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	3年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
	4年次		1,000,000	650,000	1,650,000	
医療技術学部 臨床検査学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
医療技術学部 臨床工学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
医療技術学部 診療放射線学科	1年次	250,000	1,000,000	550,000	1,800,000	30,000
	2年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	3年次		1,000,000	640,000	1,640,000	
	4年次		1,000,000	640,000	1,640,000	

森ノ宮医療大学 教授会規程

平成19年4月1日制定

平成22年10月19日改定

平成26年7月29日改定

平成27年4月1日改定

平成28年5月24日改定

令和元年6月18日改定

令和2年10月20日改定

(趣旨)

第1条 森ノ宮医療大学学則の規定による森ノ宮医療大学教授会（以下「教授会」という。）の組織、権限、運営等については、この規程の定めるところによる。

(審議事項)

第2条 教授会は、次に掲げる事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 教育課程の編成に関する事
- (2) 授業及び試験に関する事
- (3) 学生の入学、卒業または課程の修了、その他学生の在籍に関する事、及び学位の授与に関する事
- (4) 学生指導に関する事
- (5) その他、教育または研究に関する事項

2 前項の規定に掲げる事項のほか、理事長ならびに学長の諮問した事項を審議し、意見を述べることができる。

(組織)

第3条 教授会は森ノ宮医療大学（以下「本学」という。）の理事長ならびに学長、教授、准教授、専任講師、事務局長をもって組織する。

(議長)

第4条 教授会は、学長が招集し、その議長となる。

2 議長に事故あるときは、構成員のうちから議長があらかじめ指名する者がその職務を代行する。

(招集)

第5条 教授会は、前条の規定に関する事項について、審議する必要があると認めるときに、あらかじめ審議事項を通知して招集する。ただし、緊急の場合は、この限りではない。

(議事)

- 第6条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
- 2 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の時は、議長が決す。ただし、特別の必要があると認められるときは別に定める割合以上の多数をもって議決することがある。
 - 3 教授会は、必要があると認めたときは、構成員以外の者を教授会に出席させることができる。

(議事録)

第7条 議長は、議事録を作成しなければならない。

(議案の提出)

- 第8条 教授会に議案を提出しようとする者は、会議の開催日の3日前までに議長に申し出なければならない。
- 2 臨時に教授会を開くことを要求する者は、議長に議案を添えて申し出なければならない。

(委員会)

第9条 教授会に専門的事項を審議するため、委員会を置くことができる。

(事務)

第10条 教授会の事務は、大学教務室において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規程は平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程は平成22年10月19日から施行する。
- 3 この規程は平成27年4月1日から施行する。
- 4 この規程は平成28年5月24日から施行する。
- 5 この規程は令和元年6月18日から施行する。
- 6 この規程は令和2年10月20日から施行する。

森ノ宮医療大学 自己点検評価・FSD委員会規程

平成19年4月1日制定

平成21年4月1日改訂

平成23年2月17日改訂

平成23年4月21日改訂

平成25年2月14日改訂

平成27年2月24日改訂

令和元年5月28日改訂

(趣旨)

第1条 この規程は、森ノ宮医療大学学則第2条に規定する自己点検・評価に関し、必要な事項を定めるものとする。さらに教職員の資質を維持・向上させることによって、本学が教育、研究、臨床を通じて広く社会的・国際的な貢献を果たすことを目的としてこの委員会を設置する。

(任務)

第2条 森ノ宮医療大学における自己点検・評価について、次に掲げる事項を審議し、実行する。

- (1) 自己点検・評価の方針及び項目の作成に関すること
- (2) 自己点検・評価の実施に関すること
- (3) 自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関すること
- (4) 第三者評価への対応に関すること
- (5) その他、理事長、学長が諮問した事項

2 FD・SDについて、次に掲げる事項を審議し、実行する。

- (1) FD・SDのための研修会の開催
- (2) 教育、研究、臨床を積極的に展開できる環境作り
- (3) 本学教職員の資質維持・向上に関わる事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 研究科長
- (2) 学部長
- (3) 学科長もしくは代行できる者
- (4) 共通教育部門より選出された者

- (5) 学術研究委員会より選出された者
- (6) 事務局長および事務局長を代行できる者
- (7) 大学事務局各室長のうち2名以上
- (8) 総務室員 若干名
- (9) 学長の指名する者

2 前項各号の委員は、学長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、学長が指名する
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる
- 4 委員長は、副委員長を指名する
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、これを代行する

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任をさまたげない。

- 2 委員に欠員が生じた場合は補充しなければならない。この場合の任期は前任者の残任期間とする。
- 3 委員は任期満了の後でも、後任の委員が委嘱されるまでは、なお、その任務を行なう。

(議事)

第6条 委員会の成立は、委員の3分の2以上の出席を必要とする。

- 2 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の時は、議長が決す。
- 3 議長が必要と認めるときは、他の職員の出席を求め、意見を聞くことができる。

(専門委員会)

第7条 委員会で、特に必要と認めた調査研究を行う場合は、別に専門部会を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、委員会において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関して必要な事項は委員会において定める。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、教授会の意見を聴き、学長が決定する。

附 則

- 1 この規程は平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程は平成19年10月19日から施行する。
- 3 この規程は平成21年4月1日から施行する。
- 4 この規程は平成23年4月1日から施行する。
- 5 この規程は平成23年4月21日から施行する。
- 6 この規程は平成25年2月14日から施行する。
- 7 この規程は平成27年2月24日から施行する。
- 8 この規程は令和元年5月28日から施行する。

森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部
理学療法学科 作業療法学科
学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

- 1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
 - (1) 学生の確保の見通し
 - ① 定員充足の見込み
 - ② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要
 - ③ 学生納付金の設定の考え方
 - (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況
 - ① オープンキャンパス
 - ② 受験情報雑誌／進学情報サイト
 - ③ 進学相談会／高校ガイダンス
 - ④ 高校訪問
 - ⑤ 教員対象説明会
 - ⑥ 本学公式 WEB サイト

- 2 人材需要の動向等社会の要請
 - (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）
 - (2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

(ア) 入学定員設定の考え方

本学保健医療学部理学療法学科及び作業療法学科は開設以来安定して入学定員を満たす志願者を確保しており、医療系大学として周辺地域の方々に支持されてきた。この度、保健医療学部理学療法学科及び作業療法学科を募集停止し、新たに開設する総合リハビリテーション学部理学療法学科及び作業療法学科の入学定員を考えるに当たり、①教員組織、実習指導体制、学生支援体制、教育施設・設備等の面において現行の水準が確保できること、②「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている理学療法士・作業療法士の社会的ニーズに応えられること、③長期的な学生確保が可能であること、等の観点を考慮した。

また、上記の要件に加え、「理学療法士作業療法士学校養成所指定規則」にある定員等を考慮し、教育効果や学習効率を十分に達成できる環境を構築する上で支障のない人数として総合的に判断した結果、総合リハビリテーション学部理学療法学科の入学定員を70名(収容定員280名)に、総合リハビリテーション学部作業療法学科の入学定員を40名(収容定員160名)に設定することとした。

【現在】 保健医療学部理学療法学科 (入学定員70名/収容定員280名)

保健医療学部作業療法学科 (入学定員40名/収容定員160名)

↓

【2022年4月以降】

総合リハビリテーション学部理学療法学科 (入学定員70名/収容定員280名)

総合リハビリテーション学部作業療法学科 (入学定員40名/収容定員160名)

(イ) 定員を充足する見込み

総合リハビリテーション学部理学療法学科及び作業療法学科の開設にあたり、全国の志願者動向、本学の定員充足状況、大学を取り巻く環境・競合大学の動向の調査や分析をおこなった。その結果、次に示す内容により、進学ニーズが拡大していること、拡大傾向が継続的であること、本学及び本学保健医療学部理学療法学科・作業療法学科が安定的に志願者を確保していることから、継続的に学生を確保し定員を充足する見通しであると判断した。

- ① 全国的に、リハビリテーション学を含む「保健系分野」への進学ニーズが高いこと
- ② 近畿エリアにおいて、理学療法士作業療法士養成校への進学ニーズが見込めること

- ③ 開学以来本学が全体的に順調に志願者を確保していること
- ④ 本学保健医療学部理学療法学科・作業療法学科が順調に志願者を確保していること

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(ア) リハビリテーション学を含む「保健系分野」への全国的な進学ニーズ

文部科学省発表の学校基本調査（大学の関係学科別入学者数）より、保健系分野への進学者数は年々増加していることがわかる。過去 5 年間の増加率を平均すると、大学全体では毎年平均 4.7%、私立大学では毎年平均 5.6%ずつ進学者数が増加している。【資料 1】

また、日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター集計の「私立大学・短期大学等入学志願動向」より、リハビリテーション学を含む保健系学部に対する「志願者数」「受験者数」「入学者数」はいずれも過去 5 年にわたり増加していることがわかる。また、志願倍率についても、5.2～5.8 倍程度で、入学定員充足率は 100%を割ることなく安定的に推移しており、これらのことから進学ニーズの高さがわかる。【資料 2】

(イ) 本学の医療系大学としての実績（入試状況）

本学は直近の過去 5 年にわたり安定して志願者を確保しており、入学定員を十分に満たす学生数を維持している。このような医療系大学としての本学の実績は、総合リハビリテーション学部理学療法学科及び作業療法学科の定員充足の見込みを裏付ける一つの根拠であるといえる。

保健医療学部全体でみると、平成 27 年度実施入試の志願者数が 2,978 名（競争率 4.88 倍）、平成 28 年度実施入試の志願者数が 3,298 名（競争率 5.67 倍）、平成 29 年度実施入試の志願者数が 3,304 名（競争率 4.84 倍）、平成 30 年度実施入試の志願者数が 2,823 名（競争率 4.23 倍）、令和元年度実施入試の志願者数が 4,451 名（競争率 5.20 倍）となり、競争率は常に高い水準を維持している。【資料 3】

保健医療学部理学療法学科についても、開設以来順調に志願者を確保しており、過去の入試状況をもみても、平成 27 年度実施入試の志願者数が 792 名（競争率 7.52 倍）、平成 28 年度実施入試の志願者数が 722 名（競争率 7.12 倍）、平成 29 年度実施入試の志願者数が 712 名（競争率 6.96 倍）、平成 30 年度実施入試の志願者数が 574 名（競争率 5.38 倍）、令和元年度実施入試の志願者数が 707 名（競争率 6.15 倍）と安定して高水準を維持し続けている。また、保健医療学部作業療法学科についても、平成 27 年度実施入試の志願者数が 244 名（競争率 2.61 倍）、平成 28 年度実施入試の志願者数が 381 名（競争率 4.83 倍）、平成 29 年度実施入試の志願者数が 305 名（競争率 4.23 倍）、平成 30 年度実施入試の志願者数が 215 名（競争率 2.68 倍）、令和元年度実施入試の志願者数が 316 名（競争率 5.15 倍）である。

このことから、総合リハビリテーション学部理学療法学科及び作業療法学科も引き続き定員が充足される可能性は非常に高いと考えられる。

(ウ) 近畿の理学療法士作業療法士養成校（大学）の入試動向及び本学との競合関係

本学保健医療学部理学療法学科及び作業療法学科の競合校が志願者を十分に確保できていることも、本学総合リハビリテーション学部理学療法学科及び作業療法学科の定員を充足できると考える一つの根拠となっている。

近畿エリアの理学療法士作業療法士養成校のうち、本学保健医療学部理学療法学科及び作業療法学科の競合校として5校【関西医療大学 保健医療学部理学療法学科及び作業療法学科（大阪府泉南郡）、兵庫医療大学 リハビリテーション学部理学療法学科及び作業療法学科（兵庫県神戸市）、大和大学 保健医療学部総合リハビリテーション学科理学療法専攻及び作業療法専攻（大阪府吹田市）、佛教大学 保健医療技術学部理学療法学科及び作業療法学科（京都府京都市）、畿央大学 健康科学部理学療法学科（奈良県北葛城郡）】を挙げているが、いずれも平成30年度及び令和元年度実施の入試において、入学定員を上回る志願者数を確保している。また、各大学の合計でも、令和元年度実施の入試において、理学療法士養成校では256名の入学定員に対して延べ4,613人、作業療法士養成校では160名の入学定員に対して延べ1,383人が志願しており、近畿エリアにおける理学療法士作業療法士養成校の募集は安定していると言える。

なお、競合校として上げた5校はいずれも、本学同様、理学療法学科または作業療法学科を有する関西エリアの私立大学であり、想定される受験者層（偏差値層）が同程度であることや、本学との位置関係などの要因から、併願関係が高いと言える。実際、本学独自の辞退者アンケートにおいても競合関係にあることが強く示唆されていることから、妥当な選定であると判断している。【資料4】【資料5】

ウ. 学生納付金の設定の考え方

本学総合リハビリテーション学部理学療法学科及び作業療法学科における初年度学生納付金（授業料+施設設備費）は、近隣競合校の状況や既設学科の学生納付金を考慮し、155万円に設定されている。

本学科の競合校の初年度学生納付金は、150万円～175万円であり、本学科が設定する初年度学生納付金もこの範囲内に納められている。また、本学の他学科（看護学科、鍼灸学科、臨床検査学科、臨床工学科、診療放射線学科）の学生納付金と同額に設定されている。【資料6】

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では学生の確保に向け、アドミッションセンターが中心となり様々な取り組みを行っている。具体的には、広報室で起案している各種企画の内容的な報告・連絡・相談とその確定及び学科内への業務依頼、情報の提供をアドミッションセンター会議において行い、それを各学科及び部署にフィードバックする体制が構築されている。この体制により、「オー

「オープンキャンパス」「進学相談会」「高校訪問」「教員対象説明会」等の学生募集活動を教職協働で実施し、長期的な学生確保のビジョンを持って取り組むことが可能となっている。

主な取り組み（予定含む）は以下のとおりである。

① オープンキャンパス

毎年、各高等学校のイベントや競合大学のスケジュールを考慮した上で、本学が求める学生が幅広く参加できるよう日程を調整し、内容においても開催時期ごとにテーマを設け、本学の認知度の向上とともに各学問領域への興味を喚起するものとなっている。また、「高校3年生を対象とするだけでなく、1・2年生を対象としたプログラムや保護者を対象とした「保護者のための進学説明会」を実施し、長期的な学生の確保に力を入れている。

また、「リアルオープンキャンパス」と題した「授業見学会（通常の大学の授業を見学できるイベント）」を開催し、本学への理解を促している。

② 受験雑誌・進学情報サイト

受験生等からの本学に対する資料請求件数は、開学以来順調に伸び続けている。【資料 7】資料請求件数全体のうち、受験雑誌や進学サイトを經由した請求が概ね 8 割程度を占めていることから、それらを通じた長期的な学生確保の取り組みに力を入れる。

また、これまで受験雑誌や進学サイトに掲載してきた内容に加え、学部再編に伴う新增設企画への参加や、掲載雑誌及びサイトの拡大、広告枠の拡大などについても順次実施していくことにより、更に広報活動を広げることができる。

③ 進学相談会／高校内ガイダンス

複数の大学がブースを設け、来場した高校生やその保護者から相談を受け付ける「進学相談会」と、大学の広報担当者などが高校に出向いて各学科の特色などを説明する「高校ガイダンス」を、本学の通学圏内となるエリアを中心に年間を通して実施する。「参画する相談会／ガイダンスの学問分野を看護・医療系に限定し、看護・医療関連への興味関心の高い生徒との接点を増やすと同時に、高校1・2年生を対象とした相談会／ガイダンスへの参加を増やし、長期的かつ安定的な学生の確保に向けた取り組みを行っている。」

進学相談会令和元年度（令和元年4月～令和2年3月）実績：延べ38会場で実施、648名と接触。

高校ガイダンス令和元年度（令和元年4月～令和2年3月）実績：延べ265校で実施、4,696名と接触。

④ 高校訪問

周辺の高等学校教員の本学への認知度を向上させる目的で、高等学校を訪問する。訪問目的と必要性を吟味し、訪問対象校や訪問時期・訪問回数・提案内容等を精査する。本学と同

じ学科を有する大学が少ない近隣府県の高等学校への訪問を強化し、本学の認知度を高めることで当該分野に興味のある生徒の獲得を狙う。

令和元年度（令和元年4月～令和2年3月）実績：延べ1,072校訪問。近畿2府4県では延べ855校訪問。

⑤ 教員対象説明会

近隣府県の高等学校の教員を対象とした説明会を実施する。認知度や募集力の短期的な向上ではなく、より長期的な学生募集力の強化を目的としており、そのため本学全体の情報提供のほか、各学科の設置の趣旨やアドミッションポリシー、入学者選抜の方法等の情報を提供する。

⑥ 本学 WEB サイト

本学 WEB サイトに理学療法学科・作業療法学科の紹介ページを作成しており、各学科及び理学療法士・作業療法士への興味関心を促すとともに、日々更新される最新情報を滞りなく発信するツールとして活用する。受験生だけでなく、高校1・2年生を対象とした専用コンテンツも開設しており、長期的な学生の確保を意識した構成となっている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

（1）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

総合リハビリテーション学部においては、豊かな感性と高い倫理観に加え、リハビリテーション領域の役割と共通点の理解を促進し、チーム医療においてリハビリテーションを主体的に担うための専門的知識と専門技術を持ち、他職種に関する幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力を有する専門職医療人を育成することを目的としている。

ア. 理学療法学科

チーム医療に貢献できる貢献性と科学性を持ちつつ、人に優しい理学療法を創造的に実践できる能力を身につけた人材を養成することを目的とし、下記の能力を身につけた人材に学位を授与する。

① 精度の高い専門的知識と専門技術

地域社会や医療現場等でのチームにおける理学療法の役割を理解し、それぞれの専門領域において、実践に即した精度の高い知識と専門技術を発揮することができる。

② チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理

観に基づいた理学療法を提供することができる。

③ 豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。

④ 主体的問題解決能力

理学療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々のニーズを見極め、個別のニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。

イ. 作業療法学科

命の尊さや人としての尊厳を大切にする感性と、チーム医療の一員として必要なコミュニケーション能力を備え、クライアントが必要とする意味ある作業を捉えた上で、すべての人の健康に貢献する作業療法士を養成することを目的としている。チーム医療とクライアント中心の作業療法を創造的に実践できるよう、下記の能力を身につけた人材に学位を授与する。

① 精度の高い専門的知識と専門技術

保健・医療・福祉の現場でのチームにおける作業療法の役割を理解し、それぞれの専門職の立場を理解した上で、作業療法実践に即した精度の高い知識と専門技術を活用することができる。

② チーム医療で活躍するための幅広い知識と協調性・コミュニケーション能力

チーム医療を実践するために他職種に関する幅広い知識と患者・家族の想いを理解し、チーム医療の実践に欠かせない協調性・コミュニケーション能力を駆使して、根拠や倫理観に基づいた作業療法を提供することができる。

③ 豊かな人間力

他者への思いやりの心を持ち、人によりそう豊かな感性、その想いを医療の力にかえることのできる人間力、さらには生命と真摯に向き合う高い倫理観を育むことができる。

④ 主体的問題解決能力

作業療法が実践される現場に適応し、患者や家族あるいは地域住民といった人々の作業ニーズを見極め、個別の作業ニーズに応えられるよう主体的に創造的に問題を解決することができる。

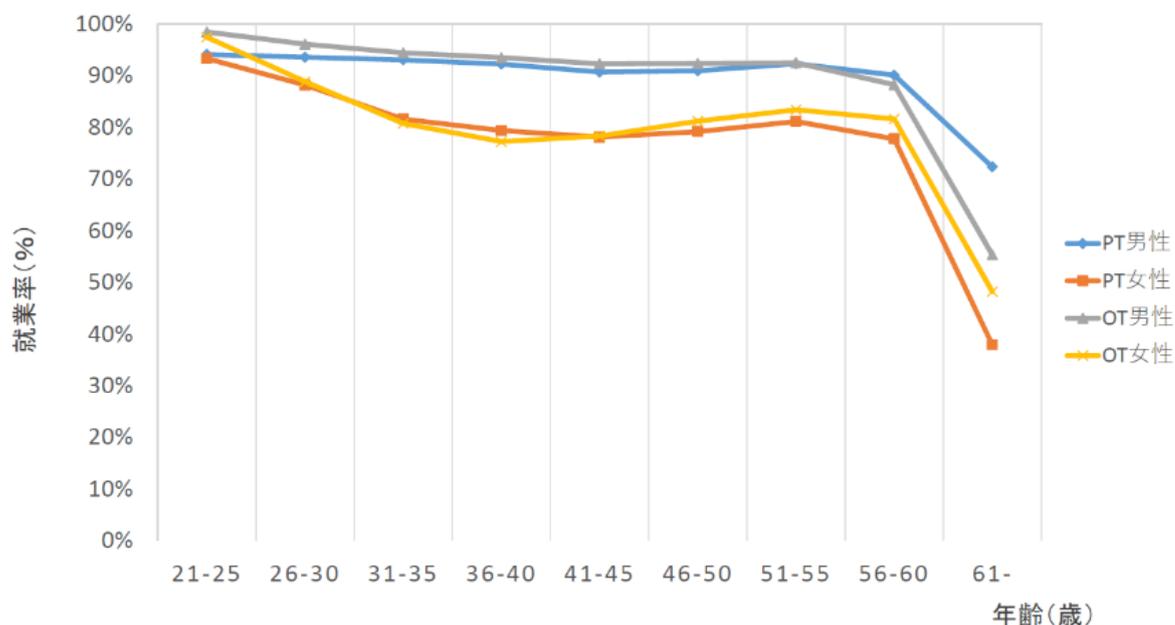
(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

理学療法士、作業療法士の採用状況についてはここ数年、採用状況はおおむね順調に推移している。2019年4月5日に開催された厚生労働省 理学療法士・作業療法士需給分科会の資料によると、理学療法士、作業療法士の免許を所有する方のうち、双方とも70%前後の方が日本理学療法士協会、日本作業療法士協会に加盟されている。その各協会に会員登録されている20代前半の会員については90%以上の方が就業されていることが示されており、大学を卒業し、免許を取得した直後の世代がおおむね就業できていることを裏付ける資料となっている。

【資料1】理学療法士・作業療法士の需給推計について

(出典：2019年4月5日開催 厚生労働省 理学療法士・作業療法士需給分科会 資料)

性年齢階級別就業率

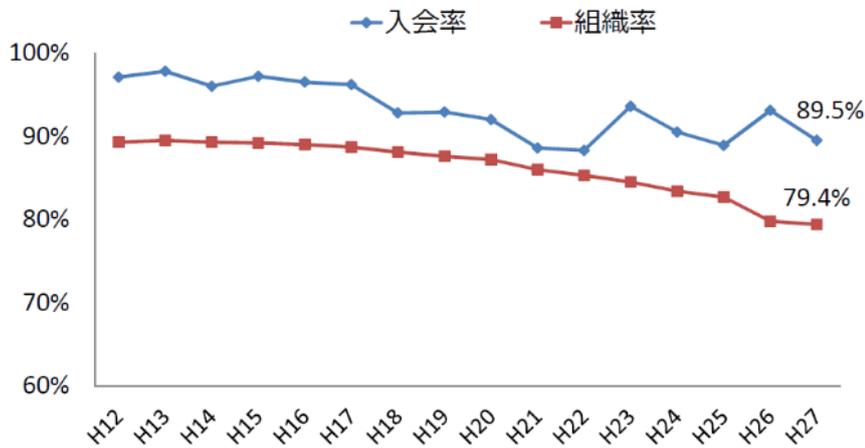


※2012年～2017年の男女別年齢階級別の協会会員就業率 (出典：(公社)日本理学療法士協会 (一社)日本作業療法士協会)

日本理学療法士協会の入会率と組織率の推移

医療従事者の需給に関する検討会
第1回 理学療法士・作業療法士供給分科会
(平成28年4月22日)資料5(抜粋)

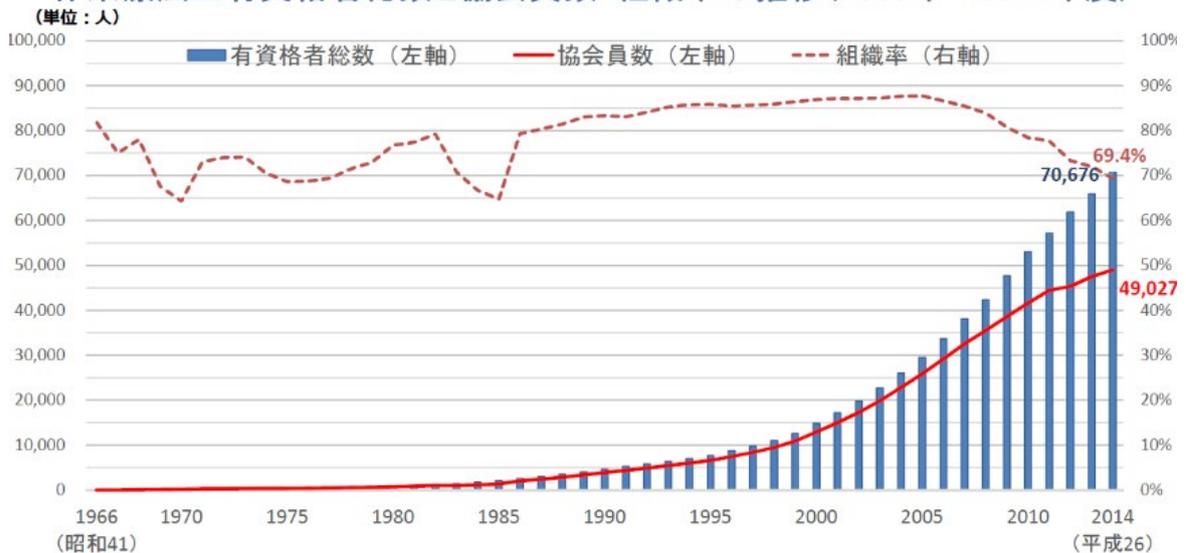
日本理学療法士協会の入会率は約90%、組織率は約80%となっている。



入会率：当該年度入会者数÷当該年度国家試験合格者数×100
組織率：当該年度会員数÷国家試験合格者累計数×100

日本理学療法士協会調べ H28.1 現在

作業療法士有資格者総数と協会員数・組織率の推移(1966年～2014年度)



※有資格者総数は、過去の国家試験合格者数を単純累計したものであり、免許証の未登録、取り消し、死亡その他の理由による消除の結果生じた減数分は算入されていない。
※組織率は、協会員数を有資格者総数で除したものである。

出典：(一社)日本作業療法士協会会員統計資料

また、本学を含めた近隣大学におけるここ 2 年の求人状況についても新卒者の平均求人倍率（2020 年 3 月卒 1.83 倍リクルートワークス研究所調べ）をはるかに上回る数値で推移している。

【資料 2】近隣大学の求人状況について（他校との比較）※順不同

理学	2019		2018	
	求人件数	求人倍率	求人件数	求人倍率
関西医療大学	514	8.5	490	8.1
大阪保健医療大学	734	10.4	-	-
藍野大学	588	7.35	614	7.68
兵庫医療大学	1536	33.4	-	-
森ノ宮医療大学	905	14.5	790	10.9

作業	2019		2018	
	求人件数	求人倍率	求人件数	求人倍率
関西医療大学	-	-	-	-
大阪保健医療大学	728	24.2	-	-
藍野大学	524	15.4	770	26.5
兵庫医療大学	1652	36.7	-	-
森ノ宮医療大学	843	21.0	624	12.8

※求人倍率については各大学の定員数で換算。本学は在籍者数で換算。

これらの情報を基に、理学療法、作業療法における求人件数は需要過多の状況にあり、社会的にも地域的にもこれらの職種に関する人材を求めていることが裏付けられている。以上により、本学の総合リハビリテーション学部が養成する人材は社会的な要請に対応したものであり、卒業生に対する中長期的な人材需要が十分に確保できるものとする。

学生確保の見通し等を記載した書類 資料目次

資料 1 保健医療学系学科入学者推移

資料 2 私立大学入学志願動向

資料 3 過去 5 ヶ年の本学入学試験状況

資料 4 競合校の動向

資料 5 競合校と本学の位置関係

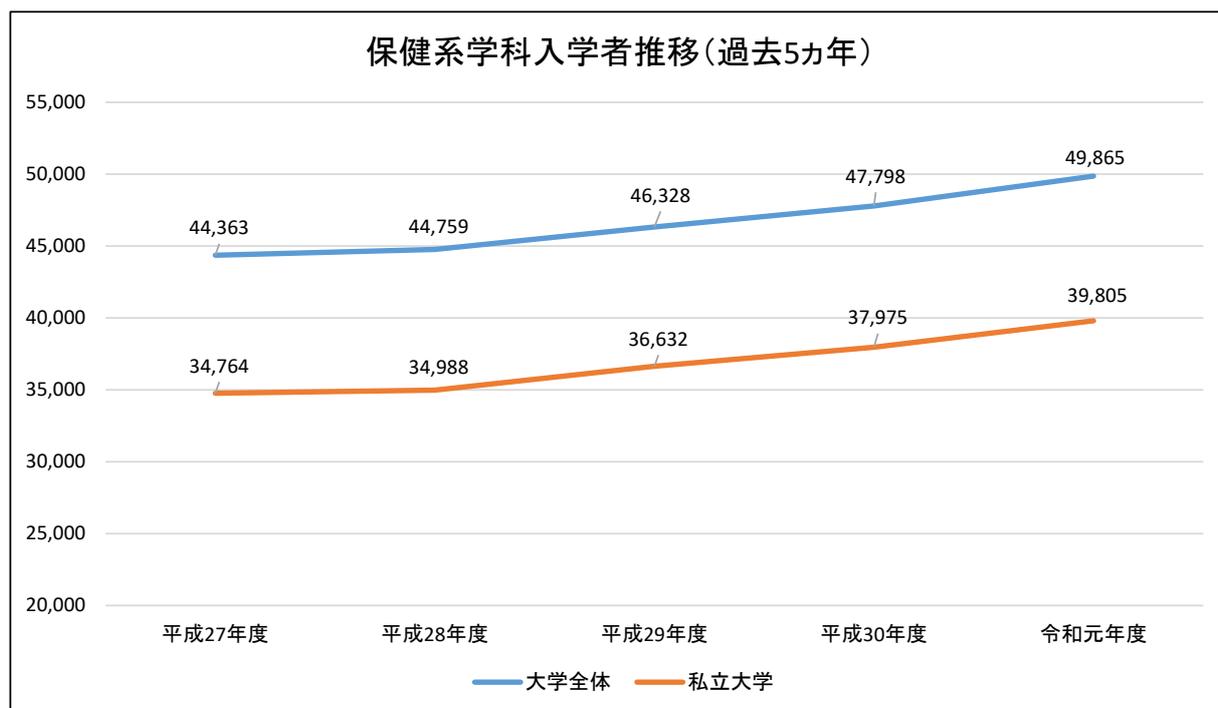
資料 6 競合大学学納金一覧（理学療法・作業療法）

資料 7 本学における年度別資料請求数

【資料1】保健系（医学・歯学・薬学を除く）学科入学者推移

区分	大学区分	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
保健系(医学・歯学・薬学を除く)	大学全体	人数	44,363	44,759	46,328	47,798	49,865
		前年比増加率		100.9%	103.5%	106.8%	107.6%
	私立大学	人数	34,764	34,988	36,632	37,975	39,805
		前年比増加率		100.6%	104.7%	108.5%	108.7%

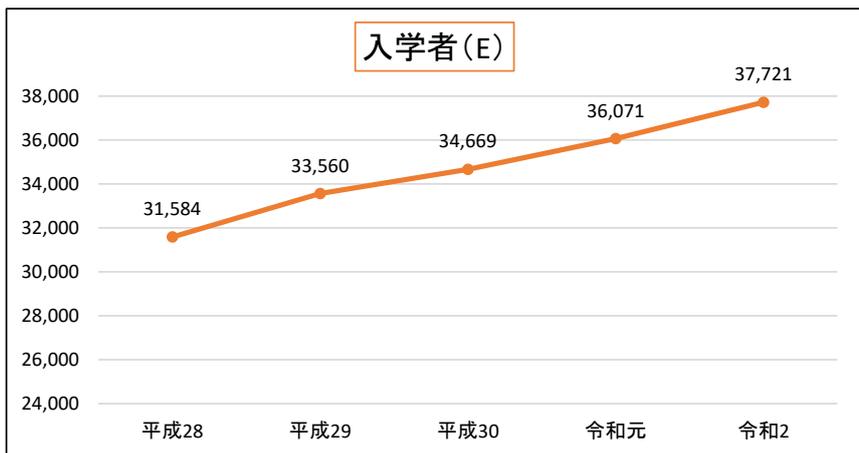
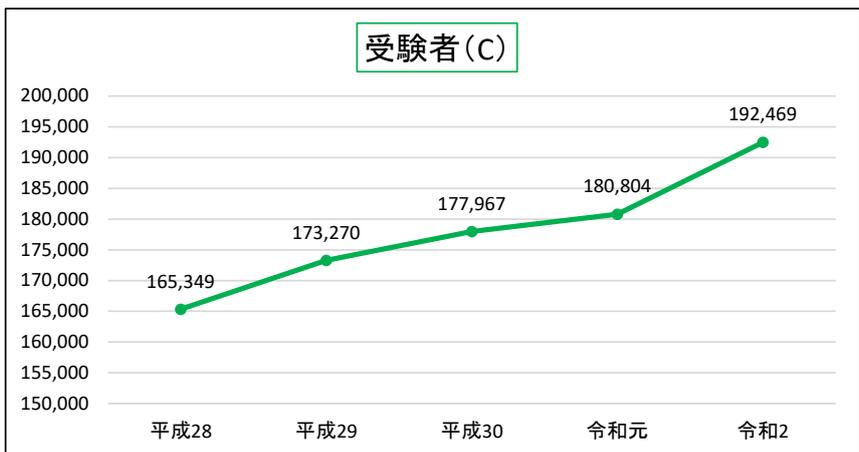
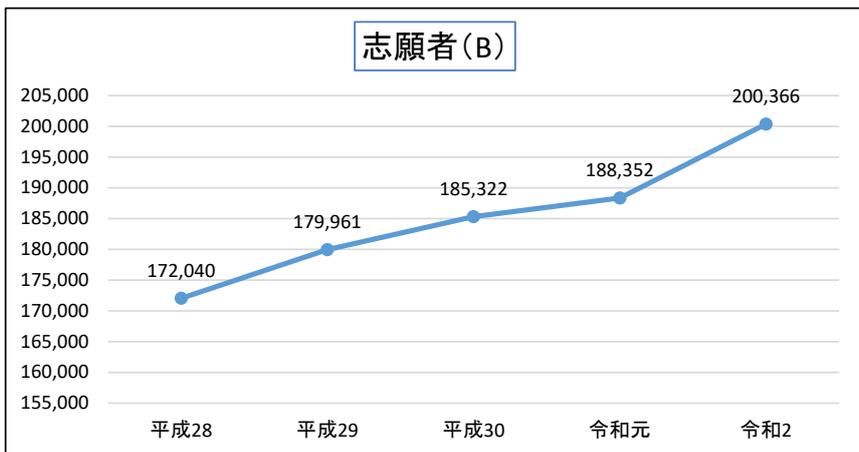
※文部科学省 学校基本調査（大学の関係学科別入学者数）保健系分野を年度ごとに抜粋【単位は人】



【資料2】私立大学入学志願動向【学部系統別の動向（大学/過去5ヵ年）】

区分	年度	集計学部数	入学定員 (A)	志願者 (B)	受験者 (C)	合格者 (D)	入学者 (E)	志願倍率 (B/A)	合格率 (D/C)	歩留率 (E/D)	定員充足率 (E/A)
保健系	平成28	198	30,330	172,040	165,349	63,762	31,584	5.67	38.56	49.53	104.13
	平成29	209	32,850	179,961	173,270	67,108	33,560	5.48	38.73	50.01	102.16
	平成30	220	34,307	185,322	177,967	69,269	34,669	5.40	38.92	50.05	101.06
	令和元	236	35,781	188,352	180,804	73,667	36,071	5.26	40.74	48.96	100.81
	令和2	244	37,221	200,366	192,469	78,539	37,721	5.38	40.80	48.03	101.34

※日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」より抜粋



【資料3】過去5カ年の本学の入学試験状況

2020.9.30現在

(志願者数・受験者数・合格者数・競争率・入学者数・定員超過率)

学部	学科	入試実施年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率(受験者数/合格者数)	入学者数	定員超過率
保健医療学部	鍼灸学科	R1	60	219	215	90	2.39	69	1.15
		H30	60	151	150	97	1.55	68	1.13
		H29	60	152	149	108	1.38	70	1.17
		H28	60	183	180	113	1.59	67	1.12
		H27	60	206	201	106	1.90	67	1.12
	理学療法学科	R1	70	707	689	112	6.15	70	1.00
		H30	70	574	560	104	5.38	70	1.00
		H29	70	712	696	100	6.96	70	1.00
		H28	60	722	705	99	7.12	70	1.17
		H27	60	792	775	103	7.52	70	1.17
	看護学科	R1	90	1,259	1,198	181	6.62	90	1.00
		H30	90	1,108	1,071	153	7.00	90	1.00
		H29	90	1,393	1,344	157	8.56	90	1.00
		H28	80	1,435	1,374	152	9.04	90	1.13
		H27	80	1,315	1,278	173	7.39	90	1.13
	作業療法学科	R1	40	316	304	59	5.15	52	1.30
		H30	40	215	206	77	2.68	50	1.25
		H29	40	305	300	71	4.23	53	1.33
		H28	40	381	367	76	4.83	50	1.25
		H27	40	244	232	89	2.61	50	1.25
	臨床検査学科	R1	70	607	588	126	4.67	72	1.03
		H30	60	558	536	119	4.50	72	1.20
		H29	60	490	483	129	3.74	72	1.20
		H28	60	577	560	122	4.59	72	1.20
		H27	60	421	407	122	3.34	72	1.20
	臨床工学科	R1	60	322	305	110	2.77	66	1.10
		H30	60	217	208	96	2.17	71	1.18
		H29	60	252	248	100	2.48	70	1.17
		H28							—
		H27							—
		H30年4月開設のため入試データなし							
診療放射線学科	R1	80	1021	983	146	6.73	90	1.13	
	H30							—	
	H29							—	
	H28							—	
	H27							—	
		R2年4月開設のため入試データなし							
全学科合計	R1	470	4,451	4,282	824	5.20	509	1.08	
	H30	380	2,823	2,731	646	4.23	421	1.11	
	H29	380	3,304	3,220	665	4.84	425	1.12	
	H28	300	3,298	3,186	562	5.67	349	1.16	
	H27	300	2,978	2,893	593	4.88	349	1.16	

【資料4】競合校の入試動向

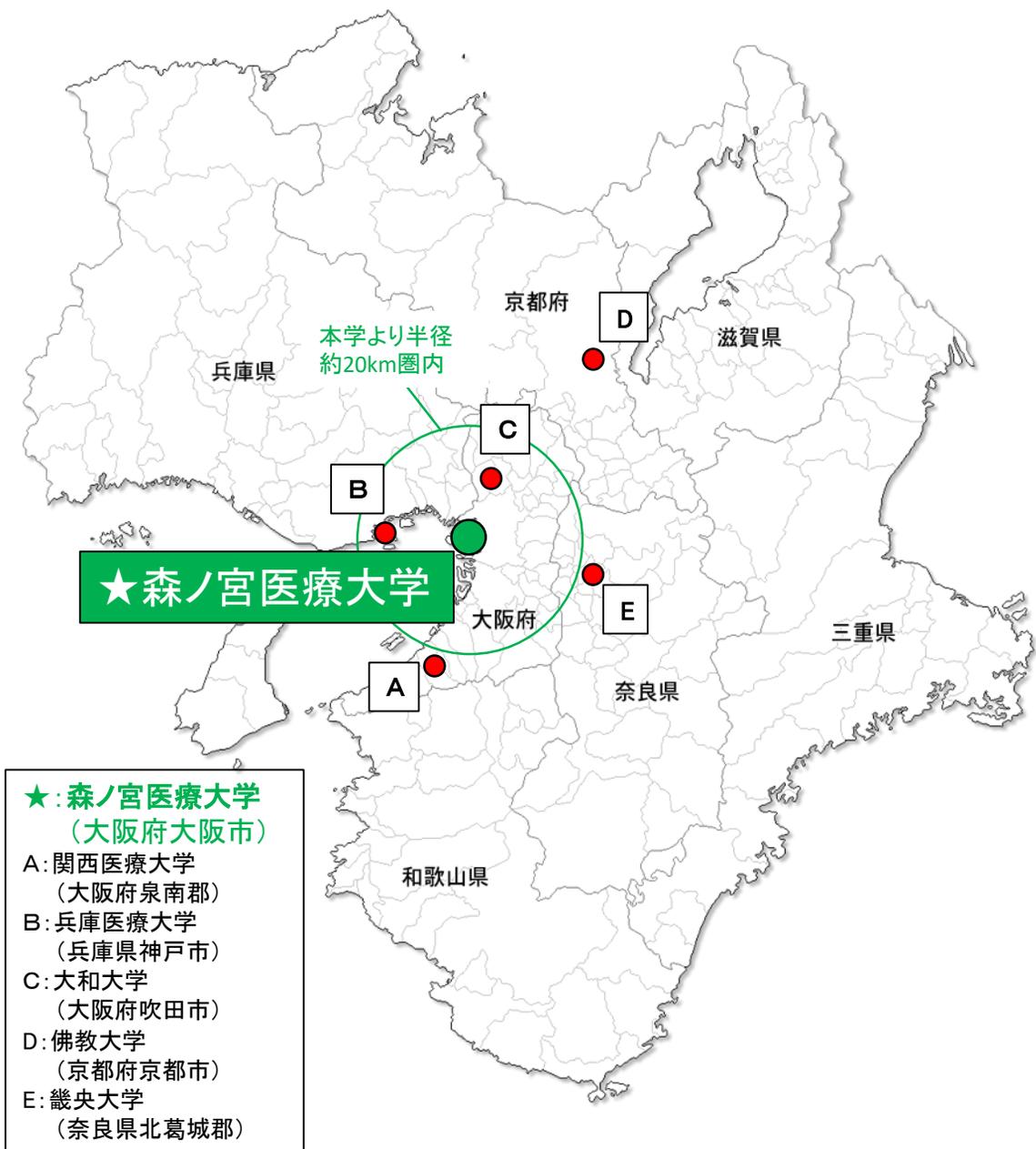
No.	大学名	学部学科名(入学定員数)	偏差値	入試実施年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率
	森ノ宮医療大学	保健医療学部理学療法学科 保健医療学部作業療法学科	42.5~45.0 42.5	【資料3】参照					
A	関西医療大学	保健医療学部 理学療法学科 (60名)	40.0~47.5	平成30年度	60	341	330	86	5.7
				令和元年度	60	305	292	76	5.1
		保健医療学部 作業療法学科 (40名)	42.5	平成30年度	40	142	138	86	3.6
				令和元年度	40	132	129	71	3.3
B	兵庫医療大学	リハビリテーション学部 理学療法学科 (40名)	50.0	平成30年度	40	647	641	85	16.2
				令和元年度	40	779	774	93	19.5
		リハビリテーション学部 作業療法学科 (40名)	42.5	平成30年度	40	196	196	78	4.9
				令和元年度	40	309	307	94	7.7
C	大和大学	保健医療学部 総合リハビリテーション学科 理学療法専攻 (40名)	50.0	平成30年度	40	528	504	67	13.2
				令和元年度	40	703	675	96	17.6
		保健医療学部 総合リハビリテーション学科 作業療法専攻 (40名)	45.0	平成30年度	40	329	310	99	8.2
				令和元年度	40	539	528	128	13.5
D	佛教大学	保健医療技術学部 理学療法学科 (40名)	52.5	平成30年度	40	586	575	139	14.7
				令和元年度	40	900	894	99	22.5
		保健医療技術学部 作業療法学科 (40名)	47.5	平成30年度	40	384	382	158	9.6
				令和元年度	40	403	402	108	10.1
E	畿央大学	健康科学部 理学療法学科 (76名)	50.0~55.0	平成30年度	76	2,176	2,149	261	28.6
				令和元年度	76	1,926	1,919	330	25.3
		合計(理学療法)		平成30年度	256	4,278	4,199	638	16.7
				令和元年度	256	4,613	4,554	694	18.0
		合計(作業療法)		平成30年度	160	1,051	1,026	421	6.6
				令和元年度	160	1,383	1,366	401	8.6

※偏差値は河合塾「第1回全統記述模試」の数値

※志願者数等の入試データは、旺文社「パスナビ」より算出

※志願倍率:入学定員に対する志願者数の割合

【資料5】 競合校と本学の位置関係



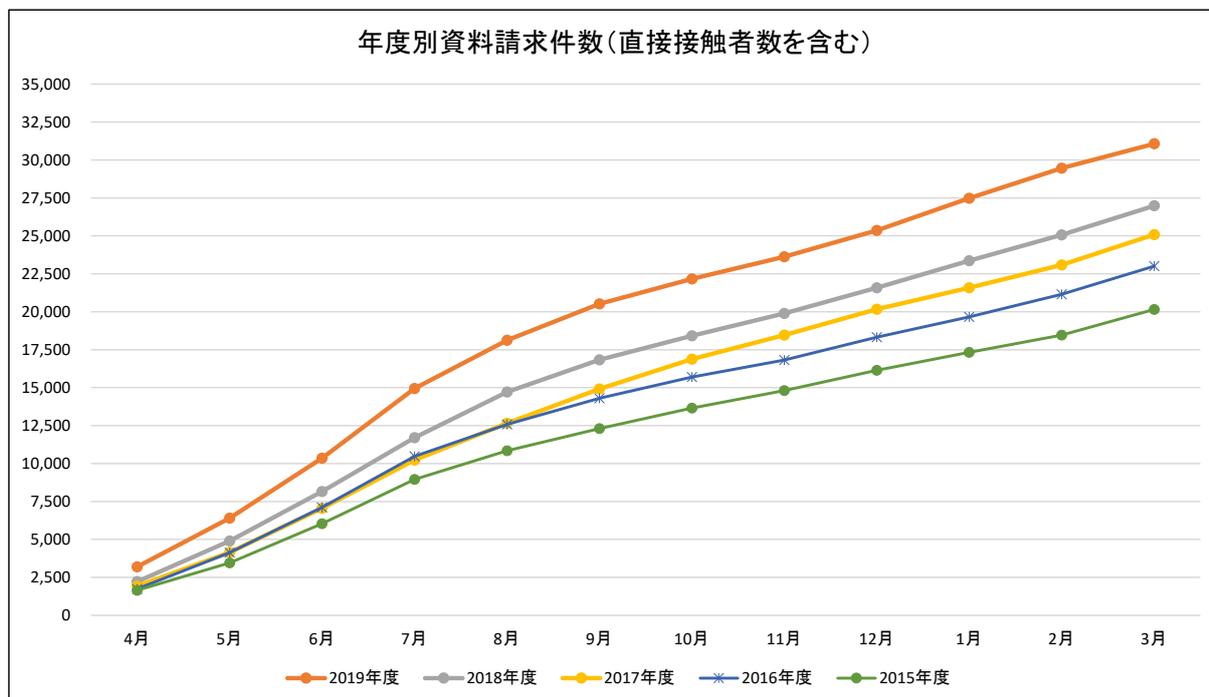
【資料6】競合大学学納金一覧(理学療法士・作業療法士養成校)

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	入学定員	入学金	授業料(A)	施設設備費等(B)	合計(A+B)
大阪府	私立	関西医療大学	保健医療学部	理学療法学科	60	¥200,000	¥1,200,000	¥400,000	¥1,600,000
				作業療法学科	40	¥200,000	¥1,200,000	¥400,000	¥1,600,000
兵庫県	私立	兵庫医療大学	リハビリテーション学部	理学療法学科	40	¥300,000	¥1,000,000	¥500,000	¥1,500,000
				作業療法学科	40	¥300,000	¥1,000,000	¥500,000	¥1,500,000
大阪府	私立	大和大学	保健医療学部	総合リハビリテーション学科 理学療法専攻	40	¥180,000	¥1,550,000	¥0	¥1,550,000
				総合リハビリテーション学科 作業療法専攻	40	¥180,000	¥1,550,000	¥0	¥1,550,000
京都府	私立	佛教大学	保健医療技術学部	理学療法学科	40	¥200,000	¥1,350,000	¥400,000	¥1,750,000
				作業療法学科	40	¥200,000	¥1,350,000	¥400,000	¥1,750,000
奈良県	私立	畿央大学	健康科学部	理学療法学科	76	¥260,000	¥860,000	¥700,000	¥1,560,000
大阪府	私立	森ノ宮医療大学	看護学部	看護学科	90	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000
			総合リハビリテーション学部	理学療法学科	70	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000
				作業療法学科	40	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000
			医療技術学部	鍼灸学科	60	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000
				臨床検査学科	70	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000
				臨床工学科	60	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000
				診療放射線学科	80	¥250,000	¥1,000,000	¥550,000	¥1,550,000

※各大学情報については、各大学公式ウェブサイトより調査

【資料 7】 本学における年度別資料請求数（直接接触者数を含む）

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別累積請求数 (件)	2019年度	3,198	6,399	10,356	14,953	18,131	20,515	22,158	23,627	25,361	27,477	29,461	31,067	31,067
	2018年度	2,223	4,902	8,161	11,710	14,716	16,834	18,424	19,895	21,575	23,356	25,072	26,982	26,982
	2017年度	1,926	4,143	7,048	10,237	12,651	14,918	16,888	18,464	20,171	21,582	23,085	25,085	25,085
	2016年度	1,741	4,130	7,105	10,478	12,578	14,307	15,704	16,816	18,324	19,659	21,147	23,005	23,005
	2015年度	1,649	3,459	6,044	8,961	10,837	12,311	13,657	14,814	16,149	17,329	18,470	20,153	20,153



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
3	学長	アキ モトニ 青木 元邦 <令和3年4月>		博士 (医学)		森ノ宮医療大学学長 (令和3.4～令和5.3)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
12	専	講師	カガク アキヒロ 角田 晃啓 <令和4年4月>		修士 (健康科学)		基礎ゼミナール※ 情報処理 医療コミュニケーション チーム医療論 IPW論 基礎運動学 運動学実習 リハビリテーション概論 基礎理学療法Ⅰ 基礎理学療法Ⅱ 内部障害系理学療法Ⅰ 内部障害系理学療法Ⅱ 内部障害系理学療法Ⅲ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 地域理学療法実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ	1前 1前 2前 2後 3前 1後 1後 1前 2前 3前 2後 3前 3前 4前 3通 4通 1後 2前 3後 4前 4通 4通	0.4 2 1 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 2 2 1 1 1 1 4 7 7	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科 講師 (平24.4)	5日
13	専	講師	ナカト マサミ 仲本 正美 <令和4年4月>		博士 (医学)		運動学実習 理学療法評価学総論 理学療法評価学各論 基礎日常生活活動学 物理療法学 義肢装具学 理学療法論Ⅰ 理学療法論Ⅱ 理学療法論Ⅲ 運動器系理学療法セミナー 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 地域理学療法実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ	1後 1後 2前 1後 1後 2後 3後 4前 4後 4前 3通 4通 1後 2前 3後 4前 4通 4通	1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 2 2 1 1 1 1 7 7	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科 講師 (平24.4)	5日
14	専	講師	サキト ケイ 杉本 圭 <令和4年4月>		修士 (学術)		基礎理学療法実習 理学療法評価学総論 理学療法評価学各論 臨床理学療法評価学実習 神経系理学療法Ⅰ 神経系理学療法Ⅱ 神経系理学療法Ⅲ 臨床理学療法治療学実習 理学療法論Ⅰ 理学療法論Ⅱ 理学療法論Ⅲ 神経系理学療法セミナー 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 地域理学療法実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ	2通 1後 2前 3通 2後 3前 3前 4通 3後 4前 4後 4前 3通 4通 1後 2前 3後 4前 4通 4通	1 1 2 1 1 2 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1 1 7 7	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科 助教 (平29.4)	5日
15	専	助教	マツオ ヒロキ 松尾 浩希 <令和4年4月>		修士 (教育学)		基礎ゼミナール※ 身体運動科学 基礎理学療法実習 理学療法評価学総論 理学療法評価学各論 臨床理学療法評価学実習 神経系理学療法Ⅰ 神経系理学療法Ⅱ 神経系理学療法Ⅲ 臨床理学療法治療学実習 理学療法論Ⅰ 理学療法論Ⅱ 理学療法論Ⅲ 神経系理学療法セミナー 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 地域理学療法実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ	1前 2後 2通 1後 1後 2前 3通 2後 3前 3前 4通 3後 4前 4後 4前 3通 4通 1後 2前 3後 4前 4通 4通	1.2 2 1 1 2 1 2 1 1 1 1 2 1 2 2 2 1 1 1 1 4 7 7	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科 助教 (平30.4)	5日
16	専	助教	ハヤシ シンタロウ 林 真太郎 <令和4年4月>		修士 (保健医療学)		基礎理学療法実習 臨床理学療法評価学実習 基礎日常生活活動学 物理療法学 臨床理学療法治療学実習 生活環境論 老年期理学療法 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床見学実習 検査測定実習 臨床評価実習 地域理学療法実習 臨床総合実習Ⅰ 臨床総合実習Ⅱ	2通 3通 1後 1後 4通 2後 3後 3通 4通 1後 2前 3後 4前 4通 4通	1 1 1 1 1 1 1 2 2 1 1 4 1 7 7	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科 助教 (平31.4)	5日

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
17	兼任	教授	アベ ヒデアキ 阿部 秀高 <令和4年4月>		修士 (学校教育学)		基礎ゼミナール	1前	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平30.4)	
18	兼任	教授	アベ 辰夫 安部 辰夫 <令和4年4月>		博士 (医学)		化学	1前	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部看護学科 教授 (平24.4)	
19	兼任	教授	イヅミ ナヲ 井手口 範男 <令和4年4月>		修士 (人間科学)		統計学	3前	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平27.4)	
20	兼任	教授	フジシゲ ヒトコ 藤重 仁子 <令和4年4月>		博士 (言語文化学)		英語Ⅰ(初級) 英語Ⅱ(中級) 英会話	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平19.4)	
21	兼任	教授	ナカハラ ヒロコ 中原 英博 <令和4年4月>		博士 (医学)		基礎体育 健康管理学Ⅰ 健康管理学Ⅱ 身体運動科学	1前 2前 2後 2後	1 2 2 2	1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平23.4)	
22	兼任	教授	ヤマダ ヒトシ 山下 仁 <令和4年4月>		博士 (保健学)		統合医療概論※	3前	1	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 臨床工学科学科 教授 (平29.4)	
23	兼任	教授	モリ ミナキ 森 美侑紀 <令和4年4月>		博士 (医学)		統合医療概論※	3前	0.3	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部看護学科 教授 (平25.4)	
24	兼任	教授	カワハラ ヒロヒサ 川畑 浩久 <令和4年4月>		博士 (医学)		人体の構造実習 スポーツ医学	2後 3前	1 1	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 臨床検査学科 教授 (平19.4)	
25	兼任	教授	キタ イチ 水田 岩男 <令和4年4月>		博士 (医学)		病理学	2前	2	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科教授 (平26.4)	
26	兼任	教授	マスカワ ヨシヒロ 前川 佳敬 <令和4年4月>		博士 (医学)		臨床病態学Ⅲ	2後	0.8	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部臨床検査学科 教授 (平28.4)	
27	兼任	教授	マツキ シンカ 松崎 伸介 <令和4年4月>		博士 (医学)		臨床病態学Ⅲ	2後	0.9	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部診療放射線学科 教授 (令3.4)	
28	兼任	教授	ヨシカ トシノブ 吉岡 敏治 <令和4年4月>		博士 (医学)		臨床病態学Ⅲ	2後	0.3	1	森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科教授 (平28.4)	
29	兼任	教授	コバヤシ キヨ 小林 貴代 <令和4年4月>		専門学校卒		チームリハビリテーション概論	2前	0.3	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部作業療法学科 教授 (平28.4)	
30	兼任	教授	ハシモト ヒロコ 橋本 弘子 <令和4年4月>		博士 (保健学)		チームリハビリテーション概論※	2前	0.3	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部作業療法学科 教授 (平28.4)	
31	兼任	教授	カネ 隆郎 金尾 隆郎 <令和4年4月>		専門学校卒		リハビリテーション概論 内部障害系理学療法学Ⅰ 内部障害系理学療法学Ⅱ 内部障害系理学療法学Ⅲ	1前 2後 3前 3前	2 1 2 1	1 1 1 1	森ノ宮医療大学 副学長 (平19.4)	
32	兼任	准教授	ヨコヤマ ヒロシキ 横山 浩之 <令和4年4月>		学士 (鍼灸学)		東洋医療概論	2後	2	1	森ノ宮医療大学 鍼灸情報センター 准教授 (平19.4)	
33	兼任	准教授	マシマ ショウコ 増山 祥子 <令和4年4月>		修士 (心身健康科学)		統合医療概論※	3前	0.7	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 准教授 (平21.4)	
34	兼任	講師	ナガオ ケイコ 長尾 晋宏 <令和4年4月>		修士 (文学)		英語Ⅰ(初級) 英語Ⅱ(中級) 医学英語 基礎英語演習 応用英語演習	1前 1後 2後 2前 2後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 講師 (平29.4)	
35	兼任	講師	サノ カナエ 佐野 加奈絵 <令和4年4月>		博士 (スポーツ科学)		基礎体育 健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前 1前	1 2	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 講師 (平30.4)	
36	兼任	助教	イナ シンタロウ 伊奈 新太郎 <令和4年4月>		修士 (体育学)		基礎体育	1前	1	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 助教 (平30.4)	
37	兼任	助教	ノベ アサカ 信江 彩加 <令和4年4月>		修士 (スポーツ科学)		基礎体育	1前	1	1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 助教 (平31.4)	
38	兼任	講師	ヒロカ マサキ 久国 正章 <令和4年4月>		高等学校卒		物理学 生物学	1後 1前	2 2	1 1	森ノ宮医療大学兼任講師 (平20.4)	
39	兼任	講師	カイザウ ヨシコ 海蔵寺 陽子 <令和4年4月>		修士 (社会学)		心理学 臨床心理学	1前 1後	2 1	1 1	石田クリニック (平成20年4月)	
40	兼任	講師	クノダ セイジ 神田 靖士 <令和4年4月>		博士 (化学)		生命倫理学	1前	2	1	関西医科大学 公衆衛生学講座准教授 (平16.4)	
41	兼任	講師	マシマ ケイ 松枝 啓之 <令和4年4月>		博士 (人間・環境学)		哲学 西洋史概説	1後 3前	2 2	1 1	森ノ宮医療大学兼任講師 (平29.4)	
42	兼任	講師	カガリ ナオキ 掛川 直之 <令和4年4月>		博士 (創造都市)		社会福祉学	1前	2	1	森ノ宮医療大学兼任講師 (平30.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
43	兼任	講師	ウエダ シゲキ 植田 重幸 <令和4年4月>		修士 (法学)		日本国憲法	1後	2	1	東洋医療専門学校 救急救命士学科専任講師 (平20.4)	
44	兼任	講師	シノノブ アユミ 重信 あゆみ <令和4年4月>		修士 (中国文学)		東洋史概説	3前	2	1	森ノ宮医療大学兼任講師 (平21.4)	
45	兼任	講師	ミナミ カサキ 南方 克之 <令和4年4月>		博士 (医学)		栄養学 生化学	2後 2前	2 2	1 1	森ノ宮医療学園 専門学校 鍼灸学科 専任講師 (平18.4)	
46	兼任	講師	イムラ ヨシ 今村 行雄 <令和4年4月>		博士 (医学)		人体の機能 I (動物性機能) 人体の機能 II (植物性機能) 公衆衛生学	1前 1後 1後	2 2 2	1 1 1	森ノ宮医療大学 兼任講師 (平30.4)	
47	兼任	講師	ミヤ シゲキ 宮田 重樹 <令和4年4月>		博士 (医学)		整形外科学	2前	2	1	医療法人誠樹会 宮田医院院長 (平11.1)	
48	兼任	講師	イシ ジュンイチ 石井 淳一 <令和4年4月>		博士 (医学)		精神医学	2前	2	1	医療法人微風会 浜寺病院 (平22.4)	
49	兼任	講師	シノベ キヨエ 渋谷 静英 <令和4年4月>		学士 (教育学)		チームリハビリテーション概論※	2前	0.2	1	森ノ宮医療大学 兼任講師 (平30.4)	
50	兼任	講師	トナ リコ 戸名 久美子 <令和4年4月>		修士 (人間科学)		チームリハビリテーション概論※	2前	0.2	1	森ノ宮医療大学 兼任講師 (平30.4)	
51	兼任	講師	イグロ コウジ 伊黒 浩二 <令和4年4月>		修士 (健康科学)		テーピング技術論	2後	1	1	森ノ宮医療学園専門学校 柔道整復学科 専任講師 (平30.4)	
52	兼任	講師	リ ヨウジチ 李 庸吉 <令和4年4月>		博士 (法学)		医療関係法規論	1前	2	1	徳原整骨院 院長 (昭63.10)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	1人	1人	2人	人	1人	5人	
	修 士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
准教授	博 士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	2人	人	人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	1人	1人	人	人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	3人	2人	2人	人	1人	8人	
	修 士	人	1人	5人	1人	人	人	人	7人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	1人	人	1人	

(総合リハビリテーション学部 理学療法学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	採用根拠等
2	専	教授	カムラ ヒロキ 河村 廣幸 <令和4年4月>		森ノ宮医療大学教員等定年規程第2条 理事会 (R3.2.16開催) にて承認
3	専	教授	アキ モトキ 青木 元邦 <令和4年4月>		森ノ宮医療大学教員等定年規程第2条 理事会 (R3.2.16開催) にて承認
4	専	教授	モリタ マサキ 森谷 正之 <令和4年4月>		森ノ宮医療大学教員等定年規程第2条 理事会 (R3.2.16開催) にて承認
5	専	教授	キムラ セイイチロウ 北村 清一郎 <令和4年4月>		森ノ宮医療大学教員等定年規程第2条 理事会 (R3.2.16開催) にて承認

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	アキ モトキ 青木 元邦 <令和3年4月>		博士 (医学)		森ノ宮医療大学学長 (令和3.4～令和5.3)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等												
（総合リハビリテーション学部 作業療法学科）												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授 (学科学長)	コハヤシ キョ 小林 貴代 <令和4年4月>		専門学校卒		基礎ゼミナール※ チーム医療見学実習 医療コミュニケーション チーム医療論 IPW論 日常生活活動学 身体障害作業療法治療学総論 身体障害作業療法治療学各論 義肢装具学 作業療法特論Ⅰ 作業療法特論Ⅱ 身体障害作業療法治療学演習 生活環境論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ（身体障害） 臨地見学実習 臨床検査実習 地域作業療法実習 臨床評価実習 臨床総合実習	1前 1前 2前 2後 3前 1後 3前 3後 2後 4後 4後 3後 3前 4通 1前 1前 2後 4後 3通 4前	1.1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 16	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科 学科学長 教授 (平28.4)	5日
2	専	教授	イノナカ 伊藤 直子 <令和4年4月>		修士 (リハビリテーション学)		基礎ゼミナール※ IPW論 小児科学（人間発達学） 作業療法概論 発達障害作業療法評価学 発達障害作業療法治療学総論 発達障害作業療法治療学各論 作業療法特論Ⅰ 作業療法特論Ⅱ 発達障害作業療法治療学演習 障害者地域生活支援論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ（発達障害） 臨地見学実習 臨床検査実習 地域作業療法実習 臨床評価実習 臨床総合実習	1前 3前 2前 1後 2後 3前 3後 4後 4後 3後 3通 4通 1前 2後 4後 3通 4前	1.1 1 2 2 1 2 1 1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 16	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科教授 (平29.4)	5日
3	専	教授	マツタ フミ 松下 太 <令和4年4月>		博士 (医学)		基礎ゼミナール※ IPW論 職場管理（教育を含む） 職業倫理 作業療法評価学総論※ 身体障害作業療法評価学 高齢期障害作業療法治療学総論 作業療法特論Ⅰ 作業療法特論Ⅱ 総合リハビリテーションIPW演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ（高齢期障害・地域） 臨地見学実習 臨床検査実習 地域作業療法実習 臨床評価実習 臨床総合実習	1前 3前 3後 1後 2前 3前 4後 4後 3前 3通 4通 1前 2後 4後 3通 4前	1.1 1 1 1 0.9 2 2 1 1 2 2 2 2 1 2 1 4 16	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科教授 (平28.4)	5日
4	専	教授	ハシモト ヒロコ 橋本 弘子 <令和4年4月>		博士 (保健学)		基礎ゼミナール※ MBS(Morinomiya Basic Seminar) チーム医療見学実習 医療コミュニケーション チーム医療論 IPW論 チームリハビリテーション概論※ 基礎作業学 作業科学入門※ 作業療法評価学総論※ 精神障害作業療法評価学 精神障害作業療法治療学総論 精神障害作業療法治療学各論 作業療法特論Ⅰ 作業療法特論Ⅱ 精神障害作業療法治療学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ（精神障害） 臨地見学実習 臨床検査実習 地域作業療法実習 臨床評価実習 臨床総合実習	1前 1前 1前 2前 2後 3前 2前 1前 1後 2後 3前 3後 4後 4後 3後 3通 4通 1前 2後 4後 3通 4前	1.1 1 1 1 1 0.3 2 1.1 1.1 1 2 1 1 1 1 1 2 2 1 4 16	1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科教授 (平28.4)	5日
5	専	教授	ユリ ヨシキ 由利 裕巳 <令和4年4月>		博士 (保健学)		基礎ゼミナール※ IPW論 リハビリテーション概論 作業科学入門※ 高齢期障害作業療法治療学各論 作業療法特論Ⅰ 作業療法特論Ⅱ 高齢期障害作業療法治療学演習 地域作業療法学 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ（高齢期障害・地域） 臨地見学実習 臨床検査実習 地域作業療法実習 臨床評価実習 臨床総合実習	1前 3前 1前 1前 3後 4後 4後 3後 3前 3通 4通 1前 2後 4後 3通 4前	1.1 1 2 0.9 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 4 16	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科教授 (令2.4)	5日

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担単	当数	年開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
6	専	講師	ナカムラ メグミ 中村 めぐみ <令和4年4月>		修士 (人間健康科学)		基礎ゼミナール※ IPW論 基礎作業学 身体障害作業療法評価学 高次脳機能障害作業療法評価学 身体障害作業療法総論 身体障害作業療法各論 義肢装具学 作業療法特論Ⅰ 作業療法特論Ⅱ 身体障害作業療法治療学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ(身体障害) 臨地見学実習 臨床検査実習 地域作業療法実習 臨床評価実習 臨床総合実習	1前 3前 1前 2前 2後 3前 3前 3後 2後 4後 4後 3後 3通 4通 1前 2後 4後 3通 4前	1.1 1 2 2 1 2 1 1 1 1 1 1 2 2 1 1 1 4 16	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科講師 (平29.4)	5日	
7	専	講師	ナカニシ ヒロ 中西 一 <令和4年4月>		修士 (保健学)		基礎ゼミナール※ IPW論 基礎運動学 臨床運動学 身体障害作業療法評価学 高次脳機能障害作業療法評価学 身体障害作業療法総論 身体障害作業療法各論 作業療法特論Ⅰ 作業療法特論Ⅱ 身体障害作業療法治療学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ(身体障害) 臨地見学実習 臨床検査実習 地域作業療法実習 臨床評価実習 臨床総合実習	1前 3前 1後 2前 2前 2後 3前 3後 4後 4後 3後 3通 4通 1前 2後 4後 3通 4前	1.1 1 2 2 1 2 1 1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 16	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科講師 (平28.4)	5日	
8	専	講師	オガワ ヒロ 小川 泰弘 <令和4年4月>		博士 (保健学)		基礎ゼミナール※ MBS(Morinomiya Basic Seminar) チーム医療見学実習 IPW論 基礎作業学 作業科学入門※ 作業療法評価学総論※ 精神障害作業療法評価学 精神障害作業療法総論 精神障害作業療法各論 作業療法特論Ⅰ 作業療法特論Ⅱ 精神障害作業療法治療学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ(精神障害) 臨地見学実習 臨床検査実習 地域作業療法実習 臨床評価実習 臨床総合実習	1前 1前 1前 3前 1前 1前 1後 2後 3後 3後 4後 4後 3後 3通 4通 1前 2後 4後 3通 4前	1.1 1 1 1 1.1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 1 1 1 4 16	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科講師 (令和.10)	5日	
9	専	講師	オガワ ヒロ 東 泰弘 <令和4年4月>		博士 (保健学)		基礎ゼミナール※ IPW論 基礎運動学 臨床運動学 日常生活活動学 身体障害作業療法総論 身体障害作業療法各論 作業療法特論Ⅰ 作業療法特論Ⅱ 身体障害作業療法治療学演習 生活環境論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ(身体障害) 臨地見学実習 臨床検査実習 地域作業療法実習 臨床評価実習 臨床総合実習	1前 3前 1後 2前 1後 2前 3前 3後 4後 4後 3後 3前 3通 4通 1前 2後 4後 3通 4前	1.1 1 2 2 2 2 1 1 1 1 1 2 2 1 1 1 4 16	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科講師 (令和.10)	5日	
10	専	助教	オギノ ミキ 金森 幸 <令和4年4月>		専門学校卒		基礎ゼミナール※ MBS(Morinomiya Basic Seminar) IPW論 小児科学(人間発達学) チームリハビリテーション概論※ 基礎作業学 発達障害作業療法評価学 発達障害作業療法総論 発達障害作業療法各論 作業療法特論Ⅰ 作業療法特論Ⅱ 発達障害作業療法治療学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ(発達障害) 臨地見学実習 臨床検査実習 地域作業療法実習 臨床評価実習 臨床総合実習	1前 1前 3前 2前 2前 1前 2後 3前 3後 4後 4後 3後 3通 4通 1前 2後 4後 3通 4前	1.1 1 1 2 0.3 2 1 2 1 1 1 1 2 2 1 1 1 4 16	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科助教 (平30.4)	5日	
11	兼担	教授	アベ ヒロヲ 阿部 秀高 <令和4年4月>		修士 (学校教育学)		基礎ゼミナール※	1前	0.9		1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平30.4)	
12	兼担	教授	アベ タカ 安部 辰夫 <令和4年4月>		博士 (医学)		生物学 化学 病理学	1前 2前 2前	2 2 2		1 1 1	森ノ宮医療大学 保健医療学部看護学科 教授 (平24.4)	
13	兼担	教授	イノグチ ノブ 井手口 範男 <令和4年4月>		修士 (人間科学)		統計学	3後	2		1	森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平27.4)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位	当 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
14	兼任	教授	フジシゲ ヒトコ 藤重 仁子 <令和4年4月>		博士 (言語文化学)		英語Ⅰ(初級) 英語Ⅱ(中級) 英会話 基礎英語演習 応用英語演習	1前 1後 2前 2中 2後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1		森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平19.4)	
15	兼任	教授	ナカハラ ヒデヒロ 中原 英博 <令和4年4月>		博士 (医学)		基礎体育 健康管理学Ⅰ 健康管理学Ⅱ	1前 2前 2後	1 2 2	1 1 1		森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平23.4)	
16	兼任	教授	ナカネ セイジ 中根 征也 <令和4年4月>		修士 (学術)		身体運動科学	2後	2	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科教授 (平26.4)	
17	兼任	教授	ヤマタ ヒトシ 山下 仁 <令和4年4月>		博士 (保健学)		統合医療概論※	3前	1.3	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授 (平19.4)	
18	兼任	教授	モリ ミチキ 森 美祐紀 <令和4年4月>		博士 (医学)		統合医療概論※	3前	0.3	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部看護学科 教授 (平25.4)	
19	兼任	教授	キタムラ セイイチロウ 北村 清一郎 <令和4年4月>		博士 (歯学)		人体の構造演習Ⅰ(運動器) 人体の構造演習Ⅱ(運動器)	1前 1後	1 1	1 1		森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科教授 (平27.4)	
20	兼任	教授	モリタ マサキ 森谷 正之 <令和4年4月>		博士 (歯学)		人体の構造Ⅰ(神経系) 人体の構造Ⅱ(循環・内臓)	1前 1後	2 2	1 1		森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科教授 (平20.4)	
21	兼任	教授	カワハタ ヒロヒサ 川畑 浩久 <令和4年4月>		博士 (医学)		人体の構造実習 スポーツ医学	2後 3前	1 1	1 1		森ノ宮医療大学 保健医療学部 臨床検査学科 教授 (平19.4)	
22	兼任	教授	イシノシヅメ 五十嵐 淳介 <令和4年4月>		博士 (医学)		人体の機能Ⅰ(動物性機能) 人体の機能Ⅱ(植物性機能) 臨床病態学Ⅰ 臨床病態学Ⅱ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1		森ノ宮医療大学 保健医療学部 臨床工学科 教授 (平29.4)	
23	兼任	教授	マエガヒ ヨシノブ 前川 佳歌 <令和4年4月>		博士 (医学)		臨床病態学Ⅲ	2後	0.8	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部臨床検査学科 教授 (平28.4)	
24	兼任	教授	マツダキ シノブ 松崎 伸介 <令和4年4月>		博士 (医学)		臨床病態学Ⅲ	2後	0.9	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部診療放射線学科 教授 (令3.4)	
25	兼任	教授	ヨシノブ トシノブ 吉岡 敏治 <令和4年4月>		博士 (医学)		臨床病態学Ⅲ	2後	0.3	1		森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科教授 (平28.4)	
26	兼任	教授	ウラベ ユウジ 堀 竜次 <令和4年4月>		博士 (医学)		チームリハビリテーション概論※	2前	0.2	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科教授 (平28.4)	
27	兼任	教授	カネウチ ケンロウ 金尾 顕郎 <令和4年4月>		専門学校卒		チームリハビリテーション概論※	2前	0.3	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部理学療法学科 教授 (平19.4)	
28	兼任	准教授	ヨコヤマ ヒロシキ 横山 浩之 <令和4年4月>		学士 (鍼灸学)		東洋医療概論	2後	2	1		森ノ宮医療大学 鍼灸情報センター 准教授 (平19.4)	
29	兼任	准教授	マシマ ショウコ 増山 祥子 <令和4年4月>		修士 (心身健康科学)		統合医療概論※	3前	0.4	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 准教授 (平21.4)	
30	兼任	准教授	マエガヒ オホム 前田 薫 <令和4年4月>		博士 (医学)		リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	3前	1	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部理学療法学科 准教授 (平20.4)	
31	兼任	講師	ナガノ ケニヒロ 長尾 晋宏 <令和4年4月>		修士 (文学)		英語Ⅰ(初級) 英語Ⅱ(中級) 医学英語	1前 1後 2後	2 2 2	1 1 1		森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 講師 (平29.4)	
32	兼任	講師	サノ カチエ 佐野 加奈絵 <令和4年4月>		博士 (スポーツ科学)		基礎体育 健康科学(スポーツ社会学を含む)	1前 1前	1 2	1 1		森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 講師 (平30.4)	
33	兼任	講師	スギモト ケイ 杉本 圭 <令和4年4月>		修士 (学術)		身体運動科学	2後	2	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部理学療法学科 講師 (平29.4)	
34	兼任	助教	シバ シュウヤ 信太 宗也 <令和4年4月>		博士 (工学)		情報処理	1前	2	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部臨床工学科 助教 (令2.4)	
35	兼任	助教	イシノ タロウ 伊奈 新太郎 <令和4年4月>		修士 (体育学)		基礎体育	1前	1	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 助教 (平30.4)	
36	兼任	助教	ノブエ アサカ 信江 彩加 <令和4年4月>		修士 (スポーツ科学)		基礎体育	1前	1	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部鍼灸学科 助教 (平31.4)	
37	兼任	助教	マツノ ヒロキ 松尾 浩希 <令和4年4月>		修士 (教育学)		身体運動科学	2後	2	1		森ノ宮医療大学 保健医療学部理学療法学科 助教 (平30.4)	
38	兼任	講師	ヒサノ マサキ 久国 正章 <令和4年4月>		高等学校卒		物理学	1後	2	1		森ノ宮医療大学兼任講師 (平20.4)	
39	兼任	講師	オシヅリ ユウキ 神澤 創 <令和4年4月>		修士 (文学)		心理学 臨床心理学	1前 2後	2 1	1 1		帝塚山大学心理学部 教授 (平18.4)	
40	兼任	講師	ヒガシ アキラ 日高 明 <令和4年4月>		修士 (文学)		生命倫理学	1後	2	1		森ノ宮医療大学兼任講師 (平30.4)	

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担単位数	当年開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
41	兼任	講師	マウエ ケイ 松枝 啓至 <令和4年4月>		博士 (人間・環境学)		哲学 西洋史概説	1後 3前	2 2	1 1	森ノ宮医療大学兼任講師 (平29.4)	
42	兼任	講師	カカリ ナオキ 掛川 直之 <令和4年4月>		博士 (創造都市)		社会福祉学	1前	2	1	森ノ宮医療大学兼任講師 (平30.4)	
43	兼任	講師	クダ シゲユキ 植田 重幸 <令和4年4月>		修士 (法学)		日本国憲法	1後	2	1	東洋医療専門学校 救急救命士学科専任講師 (平20.4)	
44	兼任	講師	シノブ アユミ 重信 あゆみ <令和4年4月>		修士 (中国文学)		東洋史概説	3前	2	1	森ノ宮医療大学兼任講師 (平21.4)	
45	兼任	講師	ミナミ カズキ 南方 克之 <令和4年4月>		博士 (医学)		栄養学 生化学	2後 2前	2 2	1 1	森ノ宮医療学園 専門学校 鍼灸学科 専任講師 (平18.4)	
46	兼任	講師	イムラ ミチオ 今村 行雄 <令和4年4月>		博士 (医学)		公衆衛生学	1後	2	1	森ノ宮医療大学 兼任講師 (平30.4)	
47	兼任	講師	ミヤタ シゲキ 宮田 重樹 <令和4年4月>		博士 (医学)		整形外科学	2後	2	1	医療法人誠樹会 宮田医院院長 (平11.1)	
48	兼任	講師	マキ シロ 正木 慶大 <令和4年4月>		博士 (医学)		精神医学 精神医学各論	2前 2後	2 2	1 1	公益財団法人浅香山病院 精神科部長 (平29.4)	
49	兼任	講師	リ ヨシキ 李 庸吉 <令和4年4月>		博士 (法学)		医療関係法規論	2前	2	1	徳原整骨院 院長 (昭63.10)	
50	兼任	講師	シノベ キヨエ 渋谷 静英 <令和4年4月>		修士 (教育学)		チームリハビリテーション概論※	2前	0.2	1	森ノ宮医療大学 兼任講師 (平30.4)	
51	兼任	講師	トナ ヒロコ 戸名 久美子 <令和4年4月>		修士 (人間科学)		チームリハビリテーション概論※	2前	0.2	1	森ノ宮医療大学 兼任講師 (平30.4)	
52	兼任	教授	カサノフミコ 上田 喜敏 <令和4年4月>		博士 (工学)		介護学概論・ボランティア活動論	2後	2	1	森ノ宮医療大学 兼任講師 (令3.4)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1人	1人	1人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
准教授	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	1人	1人	人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
合 計	博 士	人	1人	1人	1人	1人	1人	人	5人	
	修 士	人	人	1人	1人	人	1人	人	3人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	1人	人	人	1人	人	2人	